

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Socio-psychological survey on Japanese polite expression : After 20 years from the preceding survey in Okazaki city, Aichi pref.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001267

国立国語研究所報告 77

敬語と敬語意識

岡崎における20年前との比較

SOCIO-PSYCHOLOGICAL SURVEY
ON
JAPANESE POLITE EXPRESSION

—After 20Years from the Preceding Survey
in Okazaki City, Aichi Pref.—

三省堂

© 1983 The National Language Research Institute

Sanseido Publishing Co., Ltd. Tokyo, Japan
printed in Japan

刊 行 の こ と ば

国立国語研究所は創立以来、その活動の重要な一環として、国民の言語生活の実態を知るための社会調査を全国各地で実施してきました。敬語についても昭和27・28年度に、三重県上野市・愛知県岡崎市で市民の敬語使用の調査をしたのを最初として各種の調査を実施しました。この上野・岡崎両市を主体とした調査は、国立国語研究所報告11『敬語と敬語意識』（昭和32年）として報告しました。

この前回の上野・岡崎両市の調査後、約20年後に岡崎市で同様な調査をして、この20年の間に市民の敬語の使い方や敬語についての考え方の異同を明らかにしようとしたのが今回の報告書です。このような20年間隔の調査のために、昭和46・47年度に、幸い文部省科学研究費試験研究費を課題名「社会変化と言語生活の変容」（代表者、岩淵悦太郎）として受けることができましたので、昭和46年度には地域社会における方言の標準語化について鶴岡市で調査し、これを国立国語研究所報告52『地域社会の言語生活』（昭和49年）として報告しました。つづいて、昭和47年度には敬語について調査しましたが、これがその調査結果です。今やっとここに報告書ができたのですが、報告52に比べると大変長い時間がかかってしまいました。

この種の調査は、言うまでもなく、現地の方々、被調査者の方々の熱意あるご協力のたまものです。また、前回と同じく、今回も岡崎市、同教育委員会の関係者の方々には非常なご協力をいただきました。その他所外からこの調査に参加された多くの方々にもお骨折りを願いました。これらの方々のご厚意に対し、謹んでお礼を申し上げるとともに、報告書の遅れたことをおわび申し上げます。

なお、この報告書は、調査に参加した者のうち、野元菊雄・江川清・米田正人の3人が執筆しました。

また、概要の英文翻訳にはコーネル大学博士課程（言語学、筑波大学研究生）のポリー・ザトラウスキー氏の協力を得ました。

昭和58年3月

国立国語研究所長

野元 菊雄

目 次

刊行のことば

1. 調査の目的・方法	1
1.1. 目的と意義	野元菊雄 1
1.2. 調査の構成・実施	江川 清 4
1.2.1. 構成	4
1.2.2. 運営・組織	4
1.2.3. 社会生活調査	6
1.2.4. 面接調査	15
1.3. 被調査者の構成	米田正人 23
1.3.1. 継続調査の被調査者	23
1.3.2. パネル調査の被調査者	29
2. 前回調査の概要	野元菊雄 33
2.1. 目的	33
2.2. 調査の構成・実施	35
2.2.1. 構成	35
2.2.2. 実施	37
2.3. 結果の概要	38
3. 継続調査の概要	江川 清 43
3.1. 目的と方法	43
3.2. 結果の概要	45
3.2.1. 場面の丁寧さ	45
3.2.2. 特定の敬語形式	47
3.2.3. 敬語意識	50
3.2.4. 社会生活意識	52

(4) 目 次

4. パネル調査の概要	米田正人	53
4.1. パネル調査の意義		53
4.2. 結果の概要		54
4.2.1. 場面と敬語段階		54
4.2.2. 敬語意識		55
4.2.3. 社会生活意識		56
5. 敬語の段階づけとその結果	野元菊雄	59
5.1. 段階づけの意義		59
5.2. 段階づけの方法		62
6. 継続調査の結果 (1)		65
6.1. 場面と敬語段階	野元菊雄	65
6.1.1. 場面の丁寧さの順		65
6.1.2. 社会的要因別の場面の丁寧さの順		70
6.1.3. 丁寧さの段階と特定の敬語形式		75
6.1.4. 反応文の長さ丁寧さ		99
6.2. 敬語意識	江川 清	103
6.2.1. 敬語の知識		103
6.2.2. 敬語使用意識		109
6.2.3. 敬語に対する意見1		111
6.2.4. 敬語に対する意見2		114
6.3. 社会生活意識	米田正人	122
6.3.1. マスコミ接触		122
6.3.2. 行動範囲		124
6.3.3. 交際		126
6.3.4. 社会意識		131
6.3.5. 社会的態度		139
6.3.6. 階層帰属意識とその決定基準	江川 清	142
6.4. スライド調査	野元菊雄	151
6.4.1. 刺激文		151
6.4.2. 結果		161
7. 継続調査の結果 (2)		173
7.1. 敬語指標と敬語意識	江川 清	173

7.1.1. 丁寧さの総合段階	173
7.1.2. 適応点段階	176
7.1.3. 知識点段階	179
7.1.4. 敬語意識と3指標との関係	181
7.2. 場面段階点と敬語指標	米田正人 184
7.2.1. 場面ごとの敬語指標	184
7.2.2. 場面の総合的な分析	187
7.3. 社会生活項目と敬語指標	江川 清 191
7.3.1. 社会的態度と敬語指標との関係	191
7.3.2. 交際範囲の広さと敬語指標との関係	197
8. パネル調査の結果	201
8.1. 場面と敬語段階	野元菊雄 201
8.1.1. 場面の丁寧さの順	201
8.1.2. 社会的要因別の場面の丁寧さの順	203
8.1.3. 場面ごとの前回と今回の比較	208
8.1.4. 合計段階点・適応点による分析	216
8.2. 敬語意識	江川 清 223
8.2.1. 敬語の知識	223
8.2.2. 敬語使用意識	229
8.2.3. 敬語に対する意見1	230
8.2.4. 敬語に対する意見2	233
8.3. 社会生活意識	米田正人 238
8.3.1. マスコミ接触	238
8.3.2. 交際	239
8.3.3. 社会意識	241
8.3.4. 階層帰属意識	243
9. まとめ	野元菊雄 245
9.1. 調査の結論	245
9.2. 反省—これからの調査のために	247
資料1 各調査の集計表	253
資料2 反応文一覧	256
英文概要	370
索引	377

CONTENTS

Foreword

1. Survey objectives and Methods	1
1.1. Purpose and Justification	1
1.2. Survey Organization and Procedure	4
1.3. Social Attributes of the Surveyees	23
2. Outline of the Previous Survey (1953)	33
2.1. Objectives	33
2.2. Survey Organization and Procedure	35
2.3. Summary of the Results	38
3. Outline of the Longitudinal Survey (1972)	43
3.1. Objectives and Methods	43
3.2. Summary of the Results	45
4. Outline of the Panel Survey (1972)	53
4.1. Justification	53
4.2. Summary of the Results	54
5. Politeness Level Assignment	59
5.1. Justification	59
5.2. Procedure Used in Politeness Level Assignment	62
6. Results of the Longitudinal Survey (1972) (1)	65
6.1. Context and Politeness Level	65
6.2. <i>Keigo</i> Awareness	103
6.3. Social Awareness	122
6.4. The Slide Survey	151
7. Results of the Longitudinal Survey (1972) (2)	173
7.1. The <i>Keigo</i> Index and <i>Keigo</i> Awareness	173
7.2. Context Level Points and the <i>Keigo</i> Index	184
7.3. Social Categories and the <i>Keigo</i> Index	191

8. Results of the Panel Survey (1972)	201
8.1. Context and Politeness Level	201
8.2. <i>Keigo</i> Awareness	223
8.3. Social Awareness	238
9. Summary	245
9.1. Conclusions	245
9.2. Recommendations for Future Surveys	247
Data	251
English Summary	370
Index	377

..... 図表の目次

1. 調査の目的・方法

図 1-1	岡崎市への編入時期	23
表 1-1	サンプル構成(性・年齢別)	24
表 1-2	学歴の性・年齢別構成(継続調査)	25
表 1-3	職業の性・年齢別構成(継続調査)	26
表 1-4	職業と学歴(継続調査)	26
表 1-5	所属産業の性別構成(継続調査)	26
表 1-6	職務内容の性別構成(継続調査)	27
表 1-7	出生地の性別構成(継続調査)	27
表 1-8	父の出身地と母の出身地(継続調査)	28
表 1-9	性・年齢別構成(パネル調査—今回調査時の年齢)	29
表 1-10	学歴・職業の性別構成の新旧比較(パネル調査)	30
表 1-11	出生地の性別構成(パネル調査)	30
表 1-12	パネル・継続両調査の性×年齢・学歴別構成	31

6. 継続調査の結果(1)

図 6-1	場面の丁寧さの比較(全体)	65
表 6-1	場面の丁寧さの順位(3段階方式の両調査比較)	66
図 6-2	それぞれの順位による丁寧さの比較	67
表 6-2	5段階方式による場面の丁寧さの順位	68
図 6-3	丁寧さの順の相対位置(I)	69
図 6-4	丁寧さの順の相対位置(II)	69
図 6-5	場面の丁寧さの比較(性別)(3段階方式)	70
図 6-6	それぞれの順位による丁寧さの比較(性別)	71
図 6-7	場面の丁寧さの比較(性別)(5段階方式)	71
図 6-8	場面の丁寧さの比較(年齢別)	72
図 6-9	場面の丁寧さの比較(学歴別)(3段階方式)	73
図 6-10	場面の丁寧さの比較(学歴別)(5段階方式)	73
表 6-3	「電報用紙」の敬語形式と3段階方式の段階点	76
表 6-4	「電報用紙」の敬語形式と5段階方式の段階点	76
表 6-5	「荷物預け」の敬語形式と3段階方式の段階点	77
表 6-6	「電報用紙」×「荷物預け」の敬語形式相関表	78

表 6-7	「荷物預け」の「ちょっと」の類と3段階方式の段階点	79
表 6-8	「傘忘れ」の敬語形式と3段階方式の段階点	80
表 6-9	「先生」の自称代名詞と3段階方式の段階点	80
表 6-10	「電灯料」の否定形と3段階方式の段階点	82
表 6-11	「議事堂」の否定形と3段階方式の段階点	82
表 6-12	「医者」の敬語形式と3段階方式の段階点(1)	83
表 6-13	「医者」の敬語形式と3段階方式の段階点(2)	84
表 6-14	「席ゆずられ」の「ありがとう」と3段階方式の段階点	85
表 6-15	「席ゆずられ」の「結構」×「どうぞ」と3段階方式の段階点	85
表 6-16	「おつり」の文末形式と3段階方式の段階点	86
表 6-17	「傘貸し」の文末、敬語形式と3段階方式の段階点	87
表 6-18	「医者」×「傘忘れ」の否定形の相関表	88
表 6-19	「魚つり」の二人称と3段階方式の段階点	89
表 6-20	「魚つり」の質問の形と3段階方式の段階点	90
表 6-21	「市役所」の父の呼び方、父に対する尊敬語と5段階方式の段階点	91
表 6-22	各場面の否定形を選択した数	93
表 6-23	方言と3段階方式の段階点	94
表 6-24	「電灯料」の漢語と3段階方式の段階点	95
表 6-25	「医者」の漢語の延べ語数と3段階方式の段階点	96
表 6-26	理由をあらわす語についての集計	97
表 6-27	理由を示す助詞と3段階方式の段階点	97
表 6-28	反応文の長さとの3段階方式の段階	98~99
表 6-29	場面の反応文の長さの順と丁寧な順	101
表 6-30	方言形と反応文の長さ	102
表 6-31	短文別「正解点」分布(全体)	103
表 6-32	「お持ち下さい」の分離型回答率(性、年齢、学歴別)	104
表 6-33	短文別平均「正解」点(性、年齢、学歴別)	105
図 6-11	学歴別平均「正解点」分布	106
表 6-34	「知識点」の分布	107
表 6-35	「知識点」による2回の調査の比較	107
図 6-12	同一年齢集団の「知識点」の20年間の変化	108
表 6-36	目上に対して敬語が使えるか(全体)	109
表 6-37	目上に対して敬語が使えるか(性、年齢、学歴別)	110
表 6-38	家族どうして敬語を使うか(全体)	111
表 6-39	家族どうして敬語を使うか(性、年齢、学歴別)	111
表 6-40	人称代名詞は使い分けた方がいいか	112
表 6-41	「お」をつけること	113
表 6-42	敬語は昔と今とどちらがいいか	115
図 6-13	同一年齢集団の「今と昔の敬語」の支持率の20年間の変化	116
表 6-43	家の中でも敬語を使うべきか	117

(10) 図表の目次

表 6-44	家族内での敬語使用の意識と意見との相関表	117
表 6-45	「敬語を減らす」方向への誘導質問に対する意見	118
表 6-46	「敬語を盛んに使う」方向への誘導質問に対する意見	119
表 6-47	誘導的設問間の相関表	121
表 6-48	新聞を読むか	122
表 6-49	購読新聞	123
表 6-50	購読新聞部数	123
表 6-51	県外への旅行回数	124
表 6-52	名古屋への外出回数	125
表 6-53	旅行(県外へ)の用事	125
表 6-54	公式の会合	126
表 6-55	宴会・旅行	127
表 6-56	自動車の中で	127
表 6-57	交際範囲	128
表 6-58	ふつうの日にどんな人と多く話すか(1位だけ)	129
図 6-14	ふつうの日どんな人と多く話すか	130
表 6-59	仕事上の話し相手	132
表 6-60	仕事上の話し相手(複数回答の内訳)	133
表 6-61	凶悪犯人	134
表 6-62	卒業式	135
表 6-63	お金	136
表 6-64	能力	137
表 6-65	近頃の若い者	137
表 6-66	親孝行	138
表 6-67	社会の混乱	138
表 6-68	先生(面接調査とアンケート調査の相関表)	139
表 6-69	先生(面接調査)	140
表 6-70	メンツ	141
表 6-71	世間のしきたり	142
表 6-72	総理大臣	143
表 6-73	階層帰属意識(全体, 性別)	144
図 6-15	学歴別の平均階層点	144
図 6-16	年齢別の平均階層点	144
表 6-74	本人または家族の階層[調査員の判定]	146
表 6-75	社会的地位決定要因とその順位	146
表 6-76	社会的地位決定の順位の平均値(全体)	147
表 6-77	社会的地位決定の順位の平均値(性, 年齢, 学歴, 職業別)	147
図 6-17	年齢別の職業上地位点[調査員判定]	148
表 6-78	職業上の地位[調査員判定]	148
図 6-18	年齢別の家族内地位点	149

表 6-79	家族内の地位	149
表 6-80	スライド調査の反応集計表	157~160
表 6-81	「道教え」の反応相関表(1)	161
表 6-82	「傘忘れ」と「電報用紙」の否定形・肯定形の相関表	162
表 6-83	「先生」の反応相関表	162
表 6-84	「議事堂」の反応相関表	163
表 6-85	「医者」の反応相関表	164
表 6-86	「市役所」の反応相関表(1)	165
表 6-87	「傘直し」の反応相関表	167
表 6-88	「客間で」と「八百屋」との相関表	168
表 6-89	「席ゆずれ」の反応相関表	168
表 6-90	「社長と社員」と「先生と生徒」の相関表	169
表 6-91	「社長と社員」と「社長と女社員」との相関表	170
表 6-92	「先生と生徒」の反応相関表	170
表 6-93	「道教え」の反応相関表(2)	171
表 6-94	「市役所」の反応相関表(2)	172

7. 継続調査の結果(2)

図 7-1	「丁寧さ段階」の全体、性別分布	174
表 7-1	「丁寧さ段階」の性×年齢別分布	175
図 7-2	「丁寧さ段階」の学歴別分布(男)	175
図 7-3	「丁寧さ段階」の学歴別分布(女)	176
表 7-2	「丁寧さ段階」の属性別 AIC 値	176
表 7-3	「適応点段階」の分布	177
表 7-4	「丁寧さ段階」と「適応点段階」の関係	178
表 7-5	「知識点段階」の分布	179
表 7-6	「知識点段階」の性×学歴別分布	180
表 7-7	「丁寧さ段階」と「知識点段階」の関係	180
表 7-8	「適応点段階」と「知識点段階」との関係	181
表 7-9	家族どうして敬語を使うか否かと 3 指標平均段階	181
表 7-10	目上に敬語が使える程度と 3 指標平均段階	182
表 7-11	敬語への意見別の 3 指標平均段階	183
表 7-12	各場面段階点ごとの敬語指標	185
表 7-13	場面ごとの平均段階点と丁寧さ段階の平均の順位	186
図 7-4	各場面における丁寧さ段階の分布	186~187
図 7-5	各場面と敬語指標のパターン分類(I軸・II軸)	189
図 7-6	各場面と敬語指標のパターン分類(I軸・III軸)	190
表 7-14	社会的態度項目別の数量化理論第III類の第I軸の数値	192
表 7-15	保守性点数の分布	193

(12) 図表の目次

表 7-16	「社会的態度指標」の分布	193
表 7-17	社会的態度と敬語指標との関係	194
表 7-18	社会的態度と敬語が使える程度との関係	194
表 7-19	社会的態度と家族どうして敬語を使うか否かとの関係	195
表 7-20	社会的態度と家の中でも目上に敬語を使うべきか否かという意見との関係	196
表 7-21	社会的態度と昔・今の敬語の支持との関係	196
表 7-22	交際範囲項目別の数値化Ⅲ類の第Ⅰ軸の数値	197
表 7-23	「交際範囲指標」の分布	198
表 7-24	交際範囲の広さと敬語指標との関係	199
表 7-25	交際範囲の広さと敬語が使える程度との関係	199
表 7-26	交際範囲と社会的態度の相関表	198

8. パネル調査の結果

表 8-1	場面の丁寧さの順位(3段階方式)	201
表 8-2	場面の丁寧さの順位(5段階方式)	202
図 8-1	場面の丁寧さの比較(性別)(3段階方式)	204
図 8-2	それぞれの順位による丁寧さの比較(性別)	204
表 8-3	場面の丁寧さの順位(年齢別・学歴別)	205
図 8-3	それぞれの順位による丁寧さの比較(年齢別)	206
図 8-4	場面の丁寧さの比較(年齢別)(3段階方式)	206
図 8-5	それぞれの順位による丁寧さの比較(学歴別)	207
図 8-6	場面の丁寧さの比較(学歴別)(3段階方式)	208
表 8-4	20年前との場面の丁寧さの比較	209
表 8-5	四つの場面での前回と今回との段階点の相関表(3段階方式)	210
表 8-6	各場面の相関係数および Z^2 検定の数値表	210
図 8-7	20年前との場面の丁寧さの比較(性別)	211
図 8-8	20年前との場面の丁寧さの比較(年齢別)—30, 40代	211
図 8-9	20年前との場面の丁寧さの比較(年齢別)—50代	212
図 8-10	20年前との場面の丁寧さの比較(年齢別)—60代以上	212
図 8-11	20年前との場面の丁寧さの比較(学歴別)—低学歴	213
図 8-12	20年前との場面の丁寧さの比較(学歴別)—中学歴	213
図 8-13	20年前との場面の丁寧さの比較(学歴別)—高学歴	214
表 8-7	「席ゆざられ」の場面での前回と今回との社会的要因別段階点相関表(3段階方式)	215
表 8-8	「席ゆざられ」の社会的要因別平均段階点および相関係数	216
表 8-9	「合計段階点」の分布(今回調査)	217
表 8-10	「適応点」の分布(今回調査)	218
表 8-11	社会的要因別の平均合計段階点と平均適応点	219

表 8-12	パネル調査の合計段階点の比較	220
表 8-13	パネル調査の適応点の比較	221
表 8-14	パネル・継続両調査の短文別の平均「正解点」の比較(全体)	224
表 8-15	短文「お野菜」の2回の調査の回答分布	224
表 8-16	短文「あります」の2回の調査の回答分布	224
表 8-17	短文別の平均「正解点」(性, 年齢, 学歴別)	225
表 8-18	2回の調査の「知識点」の比較(全体, 性, 学歴別)	226
図 8-14	2回の調査の「知識点」の比較(年齢別)	226
図 8-15	2回の調査間の「知識点」の変動分布	227
表 8-19	目上に対して敬語がうまく使えるか(2回の調査の相関表)	228
表 8-20	目上に対して敬語がうまく使えるか(性, 年齢, 学歴別)	228
表 8-21	家族どうして敬語を使うか(2回の調査の相関表)	229
表 8-22	家族どうして敬語を使うか(性, 年齢, 学歴別)	230
表 8-23	人称代名詞は使い分けた方がいいか(2回の調査の相関表)	231
表 8-24	人称代名詞は使い分けた方がいいか(性, 年齢, 学歴別)	231
表 8-25	「お」をつけること(2回の調査の相関表)	232
表 8-26	「お」をつけること(性, 年齢, 学歴別)	232
表 8-27	敬語は昔と今とどちらがいいか(2回の調査の相関表)	233
表 8-28	敬語は昔と今とどちらがいいか(性, 年齢, 学歴別)	234
表 8-29	「昔」と「今」の敬語の支持の2回の調査の意見変動(年齢別)	234
表 8-30	家の中でも敬語を使うべきか(2回の調査の相関表)	235
表 8-31	家の中でも敬語を使うべきか(性, 年齢, 学歴別)	235
表 8-32	「敬語を使うと話が長くなるが……」(2回の調査の相関表)	236
表 8-33	「敬語を使うと話が長くなるが……」(性, 年齢, 学歴別)	236
表 8-34	「敬語を使うと上品に聞こえるが……」(2回の調査の相関表)	236
表 8-35	「敬語を使うと上品に聞こえるが……」(性, 年齢, 学歴別)	237
表 8-36	新聞を読むか	238
表 8-37	購読部数	239
表 8-38	公式の会合	239
表 8-39	宴会・旅行	240
表 8-40	汽車の中で	240
表 8-41	交際範囲	241
表 8-42	先生	241
表 8-43	メンツ	242
表 8-44	世間のしきたり	242
表 8-45	総理大臣	243
表 8-46	階層帰属意識	244

1. 調査の目的・方法

1.1. 目的と意義

日本語の著しい特徴である敬語について、その社会集団ごとの使用の実態について、われわれは、昭和27・28の両年度にわたって、三重県上野市と愛知県岡崎市において調査し、この結果を国立国語研究所報告11『敬語と敬語意識』として報告した。

しかし、その後の社会の変化は著しいものがあり、敬語についても、この使用が簡素化されたのか、それとも複雑化されたのか、両説があるほどであり、その間の変異があるかどうか、もしあればその実態をわれわれとして知る必要があるだろう。

われわれとしては、前に、言語生活、特に方言と標準語とのからみにおけるこれについて、昭和25年に山形県鶴岡市で調査した。そして、この結果を国立国語研究所報告5『地域社会の言語生活——鶴岡における実態調査——』として発表した。そのあとの変容について同じところで、昭和46年度に調査し、その結果を国立国語研究所報告52『地域社会の言語生活——鶴岡における20年前との比較——』として世に報告した。詳しくはこの2冊目の報告に譲るが、著しい点としては、標準語の使用に関して、常識的と思われた法則が20年後には常識ではなくなったことをみてきた。

敬語の調査についてもこのような時間を置いての同じような調査をすることが望ましいと考えて、前回の報告書で主として扱った調査地点である岡崎市で、昭和47年度に実施した。以下は国立国語研究所報告11で報告した調査を「前回調査」と称し、昭和47年度の調査を「継続調査」と呼び、必要に応じては「今回調査」と呼ぶことにする。この二つの調査の比較をすることをこの調査の目的とする。

2 1. 調査の目的・方法

この比較を、鶴岡の調査と同様、この岡崎の調査でも、住民からのサンプリングによって得た被調査者に対して行った調査の結果を比較するものと、前回調査で被調査者となった者で現在も所在が岡崎市で追跡できる者に対して調査し、前回調査でのその者の結果とを比較したもので「パネル調査」とここで称するものとの2種類で行った。前者は先に述べた「継続調査」である。後者は個人を主としたケース・スタディと見ることができる。

このような20年ほどの間隔を置いての調査は、言語および言語使用の変容をみるのには適切ではないかと思う。20年といえば前は一世代といわれたが、今は平均寿命の伸長によって一世代より短いものであり、言語は世代間のコミュニケーションにも使われるものであるから、そのくらいの年齢差でそう大きな違いがあってはならない。また、言語はコミュニケーションするためのものであるから、絶えず変化はするといっても保守的な性格があり、その速度は通常それほど早くない。20年ぐらいの間隔でないと変化は調査ではみえてこないことも考えられる。一方、30年となると、変化のあるものは、その軌跡をたどることがむずかしくなるであろうし、パネル調査も成立が困難となって、比較のための有力な手段を一つ失うであろう。

なお、このように20年スパンで調査ができるのは研究所のようなところだからであると思われる。組織としての継続性はあっても、たとえば大学のようなところでは、最初に実施した教官の専攻あるいは興味が、次の教官に伝わるとは限らない。調査の持続性は、このような社会調査だけではなく、一般に研究所の方が優れているといっている。今回の場合、前回調査に参加した者で今回もまた実質的に参加した者は一人にすぎなかったが、一人もいなくても行われるべきものであった。現に鶴岡市の調査では2回の調査とも参加した者は一人もいなかった。

この調査は岡崎市という地域社会を取り上げているものであり、その意味でゲマインシャフトについての調査である。この点で、国立国語研究所報告73『企業の中の敬語』がゲゼルシャフトについての調査であるのと対している。ここでいうゲマインシャフトやゲゼルシャフトは社会学的な意味のものではな

い。というよりは、社会的な意味のものであっても、かのF・テンニエスの言うものが、現実にこの世の中にあるとは思われない。テンニエスは副題に「純粹社会学の基本概念」とあるので、自らこのことを承知していたと思われる。ごく少数のものを除いてはそのようなものは存在しないし、その少数の例外も、その純粹さの故に果たして社会として機能しているかは疑問である。

われわれの立場からするならば社会として機能していないものは考慮の対象たり得ない。現実の社会はこの両極の純粹なものを結んだ直線上のどこかに位置するものであり、この間に明確な境界線は引きにくいものであろう。ただ、国立国語研究所報告11およびこの報告書の扱っている社会と、国立国語研究所報告73の扱っている社会との間には、境界線を引くことができよう。もし調査の結果がこの差を反映しているとすれば、これは大変有意義であらう。われわれの調査はあくまでも、社会言語学的なものである。

以上ごく簡単にこの調査の目的と意義とについて述べた。以下、具体的な報告に移る。

1.2. 調査の構成・実施

1.2.1. 構成

今回の調査は昭和47年度に愛知県岡崎市で行われた。この調査の目的は、前節で述べたように、約20年前に同地で実施された「前回調査」の結果と比較することにより、敬語行動・敬語意識がこの20年間にどのように変化したかを明らかにすることにある。

比較といっても種々の方式が考えられるが、ここでは前回調査のうちの継続調査の結果と比べるために以下の2種の比較調査を行った。

一つは、前回調査と同一地域で、同様の手法でサンプリングして選ばれた被調査者を対象に、同じ調査票を用いて調査を実施する方法である。つまり、2回の調査結果をもとにその地域社会全体の言語の変化の状況をみようとするものである。これを「継続調査」による比較と呼ぶことにする。

もう一つは、「パネル調査」による比較である。これは、前回調査で対象となった被調査者を追跡調査し、同一個人の20年間の比較を行うものである。

なお、継続・パネルの両調査とも、各被調査者に対し、①郵送留置法により『社会生活調査票』への記入を求め、②後日、調査員がこれを回収するとともに、その場で面接（『サーヴェイ調査票』）する、という方法をとった（両調査票については本節の1.2.3.および1.2.4.を参照されたい）。

このほか、「スライド調査（学校調査）」および「対話調査」を行ったが、ここでは省略する（前者については6.4.1.を参照されたい）。

1.2.2. 運営・組織

今回調査は、昭和47年度文部省科学研究費補助金 試験研究(1)の研究課題

「社会変化と言語生活の変容」(研究代表者 岩淵悦太郎。課題番号 781028)として、112万円の交付を受けて実施した。

この研究に、科学研究費申請当時から参加した者は下記の19名であり、それぞれが3班に分かれて各課題を分担し研究を進めてきた(所属は調査当時のもの)。

- ◎総括(代表者)：岩淵悦太郎(国立国語研究所)
- ◎国語班：天野清，飯豊毅一，江川清，佐藤亮一，高田誠，徳川宗賢，中村明，野元菊雄，本堂寛，村木新次郎(以上国立国語研究所)，南不二男(東京外国語大学)
- ◎社会班：渡辺友左(国立国語研究所)，倉沢進(東京都立大学)，鈴木裕久(東京大学新聞研究所)
- ◎統計班：鈴木達三，西平重喜，林知己夫，林文(以上文部省統計数理研究所)

そのほか、調査の企画・実施に際し、梶原滉太郎(国立国語研究所)，井上史雄(東京大学)，小野米一(北海道教育大学)，杉戸清樹(名古屋大学大学院生)，鈴木敏昭(東京大学大学院生)が参加した。

以下、現地(岡崎市)での調査の経過を簡単に示す。

1972年9月26日～28日(2人——出張者数。以下同じ) 現地関係者への調査協力依頼

10月9日(1人) サンプルング作業の打ち合わせ

10月14日 「サンプルング実施依頼」および「世帯調査簿閲覧依頼」文書の発送

10月24日～26日(1人) 予備調査の実施

11月1日 『市政だより おかざき』にて市民への調査協力の呼びかけ

11月7日 「学校調査(スライド調査)協力依頼」および「固定資産税・市民税調査協力依頼」文書の発送

11月10日 調査対象者への「調査協力依頼」文書および『社会生活調査票』の発送

11月19日～30日(12人) 継続調査および学校調査の実施

6 1. 調査の目的・方法

1973年2月20日～23日（2人） 現地関係者へのパネル調査・対話調査への協力依頼およびその予備調査

2月28日 「世帯調査簿閲覧依頼」および「対話調査協力依頼」文書の発送

3月10日 パネル調査対象者への「調査協力依頼」および『社会生活調査票』の発送

3月13日～23日（7人） パネル調査および対話調査の実施

なお、11月の調査には、上記のメンバーのうち、江川、小野、梶原、佐藤、杉戸、鈴木(敏)、高田、徳川、野元、本堂、南、村木の12名があたり、名古屋大学学生の浅井美津江、奥田真子、丹治久美子の3名が調査本部補助者として参加した。また、翌年3月の調査には、江川、杉戸、鈴木(敏)、高田、中村、野元、本堂の7名があたった。

調査資料の整理・集計の段階では、全般的には江川清・米田正人が、敬語の段階づけには野元菊雄が、それぞれ分担し、これらを磯部（旧姓堀江）よし子が助けた。このほか、臨時の手伝いとして田中ハル子、佐藤律子、野田羊子など多くのアルバイトが整理に従事した。また、本報告書の執筆には国立国語研究所所長の野元菊雄、同研究所言語行動研究部第二研究室の江川清・米田正人の3名があたった。

1.2.3. 社会生活調査

これは、敬語行動や敬語意識などと関連が深いと思われる、個々人の経歴やマスコミ接触度、経済状況・社会的地位などについて、被調査者自身に記入するように求めたものである。その具体的な調査票は次のとおりである。なお、前回の調査票との比較において、質問文または選択肢の一部が異なるものには△、前回にはなく今回新たに加えたものには*印を、設問番号の左肩に付しておいた。また、設問番号18～20と27の4項目は、前回の調査では『サーヴェイ調査票』に含まれていたものである。

社会生活調査票

No.

一番右の四角のマスの中には何も書かないで下さい

1. お生まれは、いつですか。
 右の欄に書き入れて下さい。例えば、大正8年生まれの人ならば、明治・大正・昭和(8)年のように記入して下さい。

明治・大正・
 昭和()年

1

2. お生まれの場所は、どちらですか。

¹岡崎市

2

右の欄のどれかに○印をつけて下さい。²岡崎市以外の場合には、ワクのなかに、生まれた場所を記入して下さい。

²岡崎市
 以外

県	市郡
町村	

3. そこにお生まれになってから、住まいの場所をお変えになったことはありませんか。

¹ずっとここ

3

²変えたことがある

生まれてから、ずっと岡崎市にいらっしゃる方は¹に○印を、1度でも変えたことのある方は²に○印をつけて下さい。²に○印をつけた方は、さらに次の質問に答えて下さい。

3-1 おいくつの時から、おいくつの時まで、その場所にお住みになりましたか。お住みになった場所と、その時の年齢とを、右の欄に順順に記入して下さい。ただし、1年以下の場合は記入に及びません。

何歳から 何歳まで	場 所	備 考

3-1

8 1. 調査の目的・方法

右の欄に書き切れないときは
は余白に書いて下さい。兵
役の場合は備考欄に兵役と
書いて下さい。

4. お父さんとお母さんはどこの
御出身ですか。

右の父・母の欄に、それぞ
れ岡崎市の場合は¹に○印
を、その他の土地の場合に
は²に○印をつけ、ワクの
なかに記入して下さい。

父・母とも実父・実母を記
入して下さい。

- * 4-1 それでは御主人（奥さ
ん）はどこの出身ですか。

5. 卒業なさったのはどこの学校
ですか。一番最後の学校はど
こですか。

右の欄のうちで、一番最後
に行った学校に○印をつけ
て下さい。その学校を卒業
したか、中途退学か、在学
中かの区別にも、忘れない
ように、○印をつけて下さ
い。

- △ 6. あなたは役員をしたことがあ
りますか。

例えば、町内役員・お宮や
お寺の総代・P.T.A. 委
員・婦人会役員・民生委
員・県会議員・公安委員な
ど。

7. あなたのいまのお仕事（職
業）は何ですか。

父 ¹岡崎市 ²その他

県 市郡

4 父

母 ¹岡崎市 ²その他

県 市郡

4 母

¹岡崎市 ²その他

³なし

県 市郡

4-1 記

²学歴なし ³小学校

⁴高等小学校 ⁵新制中
学校 ⁶旧制中学校

⁷新制高校 ⁸旧制高校・
専門学校 ⁹新制大学

¹⁰旧制大学

¹¹その他

¹²卒業 ¹³中途退学

¹⁴在学中

5

¹⁵はい ¹⁶いいえ

役名 1 ()

2 ()

3 ()

6 役

また、おうち（世帯主）のお仕事は何ですか。

あなたが、おうちの御主人である場合は、世帯主のお仕事については、あらためて書くには及びません。あなたのお仕事に該当する項目が、¹から⁴までにない場合は、⁵の空欄に具体的に書いて下さい。

¹のときは7-1に、²と³のときは7-2に、⁴と⁵のときは7-3にそれぞれ答えて下さい。

あなた ¹勤め（公務
由業） ²商業
³工業 ⁴農業
⁵その他

7あ

世帯主 ¹勤め（公務
由業） ²商業
³工業 ⁴農業
⁵その他

7世

7-1 お勤めはどちらですか。そこでは、どんなお仕事をしておいでですか。職名は何ですか。

例えば、〇〇会社 会計課長 というように書いて下さい。あなた御自身と世帯主の両方について書いて下さい。

あなた 勤務先() 7-1あ
職名()

世帯主 勤務先() 7-1世
職名()

7-2 商売は何の商売ですか。

工業は何ですか。

あなたと世帯主の仕事の具体的な名前と内容とを書いて下さい。例えば、洋品店 店員・自動車修理工場修理工 など。

その商売や工業は御自分でやっていますか。

御自分でない場合は、経営

あなた () 7-2あ

世帯主 () 7-2世

7-2経

10 1. 調査の目的・方法

している人との続柄を書いて下さい。例えば、父とか親類とか主人（雇主）。

- △ 7-3 その他のお仕事の場合は、なるべく具体的に詳しく、お仕事の名前と内容を書いて下さい。

農業の場合は、田畑耕地面積、山林面積を記入して下さい。

- △ 8. あなたの家族のかたのお名前と、あなたとの続柄を右の欄に記入して下さい。また、その方が現在あなたと同居していれば、¹同居に○印を、もし、別居であれば、²別居に○印をつけて下さい。

右の欄に書ききれないときは余白に書いて下さい。

- △ 9. 仮に日本中どこでも好きな所に住んでいいということになったら、あなたはどこに住んでみたいと思われますか。

10. あなたは今年になってから、愛知県から外へでかけたことがありますか。どちらへ、何度ぐらいいらっしゃいましたか。用事はどんな用事ですか。

用事は主な用事だけを書いて下さい。右の欄に書ききれないときは裏に書いて下さい。

11. あなたは今年、名古屋にはど

¹はい ²いいえ
経営している人とあなたとの続柄
()

あなた ()

世帯主 ()

7-3

8

8

8

8

8

8

8

8

¹岡崎市でよい

²その他

県	市郡
---	----

9

10

場所	回数	用事

のくらいいらっしゃいましたか。

右のどれかに○印をつけて下さい。²に○印をつけた方は回数を記入して下さい。

12. あなたは新聞を読んでいらっしゃいますか。読んでいる新聞の名を書いて下さい。

ただとっている新聞ではなく、読んでいる新聞について書いて下さい。

- △ 13. あなたはどの政党を支持しますか。

支持政党がない場合は⁷なしに○印をつけて下さい。

14. 他人との交際について、14-1から14-4までの質問に答えて下さい。それぞれ右の欄のどれかに○印をつけて下さい。

- 14-1 あなたは町内の行事や仕事の関係で、公式の会合によく出席するほうですか。

- 14-2 あなたは近所の人や勤め先の人などと宴会、旅行をいっしょにするのが好きですか。

- 14-3 あなたがひとりで汽車に乗っているとき、あなたは前や隣りに腰掛けている見知らない人にあなたのほうから話しかけますか。それとも黙っていますか。

- ¹ほとんど毎日行った
²今までに()回ぐらい
³ほとんど行かない

11

- 新聞は
¹毎日読む
²ときどき読む
³全然読まない

12新

新聞名

12名

- ¹自民党 ²社会党
³公明党 ⁴民社党
⁵共産党
⁶その他

13

⁷なし

14

- ¹よく出席するほう
²ふつう
³出席しないほう

14-1

- ¹好き ²ふつう
³きらい

14-2

- ¹話しかける
²黙っている

14-3

12 1. 調査の目的・方法

14-4 あなたは御自分が交際の
広いほうだと思いますか。そ
れとも狭いほうだと思います
か。

¹広いほう ²ふつう
³狭いほう

14-4

15. いま、かりに現在の岡崎市民
を、上流、中流、下流に分け
るとすれば、あなたはどれに
属すると思いますか。

¹上流 ²中流の上
³中流の中 ⁴中流の下
⁵下流

15

16. あなたは、ふつうの日には、
どんな人と多く話しますか。
右の欄の□のなかに、多
く話す順に、1, 2, 3, …10
と番号を書き入れて下さ
い。ほとんど関係がなけれ
ば□のなかに×をつけて
下さい。

- 親, 主人, 年の離れた兄弟など
- 妻, 同じ年ごろの兄弟など
- 子供, 年の離れた弟妹, 女中など
- 仕事の上で目上の人
- 仕事の上で同じくらいの人 (同僚)
- 仕事の上で目下の人
- 仕事の上で知っているお客さん (おとくい, 取引先など)
- 仕事の上でよく知らないお客さん (窓口など)
- 近所の人
- 友人

16

17. 先生が何か悪いことをしたと
いうような話を、子供が聞いて
きて、親にたずねたとき、
親はそれがほんとうであるこ
とを知っている場合、子供に
は、そんなことはないといっ
た方がよいと思いますか、そ
れはほんとうだ、といった方
がよいと思いますか。

¹そんなことはないとい
いう
²ほんとうだという

17

18. 小学校に行っているくらい

の子供をそだてるのに、小さいときから、自分の顔とかメンツとかをつぶされないように注意しろと教えるのと、自分の顔とかメンツをたてるといふことにこだわるなと教えるのと、どちらが大切だと思いますか。

- 1¹注意しろと教える方が大切
- 2²こだわるなと教える方が大切

18

19. あなたは、自分が正しいと思えば世間のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思いますか、それとも世間のしきたりに従った方がまちがいないと思いますか。

- 1¹おし通すべきだ
- 2²従った方がよい

19

20. あたらしく総理大臣になったとき、伊勢の皇大神宮にお参りに行く人がありますが、あなたはこのことをどう思いますか。

- 1¹行かねばならぬ
- 2²行った方がよい
- 3³本人の自由だ
- 4⁴行かないほうがよい
- 5⁵行くべきではない

20

* 21. 東京で捕った凶悪犯人が岡崎市の出身だと聞いたら、いやな感じがしますか。

- 1¹いやな気がする
- 2²別にいやな気はしない

21

右のどれかに○印をつけて下さい。

* 21-1 それでは、その犯人が岡崎市以外の三河地方の出身だったらどうですか。

- 1¹いやな気がする
- 2²別にいやな気はしない

21-1

* 21-2 それでは、その犯人が尾張地方の出身だったらどうですか。

- 1¹いやな気がする
- 2²別にいやな気はしない

21-2

* 22. 小学校の卒業式などに、校長先生はモーニングなどの礼服を着てくるほうがよいでしょうか。それとも、着てこなく

- 1¹礼服を着てくるほうがよい
- 2²礼服はいらない

22

14 1. 調査の目的・方法

ともよいでしょうか。

- * 23. 小学校に行っているくらいの子どもを育てるのに、次のような意見があります。「小さい時から、お金は人にとって、一番大切なものだと教えるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか。それとも反対ですか。

¹賛成
²反対

23

- * 24. 「人間には生れつき能力のちがいがあるのだから、能力のある者が能力のない者の上に立つのは、あたりまえである。」こういう意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

¹賛成
²反対

24

- * 25. 「近頃の若い者はリクツばかりいうが、もっとぢみちに自分の仕事に精を出さなければならぬ。」こういう意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

¹賛成
²反対

25

- * 26. 「昔やかましく言われた、親孝行とか、目上の者を尊敬する習慣が、戦後はすたれてきました。こういう日本古来の良い習慣を大いにもり立ててゆかねばならぬ。」こういう意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

¹賛成
²反対

26

- △ 27. 「現代の社会の混乱を救うには、強力な政治家があらわれ

て国民をひっぱってゆかなければダメだ。」 こういう意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

¹賛成

²反対

27

* 28. 世間では一般に、ある人の地位や身分が高いとか、低いとかいいますが、それは一体何によってきまるのでしょうか。

右の欄の□のなかに、一番重要だとお考えになるものから順に、1, 2, 3, …6と番号を書き入れて下さい。その他、重要だと思うものがあれば空欄に記入して下さい。

職業

学歴

収入

家柄

有名(名声)

財産

その他 ()

28

1.2.4. 面接調査

個々人の敬語行動および敬語に関する知識・意見・内省などについて、調査員が各被調査者と個別に面談して回答を得たものである。今回調査の調査票は下に示すとおりである。なお、設問番号の左肩の△印、*印は前項の『社会生活調査票』の場合と同じである。

岡崎 (72)

サーヴェイ調査票

調査員 No.

被調査者 No.

01. 被調査者住所 _____ 町 _____ 番地 _____ 方

16 1. 調査の目的・方法

02. 被調査者氏名 _____

03. 生 年 明治 大正 _____ 年 _____ 月 (明治 昭和)
昭和

04. 性 別 男 女

05. <社会生活調査票の回収後>どうもありがとうございました。これは御自身でお書きになりましたか。それとも、ほかの人に書いてもらいましたか。
——だれに書いてもらいましたか。

1. 自 身
2. 他 人
3. 調査員 _____
4. 回収できなかった (理由 _____)

調査月日 1回 1972年11月 _____ 日
2回 " _____ 日
3回 " _____ 日
4回 " _____ 日

開始時刻 午前 _____ 時 _____ 分
午後 _____

これから、あなたがふだんどんなことばをお使いになっているかをお聞きしたいと思います。何も岡崎弁でなければいけないとか、標準語でなければならぬとかいうわけではありません。

いまから、いろんな場合をひとつひとつお聞きしますから、そういうとき、実際あなたの話していらっしゃるとおりおっしゃって下さい。

では、こんな場合はどうですか。

101. わたしのような旅行で来た者が、東岡崎駅(出口)で、明代橋はどちらかということをおあなたにたずねました。あなたは何と言って教えますか。

ココオ マッスグ イッタラ スグデス。

これからは、絵をお見せして、絵に書いてある人にあなたが何と言って話しかけるか、それをお聞きしたいと思います。ふだん話していらっしゃるようにおっしゃって下さい。

たとえば……

102. あなたが電報を出さなければならなかったとします。電報(郵便)局 絵 で電報用紙をもらうのに、この人に、何と言って頼みますか。

スミマセンガ, デンポーヨーシ クダサイ。

103. これはあなたの買いつけの店です。この店で買物をしましたが、ち
 絵 よっとよそへ廻るので、このふろしき包をあずかっというてもらう場
 合、あなたは店のこの人に、何と言って頼みますか。

チョット, スミマセンケド, コノニモツ アズカットイテクダ
サイ。

104. あなたがバスに乗っていると、この人(中年)が、かさを忘れて降り
 絵 て行きかけました。この人は、あなたの知らない人です。あなた
 は、何と言って、この人にかさを忘れたことを注意しますか。

アナタ コノカサ ワスレマシタヨ。

105. この子はあなたのお宅のお子さん(弟さん、お孫さん etc.)です。
 絵 あなたが、このお子さんをつれて歩いていると、この人に会いまし
 た。この人は、昔あなたが小学校で習った先生です。先生に、「こ
 の子は？」とお子さんのことを聞かれたら、あなたは何と答えます
 か。

ワタシノ コドモデス。


106. この人は電燈料の集金人です。この人が先月の料金を取りに来まし
 絵 た。ところが、先月の分はもう払ってあるので、受け取りを見せな
 がら、もう一度調べるように頼むのには、何と言いますか。

センゲツノ ブンワ モー オハライシテアリマスケド,
ナニカノ オマチガイデショー。
モーイチド シラベテクダサイ。


107. ここは東京の町角です。あなたは国会議事堂を見物しようと思っ
 絵 ているのですが、道がわかりません。そこで、こういう通りがかりの
 人に議事堂に行く道をたずねる場合、あなたは何と言って聞きます
 か。

チョット オソレイリマスガ, ギジドーワ ドーイッター
イイデショーカ。


18 1. 調査の目的・方法

108. あなたの家の近所の人が急病になりました。あなたが頼まれて、お
 医者さんの家に行くと、お医者さんが玄関へ出て来ました。このお
医者さんに、すぐ来てもらうのには何と言って頼みますか。


アノー、ウチノ トナリノ オクサンガ キュービョーニ
ナリマシタノデ、センセイ スグ キテイタダケマセンカ。

109. この子はあなたのお宅のお子さん（妹さん、お孫さん etc.）です。
 あなたがこのお子さんとバスに乗っていると、この学生が席をゆず
ってくれようとしてました。ところが、あなたはすぐ次の駅で降りる
ので、断るとします。そのとき、何と言いますか。


アリガトーゴザイマスガ、ツギデ オリマスカラ
ケッコードス。

110. この店はあなたの買いつけの店です。あなたが、この店で買いもの
 をして、おつり（かえし）をもらったら、おつりが足りません。あ
なたは何と言いますか。


チョット オツリガ タリマセンケド、モーイチド
シラベテクダサイ。

111. にわか雨が降ってきました。あなたの家の前を、少し知っているこ
 ういう人（家は知っている）がぬれて歩いています。気の毒な
ので、この人にあなたの家のかさを貸すとしたら、あなたは何と言
いますか。

ドーブ コノカサ モッテイテクダサイ。

* 112. 小学校3～4年ぐらいの見知らぬ男の子が1人で魚を釣っていま
 す。散歩の途中でその子に釣れるかどうか聞くとしたら、どう言っ
て聞きますか。

アンタ サカナ ツレルノ。

113. あなたがあなたのお父さんの用事で道を歩いていたら、こういう目
 上の人に会いました。この人があなたにどこに行くのかをたずねま
した。あなたは、父親が市役所に行けと言ったので、今行くところ
だということを答えるとしたら、この人に何と言いますか。

チチガ シヤクシヨニ イケト イイマシタ。

- * 114. これで、絵をお見せしてお聞きするのはおしまいです。
大勢の人の前で立って、これから自分が公害問題について意見をいうということを発言するとしたら、どう言いますか。

コレカラ ヲーガイモンダイニツイテ ワタシノ イケンオ
モーシアゲマス。

- * 115. 尊敬している先生にむかっていう時のことばについておたずねします。「この絵はあなたがかいたのか」とたずねる時、ふつう何とおっしゃいますか。

コノエワ アナタガ カイタノデスカ。

開始時刻 午前 _____ 時 _____ 分
午後 _____ 時 _____ 分
所要時間＝ _____ 分

では、こんどは敬語についての意見をうかがいます。

- 201. はじめに、これからわたしが言うことばの中に、敬語があるでしょうか。あったらどれが敬語かおっしゃって下さい。<棒線をつける>

- 1 「あの人は駅へ行かれた」 なし DK NR
この中には敬語がありますか。
- 2 では、「一つお持ち下さい」の中には。
なし DK NR
- 3 では、「きょうはお野菜が安い」の中には。
なし DK NR
- 4 では、「ここにあります」の中には。
なし DK NR
- 5 では、「これはいただいたものだ」の中には。
なし DK NR
- 6 では、「知事のお車はもう駅を出発した」の中には。
なし DK NR

20 1. 調査の目的・方法

202. あなたは目上の人と話をするとき、うまく敬語が使えますか。

- ¹うまく使える ²大体うまく使える ³うまく使えない
あまりうまく使えない ⁴DK ⁵NR

203. では、昔（戦前）の敬語の使いかたと、今の敬語の使いかたとでは、どちらがいいと思いますか。

- ¹昔 ²昔のほうがいい ³今のほうがいい ⁴昔の敬語は知らないものも、今のほうがいいものもある。
⁵DK ⁶NR

204. お宅では家族の方の間で、敬語を使うことがありますか、それとも家族どうしでは、敬語は使いませんか。

- ¹使う ²ときに使う ³使わない ⁴DK ⁵NR

205. 敬語を使うと、どうしても話が長くなりがちです。しかし、世の中はこれからますます忙しくなっていくと思います。そこで敬語を使うことを、だんだん少なくしていったほうがいいと思いますか、どうでしょうか。

- ¹へらしたほう ²一概には言え ³今のままで ⁴この意見はいい ⁵いい ⁶おかしい
⁷DK ⁸NR

206. 東京の女の人などは、このごろ何にでもオをつけるようです。たとえば、人参のことをオ人参、目鏡のことをオ目鏡と言っています。岡崎でもこのようにオをつけるほうがいいでしょうか。それともこのようにオをつけるのはよくないでしょうか。

- ¹つけたほうが ²ものによる ³つけないほう ⁴どちらでもいい ⁵いい ⁶いい
⁷DK ⁸NR

207. 家の中でも、年長の人や目上の人には敬語を使わなければならないでしょうか。それとも家の中では使わなくて

もいいでしょうか。

¹使うべきだ ²時や場合や相手による ³使わなくてもいい

⁸DK ⁹NR

208. 敬語を使って話すと、上品に聞こえますし、また、話し相手によっては敬語を使うのがあたりまえです。そこで、だれもが敬語をさかんに使ったほうが良いと思いますか、どうでしょうか。

¹さかんに使った ²一概に言え ³今のままで ⁴この意見は
ほうが良い ない いい おかしい

⁸DK ⁹NR

209. 日本語では、場合によって、自分のことを、「わたくし」とか「わたし」「ぼく」などと言います。また相手の人のことは「あなた」「あんた」「君」などと使いわけます。しかし、英語ではどんな場合でも自分は I、相手の人のことは you と言えばいいそうです。あなたは日本語も場合や相手によって使いわけないですむほうが良いと思いますか。それとも、場合や相手によって使いわけたほうが良いと思いますか。

¹使いわけたほう ²使いわけないほう ³どちらでも良い
がよい がよい

⁸DK ⁹NR

210. 先生が何か悪いことをしたというような話を、子供が聞いてきて、親にたずねたとき、親はそれがほんとうであることを知っている場合、子供には、そんなことはないといった方がよいと思いますか、それはほんとうだ、といった方がよいと思いますか。

¹そんなことはない ²ほんとうだという ³その他
という ()

⁸DK ⁹NR

211. 仕事の上であなたはどのような人とよく話をしますか。

¹目上の人 ²目下の人 ³同僚 ⁴おとくい ⁵知らぬ客

⁹NR ⁷無職

22 1. 調査の目的・方法

* 31. 家族内での地位： 上 下
5 4 3 2 1 7一人もの

* 32. 職業上の地位： 上 下
5 4 3 2 1 7無 職

* 33. 岡崎市での地位： 上 下
5 4 3 2 1 7家 族

終了時間 午前 _____ 時 _____ 分
午後 _____ 時 _____ 分
所要時間= 分

34. 全体を見て

- 1 調査に対して 1非常に協力的 2協力的 3普通
4非協力的 5非常に非協力的
- 2 反応までの時間 1長いほう 2普通 3短いほう
- 3 反応語数 1多いほう 2普通 3少ないほう
- 4 言いよどみ, 1多いほう 2普通 3少ないほう
言いなおし
- 5 質問に対する問 1多いほう 2普通 3少ないほう
いかえし

35. 敬語の度合

敬 非敬
5 4 3 2 1

36. 共通語の度合

共 方
5 4 3 2 1

* 37. その他

- 1 調査した場所 1自宅 2勤務先 3()
- 2 // 1部屋の中 2玄関先 3店先 4()
- 3 同 席 者 1本人のみ 2配偶者 3()

1.3. 被調査者の構成

ここでは継続調査とパネル調査のそれぞれの被調査者の特性について概観することにする。

1.3.1. 継続調査の被調査者

今回の面接調査は、以下に示すように、サンプリングによって得られた被調査者に対して実施された。ここで行われたサンプリングは、岡崎市のうち前回調査と同一地域(図1-1)に居住する15歳から79歳の人々を対象として、等間隔単純無作為抽出法によっている。サンプリングの実施に際しては、岡崎市役所の厚意により電子計算機を利用することができたので、多くの時間と労力を省くことができた。被調査者は経済的理由などにより400名とされたが、調査不能をあらかじめ考慮して余分にサンプリングし、調査不能者に対しては同性で年齢に近い者を差し替えて調査をしたため、最終的な被調査者の数も400名となっている。

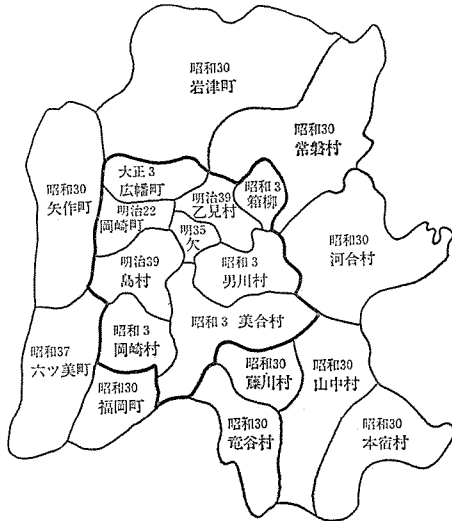


図1-1 岡崎市への編入時期
(注)中央の太線で囲った地域が調査地点

これは、いわゆる差し替え方式で、現在はほとんど使われなくなったが、国立国語研究所で昭和46年度に行った「鶴岡市における共通語化の調査」でのサンプリング法

表 1-1 サンプル構成(性・年齢別)

	調査地点人口			全市人口			被調査者		
	男	女	全体	男	女	全体	男	女	全体
	9,435	9,063	18,498	27,912	26,536	54,448			
0~14	3,329(11.5)	3,442(11.1)	6,771(11.3)	9,027(11.5)	9,648(11.6)	18,675(11.6)	19(11.4)	27(11.6)	46(11.5)
15~19	4,421(15.3)	4,277(13.8)	8,698(14.5)	11,361(14.4)	11,621(14.0)	22,982(14.2)	23(13.8)	33(14.2)	56(14.0)
20~24	3,540(12.2)	3,268(10.5)	6,808(11.3)	10,280(13.1)	9,819(11.9)	20,099(12.4)	25(15.0)	28(12.0)	53(13.3)
25~29	3,132(10.8)	2,962(9.5)	6,094(10.2)	9,508(12.1)	8,735(10.5)	18,243(11.3)	19(11.4)	29(12.4)	48(12.0)
30~34	2,855(9.9)	3,067(9.9)	5,922(9.9)	8,311(10.6)	8,352(10.1)	16,663(10.3)	15(9.0)	23(9.9)	38(9.5)
35~39	2,813(9.7)	2,997(9.6)	5,810(9.7)	7,607(9.7)	7,466(9.0)	15,073(9.3)	17(10.2)	15(6.4)	32(8.0)
40~44	2,241(7.8)	2,639(8.5)	4,880(8.1)	5,775(7.3)	6,470(7.8)	12,245(7.6)	13(7.8)	25(10.7)	38(9.5)
45~49	1,443(5.0)	2,134(6.9)	3,577(6.0)	3,766(4.8)	5,191(6.3)	8,957(5.6)	7(4.2)	8(3.4)	15(3.8)
50~54	1,567(5.4)	1,840(5.9)	3,407(5.7)	3,932(5.0)	4,740(5.7)	8,672(5.4)	10(6.0)	10(4.3)	20(5.0)
55~59	1,358(4.7)	1,666(5.4)	3,024(5.0)	3,475(4.4)	4,134(5.0)	7,609(4.7)	6(3.6)	13(5.6)	19(4.8)
60~64	1,059(3.7)	1,247(4.0)	2,306(3.8)	2,654(3.4)	2,975(3.6)	5,629(3.5)	6(3.6)	13(5.6)	19(4.8)
65~69	745(2.6)	979(3.1)	1,724(2.9)	1,867(2.4)	2,338(2.8)	4,205(2.6)	6(3.6)	7(3.0)	13(3.3)
70~74	396(1.4)	572(1.8)	968(1.6)	1,064(1.3)	1,426(1.7)	2,490(1.5)	1(0.6)	2(0.9)	3(0.8)
75~79	232	444	676	606	1,157	1,763			
80歳以上									
計	38,566(48.7)	40,597(51.3)	79,163	107,145(49.2)	110,608(50.8)	217,753	167(41.8)	233(58.3)	400(100.0)
15~79	28,899(48.2)	31,090(51.8)	59,989	78,627(48.7)	82,915(51.3)	161,542			

(注) 表の中で、()は15~79歳の合計に対するパーセント、[]は全体に対するパーセントを表わしている。

にしたがったためである。詳しくは国立国語研究所報告52『地域社会の言語生活』を参照されたい。

以上のようにして得られた継続調査の被調査者400名について、いくつかの属性（社会言語学的属性）および属性間の関連についてみてみよう。

表1-1は、岡崎市全体、調査対象地域の人口および本調査の被調査者の性別構成を対比的に示したものである。被調査者の年齢構成は全市の構成とよく似ているが、性別構成では被調査者の女性の率が若干高くなっている。

学歴を性・年齢別にみると表1-2のようになっている。「低学歴」は新制中学校・高等小学校卒業相当以下、「中学歴」は旧制中学・高等女学校・新制高校卒業相当、「高学歴」は旧制高校・短大卒業相当以上をさしている。なお、中退・在学中は卒業と同等の扱いとした。集計結果を見

表 1-2 学歴の性・年齢別構成（継続調査）

		低学歴	中学歴	高学歴	全体
男		74 (44.3)	67(40.1)	26(15.6)	167
女		118 (50.6)	83(35.6)	32(13.7)	233
年 齢	15~19	12 (26.1)	30(65.2)	4(8.7)	46
	20~29	36 (33.0)	44(40.4)	29(26.6)	109
	30~39	33 (38.4)	43(50.0)	10(11.6)	86
	40~49	43 (61.4)	17(24.3)	10(14.3)	70
	50~59	23 (65.7)	7(20.0)	5(14.3)	35
	60~69	29 (76.3)	9(23.7)	—	38
	70~79	16(100.0)	—	—	16
全 体		192 (48.0)	150(37.5)	58(14.5)	400

ると、年齢が高くなるにつれて低学歴の率が高くなっている。また、低学歴が全体の半数弱を占めてはいるものの、前回調査（低学歴68.2%、中学歴22.1%、高学歴9.7%）と比べると、全体として高学歴化してきているのがわかる。

職業の性・年齢別構成は表1-3のとおりである。内職・パートなどは「無職」と同等に扱い、家業手伝いは「その他」に含めて集計した。前回調査で24.9%あった農工は、今回調査では農業・漁業・工員を合わせても16%と減少している。給与生活者は前回調査では15.2%であったが、今回調査では30%に達し、いわゆるサラリーマン家庭が増えている様子がうかがえる。

表1-4は、学歴と職業との関連をあらわす表である。学歴が高くなるにつれて、給与生活者が増え、逆に農業・漁業・工員が減っているのがわかる。

所属産業および職務内容などの分類による被調査者特性は表1-5、表1-6

表 1-3 職業の性・年齢別構成 (継続調査)

	給与生活者	商店主・工場主	農業・漁業・工員	主婦	学生	無職	その他	全体
男	69(41.3)	23(13.8)	46(27.5)	—	13(7.8)	6(3.6)	10(6.0)	167
女	51(21.9)	7(3.0)	18(7.7)	69(29.6)	20(8.6)	34(14.6)	34(14.6)	233
年齢	15~19	10(21.7)	—	6(13.0)	—	30(65.2)	—	46
	20~29	47(43.1)	4(3.7)	16(14.7)	22(20.2)	3(2.8)	4(3.7)	109
	30~39	33(38.4)	6(7.0)	9(10.5)	22(25.6)	—	3(3.5)	86
	40~49	18(25.7)	8(11.4)	22(31.4)	15(21.4)	—	2(2.9)	70
	50~59	10(28.6)	1(2.9)	8(22.9)	7(20.0)	—	5(14.3)	35
	60~69	2(5.3)	8(21.1)	3(7.9)	2(5.3)	—	16(42.1)	38
	70~79	—	3(18.8)	—	1(6.3)	—	10(62.5)	16
全体	120(30.0)	30(7.5)	64(16.0)	69(17.3)	33(8.3)	40(10.0)	44(11.0)	400

表 1-4 職業と学歴 (継続調査)

	職業							
	給与生活者	商店主・工場主	農業・漁業・工員	主婦	学生	無職	その他	全体
低学歴	31 (16.1)	15 (7.8)	48 (25.0)	33 (17.2)	6 (3.1)	35 (18.2)	24 (12.5)	192
中学歴	55 (36.7)	11 (7.3)	13 (8.7)	28 (18.7)	22 (14.7)	3 (2.0)	18 (12.0)	150
高学歴	34 (58.4)	4 (6.9)	3 (5.2)	8 (13.8)	5 (8.6)	2 (3.4)	2 (3.4)	58
全体	120 (30.0)	30 (7.5)	64 (16.0)	69 (17.3)	33 (8.3)	40 (10.0)	44 (11.0)	400

表 1-5 所属産業の性別構成 (継続調査)

	主婦・無職	農林漁	建設	製造	卸・小売	金融・不動産	運輸・通信	電気・ガス・水道	サービス	公務
男	21 (12.6)	1 (0.6)	17 (10.2)	61 (36.5)	28 (16.8)	7 (4.2)	5 (3.0)	6 (3.6)	17 (10.2)	4 (2.4)
女	123 (52.8)	2 (0.9)	2 (0.9)	30 (12.9)	37 (15.9)	9 (3.9)	2 (0.9)	—	27 (11.6)	1 (0.4)
全体	144 (36.0)	3 (0.8)	19 (4.8)	91 (22.8)	65 (16.3)	16 (4.0)	7 (1.8)	6 (1.5)	44 (11.0)	5 (1.3)

表 1-6 職務内容の性別構成（継続調査）

	主婦・無職	専門的技術的	管理的	事務	販売	農林漁	運輸・通信	技能工・単純労働者	サービス業
男	20 (12.0)	18 (10.8)	17 (10.2)	30 (18.0)	25 (15.0)	1 (0.6)	4 (2.4)	49 (29.3)	3 (1.8)
女	123 (52.8)	13 (5.6)	3 (1.3)	28 (12.0)	28 (12.0)	2 (0.9)	1 (0.4)	21 (9.0)	14 (6.0)
全体	143 (35.8)	31 (7.6)	20 (5.0)	58 (14.5)	53 (13.3)	3 (0.8)	5 (1.3)	70 (17.5)	17 (4.3)

表 1-7 出生地の性別構成（継続調査）

	岡崎市	三河	尾張	岐阜・長野・山梨・静岡・富山	近畿・中国・四国・九州・石川・福井	その他	全体
男	87 (52.1)	89 (23.4)	7 (4.2)	5 (3.0)	20 (12.0)	9 (5.4)	167
女	103 (44.2)	59 (25.3)	24 (10.3)	13 (5.6)	21 (9.0)	13 (5.6)	233
全体	190 (47.5)	98 (24.5)	31 (7.8)	18 (4.5)	41 (10.3)	22 (5.5)	400

表 1-8 父の出身地と母の出身地 (継続調査)

父の出身地	母の出身地							全 体
	岡崎市	三河	尾張	岐阜・長野・山梨・静岡・富山	近畿・中国・四国・九州・石川・福井	その他	無記入	
岡崎市	89	24	1	4	5	5	4	132 (33.0)
三河	32	94	4	7	—	1	—	138 (34.5)
尾張	2	5	15	1	1	1	1	26 (6.5)
岐阜・長野・山梨・静岡・富山	4	5	1	17	1	2	—	30 (7.5)
近畿・中国・四国・九州・石川・福井	1	3	2	2	37	1	—	46 (11.5)
その他	6	2	—	1	—	12	1	22 (5.5)
無記入	1	1	—	—	—	1	3	6 (1.5)
全 体	135 (33.8)	134 (33.5)	23 (5.8)	32 (8.0)	44 (11.0)	23 (5.8)	9 (2.3)	400 (100.0)

のとおりである。これらの表で、所属産業や職務内容の不明のものは、「主婦・無職」の項の中に含めて集計した。

表1-7は本人の出生地の性別構成を示したものである。前回調査では岡崎市44.0%、三河35.5%、尾張4.4%、その他16.1%であったが、今回調査では、表にもあるように、岡崎市47.5%、三河24.5%、尾張7.8%、その他20.3%となっている。岡崎市生まれの人が半数弱を占め、約8割の人が愛知県生まれということになるが、前回調査に比べて三河生まれの減少が目立っている。

表1-8は、父の出身地と母の出身地のクロス集計表である。前回調査の報告書（51ページ）によれば「父の方が岡崎市・三河の出身が多い」とされているが、今回調査の結果では、両者はよく似た分布を示し、差はみられない。

1.3.2. パネル調査の被調査者

パネル調査は個人の追跡調査である。したがって前回調査の被調査者本人を見つけて出すことがまず最初に必要となる。被調査者を探し出す作業は岡崎市役所の協力を得て行われ、前回調査で得られた面接調査の被調査者434名（本グループ247名、比較グループ187名）のうち198名（45.6%）の所在が明らかになった。所在が不明であった者のなかで、35名は転出、29名は死亡していることが確認された。所在が明らかになった者のうち無事調査が完了したものは185名であったが、これは前回調査の被調査者の42.6%にあたる高い率である。ちなみに、鶴岡市での調査では24.8%であった。

ここでは、この185名の被調査者についての属性を概観することにする。なお、学歴・職業・出生地などのカテゴリーは継続調査のものと同一である。

表1-9は、今回調査時の被調査者の年齢別および性別構成を示したものである。今回調査の年齢から20歳引いたものが前回調査の年齢とほぼ一致することになる。前回調査での年齢構

表 1-9 性・年齢別構成（パネル調査-今回調査時の年齢）

	男	女	全体
30代	12 (75.0)	4 (25.0)	16
40代	25 (54.3)	21 (45.7)	46
50代	27 (49.1)	28 (50.9)	55
60代	13 (32.5)	27 (67.5)	40
70代	14 (50.0)	14 (50.0)	28
全体	91 (49.2)	94 (50.8)	185

成は、10代18.7%、20代26.7%、30代18.4%、40代15.9%、50代以上20.3%であったが、今回調査では30代後半16名(8.6%)、40代46名(24.9%)、50代55名(29.7%)、60代40名(21.6%)、70代28名(15.1%)となっている。70代は本来70歳以上となるべきところであるが、80歳以上は今回1人も調査されなかった。両者を比べると今回調査時の50代、60代が比較的良好に見つかっているのがわかる。性別構成は前回調査も今回調査もほぼ同じ分布を示している。

表 1-10 学歴・職業の性別構成の新旧比較 (パネル調査)

		前 回 調 査			今 回 調 査		
		男	女	全 体	男	女	全 体
学 歴	低 学 歴	59(64.8)	62(66.0)	121(65.4)	60(65.9)	62(66.0)	122(65.9)
	中 学 歴	21(23.1)	26(27.7)	47(25.4)	20(22.0)	24(25.5)	44(23.8)
	高 学 歴	11(12.1)	6(6.4)	17(9.2)	11(12.1)	8(8.5)	19(10.3)
職 業	給与生活者	19(20.9)	1(1.1)	20(10.8)	25(27.5)	7(7.4)	32(17.3)
	商工主・工場主	31(34.1)	4(4.3)	35(18.9)	32(35.2)	6(6.4)	38(20.5)
	農業・漁業・工員	31(34.1)	12(12.8)	43(23.2)	24(26.4)	10(10.6)	34(18.4)
	主 婦	—	49(52.1)	49(26.5)	—	18(19.1)	18(9.7)
	学 生	5(5.5)	3(3.2)	8(4.3)	—	—	—
	無 職	1(1.1)	12(12.8)	13(7.0)	8(8.8)	36(38.3)	44(23.8)
	そ の 他	4(4.4)	13(13.8)	17(9.2)	2(2.2)	17(18.1)	19(10.3)

表 1-10は学歴、職業について、前回調査と今回調査の比較を示したものである。学歴はほとんど同じ分布を示しているが、個人個人でみると学歴の下がった者が3名いた。これは本来あり得ないことであるが、本人の申告どおりコード化してある。職業をみると、無職の増加が目立っている。これは当然のことながら、被調査者自身の高齢化が主な原因となっている。また、主婦層が減少しているが、これは彼女たちが「主婦の座」を嫁にゆずったと意識したためであろうか。

表 1-11 出生地の性別構成 (パネル調査)

	岡崎市	三 河	尾 張	岐阜・長野・山梨・静岡・富山	近畿・中国・四国・九州・石川・福井	その他
男	57(62.6)	20(22.0)	5(5.5)	2(2.2)	5(5.5)	2(2.2)
女	50(53.2)	30(31.9)	6(6.4)	4(4.3)	4(4.3)	—
全体	107(57.8)	50(27.0)	11(5.9)	6(3.2)	9(4.9)	2(1.1)

出生地を性別に見ると表1-11のようになる。岡崎市で生まれた者は男性の方が多くなっている反面、女性は三河生まれが多くなっている。全体では岡崎市で生まれた者が57.8%であり、三河・尾張まで含めると実に90.8%にのぼっている。継続調査の数値と比べると、地元との結びつきがより強いことがわかる。

個人ごとに前回調査と今回調査の出生地をつき合わせてみると、異なったコードをとったものが若干名いた。ここには示さなかったが、父の出身地、母の出身地になると、さらに不一致の数が増加している。出生地などは本来変わらないはずのものである。前に示した学歴と同様、これらはパネル調査の問題点として今後考えていかねばならない事柄であろう。これらについては、とりあえずは今回調査の結果を優先させた。

なお最後に、今回のパネル調査と同一年齢範囲（30代後半以上）にある継続調査の被調査者（197名）について、年齢・学歴の性別構成を表1-12に掲げておく。パネル調査と継続調査の結果を比較するときには、特に性および年齢構成の違いに注意する必要がある。

表 1-12 パネル・継続両調査の性×年齢・学歴別構成

	パネ ル 調 査			継 続 調 査		
	男	女	全 体	男	女	全 体
30代後半	12 (13.6)	4 (4.3)	16 (8.6)	15 (18.5)	23 (19.8)	38 (19.3)
40代	25 (27.5)	21 (22.3)	46 (24.9)	30 (37.0)	40 (34.5)	70 (35.5)
50代	27 (29.7)	28 (29.8)	55 (29.7)	17 (21.0)	18 (15.5)	35 (17.8)
60代	13 (14.3)	27 (28.7)	40 (21.6)	12 (14.8)	26 (22.4)	38 (19.3)
70代	14 (15.4)	14 (14.9)	28 (15.1)	7 (8.6)	9 (7.8)	16 (8.1)
低学歴	60 (65.9)	62 (66.0)	122 (65.9)	49 (60.5)	77 (66.4)	126 (64.0)
中学歴	20 (22.0)	24 (25.5)	44 (23.8)	24 (29.6)	28 (24.1)	52 (26.4)
高学歴	11 (12.1)	8 (8.5)	19 (10.3)	8 (9.9)	11 (9.5)	19 (9.6)
全 体	91 (100.0)	94 (100.0)	185 (100.0)	81 (100.0)	116 (100.0)	197 (100.0)

(注) ここでの「継続調査」は「パネル調査」に対応する30代後半以上の被調査者を示す。

2. 前回調査の概要

2.1. 目 的

日本語の著しい特徴といわれる敬語は、封建時代の遺習であるから、民主主義の世の中では当然清算すべきであるという考え方がある。しかし一方、民主主義の基本は個人が互いに他を尊敬することにかかっており、その敬意をあらわす有効な手段は敬語であるから、これからの世の中ではある程度の敬語は必要だともいえる。その敬語とはできるだけ簡素な敬語であろう。

前回調査の報告書では、その目的の章を大体以上のように述べて起こしている。戦後まだ5～6年しかたたないころのこの調査の企画段階での一般的な社会情勢をよく反映した文章である。今さらここで後ろ向きの敬語の調査を、という考えは当時確かに有力に存在したのである。

さて、この前回調査の報告書では、目的についてさらに次のように言う。

戦前・戦後を問わず「敬語の混乱」ということが言われる。これは、敬語意識や敬語についての考え方が、主として老人と若者との間に食い違っていることを指すと思われるが、これはときには伝達を妨げ、さらに地域社会の共同の感情に影響を与える。そこで、地域社会における敬語の実態をつかみ、それによって敬語を複雑にしている原因を追究して、これによって敬語を簡素化する方策の手がかりが得られよう。

今実際に老人と若者との間にどのくらいの食い違いが敬語についてあるのかについて、われわれは確実な知識を持っていない。食い違いは、さらに、男女間、階層間、学歴別集団間などについてもある。これらを全部ひっくるめたものが「敬語の混乱」と考えている人もあろう。こういう「敬語の混乱」が地域社会で実際どのようなものであるかを明らかにして、この「混乱」の原因を追究するのがわれわれの調査の目的である。これがつきとめられることによって、敬語

を簡素化する方策の手がかりを得ようと思う。

以上が報告書に述べられている前回調査の目的である。「敬語の簡素化」は、保守的な意見と、その対極をなす敬語全廃論とを止揚するものとして適切な旗じるしであったと思われる。論拠として「民主主義」が掲げられているのも時代をよく反映している。

現在は必ずしも「簡素化」は求められていないと思う。今の指導原理は「能率化」「効率化」ということであろう。これは必ずしも「簡素化」とは平行しない。複雑なものであるならば、複雑に表現すべきだという考え方もある。たとえば、漢字を含んだ日本語の表記法が複雑であることは否めないが、これを処理して日本語ワードプロセッサなどを作り出し、能率的な文書作成および管理システムを仕上げるのは科学技術である。したがって「簡素化」ということには現在はあまり重点があるとは考えられない。われわれの今回の調査はすでに 1.1. 「目的と意義」で述べたように、このことは前面には押し出してはいない。

2.2. 調査の構成・実施

2.2.1. 構成

前回調査の報告書に盛られているのは四つの調査から得た結果であった。

最初の二つは、三重県上野市および愛知県岡崎市における、社会調査・世論調査・心理テストの方法を取った市民対象の科学研究費による調査で、前者は昭和27年度に、後者は昭和28年度に、それぞれ行われた。報告書で主として扱ったのは後者である。

あとの二つは、この両年度に国立国語研究所の地方調査員（当時。現地方研究員）にお願いした調査である。前二者で行った調査と関係あるものを全国的に調べようとしたものである。昭和27年度は各県7地点で計300地点について調査し、昭和28年度は、大都市5地点、小都市32地点、農村10地点の計47地点について調査した。

以上のうち、最初の二つのものが今回の調査と関係があるので、主としてこれについて述べておくことにする。

1) 調査の主な柱は「面接調査」である。しかし、これは今回の調査と同じであるから、詳しくは今回の実施について述べた1.2.「調査の構成・実施」を見られたい。なお、被調査者は上野市250人、岡崎市450人であった。

2) 次は「社会生活調査」である。敬語行動・敬語意識は、ある個人がどんな経歴をもち、どんな社会環境のうちで、どんな社会的接触のもとで日常生活を送っているかなどということと深い関係があろう。そこで、各個人に性・年齢・職業・居住経歴・学歴・マスコミとの接触度などについての調査票を配って記入してもらい回収することにした。被調査者は全市民からのサンプリングによって、上野市1,000人、岡崎市800人を選んだ。そして回収された調査票を参考にしながら、先の「面接調査」の被調査者を選んだ。したがって、調査

順序からいうと、この「社会生活調査」の方が先である。なお、今回調査では、「面接調査」の被調査者をいきなりサンプリングしている。

3) 1)の「面接調査」は話し手としての敬語行動を調べるものであったが、これに対して、被調査者が聞き手として、敬語行動をどう感じ、どう判断するかを調査しなければならない。このためには被調査者を一定の会場に集め、スライドでいくつかの場面を見せて、それぞれの場面における会話を録音で聞かせて判断してもらった。一定の会場に集まってもらったので「集合調査」ともいうが、またスライドを使うので「スライド調査」とも称する。

前回調査ではそれぞれ「面接調査」の被調査者から被調査者を選んだが、今回は主として費用の点でこれができなかったため、中学校・高等学校で生徒について実施した。

4) 「面接調査」で調べた場面はあくまでも仮定した場面である。その仮定した場面と同じ場面で自然のままのところで録音して、「面接調査」での反応が妥当なものであるかどうかをみようとした。この調査を「場面録音調査」という。詳しくは前回の報告書を見られたい。今回は省略した。

5) われわれは言語形式の丁寧さを何らかの手段で数量化をしなければならない。そのための基礎的な、丁寧さの段階を決定するために一般市民に実施したので「敬語形式の段階調査」と称する。

実際の各反応に対する段階づけは前回も今回も同じ一人の調査者が行った。これについては、この報告書の5.「敬語の段階づけとその結果」に詳しく述べる予定である。

6) 敬語行動を規定する条件として、社会階層は重要なものの一つであろう。そこで、被調査者がどのような階層に属しているかを客観的に数量化するための調査を実施した結果によって各人の所属階層を判定した。

7) 以上のほか、前回の調査では「対話の実験的調査」を計画・実施した。上野市では年齢（老・壮）、階層（上・下）、親疎の三つの条件を組み合わせ、対話する人を組み合わせ、11組を、岡崎市ではこの三つにさらに男女を加えて、合計20組の対話を観察・記録した。

この調査は整理・分析に時間がかかることもあって前回の報告書では取り上

げていない。また、今回も調査は実施したが、同様の理由からこの報告書では取り上げなかった。

以上のような調査のうち「面接調査」を軸とし「集合調査」「場面録音調査」について図示したものが、前報報告書の付表1として折り込みで出ている。

全国で調査したのは、第1年度を「全国調査Ⅰ」とする。この調査は、一定の場面において、同じ話し手の敬語行動が相手によってどのように変わるか、ということ为重点としたものである。なお、その他同じ敬語形式でも、地域によって、丁寧さの段階に違いがあるか、話し手の年齢によって敬語行動に違いがあるか、共通語の敬語形式がどの程度行われているか、個々の敬語形式の地理的分布を知る、などを目的とした。

以上のうち主となるものについては、10の項目について、あまり親しくない目上の者（被調査者の居住地の小学校の校長）、近所の顔見知りの年上の者、同じく同じ年ごろの者、同じく年下の者、同じ年ごろで全く知らない者の5種類の聞き手に対して敬語行動がどう違うかを調べた。

第2年度の「全国調査Ⅱ」では、前年度の上野市での調査項目のうち「面接調査」の全部と「集合調査」で調べたものの一部、およびその他として人称代名詞の使用状態を取り上げた。

2.2.2. 実 施

昭和27年度は、上野市で実施する前に、山梨県北都留郡上野原町、東京都青梅市でそれぞれ準備調査を実施したのち、上野市で本調査を4回にわたり行った。調査に従事したのは延べ247人である。

昭和28年度の岡崎市での調査は、9月1日から11日までの第1回から、翌年3月6日から16日までの5回にわたり、延べ201人日の調査であった。

「全国調査Ⅰ、Ⅱ」は、各道府県の地方調査員47人に委嘱して調査した。北海道および兵庫県はそれぞれ2人ずつで、あと東京都は委嘱せず、また沖縄県は復帰前であった。

「全国調査Ⅰ」は329地点で調査されたが、うち完備した報告のあった300地

点について分析した。

2.3. 結果の概要

これについては前の報告書の「VII 結び」の「1 結果のあらまし」のところに述べてある。ここではこの記述を主として紹介しておくことにする。——以下は今回つけ加えた説明の部分である。

1) 否定的要素を含む敬語形式は、発話全体として、否定的要素を含まない敬語形式よりは一般に丁寧と意識されている。——「くれ」より「くれんか」、「いただけますか」より「いただけませんか」が丁寧と意識されている、ということである。またこれは当然「敬語形式の段階調査」の結果にも反映している。

2) 特定の敬語形式が個人によっていつも好んで使われるということはなさそうである。たとえば、ある人は否定的要素を含む敬語形式をいつも使う、などとは言えないようである。——いつも丁寧な敬語形式を使う、というような人はいるのであるから、たとえば「ございます」をよく使う、といった個人はいるであろう。

3) 長い発話ほど丁寧な敬語行動であると一般に意識されている。——「長いほど」と言ってももちろん程度問題ではあるが、短いほど乱暴であるとの意識は強い。

4) 同じく、方言形式を含む発話は、そうでない発話よりも乱暴であると一般に意識されている。——これも丁寧さの段階ではそう変わらないだろうと予想されるものについての比較である。

5) ある部分に漢語を使う発話の方が、漢語を使わないそれよりも丁寧であると意識されている。——たとえば、「ここに受け取りがあります」よりも「ここに領収書があります」の方が丁寧である、ということである。

6) 心理的に弱い立場に立つとき（ものを拒むとき、恩恵を受けた場合など）敬語行動は丁寧になり、その逆のとき（すなわち、相手が間違っていると

き、相手に恩恵を施す場面など)は比較的乱暴になる。——これは「面接調査」での、設定場面をこのように分けたとき、二つのグループの間に丁寧さの差が認められたことからの結論である。

7) この場面ではこの程度の丁寧さで行動すべきであるという意識と、実際の敬語行動の丁寧さとは必ずしも一致しない。——これは「面接調査」での調査場面を丁寧に言わなければならないと思う順に並べてもらって、その人が実際に答えた語形による丁寧さの順と一致するかどうか、ということによって調べた。丁寧に言うべきだとは思いつつながら、丁寧な語形が出にくい場面があると意識とは大いに違ってくることになる。

8) 知っている人への敬語行動よりも知らない人への敬語行動の方が丁寧である。——「面接調査」の場面を顔見知りの人を相手にしたものとするのでないものに分けてみた結果である。敬語行動は親しい人へはあまり丁寧にならない、ということの裏返しである。親疎では疎の方に結び付くのが敬語行動であり、丁寧な敬語行動は一つの隔ての表明である。

9) 同じ事態を現す敬語行動が相手によって変わる変わりぐあいは、平均して3通りである。地域的には、東から西へ移るに従って使い分けが細くなる。——これは「全国調査I」の結果である。5種類の相手に対して何通りで答えるかの結果が上の結論である。

10) 敬語行動の場合、性別が社会的要因の中で最も効いている。年齢は敬語行動を規定する要因としては最も効いていない。——女は男より、年齢の高い者は低い者より、階層は高い者が低い者よりそれぞれ丁寧である。

11) 男の方が場面による使い分けをよくするが、女はいつも丁寧な敬語形式を使い、場面による使い分けをしなない傾向がある。——使い分けについては、年齢は30代が最も使い分けをよくする。学歴・階層とも高い方が使い分けをよくしている。

12) 敬語形式についての知識は学歴によって左右される。性別によってはほとんど左右されない。——言うまでもなく、学歴の高い方が知識は高い。なお、年齢は低いほど、階層は高いほど知識が高い。

13) 敬語についての意見は年齢で大きく開く。——年齢が大きく効いてい

るのは、今の敬語と戦前の敬語とどちらがいいかに対して、高い方が戦前に、若い方が今に傾いているのと、高齢の者が目上の者には家族のみでも敬語を使うべきだ、としている点である。

14) 一般に、丁寧な敬語形式の方を好む。——同じ「丁寧な敬語形式を好む」といっても、自分が言うという立場の方が、第三者として観察しているという立場よりも丁寧なものを支持する率が高くなっている。

15) 方言形式を含んだ敬語行動は自らも発することを好まないし、また他人から受けることも好まない。——同一の内容を言うのに、方言形式よりも標準語形式の方を丁寧と考える傾向があるようである。

16) 一般に丁寧な敬語行動を支持する者は、実際にも敬語行動は丁寧である。——なお、ある言い方が適当であるか不適当であるかの判定では、不適当とした者の方が丁寧な敬語行動をしているようである。

17) 女は男に対して、若い人は老人に対して、下層の人は上層の人に対して、それぞれ丁寧に言うべきであると意識されている。——これは一つはそう期待されている、ということであろう。

18) その場合、話し手と聞き手との間の敬語行動を最も強く規定するのは階層であるべきであると一般には考えられている。——このとき調査した、他の性・年齢を合わせてみると、階層の次は年齢、性の順になる。

19) 敬語行動に対する判断（敬語意識）では、性の要因は効かない。——この点で敬語行動の場合と逆である。あとの年齢・学歴・階層は、分析の仕方や場合によって違って出るので、どの影響が強いかは決定しがたい。

20) 官庁や会社など事業所で、部外の人に対して、部内の上長について言うとき、丁寧な敬語形式を使うべきでないという「これからの敬語」の基準は一般にはかなりの心理的抵抗を感じさせるものであるようである。——山本課長の留守中にかかってきた電話への女子社員のことば「課長の山本でございますね」「山本は外へ出ておりますが」「帰ると思います」と言っているのはすべて「これからの敬語」で正しいとされている言い方であるが、これに問題を感じる人が多いようである。

21) いわゆる「丁寧語」の「お」のつけ過ぎは、抽象的に意見を述べると

きはともかく、実際の対話を聞くときは、それほどの抵抗を感じない。——「人参」「眼鏡」などに「お」をつけるのを例示して、このように「お」をつけるのがいいかどうかを聞くと、つけない方がいい、という意見は全体で65%もあるが、実際に「お」を大いにつけた会話を聞かせて抵抗を感じたかどうかをみると、あまり気にしないようで、最大でも6%の人がおかしいとただけである。

22) 自分の親族について言うとき、実際の敬語行動では相当丁寧な敬語形式を使うにもかかわらず、あまり丁寧な敬語形式は使うべきでないという意識は強い。——自分の父の「言う」という動作に対して、「言われました」「おっしゃいました」と言うとした人が22%もいるのに対して、「お父さんは今年ちょっと病気をなさいましたが」を変だとしている人も49%ぐらいいる。このことをこのようにまとめたのである。

23) 一般に若い人の敬語行動については寛大である。——席をゆずられた人が「いいよ、いいよ、次で降りるから」といったようなことばについて、男20～30代の人が10代の人に言ったのは乱暴だから不適當というのは56%もいるのに対して、逆に10代から20～30代の人へのことばでは51%とかえって少ないのは、子どもなら仕方がない、という甘やかしの気持ちがあるようである。

24) 自分は丁寧な行動をしているつもりだと答える者は、敬語行動でも丁寧な敬語形式を使う傾向がある。——これはスライドで場面を見せ、このよくなとき自分ならどういう行動をするか（たとえば、目上の人に席をゆずるか否か）、という一つのパーソナリティ・テストを試みた結果である。これは、言語には全く関係ない行動面での丁寧さを調べて、その人の敬語行動を結びつけたものである。

25) リジッドなパーソナリティの者は敬語の使い分けが下手な傾向がある。——敬語の使い分けは状況に応じて敬語の丁寧さを切り替えるのであって、柔軟な態度が大切であることを示すものである。

以上が前回調査の主な結果であった。今回の調査ではすべてが取り上げられているわけではないので、一部は追試が不可能ではあるが、可能なものについては前回の結果と比較することになる。この結果は 3.2. 「結果の概要」、4.2.

42 2. 前回調査の概要

「結果の概要」, 6. 「継続調査の結果(1)」, 7. 「継続調査の結果(2)」, 8. 「パネル調査の結果」, 9.1. 「調査の結論」などのところで述べる予定である。

3. 継続調査の概要

3.1. 目的と方法

1.1. 「目的と意義」で既に述べたことであるが、われわれは昭和47年度に愛知県岡崎市で敬語と敬語意識に関する実態調査を行った。これは、昭和28年度に同じ岡崎市で実施された調査結果と比較対照することにより、同地での約20年間の言語および言語使用の変化・変遷の姿を明らかにしたい、ということで企画されたものである。

この調査での比較の方向には2通りの方法が用いられている。一つは岡崎市という地域社会全体について20年間の変化をみるためのものである。これを「継続調査」による比較と呼ぶことにする。もう一つは次の4.「パネル調査の概要」で述べる「パネル調査」による比較である。いずれの場合も、20年の間隔を置いた2回の調査結果の比較ということであるが、1回だけの調査では把握にくい言語使用の変容をみるための不可欠な手段だといえよう。

継続調査は地域社会全体の比較を行うための調査であるから、前回調査同様サンプリングによって、地域社会をうまく代表するように被調査者を抽出して調査を行った。また、比較というからには、一部の項目を除き、前回調査と同じ調査票で調査を行ったことは言うまでもない。

なお、調査の手順としては、あらかじめ郵送しておいた自記式の『社会生活調査票』の回収を済ませた後に、『サーヴェイ調査票』に基づいて個別面接調査を行った。

調査資料はパンチカード化し、国立国語研究所設置の電子計算機により集計作業を行った。資料の整理にあたっては、大部分の項目は被調査者の回答をいくつかのカテゴリーに分類してそのまま入力したわけであるが、次のものだけ

は別基準での事前整理を行った。

それは、一定の場面・状況に直面した場合に被調査者自身ならどう言うかを具体的に尋ねた項目である（『サーヴェイ調査票』の101～115問）。これについては、各人の回答——言語形式を、5. 「敬語の段階づけとその結果」で述べる基準による丁寧さの程度の観点から、3段階および5段階に区分された判定結果を入力データとして以降の分析を行っている。なお、各場面での被調査者ひとりひとりの具体的な回答については巻末の「反応文一覧」を参照されたい。

3.2. 結果の概要

継続調査の個々の結果については 6.「継続調査の結果(1)」と 7.「継続調査の結果(2)」とで詳しく述べるが、ここでは主要な結果だけを示しておく。

3.2.1. 場面の丁寧さ

設定された場面の数は前回は13、今回は15場面であるが、6.1.「場面と敬語段階」では前回の分析対象となった12場面について述べられている。

この12場面に対する被調査者全体の平均の丁寧さの順位は次のとおりである——配列は今回調査での丁寧さの高い方から。

順位		場面
今回	前回	略称 場面・事態
1	1	「医者」(医者に往診を頼む)
2	3	「荷物預け」(買いつけの店で荷物を預ける)
3	4	「電報用紙」(電報局で電報用紙をもらう)
4	2	「傘忘れ」(乗り物で傘を忘れて降りて行きかけた人に注意してやる)
5	6	「議事堂」(東京で国会議事堂に行く道を尋ねる)
6	5	「席ゆずられ」(乗り物で席をゆずられて断わる)
7	9	「電灯料」(間違って2度電灯料を取りに来た集金人にそのことを言う)
8	7	「先生」(小学校時代の恩師に自分の子どものことについて答える)
9	8	「傘貸し」(少し知っている人になにか雨のとき傘を貸す)
10	11	「道教え」(知らない旅行者に道を尋ねられて教える)

11 10 「おつり」(買いつけの店でもらったおつりが間違っていることを言う)

12 12 「魚つり」(魚つりの少年に釣れるかどうかを尋ねる)

なお、12位の「魚つり」の場面は前回調査の「物売り」(物売りの少年にその父親のことを尋ねる)に代って用いられたものであり、厳密な意味では比較しえないものであることを断っておく。

以下、この12場面について 6.1.「場面と敬語段階」で述べられた結果を中心に箇条書きの形で示す。

1) 上記の12場面での丁寧さの順位は前回と今回とでよく似ており(順位相関係数0.958)、ともに発話者が心理的に弱い立場に立つときの言語形式はより丁寧であり、逆に立場の強いときは乱暴になるという傾向がある。

2) 12場面全体の平均の丁寧さ段階は前回と今回とではあまり差がない。

3) より丁寧な場面とより乱暴な場面とについて2回の調査結果を比べると(図6-2)、今回の方が丁寧な場面ではより丁寧に、乱暴な場面ではより乱暴な言語形式が多くみられるようになっている。

したがって、この地域社会では、どの場面で丁寧に言うかどうかの判断基準はこの20年間でほとんど変化はないが、使い分けに関しては今回の方がうまくなったといえる。

4) 被調査者の性別でみると、すべての場面で女の方が男よりも丁寧な敬語形式を用いている(図6-5)。これは前回調査で指摘されたことでもあり、他の調査結果とも一致する現象でもある。

5) 特に性差の大きい場面は、「医者」、「荷物預け」、「電灯料」、「おつり」などであり、顔見知りの店や集金人などには女は男よりもより丁寧である。また、「傘貸し」や「傘忘れ」のように、少し知っている人また知らない人へある種の恩恵を施す場面でも同様である。

6) 反対に性差の少ないものは、「議事堂」、「席ゆずられ」、「先生」などやや緊張を要する場面である。

この5)、6)の結果だけでは早断はできないが、男の方が場面による使い分

けの程度が大きいと考えることができよう。

7) 年齢別では全体としては高年齢層の方が丁寧なことば使いをしているが、「電報用紙」と「電灯料」の2場面は最も若い10代後半が一番丁寧である。この両場面の相手がお役所的であることが関係しているのであろうか(図6-8)。

8) 反対に若い人が顕著に乱暴だった場面は「魚つり」であり、「席ゆずられ」にもこの傾向がみられる。これらの場面の話し相手が比較的低年齢だということからみて、若い人は若い人に対して乱暴な言語形式を用いるといえるようである。つまり、親しみの間接的表現だと考えられる。

9) 年齢と敬語の使い分けという観点でみると、20代と30代とが最もうまく、この年代から離れるにしたがって使い分けない人が多くなっている。

10) 学歴別では、全体的に学歴が高いほど丁寧であり、またこの層は場面による使い分けをより多く行っている(図6-9)。なお、この傾向は前回調査と全く同じである。

11) 性、年齢、学歴の3属性(要因)のうちでは、丁寧さの程度は性別で最も大きく異なっている。次いで、学歴別で差がある。

12) ただし、3要因間のクロスということを見ると、性、性×学歴、性×年齢、学歴の順に丁寧さを決定する要因となっている(表7-2)。

13) 性×学歴でみれば、男女とも学歴の上昇につれてより丁寧さが増すが、その差は男に著しい。つまり、男は学歴によって丁寧さの程度が大きく異なっている(図7-2, 図7-3)。

14) また、性×年齢では男女ともに年齢が高くなるほど丁寧になるようであるが、その傾向は女の方でよりはっきりしている(表7-1)。

3.2.2. 特定の敬語形式

上記の結果は丁寧さの程度に関する場面間の比較であったが、ここでは同じ場面内または類似場面での語形の選択のされ方についてまとめる。

1) 被調査者の反応文の中で、否定形を含むものとそうでないものとを比べると、前回調査同様、否定表現形式を含む方がより丁寧である(表6-3～表6-

5ほか)。

2) 否定形を用いる反応の割合の多さと場面間の丁寧さの順位とはかなりの程度一致している(順位相関係数0.714)。したがって、比較的丁寧な場面には言語形式の肯定形・否定形の別が問題になることが多いといえる(表6-22)。なお、これらの場面は図7-5で示された数量化理論第Ⅲ類による場面間の分類でも近い位置にかたまっていることが注目される。

3) 否定形の多さと年齢との関係でみれば、「医者」のような場面では差がみられないが、「おつり」では若い年代での否定形が非常に少なくなっている。この結果は前回調査とも一致しており、若い人は相手が間違えたような場合には遠まわしにはなく直接的表現でそれを指摘することが多いといえる。

4) この否定形・肯定形と関係することであるが、ものごとを言うのに質問の形を借りるか断定形で述べるかといったことも丁寧さの程度と関係している。言うまでもなく、質問形による表現の方が丁寧さの段階が高くなっている(表6-16～表6-17)。

5) 質問を示す終助詞の現れ方をみると、「か」、「かい」は男に多く、「の」は女に多い。また、文末に終助詞を用いずにイントネーションだけで質問を表すのは、性別では女、学歴では高い方に多い(表6-20)。

6) 依頼表現で用いられた語形についてみると、「いただく」、「願う」、「下さる」、「貰う」の順に丁寧さの程度が低くなっている。この順は前回調査とも一致している。

7) このうち最も丁寧な語形「いただく」は場面としてより丁寧なもので多く現れる(表6-3～表6-6、表6-12)。

8) また、「いただく」に関していえば、前回調査と今回調査とはその使い方に若干の変化がみられている。すなわち、否定形と結びつく「いただけない」の形は前回より大幅に減少し、肯定形の「いただく」が若干増えている(表6-3)。

9) 尊敬形式の「お……になる」、「お……です」、「……られる」についてみると、前回も今回もこの順で丁寧であるが、最も丁寧な「お……になる」を使う人の割合は今回かなり減少している(表6-8)。この点では20年前よりも敬語

形式は簡単化したともいえる。

10) 「おそれいます」、「すみません」、「ちょっと」といった形での呼びかけも、この順で丁寧さに影響を与えている。このうち、「ちょっと」という呼びかけは丁寧さの程度への寄与は他の二つほどではないが、それでもいきなり用件に入る発話よりは、丁寧さの段階が高いといえる(表6-7, 表6-13~表6-14)。

11) 礼を言うときの「ありがとう」と「すみません」とについてみると、前者よりも後者の有無の方が全体の丁寧さに影響を与えている(表6-14)。この「すみません」は現在の言語生活では「ありがとう」の意味をも付加しているといえる。

12) 自称代名詞の使い方では前回も今回もほとんど違いはみられないが、「ぼく」と「自分」とが減少したように思われる。また、この「ぼく」を使う人の割合は年齢の上昇につれて減少している(表6-9)。

13) 一方、二人称代名詞についてみると、その選択と丁寧さにはそれほど差は認められていない。これは使用場面が「魚つり」(前回は「物売り」)であったことと係りがある。つまり、呼びかけの対象が小さな男の子であり、全場面中最も乱暴であったからである(表6-19)。

14) しかし、用いられた代名詞の語形そのものについてみると、前回は「あなた」と「あんた」が半数近くを占めていたのに対し今回はこれが減少し、「ぼく」が著しく増えている。特に「ぼく」の使用は女に多くなっているが、女は一人称としてこの語を使わないので二人称へ容易に転換しうるからであろう。

15) 前回調査でも指摘されたことであるが、方言形を含むものとそうでないものとは、含まない方がより丁寧である。また、2回の調査で比較すると予想どおり方言形の割合は今回の方が低くなっている(表6-23~表6-24)。

16) 漢語の使用・非使用に関しても、前回同様に漢語を使う方が丁寧であるが、今回はその差が小さくなっている(表6-25)。

17) 理由を示す助詞では、「ので」、「から」、「で」の順に丁寧な発話の文に含まれている(表6-26~表6-27)。

18) 言語形式そのものではないが、反応文の長さや丁寧さについてみる

と、前回同様、今回も長い反応文のものほど丁寧である。ただし、前回に比べて、より丁寧な場面では今回の方がより長く、反対に乱暴な場面ではより短くなっている（表6-29）。

以下、上記の面接調査とは異なるが中学生と高校生のみを対象として行った「スライド調査」（6.4.「スライド調査」参照）での主な結果を示しておく。なお、「スライド調査」は種々の場面をスライドで示すとともに、その場面での会話を録音で聞かせて、「自分ならこう言う」、「こう感じる」という反応を求めたものである。

19) 「こう言う」ということで選ばれた表現形式を全場面についてみると、この20年間に丁寧でない語形の選択が多くなっている（表6-80）。

20) 一方、「どう感じる」かという会話文の適切さを尋ねた場合では丁寧な語形の選択率が高くなっている。したがって、最近の若者は聞けばこの方が適切だと感じて自分はそのような言い方ができないと思っているといえる。自分の言語生活を客観的に判断していることの現れだろうか。

21) 選択語形の丁寧さを性別で比較すると、前は女の方が一般に丁寧であったのに対して、今回は項目による若干の違いはあるが全般的にはほとんど差がなくなっている。

22) 社長と社員、先生と生徒といった地位の異なる人物どうしの会話では、前は両者の差の小さいものが支持されていたが、今回は差の大きい方の会話が適切だと意識されている。ただし、社員が女の場合は、差の小さい会話への支持率が増加している（表6-80）。

以上では12場面での丁寧さの程度と敬語使用の側面についてやや詳しく述べてきたが、以下は項目ごとに結果が異なる面が大きいので特に目立つ特徴のみを記すことにする。

3.2.3. 敬語意識

1) 短文中の敬語形式を指摘させるという形で被調査者の敬語に対する知識の程度（知識点）をみると、今回は前回よりも大幅に「知識点」が低下してい

る(表6-35)。とりわけ顕著な変化は、前回に比べて今回は美化語の「お」や丁寧語の「ます」を敬語形式だと意識しない人が増えたことである。

2) 「知識点」という観点からの敬語の知識の高低とその人の敬語形式の丁寧さとはほとんど関係はみられない(表7-7)。

3) 「知識点」の高低には当然のことながら学歴の要因が最も大きく関与しているが、前回に比べて今回はやや差が縮まっている(表6-35, 表7-5)。

4) 「目上に対して敬語がどの程度使えるか」ということでは、前回に比べて今回は「うまく使える」と「うまく使えない」といった両極の回答が減少し、中間的な回答が増加している(表6-37)。この20年間に自分の敬語使用に対する客観的な見方が確立したためであろうか。

5) 「家族どうして敬語を使うか否か」という点では「使わない人」が今回大幅に増加している(表6-39)。また、使わない人は使う人に比べて敬語の知識は高く、敬語形式の面では丁寧な人が多い(表7-9)。

6) これに関係する項目の「家でも敬語を使うべきか否か」についてみると、前回は多数意見であった「使うべきだ」が減少し、「使わなくてもいい」が過半数になっている(表6-43)。なお、5)と6)との回答には極めて高い相関がみられる(表6-44)。

7) 「人称代名詞の使い分けの是非」に関しては、前回既に多数意見であった肯定派の割合が今回さらに増加している(表6-40)。

8) 美化語「お」の使用の仕方に対する意見でも、前回圧倒的であった「つけない方がいい」とする意見の支持率が著しく高くなっている(表6-41)。これは1)で述べたことと関連があるといえよう。

9) 昔の敬語と今の敬語への支持では、全体では2回の調査でほとんど差がみられない。しかし、性別でみると、前回は男が昔、女が今をより多く支持していたのが今回は逆になっている(表6-42)。また、年齢別では前回20代にあった意見の境界域が今回は40代に移行している(図6-13)。

10) 全般的にいえば、以上の項目に対する意識・意見と実際の敬語行動や敬語に対する知識の程度とはあまり強い関係はないといえる(表7-11など)。

3.2.4. 社会生活意識

1) 新聞への接触についてみれば、全般的には前回も今回もあまり差はみられない(表6-48～表6-50)。

2) 被調査者の行動範囲・交際範囲についてみると、性別・年齢別・学歴別の違いにかかわらず、前回よりも今回の方が広がっている(表6-51～表6-56, 表7-23)。つまり、この20年間に一様に行動・交際の範囲が拡大したわけである。

3) 社会的態度では、「しきたり」(表6-71)を除いては、前回の保守的意見から今回は進歩的意見へと大きく変容している(表6-68～表6-72)。

4) この進歩的意見の持ち主の社会的属性をみると、性別では男、年齢別では若いほど、学歴別では高いほど多くなっている。特に年齢別で差が大きいといえる(表7-16)。

5) 社会的態度と敬語の丁寧さとの関係については、今回は進歩的意見の支持者ほど丁寧であったが、今回は逆の結果となっている。また、この意見の持ち主は、当然のことながら敬語に対する知識の程度も高いといえる(表7-17)。

6) また、社会的態度と敬語意識とには、進歩的意見の支持者は「家の中では敬語は使わなくてもいい」とか「今の敬語がいい」などの意見が多いといった現象もみられている(表7-18～表7-20)。

7) 階層帰属意識は前回より「中の下」と「下」が減少し、「中の中」が増加し、全体の9割弱が中流意識を抱くようになっている。

8) また、階層帰属を決定する要因としては、全体では職業、学歴、家柄、財産、名声、収入の順となっているが、男は名声を、女は家柄を重視する傾向がある。

4. パネル調査の概要

4.1. パネル調査の意義

パネル調査はいうまでもなく、ある一定期間をおいて再び同一の被調査者に対して調査を行う、いわゆる継断的調査法の一種である。「継続調査」が社会における言語現象あるいは言語意識の継続的比較を目的としているのに対して、パネル調査は被調査者個人の追跡調査ということができよう。したがって、ここで出される結果は社会を代表した意見ではなく、被調査者個人の意見の変化を捉えたものということになる。しかしながら、前回の調査と今回の調査の間には20年という年月が経過していることから、完全な追跡調査とはいえない面がある。パネルデータの分析のためには、もう少し短い期間内に調査を行うのが普通であろう。とはいっても、言語生活や言語意識について、成人を対象とした数少ない調査ということで、この調査の結果は継続調査の結果同様有用なものといえるであろう。

なお、調査の実施方法およびこの調査で得られた被調査者の属性別構成については1.「調査の目的・方法」を参照されたい。パネル調査の結果については8.「パネル調査の結果」に詳しいが、ここでは以下にその概略を述べることにしたい。

4.2. 結果の概要

4.2.1. 場面と敬語段階

1) 場面の丁寧さ

各場面の丁寧さの順位でみると、前回と今回でたいへんよく一致している（順位相関係数0.96）（表8-1）。また、継続調査の結果ともよく一致している。前回の調査から20年経過した今回でも場面の丁寧さの順位には大きな変化がおきなかったことになる。性別でみると、女は男よりすべての場面で丁寧になっている（図8-1, 図8-2）。しかし、前回との比較では女は今回の方が乱暴になっている点が目立っている（表8-11）。さらに、年齢の高い方また学歴の高い方が丁寧であるという傾向が多く場面で見られる（図8-4, 図8-5）。

各場面ごとの丁寧さを平均段階点により比較すると、統計的に有意な差とはいえないが、継続調査同様、前回に比べて丁寧な場面ではより丁寧に、乱暴な場面ではより乱暴にという傾向が見られる（表8-4）。この点からいえば、使い分けがうまくなったといえよう。

2) 合計段階点・適応点

合計段階点の平均値は前回よりも値が大きくなっている。この点からも全体として幾分乱暴になったことがわかる。性別では女の方が丁寧であり、年齢では高齢者の方がやや丁寧な傾向がある。また、学歴の高い方が丁寧になっているが、高学歴以外は前回より今回の方が乱暴になっている（表8-12）。

適応点は全体として若干上がったが、属性別には顕著な差は見られない。前回差のみられた性でも、女が前回に比べて上昇したため今回調査では差がなくなっている。ただし、前回差はみられなかったが、年齢の若い方が若干ではあるが適応点が高くなっている点が注目される（表8-13）。

4.2.2. 敬語意識

1) 敬語の知識

前回よりも今回の方が、美化語「お」や丁寧語「ます」を敬語と意識しない人が増加している（表8-15、表8-16）。今後ますますこの傾向は著しくなることが予想される。

6短文の点数を総合した「知識点」では、継続調査での傾向と同様に、若干点数が低くなっている（表8-18）。したがって、社会全体としてはこの20年間に、ここでいう意味での敬語の知識は低下していることになる。ただし、この傾向は社会的要因によってかなり異っている。性別では、男はやや点数が上昇しているのに対して、女は大幅に低下している。また、学歴では中学歴の下降と高学歴の上昇といった現象がみられる。一方、年齢では若い方は点数が低くなっているが、高齢者（60代以上）はほとんど変化していない（図8-14）。

2) 敬語使用意識

「目上に対する敬語使用」では、前回に対して今回は敬語が使える方向に変化したといえる（表8-19）。属性別では、男と低学歴にその傾向が著しい（表8-20）。

「家族どうしでの敬語使用」では、継続調査同様「使わない」が増加している（表8-21）。したがって、社会全体として、「家族に対しては敬語を使わない」という意識が強くなっているということになる（表8-22）。

3) 敬語に対する意見

人称代名詞の使い分けに対する意見はこの20年間であまり変化しなかった。

美化語「お」の使用に関しては、継続調査同様「お」をつけない方向に変化している（表8-23）。今後も「おをつける」という意見は、減少するものと予想される。

昔の敬語と今の敬語の使い方の比較では、「昔の方がいい」という意見が増えているが、「無回答」や「中間回答」を除いて考えると前回と今回とではほとんど差がみられない（表8-27）。

家の中での敬語使用の必要性に関しては前回とは逆に、「使わなくてもいい」という意見が増えている（表8-30）。この意見を属性別にみると、性差が縮まり、学歴差が増大しているのがわかる（表8-31）。

「敬語を使うと話が長くなる」と、敬語の使用を減らす方向へバイアスをかけた設問では、「今のままでいい」という意見が増えている他は前回と変わらない（表8-32）。

「敬語を使うと上品に聞こえる」というように、前問とは逆に敬語を増やす方向へバイアスをかけた設問では、「今のままでいい」という意見が増え、他の意見は減少している（表8-34）。属性別にみると、「盛んに使うべし」は高年齢層に、「今のままでいい」は低年齢層に多くなっている。

4.2.3. 社会生活意識

1) 新聞との接触

前日も今回も「毎日読む」が70%を占め、ほぼ同じ傾向を示しているが、購読部数では、複数の新聞を読む人の率が今回減っている（表8-36、表8-37）。

2) 交際

公式の会合への出席の程度は、「ふつう」が減り、「出席するほう」、「出席しないほう」が増えた結果、どの回答も3割ほどになっている（表8-38）。「出席するほう」は男に多く、「出席しないほう」は女に多い。

宴会・旅行の好き嫌いに関しては、前回に比べて「好き」な方へ変化している（表8-39）。

自動車の中での話しかけの程度は、「黙っているほう」の率が大半を占めてはいるが、前回に比べて「話しかける」傾向の増加が目立っている（表8-40）。

交際範囲では前回とあまり差がみられなかった（表8-41）。

3) 社会意識

先生が何か悪いことをしたという話を子どもに聞かれたとき、「ほんとうだ」と答えるという人の割合は前回よりも増加している（表8-42）。前回も今回も「ほんとうだ」という意見は男に多く、「そんなことはない」という意見は女に

多い点が目立っている。

メンツをつぶされないように注意しろと教えるか否かについては、「注意しろ」という意見が減少し、「こだわるな」という意見が増加する傾向にある(表8-43)。

世間のしきたりにしたがるべきかどうかについては、「従うほうがよい」という意見が増え、「おし通すべきだ」という意見が減っている(表8-44)。前回も今回も「従うほうがよい」という意見は女に多く、「おし通すべきだ」という意見は男に多くなっている。

総理大臣の伊勢神宮参拝の是非については、「本人の自由」とする意見の増加傾向がはっきりとあらわれている(表8-45)。

以上の社会意識に関する項目では伝統的意見の減少傾向がみられるが、「世間のしきたり」に関しては、逆に伝統的意見の増加傾向があらわれている点が注目されよう。

5. 敬語の段階づけとその結果

5.1. 段階づけの意義

われわれは、何らかの発話を聞いたとき、その発話はどの程度の丁寧さであるかを瞬間的に判断し、それに対して自分の発話の丁寧さを決める。その決めるときの基準は何であろうか。まず、このことを考えることから出発する。

その判定の基準には、まずは言語形式を手がかりとして使うであろう。もちろん、それが語られる場面や話題が大いに関係していて、この場面としては丁寧すぎるとか、この相手に言うことばとしては乱暴すぎる、といった判断もある。しかし、その判断の基礎としては言語形式による丁寧さということが存在するであろう。逆に言えば、敬語は、敬意を言語形式の形であらわしたものである。

この敬意は、プラスだけでなく、マイナスの方向にもあるとすると、これは一つの線状をなして、ほとんど無限のプラスから、ほとんど無限のマイナスまで、無限の段階が考えられる。

このように、段階は無限にあるけれども、言語形式はその性質上有限であるから、適当にこの段階からこの段階まではこの言語形式、というようにまとめなければならない。つまり、敬意の段階上の微細な差は、これをあらわすべき言語形式上の制約から示せない。こうして、言語形式の方が、ある段階とその上または下の段階との差が、敬意の段階よりも大きく、したがって、判別がしやすいと考えられる。

この考え方から、実際に作られた言語形式を丁寧さの段階によって並べたことを試みた結果の報告が、野元菊雄「敬語の段階」(『日本語教育』35号、昭和53年)である。これは「傘忘れ」の場面について、「継続調査」「パネル調査」の両者を合わせた583の言語形式を、後に示す手続きによってまず丁寧さの点

から3段階に分けた。このうち、真ん中の丁寧さの段階は人数が多いのでさらに三つの段階に分けた。結果は、段階1（最も丁寧な段階）は102人、段階2は418人、段階3（最も乱暴な段階）は63人となった。段階2をさらに上中下三つに分けると、上は34人、中は182人、下は202人となった。ただし、これはその後多少の調整をしているので、最終段階の数字ではないことを断わっておかなければならない。

多くの場面において中間の段階2が非常に多い。これではやや荒いという考え方もあるので、この中間をさらに三つに分けるということを試みることにした。ただし理論的には、前回調査との関係もあるので、3段階の基準はそのままとして、最初から5段階に分けるという考え方を取らず、3段階のうちの段階2だけをさらに三つに分けることとしたのである。

以上の段階1の102人の発話の丁寧さを順位に並べることができるかどうかを次に試みた。この102人の発した言語形式はすべて異なるというわけではない。「モシモシ傘ヲオ忘レニナリマシタヨ」が5人、「傘ヲオ忘レニナリマシタヨ」が2人あったので、言語形式の異なり数としては、すべてで97通りあったことになる。

この97通りは一つの丁寧さという点で順に並べることができた。しかし、この順は、もしもう一度繰り返したら決して同じにはならないであろう。ある言語形式と、ある言語形式と、どちらが丁寧であるか迷う場合がかなりあったからである。

このように考えると、例えば段階1と段階2の上との間には、その境界域にある言語形式の場合に確かに迷う場合もあろうが、大まかに三つまたは五つに分けたとき、そのそれぞれの境界の上下に位置する少数を除いては、判定に大きな狂いはないと予想される。すなわちこのような段階をまず手はじめとして設定し、丁寧さの指標として使うことは差し支えないのではないかと考える。

さて、この丁寧さの段階別の基準は、本来は、その地域社会において立てられるべきものであるという考え方があろう。あるいは、調査場面で、話し相手とされているような人によって段階を定めるべきである、とも考えられる。例えば、「先生」の場面については退職した元校長に判定を求めるべきか、とい

うことである。

今回はこれらのことはしなかった。一つは場面ごとにこの比較をするという目的のためには、同じ基準での判定が必要であるためである。また一つには、費用の関係で、長時間を要する岡崎市での調査が不可能なためでもある。この第二の点では、前の調査の報告書 162 ページ以下に述べてあるように、東京の一人の調査者の判定で大体代用できると考えた。また、今回の場合は、判定者は前回の判定者と同一人であり、前回の判定結果を参照し、思い返しながら判定した。もちろん20年以上の間隔があるので、同じ考えであるという保証はないのであるが、別人がするよりはずっといいであろう。

5.2. 段階づけの方法

前回と同様、得られた反応文の文字化とカード化から出発する。これらの調査場面はすべて話しことばの場面であるので、文字化されたカードを判定者は別の人に読み上げてもらって判定した。

この判定の基準としては、前回の報告書、170ページ以下にあげてある。今回もそれにしたがったので、まずこれをそのままここに挙げる。

段階 1: (……デ) ゴザイマス, (……シテ) イタダキマス, (……シテ) クダサイマセ, イラシテクダサイ, イラッシャイマセ, のように、大体二つの高い敬語形式の結合から成るもの。およびそれより丁寧な形。

段階 2: ……デス, ……マス, (……シテ) クダサイ, イラッシャイ, のように、「です・ます調」や一つの高い敬語形式から成るもの。

段階 3: ……ダ, ……ヨ, ……シテ (依頼), ……シロ, 言い捨て (例えば「電報用紙!」), のように、高い敬語形式がないとみられるもの。およびそれらよりさらに乱暴な形。……シテクレ, ……シテモラオウ, のように簡単な頼む言い方や、オクレ, オイデ, …… (シ) ナサイ, のように目下などにしか使わない言語形式。

以上の基準で、文末部に注目し、その他の部分をも参考にしながら段階づけを行った。

「3段階」方式による段階のつけ方は以上のようなものであるが、「5段階」のつけ方について次に述べる。

最初は、先にも述べたように、多くの場面で最も人数の多い「3段階」の方式の段階2を上・中・下の三つに分けるという方針をとったが、後にそれを改めて、新しい基準を作って全部を五つの段階に分けることにした。その新しい基準は次のとおりである。

段階 1: 「(～デ) ゴザイマス」のあるもの。ただし、「ゴザイマス」があっても、「アリガトウゴザイマス」のように習慣化したものはとらない。また

「ゴザイマス」があっても他に「デス」「マス」がなくて乱暴と思われるものは段階2以下とする。

「デス」と「マス」とが重なってあるもの。

「オソレイリマスガ」「スミマセンガ」につづけて「イタダク+マス」などがあるもの。

「オ～ニナル」に「デス」「マス」「イタダク」「イラッシャル」などが続くもの。

「オ～デハナイデスカ」「オ～クダサイマセンカ」など。

段階2:「オソレイリマスガ」「スミマセンガ」などなくて「イタダク+マス」などがあるもの。ただし、25モーラ以下のものは段階3とする。なお、段階1およびここでいう「オソレイリマスガ」は「オ～シマスガ」を含む。

「オソレイリマスガ」に「クダサル」「ネガウ」「モラウ」「ヨロシイ」などが続き、さらに「デス」「マス」がつくもの。また「スミマセン」に上のものについて「デス」「マス」がつくもの。ただし、この場合は30モーラ以下は段階3。

「～テオ～ニナル」「～テオラレル」「～テイラッシャル」「～テイカレル」などに「デス」「マス」のつくもの。

「オ～ニナツテクダサイ」。ただし、他の点で丁寧なら段階1にする。

「～ナサッタ」「～レル・ラレル」に「デス」「マス」がついたもの。

「～テクダサイマセンカ」「マイリマス」「オ～イタス」など。

「モウシアゲマス」は他に丁寧なところがなければ段階3。

「ワタクシ」を使ったもの。

段階3:「スミマセン」に「クレル」「ホシイ」「モラウ」が続き、「デス」「マス」がつくもの。

「スミマセン」の次に「クダサイ」がつくもの。ただし、30モーラ以下は段階4。

「オ～シタ」「デス」「マス」が前にあって、「クダサイ」「イタダキマス」「オネガイシマス」「タノミマス」などがつくもの。

「オ～デス」「オ～マス」「オ～クダサイ」「オ～デキマスカ」「オ～ネガイ

マス」「イタシマス」など。

「デス」「マス」が1回でも、「～デ」「～ケド」「～カラ」「～ガ」があるもの。ただし、15モーラ以下の短いものは段階4。

「デス」「マス」が離れて二つ以上あるもので、他にプラスの材料のないもの。

「ヨロシイデシヨウカ」「ドチラデシヨウカ」など。

段階4:「デス」「マス」一つだけで、上の段階3以上に入らないもの。

「クダサイ」「チョウダイ」の他「デス」「マス」のないもの。

「デス」「マス」がなくても50モーラ以上のもの。

「スミマセン」だけで他のプラスの材料がないもの。

「ネガイタイ」「モライタイ」などで終わっていても、その前に「デス」「マス」があるもの。

「～ジャンイカシラ」「オ～ナサイ」「ヨカッタラドウゾ」など。

「レル・ラレル」「オ～」があり、「デス」「マス」のないもの。

段階5:「デス」「マス」のないもの。「～カシラ」「～シテ」「～ナサイ」があっても段階5。

「デス」「マス」が一つだけで、あと「ホシイ」などで終わるもの。

「スミマセンケド」「ワルイケド」などで始まっても「もらえる」などのところに「デス」「マス」のないもの。

大体以上の共通の基準によったほか、さらに場面ごとの規則をこれらに準じてきめた。ただし、以上のものは、基準であり、個々のケースにより多少の変動を認めたらうえて5段階に段階づけをした。

6. 継続調査の結果 (1)

6.1. 場面と敬語段階

6.1.1. 場面の丁寧さの順

まず、前回の調査で分析の対象とした、12場面について、今回との丁寧さの順位を比較してみよう。前回調査の段階づけは、3段階方式による段階づけしか行っていないので、ここでも当然3段階方式の方を使う。各場면을今回の調査結果で並べると表6-1のようになる。

この表によれば、前回調査で丁寧だった場面は今回も丁寧、乱暴だった場面は今回も乱暴であったことがわかる。丁寧さの順位からスピーアマンの順位相関係数を算出すると0.958となっており、非常に一致度が高いといえる。したがって、今回も、こちらが弱い立場に立っているときは丁寧になるし、強い立場に立つと乱暴になる、と概してはいえる。

平均段階点について比較するために図を描いてみると、図6-1のようになる。図6-2はこれを少し描き直したものである。図6-2では、場面の対応は無視して、前回と今回とのそれぞれの丁寧さの順位で並べてある。この二つの図とも、前回調査の点線は、丁

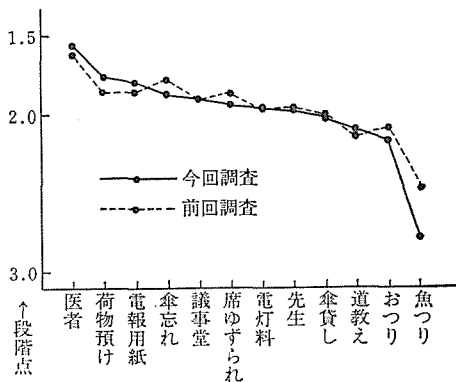


図 6-1 場面の丁寧さの比較 (全体)

表 6-1 場面の丁寧さの順位(3段階方式の高調査比較)

	今 回 調 査				前 回 調 査	
	段階1	段階2	段階3	計	順位	平均段階点 分散
医 者	194	187	19	400	1	1.608 0.3311
荷物預け	138	217	44	399	2	1.821 0.3161
電報用紙	90	297	10	397	3	1.824 0.1884
傘忘れ	94	265	39	398	4	1.762 0.3758
議事堂	52	334	12	398	5	1.916 0.1290
席ゆずられ	30	359	9	398	6	1.866 0.1620
電灯料	72	270	54	396	7	1.988 0.2947
先 生	25	364	11	400	8	1.947 0.1092
傘貸し	52	277	68	397	9	1.995 0.2931
道教え	11	332	49	392	10	2.129 0.1622
おつり	37	263	97	397	11	2.077 0.2884
魚つり	0	84	315	399	12	2.448 0.3159

丁寧な場面では今回調査の実線の方が上に、乱暴な場面では今回調査の実線の方が下にきている。このことからみると、今回の方が丁寧さの点では、使い分けがうまくなった、ということが出来る。20年の間における敬語の使い方の違いは、この点にまとめ得るのである。

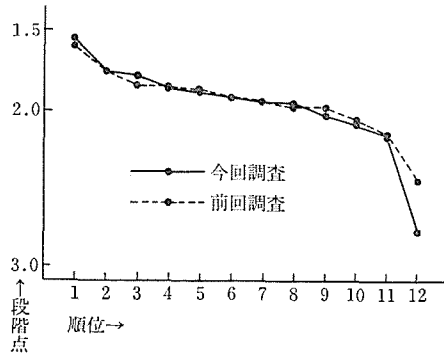


図 6-2 それぞれの順位による丁寧さの比較

今回調査では、丁寧さの順位が隣り合う場面間では、「医者」「荷物預け」、「おつり」「魚つり」の間に危険率1%水準、「先生」「傘貸し」の間に同5%水準で有意差があり、あとは有意差はみられない。

これを合計した全体の段階点は、それほど丁寧さには差がない。つまり、この地域社会では、20年間は特に違いは起こらなかった、と言っていい。

ここで一言しておくべきことは、今回調査の「魚つり」の場面が、前回調査とは大変違うことである。前回調査では、この場面名は「物売り」であった。前回では、いろいろな細かいものを売りに来た、見知らぬ男の子に、父親がいるかどうかを聞くとしたらどう言うか、という質問であった。今回は、その後の日本の社会ではこのような小さな子の物売りはほとんど見かけなくなったので、この場面は現実味がないと考えて、今回調査では、散歩の途中で、見知らぬ男の子が魚をつっているの、魚がつれるかどうかを聞く、という場面に改めたのである。

調査者側の予測としては、「物売り」のように弱い立場の方が、弱い立場にはない「魚つり」よりも乱暴なことばがあらわれるであろう、というのであった。しかし、結果は上に示したように、むしろ今回の「魚つり」の方が乱暴なことばを使っている。この20年間の移り変わりについては、また後に述べるが、以下では、多くの場合、この「魚つり」を「物売り」の代わりに使って考えてみることにする。

表 6-2 5段階方式による場面の丁寧さの順位

	5段階方式による段階点						平均段階点	分散	3段階方式による順位
	段階1	段階2	段階3	段階4	段階5	計			
医 者	32	159	141	48	20	400	2.662	0.9233	1
荷物預け	99	55	149	54	42	399	2.712	1.6037	2
席ゆすられ	33	100	219	38	8	398	2.719	0.6798	6
議事堂	38	108	185	55	12	398	2.736	0.8986	5
先 生	25	33	278	53	11	400	2.980	0.5746	8
電灯料	21	74	192	56	53	396	3.116	1.0623	7
傘忘れ	65	24	146	124	39	398	3.121	1.4027	4
電報用紙	5	85	151	146	10	397	3.179	0.7010	3
道教え	12	68	128	135	49	392	3.360	1.0107	10
傘貸し	39	18	117	147	76	397	3.511	0.7379	9
おつり	16	29	155	108	89	397	3.567	1.0815	11
魚つり	0	7	11	77	304	399	4.699	0.3715	12

次に、5段階方式によって丁寧さの順を出し、3段階による順と比較してみよう。これをまず、表6-2にまとめてみる。これは言うまでもなく、今回調査での比較である。すなわち、同じ反応文を別の観点から段階づけをした結果の比較である。

表6-2によると、二つの段階づけによる順位は、先の表6-1の方の二つの順位よりも一致度が低いようである。表6-2の方の順位相関係数は0.804である。表6-1の方の0.958よりは低いですが、係数としてはそれほど低い方ではない。上

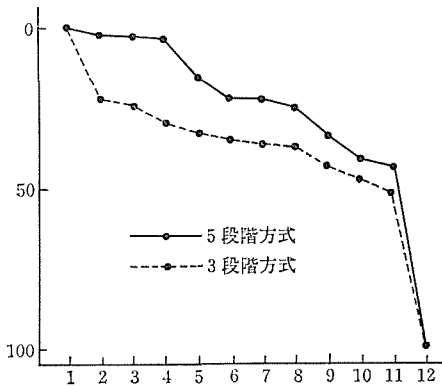


図 6-3 丁寧さの順の相対位置 (I)

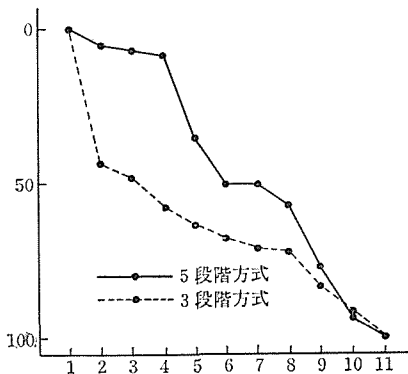


図 6-4 丁寧さの順の相対位置 (II)

位の1, 2位と下位の11, 12位は両方の段階づけとも同じであって、大筋としてはそう変わっていない、といえるであらう。

丁寧さの順位の隣り合う場面で、「議事堂」「先生」「おつり」「魚つり」の間は危険率1%水準、「先生」「電灯料」、「電報用紙」「道教え」、「道教え」「傘貸し」の間は同じく5%水準で有意差があり、その他の間には有意差はない。

5段階方式と3段階方式とでは比較しにくいので、一番丁寧な場面を0、一番乱暴な場面を100として、図6-3として示してみる。二つとも、それぞれの同じ場面が必ずしも同じ位置に示してあるわけではない。

図6-3では、一番乱暴な場面が一つ飛び抜けて低いために、その

他の位置がはっきりしない。そこで、この一つの場面を除いて、11の場面について、図6-3と同じようにして図6-4を作ってみた。

図6-3からも読みとれるが、図6-4で、3段階方式による段階づけの方が、丁寧さの隣の場面間の間隔がよく分布しているといえそうである。このことは、もし一番丁寧だった「医者」の場面を先の12位の場面を除いたように除くと、もっとはっきりするであろう。しかし、これはただ順位を並べたときのものであり、同じ場面についての比較ではないことを忘れてはならない。

いずれにしても、二つの方式による段階づけの結果は全く一致しているわけではないので、以下に、前回調査との比較のときは言うまでもなく3段階方式による結果を使うが、比較でないときでも、便宜上、時に応じて、両者による結果を使うこととする。

6.1.2. 社会的要因別の場面の丁寧さの順

次に、各場面について、社会的要因別に一部をみていくことにする。

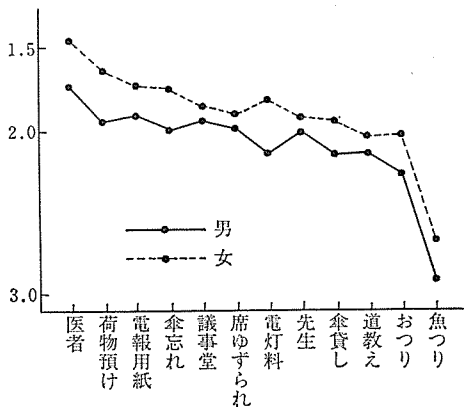


図6-5 場面の丁寧さの比較(性別)(3段階方式)

まず、性別について、表6-1、図6-1の、今回の丁寧な順に、性別による平均段階点を図6-5に示す。

この図6-5によれば、すべての場面で女が丁寧である。男女差(レンジ)の著しいものとしては「医者」を除けば、「荷物預け」「傘忘れ」「電灯料」「傘貸し」「おつり」などである。このうち、「荷物預け」「電灯料」「おつり」などは顔見知りの店の人や集金人である。このような人へは女は男に比べて丁寧になるのであろうか。「傘忘れ」「傘貸し」は少し知っている人、または知らない人へある恩恵を施す場面である。

逆に男女差の少ないものは、「議事堂」「席ゆずられ」「先生」「道教え」などで「席ゆずられ」を除けば、やや緊張を要する場面である。「席ゆずられ」も一定の緊張感のある場面ともいえよう。

全体の順との相関係数は男0.916, 女0.972で女の方が高く、全体への寄与が大きいと思われるが、これは、被調査者数で女の方が多くとも関係があると思われる。なお男女間の順位相関係数は0.825である。ここで順位というときは、同じ平均段階点の場合

は、分散の少ない方を上位とした。

図6-6は、図6-5での男女それぞれを1位から12位までに並べかえたものである。あまり大きな差はみられないが、それでも、丁寧な方、乱暴な方が男女差が大きくなり、中間は差が縮まっていることが示されている。

次に5段階方式で算出したものについて、図6-5と同じようにして図6-7を作ってみた。先に図6-5から男女差の大きかったものをあげたが、そのうち「傘貸し」はこの図6-7ではそれほど大きな差ではなかった。また、男女差の小さかったもので、図6-7でもそうであるものとしては「議事堂」と「道教え」とであって、この両場面が方向は

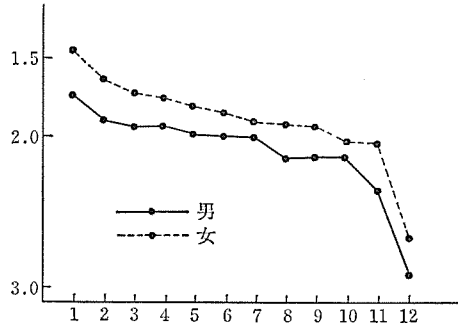


図 6-6 それぞれの順位による丁寧さの比較(性別)

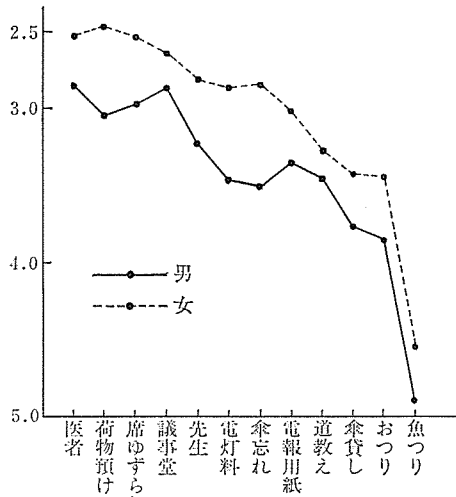


図 6-7 場面の丁寧さの比較(性別)(5段階方式)

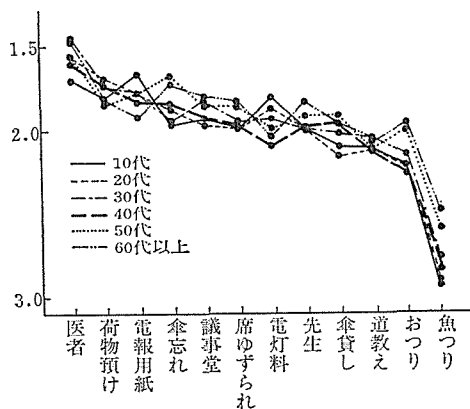


図 6-8 場面の丁寧さの比較(年齢別)

逆ではあるが、同じような場面であることは注目していいことと思われる。

図 6-5と同じようなものを年齢別について図 6-8として示す。図は多少複雑になっているが、この図から次のことがわかる。

まず、年齢差の比較的少ないものとしては、「荷物預け」「議事堂」「席ゆずられ」「先

生」「道教え」がある。性別のところでも「荷物預け」を除いて差が小さかった。「荷物預け」は性別ではむしろ差が大きいのものではあったが、これは女性にとってよく直面する場面であって、丁寧にしなければならないと考えているからであろう。

逆に年齢差の大きいものは、「医者」「電報用紙」「傘忘れ」「電灯料」「傘貸し」「おつり」「魚つり」である。

図 6-8の線は、「電報用紙」と「傘忘れ」との間で多くクロスし、また、「電灯料」を中心に左に「席ゆずられ」、右に「先生」との間でやはりクロスしている。すなわち、ここで、若い人と高年齢層の人たちとの丁寧さが大きく変わるところと思われる。すなわち、具体的には、「電報用紙」「電灯料」は若い人が丁寧であり、これに対して、高年齢層の人が丁寧なのは、「傘忘れ」「議事堂」「席ゆずられ」「先生」「傘貸し」「おつり」「魚つり」などであろう。高年齢層の方に丁寧な場面が多いのは、全体としては高年齢の方が丁寧なことば使いをしていると予見させるものである。「医者」「荷物預け」などの全体として丁寧な場面は、年齢によって一定の傾向はない。

特に、「魚つり」は若いほど乱暴ということがはっきり出ている。この傾向はちょっとの狂いはあるが「席ゆずられ」の場面にもあり、これらの話し相手が比較的若年齢の人であることを考えると、若い人は若い人に対して乱暴で

あるというであろう。

しかし、「電報用紙」の場面も、相手は若い人といっていい。ここでむしろ若い人が丁寧となっている理由は何であろうか。このほか「電灯料」も若い人の方が丁寧であったが、これらは相手がややお役所風なためとはいえないであろうか。とすればこれはあまり望ましくない傾向といえるであろう。特に図6-8で明らかなように、「電報用紙」は10代の被調査者が「医者」よりも丁寧な敬語形式を使ったのである。10代でこのように「電報用紙」が最も丁寧であったのは、5段階方式による集計でも同様であった。

図6-8によれば、線が左から一つ隣のところへ行くとき上がっている、つまり、全体の丁寧さの順に反して、むしろ逆になった区間の数は、10代3、20代1、30代1、40代2、50代4、60代以上3となる。多くの人の丁寧さにしたかった丁寧さで言うのが敬語の上手な使い方とすれば、この数字から、20代・30代が敬

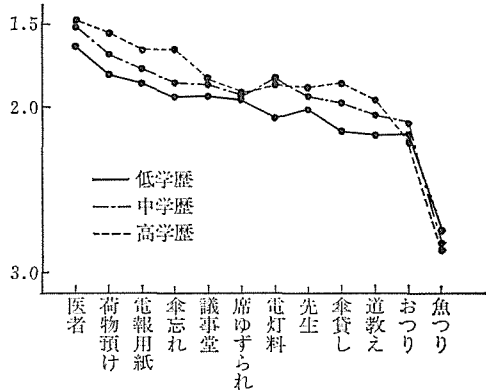


図 6-9 場面の丁寧さの比較(学歴別)(3段階方式)

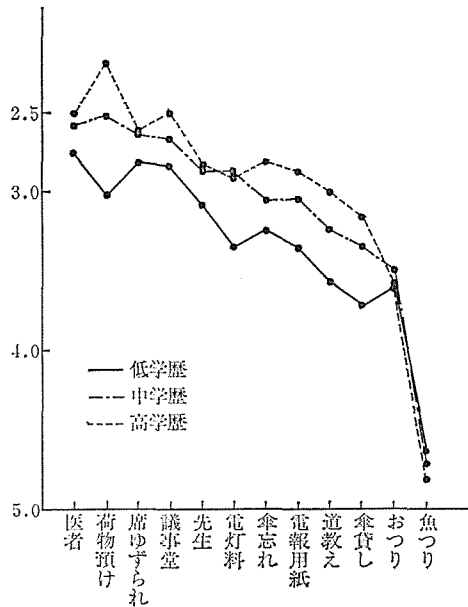


図 6-10 場面の丁寧さの比較(学歴別)(5段階方式)

語の使い方がうまく、10代、40代以上は問題がある、ということになるろう。

次は学歴別である。図6-5、図6-7と同じ考えで、図6-9、図6-10を作った。学歴では総合すると、高いほど丁寧であるとはいえるようである。ただし、乱暴な方——特に3段階方式(図6-9)では、学歴の上の者が乱暴な方に出て、両図とも「魚つり」では学歴が高いほど乱暴ということになる。これは前に述べた丁寧に言うべきときに丁寧に言い、乱暴に言うべきときは乱暴に言うのが敬語の適切な使い方という点からすれば望ましいことといえよう。

図6-9では学歴差が丁寧さの差で大きいのは「傘忘れ」「電灯料」「傘貸し」「道教え」である。同じく図6-10では、「傘忘れ」「荷物預け」「電灯料」「傘貸し」「道教え」「電報用紙」であり、図6-9で差の大きかったものはすべて図6-10の方にも含まれている。これらを今までの性(3段階方式)・年齢と比べてみると、「傘忘れ」「電灯料」「傘貸し」の3場面ではこれらでも差が大きかったので、これらの場面は社会的要因によって差の大きな場面であるといえるであろう。

逆に図6-9で学歴差の小さかったものは、「医者」「議事堂」「席ゆずられ」「先生」「おつり」「魚つり」であり、図6-10ではこのうち「議事堂」を除いて差が小さかった。性・年齢と比べると、このうち、「議事堂」「席ゆずられ」「先生」は性・年齢でも差が小さかったので、これらの3場面は社会的要因によってあまり差を生じないものであるといえよう。

3段階方式だけでいうならば、「荷物預け」が性で差が大、年齢で差が小、「おつり」が性・年齢で差が大、学歴で差が小、「医者」が年齢で差が大、学歴で差が小、「道教え」が学歴で差が大、性・年齢で差が小、「魚つり」が学歴だけで差が大、「電報用紙」が年齢だけで差が大となり、これらの6場面が、社会的要因によって結果が違って出てくる中間的な場面である、ということができよう。

年齢層での差を示す図6-8は各場面の差の大きさが「荷物預け」「傘貸し」「道教え」を除くと学歴での差を示す図6-9よりも概して小さく(レンジが小さく)、あとの場面は大差がない。そこで、丁寧さを決定する要因としては学歴の方が高く、年齢は低いと考えられる。同様に性と学歴とを比べると、

「医者」「荷物預け」「電灯料」「おつり」「魚つり」で性の差の方が大きく、「傘貸し」「道教え」では学歴の方が大きく、全体からすれば性の方が社会的要因としては効いているようである。特に、「電灯料」を除くと、性と学歴では、最も丁寧だった2場面と最も乱暴だった2場面が性の方が効いていることになるわけで、性の丁寧さについての社会的要因としての重要性がはっきりしたといえる。

6.1.3. 丁寧さの段階と特定の敬語形式

5.「敬語の段階づけとその結果」で述べたように、段階づけはいくつかの敬語形式を考慮していたのであるが、これは文末部に主として注目している。これを含めて、その他の部分をも合わせて、場面ごとにいろいろな敬語形式と、決定した丁寧さの段階との関係を調べてみることにしよう。前回調査との比較を主とするので、以下、3段階方式の段階点を主として使うこととする。

まず、段階と敬語形式をみってみる。

「電報用紙」の場面で、「いただく」など「ください」にあたる敬語形式および否定形をとったかどうかと、丁寧さの3段階方式の段階づけとの関係を表にしたのが表6-3である。この表は前回調査報告書の第133表に対応するものである。「ナシ」というのは、これらのあらわれるべき部分に、これらの敬語形式が出ていないことを示す。否定形は、「いただけませんか」「くださいませんか」のような否定の形式を含むもの。ただし、表6-3ではその否定形があるかないかという見地でまとめてある。この点前回報告書の表133が肯定形と否定形とに分けてあるのとは多少趣きを異にする。

表6-3からわかることを簡単に述べておく。前回の否定形は全体の15.5%であったが、今回調査の「否定形あり」は11.1%である。このことからするならば、否定形はこのような場面ではあまり使われなくなった、といえよう。平均の段階点の差は今回は前回より小さくなっているが、それでも否定形の「なし」と「あり」との間には有意差はある。なお、これについては後にも述べる。以下この節では、有意差ありとは5%以下の危険率としておく。また表で

表 6-3 「電報用紙」の敬語形式と3段階方式の段階点

	いただく ちょうだい ください	あ ら ま ま に お 願 い な さ い	お 願 い な さ い	そ の 他	ナ シ	段 階 点			平均 分散		
						1	2	3			
否 定 形	なし あり	62 32	5 0	165 2	15 6	59 0	8 2	39 2	353 44	1.861 1.295	0.1701 0.2536
段	1 2 3	83 11 0	0 5 0	2 165 0	2 18 2	2 56 1	0 7 3	2 35 4	90 297 10		
階	計	94	5	167	21	59	10	41	397		
点	平均 分散	1.117 0.1033	2.000 0.0000	1.988 0.0118	2.048 0.1406	1.983 0.0506	2.300 0.2100	2.049 0.1440			

いただく>お願ひ=ください=ちょうだい=貰う=ナシ=その他
否定形あり>なし

表 6-4 「電報用紙」の敬語形式と5段階方式の段階点

	いただく ちょうだい ください 貰う お願ひ その他 ナシ	段 階 点					平均 分散		
		1	2	3	4	5			
否 定 形	なし あり	1 4	59 26	140 11	144 2	144 1	353 44	3.286 2.318	0.6065 0.6260
段	1 2 3 4 5	3 0 0 1 0	78 0 0 0 2	7 0 81 16 30	6 5 86 2 26	0 0 0 2 1	94 5 167 21 59	2.170 4.000 3.515 3.191 3.441	0.3328 0.0000 0.2498 0.6301 0.3482
階	計	1	4	15	17	4	41	3.463	0.7852
点	平均 分散	1.117 0.1033	2.000 0.0000	1.988 0.0118	2.048 0.1406	1.983 0.0506	2.300 0.2100	2.049 0.1440	

表 6-5 「荷物預け」の敬語形式と3段階方式の段階点

否定形	敬語形式										段階点				
	い ただ く	ち ょう だ い	く だ さ い	貰 う	お 願 い	願 え る	く れ ・ く れ る	そ の 他	ナ シ	1	2	3	計	平均	分散
なし	51	3	91	23	37	1	8	15	11	48	165	27	240	1.913	0.3048
あり	77	0	12	46	3	6	15	0	0	90	52	17	159	1.541	0.4622
1	118	0	15	2	1	2	0	0	0	138					
2	10	3	88	52	38	5	13	5	3		217				
3	0	0	0	15	1	0	10	10	8		44				
計	128	3	103	69	40	7	23	15	11				399		
平均	1.078	—	1.854	2.188	2.000	1.714	2.435	2.667	2.727						
分散	0.0720	—	0.1243	0.2110	0.0500	0.2041	0.2458	0.2223	0.1984						

(注) 4人以下のカテゴリについては段階点の平均および分散は表示しない。以下同じ。
 いただく>願える=くください>お願い>貰う=その他=ナシ
 否定形あり>なし

は>で有意差のあることを示し、=で差のないことを示す。>の左の方が丁寧である。左から順に平均点からみて丁寧である。

語形の方では、前回同様「いただく」が一番丁寧で他とは圧倒的に有意で、その他の語形でも大体は前回と同様である。ただ、「いただく」の48.8%が否定形であった前回に比べて、今回は34.0%が否定形であって、「いただく」という語を選択して使った人が前回20.1%、今回23.7%と少し増加したのに比べれば使い方の違いが大きかった。「ください」は前回58.3%であったのに対して、今回は42.1%と大幅に減っているといっている。表6-3によると、否定形と結びつくのは「いただく」が圧倒的であって、これに次ぐのが「貰う」であるが、前は「貰う」では肯定形より否定形が多かったのと比べれば、今回は「貰う」はそれほど否定形に結びつかない。

なお、文末部に注目してその文末形を選択した者の率だけを今回の調査についてみると次のようになる。「電報用紙を」のように文を完結しないで中止したもの6.5%、命令形1.0%、質問形32.0%、本動詞の「ください」41.3%、日本語の命令形の少なさはここにもあらわれている。

5段階方式による結果を表6-4にあげておく。「ください」などの語形の丁寧さの順は表6-3のものと大いに違っているが、「いただく」が有意差をもって丁寧であることは共通している。

「荷物預け」の場面について、表6-3と同様にして表6-5を作ってみる。ここでは語形は表6-3とは少々違っている。

この方が同じ頼む場面でもより低姿勢が要求される場面であり、したがって否定形もまた多く、「いただく」を選択した者も多くなっていることがわかる。

表 6-6 「電報用紙」×「荷物預け」の敬語形式相関表

		「荷物預け」							計		
		い た だ く	ち ょう た い	く だ さ い	貰 う	お 願 い	願 え る	く れ く れ る		そ の 他	ナ シ
「 電 報 用 紙」	いただく	55	0	11	11	5	4	3	2	3	94
	ちょうたい	1	0	1	0	1	0	0	1	1	5
	ください	30	1	72	27	13	0	14	6	4	167
	貰う	2	1	2	14	1	0	0	1	0	21
	お願い	21	0	8	6	15	2	3	4	0	59
	その他	2	1	1	2	1	0	2	0	1	10
	ナシ	17	0	8	9	4	1	1	1	3	44
	計	128	3	103	69	40	7	23	15	12	400

ここで以上の「電報用紙」と「荷物預け」の二つの場面について「ください」にあたる語で何を選択したかの表を表6-6として作ってみた。ここでは、被調査者全部について表示した。答えなかった人の分を分離できなかったからである。両場面で同じ語を選択した人の率を一貫率とすると、両方「ナシ」を除いて、400人のうちの156人で一貫率は39.0%であった。

前回では数えていないが、「荷物預け」の場面について「ちょっと」の類について今回は表を作ってみた(表6-7)。

表 6-7 「荷物預け」の「ちょっと」の類と3段階方式の段階点

		ナシ	すみませんが	おそれいりますが	すみませんが	おそれいりますが	その他	ちょっと	ちょっと	すみませんが	ちょっと	おそれいりますが	すみませんが	おそれいりますが	その他	計
段階	1	9	15	7	1	3	22	58	17	1	5	138				
	2	21	23	1	0	4	79	72	4	1	12	217				
	3	6	0	0	0	4	25	4	0	0	5	44				
	計	37	38	8	1	11	126	134	21	2	22	399				
段階点	平均	1.917	1.606	1.125	—	2.091	2.024	1.597	1.191	—	2.000					
	分散	0.4098	0.2389	0.1094	—	0.6281	0.3724	0.3003	0.1541	—	0.4505					

この表によると、「ちょっと」のあるなしは丁寧さにあまり影響はないように思われる。「すみませんが」と「おそれいります」とでは「おそれいります」の方が有意差をもって丁寧である。なお「ちょっと」については「おつり」の場面でも取り上げることにする。

「傘忘れ」の場面について、前回の報告書の第135表に対当する表6-8を作ってみた。「お……になる」は主として「お忘れになる」であるが、これが最も丁寧な形で、「お……だ、です、ございます」が次きて、「……られる」が平均段階点2.000でそれに次ぎ、「ナシ」は当然ながら一番乱暴な言い方である、というのは前回と全く同様である。

ここで敬語形式の選択についての20年間の移り変わりをみてみよう。「お……になる」という表現は、前回は被調査者の28.4%が選択していたが、今回は

表 6-8 「奉忘れ」の敬語形式と3段階方式の段階点

不定形	敬語形式					ナシ			その他			段階点		
	お……になる	お……に られる	お……に なられる	お…… だ、です	お…… もの	ナシ	その他	その他	1	2	3	計	平均	分散
なし	33	11	0	30	8	181	0		52	179	32	263	1.924	0.3136
あり	21	7	1	18	2	83	3		42	86	7	135	1.741	0.2958
1	52	0	1	30	2	9	0		94					
2	2	18	0	18	8	216	3			265				
3	0	0	0	0	0	39	0			39				
計	54	18	1	48	10	264	3					398		
平均	1.037	2.000	—	1.375	1.800	2.114	—							
分散	0.0357	0.0000	—	0.2344	0.1600	0.0462	—							

お……になる>お……だ、です>……られる>ナシ
否定形あり>なし

表 6-9 「先生」の自称代名詞と3段階方式の段階点

不定形	自称代名詞					ナシ			その他			計		
	わたくし	わたし	あたし	ぼく	自分	うち	の	自称代名詞	1	2	3	計	平均	分散
1	8	8	0	0	0	1	1	0	0	0	0	7	25	
2	31	160	8	35	11	40	11	11	1	1	56	364		
3	1	1	0	2	2	1	0	0	4	4	0	11		
計	40	169	8	37	13	42	12	11	5	5	63	400		
平均	1.825	1.969	2.000	2.054	2.154	2.000	1.917	2.000	2.800	1.889				
分散	0.1944	0.0516	0.0000	0.0512	0.1301	0.0476	0.0764	0.0000	0.1600	0.0988				

わたくし=ナシ=わたし=うち=ぼく

13.6%に激減していることは注目される。「……られる」というものは、前回はずか2.5%であり今回も4.5%であり、増えてはいるが、これは起こり得べき誤差の中に入っているとみるべきで、それほどの変化ではない。「お……だ、です、ございます」の形は、前回の7.4%から今回の12.1%へ増加したが、「忘れました」を含む「ナシ」が前回の61.7%から今回の66.8%へ増加したのが著しい。この点ではこの場面で敬語形式は簡単化したといってもよからうが、これはもちろん全体の敬語形式が簡単化したことを意味しない。

この場面では、否定形が前回の44.6%から33.9%に減っていることも、多くの場面で否定形が20年間に増加しているのとは逆の傾向を示している。これが、後で述べるように、この場面が丁寧さの順位で、2位から4位へと下がった理由であろう。

「先生」の場面では「わたしの子どもです」というように自称代名詞が出るのが期待されている。これについて、前回報告書の第137表に対当する表6-9を作ってみた。ここでも前回と同様、自称代名詞はごくわずかの常識的効果を丁寧さに及ぼしているに過ぎず、語形間の差は表の平均段階点で見るとあまり開いていない。

自称代名詞の使用率は、次のように変わってきた。「わたくし・あたし」は9.1%から10.0%、「わたし」は43.3%から42.3%へ「あたし」は1.4%から2.0%へとここまではほとんど変わってはいない。しかし「ぼく」は13.7%から9.3%へ、「自分」は8.8%から3.3%へ、と減っている。「ぼく」「自分」は使用者は男性がほとんどで、特に「ぼく」はすべてが男で、今回は男の22.2%が選択している。これは今回では年齢と関係があって、10代の21.7%、20代前半の14.3%、後半の13.2%、30代前半の10.4%というように、上に行くに従って減っている。目上には「ぼく」は使えないということの教育の結果というよりは、以上の年齢別の使用率からするならば、社会生活の中で獲得したことであろう。学歴別では、「ぼく」の使用率は大きく変わってはいないのである。「うち」は7.4%から10.5%に増えた。ただし、この「うち」には女の自称代名詞のほかに「うち(家)」の意味がある。これを用いている男が12.0% (女は9.4%) もいることからみてむしろ後者の用法が多いといえる。

表 6-10 「電灯料」の否定形と3段階方式の段階点

		段 階 点				
		1	2	3	計	平均 分散
否定形	なし	22	218	34	274	2.044 0.2025
	あり	50	52	20	122	1.754 0.5133

否定形あり>なし

表 6-11 「議事堂」の否定形と3段階方式の段階点

		段 階 点				
		1	2	3	計	平均 分散
否定形	なし	20	326	10	356	1.972 0.0835
	あり	32	8	2	42	1.286 0.2993

否定形あり>なし

表 6-10, 表 6-11 を作っておく。前回は今回もともに否定形の方が丁寧である。

「医者」の場面について、前回報告書の第 140 表に対当するものとして表 6-12 を作る。語形の使用率の変遷をみると次のようである。前回と今回はこの整理方法が少し違っているから厳密には比較はできないが大略の傾向を知ることができる。「ください」は前回の 19.7% から今回の 18.0% へ、「くれ」は 2.1% から 2.8% へ、「いただく」は 43.6% から 44.3% へ、「願う」は 19.5% から 17.3% へ、「頼む」は 0.4% から 0.8% へと、ここまでは前回とほとんど同じであるといってい。しかし、「貰う」だけは 8.6% から 14.5% へと大幅に増加した。「ナシ」は 1.1% から 1.5% へであって変わりはない。

表 6-5 で示した「荷物預け」における語形の使用率と比べると、ここも分け方が多少違うので正確にはいえないが、「医者」の方が多いのは「いただく」「願う」であるのに対し、「荷物預け」の方が多いものは「ください」「貰う」であって、「医者」に多かったものはすぐ次に述べるように丁寧な語形であることを指摘しておく。「くれ」のような語形はともに少ないが、「医者」2.8%、「荷物預け」5.8% である。

これらの語形の丁寧さの順は、「いただく」「願う」「ください」「貰う」であって、具体的な数値は違いますが、この順は前回と同じである。

「医者」の場面で、「すみません」の類を反応の中に含んでいるかどうかを

このようなとき、自称代名詞を使わずに「これは子どもです」のように言う人は、前回は 14.2%、今回は 15.8% と大きな変化はなかった。前回の集計はないが、今回は老人ほど自称代名詞を使わない人が多く、また、性別では女の方が使わない人が多い。「電灯料」「議事堂」の場面について前回報告書の第 138 表、第 139 表に対当するものとして、

表 6-12 「医者」の敬語形式と3段階方式の段階点(1)

否定形	ください	くれ	いた	願	願	類	貰	そ	他	ナ	段階			平均	分散
											1	2	3		
なし	71	6	62	57	3	18	4	4	4	4	68	149	8	1.733	0.2578
あり	1	5	115	12	0	40	0	2	0	2	126	38	11	1.343	0.3511
1	1	0	165	24	0	3	1	0	0	0	194				
2	71	5	12	44	2	44	3	6	3	6	187				
3	0	6	0	1	1	11	0	0	0	0	19				
計	72	11	177	69	3	58	4	6	4	6				400	
平均	1.986	2.546	1.068	1.667	—	2.138	—	2.000	—	2.000					
分散	0.0137	0.2480	0.0632	0.2512	—	0.2224	—	0.0000	—	0.0000					

いただく>願う>ください>貰う
否定形あり>なし

表 6-13 「医者」の敬語形式と3段階方式の段階点(2)

		おそれいります	すみませんが	おそれいります すみませんが	その他	その他 おそれいります	ナシ	計
ください		2	15	0	2	0	53	72
くれ		0	3	0	1	0	7	11
いただく		15	55	1	9	1	96	177
願う		6	21	2	4	0	36	69
頼む		0	1	0	0	0	2	3
貰う		1	16	0	0	1	40	58
その他		1	1	0	0	0	2	4
ナシ		0	1	0	0	0	5	6
段階	1	19	65	1	8	1	100	194
	2	5	45	2	7	1	127	187
	3	1	3	0	1	0	14	19
	計	25	113	3	16	2	241	400
点	平均	1.280	1.451	—	1.563	—	1.643	
	分散	0.2816	0.3008	—	0.3711	—	0.3457	

おそれいります>すみませんが>ナシ

ぐつての相関表を表6-13として示す。この表によると、「おそれいります」の形が「すみませんが」より丁寧であるといえる。しかし使用率は「すみませんが」28.3%に対して「おそれいります」6.3%とあまり多くない。また丁寧な「おそれいります」は「ください」のところの丁寧な語形「いただく」に結びつきやすいこともわかる。「すみません」を言わない人が60.3%もいることをこの表は示している。

「席ゆずられ」については前回の集計はないが、「ありがとう」という礼のことの有無、「結構」にあたる語形と「どうぞ」の有無との相関をそれぞれ表6-14、表6-15として示す。

表6-14によると、「ありがとう」の類があった方がないよりも丁寧であることははっきり出ているが、それよりも「すみません」の有無の方が大きく影響しているようである。すなわち、「すみません」のあるものは平均段階点1.868,

表 6-14 「席ゆずられ」の「ありがとう」と3段階方式の段階点

		ありがとう	おそれいります	おそれいります	すみません	すみません	ありがとう	すみません	おそれいります	その他	すみません	その他	ナシ	計
段階	1	14	0	1	3	3	0	3	3	3	3	3	3	30
	2	124	1	0	22	17	1	20	19	155	155	155	359	
	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	9	
	計	142	1	1	25	20	1	23	22	163	163	163	398	
点	平均	1.930	—	—	1.880	1.850	—	1.870	1.864	2.012	2.012	2.012		
	分散	0.1218	—	—	0.1056	0.1275	—	0.1134	0.1178	0.0489	0.0489	0.0489		

表 6-15 「席ゆずられ」の「結構」×「どうぞ」と3段階方式の段階点

		結構	いい(よう)ええ	よろしい	ナシ	段階点					
						1	2	3	計	平均	分散
どうぞ	なし	154	48	24	109	19	308	8	335	1.967	0.0795
	あり	8	3	2	50	11	51	1	63	1.841	0.1653
段階	1	17	1	2	10	30					
	2	145	45	24	145	359					
	3	0	5	0	4	9					
	計	162	51	26	159	398					
点	平均	1.895	2.078	1.923	1.962						
	分散	0.0939	0.1114	0.0710	0.0867						

結構=よろしい=ナシ>いい
 「どうぞ」あり>なし

分散0.1149であるのに対して、ないものは平均段階点1.964, 分散0.0896であってその間には有意差があるのに対し、「ありがとう」「おそれいます」を「ありがとう」の類としたとき、「ありがとう」のあるものは平均段階点1.909, 分散0.1254となり、ないものは平均段階点1.981, 分散0.0661となり、これも有意差はあるが、その差は少なくなっている。すなわち「すみません」は、今は「ありがとう」の意味をも加えて、無視できない存在効果を言語生活の中で保っていることになる。

表6-15では「結構」の類については、「結構」が一番丁寧であり、次に「よろしい」である。しかし「いい」よりもむしろ「ナシ」の方が丁寧であって、「いい」ということばには丁寧さを増す力はないことがわかる。「どうぞ」の有無についても常識的な結果が出ている。「どうぞ」ということばを発した人はわずか15.8%であった。

このようなときただ断わるのと、断わった上で「そのまま」とか「かけていてください」と言うのとでは、もちろん前者は平均段階点1.967, 後者1.844と常識的な平均段階点の差は出ているが、この差は有意ではない(数値は今回調査の結果)。

「おつり」の場面では、文末のところをどのようにしているかによって分類してみる。ただし、この場合、前回の分類(第141, 142表)とは同じでないの

表 6-16 「おつり」の文末形式と3段階方式の段階点

		肯定・断定	肯定・疑問	肯定・中止	否定・疑問	左以外のもの	計
段 階	1	3	5	0	27	2	37
	2	50	18	67	86	42	263
	3	34	3	21	36	3	97
	計	87	26	88	149	47	397
点	平均	2.356	1.923	2.239	2.060	2.021	
	分散	0.2983	0.3018	0.1817	0.4192	0.1059	

肯定・疑問=否定・疑問>肯定・中止=肯定・断定
 否定>肯定
 疑問>断定

表 6-17 「傘貸し」の文末，敬語形式と3段階方式の段階点

段階	質問・肯定		質問・否定		非質問・肯定		左以外のもの		敬語なし					計
	質問・肯定	質問・否定	非質問・肯定	非質問・否定	お……になる	お……ください	お……なさい	お……する	その他	敬語なし				
1	8	29	14	1	34	5	0	0	8	5	52			
2	34	22	194	27	4	35	5	10	9	214	277			
3	8	8	37	15	0	0	0	0	0	68	68			
計	50	59	245	43	38	40	5	10	17	287	397			
平均	2.000	1.644	2.094	2.326	1.105	1.875	2.000	2.000	1.529	2.220				
分散	0.3200	0.5004	0.1994	0.2661	0.0941	0.1094	0.0000	0.0000	0.2491	0.2062				

質問・否定>質問・肯定=非質問・肯定
 質問>非質問，否定>肯定
 お……になる>その他>お……ください>敬語なし

で、正確な比較はできない(表6-16)。

この表で、肯定と否定との間には有意差があり、断定と疑問との間にも有意差がある。正確な比較ではないが、大筋において前回と同様である。

「おつり」の場面には、「ちょっと」という語が使われることがある。「ちょっとおつりが足りない」のように「ちょっと」があった方が多少遠慮した言い方で、したがって丁寧であると考えられる。「ちょっと」を使った人は、前回37.4%に対し今回44.3%であり、多少増えたようである。しかし、この「ちょっと」の有無と段階点とは思ったほどの差はない。前は平均段階点で、「あり」2.019, 「なし」2.112であり、今回は「あり」2.136, 「なし」2.163であって、今回の方が差は少なくなっている。

なお、今回の場合、「ちょっと」の使用率は、30代後半から50代後半までが50%を越しており、両側の30代前半と60代とが40%台、さらにその両側の10代後半、20代と70代以上は30%程度となっている。このように年齢別では真ん中のところで、「ちょっと」を使うことが多い。この層はことばについていろいろ気を使っている層なのであろう。「荷物預け」の場面でも「ちょっと」の丁寧さへの寄与はそれほど高くなかった。

「傘貸し」の場面については、前回の報告書では第144表が関係している。これと全く同じではないが、これに相当する表として表6-17を作ってみる。

文末のところがどうなっているかでは、一番丁寧な方から、質問・否定、質問・肯定、非質問・肯定の順となり、その最初の二つの間には有意の差がある。これをまとめてみると、質問と非質問、否定と肯定との間にも有意差があり前者が丁寧である。

表 6-18 「医者」×「傘忘れ」の否定形の相関表

		「医者」			計
		否定形 なし	否定形 あり	両方	
「傘 忘れ」	反応なし	2	0	0	2(0.5)
	否定形なし	150	113	0	263(65.8)
	否定形あり	73	61	1	135(33.8)
	計	225 (56.3)	174 (43.5)	1 (0.3)	400 (100.0)

前回の第144表ではこれらは必ずしも文末だけとはしていないので、直接の比較はできないが、「ナシ」などこれに入らないものを除くと、非質問は前回の81.4%から69.2%に減少し

た。しかし、同様に、肯定形は前回86.1%、今回83.3%とほとんど変わっていない。

なお、肯定形をとるかどうかの数と、丁寧さの順位とは多少の関係があるようである。「医者」は否定形が43.5%であり、「傘忘れ」は33.8%であるのに対し、この「傘貸し」は14.9%にすぎず、表6-17の「左以外」というのを除いたものを総数としても16.7%にすぎず、この順で表6-1に示したように場面として丁寧である。

ここで、「医者」と「傘忘れ」との場面について、否定形をとったかどうかの相関表を表6-18としてあげておく。一貫率は52.8%であまり高くない。

語形では、「お……になる」が一番丁寧であることは変わらない。ただし、この使用率は前回の19.5%から9.6%へ激減している。また、ただこれに止まらず、他の敬語の語形のすべてが前回より減っている。したがって、このような敬語の語形を使わない者が前回の51.1%から今回の72.3%と大幅に増加している。しかし、これらから想像されるほどは丁寧さは低くならなかった。これはおそらく質問形の増加などと、これを中和させる要素が別に働いたからであろう。

「魚つり」の場面では、相手の男の子を何と呼んでいるかについて表6-19を

表 6-19 「魚つり」の二人称と3段階方式の段階点

		ぼうや・ぼうぼうず	きみ	ぼく・ぼくちゃん	おにいちゃん	ぼぼつちやんま	あなた	その他	ナシ	計
段階	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	25	0	21	0	7	1	0	30	84
	3	74	3	142	2	0	0	1	93	315
	計	99	3	163	2	7	1	1	123	399
点	平均	2.747	—	2.871	—	2.000	—	—	2.756	
	分散	0.1888	—	0.1123	—	0.0000	—	—	0.1844	

ぼうやなど=ナシ>ぼくなど

作ってみる。

表で見るように、二人称と段階点との間にはそれほど大きな差はない。ただ、このような小さな男の子に対して何と呼びかけるかについては、この20年の間に大きな移り変わりがあったようである。

すなわち、前は「あなた」18.3%、「あんた」30.9%もあり合計すると半数近くであったのに対して、今回はわずか「あんた」だけが0.3%であったことが目立つ。「きみ」も前回の11.4%から0.8%に激減している。代わって「ぼく」の類が2.4%から40.9%に増加している。これは確かに、場面が違うから正確には比較できないし、あるいは、前回よりも今回の方が「ぼく」が出やすいとは思われようが、それにしてもこの大きな数の変動は何らかの違いを反映していることは間違いない。

「ぼく」という言い方は20年ぐらい前は非常に都会的という感じが伴っていたようである。「ぼく」は確かに年齢別で見ると、30代、40代が多くて、50代からは非常に減る言い方である。性別では男の30.5%が「ぼく」を使っているのに対して女は48.1%である。「ぼく」という語はこれで見ると女に多いものである。おそらく本来男性用一人称である「ぼく」を女は一人称として使っていないので、二人称に容易に転換して使えるのであろう。男の多いのは「ぼう

表 6-20 「魚つり」の質問の形と3段階方式の段階点

		か・かい	の	どうだい	や	左のうち二つ以上	イントネーションだけ	質問形式なし	計
段階	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	67	1	0	0	8	7	1	84
	3	113	14	2	2	34	147	3	315
計		180	15	2	2	42	154	4	399
点	平均	2.628	2.933	—	—	2.810	2.955	—	
	分散	0.2337	0.0622	—	—	0.1542	0.0433	—	

か・かい>二つ以上=の=イントネーション

表 6-21 「市役所」の父の呼び方, 父に対する尊敬語と5段階方式の段階点

段階点	父の呼び方					父に対する尊敬語			計
	父 親	父 や じ	お や じ さん	お と う さ ま ん	そ の 他	ナ シ	あ り	敬 文 語 脈 の で 出 な い	
1	2	0	0	0	0	0	0	2	2
2	33	6	3	0	0	1	4	38	43
3	133	13	33	0	13	1	11	192	205
4	5	3	2	5	65	3	9	77	98
5	8	1	11	2	13	4	7	43	50
計	181	23	49	7	91	9	31	352	398
平均	2.912	3.044	3.429	4.286	4.000	4.111	3.613	3.867	3.344
分散	0.4231	0.5633	0.8163	0.2040	0.2857	0.9876	0.9469	0.1156	0.7199

父=父親=おやじ>ナシ=おとうさん
尊敬語なし>あり

や」の類で、男の35.3%がこれを選び、これに対して女は17.2%と半分にすぎない。

「ナシ」は前回の20.3%から今回の30.8%に増加した。これについては、性差・年齢差ともない。

魚がつかれるかどうかを聞くときのことばについて集計した結果が表6-20である。結果によれば「か」「かい」が意外に他のものよりも丁寧となっている。

「か」「かい」は男の64.7%が選択しているのに対して、女は30.9%であるので男の終助詞、「の」は男の0.6%、女の6.0%であるから女の終助詞といえる。語形でなく、イントネーションだけで質問を示すのは男では全体の17.4%であるのに過ぎないが、女は54.1%であって、圧倒的に女性に好まれる形式である。なお、イントネーションは学歴が高くなるほど多くなり「か」「かい」は逆に学歴が低くなるほど多くなる、という傾向がある。

「市役所」の場面では、父親のことを何と言っているかと、父親に対する敬語の有無と段階点について、表6-21を作ってみた。

この表によれば、父親のことを「父」という人のことばが全体として一番丁寧であり、「おとうさん」や「おやじさん」と言う者が丁寧でない、という常識的な結果が出ているが、隣の丁寧さとの間には有意差の算出されるころは多くはない。父親に対する敬語の有無についても結果は常識的であるが、統計的な有意差はない。

前回調査では父親のことをどう言っていたか、という点については、継続調査の一部について行ったスライド調査の被調査者のものが、第241表として出ている。これによれば、「父」「おやじ」「おとうさん」の三つの語だけについて出ている。使用率からいうと順に48.0%、10.8%、41.2%である。これと全く同じ方法ではないと思われるが、参考のために表6-21でこの三つに限って計算すると、順に56.4%、15.3%、28.3%となる。はっきりはしないが、望ましいとされる言い方がこの20年間に増加したのではないかと思われる。

今回の場面、「ナシ」というのは性別とは無関係であるが、「父」は男の34.1%、女の53.2%と女に多く、「おやじ」は、男29.3%に対して女は一人もなしでこれは完全な男性専用語である。「おとうさん」は男の14.4%、女の

表 6-22 各場面の否定形を選択した数

	否 定 形		否定形あり の多い順	丁寧な 順	〔前回の率〕
	なし	あり (率)			
電報用紙	353	44(11.1)	5	3	〔16.0〕
荷物預け	240	159(39.8)	2	2	〔31.2〕
傘忘れ	263	135(33.9)	3	4	—
電灯料	274	122(30.8)	4	6	〔24.0〕
議事堂	356	42(10.6)	6	5	〔 5.8〕
医 者	225	174(43.6)	1	1	〔40.8〕

28.8%と女性が多い。

年齢では「父」は若い人に多く、「父親」は35～64歳のところに多く、「おやじ」はそれよりももう少し若い20～64歳に多い。また「おとうさん」は大体の傾向として高年齢ほど多い。

学歴では、低学歴ほど多いのは、「ナシ」、「おとうさん」であり、高学歴ほど多いのは「父」である。

以上で各場面ごとの言語形式による分析を終わり、以下、いくつかの言語形式をまとめて考えてみる。

多くの場面において、否定形のないものよりもあるものの方が丁寧であった。「おつり」と「傘貸し」では少し整理方法が違うのでこれらを除いてまとめると、どちらの表現方法を選択したかによる実数を示すと表6-22のようになる。

否定形の率の高さの順と、表6-1で見た丁寧さの順とはかなり一致している。順位相関係数は0.714であった。これに関しては、表6-22にあげた場面がすべて、表6-1の7位までに入っていることを指摘しておく。すなわち、比較的丁寧な方には肯定・否定が問題になりうる場面が多い、ということである。

前回の報告書で指摘があった、10代の人には「医者」の場面では他の年齢層と否定形の現れ方はそう差はないのであるが、「おつり」のような場面では否定形が非常に少ないという事情は今回の調査でも全く同様であった。すなわち、10代のような若い人は、相手がおつりを間違えたときは遠慮勝ちにそれを指摘するのではなく、直接的表現でそれを言う、ということになるわけである。

表 6-23 方言と3段階方式の段階点

		段 階 点					
		1	2	3	人数	平均	分散
荷物預け	非方言	121	183	24	328	1.704	0.3546
	方言	17	34	20	71	2.042	0.5193
医者	非方言	161	152	1	314	1.490	0.2563
	方言	33	35	18	86	1.826	0.5626
おつり	非方言	27	176	38	241	2.046	0.2676
	方言	10	87	59	156	2.314	0.3436
傘貸し	非方言	49	247	52	348	2.009	0.2901
	方言	3	30	16	49	2.265	0.3174

て丁寧であり、この点では前回調査の傾向と同じである。このことからするならば、方言形の方が丁寧ではない、とというのであろう。

上の四つの場面において、前は方言形で答えた人の率はこの順に、26.1%、26.7%、28.6%、25.3%といずれもほとんど同一で、4分の1をわずかに上回った数値であった。ところが今回は、17.8%、21.5%、39.3%、12.3%と大変変動が激しくなっている。多くの場面で今回は方言形が少なくなっている中で、「おつり」だけは大幅に方言形が増加したのはこの場面が乱暴な場面であるからで、やはり被調査者が調査という場面であり改まった表現をしなくなったためであろう。

同じ乱暴な場面である「物売り」では前は8.6%が方言形をとり、今回も「魚つり」で7.3%が方言形であった。これは、文が比較的短いために、方言があらわれにくかったこともあったと思われる。

前回は「道教え」12.2%、「議事堂」10.7%とそれぞれ方言形が少なかったのは、話し相手が地域社会の人ではなかったからと思われる。今回も「道教え」9.2%、「議事堂」8.5%と低く、また前回よりも方言形が減っており、20年間に方言を使う人が減ったことを示している。この点では「おつり」の場面だけが例外である。

前回の報告書では「おつり」について、第162表として性別などについて方言

次には、方言形をとったかどうかと段階点との関係を見てみよう。これに関しては、前回の報告書の第160表に「荷物預け」「医者」「おつり」「傘貸し」の四つの場面についての結果が出ている。今回もこの四つの場面について表6-23を作ってみた。

表6-23によると、この四つの場面すべてにおいて非方言の方が方言よりも有意の差をもって

形を使った人の率が出ている。そこで、今回調査のものと比較をしてみよう。

性では前回、男32.1%、女22.8%に対して今回、男48.5%、女32.3%、年齢では、10代、20代、30代、40代、50代以上の順に、前回は、19.8%、34.5%、25.0%、33.3%、21.6%であり、今回は、39.1%、36.7%、36.0%、42.9%、41.6%であった。学歴別では低、中、高の順に、前回は、37.5%、23.3%、23.3%であったのに対し、今回は42.3%、40.7%、22.4%であった。性では男がともに多く、年齢では前回は一定の傾向がなく、見方によっては老人の方が方言が少なかったが、今回はすべての年齢層でそれほど大きな差はなかった、とみるべきであろう。学歴は前回、今回とも常識的な結果が出ている。

以上の「おつり」は前述のように、やや特殊であるので、それ以外で今回方言の出方が割に多かった「医者」の場面について同じように方言形の出現率を出してみよう。今回だけである。男25.7%、女18.5%でやはり男の方が多い。10代0.0%、20代8.3%、30代15.1%、40代31.4%、50代37.1%、60代52.6%、70代56.3%と年齢では一貫して高くなればなるほど方言形を選択した者が多くなる。学歴は低32.8%、中13.3%、高5.2%と常識的な結果である。

次は漢語についてである。

前回の報告書では、漢語は多少とも改まった場面で使われるように思われ、改まった場面では一体に丁寧な敬語行動がみられるから、漢語使用と敬語形式の段階との間には関係があるであろうと考えて、三つの場面について集計をしている。この集計では「医

表 6-24 「電灯料」の漢語と3段階方式の段階点

		漢語	和語	混種語	相当の語ナシ	計
段階	1	23	8	0	41	72
	2	68	36	3	163	270
	3	8	9	0	37	54
	計	99	53	3	241	396
段階点	平均	1.869	2.019	—	1.983	
	分散	0.2901	0.3204	—	0.3234	

者」「先生」「電灯料」の3場面について、「医者」の場面で「往診」、「先生」の場面で「長男」、「電灯料」などの場面で「受領証」がそれぞれがある部分に漢語が使われたかどうかと段階点との関係調べている（第163表）。その結果は、予想したように漢語を

使った方が丁寧と言えよう、ということであった。

今回はこれと同じようには、「電灯料」の場面しか集計しなかった。結果は表6-24に示す。混種語というのは「受け取り書」のように和語と漢語との両方から成っている語である。この表では漢語と和語との間に有意の差はみられなかったが、漢語の方が丁寧であった。二つの差は前は有意差がみられたが、今回は平均段階点がそれぞれ差のない方に寄ったため有意の差とはならなかった。

今回の場合、この語を漢語で述べたのは、男25.6%、女24.6%で性の差はほとんどないといっている。年齢では10代10.9%、20代21.5%、30代30.2%、40代30.0%、50代26.5%、60代以上28.3%となって、若い方はあまり漢語的ではなかった。学歴では低23.3%、中26.0%、高28.1%であった。なお、漢語を使った者は前回の14.5%から今回の25.6%へと大幅に増加している。

「医者」の場面で、漢語の延べ使用数と段階点との関係を表6-25として示す。この表では、延べの漢語数が多くなるに従ってだんだん丁寧になっているが、隣のグループ間には有意差はみられなかったが、ある傾向的な差はあるといっておく。

ここでは、漢語を一つも使わなかった者はわずかに4.0%であって、この点からしても漢語のない言語生活の考えられない場面があることを示している。

この「医者」の場合、全体で平均1.85語の漢語を使っている。男は2.07語、女は1.69語であり、この場合「電灯料」のところで述べた結論とは違っている。

表 6-25 「医者」の漢語の延べ語数と3段階方式の段階点

		漢語の延べ語数					計
		0	1	2	3	4以上	
段	1	4	80	58	30	22	194
	2	7	90	51	25	14	187
	3	5	7	5	1	1	19
階	計	16	177	114	56	37	400
	平均	2.063	1.588	1.535	1.482	1.432	
点	分散	0.5586	0.3214	0.3365	0.2854	0.2995	

4以上=3=2=1>0

「電灯料」の方は「領収証」にあたる語だけであった。年齢では10代1.24語、20代1.65語、30代1.92語、40代1.99語、50代2.31語、60代2.26語、70代1.88語となって、50代を頂点に両側に少なくなっている。

今まで言われてきたよりは

表 6-26 理由をあらわす語についての集計

	から	ので	で	もんで	んで	なので	なんで	その他	人数
荷物預け	102	100	51	5	5				263
電灯料	103	39	47						189
医者	119	79	56	4		16	5	15	294
席ゆずられ	204	73	44						321
傘貸し	91	11	29						131

表 6-27 理由を示す助詞と3段階方式の段階点

		段 階 点						有意差
		1	2	3	人数	平均	分散	
荷物預け	から	23	70	9	102	1.863	0.2949	のて>から=て
	ので	52	44	4	100	1.520	0.3296	
	で	13	27	11	51	1.961	0.4691	
電灯料	から	16	81	6	103	1.903	0.2042	のて=から>て
	ので	7	30	2	39	1.872	0.2144	
	で	0	30	17	47	2.362	0.2309	
医者	から	46	70	3	119	1.639	0.2812	のて>から>て
	ので	53	25	1	79	1.342	0.2502	
	で	17	25	14	56	1.946	0.5507	
席ゆずられ	から	16	187	1	204	1.927	0.0779	のて=から=て
	ので	9	63	1	73	1.890	0.1250	
	で	3	40	1	44	1.955	0.0888	
傘貸し	から	9	71	11	91	2.022	0.2193	のて=から>て
	ので	2	9	0	11	1.818	0.1487	
	で	1	17	11	29	2.345	0.2949	

頂点が少し高齢の方に傾いているが、大筋の傾向としては、このようなところであろう。学歴では低1.80語、中1.83語、高2.03語であって、年齢ほどの開きはなかった。

次に、理由を示す助詞について触れる。これは前回の報告書にはあげていないし、また集計は、継続調査とパネル調査との被調査者を合わせてあるので、今まで述べたものと少し性質が違っている。

表 6-28 反応文の長さ と 3 段階方式の段階

	段階	人数	平均	分散	有意差
道教え	1	11	43.545	354.4298	1 = 2 > 3
	2	332	32.081	438.2675	
	3	49	22.224	221.2762	
電報用紙	1	90	26.833	100.1833	1 > 2 > 3
	2	297	19.896	77.6558	
	3	10	15.000	23.2000	
荷物預け	1	138	39.630	153.0302	1 > 2 > 3
	2	217	31.461	153.6309	
	3	44	23.159	94.6793	
傘忘れ	1	94	20.340	39.9267	1 > 2 > 3
	2	265	15.385	31.8519	
	3	39	11.487	15.8909	
先生	1	25	20.600	289.0400	1 > 2 > 3
	2	364	11.569	50.4376	
	3	11	7.909	5.3554	
電灯料	1	72	43.306	187.7817	1 > 2 > 3
	2	270	36.119	312.9008	
	3	54	26.056	142.9044	

理由を示すことばが出そうな場面としては、「荷物預け」「電灯料」「医者」「席ゆずられ」「傘貸し」と五つある。「おつり」の場面も理由が出そうに思ったが、それほど多くはなく、全部で26人の被調査者が理由を示す助詞を使ったに過ぎなかった。「おつり」の場合を除いて、どのくらいの実数があったかを表6-26にあげておく。ここでは、文の途中であらわれたものに限った。

反応が多かった「から」「ので」「で」について、3段階方式での段階点との関係を表6-27に示してみる。表では、「席ゆずられ」の場面が一番差は少ないが、それでも、この五つの場面すべてで、「ので」「から」「で」の順に丁寧な表現の中に入っていることになり、これを簡単に言って、「ので」が一番丁寧で、「で」が一番乱暴、「から」はこの両者の中間であるということになる。このことは「おつり」のように数の少ないものについてもいえることであり、一部有意差はないが相当の確かさをもって言うことができよう。

	段階	人数	平均	分散	有意差
議事堂	1	52	44.712	279.8207	1 > 2 > 3
	2	334	28.970	122.5920	
	3	12	24.583	31.9261	
医者	1	194	41.598	235.3126	1 > 2 > 3
	2	187	31.711	195.4033	
	3	19	25.895	57.6731	
席ゆずられ	1	30	42.933	223.1956	1 > 2 = 3
	2	359	24.944	108.7267	
	3	9	20.000	83.1111	
おつり	1	37	41.297	127.5062	1 > 2 > 3
	2	263	23.776	141.9688	
	3	97	16.670	56.4479	
傘貸し	1	52	25.192	146.4631	1 > 2 > 3
	2	277	19.538	92.6023	
	3	68	15.338	89.9885	
魚つり	1	0	—	—	2 > 3
	2	84	14.762	92.9433	
	3	315	9.590	19.6704	

この五つの場面で、全体としての丁寧さは、表6-1によって「医者」「荷物預け」「席ゆずられ」「電灯料」「傘貸し」の順で、一方「から」という丁寧でない語の、理由を示す語の全体に対する率の低い順は「医者」「荷物預け」「電灯料」「席ゆずられ」「傘貸し」であって、この順位の相関は相当高い、ということが出来る。

6.1.4. 反応文の長ささと丁寧さ

前回の調査結果では、長い反応文ほど丁寧であると出ていた。そこで、今回もこの点について集計してみた。ここでは文の長さを計る尺度としてモーラ数をとった。表6-28は、各場面各段階において、平均何モーラの反応文であったかを示すものである。前回報告書の第154表に対当する。

この表と前回の第154表とを比べてみると、今回調査ではすべての場面において段階3より段階2が、段階2より段階1が長い反応文となっているのに対して、前回は「電報用紙」で段階2と段階3との間で逆転があったことがわかる。

前回と今回と、どちらが長い、という点については、前回の方が長かったものをあげると、「電報用紙」の段階3、「荷物預け」の段階3、「傘忘れ」の段階1と3、「先生」の段階2と3、「電灯料」の段階3、「議事堂」のすべての段階、「医者」の段階2と3、「おつり」の段階2と3、「傘貸し」のすべての段階、前回の「物売り」が今回の「魚つり」に対して、段階1は今回なかったが、他の段階2と3、となっている。比較できる35の場面×段階に対して18である。この点からいうとあまり差はなかったかと思われるが、これについてはまた後で触れる。

注目すべきは、段階3が全部で12場面のうち10場面で前回の方が長かった、という点である。今回の方が乱暴に言う場合は簡単にすませている、と言ってよからう。最も、この間で有意差のあるのは「おつり」および前回「物売り」と今回「魚つり」だけである。後者は場面が違うので厳密には比較できないとすれば、有意差のあるものはあまりないわけではあるが、段階3では前回が長いという傾向は否定できない。

逆に段階1では前回が長かったのは、「傘忘れ」「議事堂」「傘貸し」の3場面にすぎない。丁寧なものはより長くなったという傾向があったことになる。このうち有意差をもって今回が長かったのは「道教え」「荷物預け」「席ゆざられ」「おつり」である。

以上によってわかるように、今回の方が分散が大きい。すなわち、反応文の短い人と長い人との差が大きくなった、といえる。

場面を全体として長い反応文の順に並べたのが表6-29である。また、これを丁寧さの順との順序相関係数でみると0.483となる。あまり長さの順と丁寧さの順とは一致度が高いとはいえないようである。すなわち、これはもっぱら場面での話の複雑さに関係するから、場面間の丁寧さの比較とは結びつかないのである。

前回の調査のときは場面の全体での長さは出ていないが、第154表によって計算すると表6-29の一番右の欄のような長さの順位となる。この順位と今回の長さの順位との相関係数は0.881であり、一致度は比較的高いといっている。

今回の方が長かった場面は「道教え」「電報用紙」「荷物預け」「先生」「電灯料」「席ゆずられ」の6場面、他の6場面は前回の反応文の方が長かった。前に各場面内での丁寧さの段階1, 2, 3と長さの関係で、今回は段階1で長くなり、段階3で短くなったと述べたが、この場面全体での長さの前回と今回の差は、場面の丁寧さとはあまり関係ないようである。

場面間の反応文の長さの有意差は「医者」と「電灯料」、「荷物預け」と「道教え」、「道教え」と「議事堂」との間にないだけで、あとは全部ある。ただし5%の危険率が大部分である。長い方に有意差が少ないのは、長い方が分散が大きい故もあるであろう。

なお、丁寧さとは関係ないが、方言形の有無と反応文の長さとの関係を表6-30として作ってみた。これは前回報告書の第161表に相当するものである。

前回の結果では計算した限りではすべての場面で、方言形の方が長い反応文を示していた。今回も傾向としては同様であるが「おつり」だけでは方言形のない方が長くなっていて、これまでの結果と違っている。しかし、今回の「おつり」での差はごく微小であって、ほとんど差はないと言っている。

前回の報告書にもあるように、この事実は前に述べた、方言形が含まれる言

表 6-29 場面の反応文の長さの順と丁寧な順

	人数	平均	分散	順位	丁寧さの順位	前回調査の長さの順位
医者	400	36.230	221.9896	1	1	1
電灯料	396	36.053	287.6412	2	7	2
荷物預け	399	33.371	173.9577	3	2	4
道教え	392	31.171	423.7948	4	10	8
議事堂	398	30.894	172.6672	5	5	3
席ゆずられ	398	26.188	140.1730	6	6	5
おつり	397	23.673	160.6636	7	11	6
電報用紙	397	21.345	90.8054	8	3	10
傘貸し	397	19.559	106.4178	9	9	7
傘忘れ	398	16.173	38.8619	10	4	9
先生	400	12.033	69.3615	11	8	12
魚つり	399	10.679	39.5412	12	12	11

表 6-30 方言形と反応文の長さ

	方言形なし			方言形あり			有意差
	人数	平均	分散	人数	平均	分散	
道教え	358	30.045	391.6014	34	43.029	608.7933	あり>なし
議事堂	364	30.475	155.5296	34	35.382	334.1186	あり=なし
医者	241	23.747	140.2556	156	23.558	192.1697	なし=あり
おつり	370	10.446	38.7335	29	13.655	40.2949	あり>なし
魚つり	314	34.818	172.5371	86	41.384	437.6552	あり>なし

語形式の方が丁寧でないという事実と、長い方が丁寧であるという事実との間で矛盾するようである。しかし、方言形は比較的気楽に調査を受けている人に出がちであり、方言はまたざっくばらんということとも結びついて乱暴な表現になるのであろう。長く話していれば方言的な言語形式が出る確率もまた高くなるに違いない。

6.2. 敬語意識

6.2.1. 敬語の知識

被調査者が敬語についてどの程度の知識をもっているかを知るための調査は前回と全く同じ方法で行った。つまり、ある短文を示して、その文中のどの部分が敬語（つまり、高い敬語形式）であるかを尋ね、その回答をもとに各人の敬語に対する「知識点」を算出した。この調査で用いられた刺激文（設問短文）は、

- (1) 「あの人は駅へ行かれた」
- (2) 「一つお持ち下さい」
- (3) 「きょうはお野菜が安い」
- (4) 「ここにあります」
- (5) 「これはいただいたものだ」
- (6) 「知事のお車はもう駅を出発した」

の6文である。また、点数化は次の基準によっている。まず、正解（短文中の下線または二重線部）を指摘したのものには2点を与え、「敬語はない」と答えたものや正解以外のところだけが敬語だとしたものは0点とする。各問について、その全文が敬語だとしたものは各々1点とする。この他、正解に余計なものがついた回答や、(2)の「お持ち」または「下さい」のように正解の一部だけ

表 6-31 短文別「正解点」分布（全体）

	(6) お 車	(1) 行かれた	(2) お持ち下さい	(5) いた	(3) お 野 菜	(4) あります
2 点	242(60.5)	237(59.3)	188(47.0)	215(53.8)	151(37.8)	82(20.5)
1 点	2(0.5)	1(0.3)	77(19.3)	8(2.0)	0(—)	6(1.5)
0 点	156(39.0)	162(40.5)	135(33.8)	177(44.3)	249(62.3)	312(78.0)
平均点	1.215	1.188	1.133	1.095	0.755	0.425

表 6-32 「お持ち下さい」の分離型回答率
(性, 年齢, 学歴別)

	a お持ち	b 下さい	a + b
男	(15.6)	(4.8)	(20.4)
女	(10.7)	(6.4)	(17.2)
10代後半	(17.4)	(19.6)	(37.0)
20代	(12.8)	(6.4)	(19.3)
30代	(17.4)	(3.5)	(20.9)
40代	(10.0)	(5.7)	(15.7)
50代	(8.6)	(-)	(8.6)
60代以上	(7.4)	(-)	(7.4)
低学歴	(7.3)	(5.7)	(13.0)
中学歴	(18.7)	(4.7)	(23.3)
高学歴	(15.5)	(8.6)	(24.1)

(注) 表中の%は各属性カテゴリーの総数に対する百分率

けを指摘したものは1点とした。

このようにして得られた、短文ごとの得点(以下、「正解点」と呼ぶ)の分布状況を一覧表にしたものが表6-31である。この表でまず目立つことは、1点とされた回答が著しく少ない中で、「(2)お持ち下さい」の1点が例外的に多いことである。この文の1点の内訳をみると、「お持ち」51人(12.8%)、「下さい」23人(5.8%)、「全文」3人(0.8%)となっており、「お持ち」と「下さい」とを分離した回答が大部分を占めている。この「分離型」の回答は属性別のどの層でも程度の差こそあれ一様に現れている(表6-32)。他に比べて回答に迷う短文といえよう。表6-32

をよく見ると、分離型の回答は、年齢が低いほど多くなる傾向があり、最年少層の10代後半と20代との間に顕著な段差が認められる——とりわけ10代後半の「下さい」の割合が大きいことが注目される。また、学歴では低学歴と中学歴との間に断層がみられる。なお、ここで分離型回答率が他より高かったグループは、後に掲げる表6-35の「知識点」が示すように、本書でいう意味での敬語の知識はむしろ他より高い方だといえる。

話を表6-31に戻そう。この表の最上段に配した六つの短文(の略称)は調査時の呈示順ではなく、表の最下段に示した「平均点」の順に並べ換えてある。この平均点は2~0の各正解点に属する人数を基に算出したものであるから、この平均点の高いものほど、その短文に対し本項でいう意味での正解に近いことになる。

六つの短文の平均点をみると、「お車」から「いただいた」までの4文が1点を超えているのに比べて、「お野菜」が0.755、「あります」が0.425と著しく低くなっている。この2文に対する回答の分布を詳しくみると以下のようになっている。

- ◎お野菜 124人 (31.0%) お 27人 (6.8%) 敬語なし 223人 (55.8%)
 無回答 22人 (5.5%) その他 4人 (1.0%)
- ◎あります 63人 (15.8%) ます 19人 (4.8%) 全文 6人 (1.5%)
敬語なし 282人 (70.5%) 無回答 24人 (6.0%) その他 6人 (1.5%)

下線を施した「敬語なし」の割合をみると、「お野菜」が半数以上の56%、「あります」が約7割を占めている。つまり、美化語の「お」や丁寧語の「ます」は敬語と考えられる度合いが低いといえる。これが、この2文の平均点を他より著しく低下させた最大の原因だといえよう。ちなみに、他の4文について「敬語なし」と回答した比率は、「お車」31.0%、「行かれた」31.8%、「お持ち下さい」22.3%、「いただいた」33.0%となっており、先に述べた分離型回答が著しく多い「お持ち下さい」を除くと、この比率と平均点とに完全な逆相関関係が認められている。

次に、性、年齢および学歴と平均点との関係のみてみよう(表6-33)。性別では、「(2)お持ち下さい」の平均点に大きな差がみられる(男0.97点、女1.25点)。この短文に対する回答の分布は次のとおりである(かっこ内の数値は左が男、右が女のパーセント)。

表 6-33 短文別平均「正解」点(性、年齢、学歴別)

	(6) お車	(1) 行かれた	(2) お持ち下さい	(5) いただいた	(3) お野菜	(4) あります
男	(1.311)	(1.222)	(0.970)	(1.048)	(0.778)	(0.365)
女	(1.146)	(1.163)	(1.249)	(1.129)	(0.738)	(0.468)
10代後半	(1.348)	(1.826)	(1.283)	(1.435)	(0.696)	(0.478)
20代	(1.193)	(1.450)	(1.239)	(1.147)	(0.624)	(0.505)
30代	(1.395)	(1.349)	(1.128)	(1.058)	(0.953)	(0.372)
40代	(1.200)	(0.914)	(1.100)	(0.900)	(0.771)	(0.414)
50代	(1.057)	(0.857)	(1.029)	(1.029)	(0.743)	(0.257)
60代以上	(0.981)	(0.426)	(0.907)	(1.056)	(0.778)	(0.426)
低学歴	(1.083)	(0.823)	(0.984)	(0.948)	(0.865)	(0.531)
中学歴	(1.333)	(1.480)	(1.287)	(1.313)	(0.720)	(0.320)
高学歴	(1.345)	(1.621)	(1.224)	(1.017)	(0.483)	(0.345)

お持ち下さい (37.7, 53.6) お持ち (15.6, 10.7) 下さい (4.8, 6.4) 全文 (1.2, 0.4) お (11.4, 3.4) 一つ (0.6, 0.4) 敬語なし (26.3, 19.3) 無回答 (2.3, 5.6)

他の短文では「(6)お車」が男1.31点、女1.15点とやや差があるが、一般的には男女の平均点には差異はないといえよう。なお、男女の平均点の順位相関は0.600とかなり高い相関がみられている。

各短文について年齢別の平均点をみると、一般的に年齢の若い層ほど平均点が高い傾向が認められる。特に「(1)行かれた」は年齢と完全な逆相関をなしており、「(2)お持ち下さい」と「(5)いただいた」もほぼ同じ関係になっている。しかし、「(5)お野菜」だけは10代後半と20代の若年齢層の平均点が他より低くなっている。これは度々ふれたように「敬語なし」という回答がこの年齢層に著しく多いためである(10代後半65.3%, 20代前半78.6%, 20代後半60.4%, 他の年齢層は38.9~54.3%)。

また、年齢層別に短文の平均点の順位をみると、20代および30代は被調査者全体の順位(表6-31参照)と完全に一致している。そこで、この20・30代と他の年齢層との順位相関係数を求めてみると、10代後半0.714, 40代0.943, 50代0.814, 60代以上0.357と、20・30代から遠ざかるにつれて相関が低くなっていることがわかる。このことから、敬語に関する知識のタイプは、ある程度年齢に

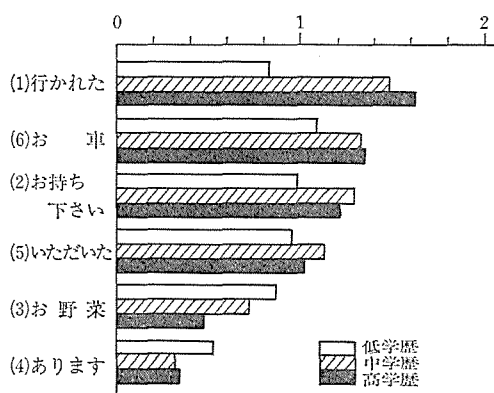


図 6-11 学歴別平均「正解点」分布

よって変化するといえよう。

同様のことは学歴においてもいえる。図6-11は、表6-33の下段の数値を基に高学歴層の順位の順に並べ換えたものである。この図から、中学歴層は高学歴層と同じ傾向にあるが、低学歴層は中・高学歴層とやや分布が異なることがわかる。つまり、低学歴層は、全体としては平均点

が低い「(3)お野菜」と「(4)あります」では他の層より相対的に平均点が高いのに対し、上位の各文での平均点が低い。特に「(1)行かれた」で大きな差が認められる。この差には、「敬語なし」の回答が中・高学歴層の23.5%・15.5%に対して、低学歴層では半数近くの43.2%にのぼっていることが大きく関与している。また、「無回答」が低学歴層に多いことも原因の一つになっている（低学歴13.0%、中学歴1.3%、高学歴0%）。

今まで、短文ごとの平均「正解点」をみてきたが、ここでは、これらの点数を合算して個人ごとに総合点（「知識点」と呼ぶ）を求めてみよう。この「知識点」は0～12点に分布するが、これを5段階にまとめて示すと表6-34のようになる。また、平均「知識点」

表 6-34 「知識点」の分布

点数	今回調査			前回調査
	男	女	全体	全体
0	15(9.0)	25(10.7)	40(10.0)	17(4.2)
1～3	11(6.6)	25(10.7)	36(9.0)	52(12.9)
4～6	81(48.5)	81(34.8)	162(40.5)	125(30.9)
7～9	41(24.6)	61(26.2)	102(25.5)	126(31.2)
10～12	19(11.4)	41(17.6)	60(15.0)	84(20.8)

表 6-35 「知識点」による2回の調査の比較

	今回調査			前回調査			日立本社
	平均	標準偏差	人数	平均	標準偏差	人数	平均
全体	(5.890)	{3.200}	400	(6.525)	{3.107}	406	(5.220)
男	(5.766)	{2.993}	167	(6.417)	{2.997}	204	(5.285)
女	(5.979)	{3.338}	233	(6.634)	{3.211}	202	(5.051)
10代後半	(7.152)	{2.284}	46	(7.039)	{3.110}	77	(4.615)
20代	(6.284)	{2.736}	109	(6.607)	{3.052}	112	(4.853)
30代	(6.326)	{3.297}	86	(6.506)	{2.913}	77	(5.570)
40代	(5.357)	{3.189}	70	(6.391)	{3.247}	64	(6.000)
50代以上	(4.752)	{3.599}	89	(6.013)	{3.173}	75	(5.000)
低学歴	(5.292)	{3.598}	192	(5.448)	{3.484}	87	*
中学歴	(6.520)	{2.707}	150	(6.541)	{2.950}	181	(4.806)
高学歴	(6.241)	{2.548}	58	(7.181)	{2.722}	138	(5.855)

(注) 参考のためにあげた「日立本社」の調査の「低学歴」は人数が少ないため数値が示されていない。また、標準偏差は示されていない。

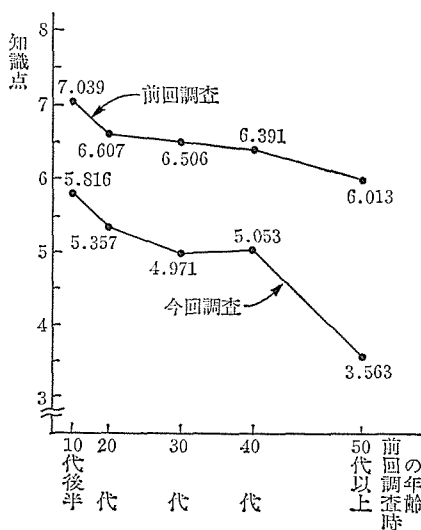


図 6-12 同一年齢集団の「知識点」の20年間の変化

を基に示したのが表 6-35である。以下、表 6-35にしたがって前回調査と今回調査の結果の比較を進める。

被調査者全体についてみると、前回調査の「知識点」が6.53点であったのに比べて今回は5.89点と約0.6点低くなっている。この低下の程度は性別でもほぼ同じであるが、他の属性別では若干異なる。学歴別では、低・中学歴層は僅かに低下した程度であるのに対し、高学歴層は7.18から6.24と1点近くも低くなっている。また、年齢別では40代および50代以上の高年齢層の点数が1点

強の落ち込みをみせているのに対し、若い層ではそれほどではなく、10代後半の年齢層はむしろ今回調査の点数の方がやや大きいくらいである。

ところで、前回調査当時10代後半であった被調査者はそれから約20年を経た今回調査時では30代後半の年齢集団に属しているわけである。そこで、ある年齢集団の者が20歳加齢した場合の「知識点」の移動の状況を見るために、前回調査時の被調査者の年齢を基準に描いたものが図 6-12である。この図を見ると、どの年齢集団でもこの20年間に「知識点」が低下していることがわかる。しかも低下の度合いは、最小でも1.2点、最大では2.4点と著しく大きい。

以上のこと、また表 6-35の右端の調査結果(国立国語研究所報告73『企業の中の敬語』, 1982, 三省堂)からみて、昔に比べて社会一般の敬語の知識が低下しているといえよう。ただし、短文ごとの分析でみたように、「敬語なし」の回答の多寡が「正解点」の大小に直結しており、特に美化語の「お」と丁寧語の「ます」を敬語と意識しない割合が多かったことから考えると、簡単に「敬語の知識が低下した」と言うよりは、「敬語の意識が変化した」と言うべきかも知れない。この点については同一個人の変化を追った「パネル調査」の分

析の項(8.2.「敬語意識」)で再検討することにした。

なお、本調査が個別面接法によっているのに対し、表6-35で参考のために掲げた「日立本社」の調査は自記式のアンケート法である点に注意されたい。

6.2.2. 敬語使用意識

これは人々は実際の行動は別として、自分自身ではどの程度敬語が使える、また使っている、と思うかについて被調査者自身の内省を尋ねたものである。

まず、「202. あなたは目上の人と話をするとき、うまく敬語が使えますか」という質問に対する全体の結果を示す。表6-36は前回調査と今回調査とを対比的に示したものである。これによると、20年前に比べて今回は「うまく使える」と「うまく使えない」の両極の回答がほぼ同じくらい減少し、その分だけ中間の回答が多くなっている。この現象は性別、年齢別、学歴別の多くの層でもみられている(表6-37)。この傾向は、今回調査の前後5年の二つの時期に喧伝されていた「中流階層への帰属意識の拡大化」とどこことなく似ているように思えるがどうだろうか(階層帰属意識については、6.3.6.「階層帰属意識とその決定基準」で取り上げる)。

それはさておき、表6-37をみてみよう。前回の結果(表中の〔 〕内の数値。以下、表6-46までは同様に示す)では、「目上の人に敬語がうまく使える」ものが学歴が高くなるにしたがって多くなり、逆に「うまく使えない」が少なくなっていた。しかし、今回調査では後の方はより顕著になったが、「うまく使える」は低学歴層と中学歴層との間に断層がみられるものの中学歴層と高学歴

表 6-36 目上に対して敬語が使えるか(全体)

	今 回 調 査	前 回 調 査
うま く 使 え る	56(14.0)	90(20.7)
大 体 うま く 使 え る	107(26.8)	186(42.9)
普 通	10(2.5)	
あ ま り うま く 使 え な い	109(27.3)	
うま く 使 え な い	110(27.5)	139(32.0)
無 回 答 ・ そ の 他	8(2.0)	19(4.4)

表 6-37 目上に対して敬語が使えるか (性, 年齢, 学歴別)

	うまく使える	大体うまく使える・あまり使えない	うまく使えない	無回答・その他	人数
男	31(18.6)(25.1)	98(58.7)(40.5)	37(22.5)(30.7)	1(0.6)(3.7)	167(215)
女	25(10.7)(16.4)	128(54.9)(45.2)	73(31.3)(33.3)	7(3.0)(5.0)	233(219)
10代後半	12(26.1)(17.3)	19(41.3)(50.6)	14(30.4)(27.2)	1(2.2)(4.9)	46〔 81〕
20代	8(7.3)(20.7)	72(66.1)(47.4)	29(26.6)(29.3)	0(—)(2.6)	109〔116〕
30代	12(14.0)(21.3)	54(62.8)(53.8)	19(22.1)(23.8)	1(1.2)(1.3)	86〔 80〕
40代	13(18.6)(18.8)	36(51.4)(39.1)	19(27.1)(33.3)	2(2.9)(3.7)	70〔 69〕
50代以上	11(12.4)(25.0)	45(50.6)(22.7)	29(32.6)(46.6)	4(4.5)(5.7)	89〔 88〕
低学歴	19(9.9)(17.6)	100(52.1)(39.9)	68(35.4)(36.8)	5(2.6)(5.7)	192〔296〕
中学歴	28(18.7)(25.9)	86(57.3)(50.0)	35(23.3)(22.2)	1(0.7)(1.9)	150〔108〕
高学歴	9(15.5)(33.3)	40(69.0)(46.7)	7(12.1)(20.0)	2(3.4)(—)	58〔 30〕

(注) [] 内の数値は前回調査の結果

層との間の差はほとんどなくなっている。

また年齢別でみると、中間回答が増加するという全般的な傾向に対して、10代後半だけが逆に両極の回答が増え、中間が半数を下まわっていることが注目される。特に、「うまく使える」という回答が17%から26%に上昇し各属性カテゴリー中の第1位に躍進している。これと反対に、その直後の世代である20代ではこの回答が21%から7%へと激減している。この理由を探るために「うまく使える」について今回調査の結果を5歳きざみでみると、

10代後半	26.1%	20代前半	5.4%	20代後半	9.4%
30代前半	10.4%	30代後半	18.4%	40代前半	18.8%
40代後半	18.4%	50代前半	20.0%	50代後半	10.0%
60代以上	11.1%				

となっている。この結果から次の展開が想像されよう。10代後半の年齢層の大半は学生であるから日常ことば使いについてあまり注意されない。したがって、自分は「うまく使える」と思っている。ところが20代前半で社会に出ると上司や先輩から度々注意され自信を喪失し、「うまく使える」と思う者は僅か5%に激減する。その後の社会生活の中で徐々にことば使いを学習し、30代後

半以降は自信をもつ人々の割合が一定の数値に落ち着く。そして、老人になると目上の人と話す機会が少なく、したがって「うまく使える」割合も低下する。

表 6-38 家族どうして敬語を使うか (全体)

	今回調査	前回調査
使　　う	20(5.0)	161(37.1)
ときに使う	72(18.0)	
使わない	298(74.5)	258(59.4)
無 回 答	10(2.5)	15(3.5)

表 6-39 家族どうして敬語を使うか(性,年齢,学歴別)

次に、「204. お宅では家族の方の間で、敬語を使うことがありますか。それとも家族どうしでは、敬語は使いませんか」という質問に対する回答をみてみよう。全体の結果は表 6-38 に示すように、この20年間では家族どうしでは敬語を「使わない」比率が59%から75%と16%増加している。

	(ときに)使う	使わない	無 回 答
男	30(18.0)(30.7)	136(81.4)(66.0)	1(0.6)(3.3)
女	62(26.6)(43.4)	162(69.5)(53.0)	9(3.9)(3.7)
10代後半	9(19.6)(37.0)	37(80.4)(60.5)	0(-)(2.5)
20 代	24(22.0)(35.3)	83(76.1)(63.8)	2(1.8)(0.9)
30 代	24(27.9)(43.8)	61(70.9)(55.0)	1(1.2)(1.3)
40 代	18(25.7)(34.8)	49(70.0)(60.9)	3(4.3)(4.3)
50代以上	17(19.1)(35.2)	68(76.4)(55.7)	4(4.5)(9.1)
低学歴	29(15.1)(34.1)	155(80.7)(61.1)	8(4.2)(4.7)
中学歴	40(26.7)(43.5)	108(72.0)(55.6)	2(1.3)(0.9)
高学歴	23(39.7)(43.3)	35(60.3)(56.7)	0(-)(-)

この項目について属性別に示した結果が表 6-39 である。前回と今回の両調査結果を比べると、学歴でやや違いがみられる。つまり、前回調査では家族どうして敬語を「使う」割合は低学歴層と中・高学歴層の間だけで線が引かれていたが、今回調査ではこれに加えて、新たに中学歴層と高学歴層にも差がみられ、学歴が上昇するに伴い「使う」人が多くなっていることがわかる。また、前回「使う」にやや差があった性別の要因が今回あまり効かなくなっていることが指摘できよう。

6.2.3. 敬語に対する意見 1

この調査では、敬語に対する意見を尋ねたものが6項目ある。そのうちの4

表 6-40 人称代名詞は使い分けた方がいいか

	使い分けた方がいい	使い分けない方がいい	どちらでもいい	無 回 答
全 体	313(78.3)(61.5)	70(17.5)(32.3)	10(2.5)(1.4)	7(1.8)(4.8)
男	125(74.9)(61.9)	34(20.4)(34.9)	5(3.0)(0.5)	3(1.8)(2.8)
女	188(80.7)(61.2)	36(15.5)(29.7)	5(2.1)(2.3)	4(1.7)(6.8)
10代後半	40(87.0)(58.0)	6(13.0)(38.3)	0(—)(—)	0(—)(3.7)
20 代	84(77.1)(63.8)	17(15.6)(31.9)	7(6.4)(2.6)	1(0.9)(1.7)
30 代	68(79.1)(65.0)	18(20.9)(28.8)	0(—)(2.5)	0(—)(3.8)
40 代	52(74.3)(56.5)	16(22.9)(34.8)	1(1.4)(1.4)	1(1.4)(7.2)
50代以上	69(77.5)(62.5)	13(14.6)(28.4)	2(2.2)(—)	5(5.6)(9.1)
低学歴	146(76.0)(59.5)	34(17.7)(32.8)	7(3.6)(1.0)	5(2.6)(6.8)
中学歴	122(81.3)(63.9)	23(15.3)(33.3)	3(2.0)(1.9)	2(1.3)(0.9)
高学歴	45(77.6)(73.3)	13(22.4)(23.3)	0(—)(3.3)	0(—)(—)

問は敬語一般について質問したものであり、残りの2問は敬語のうち人称代名詞と美化語の「お」に限定してその使い方を問うたものである。敬語一般への意見は後の6.2.4.でみることにし、ここでは後者について述べる。

まず、場合や相手による人称代名詞の使い分けに対する賛否(問209)からみてみよう。結果は表6-40にみられるように、前回調査で既に6割を超えていた使い分けを支持する意見が今回は8割弱とさらに多くなっている。この傾向は属性別にみてもほぼ一致しており、また今回調査の2年後の大都市の調査結果とも比較的似ている。したがって、現代の日本人は人称代名詞の使い分けの現実を肯定しているといえよう。なお、大都市の調査結果については、国立国語研究所報告70『大都市の言語生活』(三省堂、1981年)を参照されたい。

次に、美化語の「お」の使用に対する意見をみよう。設問は「206. 東京の女の子などは、このごろ何にでもオをつけるようです。たとえば、人参のことをオ人参、目鏡のことをオ目鏡と言っています。岡崎でもこのようにオをつけるほうがいいでしょうか。それともこのようにオをつけるのはよくないでしょうか」というものである。

これに対する意見は表6-41に示すとおりである。前回調査では、「つけない方」を支持する意見は男(70%)と女(56%)とで差が認められていたが、今

表 6-41 「お」をつけること

	つけた方がいい	ものによる	つけない方がよい	どちらでもいい	無回答
全体	6 (1.5) [12.7]	47 (11.8) [20.3]	336 (84.0) [62.9]	9 (2.3) [1.4]	2 (0.5) [2.8]
男	3 (1.8) [12.6]	14 (8.4) [13.5]	142 (85.0) [70.2]	7 (4.2) [1.4]	1 (0.6) [2.3]
女	3 (1.3) [12.8]	33 (14.2) [26.9]	194 (83.3) [55.7]	2 (0.9) [1.4]	1 (0.4) [3.2]
10代後半	0 (—) [16.0]	4 (8.7) [18.5]	40 (87.0) [64.2]	2 (4.3) [—]	0 (—) [1.2]
20代	0 (—) [12.9]	10 (9.2) [17.2]	96 (88.1) [67.2]	3 (2.8) [1.7]	0 (—) [0.9]
30代	0 (—) [10.0]	8 (9.3) [23.8]	75 (87.2) [63.8]	3 (3.5) [1.3]	0 (—) [1.3]
40代	0 (—) [13.0]	6 (8.6) [24.6]	64 (91.4) [56.5]	0 (—) [—]	0 (—) [5.8]
50代以上	6 (6.7) [11.4]	19 (21.3) [19.3]	61 (68.5) [60.2]	1 (1.1) [3.4]	2 (2.2) [5.7]
低学歴	6 (3.1) [15.5]	24 (12.5) [20.6]	153 (79.7) [58.4]	7 (3.6) [1.4]	2 (1.0) [4.1]
中学歴	0 (—) [6.5]	18 (12.0) [23.1]	130 (86.7) [70.4]	2 (1.3) [—]	0 (—) [—]
高学歴	0 (—) [6.7]	5 (8.6) [6.7]	53 (91.4) [80.0]	0 (—) [6.7]	0 (—) [—]

回調査ではともに80数%と性別による差はなくなっている。また、前回顕著にみられた学歴別による意見の違いは、今回はその傾向を残しつつも絶対差が小さくなるなど、全体的に「つけない方」を支持する方向に寄っている。

一方、「つけた方がいい」という意見をみると、前回の12.7%から今回は僅か1.5%（6人）と激減している。しかも、これを支持する者は全員50代以上——正確には、60代後半以上の年齢層と片寄っている点が注目される。

なお、美化語「お」については、6.2.1.「敬語の知識」で述べたように、これを敬語と意識しない人が今回調査では6割近くいたが、これが「オをつけない方がいい」とする意見の増加に結びついていることが考えられる。

6.2.4. 敬語に対する意見2

ここでは、6.2.3.と異なり、敬語一般という形で示し、それに対する意見を求めた4項目について結果を示す。

表6-42は、「203. 昔（戦前）の敬語の使い方と、今の敬語の使い方とでは、どちらがいいと思いますか」と尋ねた結果である。

前回と今回の結果を比較すると、被調査者全体の結果では両者の数値は非常によく似ているといえる。しかし、属性別にみると、いくつかの点で異なっているが、最も大きな違いは性別による意見分布である。すなわち、前は「昔がいい」は男の方に、「今がいい」は女の方に多く支持されていたが、今回の結果ではそれが逆になっている。このような逆転現象を起こさせた理由の解明については今後の検討課題といえよう。

また、年齢別の結果をみると、2回の調査ともに若い層は「今」、年とった層は「昔」の敬語を支持するという点では変わらないが、前回調査ではその境界域が20代とはっきりしていたのに対して、今回はややあいまいになっている。しかし、表をよく見ると、今回の境界域は40代にあるともいえる。もし、境界域が20代から40代へ移行したとすれば、両者の年齢差は奇しくも2回の調査間隔に一致する。そこで、図6-12と同じ方法で描かれた図6-13を基にみてもみる。ただし、図では「昔の敬語がいい」と「今の敬語がいい」に対する支持

表 6-42 敬語は昔と今とどちらがいいか

	昔の方がいい	昔の方がいいものも 今の方がいいものもある	今の方がいい	昔も今も同じ	無回答・その他
全体	141 (35.3) [38.9]	34 (8.5) [6.2]	130 (32.5) [29.3]	16 (4.0) [7.4]	79 (19.8) [18.2]
男	49 (29.3) [41.9]	12 (7.2) [6.0]	70 (41.9) [25.6]	4 (2.4) [8.4]	32 (19.2) [18.1]
女	92 (39.5) [36.1]	22 (9.4) [6.4]	60 (25.8) [32.9]	12 (5.2) [6.4]	47 (20.2) [18.3]
10代後半	11 (23.9) [14.8]	2 (4.3) [2.5]	21 (45.7) [45.7]	0 (—) [2.5]	12 (26.1) [34.6]
20代	28 (25.7) [34.5]	9 (8.3) [4.3]	33 (30.3) [33.6]	2 (1.8) [6.9]	37 (33.9) [20.7]
30代	24 (27.9) [50.0]	6 (7.0) [6.3]	35 (40.7) [27.5]	4 (4.7) [6.3]	17 (19.8) [10.0]
40代	26 (37.1) [50.7]	9 (12.9) [14.5]	24 (34.3) [15.9]	5 (7.1) [7.2]	6 (8.6) [11.6]
50代以上	52 (53.4) [47.7]	8 (9.0) [5.7]	17 (19.1) [20.5]	5 (5.6) [13.6]	7 (7.9) [12.5]
低学歴	80 (41.7) [40.2]	16 (8.3) [4.4]	52 (27.1) [29.4]	11 (5.7) [7.1]	33 (17.2) [18.9]
中学歴	42 (23.0) [35.2]	16 (10.7) [10.2]	55 (36.7) [30.6]	4 (2.7) [5.6]	33 (22.0) [18.5]
高学歴	19 (32.8) [40.0]	2 (3.4) [10.0]	23 (39.7) [23.3]	1 (1.7) [16.7]	13 (22.4) [10.0]

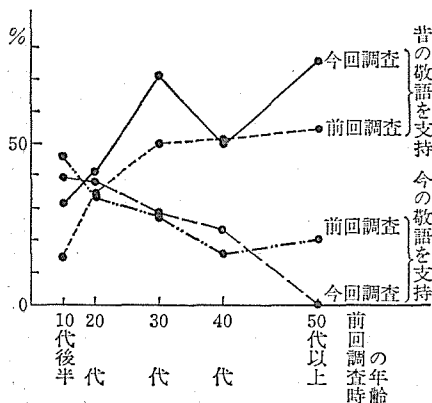


図 6-13 同一年齢集団の「今と昔の敬語」の支持率の20年間の変化

率のみを示してある。

この図を見ると、「今」と「昔」のそれぞれの敬語の支持の分岐は2回の調査とも同じ所で生じていることがわかる。つまり、境界域は前回調査の20代であり、この集団が20年加齢した分だけ今回調査での境界域が移動したといえよう。

また、この図で今回調査の

人数が極端に少なかった70代（前回調査の50代以上にあたる）の所を除いて、図全体を見ると、2回の調査での「今」と「昔」との支持曲線——特に「今」の曲線は非常によく似ているといえよう。このことから、今の敬語、昔の敬語への支持の傾向は年をとってもさほど変化しないとみることもできよう。ただし、これは集団としての意見変容のレベルとしての話であり、個々人の意見についてはこの資料だけでは何ともいえない。この点については「パネル調査」の分析の項（8.2.「敬語の意識」）で検討したい。

なお、表6-42の「無回答・その他」の19.2%のうちの14.8%は「昔の敬語は知らない」という回答である。この回答は当然のことながら年齢の若い層にのみみられるものである。参考までにその数値を示すと、10代後半23.9%、20代30.3%、30代17.4%、40代以上0%となっている。

次に、「207. 家の中でも、年長の人や目上の人には敬語を使わなければならないでしょうか。それとも家の中では使わなくてもいいでしょうか」という問に対する意見をみてみよう。表6-43はその結果である。

前回調査では「使うべきだ」という意見が42%と第1位であったが、今回はこの意見が半減し、その減少分を取り込んだ形で増加した「使わなくてもいい」が過半数を制している。また、属性別で前回みられた年齢と意見との顕著

表 6-43 家の中でも敬語を使うべきか

	使うべきだ	時・場合・相手による	使わなくてもいい	無回答
全体	80(20.0)[42.4]	91(22.8)[23.5]	220(55.0)[30.6]	9(2.3)[3.5]
男	27(16.2)[42.3]	37(22.2)[20.0]	100(59.9)[34.0]	3(1.8)[3.7]
女	53(22.7)[42.5]	54(23.2)[26.9]	120(51.5)[27.4]	6(2.6)[3.2]
10代後半	9(19.6)[34.6]	4(8.7)[23.5]	32(69.6)[33.3]	1(2.2)[3.7]
20代	20(18.3)[39.7]	27(24.8)[19.8]	62(56.9)[37.9]	0(—)[2.6]
30代	17(19.8)[42.5]	22(25.6)[33.8]	45(52.3)[23.8]	2(2.3)[—]
40代	16(22.9)[47.8]	18(25.7)[27.5]	36(51.4)[18.8]	0(—)[5.8]
50代以上	18(20.2)[48.9]	20(22.5)[15.9]	45(50.6)[29.5]	6(6.7)[5.7]
低学歴	36(18.8)[42.2]	46(24.0)[21.3]	104(54.2)[32.1]	6(3.1)[4.4]
中学歴	28(18.7)[38.9]	33(22.0)[31.5]	87(58.0)[27.8]	2(1.3)[1.9]
高学歴	16(27.6)[56.7]	12(20.7)[16.7]	29(50.0)[26.7]	1(1.7)[—]

表 6-44 家族内での敬語使用の意識と意見との相関表

207問 \ 204問	使うべきだ	時・場合・相手による	使わなくてもいい	無回答	計
使うとき	9(2.3)	6(1.5)	4(1.0)	1(0.3)	20
使わない	26(6.5)	29(7.3)	17(4.3)		72
無回答	44(11.0)	56(14.0)	195(48.8)	3(0.8)	298
無回答	1(0.3)		4(1.0)	5(1.3)	10
計	80	91	220	9	400

(注) %は全体(400人)を100としたもの。

な相関関係(高齢者ほど「使うべきだ」と主張)が今回は全く認められなくなっている。

なお、この設問 207 と 6.2.2. で示した設問 204 との相関、つまり、家族内で「敬語を使うべきか」と「敬語を使うか」との関係を見ると表 6-44 (今回調査の被調査者全体の結果) のようになる。

この表から、家族どうしでの敬語使用の意見と意識とには極めて高い相関があると見える。

最後に、二つの逆の立場から誘導した上で、今後の敬語使用の量はどうか

表 6-45 「敬語を減らす」方向への誘導質問に対する意見

	減らした方がいい	一概に言えない	今のままでいい	この意見はおかしい	ふやす	無回答
全体	111 (27.8) [37.1]	96 (24.0) [27.0]	79 (19.8) [22.1]	103 (25.8) [2.5]	1 (0.3) [6.5]	10 (2.5) [4.8]
男	52 (31.1) [43.7]	41 (24.6) [25.6]	28 (16.8) [18.6]	42 (25.1) [2.8]	0 (—) [5.1]	4 (2.4) [4.2]
女	59 (25.3) [30.6]	55 (23.6) [28.3]	51 (21.9) [25.6]	61 (26.2) [2.3]	1 (0.4) [7.8]	6 (2.6) [5.5]
10代後半	9 (19.6) [35.8]	6 (13.0) [14.8]	13 (28.3) [34.6]	17 (37.0) [3.7]	0 (—) [6.2]	1 (2.2) [4.9]
20代	19 (17.4) [32.8]	23 (21.1) [31.9]	34 (31.2) [21.6]	31 (28.4) [3.4]	0 (—) [7.8]	2 (1.8) [2.6]
30代	19 (22.1) [32.5]	26 (30.2) [36.3]	19 (22.1) [18.8]	21 (24.4) [2.5]	1 (1.2) [8.8]	0 (—) [1.3]
40代	29 (41.4) [36.2]	18 (25.7) [33.3]	3 (4.3) [15.9]	20 (28.6) [2.9]	0 (—) [5.8]	0 (—) [5.8]
50代以上	35 (39.3) [48.9]	23 (25.8) [18.2]	10 (11.2) [19.3]	14 (15.7) [—]	0 (—) [3.4]	7 (7.9) [10.2]
低学歴	74 (38.6) [40.5]	42 (21.9) [22.6]	33 (17.2) [19.9]	32 (16.7) [2.7]	1 (0.5) [7.1]	10 (5.2) [7.1]
中学歴	29 (19.3) [30.6]	39 (26.0) [33.3]	37 (24.7) [29.6]	45 (30.0) [0.9]	0 (—) [5.6]	0 (—) [—]
高学歴	8 (13.8) [26.7]	15 (25.9) [46.7]	9 (15.5) [16.7]	26 (44.8) [6.7]	0 (—) [3.3]	0 (—) [—]

表 6-46 「敬語を盛んに使う」方向への誘導質問に対する意見

	盛んに使うべし	一概に言えない	今のままでいい	この意見はおかしい	減らす	無回答
全体	62 (16.5) [29.0]	183 (45.8) [39.9]	64 (16.0) [19.8]	78 (19.5) [2.1]	6 (1.5) [4.8]	7 (1.8) [4.4]
男	24 (14.4) [27.0]	75 (44.9) [38.6]	20 (12.0) [20.5]	43 (25.7) [2.3]	3 (1.8) [6.5]	2 (1.2) [5.1]
女	38 (16.3) [31.1]	108 (46.4) [41.1]	44 (18.9) [19.2]	35 (15.0) [1.8]	3 (1.3) [3.2]	5 (2.1) [3.7]
10代後半	10 (21.7) [29.0]	22 (47.8) [23.5]	4 (8.7) [30.9]	10 (21.7) [3.7]	0 (—) [7.4]	0 (—) [2.5]
20代	16 (14.7) [31.0]	46 (42.2) [42.2]	18 (16.5) [19.5]	27 (24.8) [—]	2 (1.8) [4.3]	0 (—) [2.6]
30代	9 (10.5) [27.5]	47 (54.7) [52.5]	15 (17.4) [15.0]	13 (15.1) [1.3]	2 (2.3) [2.5]	0 (—) [1.8]
40代	9 (12.9) [27.5]	29 (41.4) [37.7]	14 (20.0) [18.8]	18 (25.7) [2.9]	0 (—) [5.8]	0 (—) [7.2]
50代以上	18 (20.2) [26.1]	39 (43.8) [42.0]	13 (14.6) [14.8]	10 (11.2) [3.4]	2 (2.2) [4.5]	7 (7.9) [9.1]
低学歴	32 (16.7) [33.4]	81 (42.2) [34.5]	37 (19.3) [18.2]	33 (17.2) [2.0]	2 (1.0) [5.4]	7 (3.6) [6.4]
中学歴	21 (14.0) [22.2]	77 (51.3) [50.0]	23 (15.3) [23.1]	27 (18.0) [1.9]	2 (1.3) [2.8]	0 (—) [—]
高学歴	9 (15.5) [10.0]	25 (43.1) [56.7]	4 (6.9) [23.3]	18 (31.0) [3.3]	2 (3.4) [6.7]	0 (—) [—]

べきかを尋ねた結果をみてみよう。二つの質問文は次のとおりである。

一つは、「205. 敬語を使うと、どうしても話が長くなりがちです。しかし、世の中はこれからますます忙しくなっていくと思います。そこで敬語を使うことを、だんだん少なくしていったほうがいいと思いますが、どうでしょうか」というものであり、これは敬語を減らす方向へ誘導した設問である。

もう一つは、「208. 敬語を使って話すと、上品に聞こえますし、また、話し相手によっては敬語を使うのがあたりまえです。そこで、だれもが敬語をさかんに使ったほうがいいと思いますが、どうでしょうか」であり、205問とは反対の方向へ導こうとするものである。

表6-45は減らす方向へバイアスをかけた場合(205問)の結果である。前回調査では、誘導どおりの意見、つまり「減らした方がいい」が第1位(37%)で、「一概に言えない」(27%)、「今のままでいい」(22%)がこれに次いでいる。ところが今回はこの3者に「この意見はおかしい」が割って入っている点に大きな特徴がみられる。「この意見はおかしい」すなわち設問の前提に疑問を投げかけるものは、前回の3%から今回は26%に増えている。このような批判意見を属性別にみると、性別では差がないが、年齢別や学歴別では予想される方向になっている——年齢では若い方が、学歴では高い方がより批判的である。これに対して、誘導どおりの意見は2回の結果とも高年齢層と低学歴層とに多くなっている。

次に、これと反対の方向にバイアスをかけた場合(208問)の意見をみよう。この質問に対する回答は表6-46にみられるように、先の205問とは異なり、2回の調査とも「一概に言えない」がそれぞれ40%、46%で第1位となっている。一方、誘導どおりの「盛んに使うべし」という意見は、前回の29%から今回は16%に減少している。また、属性別では前回は年齢・学歴とも低い方が使う方向に引きずられていたが、今回は特別目立つ傾向はなく一様に「盛んに使うべし」の意見が低下していることが注目される。

なお、逆方向にバイアスをかけた両問に対する意見の相関表を示すと表6-47ようになる。この表から、完全にバイアスに引きずられた、つまり205問で「減らすべし」とし、208問で「盛んに使うべし」とした被調査者は全体で

表 6-47 誘導的設問間の相関表

208問 205問	盛んに 使うべし	一概には 言えない	今のまま でいい	この意見は おかしい	減らす	無回答	計
減らす	19	37	24	27	4		111
一概には 言えない	9	61	8	18			96
今のままでいい	12	30	24	11	1	1	79
この意見は おかしい	21	53	7	21	1		103
ふやす	1						1
無回答		2	1	1		6	10
計	62	183	64	78	6	7	400

19人(4.9%)にすぎないことがわかる。この19人の属性をみると、予想どおり高年齢層と低学歴層に多いが何分人数が少ないので断言はしがたい。また、両問で意見が一致していた者は、無回答者を除くと、111人の28.5%となっている。なお、前回調査でバイアスに引きずられた者の数は不明であるが、その報告書に記された上野市の調査では20.8%と今回調査の結果を大きく上回っている(287ページ参照)。

6.3. 社会生活意識

1.2. 「調査の構成・実施」で述べたように、「社会生活調査」は郵送留置法によって実施された。この調査票に含まれる項目のうち、属性に関するものはすでにみてきたとおりである。ここではマスコミ接触，行動範囲，交際，社会意識に関する項目について調査結果を示すことにする。

6.3.1. マスコミ接触

前回調査では，新聞・映画・ラジオ（ニュース）・雑誌などとの接触が取り上げられていたが，今回調査では，新聞だけについて調査が行われた（質問12）。表6-48は，どのくらい新聞を読むかを，性・年齢・学歴別に集計したものである。「毎日読む」という回答は全体の70%弱になっている。前回調査に

表 6-48 新聞を読むか

	毎日読む	ときどき読む	全然読まない	無記入	全 体
男	134(80.2)	23(13.8)	4(2.4)	6(3.6)	167
女	136(58.4)	80(34.3)	12(5.2)	5(2.1)	233
10代後半	20(43.5)	25(54.3)	1(2.2)	—	46
20代	77(70.6)	28(25.7)	3(2.8)	1(0.9)	109
30代	65(75.6)	13(15.1)	3(3.5)	5(5.8)	86
40代	53(75.7)	11(15.7)	1(1.4)	5(7.1)	70
50代	28(80.0)	5(14.3)	2(5.7)	—	35
60代以上	27(50.0)	21(38.9)	6(11.1)	—	54
低学歴	115(59.9)	58(30.2)	13(6.8)	6(3.1)	192
中学歴	109(72.7)	35(23.3)	2(1.3)	4(2.7)	150
高学歴	46(79.3)	10(17.2)	1(1.7)	1(1.7)	58
全 体	270(67.5)	103(25.8)	16(4.0)	11(2.8)	400

表 6-49 購読新聞

	全国紙	地方紙	両方	その他	無記入	全体
男	27(16.2)	94(56.3)	16(9.6)	26(15.6)	4(2.4)	167
女	41(17.6)	150(64.4)	14(6.0)	12(5.2)	16(6.9)	233
10代後半	6(13.0)	35(76.1)	2(4.3)	2(4.3)	1(2.2)	46
20代	26(23.9)	59(54.1)	10(9.2)	10(9.2)	4(3.7)	109
30代	17(19.8)	48(55.8)	6(7.0)	11(12.8)	4(4.7)	86
40代	8(11.4)	46(65.7)	5(7.1)	10(14.3)	1(1.4)	70
50代	4(11.4)	23(65.7)	3(8.6)	3(8.6)	2(5.7)	35
60代以上	7(13.0)	33(61.1)	4(7.4)	2(3.7)	8(14.8)	54
低学歴	16(8.3)	136(70.8)	8(4.2)	18(9.4)	14(7.3)	192
中学歴	38(25.3)	80(53.3)	14(9.3)	14(9.3)	4(2.7)	150
高学歴	14(24.1)	28(48.3)	8(13.8)	6(10.3)	2(3.4)	58
全体	68(17.0)	244(61.0)	30(7.5)	38(9.5)	20(5.0)	400

表 6-50 購読新聞部数

	1紙	2紙	3紙以上	無記入	全体
男	123(73.7)	28(16.8)	12(7.2)	4(2.4)	167
女	188(80.7)	27(11.6)	2(0.9)	16(6.9)	233
10代後半	43(93.5)	2(4.3)	—	1(2.2)	46
20代	87(79.8)	16(14.7)	2(1.8)	4(3.7)	109
30代	65(75.6)	9(10.5)	8(9.3)	4(4.7)	86
40代	53(75.7)	15(21.4)	1(1.4)	1(1.4)	70
50代	28(80.0)	3(8.6)	2(5.7)	2(5.7)	35
60代以上	35(64.8)	10(18.5)	1(1.9)	8(14.8)	54
低学歴	150(78.1)	25(13.0)	3(1.6)	14(7.3)	192
中学歴	119(79.3)	21(14.0)	6(4.0)	4(2.7)	150
高学歴	42(72.4)	9(15.5)	5(8.6)	2(3.4)	58
全体	311(77.8)	55(13.8)	14(3.5)	20(5.0)	400

19人比べて、「毎日読む」が減り、「ときどき読む」が増えている（前回調査では、毎日読む72.4%、ときどき読む15.9%、全然読まない7.4%、不明4.4%となっている）。属性別にみると、女性よりは男性が、また学歴の低い方より高い方がよく読んでいるのがわかる。年齢別にみると、60代以上を除くと、年齢の高い方がよく読んでいる。

購読紙および購読部数は表6-49、表6-50のとおりである。地方紙を読む人が61%と多数を占め、全国紙を読んでいる人は17%にすぎない。購読部数では、「1紙」が78%と大多数を占めている。ちなみに、購読部数の最高は7紙であった。

6.3.2. 行動範囲

愛知県外への旅行および名古屋への外出回数は表6-51、表6-52のとおりである（質問10、11）。県外への旅行回数では、「4回以上」が31%となり、前回調査の6.2%を大きく上回っている。「1～3回」も前回調査の30%を約10%は

表 6-51 県外への旅行回数

	1～3回	4回以上	いかない 無記入	全体
男	69(41.3)	71(42.5)	27(16.2)	167
女	96(41.2)	53(22.7)	84(36.1)	233
10代後半	22(47.8)	10(21.7)	14(30.4)	46
20代	42(38.5)	49(45.0)	18(16.5)	109
30代	37(43.0)	28(32.6)	21(24.4)	86
40代	29(41.4)	18(25.7)	23(32.9)	70
50代	16(45.7)	7(20.0)	12(34.3)	35
60代以上	19(35.2)	12(22.2)	23(42.6)	54
低学歴	81(42.2)	40(20.8)	71(37.0)	192
中学歴	62(41.3)	54(36.0)	34(22.7)	150
高学歴	22(37.9)	30(51.7)	6(10.3)	58
全体	165(41.3)	124(31.0)	111(27.8)	400

表 6-52 名古屋への外出回数

	1～2回	3～5回	6～10回	11～30回	31回～毎日	いかない 無記入	全体
男	25(15.0)	16(9.6)	20(12.0)	25(15.0)	42(25.1)	39(23.4)	167
女	35(15.0)	47(20.2)	30(12.9)	19(8.2)	14(6.0)	88(37.8)	233
10代後半	15(32.6)	7(15.2)	6(13.0)	4(8.7)	3(6.5)	11(23.9)	46
20代	14(12.8)	17(15.6)	16(14.7)	11(10.1)	25(22.9)	26(23.9)	109
30代	12(14.0)	12(14.0)	11(12.8)	9(10.5)	13(15.1)	29(33.7)	86
40代	8(11.4)	13(18.6)	7(10.0)	10(14.3)	10(14.3)	22(31.4)	70
50代	1(2.9)	9(25.7)	6(17.1)	5(14.3)	2(5.7)	12(34.3)	35
60代以上	10(18.5)	5(9.3)	4(7.4)	5(9.3)	3(5.6)	27(50.0)	54
低学歴	35(18.2)	28(14.6)	20(10.4)	14(7.3)	12(6.3)	83(43.2)	192
中学歴	22(14.7)	20(13.3)	19(12.7)	23(15.3)	29(19.3)	37(24.7)	150
高学歴	3(5.2)	15(25.9)	11(19.0)	7(12.1)	15(25.9)	7(12.1)	58
全体	60(15.0)	63(15.8)	50(12.5)	44(11.0)	56(14.0)	127(31.8)	400

表 6-53 旅行(県外へ)の用事

	私用	公用	私用・公用とも	いかない 無記入	全体
男	82(49.1)	29(17.4)	29(17.4)	27(16.2)	167
女	130(55.8)	1(0.4)	9(3.9)	93(39.9)	233
10代後半	28(60.9)	1(2.2)	3(6.5)	14(30.4)	46
20代	67(61.5)	8(7.3)	13(11.9)	21(19.3)	109
30代	46(53.5)	7(8.1)	10(11.6)	23(26.7)	86
40代	28(40.0)	10(14.3)	8(11.4)	24(34.3)	70
50代	16(45.7)	2(5.7)	3(8.6)	14(40.0)	35
60代以上	27(50.0)	2(3.7)	1(1.9)	24(44.4)	54
低学歴	92(47.9)	12(6.3)	10(5.2)	78(40.6)	192
中学歴	89(59.3)	9(6.0)	16(10.7)	36(24.0)	150
高学歴	31(53.4)	9(15.5)	12(20.7)	6(10.3)	58
全体	212(53.0)	30(7.5)	38(9.5)	120(30.0)	400

ど上回り、全体として行動範囲が広がっている様子がうかがえる。また、属性別にみると、男性、20代および学歴の高い方が多く旅行しているのがわかる。表6-53に、県外への旅行の用事を示した。全体の50%以上は「私用」の旅行である。女性に比べて男性の「公用」が多くなっているのは当然のことであろう。

名古屋への外出回数をみると、全体として少しずつ前回調査を上回っている。「3～5回」の率は女性が高くなっているが、「11～30回」およびそれ以上のところでは男性の率が高くなっている。県外、名古屋を問わず、男性の方が多く旅行しているわけで、前回調査の結果同様、女性の方が生活空間が狭いといえそうである。

6.3.3. 交 際

表6-54から表6-57の4表は、「他人との交際」について、性・年齢別に集計したものである(質問14)。

「公式の会合」は、町内の行事や仕事の関係で公式の会合によく出席するかどうかを尋ねたものである(表6-54)。前回調査では、出席する方13.6%、ふつう59.7%、出席しない方25.1%、無記入1.6%であった。「ふつう」が減り、

表 6-54 公式の会合

	出席するほう	ふつう	出席しないほう	無記入	全体
男	39(23.4)	66(39.5)	61(36.5)	1(0.6)	167
女	34(14.6)	61(26.2)	121(51.9)	17(7.3)	233
10代後半	2(4.3)	7(15.2)	25(54.3)	12(26.1)	46
20代	11(10.1)	29(26.6)	65(59.6)	4(3.7)	109
30代	16(18.6)	37(43.0)	32(37.2)	1(1.2)	86
40代	22(31.4)	24(34.3)	23(32.9)	1(1.4)	70
50代	8(22.9)	11(31.4)	16(45.7)	—	35
60代以上	14(25.9)	19(35.2)	21(38.9)	—	54
全体	73(18.3)	127(31.8)	182(45.5)	18(4.5)	400

表 6-55 宴会・旅行

	好き	ふつう	きらい	無記入	全体
男	61(36.5)	84(50.3)	21(12.6)	1(0.6)	167
女	73(31.3)	107(45.9)	45(19.3)	8(3.4)	233
10代後半	14(30.4)	16(34.8)	11(23.9)	5(10.9)	46
20代	29(26.6)	58(53.2)	20(18.3)	2(1.8)	109
30代	26(30.2)	47(54.7)	11(12.8)	2(2.3)	86
40代	26(37.1)	35(50.0)	9(12.9)	—	70
50代	16(45.7)	14(40.0)	5(14.3)	—	35
60代以上	23(42.6)	21(38.9)	10(18.5)	—	54
全体	134(33.5)	191(47.8)	66(16.5)	9(2.3)	400

表 6-56 汽車の中で

	話しかける	黙っている	無記入	全体
男	49(29.3)	116(69.5)	2(1.2)	167
女	59(25.3)	166(71.2)	8(3.4)	233
10代後半	9(19.6)	35(76.1)	2(4.3)	46
20代	26(23.9)	82(75.2)	1(0.9)	109
30代	22(25.6)	60(69.8)	4(4.7)	86
40代	17(24.3)	52(74.3)	1(1.4)	70
50代	9(25.7)	25(71.4)	1(2.9)	35
60代後半	25(46.3)	28(51.9)	1(1.9)	54
全体	108(27.0)	282(70.5)	10(2.5)	400

「出席しない方」の率が、前回調査より20%も増えている点が注目されよう。女性より男性の方が、「出席する方」の率が高く、「出席しない方」の率が低いのは、前回調査と同様である（前回調査の報告書58～59ページ参照）。

「宴会・旅行」は、近所の人や勤め先の人などと宴会・旅行をいっしょにするのが好きかどうかを尋ねたものである（表6-55）。結果は、「好き」が33.5%、「きらい」が16.5%となり前回とよく似た分布を示している。男性より女性の方が「きらい」の率が高く、「好き」の率が低いが、前回調査と比べて差は小さくなっている。

表 6-57 交際範囲

	広い	ふつう	狭い	無記入	全体
男	30(13.0)	102(61.1)	35(21.0)	—	167
女	29(12.4)	137(58.8)	66(28.3)	1(0.4)	233
10代後半	8(17.4)	28(60.9)	9(19.6)	1(2.2)	46
20代	14(12.8)	70(64.2)	25(22.9)	—	109
30代	8(9.3)	52(60.5)	26(30.2)	—	86
40代	11(15.7)	42(60.0)	17(24.3)	—	70
50代	4(11.4)	18(51.4)	13(37.1)	—	35
60代後半	14(25.9)	29(53.7)	11(20.4)	—	54
全体	59(14.8)	239(59.8)	101(25.3)	1(0.3)	400

汽車に乗っているとき、前や隣に腰掛けている見知らぬ人に話しかけるかどうかを尋ねたものが、「汽車の中で」である(表6-56)。70%程度の人が「黙っている」と答えている。前回調査(話しかける20.7%, 黙っている79.3%)に比べて、「話しかける」という率が若干上回っている。

「交際範囲」は、被調査者自身が交際の広い方だと思っているかどうかを尋ねたものである(表6-57)。「狭い」が「広い」より若干多くなっているもの、「ふつう」が70%と圧倒的に多くなっている。全体の傾向は前回調査とほとんど変わっていない。

表6-58, 図6-14は、ふつうの日にどんな人と多く話すかをまとめたものである(質問16)。「家庭内目上」は親, 主人, 年の離れた兄姉などを, 「家庭内同等」は妻, 同じ年頃の兄弟などを, 「家庭内目下」は子供, 年の離れた弟妹, 女中などをさしている。それぞれの項目には, 多く話される順に1~10の番号が記入されるわけであるが, 順位が同じと思われる場合は, 同じ番号をつけることを許した。また, ほとんど関係がない場合は, 番号をつけないように指示した。表6-58は, 各項目の1位だけを, 属性別に集計したものである。図6-14は, 各項目について, 累積で50%を超えるのが第何位であるかを属性別に図示したものである。濃度の濃い方が多く話されたということになる。また, 白地のところは, 10位までを合計しても50%に満たなかったところである。

表 6-58 ふつうの日にどんな人と多く話すか (1位だけ)

	家庭内			仕事上				その他の人		全体	
	目上	同等	目下	目上	同僚	目下	よく知つて いる客	知らない客	近所の人		友人
男	10 (6.0)	42 (25.1)	12 (7.2)	16 (9.6)	33 (19.8)	25 (15.0)	12 (7.2)	4 (2.4)	6 (3.6)	26 (15.6)	167
女	99 (42.5)	7 (3.0)	48 (20.6)	5 (2.1)	24 (10.3)	4 (1.7)	17 (7.3)	7 (3.0)	12 (5.2)	28 (12.0)	233
10代後半	3 (6.5)	—	—	2 (4.3)	7 (15.2)	—	—	1 (2.2)	—	33 (71.7)	46
20代	37 (33.9)	15 (13.8)	8 (7.3)	3 (2.8)	21 (19.3)	2 (1.8)	9 (8.3)	2 (1.8)	2 (1.8)	17 (15.6)	109
30代	33 (38.4)	10 (11.6)	13 (15.1)	8 (9.3)	12 (14.0)	10 (11.6)	7 (8.1)	2 (2.3)	1 (1.2)	1 (1.2)	86
40代	19 (27.1)	9 (12.9)	10 (14.3)	7 (10.0)	11 (15.7)	10 (14.3)	5 (7.1)	5 (7.1)	3 (4.3)	2 (2.9)	70
50代	11 (31.4)	8 (22.9)	6 (17.1)	—	5 (14.3)	5 (14.3)	2 (5.7)	—	3 (8.6)	1 (2.9)	35
60代以上	6 (11.1)	7 (13.0)	23 (42.6)	1 (1.9)	1 (1.9)	2 (3.7)	6 (11.1)	1 (1.9)	9 (16.7)	—	54
低学歴	54 (28.1)	24 (12.5)	40 (20.8)	14 (7.3)	23 (13.5)	14 (7.3)	13 (6.8)	7 (3.6)	15 (7.8)	14 (7.3)	192
中学歴	43 (28.7)	18 (12.0)	18 (12.0)	4 (2.7)	20 (13.3)	7 (4.7)	13 (8.7)	2 (1.3)	3 (2.0)	29 (19.3)	150
高学歴	12 (20.7)	7 (12.1)	2 (3.4)	3 (5.2)	11 (19.0)	8 (13.8)	3 (5.2)	2 (3.4)	—	11 (19.0)	58
給与生活者	17 (14.2)	15 (12.5)	4 (3.3)	11 (9.2)	31 (25.8)	19 (15.8)	9 (7.5)	3 (2.5)	—	14 (11.7)	120
商店主・工場主	3 (10.0)	14 (46.7)	5 (16.7)	4 (13.3)	1 (3.3)	3 (10.0)	8 (26.7)	2 (6.7)	4 (13.3)	1 (3.3)	30
農業・漁業・工具	6 (9.4)	12 (18.8)	7 (10.9)	4 (6.3)	21 (32.8)	5 (7.8)	1 (1.6)	1 (1.6)	1 (1.6)	8 (12.5)	64
主婦	47 (68.1)	2 (2.9)	19 (27.5)	—	2 (2.9)	1 (1.4)	1 (1.4)	1 (1.4)	2 (2.9)	1 (1.4)	69
学生	4 (12.1)	1 (3.0)	—	—	—	—	—	1 (3.0)	—	27 (81.8)	33
無職	9 (22.5)	3 (7.5)	20 (50.0)	1 (2.5)	1 (2.5)	—	2 (5.0)	1 (2.5)	10 (25.0)	1 (2.5)	40
その他	23 (52.3)	2 (4.5)	5 (11.4)	1 (2.3)	1 (2.3)	1 (2.3)	8 (18.2)	2 (4.5)	1 (2.3)	2 (4.5)	44
全体	109 (27.3)	49 (12.3)	60 (15.0)	21 (5.3)	57 (14.3)	29 (7.3)	29 (7.3)	11 (2.8)	18 (4.5)	54 (13.5)	400

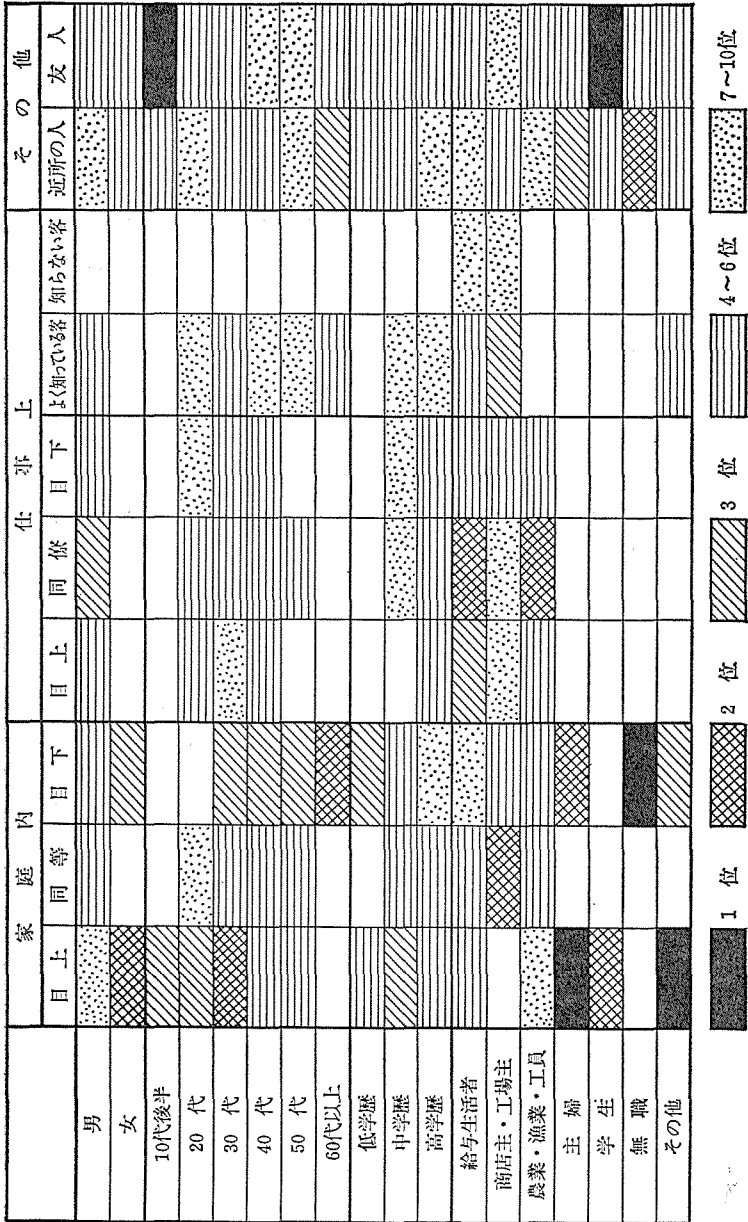


図 6-14 ふつうの日どんな人多く話すか

なお、今回の調査では「仕事上どういう人と話すか（質問21）」を尋ねているが、ここでは集計表（表6-59、表6-60）を示すにとどめる。

6.3.4. 社会意識

社会意識に関しては、以下に示すように、1)～7)の7項目が調査された。これらは、今回調査で新しく取り上げられた項目である。このうち、1)～3)の3項目は、統計数理研究所が1970～71年に、岩手、東京、大阪、山口、鹿児島 の5地域で実施した『県民性の統計的研究』（数研研究リポート30、1972年）の調査と全く同じ質問文を用いて調査が行われた。ここでは各質問ごとに、質問文と集計結果を示し、目立った特徴について言及することにする。

1) 凶悪犯人

“東京で捕まった凶悪犯人が岡崎市の出身だと聞いたら、いやな感じですか。”（質問21）

この質問文の～の部分、三河地方、尾張地方と置き換えて、計3通りが質問された。表6-61からわかるように、犯人の出身地が岡崎市、三河地方、尾張地方と遠のくにつれて、「いやな気がする」の率が下がっている。また、属性別にみると、男性より女性が、年齢の低い方より高い方が、学歴の高い方より低い方が、「いやな気がする」の率が高くなっている。先にふれた『県民性の統計的研究』では、～の部分にそれぞれの県名が入れられて調査されている。「いやな気がする」の率は、岩手93%、山口86%、鹿児島91%となり、大都市を含む大阪、東京ではそれぞれ53%、38%となっている。岡崎市の結果はこれらの中間に位置する値（74%）をとっている。また、属性別にみると両調査はよく似た傾向を示している。

2) 卒業式

“小学校の卒業式などに、校長先生はモーニングなどの礼服を着てくるほうがよいでしょうか。それとも、着てこなくともよいでしょうか。”（質問22）

得られた回答は表6-62のとおりである。全体の50%以上は、「着てくる方がよい」と答えている。『県民性の統計的研究』の結果では、東京、山口で「着

表 6-59 仕事上の話し相手

	目上の人	目下の人	同僚	おとくい	知らぬ客	複数回答	無回答	計
男	13(7.8)	20(12.0)	35(21.0)	13(7.8)	3(1.8)	63(37.7)	20(12.0)	167
女	13(5.6)	4(1.7)	33(14.2)	22(9.4)	3(1.3)	39(16.7)	119(51.1)	233
10代後半	5(10.9)	—	6(13.0)	1(2.2)	—	6(13.0)	28(60.9)	46
20代	8(7.3)	1(0.9)	30(27.5)	8(7.3)	2(1.8)	31(28.4)	29(26.6)	109
30代	10(11.6)	7(8.1)	12(14.0)	10(11.6)	—	25(29.1)	22(25.6)	86
40代	2(2.9)	7(10.0)	12(17.1)	1(1.4)	3(4.3)	27(38.6)	18(25.7)	70
50代	1(2.9)	3(8.6)	6(17.1)	6(17.1)	—	8(22.9)	11(31.4)	35
60代以上	—	6(11.1)	2(3.7)	9(16.7)	1(1.9)	5(9.3)	31(57.4)	54
低学歴	11(5.7)	14(7.3)	31(16.1)	15(7.8)	4(2.1)	46(24.0)	71(37.0)	192
中学歴	11(7.3)	7(4.7)	23(15.3)	15(10.0)	—	40(26.7)	54(36.0)	150
高学歴	4(6.9)	3(5.2)	14(21.1)	5(8.6)	2(3.4)	16(27.6)	14(24.1)	58
給与生活者	16(13.3)	11(9.2)	34(28.3)	6(5.0)	3(2.5)	48(40.0)	2(1.7)	120
店主主・工場主	1(3.3)	2(6.7)	3(10.0)	13(43.3)	1(3.3)	8(26.7)	2(6.7)	30
農業・漁業・工員	4(6.3)	7(10.9)	24(37.5)	1(1.6)	1(1.6)	25(39.1)	2(3.1)	64
主婦・学生・無職	1(0.7)	1(0.7)	5(3.5)	5(3.5)	—	4(2.9)	126(83.7)	142
その他	4(9.1)	3(6.8)	2(4.5)	10(22.7)	1(2.3)	17(38.6)	7(15.9)	44
全体	26(6.5)	24(6.0)	68(17.0)	35(8.8)	6(1.5)	102(25.5)	139(34.8)	400

(注) 「複数回答」の内容は次表を参照されたい。

表 6-60 仕事上の話し相手 (複数回答の内訳)

	目上の人	目上の人 同僚	同僚 目下の人	目上の人 おとくい	同僚 おとくい	同僚 知らぬ者	目下の人 おとくい	目下の人 知らぬ者	目下の人 知らぬ者	おとくい 知らぬ者
	男	8(4.8)	24(14.4)	13(7.8)	2(1.2)	8(4.8)	1(0.6)	4(2.4)	1(0.6)	2(1.2)
女	1(0.4)	7(3.0)	7(3.0)	3(1.3)	6(2.6)	5(2.1)	2(0.9)	—	—	8(3.4)
10代後半	—	4(8.7)	—	—	—	2(4.3)	—	—	—	—
20代	2(1.8)	13(11.9)	5(4.6)	2(1.8)	6(5.5)	1(0.9)	—	—	—	2(1.8)
30代	2(2.3)	5(5.8)	6(7.0)	2(2.3)	4(4.7)	1(1.2)	1(1.2)	1(1.2)	1(1.2)	3(3.5)
40代	3(4.3)	8(11.4)	7(10.0)	1(1.4)	1(1.4)	1(1.4)	2(2.9)	—	—	4(5.7)
50代	1(2.9)	1(2.9)	1(2.9)	—	3(8.6)	1(2.9)	—	—	—	1(2.9)
60代以上	1(1.9)	—	1(1.9)	—	—	—	3(5.6)	—	—	—
低学歴	3(1.6)	16(8.3)	10(5.2)	3(1.6)	5(2.6)	1(0.5)	3(1.6)	—	—	5(2.6)
中学歴	4(2.7)	8(5.3)	6(4.0)	2(1.3)	7(4.7)	4(2.7)	3(2.0)	1(0.7)	—	5(3.3)
高学歴	2(3.4)	7(12.1)	4(6.9)	—	2(3.4)	1(1.7)	—	—	—	—
給与生活者	5(4.2)	14(11.7)	11(9.2)	2(1.7)	8(6.7)	4(3.3)	2(1.7)	—	—	2(1.7)
店主・工場主	1(3.3)	1(3.3)	1(3.3)	—	1(3.3)	—	1(3.3)	1(3.3)	—	2(6.7)
農業・漁業・工員	2(3.1)	14(21.9)	4(6.3)	1(1.6)	2(3.1)	1(1.6)	1(1.6)	—	—	—
主婦・学生・無職	—	—	2(1.4)	1(0.7)	—	—	—	—	—	1(0.7)
その他	1(2.3)	2(4.5)	2(4.5)	1(2.3)	3(6.8)	1(2.3)	2(2.3)	—	—	5(11.4)
全体	9(2.3)	31(7.8)	20(5.0)	5(5.0)	14(3.5)	6(1.5)	6(1.5)	1(0.3)	—	10(2.5)

表 6-61 凶悪犯人

	岡崎市出身			三河地方出身			尾張地方出身			全体
	いやな気がする	別にいやな気はしない	無記入	いやな気がする	別にいやな気はしない	無記入	いやな気がする	別にいやな気はしない	無記入	
男	106 (63.5)	58 (34.7)	3 (1.8)	88 (62.7)	73 (43.7)	6 (3.6)	60 (35.9)	100 (59.9)	7 (4.2)	167
女	188 (80.7)	45 (19.3)	—	149 (63.9)	78 (33.5)	6 (2.6)	99 (42.5)	128 (54.9)	6 (2.6)	233
10代後半	31 (67.4)	15 (32.6)	—	25 (54.3)	21 (45.7)	—	20 (43.5)	26 (56.5)	—	46
20代	67 (61.5)	42 (38.5)	—	50 (45.9)	55 (50.5)	4 (3.7)	28 (25.7)	78 (71.6)	3 (2.8)	109
30代	61 (70.9)	23 (26.7)	2 (2.3)	51 (59.3)	32 (37.2)	3 (3.5)	34 (39.5)	48 (55.8)	4 (4.7)	86
40代	56 (80.0)	14 (20.0)	—	43 (61.4)	25 (35.7)	2 (2.9)	27 (38.6)	41 (58.6)	2 (2.9)	70
50代	30 (85.7)	4 (11.4)	1 (2.9)	22 (62.9)	12 (34.3)	1 (2.9)	14 (40.0)	20 (57.1)	1 (2.9)	35
60代以上	49 (90.7)	5 (9.3)	—	46 (85.2)	6 (11.1)	2 (3.7)	36 (66.7)	15 (27.8)	3 (5.6)	54
低学歴	150 (78.1)	40 (20.8)	2 (1.0)	120 (62.5)	66 (34.4)	6 (3.1)	78 (40.6)	108 (56.3)	6 (3.1)	192
中学歴	105 (70.0)	45 (30.0)	—	86 (57.3)	61 (40.7)	3 (2.0)	62 (41.3)	84 (56.0)	4 (2.7)	150
高学歴	39 (67.2)	18 (31.0)	1 (1.7)	31 (53.5)	24 (41.4)	3 (5.2)	19 (32.8)	36 (62.1)	3 (5.2)	58
岡崎市出身	142 (74.7)	47 (24.7)	1 (0.5)	107 (56.3)	76 (40.0)	7 (3.7)	71 (37.4)	114 (60.0)	5 (2.6)	190
三河	79 (80.6)	19 (19.4)	—	64 (65.3)	32 (32.7)	2 (2.0)	41 (41.8)	54 (55.1)	3 (3.1)	98
尾張	21 (67.7)	9 (29.0)	1 (3.2)	21 (67.7)	9 (29.0)	1 (3.2)	17 (54.8)	12 (38.7)	2 (6.5)	31
その他	52 (64.2)	28 (34.6)	1 (1.2)	45 (55.6)	34 (42.0)	2 (2.5)	30 (37.0)	48 (59.3)	3 (3.7)	81
全体	294 (73.5)	103 (25.8)	3 (0.8)	237 (59.3)	151 (37.5)	12 (3.0)	159 (39.8)	228 (57.0)	13 (3.3)	400

てくる方がよい」が40%程度で、岡崎より若干低くなっている。ちなみに、岩手は50%，大阪49%，鹿児島57%であった。属性別にみると、女性の「着てくる方がよい」の率が高く、学歴が高くなるにつれて「着てくる方がよい」の率が下がる傾向がみられる。年齢が高くなるにしたがって、「着てくる方がよい」の率が高くなるのは『県民性の統計的研究』の結果も同じである。

3) お金

“小学校に行っているくらいの子供を育てるのに、次のような意見があります。「小さい時から、お金は人にとって、一番大切なものだと教えるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。”（質問23）

表6-63をみると、「賛成」が46.5%で、『県民性の統計的研究』の東京、大阪の「賛成」約40%より若干高くなっている。属性別にみると、男性より女性が、年齢の高い方より低い方が、「賛成」の率が高くなり、山口県の47.8%に近い値を得ている。他の2県の「賛成」の率は、岩手57%，鹿児島50%であった。この傾向は『県民性の統計的研究』の結果と一致する。

表 6-62 卒業式

	礼服を着て くる方がよい	礼服は いらない	分らない・ 無記入	全 体
男	81(48.5)	81(48.5)	5(3.0)	167
女	129(55.4)	94(40.3)	10(4.3)	233
10代後半	20(43.5)	26(56.5)	—	46
20代	45(41.3)	63(57.8)	1(0.9)	109
30代	44(51.2)	36(41.9)	6(7.0)	86
40代	43(61.4)	25(35.7)	2(2.9)	70
50代	21(60.0)	11(31.4)	3(8.6)	35
60代以上	37(68.5)	14(25.9)	3(5.6)	54
低学歴	106(55.2)	80(41.7)	6(3.1)	192
中学歴	79(52.7)	66(44.0)	5(3.3)	150
高学歴	25(43.1)	29(50.0)	4(6.9)	58
全 体	210(52.5)	175(43.8)	15(3.8)	400

表 6-63 お 金

	賛 成	反 対	分らない・ 無 記 入	全 体
男	69(41.3)	97(58.1)	1(0.6)	167
女	117(50.2)	111(47.6)	5(2.1)	233
10代後半	13(28.3)	33(71.7)	—	46
20 代	31(28.4)	77(70.6)	1(0.9)	109
30 代	39(45.3)	45(52.3)	2(2.3)	86
40 代	37(52.9)	31(44.3)	2(2.9)	70
50 代	22(62.9)	13(37.1)	—	35
60代以上	44(81.5)	9(16.7)	1(1.9)	54
低学歴	117(60.9)	72(37.5)	3(1.6)	192
中学歴	54(36.0)	94(62.7)	2(1.3)	150
高学歴	15(25.9)	42(72.4)	1(1.7)	58
全 体	186(46.5)	208(52.0)	6(1.5)	400

4) 能力

“人間には生まれつき能力のちがいがあるのだから、能力のある者が能力のない者の上に立つのは、あたりまえである。” こういう意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。” (質問24)

回答は表6-64のとおりである。「賛成」50.5%、「反対」45.8%と接近している。ここでは性差はほとんどみられないが、年齢差が顕著である。つまり、年齢の高い方に「賛成」が多く、とくに60代以上では76%にも達している。

5) 近頃の若い者

“近頃の若い者はリクツばかりいうが、もっとぢみちに自分の仕事に精を出さなければならない。” こういう意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。” (質問25)

全体の80%弱が「賛成」で、「反対」は20%弱しかいない(表6-65)。しかし、当然のことながら、10代後半の“若い者”の「反対」の率は高くなっている。

表 6-64 能 力

	賛 成	反 対	分らない・ 無 記 入	全 体
男	85(50.9)	78(46.7)	4(2.4)	167
女	117(50.2)	105(45.1)	11(4.7)	233
10代後半	13(28.3)	33(71.7)	—	46
20 代	47(43.1)	58(53.2)	4(3.7)	109
30 代	41(47.7)	41(47.7)	4(4.7)	86
40 代	39(55.7)	28(40.0)	3(4.3)	70
50 代	21(60.0)	13(37.1)	1(2.9)	35
60代以上	41(75.9)	10(18.5)	3(5.6)	54
低学歴	105(54.7)	76(39.6)	11(5.7)	192
中学歴	69(46.0)	77(51.3)	4(2.7)	150
高学歴	28(48.3)	30(51.7)	—	58
全 体	202(50.5)	183(45.8)	15(3.8)	400

表 6-65 近頃の若い者

	賛 成	反 対	分らない・ 無 記 入	全 体
男	130(77.8)	32(19.2)	5(3.0)	167
女	184(79.0)	43(18.5)	6(2.6)	233
10代後半	24(52.2)	20(43.5)	2(4.3)	46
20 代	77(70.6)	28(25.7)	4(3.7)	109
30 代	73(84.9)	12(14.0)	1(1.2)	86
40 代	60(85.7)	9(12.9)	1(1.4)	70
50 代	33(94.3)	1(2.9)	1(2.9)	35
60代以上	47(87.0)	5(9.3)	2(3.7)	54
低学歴	160(83.3)	26(13.5)	6(3.1)	192
中学歴	114(76.0)	32(21.3)	4(2.7)	150
高学歴	40(69.0)	17(29.3)	1(1.7)	58
全 体	314(78.5)	75(18.8)	11(2.8)	400

表 6-66 親孝行

	賛成	反対	分らない・ 無記入	全体
男	134(80.2)	29(17.4)	4(2.4)	167
女	204(87.6)	21(9.0)	8(3.4)	233
10代後半	33(71.7)	11(23.9)	2(4.3)	46
20代	84(77.1)	21(19.3)	4(3.7)	109
30代	74(86.0)	8(9.3)	4(4.7)	86
40代	62(88.6)	7(10.0)	1(1.4)	70
50代	32(91.4)	2(5.7)	1(2.9)	35
60代以上	53(98.1)	1(1.9)	—	54
低学歴	167(87.0)	19(9.9)	6(3.1)	192
中学歴	124(82.7)	22(14.7)	4(2.7)	150
高学歴	47(81.0)	9(15.5)	2(3.4)	58
全体	338(84.5)	50(12.5)	12(3.0)	400

表 6-67 社会の混乱

	賛成	反対	分らない・ 無記入	全体
男	98(58.7)	61(36.5)	8(4.8)	167
女	140(60.1)	62(26.6)	31(13.3)	233
10代後半	29(63.0)	15(32.6)	2(4.3)	46
20代	52(47.7)	47(43.1)	10(9.2)	109
30代	48(55.8)	32(37.2)	6(7.0)	86
40代	50(71.4)	13(18.6)	7(10.0)	70
50代	25(71.4)	8(22.9)	2(5.7)	35
60代以上	34(63.0)	8(14.8)	12(22.2)	54
低学歴	128(66.7)	36(18.8)	28(14.6)	192
中学歴	85(56.7)	58(38.7)	7(4.7)	150
高学歴	25(43.1)	29(50.0)	4(6.9)	58
全体	238(59.5)	123(30.8)	39(9.8)	400

6) 親孝行

“昔やかましく言われた、親孝行とか、目上の者を尊敬する習慣が、戦後はすたれてきました。こういう日本古来の良い習慣を大いにもり立ててゆかねばならない。” こういう意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。” (質問26)

得られた回答は、表 6-66 のように、全体で 84.5% が「賛成」、2.5% が「反対」という結果であった。

これを属性別にみると、「賛成」の率は、女性と低学歴の人の場合は全体よりも高くなっている。また、年齢が高くなるにしたがって「賛成」の率が高くなっており、特に 60 代以上では 98% を超えている——「反対」は 2% にも満たない。

7) 社会の混乱

“現代の社会の混乱を救うには、強力な政治家があらわれて国民をひっぱってゆかなければダメだ。”という意見がありますが、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか。”（質問27）

回答は表6-67のようであった。全体では60%弱が「賛成」、30%強が「反対」である。しかし、属性別にみると、高学歴では「賛成」よりも「反対」の率が逆に高くなっている。

6.3.5. 社会的態度

1)～4)に示す四つの質問項目は、前回調査で「社会的態度調査」として個別面接によって調査された項目である。内容的には6.3.4.「社会意識」に属するものである。これらの項目は今回調査では「社会生活調査票」に盛り込まれて、アンケート形式で調査された。

1) 先生

“先生が何か悪いことをしたというような話を、子供が聞いてきて、親にたずねたとき、親はそれがほんとうであることを知っている場合、子供には、そんなことはないといった方がよいと思いますか、それはほんとうだ、といった方がよいと思いますか。”（質問17）

この質問に限り、面接調査と社会生活調査の両方で、全く同じ質問文で調査

表 6-68 先生（面接調査とアンケート調査の相関表）

		社会生活調査（アンケート）				計
		そんなことはないという	ほんとうだという	その他	無記入	
面接調査	そんなことはないという	87	15	2	6	110
	ほんとうだという	16	205	1	6	228
	その他	10	14	4	13	41
	無回答	6	8	1	6	21
計		119	242	8	31	400

された。表6-68は、これらの関連を示したものである。両方に一貫した答をした人は全体の73%であった。

表6-69は面接調査での結果を示したものである。この回答も、前回調査とはかなり異なった分布をしている。「そんなことはないという」は27.5%に減少し、逆に「ほんとうだという」は57%に上昇している。属性別にみると、「ほんとうだという」は男性および年齢の低い方の支持率が高い。逆に、「そんなことはないという」は女性に多くなっている。

2) メンツ

“小学校に行っているくらいの子供を育てるのに、小さいときから、自分の顔とかメンツとかをつぶされないように注意しろと教えるのと、自分の顔とかメンツをたてるということにこだわるなど教えるのと、どちらが大切だと思いますか。”(質問18)

結果は表6-70のとおりとなった。前回調査に比べて、「注意しろ」の率が減

表 6-69 先生 (面接調査)

	そんなことはないという	ほんとうだという	その他・無回答	全体
男	31(18.6) [42.3]	113(67.7) [39.1]	23(13.8) [18.6]	167
女	79(33.9) [53.9]	115(49.4) [31.1]	39(16.7) [15.1]	233
10代後半	14(30.4) [46.9]	30(65.2) [39.5]	2(4.3) [13.6]	46
20代	24(22.0) [51.7]	72(66.1) [38.8]	13(11.9) [9.5]	109
30代	21(24.4) [53.8]	51(59.3) [26.3]	14(16.3) [20.0]	86
40代	17(24.3) [40.6]	41(58.6) [36.2]	12(17.1) [23.2]	70
50代以上	34(38.2) [45.5]	34(38.2) [33.0]	21(23.6) [21.6]	89
全体	110(27.5) [48.2]	228(57.0) [35.0]	62(15.5) [16.8]	400

(注) []内は前回調査のパーセントを示す。

って、「こだわるな」の率が増えている。

3) 世間のしきたり

“あなたは、自分が正しいと思えば世間のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思いますか、それとも世間のしきたりに従った方がまちがいないと思いますか。”(質問19)

表6-71のとおり、「おし通せ」という意見は、前回も今回も40%強で変わらないが、「従うほうがよい」の率は今回調査のほうが大幅に上回っている。この結果、前回は「おし通せ」が多数意見であったが、今回調査では「従うほうがよい」が逆転して多数意見になっている。属性別には女性および高齢者になるほど支持が多くなっている。

4) 総理大臣

“あたらしく総理大臣になったとき、伊勢の皇大神宮にお参りに行く人がありますが、あなたはこのことをどう思いますか。”(質問20)

表 6-70 メンツ

	注意しろと 教える方が大切	こだわるなど 教える方が大切	その他・ 無記入	全体
男	17(10.2) [22.8]	141(84.4) [55.8]	9(5.4) [21.4]	167
女	45(19.3) [26.9]	177(76.0) [50.2]	11(4.7) [22.8]	233
10代後半	3(6.5) [7.4]	42(91.3) [63.0]	1(2.2) [29.6]	46
20代	10(9.2) [14.7]	96(88.1) [71.6]	3(2.8) [13.8]	109
30代	12(14.0) [28.8]	69(80.2) [46.3]	5(5.8) [25.0]	86
40代	9(12.9) [33.3]	59(84.3) [46.4]	2(2.9) [20.3]	70
50代以上	28(31.5) [44.3]	52(58.4) [30.7]	9(10.1) [25.0]	89
全体	62(15.5) [24.9]	318(79.5) [53.0]	20(5.0) [22.1]	400

(注) [] 内は前回調査のパーセントを示す。

表 6-71 世間のしきたり

	おし通せ	従う方がよい	その他・ 無記入	全体
男	86(51.5) [48.8]	74(44.3) [28.8]	7(4.2) [22.3]	167
女	83(35.6) [38.8]	132(56.7) [42.0]	18(7.7) [19.2]	233
10代後半	27(58.7) [56.8]	16(34.8) [30.9]	3(6.5) [12.3]	46
20代	55(50.5) [47.4]	48(44.0) [29.3]	6(5.5) [23.3]	109
30代	36(41.9) [36.3]	43(50.0) [38.8]	7(8.1) [25.0]	86
40代	28(40.0) [37.7]	36(51.4) [42.0]	6(8.6) [20.3]	70
50代以上	23(25.8) [38.6]	63(70.8) [39.8]	3(3.4) [21.6]	89
全体	169(42.3) [43.8]	206(51.5) [35.5]	25(6.3) [20.7]	400

(注) []内は前回調査のパーセントを示す。

この質問に対する回答は表6-72のとおりである。「行った方がよい」と「本人の自由」の二つの回答が前回と今回とでは大幅に異なっている。「本人の自由」という回答は全体の80%弱を占め、年齢の低い方に多くなっている。逆に「行った方がよい」は全体の16%で、年齢の高い方の支持を得ている。

6.3.6. 階層帰属意識とその決定基準

ある社会の構成員全体をいくつかの階層に分けた場合に、自分はこの階層に所属するという主観的判断を「階層帰属意識」という。これを調べた結果が表6-73である。

前回調査と今回調査の回答の分布をみると、前回に対し今回は「中の下」と「下」とが減少し、「中の中」が増えていることがわかる。つまり、前回よりも今回の方が帰属階層が平均的にやや高くなっているといえる。

表 6-72 総理大臣

	行かねばならぬ	行った方がよい	本人の自由	行かない方がよい	行くべきではない	その他・無記入	全体
男	3 (1.8) 〔5.1〕	23 (13.8) 〔46.5〕	135 (80.8) 〔18.6〕	1 (0.6) 〔12.1〕	2 (1.2) 〔5.6〕	3 (1.8) 〔12.1〕	167
女	5 (2.1) 〔4.6〕	42 (18.0) 〔57.5〕	177 (76.0) 〔17.8〕	4 (1.7) 〔8.7〕	3 (1.3) —	2 (0.9) 〔11.4〕	233
10代後半	1 (2.2) 〔6.2〕	— 〔35.8〕	42 (91.3) 〔25.9〕	1 (2.2) 〔11.1〕	1 (2.2) 〔1.2〕	1 (2.2) 〔19.8〕	46
20代	2 (1.8) 〔3.4〕	8 (7.3) 〔47.4〕	94 (86.2) 〔23.3〕	3 (2.8) 〔9.5〕	2 (1.8) 〔2.6〕	— 〔13.8〕	109
30代	— 〔2.5〕	12 (14.0) 〔51.3〕	71 (82.6) 〔21.3〕	— 〔16.3〕	2 (2.3) 〔5.0〕	1 (1.2) 〔3.8〕	86
40代	1 (1.4) 〔5.8〕	12 (17.1) 〔62.3〕	56 (80.0) 〔5.8〕	— 〔11.6〕	— 〔5.8〕	1 (1.4) 〔8.7〕	70
50代以上	4 (4.5) 〔6.8〕	33 (37.1) 〔65.9〕	49 (55.1) 〔11.4〕	1 (1.1) 〔4.5〕	— —	2 (2.2) 〔11.4〕	89
全体	8 (2.0) 〔4.8〕	65 (16.3) 〔52.1〕	312 (78.0) 〔18.2〕	5 (1.3) 〔10.4〕	5 (1.3) 〔2.8〕	5 (1.3) 〔11.8〕	400

(注) [] 内は前回調査のパーセントを示す。

表 6-73 階層帰属意識 (全体, 性別)

		上	中の上	中の中	中の下	下	帰属不明	人数
今 回	全体	4(1.0)	38(9.5)	230(57.5)	80(20.0)	36(9.0)	12(3.0)	400
	男	3(1.8)	22(13.2)	83(49.7)	39(23.4)	16(9.6)	4(2.4)	167
	女	1(0.4)	16(6.9)	147(63.1)	41(17.6)	20(8.6)	8(3.4)	233
前回	全体	1(0.2)	38(8.8)	204(47.0)	124(28.6)	61(14.1)	6(1.4)	434
1966年調査*		13(0.7)	177(9.8)	892(49.3)	521(28.8)	109(6.0)	96(5.3)	1808

(注) 「1966年調査」(至誠堂, 1970年) 東京都23区および武蔵野・三鷹両市で行われた。
詳しくは国民生活研究所編『日本人の生活意識』を参照されたい。

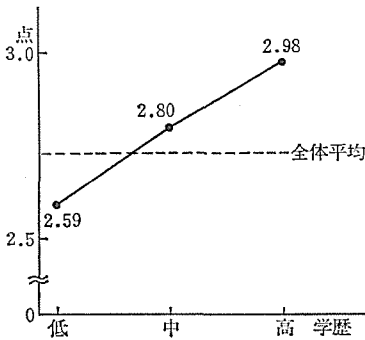


図 6-15 学歴別の平均階層点

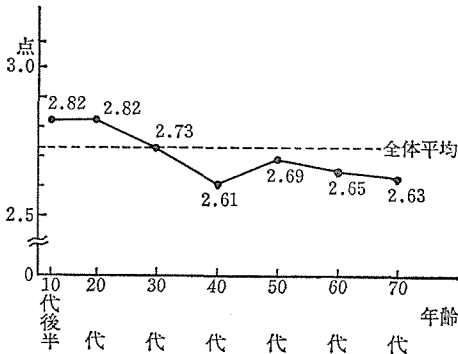


図 6-16 年齢別の平均階層点

一方、今回調査での男女を比較すると、女の場合は「中の中」に高い山がみられるのに対し、男の方は相対的に左右に広がった分布をなしており、どちらの帰属意識が高いかははっきりしない形となっている。そこで、両者を比較するために、帰属不明(無回答および「わからない」)を除き、「上」を5、「中の上」を4、……「下」を1として「平均階層点」を算出してみた。結果は男2.74, 女2.72でほとんど差が認められない。なお、前回、今回の平均階層点はそれぞれ2.52, 2.73でやはり今回の方が高くなっている。また、表6-73の最下段に参考のために掲げた今回調査より6年前の資料(出典は表の注を参照されたい)では、前回

「平均階層点」を算出してみた。結果は男2.74, 女2.72でほとんど差が認められない。なお、前回、今回の平均階層点はそれぞれ2.52, 2.73でやはり今回の方が高くなっている。また、表6-73の最下段に参考のために掲げた今回調査より6年前の資料(出典は表の注を参照されたい)では、前回

と今回との中間の2.69となっている。

次に、この平均点をもとに、属性別の階層帰属意識をみてみよう（今回調査のみ）。

図6-15は学歴別の結果であるが、予想どおりに学歴が高くなるにつれて階層帰属意識も高くなっていることがわかる。また、年齢別では、図6-16にみられるように、若い層ほど帰属意識が高くなっている。しかし、この設問は「岡崎市民（全体）を……と分けるとすれば」ということであるから、この結果は常識とは一致しないし、また類似の他の調査結果とも違っている。今後の検討課題といえよう。

若い層の階層帰属意識が高いということは、職業別では学生のそれも高いことにつながるといえる。以下に職業別の平均階層点の数値をあげておく。

商工主 3.00 学生 2.83 主婦 2.78 給与生活者 2.73 工
員・運転手 2.58 無職 2.50

また、階層帰属意識と支持政党との関係をみると次のようになる（平均階層点の順。また政党名の直後のかっこ内の数値は支持者の人数）。

自民党（118） 2.79 民社党（23） 2.70 支持政党なし（191） 2.69
社会党（36） 2.67 共産党（8） 2.63 公明党（10） 2.56 その
他・無回答（14） 2.50

一般に階層帰属意識と支持政党にはある程度の相関関係があるといわれているが、ここでもその傾向はうかがわれているといえよう。

なお、この調査では面接調査終了後、各被調査者（学生などの場合はその家族）の階層について調査員がその主観によって判定を下している。表6-74がその結果であるが、これは表6-73の被調査者自身による帰属階層より高めに なっている点だけを指摘するとどめる。

今、階層帰属意識についてみてきたが、人々は自分もしくは他者の階層の高低を論ずるにあたってどのような基準をもっているのだろうか。この問題に関して、問28で次のような質問を行った。

「世間では一般に、ある人の地位や身分が高いとか、低いとかいいますが、それは一体何によってきまるのでしょうか。右の□のなかに、一番重要だとお考

えになるものから順に, 1, 2, 3, …… 6 と番号を書き入れて下さい (後略).」

表 6-75 は呈示した 6 要因の 1 位～6 位への被選択状況を示したものである。

この表から, 社会的地位や身分を決定するのに最も重要なものは「職業」であり, 最も効いていないのは「収入」である, といったことは読み取りうるが, 一目で全体を把握するのは容易ではない。そこで, 先の階層帰属意識の分析にならって, 各要因の被選択順位の平均値を求めてみた結果が表 6-76 の上段の数値である。なお, この平均値を算出するにあたって, 「非選択」は便宜上 6 位と同等に処理した。

表 6-74 本人または家族の階層〔調査員判定〕

	上	中の上	中の中	中の下	下	計	無記入
本人	5(2.0)	53(20.9)	145(57.3)	47(18.6)	3(1.2)	253	36
家族	0(—)	11(16.7)	46(69.7)	8(12.1)	1(1.5)	66	45
計	5(1.6)	64(20.1)	191(59.9)	55(17.2)	4(1.3)	319	81

(注) 「家族」は被調査者が学生・家事手伝い・専業主婦などで本人の階層を判定しがたい場合, 主に世帯主を対象に判定したものである。

表 6-75 社会的地位決定要因とその順位

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	1～6 位	非選択
職業	89 (22.3)	57 (14.3)	50 (12.5)	47 (11.8)	36 (9.0)	27 (6.8)	306 (76.5)	94 (23.5)
学歴	67 (16.8)	55 (13.8)	56 (14.0)	52 (13.0)	37 (9.3)	35 (8.8)	302 (75.5)	98 (24.5)
収入	24 (6.0)	39 (9.8)	35 (8.8)	63 (15.8)	68 (17.0)	61 (15.3)	290 (72.5)	110 (27.5)
家柄	64 (16.0)	47 (11.8)	67 (16.8)	38 (9.5)	46 (11.5)	37 (9.3)	299 (74.8)	101 (25.3)
有名(名声)	71 (17.8)	48 (12.0)	28 (7.0)	42 (10.5)	40 (10.0)	62 (15.5)	291 (72.8)	109 (27.3)
財産	52 (13.0)	51 (12.8)	58 (14.5)	45 (11.3)	47 (11.8)	39 (9.8)	292 (73.0)	108 (27.0)
計	367 (91.8)	297 (74.3)	294 (73.5)	287 (71.8)	274 (68.5)	261 (62.3)		

(注) 「非選択」とは 1 位～6 位のいずれにも選ばれなかったという意味である。

表 6-76 社会的地位決定の順位の平均値（全体）

		職業	学歴	家柄	財産	名声	収入
今回調査(全体)		3.62	3.84	3.92	4.06	4.11	4.68
成層と 移動調査	全国	3.49	2.53	3.82	3.25	4.26	3.59
	区部	3.33	2.71	3.80	3.41	4.10	3.64
	市部	3.25	2.59	3.92	3.35	4.19	3.65
	郡部	3.62	2.46	3.78	3.19	4.33	3.56

(注) 「成層と移動調査」は日本社会学会が1952年(約1700人対象)と1955年(約7000人対象)とに行ったものであるが、ここに掲げたものは後の調査結果である。詳しくは、尾高邦雄編「職業と階層」(毎日新聞社、1958年)を参照されたい。

この表によると、今回調査の被調査者の間では、社会的地位を決定する要因としては「職業」が最も重視されており、以下「学歴」、「収入」……と表に示した要因順に続くが、「収入」はあまり重要視されていないことがわかる。また、本表の下の4段は前回調査の2年後に日本社会学会が行った調査結果であるが、ここでは「学歴」が最重視されるなど、要因の順位は今回調査とはやや異なっている。ただし、こ

表 6-77 社会的地位決定の順位の平均値(性,年齢,学歴,職業別)の調査の「市部」と今回調査の順位相関係数を算出すると0.686と高い相関が認められている。

次に、今回調査の属性別の平均順位をみてみよう(表6-77)。

各要因の平均値の順位を性別で比べると、2位と5位とが逆転しているほかは全く同じ順序になっている。逆転現象が生じているのは「名声」と「家柄」である。男は前者を、女は後

	職業	学歴	家柄	財産	名声	収入	人数
男	3.54	3.81	4.17	3.98	3.76	4.41	167
女	3.67	3.86	3.75	4.12	4.36	4.67	233
10代後半	3.65	3.96	3.74	3.37	3.80	4.37	46
20代	3.33	3.94	3.60	4.57	3.73	4.58	109
30代	3.52	3.79	4.06	3.91	4.33	4.62	86
40代	3.66	3.74	4.12	4.50	4.66	4.50	70
50代	3.66	3.60	3.77	4.63	3.86	4.57	35
60代以上	4.24	3.91	4.31	4.89	4.26	4.69	54
低学歴	3.74	3.66	3.77	4.12	4.51	4.62	192
中学歴	3.55	3.89	4.08	4.01	3.75	4.51	150
高学歴	3.36	4.29	4.03	4.02	3.74	4.52	58
給与生活者	3.28	3.78	3.97	3.82	3.77	4.43	120
商工主	4.13	3.90	4.50	4.23	4.17	4.07	30
工員	4.03	4.02	3.75	4.06	4.14	4.67	64
主婦	3.59	3.70	3.77	4.30	4.30	4.94	69
学生	3.33	3.85	3.73	3.45	3.58	4.33	33
無職・他	3.68	3.89	3.99	4.42	4.62	4.63	84

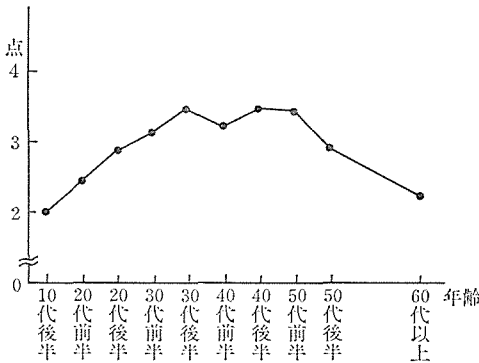


図 6-17 年齢別の職業上地位点〔調査員判定〕

者を重視しているが、これはうなずきうる結果だといえよう。

年齢別では、高齢者ほど「学歴」を重視し、若い層は「財産」や「家柄」といった別の面を重視する傾向がみられる。しかし、このことは約20年前の調査（前述の日本社会学会のもの）

で、「青年層には学歴を第1位にあげたものが多いが、年輩層には職業を1位にあげたものが多い」という結果と異なっている。若い層（また全体でも）で「学歴」のウエイトが低下した原因としては、この20年間で社会全体が高学歴化したことを指摘しえよう。

この「学歴」の要因のウエイトは被調査者自身の学歴によって大きく違っている。すなわち、「学歴」は低学歴層では第1位、中学歴層では3位、高学歴層では5位、と学歴が高くなるにつれて社会的地位の基準としての「学歴」の位置は低くなっている。考えてみれば当然の結果だともいえよう。また、「学歴」をあまり重要視しない中・高学歴層はその代わりに「名声」を第2位に指

表 6-78 職業上の地位〔調査員判定〕

	上	中の上	中	中の下	下	計	地位の平均点	無職	無記入
全体	22(9.7)	42(18.6)	106(46.9)	37(16.4)	19(8.4)	226	3.05	136	38
男	18(14.1)	35(27.3)	54(42.2)	12(9.4)	9(7.0)	128	3.32	22	17
女	4(4.1)	7(7.1)	52(53.1)	25(25.5)	10(10.2)	98	2.69	114	21
低学歴	11(11.5)	14(14.6)	39(40.6)	23(24.0)	9(9.4)	96	2.95	75	21
中学歴	7(7.9)	18(20.2)	48(53.9)	10(11.2)	6(6.7)	89	3.11	48	13
高学歴	4(9.8)	10(24.4)	19(46.3)	4(9.8)	4(9.8)	41	3.15	13	4

(注) 「地位の平均点」の算出方法は、階層帰属意識同様に、「上」から順に5, 4, …1と点数を与えて算出した。「無職」の数は被調査者の属性分類の数とは異なる。

摘している点が注目される。

職業別では、商工主が「学歴」を、工員が「家柄」を最重視しているほかはすべてが「職業」を第1位としている。

この「職業」については以上の各属性別の傾向で言及しなかったが、ほとんどの層で第1位か第2位を占めており、人々に最も重視されている要因である。

そこで、これとは直接関係はないが、本調査では調査員の主観による被調査者の職業上の地位判定を行っているので、その結果を表6-78と図6-17で示しておく。この表と図とは、被調査者本人の職業的地位を本当に反映しているという保証はないので、ここでは言

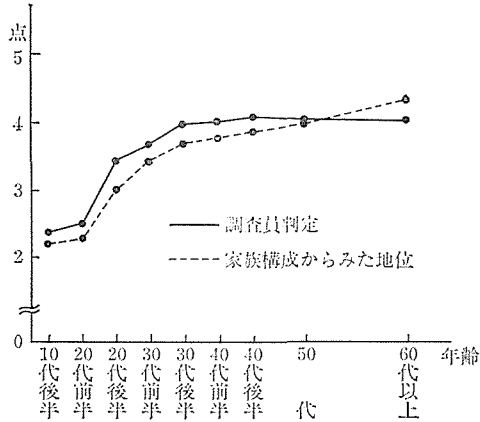


図 6-18 年齢別の家族内地位点

表 6-79 家族内の地位

		上	中の上	中の中	中の下	下	計	地位の平均点	ひとりもの	無記入
調査員判定	全体	83 (24.3)	83 (24.3)	135 (39.5)	18 (5.3)	23 (6.7)	342	3.54	25	33
	男	63 (13.4)	30 (20.7)	35 (24.1)	3 (2.1)	14 (9.7)	145	3.87	10	12
	女	20 (10.2)	53 (26.9)	100 (50.8)	15 (7.6)	9 (4.6)	197	3.30	15	21
家族構成からみた地位	全体	45 (11.3)	130 (32.5)	158 (39.5)	47 (11.8)	20 (5.0)	400	3.33		
	男	17 (10.2)	55 (32.9)	65 (38.9)	23 (13.8)	7 (4.2)	167	3.31		
	女	28 (12.0)	75 (32.2)	93 (39.9)	24 (10.3)	13 (5.6)	233	3.35		

(注) 「家族構成からみた地位」は「社会生活調査票」の3-1をもとに本人より目上・目下の家族数の差をもとに分類したものである。

及を避ける。ただし、この図や表は、相手に対してほとんど情報をもたない（短時間の面接による資料はあるが）調査員が、その人の地位を判定する際に何を基準とするかを推測するための資料となろう。

同様の資料として、被調査者の家族内での地位を判定した表 6-79 と図 6-18 とを掲げておく。ただし、この図表では調査員判定の結果に加えて、家族構成からみた地位（力関係ではなく、いわば長幼の関係である）を示しておいた。

さて、話が脇道に入りすぎたので元の話題に戻そう。社会的地位の基準を尋ねた項目では、先に記した質問文の後に、「その他、重要だと思うものがあれば空欄に記入して下さい」という指示がなされている。これにしたがって別の要因を記入した被調査者は延べ 122 人であった。記入の内訳は次のとおりである。

人格・人柄・人徳など人間性に関する事柄 55人 (13.8%) 知能・能力など 5人 (1.3%) 実行力 2人 (0.5%) その他（教養など10種類）10人（計2.5%）

このうち比較的数の多い人間性に関する事柄についてみると、どの属性でも一様に指摘されているが、年齢では40～50代、学歴では高い方に特に多くみられている。

6.4. スライド調査

6.4.1. 刺激文

スライド調査の被調査者は、前回調査の場合は、サンプリングによる面接調査の被調査者の中からさらにサンプリングによって被調査者を選んでいる。しかし、今回の調査では費用の関係から、この調査を中学校と高等学校の生徒（計585名）に限ることとした。前回調査では被調査者総数は169人であり、そのうち10代の人は33人に過ぎない。したがって、厳密に比較できるのはこれだけであるが、今回は中学生も入っているため、15歳以上19歳までという年齢層である10代と、今回の中学・高校とも2年生というのとでは少し違うことを注意しておかなければならない。

また、問題数も前回の66から今回は24へと大幅に減らした。

この24の問題をまずあげておく。ここでは、場面をスライドで与えて、ここであげる会話などのことばを録音で聞かせてそれぞれ指示によって答えさせるものである。スライドは前回使ったものを利用し、録音は今回新しく吹き込んだ。場面名は前からのものはそれを使う。

最初のグループは「あなたならこう言う」というもので聞かせる二つから四つのことばのうち、被調査者自身ならどれを言うか、と尋ねたものである。

1. 道教え

- イ. ここをまっすぐおいでになると明代橋です。
- ロ. ここをまっすぐ行かれると明代橋です。
- ハ. ここをまっすぐおいきると明代橋です。

2. 傘忘れ

- イ. もしもし、傘をお忘れじゃありませんか。
- ロ. もしもし、傘をお忘れですよ。

3. 先生

- イ. わたしの子どもです。
- ロ. わたしの子どもでございます。

4. 議事堂

- イ. ちょっとおたずねしますが、議事堂はどちらへ行ったらいいでしょうか。
- ロ. ちょっとおたずねしますが、議事堂はどちらへ行ったらよろしいでしょうか。

5. 医者

- イ. あの一すいませんが、となりの人が急病ですから、すぐ来ていただけますか。
- ロ. 先生まことにおそれいますけど、おとなりの方が急病になりましたので、おそれいますけど、すぐおいでいただけますでしょうか。

6. 市役所

- イ. 市役所へ行くと父が申しましたから。
- ロ. 市役所へ行くと父がおっしゃいましたから。
- ハ. 市役所へ行くと父が言われましたから。
- ニ. 市役所へ行くと父が言いましたから。

次のものは「あなたならこう言ってもらいたい」というものである。今回はこれは一つの場面しかない。この場合、雨に降られているとき、同じ傘を貸してくれるならば、このうちどの言い方をしてもらいたいか、ということである。

7. 傘貸し

- イ. もしもし、ぬれますから傘をお持ちになってください。
- ロ. もしもし、ぬれるであんた傘を持って行きなよ。
- ハ. もしもし、ぬれるから傘をお持ちなさい。
- ニ. もしもし、おぬれになりますから、傘を持っていらっしゃいませんか。
- ホ. もしもし、ぬれますから傘をお持ちください。

次のグループは「あなたならこう感ずる」ということで、8. から11. までは

録音で一つの言い方を聞いて、

- イ. 適当な言い方
- ロ. 乱暴だから不適當
- ハ. 丁寧すぎるから不適當
- ニ. その他の点で不適當

のどれかを答えさせるものである。ここで聞かせたことばをあげておく。

8. 客間で

「まあごりっぱなお庭でございますわねえ。」

「いいえなんですかちっとも手入れが行き届きませんものでございますから、もうなかなかいつもきれいにしておくわけにはまいりませんのでござあますよ。」

「あーさいでございましょうねえ。これだけお広いんでござあますから、ひととお手入れあそばすのにだって大変でございましょうねえ。でもまあそれでもいつもよくお手入れが行き届いていらっしやいますわ。いつもほんとおきれいでけっこうでござあますわ。」

「いいえ、ちっともそんなことござあませんわ。」

9. 席ゆずられ

「いいよいいよ次でおるから。」

10. 席ゆずられ

「いいよいいよ次でおるから。」(9.と同じであるが、この違いについては後で説明する)

11. 八百屋の店先で

「何を買って行こうかしら。奥様何になさいます？」

「^{ワクワク}私おにんじんにしますわ。」

「そおねえ、じゃあ^{ワクワク}私もお大根とおにんじんいただきますわ。このごろは野菜もいろいろありますけれども、まだいくらかねえお高いようですわねえ。」

「えー毎日お食事の心配もたいへんですわねえ。」

12. から24. までは、二つから四つの言い方でどれがこの場合として適當であ

るかを答えるものである。

12. 社長と社員

イ。「じゃああなたこれわたしが帰るまでにやっといってください。」

「はい、わかりました。」

「やりかたはもうわかってますね。」

「ええ、わかってるつもりです。」

「それじゃあ、お願いしますよ。」

「はい。」

ロ。「じゃあ君、これ帰るまでにやっといってくれ。」

「は一、かしこまりました。」

「やり方はわかってるだろうね。」

「は一、わかってるつもりでございます。」

「じゃあ、頼んだよ。」

「は一、かしこまりました。」

13. 先生と生徒

イ。「いいかいみんなこれでよくわかっただろうね。田中、君わかったね。」

「はい、わかりました。」

「鈴木、君は？」

「わかりました。」

「よろしい。では、あしたから次のへすすむからみんな予習をしてくること。」

ロ。「いいですかみなさんこれでよくわかったでしょう。田中君、君わかりましたか。」

「はい、わかりました。」

「鈴木さん、あなたは？」

「わかりました。」

「それでは、あしたから次のへすすみますからみなさん予習をしてきてください。」

14. 市役所

- イ、市役所へ行けと父が申しましたから。
- ロ、市役所へ行けと父がおっしゃいましたから。
- ハ、市役所へ行けと父が言われましたから。
- ニ、市役所へ行けと父が言いましたから。

15. 道教え

- イ、ここをまっすぐおいでになると明代橋です。
- ロ、ここをまっすぐおいきると明代橋です。
- ハ、ここをまっすぐ行かれると明代橋です。
- ニ、ここをまっすぐ。

16. 市役所

- イ、おやじが市役所に行けと言いましたから。
- ロ、おとうさんが市役所に行けと言いましたから。
- ハ、父が市役所に行けと言いましたから。

17. 先生

- イ、わたしの弟です。
- ロ、^{ワタシ}私の弟でございます。
- ハ、わたしの弟だわ。
- ニ、^{ワタシ}私の弟です。

18. 電報用紙

- イ、電報用紙をいただけませんか。
- ロ、電報用紙をください。

19. 医者

- イ、あのうすみませんが、となりの人が急病ですから、すぐ来ていただけませんか。
- ロ、先生まことにおそれいますけど、おとなりの方が急病になりましたので、おそれいますけど、すぐおいでいただけませんかでしょう。

20. 道教え

- イ、ここをまっすぐおいでになると明代橋です。
- ロ、ここをまっすぐ行かれると明代橋です。

ハ. ここをまっすぐおいきると明代橋です。

21. 議事堂

イ. ちょっとおたずねしますが、議事堂はどちらへ行ったらよろしいですか。教えてください。

ロ. ちょっとおたずねしますが、議事堂はどちらへ行ったらよろしいですか。教えていただけないでしょうか。

22. 傘貸し

イ. 渡辺さん、ぬれますから傘をお持ちになってください。

ロ. 渡辺さん、ぬれますから傘をお持ちなさい。

ハ. 渡辺さん、ぬれますから傘をお持ちください。

23. 社長と女社員

イ. 「あの、今お客様がおみえになったんですが。」

「だれですか。」

「高橋さんとおっしゃる方ですが、お通ししていいでしょうか。」

「あー、そうですか。そいじゃあ、お通ししてください。」

ロ. 「あのう、ただいまお客様がおみえになりましたのでございますが。」

「だれ？」

「高橋さんとおっしゃる方なのでございますが、こちらにお通し申しあげてよろしゅうございませうか。」

「あー、そうか。じゃあ通してくれ。」

24. 先生と生徒

イ. 「みなさん何かわからないことがあったら今のうちに質問なさい。」

「先生、ここの終わりのところがよくわからなかったんですけど、ここのところをもう一度説明してください。」

ロ. 「みなさん何かわからないことがあったら今のうちに質問なさい。」

「先生ここの終わりのところがよくわかりませんでしたので、ここのところをもう一度説明していただけませんか。」

表 6-80 スライド調査の反応集計表

(その1)

	今回	前回		今回		前回	
		全体	10代	男	女	男	女
1. 道教え (被→m2・3)	18 (3.1) 563 (96.2) 4 (0.7)	83 (49.4)	11 (33.3)	14 (4.7)	4 (1.4)	30 (94.1)	53 (66.3)
		55 (32.7)	16 (48.5)	278 (94.2)	285 (98.3)	42 (47.7)	13 (16.3)
		30 (17.9)	6 (18.2)	3 (1.0)	1 (0.3)	16 (18.2)	14 (17.5)
2. 傘忘れ (被→m3)	188 (32.1) 397 (67.9)	121 (72.0)	16 (48.5)	84 (28.5)	104 (35.9)	61 (70.1)	60 (74.1)
		47 (28.0)	17 (51.5)	211 (71.5)	186 (64.1)	26 (29.9)	21 (25.9)
3. 先生 (被→m5)	511 (87.4) 74 (12.6)	63 (37.5)	15 (46.9)	269 (91.2)	242 (83.4)	43 (49.4)	20 (24.7)
		105 (62.5)	17 (53.1)	26 (8.8)	48 (16.6)	44 (50.6)	61 (75.3)
4. 講事堂 (被→m2・3)	417 (71.3) 108 (28.7)	59 (35.1)	12 (36.4)	210 (71.2)	207 (71.4)	44 (50.6)	15 (18.5)
		109 (64.9)	21 (63.6)	85 (28.8)	83 (28.6)	43 (49.4)	66 (81.5)
5. 医者 (被→m5)	507 (86.7) 78 (13.3)	78 (46.2)	13 (39.4)	267 (90.5)	240 (82.8)	48 (54.5)	30 (37.0)
		91 (53.8)	20 (60.6)	28 (9.5)	50 (17.2)	40 (45.5)	51 (63.0)
6. 市役所 (被→m5)	148 (25.3) 6 (1.0) 24 (4.1) 407 (69.6)	64 (38.1)	10 (30.3)	58 (19.7)	90 (31.0)	27 (31.0)	37 (45.7)
		12 (7.1)	2 (6.1)	4 (1.4)	2 (0.7)	4 (4.6)	8 (9.9)
		25 (14.9)	7 (21.2)	18 (6.1)	6 (2.1)	13 (14.9)	12 (14.8)
		67 (39.9)	14 (42.4)	215 (72.9)	192 (66.2)	43 (49.4)	24 (29.6)
7. 傘貸し (f4・5→被)	75 (12.8) 15 (2.6) 271 (46.3) 64 (10.9) 160 (27.4)	27 (16.0)	4 (12.1)	28 (9.5)	47 (16.2)	10 (11.4)	17 (21.0)
		1 (0.6)	0 (0.0)	10 (3.4)	5 (1.7)	1 (1.1)	0 (0.0)
		41 (24.3)	15 (45.5)	123 (41.7)	148 (51.0)	26 (29.6)	15 (18.5)
		33 (19.5)	5 (15.2)	40 (13.6)	24 (8.3)	18 (20.5)	15 (18.5)
		67 (39.6)	9 (27.3)	94 (31.9)	66 (22.8)	33 (37.5)	34 (42.0)

(その2)

	今回	前回		今回		前回	
		全体	10代	男	女	男	女
8. 客間で (f 4 ↔ f 4)	適当	28 (4.8)	8 (25.0)	22 (7.5)	6 (2.1)	42 (48.3)	22 (27.5)
	乱暴	1 (0.2)	0 (0.0)	1 (0.3)	0 (0.0)	3 (3.5)	3 (3.8)
	丁寧すぎる	502 (85.8)	13 (40.6)	245 (83.1)	257 (88.6)	26 (29.9)	38 (47.5)
	その他の点で不適當	54 (9.2)	11 (34.4)	27 (9.2)	27 (9.3)	16 (18.4)	17 (21.3)
9. 席ゆずられ (m1 → m2・3)	適当	17 (2.9)	2 (6.1)	16 (5.4)	1 (0.3)	25 (28.7)	14 (17.7)
	乱暴	492 (84.1)	15 (45.5)	246 (83.4)	246 (84.8)	44 (50.6)	43 (54.5)
	丁寧すぎる	1 (0.2)	1 (0.6)	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)
	その他の点で不適當	75 (12.8)	16 (48.5)	32 (10.8)	43 (14.8)	18 (20.7)	21 (26.6)
10. 席ゆずられ (m2・3 → m1)	適当	292 (49.9)	3 (9.1)	151 (51.2)	141 (48.6)	21 (24.4)	18 (22.2)
	乱暴	200 (34.2)	22 (66.7)	103 (34.9)	97 (33.4)	45 (52.3)	48 (59.3)
	丁寧すぎる	2 (0.3)	0 (0.0)	2 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	その他の点で不適當	91 (15.6)	8 (24.2)	39 (13.2)	52 (17.9)	20 (23.3)	15 (18.5)
11. 八百屋 (f 3 ↔ f 3)	適当	37 (6.3)	12 (36.4)	17 (5.8)	20 (6.9)	46 (53.5)	45 (55.6)
	乱暴	2 (0.3)	4 (2.4)	1 (0.3)	1 (0.3)	2 (2.3)	2 (2.5)
	丁寧すぎる	459 (78.5)	19 (57.6)	239 (81.0)	220 (75.9)	29 (33.7)	28 (34.6)
	その他の点で不適當	87 (14.9)	15 (9.0)	38 (12.9)	49 (16.9)	9 (10.5)	6 (7.4)
12. 社長と社員 (m5 ↔ m2・3)	適当	269 (46.0)	20 (60.6)	135 (45.8)	134 (46.2)	63 (72.4)	47 (58.8)
	乱暴	316 (54.0)	13 (39.4)	160 (54.2)	156 (53.8)	24 (27.6)	33 (41.3)
	丁寧すぎる	503 (86.1)	42 (25.1)	248 (84.4)	255 (87.9)	22 (25.6)	20 (24.7)
13. 先生と生徒 (m2・3 → mf1)	適当	81 (13.9)	22 (66.7)	46 (15.6)	35 (12.1)	64 (74.4)	61 (75.3)
	乱暴						

(その3)

		今回		前回		今回		前回	
		全体	10代	全体	10代	男	女	男	女
14. 市役所 (m2・3→m5)	申しましたから	310 (53.0)	67 (39.7)	10 (30.3)	133 (45.1)	177 (61.0)	29 (33.0)	38 (46.9)	
	おっしやいましたから	8 (1.4)	7 (4.1)	1 (3.0)	5 (1.7)	3 (1.0)	3 (3.4)	4 (4.9)	
	言われましたから 言いましてから	37 (6.3) 230 (39.3)	34 (20.1) 61 (36.1)	9 (27.3) 13 (39.4)	28 (9.5) 129 (43.7)	9 (3.1) 101 (34.8)	19 (21.6) 37 (42.0)	15 (18.5) 24 (29.6)	
15. 道教え (m2・3→m2・3)	おいでになると	53 (9.1)	69 (40.8)	10 (30.3)	25 (8.5)	28 (9.7)	24 (27.3)	45 (55.6)	
	おいきると	8 (1.4)	17 (10.1)	3 (9.1)	4 (1.4)	4 (1.4)	10 (11.4)	7 (8.6)	
	行かれると	518 (88.5)	83 (49.1)	20 (60.6)	260 (88.1)	258 (89.0)	54 (61.4)	29 (35.8)	
	ここをまっすぐ	6 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
16. 市役所 (m2・3→m5)	おやじが	15 (2.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	9 (3.1)	6 (2.1)	0 (0.0)	1 (1.2)	
	おとうさんが 父が	37 (6.3) 533 (91.1)	34 (20.1) 134 (79.3)	6 (18.2) 27 (81.8)	24 (8.1) 262 (88.8)	13 (4.5) 271 (93.4)	25 (28.4) 63 (71.6)	9 (11.1) 71 (87.7)	
	わたしの~です わたくしの~でございます わたしの~だわ わたくしの~です	367 (62.7) 37 (6.3) 1 (0.2) 180 (30.8)	20 (11.9) 103 (61.3) 0 (0.0) 45 (26.8)	6 (18.2) 12 (36.4) 0 (0.0) 15 (45.5)	182 (61.7) 21 (7.1) 1 (0.3) 91 (30.8)	185 (63.8) 16 (5.5) 0 (0.0) 89 (30.7)	12 (13.8) 50 (57.5) 0 (0.0) 25 (28.7)	8 (9.9) 53 (65.4) 0 (0.0) 20 (24.7)	
18. 電報用紙 (f4・5→m2・3)	いただくけませんか ください	368 (62.9) 217 (37.1)	90 (53.3) 79 (46.7)	18 (54.5) 15 (45.5)	163 (55.3) 132 (44.7)	205 (70.7) 85 (29.3)	41 (46.6) 47 (53.4)	49 (60.5) 32 (39.5)	
	来ていただくけませんか おいでいただけますでしょうか	445 (76.1) 140 (23.9)	84 (49.7) 85 (50.3)	13 (39.4) 20 (60.6)	236 (80.0) 59 (20.0)	209 (72.1) 81 (27.9)	47 (53.4) 41 (46.6)	37 (45.7) 44 (54.3)	

(その4)

	今回 全体	前回		今回		前回	
		全体	10代	男	女	男	女
20. 道教え (f2→m5)	94 (16.1) 487 (83.2) 4 (0.7)	114 (67.5)	16 (48.5)	49 (16.6)	45 (15.5)	50 (56.8)	64 (79.0)
		17 (10.1)	5 (15.2)	242 (82.0)	245 (84.5)	11 (12.5)	6 (7.4)
		38 (22.5)	12 (36.4)	4 (1.4)	0 (0.0)	27 (30.7)	11 (13.6)
21. 議事堂 (f2→m2・3)	138 (23.6) 447 (76.4)	84 (50.0)	11 (33.3)	73 (24.7)	65 (22.4)	46 (52.9)	38 (46.9)
		84 (50.0)	22 (66.7)	222 (75.3)	225 (77.6)	41 (47.1)	43 (53.1)
22. 傘貸し (m5→m2・3)	120 (20.5) 339 (57.9) 126 (21.5)	55 (32.5)	15 (45.5)	63 (21.4)	57 (19.7)	25 (28.4)	30 (37.0)
		51 (30.2)	10 (30.3)	172 (58.3)	167 (57.6)	26 (29.6)	25 (30.9)
		63 (37.3)	8 (24.2)	60 (20.3)	66 (22.8)	37 (42.0)	26 (32.1)
23. 社長と女子社員 (m5⇔f2)	454 (77.6) 131 (22.4)	91 (53.8)	17 (51.5)	227 (76.9)	227 (78.3)	55 (62.5)	36 (44.4)
		78 (46.2)	16 (48.5)	68 (23.1)	63 (21.7)	33 (37.5)	45 (55.6)
24. 先生と生徒 (m1→m2・3)	495 (84.6) 90 (15.4)	104 (61.9)	20 (60.6)	233 (79.0)	202 (90.3)	57 (64.8)	47 (58.8)
		64 (38.1)	13 (39.4)	62 (21.0)	28 (9.7)	31 (35.2)	33 (41.3)

(注) 被=被調査者 m=男 f=女 1=10代 2・3=20代、30代……
→の左が話し手、右が聞き手 ⇔は二人の間の会話

6.4.2. 結果

以上の設問に対しての反応の数を、前回の結果の一部とともに表6-80に示す。前回の数字は報告書の296ページから316ページまでの第217表である。以下は、この表6-80を出発点とした分析である。

1. 「道教え」については、今回は「行かれると」が大幅に増え、「おいでになると」が大幅に減っている。つまり、丁寧な形が減ったことになる。また、「おいきると」という方言形は非常に少なくなった。

この1.は「あなたならこう言う」ということであり相手は20～30代の男であるが、同じ「道教え」はさらに20.として「どれがこの場合として適当か」という問いの形式でも聞いている。この20.は20代の女性が50代の男性に教える場面であり少し違うが、大体の傾向としては1.と同じことがいえる。ただし、相手が50代ということもあって、今回もやや丁寧な方に傾いている。特に前回の結果では、1.も20.も、若い人ほど「おいでになる」が減り、「行かれる」が増えるという傾向がみられたから、今回の結果は、その変化の方向が大筋としてそのまま続いていたことを示すものといえよう。

1.と20.についての相関表が前回の報告書の第219表の一部に出ているので、これと同じものを表6-81に示しておく。二つの間で、一貫した反応を示したものの率を「一貫率」ということにすると、前回は57.7%であったのに対して今回は81.7%であって、かなり

高くなったといえよう。

2. 「傘忘れ」の場面でも、前回に比べて丁寧な形の方の選択率が低くなって、全体での前回と今回とは全く逆転している。前回も10代は「お忘れですよ」の方が多かったし、また若いほど多いのであるから、1.と同じように、同じ方

表 6-81 「道教え」の反応相関表 (1)

		20「道教え」			計
		おいでになると	いかれると	おいきると	
1 「道 教 え」	おいでになると	5	13	0	18
	いかれると	88	472	3	563
	おいきると	1	2	1	4
計		94	487	4	585

向に変化が進んだことがわかる。

「お忘れじゃありませんか」を否定形、「お忘れですよ」を肯定形ということにすると、同じように否定形・肯定形をとっているものとして18.「電報用紙」がある。ここでは「いただけませんか」が否定形で、「ください」が肯定形である。この2.と18.との相関表を作ると、表6-82のようになる。前回報告書の第223表に相当するものである。

両方で一貫して同じ形式を選んだ一貫率は、前回58.7%に対して今回は50.4%とやや低下した。

3.「先生」も、前回の多数形「ございます」が今回は多数形「です」となり逆転した。前回の年齢別では20代以下では「です」が多く、30代以上で「ございます」が多かったから、これもこの傾向が進んだ結果が今回の結果としてあらわれたものといえる。「ございます」は今後は非常に減っていくものと思われる。

この場面はまた17.にもある。この二つについて、「です」「ございます」な

表 6-82 「傘忘れ」と「電報用紙」の
否定形・肯定形の相関表

		18「電報用紙」		計
		否定形	肯定形	
2 「傘忘れ」	否定形	133	55	188
	肯定形	235	162	397
計		368	217	585

どについてまとめて相関表を作ると表6-83のようになる。自分が言うものとしてはちょっと「ございます」が多くなり、ことばを聞いて適当と思うかのときは「ございます」は非常に少なくなることになる。「です」が非常に多いため一貫率は高まって、86.0%である。2.も3.も、女の方が丁寧な語形を選択する傾向があるが、3.では今回は差が少なくなったのが注目される。

表 6-83 「先生」の反応相関表

		17「先生」			計
		です	て ござ います	だわ	
3 「先生」	です	488	22	1	511
	て ござ います	59	15	0	74
計		547	37	1	585

4.「議事堂」の場面でも、前回の丁寧な語形から今回は乱暴な語形へと選択が逆転している。この場合は、前回の調査では、年齢の点で一

表 6-84 「議事堂」の反応相関表

		21 「議事堂」		
		おしえて ください	おしえていただけ ないでしょうか	
4 「議事堂」	いいでしょうか	99	318	417
	よろしいでしょうか	39	129	168
計		138	447	585

定の傾向がなかったから、年とともに丁寧でないものが多くなった結果今回のようになったというわけでもないことがわかる。前回は性によって大いに違って、女の方が丁寧な形を選択したのに、今回は性差がほとんどなくなった。

「議事堂」の場面はなお21.にもある。ここでは別のことばのところを取り上げているし、また問題の性質も違っている。21.の方では、丁寧な形の方が適当とされているという点で4.とは逆である。4.が「あなたならこう言う」という質問形式であるのに対して、21.の方は「どれが適当か」というものである、というところの違いがある。21.の方は、前回よりも丁寧な方が支持されており、これは前回の場合、年齢は若いほど丁寧な方を支持することの多かったことの延長線上に今回の結果はあるのである。

4.と21.との相関表は表6-84のとおりである。この表によってもそう相関が高いとはいえないことは、上述の結果から予想されるとおりである。

5.「医者」の場面でも前回よりも丁寧でない方の言い方が選択されているという点では同じである。前回はこれと同じ問いでは、年齢別に一定の傾向はなかった。

同じ場面について、19.でも聞いている。19.の結果は5.よりも、今回の場合、丁寧な方に10%ばかり移っている。19.でもやはり前回よりも丁寧でない方に大きく傾いたが、性の差はほとんど前回と同じぐらいであって、この点は一般的傾向とは合っていない。

5.と19.との相関表を表6-85に示す。これは語形が全く同じなので、一貫率を出すと、79.1%となり、相当高いといえるであろう。

以上1.から5.までを概観していえることは、前回と今回との20年の間に、

表 6-85 「医者」の反応相関表

		19「医者」		計
		来ていただけませんか	おいでいただけませんかでしょうか	
5 「医者」	来ていただけませんか	415	92	507
	おいでいただけませんかでしょうか	30	48	78
計		445	140	585

「あなたならこう言う」においては、丁寧な語形から丁寧でない語形へ、多数派が移動したことである。言う立場としては、丁寧でない方を選択するようになった、ということは、言語使用者の意識が大幅に変わった、ということができる。ことばはただ丁寧であればいいものではないことがいえるようである。ただしこの場合、今回はすべて10代の人の反応であることは断わっておかなければならないが、それでも、将来の意識変革の可能性がここにあることになる。今後これらの人々が年齢を重ねるにしたがって丁寧な方を選択するようになるのかも知れないが、しかし、可能性としては上述のようなことがいえるわけで、その可能性もない反応ではなかったことは少なくとも断言できるところである。

12. 以後の、選択肢のうちどれが適切か、という質問形式のものでは、この1. から5. までのものよりも丁寧な形に傾くところがある。これは、なるほど聞けばこの方が適切と感じても、さて自分はこうは言えない、というように、自分の言語生活について非常に客観的な位置づけをしている、とみることもできよう。前回の調査では、例えば前回報告書の第220, 222, 224表などを見ると、以上のようなことをいうための表ではないが、自分の言うときの方が適切かどうかのときよりも丁寧な方を選択しているようであるので、この点でも20年間には進歩があったと考えることができる。ただし、今回の被調査者が10代であることを忘れてはならない。

性による違いでは、1. から5. まではすべて、性差が小さくなっている。これも被調査者が10代ばかりであって、すべて共学校での調査なので、この影響によるとも考えられる。

次の6.も「あなたならこう言う」の質問形式で、場面は「市役所」である。表6-80で見ると、自分の父親の「言う」という動作に対する尊敬語を使うという、望ましくない形はわずか5.1%であって、前回の22.0%よりは、敬語についての常識はずっと高くなったといえるであろう。前回の10代では27.3%であった。前回はこの望ましくない形は30代が一番少なく、あと両側にいくにしたがって多くなっていたのに比べれば、敬語教育は大いに成果を挙げたといえるであろう。

性別では、前回は女の方が望ましい形が少なかったのに対し、今回は男の方が少なくなっている。

個々の言語形式でいえば、今回は「言いましたから」だけが增加して他は減った。「申しましたから」というより丁寧な形が減ったことは上述の1.から5.までの傾向と同じである。この「申しましたから」は前回も大体の傾向としては若い方が少なかった。

14.も選択肢の刺激文が同じであるので、相関表として表6-86を作った。

14.の方は6.とは逆に「申しましたから」の方が「言いましたから」よりも多い。ここでも、それが適当かの方では丁寧な方を選択するという一般的傾向が示されたわけである。14.の場合は前回は年齢が低くなるにしたがって「申しましたから」の率が低下していたのであるが、今回の結果はその延長線上にはないわけで、敬語常識の拡

がりを示すものであろう。

14.では、父親の「言う」動作に対して尊敬語を使ったものを適当とした人が、6.のそれを言うと言えた人よりも多かったのは、どれが適当か、と問われると、丁寧な方を選択するという一般傾向に引きずられたものであろう。

表6-86によると、両方の

表 6-86 「市役所」の反応相関表 (1)

		14「市役所」				計
		申しましたから	おっしゃいましたから	言われましたから	言いましたから	
6 「市役所」	申しましたから	122	0	3	23	148
	おっしゃいましたから	3	0	0	3	6
	言われましたから	10	2	8	4	24
	言いましたから	175	6	26	200	407
計		310	8	37	230	585

間で同じ答えを選択した者は330人で、一貫率は56.4%となる。これは前回の68.5%よりも低下した。前回報告書ではこれと同じものは第240表である。一方の間で父親の「言う」について尊敬語を選択しながら他方ではそうでないという二つの反応が矛盾している人は55人でこれは9.4%にあたる。前回の16.7%に比べれば、この点でも敬語常識は向上したといえるであろう。

7.は「傘貸し」の場面で、これ一つだけ「あなたならこう言ってもらいたい」という質問形式である。話し手は40～50代の女性である。したがって、今回の場合は被調査者よりも目上であり、表6-80で見ると、前回よりも、乱暴な形の「持っていきなよ」を認める人がわずかながら多くなり、「お持ちになってください」や「持っていらっしゃいませんか」のような尊敬語形、「お持ちください」という謙譲的表現が減って、「お持ちなさい」というそれほど丁寧でない形が選択されたのもこのためであろう。

前回も「お持ちなさい」は年齢の低い方が多くなっているが、これは、このあともこの傾向がつづくというものではなくて、常に若い人がそう言われて、それを認める人が多くなるということであろう。もっと上げて前回の結果である第217表を見ると、丁寧な順に「持っていらっしゃいませんか」「お持ちになってください」「お持ちください」「お持ちなさい」「持っていきなよ」であるとするならば、乱暴な「持っていきなよ」を除けば、この順に年長者に支持されていることがわかる。全体として今回の結果は、前回の10代の結果とよく似ているといえよう。

22.も同じ「傘貸し」の場面である。この22.は話し手が違って、男の50代の人が、同じく男の20～30代の人に傘を貸すときのことばである。ここでは選択肢が三つであるから単純に比較できないが、話し手が男であるということもあって「お持ちなさい」の形の支持率が高くなっている。前回は「お持ちになってください」と「お持ちください」の支持が前者女、後者男でそれぞれ10%前後の違いがあったが、今回は三つの選択肢とも性差はあまりなくなっている。7.の方は性差はややみられる。

7.と22.との相関表を表6-87に示す。この表によれば同じ語形を選択した人の率、すなわち一貫率は45.5%である。22.の方は選択肢が三つなので、その

三つに限っていえば一貫率は52.6%となる。

8.から11.までは、一つの発言を聞いて、それがその場面で適当かどうかを答えるものである。

8.は40代のマダムが2人、客間で話している場面である。表6-80によれば、この会話を適当とした人は

表 6-87 「傘貸し」の反応相関表

		22「傘貸し」			計
		お持ちになつて下さい	お持ちなさい	お持ちください	
7「傘貸し」	お持ちになつて下さい	19	34	22	75
	持っていきなよ	3	11	1	15
	お持ちなさい	36	197	38	271
	持っていらっしゃいませんか	24	25	15	64
	お持ちください	38	72	50	160
計		120	339	126	585

前回は比べて激減している。前回は10代でも4分の1は適当としていたのである。この点からいうと、ことばについて批判的な見方をする人が増えた、ということができよう。前回の結果では、学歴・階層とも高い方に適当とする人が少なかった。

このような丁寧な会話は11.にもあらわれている。これは八百屋の店先での30代の奥さんどうしの会話である。丁寧さの度合いは8.の方が上であるので、これが結果にあらわれている。しかし、8.では今回の場合、性別では男の方が女より適当とする人が多いことはおもしろい。流れるような女性の会話を認めてしまうのは男の方が多いのであろう。この傾向は前回も同様であった。これに対して11.は逆に女の方が男より適当とするものが多く、これは前回も同様であった。ただし、11.の方は性差は前回・今回とも差は大きくない。11.では、前回は、若いほど適当とする人が少なくなっていたが、それでも10代も、3分の1以上が前回は適当としていたので、批判的にみる人が8.と同様増えたといえる。

この8.と11.との相関表を表6-88に見ることにする。二つで同じ答えをした人の率は72.1%である。一方を適当としながら、他方を不適当とした人は合計61人で10.4%であって、これは少し多い感じである。

9.と10.とはともに「席ゆずられ」で、刺激文もまた「いいよ、いいよ、次でおきるから」である。ただし、9.はこのことばは10代男から20~30代男へ、

表 6-88 「客間で」と「八百屋」との相関表

		11「八百屋」				計
		適 当	乱 暴	丁寧 すぎる	その 他の 点で 不適 当	
8 「客 間で」	適 当	2	0	24	2	28
	乱 暴	0	1	0	0	1
	丁寧すぎる	33	1	401	67	502
	その他の点で不適当	2	0	34	18	54
計		37	2	459	87	585

表 6-89 「席ゆずられ」の反応相関表

		10「席ゆずられ」				計
		適 当	乱 暴	丁寧 すぎる	その 他の 点で 不適 当	
9 「席 ゆず られ」	適 当	12	3	0	2	17
	乱 暴	249	187	1	55	492
	丁寧すぎる	0	0	1	0	1
	その他の点で不適当	31	10	0	34	75
計		292	200	2	91	585

10. は逆に 20~30 代男から 10 代男へ、である。この違いが表 6-80 の結果によくあらわれている。10. ではほとんど半数が適当と認めているのに対し、9. ではわずか 2.9% に過ぎない。このあたり、前回は適当とした数は二つの問題では全く変わらなかった。それだけでなく前回は、このことばは乱暴だから不適当という答えが、むしろ多いはずの 9. の方でかえって少なかったことも問題である。このような点からいうならば、20 年たって今回はずっと論理的な結果が出たわけで、この間の敬語についての見方はずっと向上したといえよう。

この二つの間の相関表を表 6-89 に示す。両方で同じ答えをした人は、234 人で全体

の 40.0% である。刺激文が同じで、話し手と聞き手が逆であるという点で、場面が違うのであるから、一方を適当とし、他方を不適当とする考え方も、上のいわば一貫率よりも重要である、ということが出来る。こういう人は、285 人で 48.7% であった。9. を適当とした 17 人のうち、10. を不適当としたのは 5 人で 29.4% であったのに対し、その逆、10. を適当とした 292 人のうち、9. を不適当とした人は 280 人で 95.9% であった。これはこの 9. と 10. との差を示す数値のうちの一つである。

9. は前回では10代の6.1%しか適当としていないから、この刺激文をこのスライド調査で発言している当の年代の人にもあまり受け入れられていなかったことがわかる。前回は、学歴・階層とも上になるほど適当とする人が少なかった。今回も前回も男の方がこの二つの問題で適当とする人の率が高かったが、今回の二つと前回の10. は差はそれほど大きくはない。

12. 以下はどの言い方が適当であるかを答えるものである。

12. は50代の社長と20～30代の社員との会話である。表6-80によれば、20年の間に多数意見が逆転した。しかも、ある意見によれば古い考えとされる差の大きい方をよしとする人が20年の間に増えたのである。前回の年齢別の結果では一定の傾向はみられなかったので、今回への芽はなかったといっている。

性では、前回には差があって男は差の小さい方を選んでいるのに対して、女の方も多数形は同じであるが選択の差は女の方が小さかった。これが今回はほとんど性差はない。

13. は20～30代の先生と10代の男女生徒との会話である。表6-80によれば、これも12. と同様、丁寧でない方が多数意見となった。ここでも、この結果は前回とは逆転した。

性差は前回も今回もあまり大きな差はみせていない。

この12. と13. の相関表を表6-90として示す。一貫率は57.4%である。

12. の「社長と社員」に対して、23. に「社長と女社員」がある。これは、50代の社長と20代の女社員との会話である。ここでは、イは、社長の方はロより丁寧、女社員の方はロより丁寧でないの、結局、イは二人のことばの丁寧さの差が小であり、ロは差が大である、ということになる。

23. では、表6-80で見るように、差の小さい方を4分の3の人が選択している。相手が男社員である12. の方は小差で差の大きい方が多くなっている。これを合わせて考えると相手が女のときは、差が小さい方

表 6-90 「社長と社員」と
「先生と生徒」の相関表

		13「先生と生徒」		計
		丁寧な方	丁寧でない方	
12 「社員と 社長」	丁寧な方	50	218	268
	丁寧でない方	31	285	316
計		81	503	584

がいいとされていることがわかる。男であれば命令系統下にあるものとしてこのような丁寧さの差の大きい言い方を認めるのであろう。前回は22. は性を除いて、年齢・学歴・階層などでは一定の傾向は見い出せなかった。性だけは女が差の大的方を支持し、男が差の小的方を支持している、ということで、普通考えるのとは逆であった。しかし、今回は性による差はみられなくなった。これに関しては、前回の報告書では第259表にあげてある。ここでは、差の大的支持が高かったのは、社長の尊大を支持したのではなくて、女社員の敬語形式についてその丁寧さを支持しているのであろう、と推測している。

12. と23. との相関表は表6-91のとおりである。一貫率は57.8%であり、これは表6-90での一貫率とほとんど同じである。

13. と同じ教室の場面のものが24. である。13. の方は主として先生のことばについて、24. の方は生徒の方のことばについて聞いている。

表6-80では、丁寧でない方への支持が20年の間に多くなった。前回では女

表 6-91 「社長と社員」と「社長と女社員」との相関表

		23「社長と女社員」		計
		差小	差大	
12 「社長 と社員」	差小	238	31	269
	差大	216	100	316
計		454	131	585

の方が支持率の差が小さかったが、今回は逆に女の方が支持率の差が大きかった。13. と24. との相関表を表6-92として作った。相関表ではないが、この二つの間の間の比較については前回の報告書の第260表がある。この第260表で明らかなように、24. の方では丁寧でない方の支持が多く、13. の方では丁寧な

表 6-92 「先生と生徒」の
反応相関表

		24「先生と生徒」		計
		丁寧でない方	丁寧な方	
13 「先生 と生徒」	丁寧でない方	435	68	503
	丁寧な方	59	22	81
計		494	90	584

方の支持が多かったが、20年後の今回は、表6-92で明らかなように、大体同じく丁寧でない方に傾いており、一貫率は78.3%となっていて大変高いといっている。

15. は「道教え」であるが、「道教え」については、1. と20. との関係で上で既に述べた。15. は選択肢が他のものと違うので、ここでもう一度述べる。この15. では、20～30代の男どうしの場面でのものであるの

で、表6-80でもわかるように、一番丁寧な「おいでになると」は、10代の被調査者自身の「こう言う」では支持が一番低く、女20代から男50代へのことばでの支持率との間にこの15.は立っている。性では、前回は女は「おいでになると」、男は「行かれると」を多く支持していたが、今回は性による差はほとんどない。

15.と20.との相関表が表6-93である。一貫率は、「行かれると」が非常に多いために、82.6%と高くなっている。

16.は「市役所」である。「市役所」については、父親に対する敬語に関しては既に述べたが、ここでは、その父親のことを何と言っているかをみるのがこの16.である。

表 6-93 「道教え」の反応相関表(2)

表6-80によると、この20年の間に、「おとうさん」から「父」へと支持率がより高まったということができる。やはりここでも敬語常識が高まったわけである。前回は今回も女の方が「父」への支持率が高いが、男との差とは20年間に縮まった。

		20「道教え」			計
		おいでになると	いかれると	おいきると	
15「道教え」	おいでになると	28	23	2	53
	おいきると	3	4	1	8
	いかれると	63	454	1	518
	ここをまっすぐ	0	6	0	6
計		94	487	4	585

この「市役所」について父親への敬語の部分と、父親を何と言うかとの相関表を表6-94として示す。「父が」と望ましい形で言いながらその父親の「言う」という動作について尊敬語を使ったものは、全部の「父が」を選択した人の、6.で4.9%、14.で7.1%であった。逆に「お父さんが」と言いながら、尊敬語なしは「お父さんが」の6.で91.9%、14.で86.5%であった。

前回は、学歴・階層とも高いほど「おとうさんが」の率は低くなっていた。

17.の「先生」については、表6-83で既に「です」などについては触れたので、ここでは、自称の代名詞についてみる。表6-80では、前回は「わたくし」が圧倒的であったが、今回は「わたし」の方が多数形となったことが注目される。敬語の点では、それほど丁寧でないものがこの20年間に支持される

表 6-94 「市役所」の反応相関表 (2)

		6「市役所」				14「市役所」				計
		申しましたから	おっしゃいましたから	言われましたから	言いましたから	申しましたから	おっしゃいましたから	言われましたから	言いましたから	
16「市役所」	おやじが	3	0	1	11	7	1	1	6	15
	おとうさんが	5	2	1	29	8	0	5	24	37
	父が	140	4	22	367	295	7	31	200	533
計		148	6	24	407	310	8	37	233	585

ようになったことの一つのあらわれであろう。自称代名詞に関しては、この前回で、全体で「わたくし」を選択したものが88.1%であったのに対して、10代は81.9%であって、若い人には「わたくし」が少なかったが、この差は、「です」と「ございます」の差ほどの差ではなかった。すなわち、「ございます」の若い人の中での衰退は相当大きかったのである。

18.の「電報用紙」については、2.の「傘忘れ」のところ、否定形・肯定形という点でまとめて述べた(表6-82)。18.だけに関していえば、前回より「いただけませんか」というより丁寧な形を選択する率が高くなった。性の差は、全体として「いただけませんか」が多くなったのであるが、男女の差は他の多くのもと違って縮まらなかった。

19.から24.までは、既に上の関係のところ、ここで述べたので、ここでは省略しておく。

7. 継続調査の結果（2）

7.1. 敬語指標と敬語意識

前章では敬語形式、敬語意識および社会生活意識の各側面について個々に記述してきた。この章ではこれらを総合的に検討するための指標を作成し、この指標を用いて今回調査の資料を対象にいくつかの分析を行うことにする。

敬語形式・意識に係る指標としては種々のものが考えられるが、ここでは以下の7.1.1.～7.1.3.の3種の指標を用いる。

7.1.1. 丁寧さの総合段階

この指標は、6.1.「場面と敬語段階」での分析に用いた敬語形式の丁寧さの「場面段階点」を基に、以下の手順で作成したものである。

まず、各被調査者が各場面で得た1～3の段階点を全12場面について合算した点数（「合計段階点」と呼ぶ）を求める。この合計段階点は、数値が小さいほど場面全体を通じて敬語形式が丁寧であり、大きいほど乱暴であることを意味している。しかし、この数値は理論的には12～36点の25段階にも及ぶため、以降で示そうとする他の指標また項目との相関表の扱いが面倒である。そこで、各点数の分布（巻末253～254ページの「資料1」参照）に基づき、以下の5段階に再区分した。

段階 1	36～27点	段階 2	26～25点	段階 3	24～23点
段階 4	22～21点	段階 5	20～12点		

以降、この5段階を「丁寧さの総合段階指標」（単に、「丁寧さ段階」と呼ぶが、これは場面段階点および合計段階点とは逆に、段階が高いほど敬語形式が丁寧なことを表わすことに留意されたい。

なお、合計段階点算出の際、「無回答」(段階点なし)はその場面での最頻値段階点の数値で代置した。これは、「無回答」を0点として計算すると、その人の合計段階点が丁寧な方に傾くことを避けるための便宜的処置である。

さて、上記の手続きによって構成された丁寧さの各段階に属する被調査者の分布状況を簡単にみておこう。

図7-1は全体と性別について示したものである。この図から、丁寧さ段階については男と女とでは全く異質の分布であることがわかる。つまり、女は被調査者全体の場合と同様に中程度の丁寧さ段階を頂点とするほぼ正規分布型の曲線を描いているのに対し、男は最も乱暴な段階に属する人が一番多く、丁寧さの段階が上がるのに反比例してその段階の人数が減少している。

このように丁寧さ段階は男女で大きく異なっているのので、両者を分けた上で年齢別、学歴別の構成を示すことにする。

丁寧さ段階と性×年齢との関係を表7-1でみると、全体の性別の場合と同じ

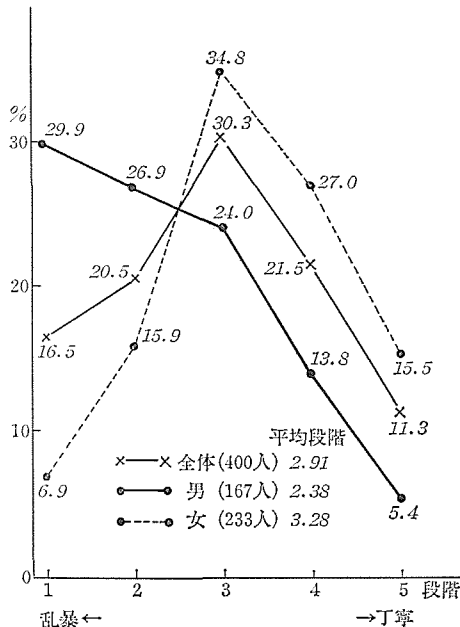


図7-1 「丁寧さ段階」の全体、性別分布

ように、どの年齢層でもより乱暴な段階の者は男に多く、丁寧な段階は女に多いという傾向がみられている。また、各性別での年齢層間の傾向を表の右端の「平均段階」でみてみよう。男は40代を例外とすると、20代以下と30代との間で平均段階にやや差があるが全体としてはあまり違っていない。一方、女の方は年齢の上昇につれて平均段階も高くなるという傾向がはっきりとみえている。

次に、学歴との関係をみよう。図7-2は男だけについて

表 7-1 「丁寧さ段階」の性×年齢別分布

	1		2		3		4		5		人数	平均段階			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男女	男	女	全体
10代後半	3(15.8)	3(11.1)	11(57.9)	6(22.2)	3(15.8)	10(37.0)	1(5.3)	8(29.6)	1(5.3)	0(-)	19	27	2.26	2.85	2.61
20代	16(33.3)	4(6.6)	13(27.1)	10(16.4)	13(27.1)	22(36.1)	4(8.3)	22(36.1)	2(4.2)	3(4.9)	48	61	2.23	3.16	2.75
30代	9(26.5)	3(5.8)	7(20.6)	10(19.2)	7(20.6)	19(36.5)	10(29.4)	10(19.2)	1(2.9)	10(19.2)	34	52	2.62	3.27	3.01
40代	14(46.7)	2(5.0)	6(20.0)	5(12.5)	4(13.3)	14(35.0)	4(13.3)	12(30.0)	2(6.7)	7(17.5)	30	40	2.13	3.43	2.87
50代	3(17.6)	0(-)	5(29.4)	4(22.2)	5(29.4)	5(27.8)	3(17.6)	2(11.1)	1(5.9)	7(38.9)	17	18	2.65	3.67	3.17
60代以上	5(26.3)	4(11.4)	3(15.8)	2(5.7)	8(42.1)	11(31.4)	1(5.3)	9(25.7)	2(10.5)	9(25.7)	19	35	2.58	3.49	3.17

の学歴別の丁寧さ段階の分布であり、図 7-3は女のそれである。両図の分布また平均段階をみてもわかるように、男女ともに学歴の上昇に伴い丁寧な方向に傾いているが、その差は男に顕著に現れている。特に、男の低学歴層の分布が右下がりのほぼ直線状になっていることは注目に値する。この層の結果が図 7-1の男全体の丁寧さ段階の分布曲線に大きな影響を及ぼしているといえよう。

なお、男女を合わせた場合の学歴別の平均段階は、低学歴層2.65、中学歴層3.09、高学歴層3.28となっている。

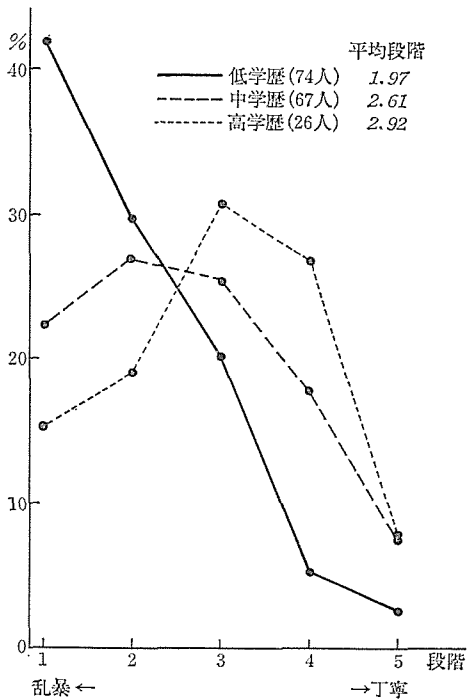


図 7-2 「丁寧さ段階」の学歴別分布 (男)

以上で概観したように、丁寧さ段階には性・年齢および学歴の3属性のそれぞれが種々の程度で関与しているといえる。その効き方の程度をみるために、

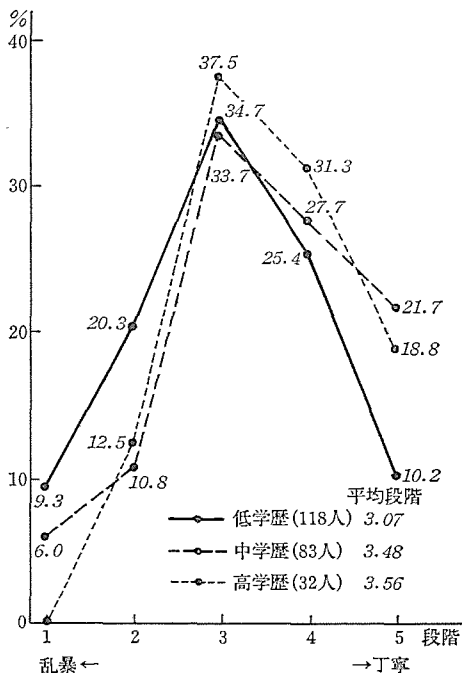


図 7-3 「丁寧さ段階」の学歴別分布 (女)

A I C の値を求めてみると表 7-2 のようになる。A I C 値は小さいほどその属性(要因)が対象に寄与する程度が高いわけであるから、表中の属性または属性間クロス順に効いていることになる(A I C の詳細については本章末の付記を参照されたい)。とりわけ、図 7-1~図 7-3 でみてきた性、および性×学歴の 2 要因の効き方が大きいといえる。

なお、ここで採用した丁寧さ段階とその基になった各場面段階点との関係については 7.2. で詳しく述べることにする。

表 7-2 「丁寧さ段階」の属性別 A I C 値

	A I C	差
性 (2)	-51.09	—
性×学歴 (6)	-47.85	3.23
性×年齢 (12)	-29.21	18.65
学歴 (3)	-3.33	25.87
年 齢 (6)	5.27	8.60
性×学歴×年齢 (66)	109.95	100.69

(注) ()内はカテゴリー数

7.1.2. 適応点段階

この指標は、特定の人が場面ごとに用いる敬語形式の丁寧さの程度が全体の傾向とどの程度類似しているかを示すものである。具体的には、ある人の場面段階点とその場面での最頻値段階点と合致した場合は 1 点、そうでないとき

を0点とする。そして、この点数を全12場面をとおして合算した点数（「適応点」）を求め、これをさらに5段階指標に変換したものが「適応点段階」ということになる。

適応点とその段階の関係は下記のとおりである——適応点の分布は巻末255ページの「資料1」に示されている。なお、「無回答」はその場面の点数を0点として処理した。

段階1 0～6点 段階2 7～8点 段階3 9点
 段階4 10点 段階5 11～12点

適応点段階の全体および属性別の分布状況は表7-3のとおりである。

適応点段階の平均は被調査者全体では3.06であるが、これは性別でも学歴別でもほぼ似た数値となっている。一方、年齢別では若い人ほど平均段階が高くなる傾向がみられている。しかし、この属性もA I Cの面からみると、分布状況の差を決定づけるほどの要因とはなっていない（AIC=3.45）。つまり、先の丁寧さ段階とは違って、適応点段階の場合は属性間での差異は小さいといえる。

なお、各場面での最頻値「場面段階点」は、「魚つり」が3、「医者」が1で、他の10場面はすべて段階点2であった。

表 7-3 「適応点段階」の分布

	1	2	3	4	5	人 数	平均段階
男	26(15.6)	40(24.0)	33(19.8)	34(20.4)	34(20.4)	167	3.06
女	27(11.6)	62(26.6)	51(21.9)	56(24.0)	37(15.9)	233	3.06
10代後半	1(2.2)	11(23.9)	11(23.9)	12(26.1)	11(23.9)	46	3.47
20代	7(6.4)	28(25.7)	26(23.9)	26(23.9)	22(20.2)	109	3.26
30代	8(9.3)	25(29.1)	14(16.3)	23(26.7)	16(18.6)	86	3.16
40代	17(24.3)	16(22.9)	14(20.0)	12(17.1)	11(15.7)	70	2.77
50代	10(28.6)	6(17.1)	5(14.3)	7(20.0)	7(20.0)	35	2.86
60代以上	10(18.5)	16(29.6)	14(25.9)	10(18.5)	4(7.4)	54	2.67
低学歴	29(15.1)	47(24.5)	34(17.7)	47(24.5)	35(18.2)	192	3.06
中学歴	16(10.7)	41(27.3)	34(22.7)	34(22.7)	25(16.7)	150	3.07
高学歴	8(13.8)	14(24.1)	16(27.6)	9(15.5)	11(19.0)	58	3.02
全 体	53(13.3)	102(25.5)	84(21.0)	90(22.5)	71(17.8)	400	3.06

次に、適応点段階と先述の丁寧さ段階との相関をみておこう (表7-4)。

この二つの指標はともに「場面段階点」を基に作成したものであるが、理論上共起しえない段階が存在する。表中の×印の組み合わせがそうである。また、表中で空欄になっている箇所は極めて特殊なケースでしか起こりえない組み合わせである。例えば、「丁寧さ段階1——適応点段階4」は、「魚つり」を含む3場面の場面段階点が3で他はすべて段階点2である場合に限定される。

このような関係から、丁寧さ段階が最も丁寧または最も乱暴なものでは適応点段階は中程度以下に限られることになる。そこで、丁寧さ段階が中程度 (2~4) のものだけについて適応点段階との関係をみると、 $\chi^2=55.859$ (自由度8) で両指標間の分布に一定の傾向が認められる。すなわち、丁寧さ段階が低いほど適応点段階の平均が高く、適応点段階も低いほど丁寧さ段階の平均が高くなっている。

表 7-4 「丁寧さ段階」と「適応点段階」の関係

		適応点段階						平均段階
		1	2	3	4	5	計	
丁寧 さ 段 階	1	22(5.5)	29(7.3)	15(3.8)		×	66(16.5)	1.89
	2	3(0.8)	4(1.0)	15(3.8)	28(7.0)	32(8.0)	82(20.5)	4.00
	3	1(0.3)	19(4.8)	28(7.0)	34(8.5)	39(9.8)	121(30.2)	3.75
	4	4(1.0)	28(7.0)	26(6.5)	28(7.0)		86(21.5)	2.91
	5	23(5.8)	22(5.5)			×	45(11.2)	1.49
	計	53(13.2)	102(25.5)	84(21.0)	90(22.5)	71(17.7)	400(100.0)	3.06
平均段階		3.06	3.10	2.77	3.00	2.55	2.91	

(注) 表中の×はその組み合わせが理論的に生じないことを示す。

7.1.3. 知識点段階

この指標の作成方法については6.2.1.「敬語の知識」で述べたのでここでは割愛し、属性ごとの分布状況をみよう。

表7-5で知識点段階の平均段階をみると、性別ではあまり差がないが、学歴と年齢とで一定の傾向差が認められる。すなわち、学歴では低学歴層の平均段階が他より低く、年齢別では若い層ほど平均段階が高くなっている。ちなみにA I Cの値をみると、学歴-18.60、学歴×性-10.92、年齢-6.80、性-1.38の順になっている。したがって、知識点段階の分布状況は学歴で最も大きく変化するといえる。

なお、A I Cの値ではこの学歴の要因は性別とのクロスでも効いていることが明らかであるので、参考までにその分布状況を表7-6に掲げておく。

次に、知識点段階と丁寧さ段階との関係をみてみよう。表7-7がその相関表である。この表から、丁寧さ段階1のものの知識点段階の平均が他より低く、また知識点段階1のものの丁寧さ段階の平均が低いといった傾向がうかがわれ

表 7-5 「知識点段階」の分布

	1	2	3	4	5	人数	平均段階
男	15(9.0)	11(6.6)	81(48.5)	41(24.6)	19(11.4)	167	3.23
女	25(10.7)	25(10.7)	81(34.8)	61(26.2)	41(17.6)	233	3.29
10代後半	1(2.2)	0(-)	19(41.3)	18(39.1)	8(17.4)	46	3.70
20代	3(2.8)	9(8.3)	50(45.9)	31(28.4)	16(14.7)	109	3.44
30代	6(7.0)	11(12.8)	28(32.6)	24(27.9)	17(19.8)	86	3.41
40代	9(12.9)	7(10.0)	31(44.3)	15(21.4)	8(11.4)	70	3.09
50代	8(22.9)	3(8.6)	14(40.0)	4(11.4)	6(17.1)	35	2.91
60代以上	13(24.1)	6(11.1)	20(37.0)	10(18.5)	5(9.3)	54	2.78
低学歴	35(18.2)	18(9.4)	73(38.0)	37(19.3)	29(15.1)	192	3.04
中学歴	4(2.7)	12(8.0)	64(42.7)	47(31.3)	23(15.3)	150	3.49
高学歴	1(1.7)	6(10.3)	25(43.1)	18(31.0)	8(13.8)	58	3.45
全体	40(10.0)	36(9.0)	162(40.5)	102(25.5)	60(15.0)	400	3.27

表 7-6 「知識点段階」の性×学歴別分布

		1	2	3	4	5	人数	平均段階
男	低学歴	10(13.5)	6(8.1)	37(50.0)	13(17.6)	8(10.8)	74	3.04
	中学歴	4(6.0)	2(3.0)	31(46.3)	21(31.3)	9(13.4)	67	3.43
	高学歴	1(3.8)	3(11.5)	13(50.0)	7(26.9)	2(7.7)	26	3.23
女	低学歴	25(21.2)	12(10.2)	36(30.5)	24(20.3)	21(17.8)	118	3.03
	中学歴	0(—)	10(12.0)	33(39.8)	26(31.3)	14(16.9)	83	3.53
	高学歴	0(—)	3(9.4)	12(37.5)	11(34.4)	6(18.8)	32	3.63

表 7-7 「丁寧さ段階」と「知識点段階」の関係

		知識点段階						平均段階
		1	2	3	4	5	計	
丁寧さ段階	1	10(2.5)	4(1.0)	32(8.0)	15(3.8)	5(1.3)	66(16.5)	3.02
	2	10(2.5)	6(1.5)	31(7.8)	20(5.0)	15(3.8)	82(20.5)	3.29
	3	12(3.0)	11(2.8)	48(12.0)	30(7.5)	20(5.0)	121(30.2)	3.29
	4	6(1.5)	9(2.3)	31(7.8)	24(6.0)	16(4.0)	86(21.5)	3.41
	5	2(0.5)	6(1.5)	20(5.0)	13(3.3)	4(1.0)	45(11.2)	3.24
	計	40(10.0)	36(9.0)	162(40.5)	102(25.5)	60(15.0)	400(100.0)	3.27
平均段階		2.50	3.19	2.75	3.00	2.98	2.91	

るが、全般的にみれば両指標は独立の関係にあるとみられる (χ^2 検定でも有意差は認められない)。

表 7-8 は知識点段階と適応点段階との関係を示したものであるが、ここでも表 7-7 同様、両指標の関係は独立的だといえる。

以下、この 3 指標と敬語意識・意見との関連性を吟味する。

表 7-8 「適応点段階」と「知識点段階」との関係

		知識点段階						平均段階
		1	2	3	4	5	計	
適 応 点 段 階	1	7(1.8)	6(1.5)	26(6.5)	8(2.0)	6(1.5)	53(13.2)	3.00
	2	11(2.8)	7(1.8)	45(11.3)	26(6.5)	13(3.3)	102(25.5)	3.23
	3	7(1.8)	8(2.0)	35(8.8)	21(5.3)	13(3.3)	84(21.0)	3.30
	4	9(2.3)	6(1.5)	30(7.5)	28(7.0)	17(4.3)	90(22.5)	3.42
	5	6(1.5)	9(2.3)	26(6.5)	19(4.8)	11(2.8)	71(17.7)	3.28
	計	40(10.0)	36(9.0)	162(40.5)	102(25.5)	60(15.0)	400(100.0)	3.27
平均段階		2.90	3.14	2.91	3.24	3.23	3.06	

7.1.4. 敬語意識と3指標との関係

1) 敬語使用意識

6.2. 「敬語の意識」でみてきたように、敬語意識に関する調査項目は全部で8項目あるが、最初に敬語使用意識を尋ねた2項目と3指標との関係からみてみよう。

表7-9は、家族どうして敬語を使うか否かという回答別に3指標の平均段階

表 7-9 家族どうして敬語を使うか否かと3指標平均段階

	人数	丁寧さ段階	適応点段階	知識点段階
(ときに)使う	92	3.38	2.90	3.66
使わない	298	2.76	3.12	3.18

(注) >は1%水準で差が認められることを示す。
本表では「無回答」を除いたため「人数」欄の合計が400を下まわっている。

を記したものである。これによると、家族どうしても敬語を使うグループはそうでないグループに比べ、丁寧さ段階でも知識点段階でも有意に高いが、適応点段階ではほとんど差は認められていない。この関係は、表には示さなかったが、性別・年齢別・学歴別のどの属性においても一様にみられている。

また、目上の人に敬語が使える程度に関しては(表7-10)、知識点段階で「うまく使える」・「大体うまく使える」と「うまく使えない」の間で差が認められている。これは前回調査でも同じ傾向であった。一方、前回調査では「大体うまく」と「あまりうまく」の中間的回答をしたものが他より丁寧であったが今回はほとんど差がなくなっている点に注目される。

表 7-10 目上に敬語が使える程度と3指標平均段階

	人数	丁寧さ段階	適応点段階	知識点段階
うまく使える	56	2.89	2.86	3.61
大体うまく使える	117	3.03	3.05	3.33
あまりうまく使えない	109	2.94	3.13	3.25
うまく使えない	110	2.76	3.11	3.10

(注) 「無回答」は本表から除いてある。

2) 敬語に対する意見

敬語に対する意見を求めた6項目について、それぞれの意見別に三つの指標の平均段階を示したものが表7-11である。

まず丁寧さ段階について各意見との関連をみると、問207の「使うべきだ」・「時・場合・相手による」と「使わなくてもいい」との間に有意差があり、また問209の人称代名詞の使い分けでも「どちらでもいい」が他より丁寧さ段階が低いという傾向が認められている。

一方、知識点段階と意見の関連性をみると、丁寧さ段階と同じく問207と問209で差がみられるほかに、問205でも差がみられている。つまり、問205ではバイアスにしたがった意見である「減らした方がいい」の支持層は他より知識点段階が低く、特に「この意見はおかしい」という批判的意見との間には1%水準での有意差が認められている。

このように敬語意識項目と三つの敬語指標との間に何らかの関係が存在するものもいくつか存在するが、全体としてはあまり強い関連性はないともいえる。結局、人々の敬語意識や敬語に対する意見は、実際の敬語行動や敬語に対する知識の程度とは比較的独立したものとみるべきだといえようか。

表 7-11 敬語への意見別の3指標平均段階

		人 数	丁寧さ段階	適応点段階	知識点段階
209 人称代名詞は相手 や場合によって	使い分けた方がいい	313	2.98 ∇	3.04	3.30 ∇
	どちらでもいい・他	17	2.29	2.88	2.82 ∧
	使い分けない方がいい	70	2.73	3.21	3.20 ∧
206 「お」をつけること	つけない方がいい	336	2.87	3.10	3.30
	ものによる・他	64	3.09	2.86	3.08
203 敬語の使い方は	昔の方がいい	141	3.04	3.01	3.25
	昔も今も	49	3.06	3.12	3.22
	今の方がいい	130	2.93	3.10	3.29
207 家の中でも目上や 年長者に対して 敬語を	使うべきだ	80	3.05	2.94	3.40
	時・場合・相手による	91	3.10 ∇	3.05	3.73 ∇
	使わなくてもいい	220	2.79	3.13	3.07
205 敬語を使うと話が 長くなるが、今後 敬語は	減らした方がいい	111	2.75	3.08	2.99
	一概に言えない	96	2.80	3.18	3.39
	今のままでいい	79	3.20	2.90	3.34
	この意見はおかしい	103	2.99	3.12	3.51
208 敬語を使うと上品 に聞えるが、今後 敬語は	盛んに使うべし	62	2.84	3.15	3.18
	一概に言えない	183	2.90	3.17	3.43
	今のままでいい	64	3.10	2.95	3.30
	この意見はおかしい	78	2.88	2.92	3.14

(注) ∇は20%水準、>は5%水準、>は1%水準で有意な差があることを示す。
表中の「人数」の合計が400を下まわる項目では「無回答」が除かれている。

7.2. 場面段階点と敬語指標

丁寧さ段階、適応点段階、知識点段階といった敬語指標間の関連性およびそれぞれの指標の特徴については前節でみたとおりである。ここでは、これらの敬語指標（とくに、丁寧さ段階）と場面ごとの段階点との関係をいくつかの観点から分析することにしよう。

なお、この節では各場面をローマ数字による番号で識別することにする。「継続調査の結果(1)」で用いた名称とここでの番号の対応は以下のとおりである。

I：道教え、 II：電報用紙、 III：荷物あづけ、 IV：傘忘れ、 V：先生、
VI：電灯料、 VII：国会議事堂、 VIII：医者、 IX：席ゆずれ、 X：おつり、
XI：傘貸し、 XII：魚つり

7.2.1. 場面ごとの敬語指標

各場面ごとの段階点と丁寧さ段階および適応点段階・知識点段階の平均との関係は表7-12に示したとおりである。

丁寧さ段階では、IからXIIの各場面の段階1に対応する平均段階は3.60から4.73に分布している。段階2、段階3に対応する平均段階は2.37から3.11、1.08から1.82となっている。当然のことながら、各場面ともより丁寧な段階に対応する丁寧さ段階の平均の方が高い値を示している。前にもみたように最頻値段階点は場面VIII、XII以外はすべて段階2であった。そこで、ごく大まかに言って、段階2がその場面を代表したものであると考え、各場面段階点の平均と丁寧さ段階の平均の順位を比較してみると表7-13のようになる。平均段階点は平均点の低い方からの順位を示し、丁寧さ段階は平均点の高い方からの順位を示している。つまり、両者とも丁寧度の高い方からの順位を示している。ちなみに、順位相関係数は -0.909 と負の高い値をとっている。このことから、

表 7-12 各場面段階点ごとの敬語指標

		丁寧さ段階							適応点 段階 (平均)	知識点 段階 (平均)
		1	2	3	4	5	計	平均		
I	1	—	—	1	1	9	11	4.73	1.73	3.18
	2	38	69	109	81	35	332	3.02	3.25	3.34
	3	25	12	9	2	1	49	1.82	2.18	2.84
II	1	—	5	21	40	24	90	3.92	2.48	3.36
	2	56	77	98	46	20	297	2.65	3.31	3.27
	3	8	—	1	—	1	10	1.60	1.30	2.90
III	1	2	3	40	59	34	138	3.87	2.55	3.29
	2	31	72	77	26	11	217	2.60	3.65	3.24
	3	33	7	4	—	—	44	1.34	1.77	3.30
IV	1	1	7	28	26	32	94	3.86	2.28	3.32
	2	34	67	91	60	13	265	2.82	3.52	3.28
	3	30	7	2	—	—	39	1.28	1.85	3.10
V	1	—	2	5	3	15	25	4.24	2.00	3.16
	2	57	78	116	83	30	364	2.87	3.19	3.28
	3	9	2	—	—	—	11	1.18	1.27	3.09
VI	1	—	2	10	40	20	72	4.08	2.38	3.44
	2	23	71	107	45	24	270	2.91	3.50	3.27
	3	42	8	4	—	—	54	1.30	1.83	3.02
VII	1	1	1	12	15	23	52	4.12	2.23	3.35
	2	54	79	109	70	22	334	2.78	3.25	3.24
	3	11	1	—	—	—	12	1.08	1.58	3.33
VIII	1	8	13	70	61	42	194	3.60	3.22	3.34
	2	40	69	50	25	3	187	2.37	3.06	3.21
	3	18	—	1	—	—	19	1.11	1.42	3.05
IX	1	—	—	4	3	23	30	4.63	1.63	2.93
	2	59	81	114	83	22	359	2.80	3.21	3.31
	3	7	1	1	—	—	9	1.33	1.78	2.78
X	1	—	1	4	10	22	37	4.43	1.95	3.05
	2	12	60	98	72	21	263	3.11	3.52	3.30
	3	53	21	17	4	2	97	1.77	2.29	3.27
XI	1	1	2	5	20	24	52	4.23	2.02	3.44
	2	21	68	104	63	21	277	2.98	3.48	3.25
	3	44	11	11	2	—	68	1.57	2.19	3.24
XII	1	—	—	—	—	—	0	—	—	—
	2	1	4	25	25	29	84	3.92	2.50	2.89
	3	64	78	96	61	16	315	2.64	3.21	3.37
全体		66	82	121	86	45	400	2.91	3.06	3.27

(注) 丁寧さ段階の各場面ごとの合計が必ずしも全体と一致しないのは「無回答」を除いて集計したためである。
適応点段階, 知識点段階の平均も丁寧さ段階と同様に無回答の反応を除いてある。

丁寧さ段階が高くなっても場面の丁寧度があまり変わらないものがある。これらの場面は、どのような人にも同じような丁寧さで話される場面ということができよう。なお、場面Ⅻでは段階1をとった者がいなかったため高々段階2までしかとりえない。・印が右寄りになっているのはこのためである。

次に、場面段階点、敬語指標に性・年齢・学歴といった基本属性を加え、数量化理論第Ⅲ類によってこれらの項目間の関連を調べてみよう。図7-5はⅠ軸とⅡ軸を描いたものである。図中、◎は属性項目を表している。ローマ数字は場面を表し、後に続くアラビア数字は段階点を示している。また、丁寧・適応・知識はそれぞれ、丁寧さ段階(5段階)・適応点段階・知識点段階を表し、後に続く数字はその段階を示している。

Ⅰ軸負の領域には各場面の段階点1、つまり“丁寧”な反応が並び、正の領域には段階点3、つまり“乱暴”な反応が並んでいる。丁寧さ段階は負から正の領域に向かって段階が上がっている。したがって、Ⅰ軸は丁寧さを表す軸ということができよう。Ⅱ軸には適応点段階がきれいに並んでいる。当然のことではあるが、適応点段階の低い方が各場面で段階1や段階3をとり、Ⅱ軸負の各場面での段階点2のグループの中に適応点の高い方が位置している。図7-6はⅠ軸、Ⅲ軸を描いたものである。Ⅲ軸にそって年齢がきれいに分布している。知識点段階は年齢が下がるにつれて逆に上がる傾向にあるが、段階5ともなるともう年齢とは無関係になるようである。以上のように、丁寧さ段階、適応点段階、(年齢・)知識点段階といった指標が各軸に対応してあらわれてきたが、場面相互間の関係については今一つ鮮明さを欠いている。場面の分類を行うためには、別の要因を加えての分析が必要であろう。

図 7-5 各場面と敬語指標のパターン分類 (I軸・II軸)

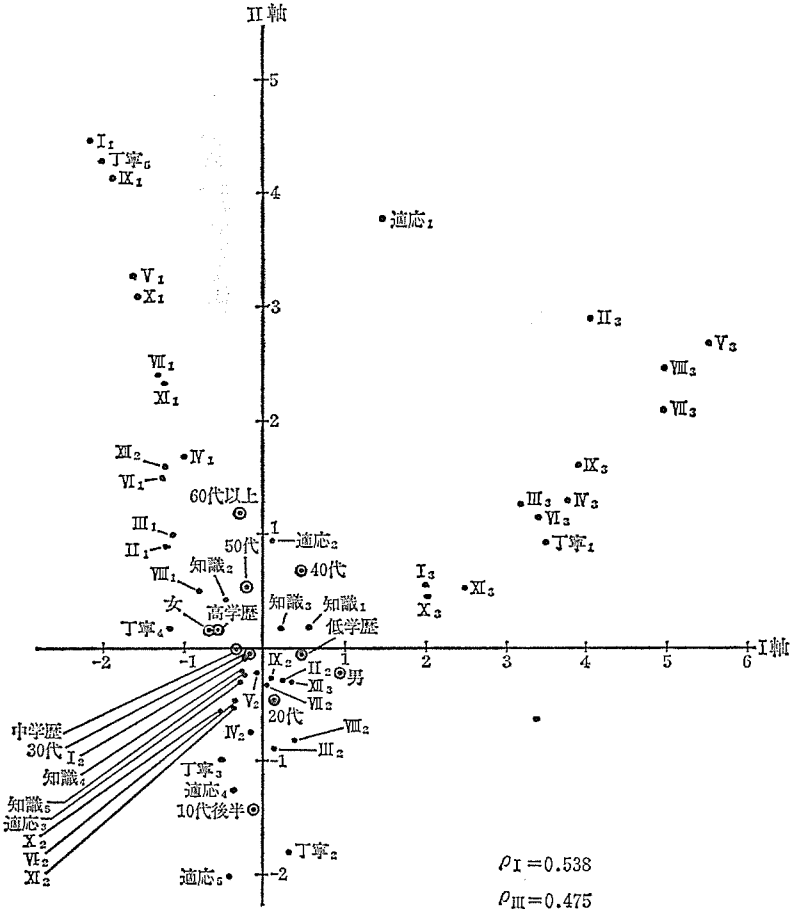
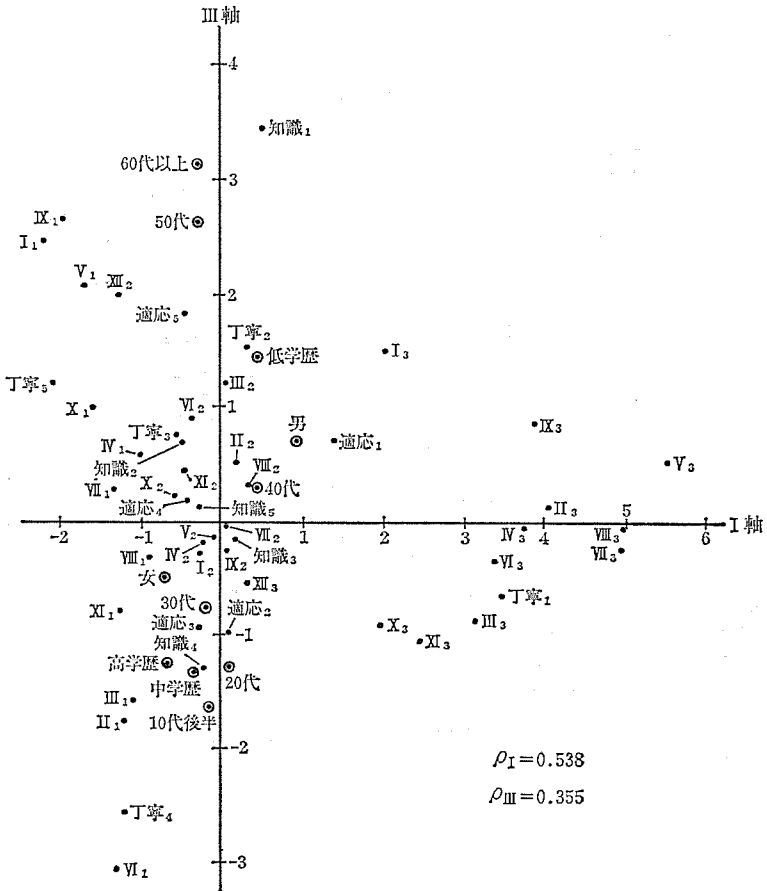


図 7-6 各場面と敬語指標のパターン分類 (I軸・III軸)



7.3. 社会生活項目と敬語指標

6.3.「社会生活意識」では、被調査者の敬語行動と何らかの関係があると目される社会的行動または社会生活意識を尋ねた諸項目について個別に分析してきた。この節では、そのうち社会的態度および交際範囲に関する側面をそれぞれ指標化し、その指標と7.1.「敬語指標と敬語意識」で作成した敬語指標との関連性をみることにする。

7.3.1. 社会的態度と敬語指標との関係

本調査では被調査者の社会的態度をみるためにアンケートで10の質問がなされている（問17～20および問22～27）。個々の項目については6.3.4.と6.3.5.で既に示したが、ここでは、まず項目間の関係からみてみよう。

表7-14は各項目のそれぞれの回答カテゴリーを数量化理論第Ⅲ類で分類したときの第Ⅰ軸の数値である。この表をみると、各項目で「保守的」な社会的態度とみなされる意見はすべて負の値を得ている。一方、「進歩的」または「無記入」を含めた中間的意见はすべて正の値となっている。したがって、第Ⅰ軸は社会的態度の「保守性——進歩性」を分離する軸だといえる（第Ⅱ軸は、表には示さなかったが、中間的意见とそれ以外とを区別している）。

そこで、第Ⅰ軸で負の値を取った各意見を支持した場合を1点、そうでない場合を0点として各人の点数を算出することにした。この点数は表7-15のように0～10点に分布するが、段階の数が多くなりすぎるので以下の4段階にまとめることにする。

段階1 0～2点 段階2 3～4点 段階3 5～6点

段階4 7～10点

以降、この4段階を「社会的態度の保守性指標」（単に、「社会的態度指標」と呼ぶことにする。

表 7-14 社会的態度項目別の数量化理論第Ⅲ類の第Ⅰ軸の数値

		I軸の数値	人数			I軸の数値	人数
18 メ ン ツ	注意しろと教える	-1.981	62	23 お 金 が 一 番 大 切 だ と 教 え る	賛 成	-0.982	186
	こだわるなど教える	0.369	318		反 対	0.843	208
	その他・無記入	0.272	20		その他・無記入	1.214	6
20 総 理 大 臣	行くべきだ	-1.907	73	24 能 力 の あ る 者 が 上 に た つ	賛 成	-0.847	202
	本人の自由	0.384	312		反 対	0.853	183
	行くべきでない・他	1.283	15		その他・無記入	1.007	15
17 先 生 が 悪 い こ と	そんなことはないと言う	-1.070	119	27 社 会 の 混 乱 を 救 う に は	賛 成	-0.575	238
	本当だと言う	0.507	242		反 対	1.012	123
	その他・無記入	0.117	39		その他・無記入	0.316	39
22 卒 業 式	礼服を着る方がいい	-0.759	210	25 近 頃 の 若 者 は 理 屈 ば か り 言 う が	賛 成	-0.492	314
	礼服はいらない	0.892	175		反 対	1.576	75
	その他・無記入	0.225	15		その他・無記入	3.298	11
19 世 間 の し き た り	従う方がいい	-0.481	169	26 親 孝 行 は す た れ た が	賛 成	-0.368	238
	おし進すべきだ	0.521	206		反 対	1.770	123
	その他・無記入	0.441	25		その他・無記入	2.981	39

(注) 質問文は 1. 2. 3. を参照されたい。

表 7-15 保守性点数の分布

点数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
人数	9	14	31	49	68	74	57	57	28	12	1	400
%	(2.3)	(3.5)	(7.8)	(12.3)	(17.0)	(18.5)	(14.3)	(14.3)	(7.0)	(3.0)	(0.3)	(100.0)

表 7-16 「社会的態度指標」の分布

	1	2	3	4	人数	平均
男	26(15.6)	54(32.3)	60(35.9)	27(16.2)	167	2.53
女	28(12.0)	63(27.0)	71(30.5)	71(30.5)	233	2.79
10代後半	14(30.4)	19(41.3)	8(17.4)	5(10.9)	46	2.09
20代	23(21.1)	44(40.4)	36(33.0)	6(5.5)	109	2.23
30代	11(12.8)	26(30.2)	30(34.9)	19(22.1)	86	2.66
40代	5(7.1)	17(24.3)	27(38.6)	21(30.0)	70	2.91
50代	1(2.9)	7(20.0)	11(31.4)	16(45.7)	35	3.20
60代以上	0(—)	4(7.4)	19(35.2)	31(57.4)	54	3.50
低学歴	15(7.8)	49(25.5)	69(35.9)	59(30.7)	192	2.90
中学歴	27(18.0)	44(29.3)	46(30.7)	33(22.0)	150	2.57
高学歴	12(20.7)	24(41.4)	16(27.6)	6(10.3)	58	2.28
全体	54(13.5)	117(29.3)	131(32.8)	98(24.5)	400	2.68

表 7-16 は上記の手続きによって作成された社会的態度指標の全体および属性別の分布表である。

被調査者全体についてみると、社会的態度指標の平均は2.68であり、やや保守的な意見に傾いているといえる。また、社会的態度を属性別にみると、いずれの場合でも顕著な差が認められている。すなわち、性別では女、年齢別では高齢者ほど、また学歴別では低いほど保守的な意見の持ち主の割合が多くなっている。これは、前回調査の結果および各種の調査結果とも一致しており、一般常識どおりの結果だといえよう。

なお、属性別の A I C は、年齢-75.71、年齢×性-58.27、年齢×学歴-21.41、学歴-11.47、性-5.23であった。年齢が社会的態度を決定する最大

表 7-17 社会的態度と敬語指標との関係

社会的態度	丁寧さ段階					適応点段階					知識点段階							
	1	2	3	4	5	平均	1	2	3	4	5	平均	1	2	3	4	5	平均
	1	18	12	8	4	2.52	4	11	10	15	14	3.44	1	6	22	17	8	3.46
2	26	33	27	10	2.82	14	33	21	28	21	3.08	6	8	56	29	18	3.38	
3	24	41	28	16	2.94	20	35	32	23	21	2.92	15	13	50	34	19	3.22	
4	14	35	23	15	3.07	15	23	21	24	15	3.01	18	9	34	22	15	3.07	
平均	2.48	2.41	2.82	2.52	2.83	2.87	2.69	2.56	2.62	2.52		3.25	2.69	2.59	2.60	2.68		

表 7-18 社会的態度と敬語が使える程度との関係

社会的態度	うまく使える	大体うまく使える	あまりうまく使えない	うまく使えない	人数	平均*
	8(15.1)	17(32.1)	15(28.9)	13(24.5)		
1	8(15.1)	17(32.1)	15(28.9)	13(24.5)	53	2.38
2	18(15.4)	38(32.5)	31(26.5)	30(25.6)	117	2.38
3	20(15.9)	32(25.4)	40(31.7)	34(27.0)	126	2.30
4	10(10.4)	30(31.3)	23(24.0)	33(34.4)	96	2.18
平均	2.41	2.64	2.65	2.79	392	

(注) 本表では「無回答」は除いてある。また、表中の％は、各社会的態度指標の人数を100としたときの割合である。以下、同じ。
 「平均」は「うまく使える」から「うまく使えない」七順に4～1点を与えたときの平均値である。したがって、敬語が使えると思っ
 ている程
 度を示す。

の要因といえる。

次に、この社会的態度と敬語の丁寧さ・適応点および知識点の各段階指標との関係を見よう（表7-17）。

社会的態度と丁寧さ段階との関係については、前回調査では進歩的意見の持ち主ほど敬語形式が丁寧であったが（前回の報告書268～269ページ）、今回は逆に保守的な態度の人ほど丁寧な敬語形式を用いるという結果となっている。このように、2回の調査で態度と敬語形式との関係が逆転していること理由は定かではないが、おそらく社会的態度を決定する最大の要因の差異が関与しているとみられる。すなわち、前回調査では学歴が最も効いていたのに対し、今回は年齢が最も大きく係っているといった違いである。

一方、社会的態度と知識点段階との関係は、丁寧さ段階の場合とは反対に、進歩的意見の支持者ほど知識点が高くなっている。これはうなずきうる結果だといえよう。ただし、表の最下段の知識点段階ごとの社会的態度指標の平均値をみると、知識点段階1のグループに保守的意見の持ち主が多いことを除くと、他はほとんど差はない。言いかえると、知識点段階の高低からはその人の社会的態度を予想しえないということである。まさに、逆は必ずしも真ならずであるということである。

また、適応点段階との関係についてみれば、最も進歩的な態度のグループが他より適応点が高くなっている。つまり、このグループはほとんどの場面で丁寧でも乱暴でもなく中間的な敬語形式を用いているわけである。

最後に、敬語意識に関するいくつかの項目と社会的態度との関連をみておこう。

表7-18は敬語がどの程度使えると思っているかとの関係を示すものである。これによると、最も保守的な意見の支持層に敬語が「うまく使えない」とする割合がやや多いくらいで、

表 7-19 社会的態度と家族どうして敬語を使うか否かとの関係

		(ときに)使う	使わない	人数
社会的 態度	1	11(20.8)	42(79.2)	53
	2	35(30.4)	80(69.6)	115
	3	29(22.8)	98(77.2)	127
	4	17(17.9)	78(82.1)	95
平均		2.57	2.71	390

全体としてはあまり差はないといえる。

また、家族どうして敬語を使うかどうかとの関係を見ると、表7-19のように「(ときに) 使う」人の割合はやや進歩的な意見の持ち主に多く、一番保守的な層で最も少なくなっている。これは一見矛盾した結果のようであるが、保守的な意見の支持者に高齢者が多いことを考えると当然の結果だといえよう。

一方、家の中でも目上や年長者には敬語を使うべきかどうかを尋ねた項目では、保守的な態度の持ち主ほど「使うべきだ」という意見が多く、進歩的な層では「使わなくてもいい」という意見が多くなっている(表7-20)。

もう一つ、昔と今の敬語のどちらを支持するかについてみよう。ここでも表7-21にみられるように、進歩的な層は「今」の敬語を支持し、保守的な層は

表 7-20 社会的態度と家の中でも目上に敬語を使うべきか否かという意見との関係

		使うべきだ	時・場合による	使わなくてもいい	人数
社会的 態度	1	8(15.1)	12(22.6)	33(62.3)	53
	2	19(16.7)	31(27.2)	64(56.1)	114
	3	28(21.5)	31(23.8)	71(54.6)	130
	4	25(26.6)	17(18.1)	52(55.3)	94
	平均	2.88	2.58	2.65	391

表 7-21 社会的態度と昔・今の敬語の支持との関係

		昔の方がいい	昔も今も	今の方がいい	人数
社会的 態度	1	15(40.5)	3(8.1)	19(51.4)	37
	2	31(35.6)	14(16.1)	42(48.3)	87
	3	48(45.3)	17(16.0)	41(38.7)	106
	4	47(52.2)	15(16.7)	28(31.1)	90
	平均	2.90	2.90	2.60	320

「昔」の敬語を支持するという予想どおりの結果となっている。

7.3.2. 交際範囲の広さと敬語指標との関係

ここでは交際範囲の広さを尋ねた4項目（アンケートの間14）について、7.3.1.と同じ方法で検討する。

表7-22は4項目の各回答カテゴリーを数量化理論第Ⅲ類で分類したときの第Ⅰ軸の数値である。この表から、第Ⅰ軸は交際範囲の「広い—狭い」を区分する軸だといえる（第Ⅱ軸は表に示さなかったが、「無記入」および中間的回答とそれ以外とを区別している）。

そこで、第Ⅰ軸で最も大きな数値を得た回答をそれぞれ1点として計算し、合計点をもってその人の「交際範囲指標」とする。言うまでもなく、点数の高いものほど交際範囲が広いわけである。ただし、この点数は本来0～4点の5段階に分布するものであるが、4点の人数が11人しかないので、3～4点をまとめ4段階とした。

表7-23は交際範囲指標の全体および属性別の分布状況である。これによると、交際範囲が広いのは、男、高年齢層、高学歴層となっているが、いずれも有意な差をもつものではない。また、属性間のクロスでも際立った差は認められていない。これは前回調査（報告書の58～60ページ）でも同じであり、交際範囲の広狭には性・年齢・学

表 7-22 交際範囲項目別の数量化Ⅲ類の第Ⅰ軸の数値

		Ⅰ軸の数値	人数
14-1 公式 会合	出席する方	1.835	73
	普通	-0.067	127
	出席しない方	-0.709	182
	無記入	0.203	18
14-2 宴会・ 旅行	好き	1.401	134
	普通	-0.470	191
	きらい	-1.485	66
	無記入	0.004	9
14-3 汽車の 中で	話しかける	1.550	108
	黙っている	-0.618	282
	無記入	0.698	10
14-4 交際 範囲	広い	2.011	59
	普通	0.094	240
	狭い	-1.399	101

(注) 交際範囲「普通」の中には「無記入」1名を含む。

表 7-23 「交際範囲指標」の分布

	1	2	3	4	人数	平均
男	66(39.5)	49(29.3)	32(19.2)	20(12.0)	167	2.04
女	116(49.8)	67(28.8)	28(12.0)	22(9.4)	233	1.81
10代後半	23(50.0)	15(32.6)	6(13.0)	2(4.3)	46	1.72
20代	60(55.0)	25(22.9)	18(16.5)	6(5.5)	109	1.72
30代	40(46.5)	28(32.6)	12(14.0)	6(7.0)	86	1.81
40代	29(41.4)	21(30.0)	10(14.3)	10(14.3)	70	2.01
50代	13(37.1)	12(34.3)	6(17.1)	4(11.4)	35	2.03
60代以上	17(31.5)	15(27.8)	8(14.8)	14(25.9)	54	2.35
低学歴	88(45.8)	56(29.2)	25(13.0)	23(12.0)	192	1.91
中学歴	69(46.0)	47(31.3)	23(15.3)	11(7.3)	150	1.84
高学歴	25(43.1)	13(22.4)	12(20.7)	8(13.8)	58	2.05
全体	182(45.5)	116(29.0)	60(15.0)	42(10.5)	400	1.91

歴といった社会的属性はほとんど関係がないといえよう。

次に、交際範囲の広さと三つの敬語指標との関係をみてみよう(表7-24)。

交際範囲の広さと敬語形式の丁寧さをみると、交際範囲指標3のものの丁寧さ段階が最も低く、これから離れるにつれて丁寧さが増している。この傾向は適応点段階の場合にも表れている。

表 7-26 交際範囲と社会的態度の相関表

一方、知識点段階との関係を見ると、差は小さいが交際範囲の広いグループの方が敬語の知識が高いといういわば常識的な結果となっている。

最後に交際範囲の広狭と敬語が使える程度との関係を示そう。

		社会的態度					
		1	2	3	4	計	平均
交 際 範 囲	1	28	61	58	35	182	2.70
	2	16	32	40	28	116	2.69
	3	6	18	19	17	60	2.78
	4	4	6	14	18	42	3.10
	計	54	117	131	98	400	
	平均	1.74	1.74	1.92	2.18		

表 7-24 交際範囲の広さと敬語指標との関係

	丁寧な段階						適応点段階					知識点段階						
	1	2	3	4	5	平均	1	2	3	4	5	平均	1	2	3	4	5	平均
	交 際 範 囲	23	31	64	43	21	3.04	16	53	39	40	34	3.24	21	18	71	44	28
	18	32	32	21	13	2.82	16	25	26	24	25	3.15	10	11	48	35	12	3.24
	18	11	14	12	12	2.58	13	18	10	14	5	2.67	4	2	31	13	10	3.38
	7	8	11	10	6	3.00	8	6	9	12	7	3.12	5	5	12	10	10	3.36
平均	2.14	1.95	1.77	1.87	2.07		2.25	1.77	1.87	1.98	1.79		1.83	1.83	1.90	1.89	2.03	

表 7-25 交際範囲の広さと敬語が使える程度との関係

	うまく使える	大体うまく使える	あまりうまく使えない	うまく使えない	人数	平均*
1	20(10.9)	48(26.4)	56(30.8)	58(31.9)	182	2.16
2	19(17.0)	32(28.6)	28(25.0)	33(29.5)	112	2.33
3	9(15.0)	23(38.3)	17(28.3)	11(18.3)	60	2.50
4	8(21.1)	14(36.8)	8(21.1)	8(21.1)	38	2.58
平均	2.10	2.03	1.79	1.72	392	

(注) 表 7-18の法を参照されたい。

両者の関係は表7-25のように、交際範囲が広がるにつれて敬語が使える方向に傾くという予想どおりの結果となっている。

なお、この節で扱った社会的態度指標と交際範囲指標との関係は表7-26のとおりである。

〈付記〉

AIC とは、統計数理研究所の赤池弘次氏により考案された「情報量規準」(Akaike's Information Criterion) のことである。これは、時系列データの解析の中から生まれた統計量で、言語データのような質的データの分析にも威力を発揮するものである。従来、クロス表の分析は χ^2 検定などによっていた。しかし、AIC を用いると、 χ^2 検定では処理できなかった二つの表の比較が可能となり、自由度、危険率の違いによりいちいち χ^2 分布の表と照合する必要もなくなる。AIC の詳細については下記の文献にゆずるが、その特徴を簡単に述べると以下ようになる。AIC の値は数値が小さい程情報量が多く、正の値をとる場合は2要因の間には関係がない(独立である)ことを意味している。例えば、ある要因について、性、年齢、学歴との AIC を求めたところ、性は -11、年齢は -3、学歴は 2であったとすると、年齢より性との関連の方がかなり強く、学歴は無関係ということになる。なお、本書での AIC の計算に際しては、統計数理研究所の坂元慶行氏、桂康一氏作成のプログラムを使わせていただいた。ここに感謝の意を表する。

参考文献

- 赤池弘次 1976 情報量規準 AIC とは何か (『数理科学』 No.153, P.5~P.11)
- 赤池弘次 1979 統計的検定の新しい考え方 (『数理科学』 No.198, P.51~P.57)
- 坂元慶行 1981 カテゴリカルデータの解析 (『数理科学』 No.213, P.24~P.29)
- 坂元慶行 1981 カテゴリカルデータにおける変数選択——プログラム CATDAP を中心に—— (『統計数理研究所彙報』第28巻第1号, P.135~P.155)
- Kouichi Katsura, Yoshiyuki Sakamoto 1981 CATDAP, A CATEGORICAL DATA ANALYSIS PROGRAM PACKAGE (“COMPUTER SCIENCE MONOGRAPHS” No.14)
- 坂元慶行・石黒真木夫・北川源四郎 1983 『情報量統計学』 共立出版

8. パネル調査の結果

8.1. 場面と敬語段階

8.1.1. 場面の丁寧さの順

パネル調査では、被調査者はすべてで185人であった。この被調査者はサンプリングによって得られたのではない、という点は常に考慮に入れておかなければならないが、この点を留保した上で、6.1.「場面と敬語段階」で述べたものと同じ観点から表8-1を作ってみた。

これによると、丁寧さの順位では、前回調査の順位との順位相関係数は0.964であって、かなり一致しているといえるであろう。またこれは、今回の継続調査での3段階方式による順位との相関係数では、0.951であり、これも一致し

表 8-1 場面の丁寧さの順位(3段階方式)

	段 階 点							前回調査 の 順 位	今回調査の 表 6-1の順位
	1	2	3	人数	平均点	分 散	順位		
医 者	100	69	16	185	1.516	0.4209	1	1	1
荷物預け	66	86	33	185	1.822	0.5034	2	3	2
傘忘れ	49	112	24	185	1.865	0.3764	3	2	4
電報用紙	27	152	5	184	1.880	0.1595	4	4	3
議事堂	27	149	6	182	1.885	0.1681	5	6	5
先 生	29	143	12	184	1.9076	0.2143	6	7	8
席ゆづられ	25	152	8	185	1.9081	0.1699	7	5	6
傘貸し	26	121	38	185	2.065	0.3417	8	9	9
電灯料	14	138	33	185	2.103	0.2435	9	8	7
おつり	16	125	44	185	2.151	0.3015	10	10	11
道教え	4	147	32	183	2.153	0.0437	11	11	10
魚つり	0	48	137	185	2.741	0.1914	12	12	12

表 8-2 場面の丁寧さの順位(5段階方式)

	段 階 点									表 8-1 の順位
	1	2	3	4	5	人数	平均点	分散	順位	
席ゆずられ	28	47	83	19	8	185	2.632	0.9997	1	7
医 者	20	77	47	24	17	185	2.681	1.2442	2	1
議事堂	19	42	90	24	7	182	2.731	0.8808	3	5
荷物預け	45	25	59	25	31	185	2.849	1.8907	4	2
先 生	27	13	116	16	12	184	2.853	0.9838	5	6
傘忘れ	33	18	62	48	24	185	3.065	1.5850	6	3
電報用紙	4	27	53	95	5	184	3.380	0.7140	7	4
道教え	4	36	60	50	33	183	3.393	1.1242	8	11
電灯料	4	18	96	34	33	185	3.400	0.9211	9	9
傘貸し	19	7	54	66	39	185	3.535	1.3623	10	8
おつり	9	6	63	67	40	185	3.665	1.0121	11	10
魚つり	0	3	11	39	132	185	4.622	0.4502	12	12

ているとあってよからう。

場面ごとでの差をみれば、「医者」と「荷物預け」との間、また、「道教え」と「魚つり」との間といった、一番丁寧であった場面、一番乱暴であった場面が、その一つ隣の丁寧さの場面との間に、1%の危険率で有意差があり、「席ゆずられ」と「傘貸し」との間は5%の危険率で有意差がある。

5段階方式による段階での結果を表8-2に示す。この順位と、3段階方式による結果との順位相関係数は0.727であり、他のものに比べてあまり高くない。表6-2でみた順位相関係数はこれよりも高いが、それも他のものに比べると低いので、3段階方式と5段階方式との違いは相当大きいとしなければならぬ。継続調査の方の5段階方式の結果との順位相関係数は0.923となることからこのことはいえる。

もっとも著しい差は「席ゆずられ」で、3段階方式で順位7であったものが、5段階方式では1位となっている。これは表6-2によっても、継続調査の方はこの場面は3段階方式6位、5段階方式3位であって、どちらも5段階方式の方が順位が上になっている。

このことについては、継続調査の方の表6-2によると、「電報用紙」の場面が二つの方式によって違いが最も多くなっている。3段階方式3位、5段階方

式8位であった。この「電報用紙」は、パネル調査の方では、3段階方式4位、5段階方式7位であった。いずれも5段階方式の方が下位となっている。

以上の二つの場面が、二つの方式で大変違うのは、その段階づけの方式の違いによると思われる。このことを一つ考えてみることにしよう。

「席ゆずられ」の場合は一つには、5.2.「段階づけの方法」で述べたように、「お~になってください」を5段階方式の段階2としたために、「おかけになって(い)てください」がここに評価され、3段階方式の段階2のうちの相当数がここに位置づけられて、全体として段階点の上から丁寧になったと考えられる。さらに一つには「医者」が3段階方式では段階1がこの場合100あったのが、5段階方式では段階1が20、段階2が77と、合わせても97であって低くなったことがあげられる。これは5段階方式では段階1、2になるためには「お~になって」のように「お~」の形が要求されているが、3段階方式ではこの点が比較的ゆるやかであったためである。この結果として「席ゆずられ」が一番丁寧な場面となったのであろう。

「電報用紙」も大体「ください」にあたる語形によって順位が下がったことは「医者」の場面と同様である。

「傘忘れ」「傘貸し」の場面も、「お~になる」が関係して、5段階方式の方が順位が下がっている。

表8-2では、「おつり」と「魚つり」、「傘忘れ」と「電報用紙」の間が、前者は1%、後者は5%の危険率で有意差がある。

「先生」の場面は表8-2によると、段階3が圧倒的に多く、その他が多くないので、ごく普通の丁寧さで話される場面であると言うことができる。表8-1では必ずしも段階2が他の場面より一番多いというわけではないが、継続調査の方では表6-1、表6-2ともそれぞれ中間の段階が各場面中一番多くなっているから、この傾向はかなり強いといっていいであろう。

8.1.2. 社会的要因別の場面の丁寧さの順

まず、性別について、図6-5、図6-6と同じ考えで、図8-1、図8-2を作っ

てみた。

図8-1によれば、男女差の著しいものとしては、図6-5によるものと「おつり」を除いては同様である。男女差の少ないものとしては、これも図6-5とほとんど同じであるが、下の図8-1では「電報用紙」が新しく加わり、しかもこれが最も差が小さくなっている。

図8-2と図6-6とを比べてみると、特に男の場合どちらも7位と8位との間にやや段差が見られ、あとは最も丁寧な1位と、最も乱暴な12位とを除けば、なだらかに右に行くにしたがって下向している。図6-6では7位「先生」、8位「道教え」であったが、図8-2では7位「傘忘れ」、8位「傘貸し」であって、全く一致していない。偶然ではあろうが、この事実を指摘しておく。

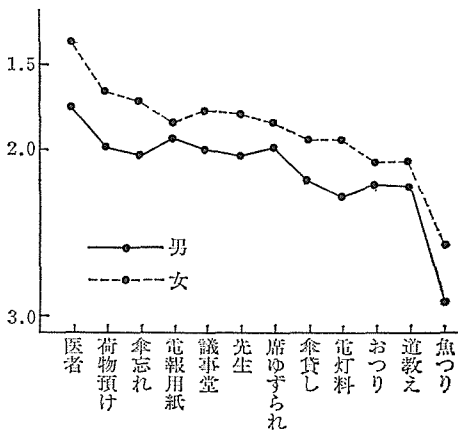


図8-1 場面の丁寧さの比較(性別)(3段階方式)

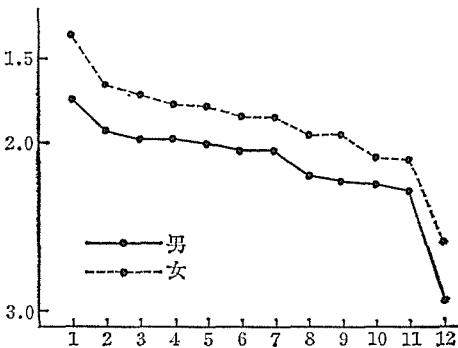


図8-2 それぞれの順位による丁寧さの比較(性別)

位「道教え」であったが、図8-2では7位「傘忘れ」、8位「傘貸し」であって、全く一致していない。偶然ではあろうが、この事実を指摘しておく。

図8-2と図6-6との比較でもう一つ気づくことは、パネル調査、すなわち図8-2の方は、男の線が、1位と12位とを除くといずれも丁寧さの平均段階が低くなっている。

パネル調査の被調査者は言うまでもなく、年齢は30代後半以上であり、この点が継続調査の被調査者とは違う。ここに男がパネル調査では乱暴になった理由があるのであろうか。例えば男の中年以上は乱暴なことばを使うことがこれでわかる、というような。

しかし、これについては

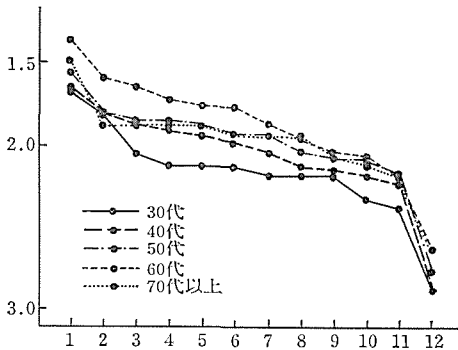


図 8-3 それぞれの順位による丁寧さの比較 (年齢別)

段階点と同じときは、仮に分散の小さい順に順位をつけたが、表の中学歴のところでは5.5とある二つは分散も同じであった。ただし図8-5では今までと同じ考えで位置を決め、5.5のところは位置を決めなかった。図8-3によると、70代を除いて、多くの場合は年齢の高いほど丁寧である、ということになる。

例外は2番目と11番目とだけである。両端の一つ内側だけが例外となるわけである。40代の線は30代の線よりすべてで上に出ている。すなわち、より丁寧である。また、50代の線は40代の線よりすべてで上に出ており、60代の線は50代より11番目を除いてすべて上に出ているのである。

こうして、この限りでは、前回報告書の270ページに「どちらかというとな長の方が丁寧な傾向にあるように思われる」と漠然と、あるいは遠慮して述べたよりは、はっきりしているようである。

上の結果によると70代は傾向を破っているのを除いて、あとの年齢層

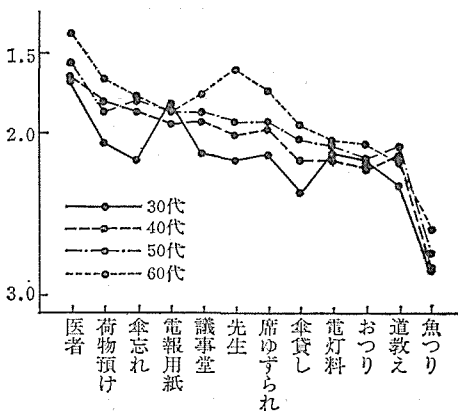


図 8-4 場面の丁寧さの比較 (年齢別) (3段階方式)

について図6-8に対当するものを作り、図8-4とした。

図6-8で年齢差の小さいものとしてあげたものは、この図8-4では、「道教え」を除いてすべて差が大きくなってしまったし、逆に図6-8で年齢差の大きかったもののうち「電報用紙」「電灯料」「傘貸し」などは図8-4では差が小さくなっていく。後者については理由があ

り、図6-8で「電報用紙」は10代が上に、「電灯料」では10代・20代が上に、「傘貸し」では下に出ているが、図8-4では10代・20代というのがないのであるから、差が小さくなったと考えるべきである。

図6-8で必ずしもはっきりしなかったことで、下の年齢層を切ることによってこの図8-4ではっきりしたことは、高齢ほど丁寧であるという傾向が「医者」「傘忘れ」「議事堂」「先生」「席ゆずられ」「傘貸し」「魚つり」の7場面であることである。これらの場面は、「傘貸し」がちょっと知っている程度というのを除くと、すべて知らない人かあるいは知っていてもずっと目上の人である、ということである。高い年齢の人はこのような人への話は丁寧にすべきであるとしてそのように行動していることをうかがわせる。

特に「先生」では、図6-8でも、高齢の二つの年齢層が上に出ていて、あとは一団となっていたのであるが、全体としては必ずしも丁寧ではないこの場面に関しては、高齢の人ほど丁寧に言うべきであると考え、そのように行動していることを示している。

その他の5場面では「荷物預け」を除くと、年齢差の小さいものであり、また「道教え」を除いてはおそらく顔見知りと考えられる場面であることを指摘しておく。「電灯料」「おつり」は相手が間違った場面であり、頭で行動するならばあまり丁寧でなくてもいいと考えられる場面である。

次に学歴別では、図8-5によると学歴の高いほど丁寧なのは12の場面中8場面である。7番目の場面は低学歴が平均段階点1.951、中学歴1.932、高学歴1.947であってこの7場面の中には入らない。

同じ場面での比較では図6-9によれば、9場面では、学歴の高いほど丁寧であると出ているが、この図8-6では「荷物預

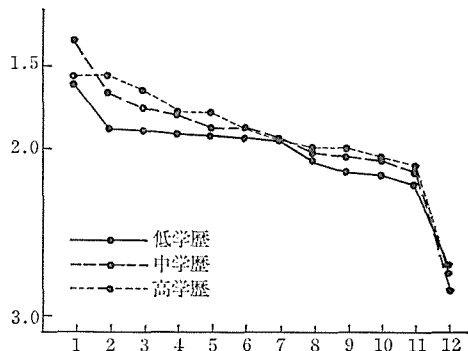


図8-5 それぞれの順位による丁寧さの比較(学歴別)

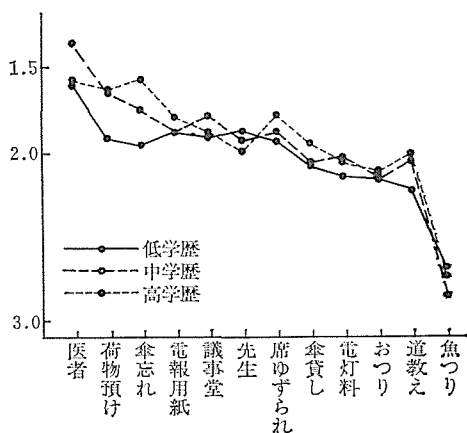


図 8-6 場面の丁寧さの比較 (学歴別)
(3段階方式)

け」「傘忘れ」「電報用紙」「席ゆずられ」「傘貸し」「おつり」「道教え」の7場面であり、この点では、丁寧さを支配する要因としては学歴はパネル調査の方が弱いようである。これは、あるいは中・高学歴、特に高学歴が少ないことによるゆがみとも考えられる。

逆にこの図 8-6 の場合、学歴が高いほど丁寧でないように出ているのは「先生」の場面である。

これを学歴が高いほど先生への尊敬の度が低いため、というように直ちにいうわけにはいかない。図 6-9 では、「先生」の場面も他の多くの場面と同様に学歴が高いほど丁寧と出ているからである。

学歴での差が大きいものと小さいものについては、図 6-9 の場合と多少の違いがある。図 8-5 ではどの学歴層でも線は安定して右下がりであるのに対して、図 8-6 では高学歴が最も安定性を欠き、中学歴がそれに次ぎ、低学歴が一番安定しているのは、この被調査者数と関係があるように思われる。

以上によって、学歴と丁寧さとの関係についてここでこれ以上触れるのは適当でないように考える。

8.1.3. 場面ごとの前回と今回との比較

次には、パネル調査の被調査者から得られた結果について、場面ごとに、前回と今回とを比較してみよう。

表 8-4 は、まず、場面ごとに今回調査と前回調査との平均段階点を示したものである。この表で人数が最大 180 人となっていて、8.1.2. までの 185 人と違うのは、パネル調査を受けた 185 人のうち 5 人が、前回のこの場面での発話の調

表 8-4 20年前との場面の丁寧さの比較

	今回調査		前回調査		人数	今回-前回	有意差
	平均	分散	平均	分散			
医 者	1.533	0.4044	1.589	0.3310	180	-0.056	
荷物預け	1.822	0.5017	1.850	0.3164	180	-0.028	
傘忘れ	1.878	0.3628	1.794	0.3744	180	0.084	
電報用紙	1.881	0.1498	1.859	0.1778	177	0.022	
議事堂	1.893	0.1636	1.904	0.1659	177	-0.011	
先 生	1.899	0.2145	1.921	0.1286	178	-0.022	
席ゆずられ	1.911	0.1699	1.817	0.1831	180	0.094	
傘貸し	2.067	0.3400	1.972	0.2826	180	0.095	
電灯料	2.100	0.2344	2.000	0.3556	180	0.100	
おつり	2.162	0.2810	2.067	0.2972	179	0.095	
道教え	2.166	0.1611	2.097	0.1344	175	0.069	
魚つり	2.744	0.1902	2.500	0.3056	180	0.244	あり

査を受けていないため、集計から外したことによる。比較の性質上、180人の中でも、今回か前回、どちらかで無回答があった場合は集計からこれも外してある。これが、必ずしもすべての場面で「人数」の欄が180人でない理由である。このため、この表と表8-1の結果とは多少違っている。

この表では、今回調査の丁寧な順に並べてある。この順序は表8-1の順序と全く同じである。前回調査のこの表での丁寧さの順位との順位相関係数は0.916であり、かなり高い一致である、とっていいであろう。

表のなかで「今回-前回」というのは、今回の平均段階点から、前回の平均段階点を引いたものである。プラスならば数値の大きい方が、今回はより乱暴になったことになるし、マイナスならば今回の方が丁寧になったことを示す。この二つの調査の間の有意差は一番乱暴な「魚つり」にしかみられない。しかも、これは実は前回は「物売り」という場面であって、同じ場面とはいえないものである。

「今回-前回」の欄を見ると、概して半分以上のところにマイナスがみられ、半分以下のところは全部プラスである。ということは、前回に比べて今回は、丁寧な場面ではより丁寧に、乱暴な場面ではより乱暴になったわけで、この点からいえば、使い分けがうまくなった、ということができよう。

表 8-5 四つの場面での前回と今回との段階点の相関表(3段階方式)

医 者		前回段階点			
		1	2	3	計
今回段階点	1	50	47	1	98
	2	28	35	5	68
	3	4	8	2	14
	計	82	90	8	180

先 生		前回段階点			
		1	2	3	計
今回段階点	1	12	17		29
	2	7	129	2	138
	3		8	3	11
	計	19	154	5	178

席ゆずられ		前回段階点			
		1	2	3	計
今回段階点	1	8	16		24
	2	28	120		148
	3		5	3	8
	計	36	141	3	180

魚つり		前回段階点			
		1	2	3	計
今回段階点	1				0
	2	3	32	11	46
	3	2	48	84	134
	計	5	80	95	180

以上は段階点の平均を計算した結果についてみたのであるが、次はそのもとになった各場面ごとの前回と今回との相関表について考えてみることにしよう。

まず、12場面すべてを表示するのは省略して、一番丁寧だった「医者」、一番乱暴だった「魚つり」と、中間的であった「先生」「席ゆずられ」の計4場面

表 8-6 各場面の相関係数および χ^2 検定の数値表

	相関係数	χ^2	$Pr(\chi^2 \geq \sim)$
医 者	0.1892	8.9995	.10~.05
荷物預け	0.3095	23.7678	.01~
傘忘れ	0.4292	48.0058	.01~
電報用紙	0.2945	27.5182	.01~
議事堂	0.1605	15.4710	.01~
先 生	0.4594	59.6277	.01~
席ゆずられ	0.2540	69.0397	.01~
傘貸し	0.2930	19.8293	.01~
電灯料	0.3083	28.5167	.01~
おつり	0.2328	21.2305	.01~
道教え	0.2018	7.6678	.20~.10
魚つり	0.3459	21.6461	.01~

面についての相関表を表 8-5として示そう。そして、これらについて、相関係数を算出し、また χ^2 検定をしたので、その数値を表 8-6に示す。この表で見ると、相関係数ではあまり相関度は高くないようであるが、 χ^2 検定では、ここは自由度は4であるが、前回と今回とは独立でない、

と断定しても、間違いをおかす危険は、「医者」および「道教え」の二つの場面を除いては1%以下である。

次に、性・年齢・学歴の三つの社会的要因について、前回と今回とを比較してみよう。

まず、性について、図8-7を作った。この図から、女の方が前回と今回との差が大きく、今回の方が乱暴になった、ということがわかる。12場面のうち、

女は4場面で今回の方が丁寧になっており、男は3場面で丁寧になったが、男の場合、他に2場面で、前回と全く同じ平均段階点であった。男の場合はその3場面すべてで、女の場合は4場面中「医者」を除いて、今回が丁寧だとはいってもそう大きな差があるわけではない。ここで、一般的傾向としては、20年間に丁寧ではなくなった、とはいえるであろう。

以上のことはもう一つ別の見方をするならば、前回の男女差よりも今回の男女差の方が小さい、ともみることができる。この一般的傾向に反するのは「医者」「荷物預け」「議事堂」「先生」の四つの場面である。

年齢については、図8-8～図8-10に示した。性別の方は男女の丁寧さに差があり、線が交錯しないので、1枚にまとめたが、年齢は、線が分離しがた

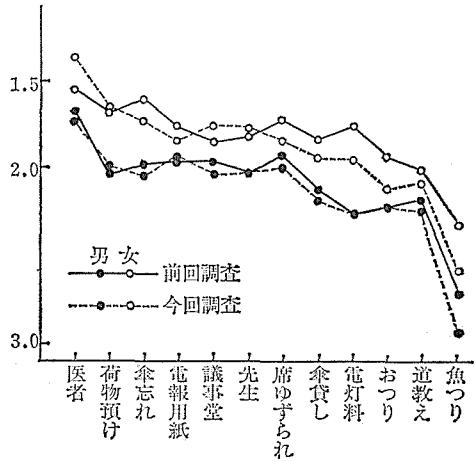


図 8-7 20年前との場面の丁寧さの比較 (性別)

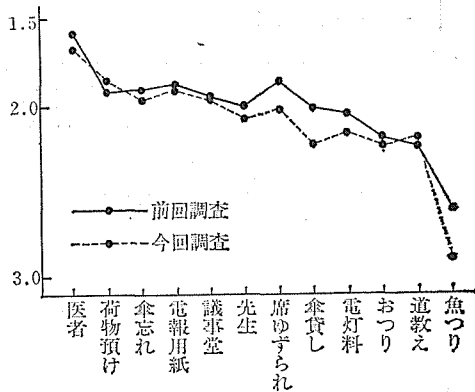


図 8-8 20年前との場面の丁寧さの比較 (年齢別) —30, 40代

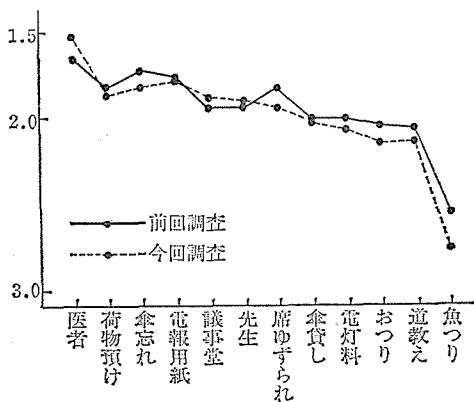


図 8-9 20年前との場面の丁寧さの比較
(年齢別) —50代

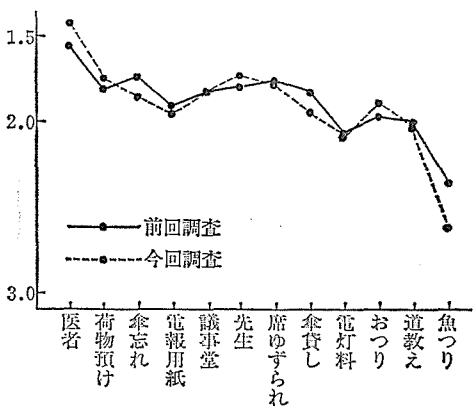


図 8-10 20年前との場面の丁寧さの比較
(年齢別) —60代以上

いので、30～40代、50代、60代以上の三つのグループに分けて示した。

これらの図を比較していえることは、前回、今回とも、年齢の高いほど丁寧である、という傾向であることは確実といえる。

各年齢層とも、今回の方が前回よりも乱暴になった場面は、「傘忘れ」「電報用紙」「席ゆすられ」「傘貸し」「電灯料」「魚つり」の6場面である。

残りの6場面のうち、「医者」および「先生」の2場面では30～40代だけが今回の方がより乱暴で、50代以降は今回の方がより丁寧になっている。つまり、丁寧に言うべきだ、と意識される両場面に対しては高齢年齢層で今回の方が丁寧になったのである。この結果、この両場面での年齢差による丁寧さの度合いのレンジは前回よりも今回の方が拡大したことになる。また、「おつり」の場面は最も高齢の60代以上のグループのみが今回丁寧になっており、他の二つの年齢層では逆に乱暴になっている。

一方、「道教え」の場面では、50代以降は今回の方が乱暴であり、30～40代は今回の方がより丁寧になっている。他の2場面、つまり、「荷物預け」と「議事堂」では一定の傾向は認められていない。

三つの年齢層のそれぞれで、今回の方がより丁寧になった場面の数をみると30・40代は12場面中2場面、50代は同3場面、60代以上は同4場面（他に1場面前で前回と今回とが等しい）となっており、年齢が上昇するにつれて丁寧になった場面数が多くなっている。

三つの年齢層を比べて、年齢が高くなるにつれて前回も今回もともに丁寧さが増すのは、「荷物預け」「議事堂」「先生」「席ゆずられ」「傘貸し」「おつり」「魚つり」の7場面である。また、「医者」の今回、「電灯料」の今回、「道教え」の前回もそのようであるが、逆に、若いほど丁寧だという場面は前回・今回とも一つもなかった。したがって、高齢者ほど丁寧だということはここでもいえるようである。

学歴別について、年齢別と同じように図8-11～図8-13を作った。これらの図を比較すると、低学歴は多少乱暴であるが、中・高学歴での差はあまりない、ということがわかる。もちろん、前回と今回との比較では今回の方が乱暴である。図では今回の方が丁寧であったのは低・中学歴は3場面であるが、高学歴は5場面であり、その他、同じだったのが5場面であって、前回の方が丁寧だったの

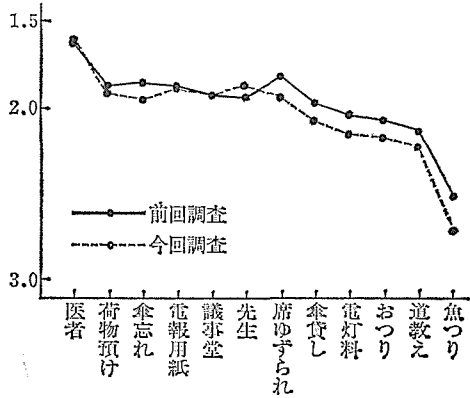


図 8-11 20年前との場面の丁寧さの比較 (学歴別) —低学歴

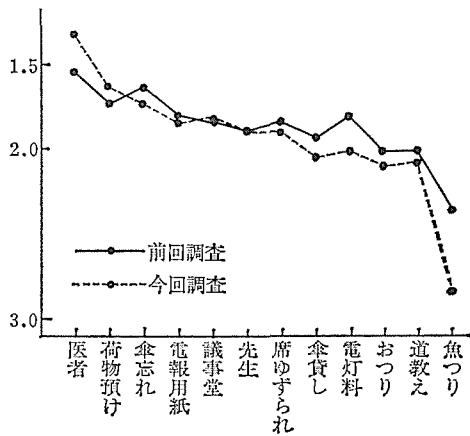


図 8-12 20年前との場面の丁寧さの比較 (学歴別) —中学歴

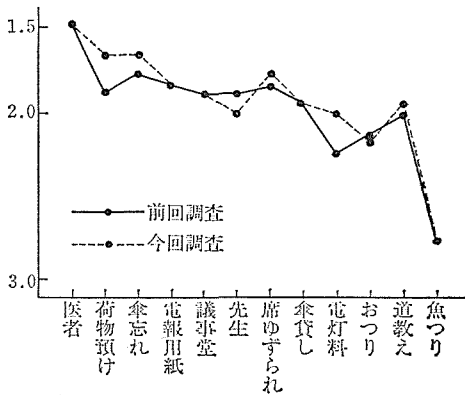


図 8-13 20年前との場面の丁寧さの比較 (学歴別) —高学歴

は2場面にすぎない。少なくともこの限りでは、高学歴だけは一般的傾向からは外れているわけである。

なお詳しくみると、各学歴層とも今回の方が乱暴なのは「荷物預け」と「おつり」との2場面だけである。両方とも通いつけの店というものである。低・中学歴では前回の方が丁寧であったのは「傘忘れ」「電報用紙」「席ゆずられ」「傘貸し」「電灯

料」「道教え」「魚つり」の7場面におよんでいる。これらによって、上に述べた、学歴が高い方が丁寧であるという傾向がうかがえるのである。

逆に今回の方が丁寧だったのは「医者」「議事堂」の2場面であって、低学歴と中学歴とでこのようであり、2場面とも高学歴では前回も今回も同じ丁寧さであるから、傾向としては、これらは今回の方が丁寧であった、というものに入る。

「先生」の場面は非常に特殊であって、低学歴では今回の方が丁寧であり、中学歴では前回と今回とが同じ丁寧さであり、高学歴では前回の方が丁寧であった。すなわち、学歴によって、現れ方が大いに違っていることになる。平均段階点で、前回は低学歴1.933、中学歴1.905、高学歴1.822と学歴が上がるにつれて丁寧になったのに反して、今回は、低学歴1.882、中学歴1.905、高学歴2.000と学歴が上がるにつれて乱暴になったのである。

以上のように、高学歴ほど乱暴になる、というのは、上記のもののほかは前回の「魚つり」(すなわち「物売り」)にすぎない。普通は高学歴になるほど丁寧になるのであって、上記の前回の「先生」の他、前回の「医者」、今回の「傘忘れ」、今回の「電報用紙」、今回の「席ゆずられ」、前回および今回の「傘貸し」、今回の「電灯料」、前回および今回の「道教え」の合計10の場面であ

表 8-7 「席ゆずられ」の場面での前回と今回との社会的要因別段階点相関表(3段階方式)

男	前回段階点			計	30~40代	前回段階点			計	低学歴	前回段階点			計
	1	2	3			1	2	3			1	2	3	
1	2	6		8	1	2	2		4	1	6	7	13	
2	8	65		73	2	9	44		53	2	21	82	103	
3	4	3		7	3	3	2		5	3	2	3	5	
計	10	75	3	88	計	11	49	2	62	計	27	91	121	
女	前回段階点			計	50代	前回段階点			計	中学歴	前回段階点			計
	1	2	3			1	2	3			1	2	3	
1	6	10		16	1	1	5		6	1	1	4	5	
2	20	55		75	2	9	33		42	2	5	31	36	
3	1	1		1	3	2	1		3	3	1		1	
計	26	66	0	92	計	10	40	1	51	計	6	36	42	
男	前回段階点			計	60代以上	前回段階点			計	高学歴	前回段階点			計
	1	2	3			1	2	3			1	2	3	
1	5	9		14	1	5	9		14	1	1	5	6	
2	10	43		53	2	10	43		53	2	2	7	9	
3				0	3				0	3	2	2	2	
計	15	52	0	67	計	15	52	0	67	計	3	14	17	

る。このうち、前回4、今回6で、今回の方がこの傾向が強いことがわかる。

中学歴が最も丁寧であったのは、今回の「医者」、前回および今回の「荷物預け」、前回の「傘忘れ」、前回の「電報用紙」、前回および今回の「議事堂」、前回の「電灯料」、前回および今回の「おつり」で、これも10場面である。前回6に対して、今回4となり、前回はこのタイプが半数を占めていたことになる。このうち、低学歴と高学歴とを比べて、高学歴の方が乱暴であったのは前回の「電灯料」、前回および今回の「おつり」の3場面であり、他はすべて、高学歴の方が丁寧であった。この3場面は、ともに相手方のミスによる場面であることを指摘しておく。学歴の高い者は、このようなときは丁寧に言う必要はない、と判断するのであろうか。

なお、参考のために、一例として「席ゆずられ」の場面について、性・年齢・学歴別に相関表を計算したものを表8-7として示し、平均段階点および相関係数を表8-8として示す。ここでも相関係数はあまり高いとはいえない。

8.1.4. 合計段階点・適応点による分析

次に、一部は7.「継続調査の結果(2)」でも扱ったのであるが、今まで使った段階点を、場面ごとではなく、合計してみた結果などを示すことにする。

多くの場面別分析に使った12場面を単純に合計していいか、という問題があ

表 8-8 「席ゆずられ」の社会的要因別平均段階点および相関係数

		今回平均段階点	前回平均段階点	相関係数 (p)
性	男	1.989	1.920	0.3602
	女	1.837	1.717	0.1067
年齢	30代・40代	2.016	1.855	0.4041
	50代	1.941	1.824	0.1612
	60代以上	1.791	1.776	0.1640
学歴	低学歴	1.934	1.802	0.3533
	中学歴	1.905	1.857	0.0797
	高学歴	1.765	1.824	0.0704

ろう。この12場面が、日本人の生活の忠実なサンプルであるという保証はないし、おそらくそうではないからである。しかし、1場面ずつみるよりも、生活に少しは近いものとなることも考えられるし、あるいは合計することによって、微細な差も拡大されることも考えられるので、このようなことを試みてみたのである。

3段階方式による各場面の段階点を合計したものをここでは「合計段階点」ということにする。12場面では、段階点は各場面丁寧な方から1, 2, 3とつかわけであるから、理論的には各場面で1であれば12点、各場面が3であれば36点となり、この間に分布するはずである。

表 8-9 「合計段階点」の分布(今回調査)

合計段階点	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	計
人数	1	0	2	1	7	4	14	15	35	47	52	62	49	29	17	12	11	5	6	2	2	2	1	376

今回調査のサンプリングによる被調査者の場合は、全体では表8-9に示すように分布している。合計376人は7.「継続調査の結果(2)」で扱った同じ種類のものとは少し違っているが、この表8-9では、12の場面すべてについて反応があったもの、したがって段階点が与えられたものだけを合計しているのに対して、7.ではそのような手続きをせず、反応の得られなかったものは最頻値段階点の数値を代置している。表8-9で見るように分布は正規型であって、7.のように扱った場合と変わらないのでほとんど同じと考えていい。

表8-9によると、事実上は、一番丁寧であったのは、13点の1人である。これは、1場面だけは段階点が2であったことを示す。「魚釣り」は今回の調査の場合、段階点1は1人もなかったためである。また、一番乱暴であったのは35点の1人である。これは、1場面だけで段階点2であり、他はすべて3であったことを示す。13点の人は、女・60代以上・低学歴であり、35点の人は男・10代後半・低学歴であった。

表8-9によって計算すると平均合計段階点は23.753であり、分散は10.1755である。全12場面では段階点2であると合計は24となるのであるから、この平均合計段階点は大体それと等しいことになる。

次に、表8-10として「適応点」というものを出す。これは、各場面について、一番反応の多かった段階点がある人がとったときに1点を与える、というようにしてつけたものである。12場面あるから、0点から12点まであり得る。表8-10で見ると、0点をとった人はいなかった。敬語というものは何でも丁寧に言っていればいいというものではない。一つの考え方としては、多くの人の言うような丁寧さで言うのがいいともいえる。ここではその考え方によって、場面の、多くの人のとった段階点に適応して同じ段階点を得たという意味で適応点と名づけたのである。

表8-10 「適応点」の分布(今回調査)

適応点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
人数	1	1	5	3	15	21	41	52	80	87	55	15	376

ここでも、12場面すべてについて反応したものだけに限って点を与えた。これも7.「継続調査の結果(2)」

とは扱いが違っているが、実際上の差はそれほどではないであろう。

なお、前回の報告書では、他にいくつかの点数を算出している。一つは、多くの人のとった段階点を0点とし、それより丁寧なとき、1、2とし、それより乱暴なとき-1、-2と点を与えて、12場面を合計した「標準点」というものである。この場面ごとの+1、0、-1点のそれぞれのパーセントが示せるようにグラフに描き、それに基づいて算出した「グラフ点」というものもある。しかし、この標準点やグラフ点は前回の報告書にあるように、あまり段階点と大きな差はない。このほかに、「使い分け点」というものをも出している。これについては前回の報告書の275ページに説明があるが、今回のこの報告書では便宜上扱わないこととする。

表8-10の分布は1点を最低としている。これは、12場面中1場面しか多数のものにとった段階点がなかったことを示し、人数は1人である。女・60代以上・低学歴である。

表8-10による平均適応点は8.801、分散は3.8299である。

表8-9、表8-10について、性・年齢・学歴別の平均点などについて計算すると、表8-11に示すとおりである。

まず、合計段階点では、性は、99%の信頼度で女の方が男より丁寧であると

いえる。いわゆる有意差をもって女の方が丁寧である。このことは前回の調査と同じである。

年齢では、前回と同様に、あまりはっきりしないが、どちらかという、年長の方が丁寧な傾向がややみられる。40代と50代との間には95%の信頼度で有意差があるが、その他の隣の年齢層間には有意差はない。

学歴別では、これも前回同様、学歴の高い方が丁寧である。低学歴と中学歴との間は95%の信頼度をもって有意差があるが、中学歴と高学歴との間はない。ただ、傾向的な差はあると認めていいのではなかろうか。

以上の合計段階点に対して、適応点の方はもう少し各グループ間の差がはっきりしていない。これも前回と同じ傾向である。

性では前回調査の場合は男女間に有意差があったが、今回は有意差はみられなかった。前回に比べて今回は男は平均段階点が下がり、女は上がった。この差は男では有意差はみられないが、女は95%の信頼度で有意差がある。すなわち、今回の女は前回の女より有意差をもって適応点が上がった。この結果として、全体の適応点でも今回の方が上がったが、前回の全体との間には有意差はない。

年齢では、前回のはっきりした傾向はなかったが、今回は、やや若い方が適応点が高いようである。しかし、年齢層間の有意差は、30代と40代との間に95%の信頼度でみられるに過ぎない。

前回との比較では、前回の結果は、10代、20代、30代、40代以上と四つに年齢層を分けているだけである。平均適応点は順に、8.827、8.376、8.557、

表 8-11 社会的要因別の平均合計段階点と平均適応点

	人数	合計段階点		適応点	
		平均	分散	平均	分散
男	159	25.189	9.7506	8.824	4.0445
女	217	22.700	7.8688	8.783	3.6720
10代後半	46	24.609	6.5425	9.400	1.9733
20代	100	24.080	6.7336	9.386	2.7729
30代	84	23.655	9.0832	8.964	3.3916
40代	68	24.103	16.8276	8.235	5.2388
50代	33	22.182	8.2094	8.455	5.2176
60代以上	45	22.444	10.7358	8.244	4.1847
低学歴	175	24.389	11.3576	8.806	4.4194
中学歴	147	23.333	9.0249	8.803	3.2876
高学歴	54	22.833	6.9026	8.778	3.3951

8.520であった。今回と前回との間では20代は95%の信頼度での有意差があるだけであるが、概していえば、今回は若い方では点が上がった、といえるであろうが、40代以上は大きな差はない。前回の適応点による結果は前回報告書の第195表に出ている。

学歴では、表8-11によると、学歴が上がるにつれて適応点は低くなる傾向があるが、微細な差である。微細な差であるにもせよ、このような傾向があるのは、学歴が高いほど丁寧である、というのと表裏の関係をなしているであろう。すなわち、そのグループが平均的に丁寧であることは、おそらく段階点1のものが多くなることであろうし、多くの場面において段階点2が多数を占めているのである。なお、学歴ではどの層でも前回と今回との間に有意差はない。

次にこの章の主題であるパネル調査について、ここで述べたことを取り上げよう。まず、平均合計段階点について表8-12にまとめた。前回と今回とで人

表 8-12 パネル調査の合計段階点の比較

	今回調査			前回調査		
	平均	分散	人数	平均	分散	人数
男	25.545	13.1116	88	24.831	9.9234	83
女	22.580	9.6073	88	21.867	6.9378	90
30代・40代	25.098	13.5641	61	23.965	11.9286	57
50代	23.941	12.9573	51	23.549	9.5417	51
60代以上	23.172	12.2048	64	22.492	9.0807	65
低学歴	24.462	13.6673	117	23.565	12.3501	115
中学歴	23.357	9.8010	42	22.341	7.8611	44
高学歴	23.059	18.7612	17	24.000	3.2857	14
全体	24.063	13.5586	176	23.289	10.5639	173

数が違っているが、これはそれぞれで1場面でも反応文のなかったものを除外したためである。本来は2回の調査を通じてすべてに反応したものについて算出すべきとも考えるが、最終的な結果には大きな差はないであろう。

被調査者全体では、今回の方がやや乱暴であり、前回との間には95%の信頼度で有意差がある。継続調査の方ではこの点についてははっきりしたデータは

ないが、パネル調査から推定すると、やはり少し乱暴になったといえるのではなからうか。

性では前回は今回も99%の信頼度で男の方が女より乱暴である。前回と今回との比較では男女とも今回が乱暴になったが、それぞれは前回と今回との間には有意差はない。

年齢では、上で取り上げたすべてについて有意差はない。ただ、前回も今回も年齢が高いほど丁寧であるという傾向があり、また、各年齢層とも前回より今回の方が乱暴になった、とはいえるであろう。これらはすべて傾向的なものであって例外はない。

学歴では前回の高学歴が一番乱暴になっているのを除けば、表8-11でもそうであったが、学歴の高いほど丁寧であるという傾向がある、とはいえそうである。この表8-12の特に前回の高学歴は人数が少ないのでこのようになったものであろう。この高学歴を除いた他の二つでは、前回より今回の方が乱暴であって、これは他のところと全く同様である。

なお、表8-12ではすべてのグループについて、前回よりも今回の方が分散が大きいくとも指摘しておこう。これらを通じていえることは、前回より今回の方が乱暴になったということとともに、今回の方がいろいろな丁寧さ

表 8-13 パネル調査の適応点の比較

	今 回 調 査			前 回 調 査		
	平均	分散	人数	平均	分散	人数
男	8.409	5.8326	88	8.843	4.1321	83
女	8.716	3.9761	88	8.278	4.1117	90
30代・40代	8.492	5.7909	61	8.561	4.1059	57
50代	8.412	4.6344	51	8.608	3.9639	51
60代以上	8.750	4.2813	64	8.492	4.4653	65
低学歴	8.632	4.8991	117	8.496	4.6152	115
中学歴	8.524	4.0113	42	8.455	3.7934	44
高学歴	8.176	7.2042	17	9.286	1.4898	14
全 体	8.563	4.9279	176	8.549	4.2013	173

の人が出てきた、ということである。今回の方が乱暴になったということは、一つにはこの20年間に、人々は広く心を開いて、あまり肩をいからせずに、話すようになったこと、少なくとも、われわれとの調査の場面においてそうだった、ということであろう。

次に平均適応点の比較である。平均適応点については、あまりグループ間に差が大きくない、ということは既に述べた。どの属性間にも表8-13では有意差はない。このために、いろいろの結論が出にくい点が多い。

この表8-13の結果は、先の表8-11および前回報告書の第195表と比べ合わせて考えるべきものである。表8-12でもそうであったが、この表でも年齢や学歴は今回調査のときのものであることを注意しておく。特に前回報告書と比較するときは学歴については注意しなければならない。前回の報告書では、低学歴は、「なし」および小学校、中学歴は高小・新制中学校、高学歴は旧中・新高以上、となっているのに対して、今回は、一般の高学歴化によって、低学歴は、前回の低学歴と中学歴とを合わせたもの、中学歴は旧中・新高、高学歴は旧高・短大以上としている。

さて、表8-13の全体のところは、前回も今回もほとんど変わらないが、これは表8-10について述べた全体の平均8.801というのとは少し違っていることになる。もっとも有意の差はない。

性については表8-13では、前回が女の点が低いのに今回は男の方が低い。表8-11ではほとんど差はないものの女の方が低く、前回報告書の第195表でも女の方が低い。以上のような不安定な数字からは、あまり結論をはっきり出さない方がいいであろう。このことは年齢や学歴についてもいえることである。学歴では、表8-13の前回で高学歴が点が高くなっているのは被調査者が少ないために安定していないところであろうか。今回は学歴が高いほど点が低くなっており、これは、今まで述べたことと基本的には同じであるし、また理由のないことではない。

8.2. 敬語意識

敬語意識に関しては、パネル調査の前回・今回とも6.2.「敬語意識」で述べた「継続調査」の場合と全く同じ項目での調査が行われている。したがって、ここでは調査項目をいちいち反復せずに結果だけを示すことにする。なお、この節では必要に応じて継続調査との比較を行うが、その比較は原則としてパネル調査と年齢の重なる「30代後半以上」の層を対象とする。ただし、表1-12で示したように、継続調査に比べてパネル調査の被調査者の方が全体的に年齢の高い方に片寄っている点（特に女に著しい）に注意されたい。

8.2.1. 敬語の知識

表8-14は呈示短文ごとの平均「正解点」を示したものである。

まず、今回のパネル調査と継続調査との両群について各短文の平均点をみると、「お車」や「いただく」などで数値に開きがみられるが、平均点の順位ではほぼ一致している。

また、パネル調査の前回と今回とで比較すると、全般的に今回の方が点数が低くなっており、特に「(3)お野菜」と「(4)あります」の2短文での低下が目立っている（平均点の順位は完全に一致）。

この2短文に対する被調査者の回答分布をみてみよう。表8-15は「お野菜」に対する2回の調査の回答の変動を示しているが、これによると前回から今回にかけて「お（野菜）」が減少した分だけ「敬語なし」が増えている勘定となっている。また、表8-16の「あります」でもほぼ同様の関係がみられている。つまり、前回よりも今回の方が「お野菜」や「あります」を敬語と意識しない人が増加していることになる。この点では、6.2.1.「敬語の知識」で述べたことがほぼ裏づけられたといえよう。なお、表には示さなかったが、両文に対する「敬語なし」の回答は属性別では低年齢層と高学歴層に多くなっている。し

表 8-14 パネル・継続両調査の短文別の平均「正解点」の比較（全体）

		(6) お 車	(5) いただいた	(2) お持ち下さい	(3) お 野 菜	(1) 行かれた	(4) あります	人 数
パ ネ ル 調 査	前 回	1.42	1.28	1.17	0.97	0.75	0.49	185
	今 回	1.35	1.22	1.11	0.81	0.77	0.36	185
継 続 調 査		1.14 [1.22]	1.05 [1.10]	1.02 [1.13]	0.76 [0.76]	0.84 [1.19]	0.37 [0.43]	197 [400]

(注) 「継続調査」の欄の数値はパネル調査の今回調査に対応する30代後半以上の年齢層の平均点、〔 〕内は全被調査者の平均点を示す。

表 8-15 短文「お野菜」の2回の調査の回答分布

今回 前回	お(野菜)	敬語なし	無回答・他	計
お(野菜)	42 (22.7)	39 (21.1)	7 (3.8)	88 (47.6)
敬語なし	23 (12.4)	45 (24.3)	8 (4.3)	76 (41.1)
無回答・他	9 (4.9)	7 (3.8)	5 (2.7)	21 (11.4)
計	74 (40.0)	91 (49.2)	20 (10.8)	185(100.0)

表 8-16 短文「あります」の2回の調査の回答分布

今回 前回	(あります)	敬語なし	無回答・他	計
(あります)	13 (7.0)	25 (13.5)	6 (3.2)	44 (23.8)
敬語なし	15 (8.1)	96 (51.9)	9 (4.9)	120 (64.9)
無回答・他	4 (2.2)	14 (7.6)	3 (1.6)	21 (11.4)
計	32 (17.3)	135 (73.0)	18 (9.7)	185(100.0)

表 8-17 短文別の平均「正解点」(性, 年齢, 学歴別)

	(6) お車		(5) いただいた		(2) お持ち下さい		(3) お野菜		(1) 行かれた		(4) あります		人数
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	
男	1.39	1.58	1.33	1.36	1.13	1.27	0.96	0.92	0.79	0.85	0.53	0.45	91
女	1.45	1.12	1.23	1.06	1.20	0.98	0.98	0.69	0.70	0.69	0.46	0.27	94
40代以下	1.39	1.40	1.35	1.31	1.24	1.34	1.21	0.82	1.10	1.05	0.60	0.44	62
50代	1.53	1.31	1.22	1.15	1.33	1.04	0.98	0.65	0.76	0.80	0.49	0.35	55
60代以上	1.35	1.32	1.26	1.21	0.97	0.96	0.74	0.91	0.41	0.50	0.40	0.29	68
低学歴	1.30	1.25	1.17	1.12	1.04	1.03	0.86	0.88	0.48	0.52	0.43	0.40	122
中学歴	1.68	1.41	1.45	1.27	1.45	1.27	1.18	0.59	1.23	1.18	0.55	0.20	44
高学歴	1.58	1.79	1.58	1.68	1.32	1.21	1.16	0.63	1.37	1.47	0.74	0.42	19

たがって、今後ますます美化語「お」や丁寧語「ます」を特別の敬語形式と意識する人が少なくなると予想される。

なお、この2文に次いで今回「敬語なし」の割合が増加したのは謙讓形式の「いただく」(24.3%→29.2%)で、他はほとんど変化していない。

次に、2回の結果を属性別にみてみよう(表8-17)。

性別では、前回はどの短文でも有意な傾向は認められなかったが、今回はすべての点で男の方が平均点が高く、特に「お車」・「いただいた」・「お持ち下さい」の三つで有意差が認められている。この3短文における性差は、いずれも「敬語なし」の回答の相対量の多寡によって

いる(11~16%の開きがある)。

年齢別では、隣り合う年齢層間ではすべて有意な差はないが、60代以上と40代以下では「行かれた」(2回とも)と「お野菜」(前回のみ)とで差が認められている。つまり、若い方が平均点が高くなっている。

ここで年齢差のみられた「行かれた」は学歴別でも高学歴層ほど平均点が高くなっている(継続調査の場合でも傾向は同じ)。

表 8-18 2回の調査の「知識点」の比較(全体, 性, 学歴別)

	前回調査	今回調査
男	6.12	6.47
女	6.02	4.80
低学歴	5.28	5.26
中学歴	8.05	5.93
高学歴	6.58	7.21
全体	6.07	5.62

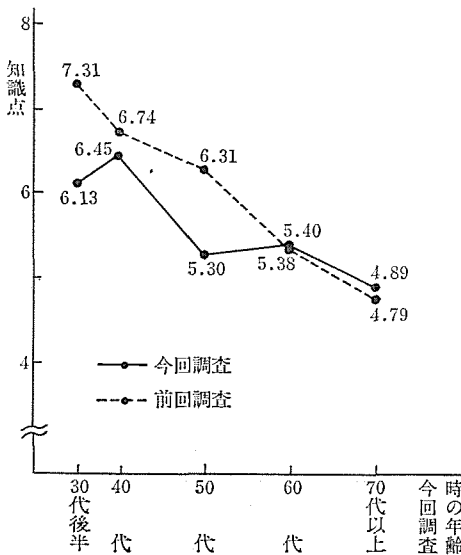


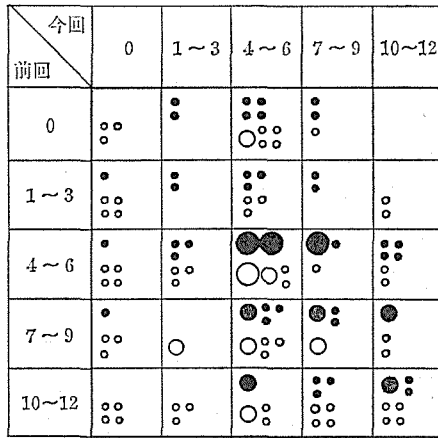
図 8-14 2回の調査の「知識点」の比較(年齢別)

次に、6短文の点数を総合した「知識点」についてみてみよう（表8-18）。

被調査者全体の知識点は前回の6.07点から今回は5.62点と0.45点低くなっている。これは継続調査の場合にもみられた現象である（表6-35参照）。したがって、社会全体としてはこの20年間に、ここでいう意味での敬語の知識はかなり低下しているといえよう。

しかし、表を見るとわかるように、この20年間の点数の変動は属性により様相がかなり異なっている。性別では、男はやや点数が上昇しているのに対し、女は1点以上も低下するという逆方向の変動が生じている。同様に学歴別でも、中学歴層の下降と高学歴層の上昇といった具合に対称的な変動現象がみられている。一方、年齢別では、図8-14に示されるように、若い方ではやはりこの20年間に点数が低くなっているが、60代（前回は40代）以上の高齢層ではほとんど変化していないことがわかる。

なお、「知識点」を表6-34同様に5段階に区分し、2回の調査間の段階の変動状況を示したのが図8-15である。この図で、右上のかたまりは前回に比べ得点が大きく上昇した被調査者群であるが、その数は男女ともに少ない。一方、左下隅の今回著しく点数が低下した群をみるとほとんどが女である。これが、今回調査で女の平均点を大きく引き下げた原因となっているといえよう。



黒ベタは男、白ぬきは女

●● は1人 ●●●●●● は5人 ●●●●●●●● は10人

図 8-15 2回の調査間の「知識点」の変動分布

表 8-19 目上に対して敬語がうまく使えるか(2回の調査の相関表)

前回	今回		1 うまく使える		2 大体うまく使える・ あまりうまく使えない		3 うまく使えない		4 無回答		計
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	
1	19	(10.3)	21	(11.4)	2	(1.1)	0	(—)	42	(22.7)	
2	20	(10.8)	53	(28.6)	9	(4.9)	1	(0.5)	83	(44.9)	
3	5	(2.7)	31	(16.8)	17	(9.2)	1	(0.5)	54	(29.2)	
4	2	(1.1)	3	(1.6)	1	(0.5)	0	(—)	6	(3.2)	
計	46	(24.9)	108	(58.4)	29	(15.7)	2	(1.1)	185	(100.0)	

(注) 表中の「前回」「今回」の数字は「今回」「今回調査」のカテゴリの番号に対応している。以下同じ。

表 8-20 目上に対して敬語がうまく使えるか(性、年齢、学歴別)

	うまく使える		大体うまく使える・ あまりうまく使えない		うまく使えない		無回答		人数
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	
男	29.7	33.0	44.9	61.5	24.2	5.5	1.1	—	91
女	16.0	17.0	45.1	55.3	34.0	25.5	5.3	2.1	94
30代後半	6.3	18.8	56.3	62.5	31.3	18.8	6.3	—	16
40代	28.3	28.3	41.3	54.3	30.4	15.2	—	2.2	46
50代	25.5	25.5	50.9	54.5	21.8	20.0	1.8	—	55
60代	22.5	22.5	37.5	65.0	32.5	12.5	7.5	—	40
70代	17.9	25.0	42.9	60.7	35.7	10.7	3.6	3.6	28
低学歴	18.9	20.5	43.4	58.2	35.2	19.7	3.3	1.6	122
中学歴	29.5	29.5	50.0	65.9	15.9	4.5	2.3	—	44
高学歴	31.6	42.1	36.8	42.1	21.1	15.8	5.3	—	19

8.2.2. 敬語使用意識

表8-19は「目上に敬語が使えるか」という質問に対する被調査者の2回の調査の回答の変動を示したものである。

2回の調査の周辺度数(計の欄)をみると、前回に比べて今回は「うまく使えない」が減少して「大体・あまり」が多くなっていることがわかる。また、「無回答」欄を除いた三つのカテゴリー(表中の1~3)の分布を、前回から今回への回答の変動の方向という観点から整理すると以下ようになる。

- ① 回答が変化しなかったもの 89人 (51.1%)
- ② 「うまく使える」の方向に変化したもの 56人 (31.6%)
- ③ 「うまく使えない」の方向に変化したもの 32人 (18.1%)

そこで、②と③を基に変化の検定を行ったところ、CR(臨界比)は6.545で1%水準で有意差が認められた。したがって、被調査者全体としては、前回に対して今回は「目上に敬語が使える」方向に変化したといえる。

表8-20は、この設問に対する2回の調査の属性別の回答分布である。

性別では、女に比べて男の方が「敬語がうまく使える」という方向での回答が前回、今回ともに多くみられているが、その差が今回さらに大きくなっている——特に、「うまく使えない」の数値の開きが拡大している。また、学歴別では、前回と同様に今回も、学歴の上昇に伴い「うまく使える」方向の回答率が高くなっているが、今回低学歴層での「うまく使えない」が激減したこともあって低・中学歴層間での差は縮まっている。一方、年齢別では、今回は最も若い30代後半のグループが他より「うまく使えない」という方向に傾いていた

表8-21 家族どうして敬語を使うか(2回の調査の相関表)

今回 前回	1 (ときに)使う	2 使わない	3 無回答	計
1	26 (14.1)	43 (23.2)	1 (0.5)	70 (37.8)
2	13 (7.0)	96 (51.9)	1 (0.5)	110 (59.5)
3	1 (0.5)	3 (1.6)	1 (0.5)	5 (2.7)
計	40 (21.6)	142 (76.8)	3 (1.6)	185 (100.0)

が、今回もその傾向は残しつつ幾分差が小さくなったといえよう。

このように、各属性での20年間の変化の程度はやや異なるが、すべての層で「敬語が使える」という方向へ変化している点は注目に値するといえよう。

次に、「家族どうして敬語を使う」か否かについてみてみよう。結果は、表8-21に示されるように、全体としてはこの20年間に家族どうしでは「使わない」人が60%から77%と有意に増加している。

この傾向は、継続調査の場合にも生じている。また、表8-22でも一部の層を除き同じ方向に変化して

いることから、この20年間に社会全般としては「家族に対しては敬語を使わない」という意識が強くなっているといえる。

表 8-22 家族どうして敬語を使うか
(性, 年齢, 学歴別)

	(ときに)使う		使わない		無回答	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男	28.6	15.4	69.2	83.5	2.2	1.1
女	46.8	27.7	50.0	70.2	3.2	2.1
30代後半	18.8	12.5	75.0	87.5	6.3	—
40代	39.1	10.9	60.9	89.1	—	—
50代	49.1	25.5	50.9	74.5	—	—
60代	40.0	27.5	55.0	70.0	5.0	2.5
70代	21.4	28.6	71.4	64.3	7.1	7.1
低学歴	32.8	14.8	63.1	82.8	4.1	2.5
中学歴	50.0	34.1	50.0	65.9	—	—
高学歴	42.1	36.8	57.9	63.2	—	—

8.2.3. 敬語に対する意見 1

敬語の使い方に対する被調査者の意見を尋ねた6項目のうち、ここでは人称代名詞の使い分けと美化語「お」の使用の是非を問うた設問について述べる。

まず、場合や相手によって人称代名詞を使い分けることの是非に対する回答からみてみよう。

表8-23は2回の調査における回答の変動を示したものである。これによると、使い分けを支持する意見は前回の63%から今回は69%と数字の上では若干増えているが、この差は統計的には有意でない。また、属性別(表8-24)にみても、低学歴層を除くと有意な変動は生じていない。

表 8-23 人称代名詞は使い分けた方がいいか
(2回の調査の相関表)

今回 前回	1	2	3	計
	使い分けた方 がいい	使い分け ない方が いい	無回答・他	
1	87 (47.0)	24 (13.0)	6(4)(3.2)	117 ((63.2)
2	33 (17.8)	17 (9.2)	7(5)(3.8)	57 ((30.8)
3	8(2)(4.3)	3 (1.6)	0 —	11 ((5.9)
計	128 (69.2)	44 (23.8)	13 (7.0)	185 (100.0)

(注) 表中の小さなカッコ内は回答「どちらでもいい」の人数。

表 8-24 人称代名詞は使い分けた方がいいか(性, 年齢, 学歴別)

	使い分けた方がいい		使い分け ない方が いい		無回答・他	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男	64.8	70.3	34.1	24.2	1.1	5.5
女	61.7	68.1	27.7	23.4	10.6	8.5
30代後半	43.8	81.3	43.8	6.3	12.5	12.5
40代	71.7	71.7	26.1	23.9	2.2	4.3
50代	67.3	65.5	25.5	23.6	7.3	10.9
60代	65.0	62.5	30.0	30.0	5.0	7.5
70代	50.0	75.0	42.9	25.0	7.1	—
低学歴	58.2	71.3	33.6	25.4	8.2	3.3
中学歴	72.7	59.1	25.0	27.3	2.3	13.6
高学歴	73.7	78.9	26.3	5.3	—	15.8

したがって、パネル調査の被調査者の間ではこの設問に対する意見はこの20年間にあまり変化しなかったといえる。

次に、美化語「お」の使用の是非に関する意見の変動をみる。結果は表8-25および表8-26に示されるように、全般的に今回は前回以上に「オをつけない」方向に傾いていることがわかる。これは6.2.3.「敬語に対する意見1」でみた継続調査の結果とほぼ一致しているといえる。

また、今回調査で「つけた方がいい」という意見を支持する層をみると、継続調査の場合と全く同じ、50代以上の低学歴層に限られていることが注目される。実際の行動は別として、「オをつける」という意見は今後ますます減少するとみられる。

表 8-25 「お」をつけること(2回の調査の相関表)

今回 前回	1		2		3		4		計
	つけた方がいい	ものによる	つけた方がいい	ものによる	つけた方がいい	ものによる	つけた方がいい	ものによる	
1	3 (1.6)	4 (2.2)	15 (8.1)	0	—	—	—	—	22 (11.9)
2	0	9 (4.9)	26 (14.1)	1 (0.5)	—	—	—	—	36 (19.5)
3	4 (2.2)	12 (6.5)	102 (55.1)	5 (2.7)	—	—	—	—	123 (66.5)
4	0	0	4 (2.2)	0	—	—	—	—	4 (2.2)
計	7 (3.8)	25 (13.5)	147 (79.5)	6 (3.2)	—	—	—	—	185 (100.0)

表 8-26 「お」をつけること(性, 年齢, 学歴別)

	つけた方がいい		ものによる		つけない方がいい		無回答・他	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男	12.1	3.3	11.0	14.3	75.8	78.0	1.1	4.4
女	11.7	4.3	27.7	12.8	57.4	80.9	3.2	2.1
30代後半	6.3	—	6.3	6.3	87.5	93.8	—	—
40代	8.7	—	21.7	10.9	69.6	87.0	—	2.2
50代	14.5	1.8	14.5	14.5	67.3	81.8	3.6	1.8
60代	15.0	10.0	20.0	15.0	62.5	70.0	2.5	5.0
70代	10.7	7.1	32.1	17.9	53.6	67.9	3.6	7.1
低学歴	14.8	5.7	18.9	10.7	63.1	80.3	3.3	3.3
中学歴	4.5	—	22.7	15.9	72.7	79.5	—	4.5
高学歴	10.5	—	15.8	26.3	73.7	73.7	—	—

8.2.4. 敬語に対する意見 2

表 8-27 は、昔の敬語と今の敬語とのいずれを支持するかを尋ねた項目に対する被調査者の回答の変動を示したものである。表の周辺部を見ると、「昔の方がいい」という意見は前回の43%から今回は60%とかなり増えている。しかし、この増加は逆方向の意見の「今がいい」が減少したためではなく（2回とも30%弱の支持率）、「無回答」と中間回答の「昔も今も」の変動によっていることがわかる。つまり、「無回答」や中間回答を除外すると、「昔」と「今」の敬語への支持率には2回の調査間ではほとんど差がみられないといえる。この傾向は属性別にみても（表 8-28）、一部の例外を除きほぼ一致している。

なお、6.2.4.「敬語に対する意見 2」では集団全体としては、今の敬語・昔の敬語への支持傾向は年をとってもあまり変化しないのではないかと述べたが、表 8-29をみるとパネル調査でも同様の傾向がうかがわれるといえよう。

次に、「家の中でも敬語を使うべきか否か」という問に対する意見をみてみよう（表 8-30）。

前回調査では「使うべきだ」という意見が49%、「使わなくてもいい」が28%であったのが、今回はそれぞれの比率がちょうど反対になっている。

また、「使わなくてもいい」について属性別にみると（表 8-31）、前回比較的大きかった男女の意見の比率が今回縮まってきている反面、学歴別では

表 8-27 敬語は昔と今とどちらがいいか（2回の調査の相関表）

今回 前回	1 昔の方がいい	2 昔も今も	3 今の方がいい	4 無回答	計
1	54 (29.2)	7(4)(3.8)	18 (9.7)	1 (0.5)	80 (43.2)
2	19 (10.3)	4 (2.2)	5 (2.7)	1 (0.5)	29 (15.7)
3	23 (12.4)	3 (1.6)	24(1)(13.0)	4 (2.2)	54 (29.2)
4	14 (7.6)	3(1)(1.6)	3 (1.6)	2 (1.1)	22 (11.9)
計	110 (59.5)	17 (9.2)	50 (27.0)	8 (4.3)	185 (100.0)

(注) 「昔も今も」には「昔の方がいいものも、今の方がいいものもある」と「昔も今も同じ(小かっこの人数)」という意見が含まれている。

表 8-28 敬語は昔と今とどちらがいいか(性, 年齢, 学歴別)

	昔の方がいい		昔も今も		今の方がいい		無回答	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男	46.2	57.1	14.3	9.9	29.7	28.6	9.9	4.4
女	40.4	61.7	17.0	8.5	28.7	25.5	13.8	4.3
30代後半	18.8	43.8	—	—	43.8	43.8	37.5	12.5
40代	37.0	52.2	8.7	13.0	39.1	28.3	15.2	6.5
50代	56.4	60.0	10.9	3.6	25.5	32.7	7.3	3.6
60代	37.5	70.0	32.5	12.5	20.0	17.5	10.0	—
70代	50.0	64.3	21.4	14.3	25.0	17.9	3.6	3.6
低学歴	43.4	64.8	14.8	8.2	28.7	22.1	13.1	4.9
中学歴	45.5	47.7	15.9	9.1	29.5	40.9	9.1	2.3
高学歴	36.8	52.6	21.1	15.8	31.6	26.3	10.5	5.3

今回の方が差がやや大きく
なっている。一方、年齢別
では前は30代後半（当時
は10代後半）とそれ以降の
年齢層との間にあった段差
が、今回は40代と50代との
間に移行している。また、
この段差は「使うべきだ」
を考慮すると60代と70代と
の間にも生じているといえる。

表 8-29 「昔」と「今」の敬語の支持の2回の調査の
意見変動(年齢別)

	昔 ↓ 昔	昔 ↓ 今	今 ↓ 昔	今 ↓ 今	2回の調査 で意見変動 のないもの	人 数
30代後半	1	2	2	5	6 (60.0)	10
40代	11	3	9	7	18 (60.0)	30
50代	22	8	5	6	28 (68.3)	41
60代	12	1	2	5	17 (85.0)	20
70代	8	4	5	1	9 (50.0)	18
全体	54	18	23	24	78 (65.5)	119

このような属性別による差異は継続調査の場合（表6-43）にはあまりみられなかったことであるが、これは2回の調査の被調査者の構成比の違い（表1-12参照）によるものと思われる。

最後に、逆方向にバイアスをかけて質問を行った二つの項目についてみてみよう。

表8-32は敬語の使用を減らす方向に誘導した設問に対する回答の分布を示すものである。2回の調査結果を比べると、誘導どおりの「減らした方がい

表 8-30 家の中でも敬語を使うべきか(2回の調査の相関表)

今回 前回	1 使うべきだ	2 時・場合・相手に よる	3 使わなくてもいい	計
	1	38 (20.5)	21 (11.4)	
2	7 (3.8)	11 (5.9)	22 (11.9)	40 (21.6)
3	6 (3.2)	12 (6.5)	33 (17.8)	51 (27.6)
4*	1 (0.5)	0	3 (1.6)	4 (2.2)
計	52 (28.1)	44 (23.8)	89 (48.1)	185 (100.0)

(注) 4*は「無回答」であるが、今回調査では許無であった。

表 8-31 家の中でも敬語を使うべきか(性, 年齢, 学歴別)

	使うべきだ		時・相手・場合による		使わなくてもいい		無回答
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
男	45.1	29.7	16.5	19.8	36.3	50.5	2.2
女	52.1	26.6	26.6	27.7	19.1	45.7	2.1
30代後半	25.0	6.3	18.8	31.3	50.0	62.5	6.3
40代	47.8	15.2	23.9	21.7	26.1	63.0	2.2
50代	52.7	27.3	23.6	27.3	23.6	45.5	—
60代	50.0	35.0	25.0	25.0	22.5	40.0	2.5
70代	53.6	53.6	10.7	14.3	32.1	32.1	3.6
低学歴	48.4	29.5	22.1	18.0	27.0	52.5	2.5
中学歴	43.2	27.3	25.0	29.5	29.5	43.2	2.3
高学歴	63.2	21.1	10.5	47.4	26.3	31.6	—

い」と「一概に言えない」の二つの意見には差がないが、「今のままでいい」という意見が今回増えている。

属性別(表8-33)にみると、性別では男女ともに全体とほぼ同じ結果になっているが、他の属性では個々の場合で異なり全般的な傾向は見出せない。

一方、増やす方への誘導設問(表8-34)では「今のままでいい」という意見が前回よりも増え、他の意見は減少している。この傾向は60代以上を除く各属性においてもみられている。また、「盛んに使うべし」と「今のままでいい」を同時にみると、はっきりとした年齢差が認められる。すなわち、「盛んに使

表 8-32 「敬語を使うと話が長くなるが……」(2回の調査の相関表)

今回 前回	1	2	3	4	5	計
	減らした方が がいい	一概に言え ない	今のままで いい	この意見は おかしい	無回答	
1	35 (18.9)	13 (7.0)	12 (6.5)	2 (1.1)	1 (0.5)	63 (34.1)
2	8 (4.3)	13 (7.0)	21 (11.4)	3 (1.6)	0 —	45 (24.3)
3	10 (5.4)	13 (7.0)	23 (12.4)	2 (1.1)	0 —	48 (25.9)
4	6 (3.2)	6 (3.2)	6 (3.2)	3 (1.6)	0 —	21 (11.4)
5	2 (1.1)	2 (1.1)	3 (1.6)	1 (0.5)	0 —	8 (4.3)
計	61 (33.0)	47 (25.4)	65 (35.1)	11 (5.9)	1 (0.5)	185 (100.0)

表 8-33 「敬語を使うと話が長くなるが……」(性, 年齢, 学歴別)

	減らした方が がいい		一概に言え ない		今のままで いい		その他		無回答	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男	38.5	36.3	22.0	19.8	26.4	37.4	9.9	5.5	3.3	1.1
女	29.8	29.8	26.6	30.9	25.5	33.0	12.8	6.4	5.3	—
30代後半	50.0	37.5	6.3	31.3	25.0	25.0	12.5	6.3	6.3	—
40代	28.3	19.6	32.6	28.3	23.9	43.5	13.0	8.7	2.2	—
50代	36.4	40.0	27.3	23.6	21.8	36.4	12.7	—	1.8	—
60代	27.5	35.0	25.0	22.5	27.5	30.0	15.0	12.5	5.0	—
70代	39.3	35.7	14.3	25.0	35.7	32.1	—	3.6	10.7	3.6
低学歴	35.2	34.4	19.7	27.8	25.4	33.6	13.1	3.3	6.6	0.8
中学歴	29.5	29.5	29.5	18.2	31.8	43.2	9.1	9.1	—	—
高学歴	36.8	31.6	42.1	26.3	15.8	26.3	5.3	15.8	—	—

表 8-34 「敬語を使うと上品に聞こえるが……」(2回の調査の相関表)

今回 前回	1	2	3	4	5	計
	盛んに使 べし	一概に言え ない	今のままで いい	この意見は おかしい	無回答	
1	18 (9.7)	17 (9.2)	18 (9.7)	3 (1.6)	0 —	56 (30.3)
2	12 (6.5)	38 (20.5)	26 (14.1)	2 (1.1)	1 (0.5)	79 (42.7)
3	8 (4.3)	10 (5.4)	14 (7.6)	4 (2.2)	2 (1.1)	38 (20.5)
4	0 —	3 (1.6)	3 (1.6)	0 —	0 —	6 (3.2)
5	2 (1.1)	2 (1.1)	2 (1.1)	0 —	0 —	6 (3.2)
計	40 (21.6)	70 (37.8)	63 (34.1)	9 (4.9)	3 (1.6)	185 (100.0)

表 8-35 「敬語を使うと上品に聞こえるが……」(性, 年齢, 学歴別)

	盛んに使うべし		一概に言えない		今のままでいい		その他		無回答	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
男	29.7	18.7	40.7	33.0	24.2	40.7	3.3	6.6	2.2	1.1
女	30.9	24.5	44.7	42.6	17.0	27.7	3.2	3.2	4.3	2.1
30代後半	25.0	6.3	12.5	31.3	37.5	50.0	12.5	12.5	12.5	—
40代	34.8	19.6	50.0	34.8	15.2	41.3	—	4.3	—	—
50代	25.5	12.7	50.9	41.8	20.0	36.4	1.8	7.3	1.8	1.8
60代	35.0	25.0	35.0	47.5	20.0	22.5	7.5	—	2.5	5.0
70代	28.6	46.4	42.9	25.0	21.4	25.0	—	3.6	7.1	—
低学歴	37.7	25.4	37.7	36.9	18.0	33.6	2.5	2.5	4.1	1.6
中学歴	15.9	13.6	50.0	38.6	27.3	34.1	6.8	11.4	—	2.3
高学歴	15.8	15.8	57.9	42.1	21.1	36.8	—	5.3	5.3	—

うべし」は高年齢層に、「今のままでいい」は若い層ほど多くなっている。なお、2回の調査ともに「盛んに使うべし」と答えた18名中、13名が60代以上であり、また18名全員が低学歴であった。

8.3. 社会生活意識

8.3.1. マスコミ接触

6. 「継続調査の結果(1)」でもふれたように、マスコミ接触に関する項目のうち「新聞との接触」だけが前回に引続き調査された。表8-36は、その接触の程度を示したものである。「毎日読む」が、前回も今回も70%程度を占めている。前回と全く同じ回答をした者は118人(63.8%)であった。前回より読むようになった者は28人(15.1%)で、女性および高年齢(60代以上)の比率が高くなっている。

次に購読部数を見てみよう(表8-37)。表からもわかるように、前回調査に比べて購読部数の減った者は43人(23.2%)、逆に増えた者は15人(8.1%)であった。CR(臨界比)は4.01となり、1%以下の水準で有意となる。前回に比べて、複数の新聞を読む人の数は減ったことになる。

表 8-36 新聞を読むか

今回 前回	1 毎日読む	2 時々読む	3 全然読まない	4 無回答	計
1	107 (57.8)	17 (9.2)	4 (2.2)	5 (2.7)	133 (71.9)
2	11 (5.9)	6 (3.2)	7 (3.8)	5 (2.7)	29 (15.7)
3	5 (2.7)	2 (1.1)	5 (2.7)	1 (0.5)	13 (7.0)
4	8 (4.3)	—	—	2 (1.1)	10 (5.4)
計	131 (70.8)	25 (13.5)	16 (8.6)	13 (7.0)	185 (100.0)

表 8-37 購読部数

前回 \ 今回	1	2	3	4	計
	1 紙	2 紙	3 紙以上	0 紙・無回答	
1	91 (49.2)	10 (5.4)	5 (2.7)	8 (4.3)	114 (61.6)
2	26 (14.1)	7 (3.8)	2 (1.1)	—	35 (18.9)
3	17 (9.2)	2 (1.1)	3 (1.6)	1 (0.5)	23 (12.4)
4	5 (2.7)	—	—	8 (4.3)	13 (7.0)
計	139 (75.1)	19 (10.3)	10 (5.4)	17 (9.2)	185

8.3.2. 交 際

「公式の会合」(表 8-38) では、「ふつう」という回答が減り、「出席する方」、「出席しない方」の両方の回答が増え、どの回答も 30% 程度となっている。前回と同じ回答をした者は 88 人 (47.6%) であった。前回、今回とも「出席する方」は男性に多く、「出席しない方」は女性に多くなっている。前回に比べて出席する方向に変化した者は 46 人 (24.9%)、逆に出席しない方向になった者は 48 人 (25.9%) とあまり差はみられないが、前者では男性の、後者では女性の比率が若干高くなっている。

「宴会・旅行」は表 8-39 のとおりで、「ふつう」が減り、「好き」が増えている。前回と同じ回答は 75 人 (40.5%) であった。好きな方へ変化した者は 66 人 (35.7%)、きらいな方へ変化した者は 41 人 (22.2%) で、好きな方へ変化した

表 8-38 公式の会合

前回 \ 今回	1	2	3	4	計
	出席する方	ふつう	出席しない方	無回答	
1	19 (10.3)	10 (5.4)	7 (3.8)	—	36 (19.5)
2	33 (17.8)	43 (23.2)	31 (16.8)	2 (1.1)	109 (58.9)
3	5 (2.7)	8 (4.3)	26 (14.1)	1 (0.5)	40 (21.6)
計	57 (30.8)	61 (33.0)	64 (34.6)	3 (1.6)	185

表 8-39 宴会・旅行

今回 前回	1 好き	2 ふつう	3 きらい	4 無回答	計
1	32 (17.3)	22 (11.9)	4 (2.2)	1 (0.5)	59 (31.8)
2	52 (28.1)	35 (18.9)	15 (8.1)	—	102 (55.1)
3	8 (4.3)	6 (3.2)	8 (4.3)	1 (0.5)	23 (12.4)
4	—	—	1 (0.5)	—	1 (0.5)
計	92 (49.7)	63 (34.1)	28 (15.1)	2 (1.1)	185

表 8-40 汽車の中で

今回 前回	1 話しかける方	2 黙っている方	3 無回答	計
1	23 (12.4)	17 (9.2)	—	40 (21.6)
2	41 (22.2)	99 (53.5)	3 (1.6)	143 (77.3)
3	1 (0.5)	1 (0.5)	—	2 (1.1)
計	65 (35.1)	117 (63.2)	3 (1.6)	185

率が上回っている。ちなみに、CR の値は2.42であり、5%水準で有意になっている。

「汽車の中で」(表8-40)では、「話しかける方」が増えてはいるものの、「黙っている方」の率は依然として63.2%と高い率を占めている。しかし、「話しかける」傾向の増加ははっきりと現われている(CR=3.16, 1%水準で有意)。

「交際範囲」については表8-41の結果を得た。「ふつう」が減り、「広い」と「狭い」が若干増えている。回答に変化がなかった者は112人(60.5%)であった。また、狭い方へ変化した者は34人(18.4%)、広い方へ変化した者は37人(20.0%)とほぼ同じであった。

表 8-41 交際範囲

前回 \ 今回	1	2	3	4	計
	広い方	ふつう	狭い方	無回答	
1	23 (12.4)	5 (2.7)	3 (1.6)	—	31 (16.8)
2	19 (10.3)	70 (37.8)	26 (14.1)	2 (1.1)	117 (63.2)
3	2 (1.1)	16 (8.6)	19 (10.3)	—	37 (20.0)
計	44 (23.8)	91 (49.2)	48 (25.9)	2 (1.1)	185

8.3.3. 社会意識

先生が何か悪いことをしたという話を、小学生くらいの子どもに聞かれて、どのように答えるかを尋ねた、「先生」(表8-42)では、「そんなことはない(と言う)」が減り、「ほんとうだ(と言う)」が増えている。前回と同じ回答をした者は77人(41.6%)であった。そのうち、前回も今回も「そんなことはない」という回答は全体の23.8%で女性の率が高く(男12.1%, 女35.1%), 逆に「ほんとうだ」という回答は全体の17.8%で男性の率が高くなっている(男26.4%, 女9.6%)。また、前回「そんなことはない」から今回「ほんとうだ」に変わった者が40人, その逆が17人となり、「ほんとうだ」という意見が増えているのがわかる(CR=3.05, 1%水準で有意)。

表 8-42 先生

前回 \ 今回	1	2	3	計
	そんなことはない という	ほんとうだという	その他 無回答	
1	44 (23.8)	40 (21.6)	13 (7.0)	97 (52.4)
2	17 (9.2)	33 (17.8)	5 (2.7)	55 (29.7)
3	11 (5.9)	19 (10.3)	3 (1.6)	33 (17.8)
計	72 (38.9)	92 (49.7)	21 (11.3)	185

表 8-43 メンツ

前回 \ 今回	1	2	3	計
	注意しろと 教えるほうが大切	こだわるなと 教えるほうが大切	その他 無回答	
1	14 (7.6)	28 (15.1)	9 (4.9)	51 (27.6)
2	13 (7.0)	78 (42.2)	5 (2.7)	96 (51.9)
3	13 (7.0)	22 (11.9)	3 (1.6)	38 (20.5)
計	40 (21.6)	128 (69.2)	17 (9.2)	185

表 8-44 世間のしきたり

前回 \ 今回	1	2	3	計
	おし通すべきだ	従うほうがよい	その他 無回答	
1	38 (20.5)	39 (21.1)	8 (4.3)	85 (45.9)
2	21 (11.4)	39 (21.1)	7 (3.8)	67 (36.2)
3	10 (5.4)	21 (11.4)	2 (1.1)	33 (17.8)
計	69 (37.3)	99 (53.5)	17 (9.2)	185

小学生くらいの子どもを育てるのに、顔やメンツをつぶされないように注意しろと教えるか否かを尋ねた、「メンツ」(表 8-43)では、「こだわるな(と教える方が大切)」という回答が増え、「注意しろ(と教える方が大切)」という回答が若干減っている。「こだわるな」という意見が増加の傾向にあることは表からもよくわかる(CR=2.34, 5%水準で有意)。

自分が正しいと思えば世間のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思うかどうかを尋ねた、「世間のしきたり」に対する回答は表 8-44のとおりである。「(世間のしきたりに)従う方がよい」という回答が増え、「(自分の意見を)おし通すべきだ」という回答が減っている。変化の方向も「従う方がよい」という伝統的意見が増える傾向にある(CR=2.32, 5%水準で有意)。社会意識に関する質問の中で、他の3問はみな、伝統的意見が減少する傾向がみられるが、この問だけは回答の傾向が異なっている。前回も今回も「おし通すべきだ」と答えた者は全体の20.5%で男性の率が高く(男24.2%, 女17.0%),

表 8-45 総理大臣

今回 前回	1 行く系	2 本人の自由	3 行かない系	4 無回答	計
1	53 (28.6)	60 (32.4)	2 (1.1)	1 (0.5)	116 (62.7)
2	9 (4.9)	16 (8.6)	—	3 (1.6)	28 (15.1)
3	9 (4.9)	16 (8.6)	1 (0.5)	—	26 (14.1)
4	5 (2.7)	10 (5.4)	—	—	15 (8.1)
計	76 (41.1)	102 (55.1)	3 (1.6)	4 (2.2)	185

一貫して「従う方がよい」と答えた者は全体の21.1%で女性の率が高くなっている（男14.3%，女27.7%）。

総理大臣になった人が伊勢神宮へ参拝することの是非を尋ねた、「総理大臣」（表8-45）では、「行かねばならぬ」と「行った方がよい」を合わせた「行く系」および「行かない方がよい」と「行くべきでない」を合わせた「行かない系」の減少，および「本人の自由」の増加が目立ち，（CR=2.86，1%水準で有意），「本人の自由」という意見への増加傾向がはっきりと現われている。

8.3.4. 階層帰属意識

集計結果は表8-46のとおりである。前回，今回ともよく似た分布を示している。平均階層点（6.3.6.「階層帰属意識とその決定基準」参照）は，前回調査が2.66，今回調査が2.72となっている。この今回の値は継続調査（今回）の結果とほとんど同じであった。今回の結果を属性別にみると，性差は小さいが（男2.69，女2.74），年齢別，学歴別で顕著な差が現われている。年齢別では，30代後半2.94，40代2.89，50代2.82，60代2.53，70代2.35となり，年齢が上がるにつれて平均点が下がっている。また，学歴別では，中学歴が3.17と一番高く，次いで高学歴の2.94，低学歴の2.52が続いている。

表 8-46 階層帰属意識

今回 前回	1 中の上以上	2 中 の 中	3 中の下以下	4 無 回 答	計
1	7 (3.8)	9 (4.9)	2 (1.1)	1 (0.5)	19 (10.3)
2	11 (5.9)	61 (33.0)	19 (10.3)	5 (2.7)	96 (51.9)
3	3 (1.6)	27 (14.6)	35 (18.9)	3 (1.6)	68 (36.8)
4	—	—	2 (1.1)	—	2 (1.1)
計	21 (11.4)	97 (52.4)	58 (31.4)	9 (4.9)	185

9. ま と め

9.1. 調査の結論

2.「前回調査の概要」で、前回の調査で得られた結果の概要について述べた。また、今回の調査に関しては3.「継続調査の概要」で継続調査、4.「パネル調査の概要」でパネル調査の結果を略述した。この章のまとめでは、これらと多少は重なる部分もあるが、以下箇条書きで述べることとする。

1) いささか自画自賛的なことばになるが、このような時間的間隔を置いた調査は、その結果の如何にかかわらず価値を持つものである。一つには、このような調査は今までのところあまりなかったからである。個人中心というよりは、組織中心で仕事をする研究所にふさわしい調査といえるであろう。

2) 敬語の使い方については、この20年間に大きな変化はなかった。大筋としては変わってはいないことになる。標準語の使い方の20年間の移り変わりについて調査した鶴岡市の調査（国立国語研究所報告52『地域社会の言語生活』）においては、その間にドラスティックな変化があったと認められたが、今回の敬語の調査ではこのようなことは見出せなかった。しかし、このことは、この調査が無駄であったことを意味しない。調査してみなければその変化しなかったこと自身もわからない。

3) 近ごろは敬語をあまり使わなくなった、あるいは、近ごろはどうもことばが乱暴になった、というような印象を人が語るのをよく聞く。しかし、全体としての丁寧さにはさほどの違いはみられない。一方、丁寧な言語形式の使用率が減ったことも事実である。一般的な印象だけでは実態はわからないことは厳然たる事実であり、この点でも調査の必要性ははっきりしている。

4) 全体としての丁寧さには大きな違いがこの20年間にはみられないし、また、調査した場面の丁寧さの順位もあまり変わらなかった。しかし、細かくみ

ると、この20年間に、丁寧な場面ではより丁寧に、乱暴な場面ではより乱暴に、という傾向があり、この点では敬語の使い方は上手になったといえよう。いたずらに現在の状態を悪いと観念的にきめつけるのは事実と反することがある。

5) 普通、「近ごろの若い者は……」ということばで、年齢の低い者が非難されることが多いが、敬語の丁寧さと関係ある社会的要因（属性）では年齢はあまり関係が強くないことは、前回と同様はっきりしている。敬語の丁寧さの度合いに影響を及ぼすものとしては性が第一にあげられるべきである。

6) このように、言語の面により、また時代によって、どの属性がよく効いているかが違ってくる。標準語化でいえば、最大の要因は昭和20年代では学歴であったが、これが40年代には年齢に変わった。しかし、敬語については上述のように、年齢は、2回の調査ともあまり効いていないのである。

7) この20年間に進歩したものとしては、敬語の使い方についての常識が広まったということがあげられる。例えば、自分の身内についてどう表現するか、というようなことでは著しく進んだ、といっている。

8) 肯定形より否定形の方が丁寧であるとか、「から」より「ので」の方が丁寧であるとかのことは今までにも述べられてきたところであるが、その差がどの程度であるのか、というようなことは記述されないう。このようなことも、調査で確認してから述べるべきであろう。「で」の丁寧さは「ので」と「から」とどのくらいへだたっているかということは推定はされても、はっきりした位置は直観ではわからない。いろいろの敬語的言語形式について、話線全体としての丁寧さに寄与する度合いなどについても調査の結果いくつか明らかとなった。

9) 敬語についての意見、知識、敬語使用についての意識などについても、一般人の実態をある程度明らかにした。

10) 接頭辞の「お」や、丁寧語の「ます」のようなものを敬語と考える人が20年間に減ってきたことがはっきりした。この点で一般人の敬語意識は変わってきた、といえるであろう。

9.2. 反省—これからの調査のために

この報告書を終わるにあたって、この調査への反省をあげておく。

1) 何とんでも、結果の発表までに時間がかかり過ぎたことがあげられる。これにはいろいろの理由がもちろんあるが、どんな理由も理由としてはいけないものである。

2) 仕事のネックとなったのは丁寧さの段階判定であった。前回の3段階方式では、段階2の丁寧さが非常に多かったのを、これをもう少し細かく分けることを考えて、5段階に分ける方式をもとてみた。しかし結局は、結果の記述には、前回との比較ということもあり、5段階方式の方は十分には利用しなかった。この結果からみると、余分なことに時間をとられたことになる。

なお、この段階判定には、今回は前回と同一人があつたが、このことはいつまでも期待できないので、能率よく、かつ一貫性を保って進めるための方策を考えておく必要がある。

3) 今回の調査では、費用の点およびプライバシーへの配慮から、被調査者の階層判定の作業を本格的にしなかった。社会階層は、前回でも重要な社会的要因とはなっていないが、常識的にいえば敬語と関係があると思われるので、今後はこれを敬語に関係させることができるような資料の獲得および判定方法を開発すべきである。

4) 同様なことは、心理的要因についてもいえる。敬語というものは非常に心理的なものであるから、当然深く関係すべきものである。これについては、前回報告書の「これからの調査のために」の3)で述べてあるにもかかわらず、それ以後に有効な方法はあらわれないようであった。また、新しい試みをするほど、今回の調査費は豊かではなかった。

5) 今回の場合、社会的要因(属性)による分析は、性・学歴・年齢に多くは限られたが、他のいろいろな属性についても分析してみる必要があつた。これらについては以下の項でも触れる。

6) この属性による分析に進まなかった理由の一つは、1.3.「被調査者の構成」でも述べたように、ある属性ではある一つのアイテムに多くの被調査者が集中する、ということがあった、ということである。このように集中した項目は、ある観点から細分できるように調査票を作るべきであった。この点は、費用の点から、準備調査ができなかったことに原因があった。

7) これは前回もそうであり、これを原則としてそのまま踏襲したという点で遺憾であったが、職業分類はもっと言語生活を反映するようなものにすべきであった。前回との比較ということに注意を奪われすぎていたようである。前回あまりいい結果を示していないようなものについては安易に同じ方法をとらず、今回はすっかり改めるという態度も必要であった。このような調査は今回だけで終わりではないのである。職業については、たとえば、実際に客と接する者を同じ商業やサービス業などから分離する、というように、敬語使用の観点から改めるべきであった。

8) 調査の場面としたものについても、前回に捉われず、それぞれの場面の性質を明らかにして、構成をはっきりさせるべきであった。前回、今回の面接調査の場面はそれなりに丁寧な場面、乱暴な場面はあるが、最近の場面分析研究の進歩からみると不十分なところもある。もっとも、この場面分析研究の進歩は、多くは、この今回の調査後に遂げられているものである。ともあれ、場面の構成はもっと実際の敬語を反映できるものが望ましい。ただし、このような全市民対象の社会調査の場合、すべての人にとって、すぐ反応できるような場面である必要があり、調査可能という点からすると純理的にばかりはいかないであろう。

9) 敬語についての意見、知識、敬語使用についての意識などについてはいくつかの項目を取り上げて調査したが、より多くの観点から調べるべきであった。また、社会生活意識などについても同様である。

10) これらと敬語の合計段階点などについては相関をみたが、なお、場面ごとの関係をもみるべきであった。

11) 敬語についての知識、合計段階点、適応点などについて、一部、点数を区間でまとめた集計をしている。これはこれなりに意味のあることであった

が、他のところとも合わせて、素点での集計もすべきであった。

12) パネル調査については、『地域社会の言語生活』のパネル調査の結果のように、個人ごとの移り変わりについても分析すべきであった。これについては今後も分析を続ける予定である。

13) このパネル調査については、20年間隔では長すぎると考える。5年間隔で個人ごとに移り変わりを追跡調査すればいいかと思うが、少なくとも10年間隔にすべきであった。

14) この報告書の執筆者は、国立国語研究所報告70『大都市の言語生活』、同73『企業の中の敬語』での執筆者より少なかったため、これらに比べると比較的まとまっているが、それでもほぼ同規模の執筆者による同52『地域社会の言語生活』よりはまとまりがよくなかった。執筆のための時間をもっとゆっくりとって、記述の調整を図るべきであった。多少の記述の重複などがみられる。時間が許すならば、最終的には一人の責任者がリライトするのが理想であるといえよう。

『地域社会の言語生活』で主題とした標準語を話す能力については、第2回の調査から20年後に調査をしてもおそらく有益な結果は多く出ないであろう。ここでは音声の発音を主な指標として考えた。アクセントを指標にとればまだこの変化はその過程であり、あるいは、第2回の調査以後に変化があったと想像されるので、調査の結果はおもしろいものになるであろう。しかし、アクセントについては、2回目までの調査では調査項目が非常に少ないので、これまでとの違いを調べるのには材料が不足であろう。

この点では、敬語については、社会の変化とともに今後も変化する可能性があるので、このような形の継続調査が必要であろう。しかもこれは、国語問題として無視できないものとなると予想される。したがって、この点で、企業内での敬語の調査とともに、一定の間隔で調査すべきである。

このようなタイプの継続調査は共同調査の組織が中心となっている当研究所のようなところに最適の題目である。これからもこれを継続して調べることを第2回の調査関係者として強く期待して、この報告書を終える。

資 料

資料1. 各調査の集計表

性, 年齢, 学歴別の合計段階点の分布 (今回調査)

合計 段階 点	全 体	性		年 齢						学 歴		
		男	女	15 }	20 }	30 }	40 }	50 }	60 }	低	中	高
				19	29	39	49	59	79			
13	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	2	0	2	0	0	0	0	1	1	1	1	0
16	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
17	7	1	6	0	0	2	4	0	1	2	4	1
18	4	0	4	0	0	1	1	2	0	2	1	1
19	14	2	12	0	1	4	3	2	4	4	8	2
20	15	5	10	1	3	4	0	3	4	4	9	2
21	35	8	27	2	13	6	8	0	6	13	15	7
22	47	14	33	6	12	13	8	5	3	19	18	10
23	52	15	37	8	17	8	6	4	9	19	22	11
24	62	24	38	5	16	18	10	6	7	33	23	6
25	49	27	22	10	13	10	7	7	2	26	15	8
26	29	17	12	7	8	7	4	1	2	17	11	1
27	17	13	4	3	5	4	2	0	3	6	10	1
28	12	9	3	1	5	1	4	0	1	8	3	1
29	11	9	2	2	4	2	2	1	0	7	3	1
30	5	5	0	0	1	2	1	1	0	3	1	1
31	6	5	1	0	1	1	3	0	1	4	2	0
32	2	1	1	0	1	0	1	0	0	2	0	0
33	2	2	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0
34	2	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0
35	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
人数	376	159	217	45	101	84	68	33	45	175	147	54
平均	23.75	25.19	22.70	24.38	24.19	23.65	24.10	22.88	22.44	24.39	23.33	22.83

性、年齢、学歴別の合計段階点の分布（前回調査）

合計 段階 点	全 体	性		年 齢						学 歴		
		男	女	15 ∫ 19	20 ∫ 29	30 ∫ 39	40 ∫ 49	50 ∫ 59	60 ∫ 79	低	中	高
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	2	0	2	0	0	1	0	1	0	2	0	0
15	2	0	2	0	0	0	0	2	0	2	0	0
16	4	1	3	1	1	0	2	0	0	3	1	0
17	2	1	1	1	0	0	0	1	0	2	0	0
18	7	1	6	0	2	3	1	1	0	7	0	0
19	14	2	12	2	3	4	2	3	0	10	3	1
20	17	3	14	3	5	3	3	3	0	14	2	1
21	25	9	16	2	8	6	6	3	0	24	1	0
22	28	10	18	6	5	2	10	5	0	20	2	6
23	39	18	21	11	9	8	6	5	0	35	2	2
24	27	16	11	8	7	2	3	7	0	20	3	4
25	29	15	14	8	6	8	2	5	0	25	1	3
26	12	10	2	1	5	2	0	4	0	10	2	0
27	10	9	1	4	1	1	2	2	0	10	0	0
28	6	6	0	0	3	1	2	0	0	5	1	0
29	6	6	0	0	2	0	1	3	0	6	0	0
30	2	2	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0
31	3	3	0	0	1	1	0	1	0	3	0	0
32	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
33	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
人 数	238	115	123	47	60	44	40	47	0	202	18	18
平均	23.01	24.6	21.52	23.06	23.45	22.86	22.33	23.11	0	23.04	22.28	23.33

性、年齢、学歴別の適応点分布（今回調査）

適 応 点	全 体	性		年 齢						学 歴		
		男	女	15 ∫ 19	20 ∫ 29	30 ∫ 39	40 ∫ 49	50 ∫ 59	60 ∫ 79	低	中	高
1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
3	5	2	3	0	0	1	2	1	1	3	2	0
4	3	1	2	0	1	0	2	0	0	2	0	1
5	15	6	9	1	1	3	8	1	1	5	7	3
6	21	11	10	0	1	4	5	7	4	12	6	3
7	41	18	23	3	11	10	5	4	8	17	19	5
8	52	21	31	7	15	13	10	2	5	23	21	8
9	80	32	48	11	25	14	13	5	12	33	33	14
10	87	33	54	12	25	23	12	6	9	44	34	9
11	55	25	30	10	18	11	8	4	4	24	21	10
12	15	9	6	1	3	5	3	3	0	10	4	1
人数	376	159	217	45	101	84	68	33	45	175	147	54
平均	8.80	8.82	8.78	9.4	9.14	8.96	8.24	8.45	8.24	8.81	8.80	8.78

性、年齢、学歴別の適応点分布（前回調査）

適 応 点	全 体	性		年 齢						学 歴		
		男	女	15 ∫ 19	20 ∫ 29	30 ∫ 39	40 ∫ 49	50 ∫ 59	60 ∫ 79	低	中	高
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	5	1	4	0	1	1	0	3	0	5	0	0
3	4	2	2	1	1	1	1	0	0	2	1	1
4	3	2	1	1	0	0	1	1	0	3	0	0
5	7	1	6	0	1	4	0	2	0	7	0	0
6	23	6	17	2	8	7	2	4	0	19	3	1
7	27	11	16	3	9	3	5	7	0	21	2	4
8	38	17	21	5	12	7	8	6	0	34	2	2
9	44	25	19	8	10	6	13	7	0	33	6	5
10	58	34	24	18	10	10	8	12	0	53	2	3
11	19	12	7	7	6	1	1	4	0	15	2	2
12	10	4	6	2	2	4	1	1	0	10	0	0
人数	238	115	123	47	60	44	40	47	0	202	18	18
平均	8.42	8.83	8.05	9.21	8.28	8.11	8.45	8.09	0	8.46	8.17	8.33

資料2. 反応文一覧

面接調査（サーヴェイ調査）では、15の場面を呈示して、それぞれの場面でどう言うかを被調査者に尋ねている。これに対する今回調査（継続調査のみ）における全被調査者の回答——発話を初めから終わりまで発音どおりに記録したものが以下の「反応文一覧」である。

資料の見方

各反応文の左側の数字や記号は被調査者の属性や敬語の丁寧さの段階を示すものであり、それぞれの意味は次のとおりである（図A参照）。

①被調査者コード——個々の被調査者を識別するための3桁の数字。これはサンプル台帳順の通し番号であるが、予備サンプル用の番号や調査不能者の番号を省いたため欠番がある点に注意されたい。

②性別コード——「M」は男、「F」は女。

③年齢コード——満年齢（2桁の数字）。

④学歴別コード——「L」は低学歴、「M」は中学歴、「H」は高学歴。

⑤3段階方式による丁寧さの段階を示す。——①～③の順に丁寧さの程度が低くなる。なお、場面14～15で、この欄が「*」となっているのは3段階方式

での判定を行わなかったためである（図B参照）。

⑥5段階方式による丁寧さの段階を示す。——①～⑤の順に丁寧さの程度が低くなる。

なお、無回答や誤答（反応文の欄に「NR」で示される）については、⑤および⑥は空欄となっている（図B参照）。

		①	②	③	④	⑤	⑥	
図		002	M49L	②③	ヒガオカガ材	テラレ	マンエノ	トリ
A					オ	オコシ	イタキタイ	
		003	F43L	②②	ココ	マツガ	イキマシ	ヒヤクメトル
					イキマシ	チヨト	ハシガ	アリスガ
						コレガ	ミョウタイガ	ブ
図		188	M65L	*③	コノ	セオ	ヨ	シ、ミサト
B					ヨ	カンガエミタイ	モンチガ	アルナスガ
						イド、キ		
						リョク	シ、キョ	チ
		189	F26L	NR				

道 教 え (101)

- 002 M49L②③ ヒガシオカサキオ デラレテ マンヌノ トーリ
オ オコシ イクサキイ
- 003 F43L②② コー マスグ イキマスト ヒヤクメートル
イキマスト チョード ハシガ アリマステ コレガ ミョーグイジバン
ヂス
- 005 M26H③⑤ ココカラ ナジューメートルグライノ トコロ
- 006 M50H②③ ナンゴーセンカニ デテヂスネー ミギニ マガッ
ク トコロガ ミョーグイジバンヂス
- 009 F38L②④ アチラヂスヨ
- 011 F42M②③ ココオ マスグ イカレタ ハシガ ミョーグイ
ジバンヂスヨ
- 012 F44L②④ イキカラ キタガ イキマス
- 015 F38L②③ ココ マスグ イケバ スグ ソコノ ミエル
トコロガ ミョーグイジバンヂスゲド
- 017 F56L②③ マスグニ オイデテ イッパングライノ トコロ
アリマス
- 018 F39M②③ コノ ミチオ マスグ キタニ アガルト カワ
ガ アリマスノデ ソコヂス
- 020 M68L②② コノ イキノ マエオ アルイテ サンブングライ
ヂカラ マスグ オイキニ ナレバ ワカリマス
- 023 F46L②③ ココオ マスグ イキマスト ヒヤクメートルノ
トコロニ ハシガ アリマス
- 024 F17H②④ チョット ワカリマセン
- 026 F69L②④ イキノ シタノ ハシゴジノ トコロ ワクッテ
デテ ミギツカワノ ジンドーノ トコロ トオツテ ハシガ アルガ
ノルガ ミョーグイジバンヂス
- 027 M22M②③ コツカラ ニシエ ヒヤクメートルグライ イクト
シンゴーガ アルカラ ソコオ ミギニ マガッテ ハシガ アリマス
カラ ノルガ ソーヂスヨ
- 029 F30M②④ ココオ マスグ、アルイテイキマスカラ
- 030 M17L②③ ソコノ シンゴーオ ワクッテ マスグ イッタ
トコロガ ミョーグイジバンヂス
- 033 F48M②③ マスグノ ミチオ ススミマシテ フクツメノ
ミチノ トコロニ アリマス
- 035 F47M②③ ミョーグイジバンヂノ コノ マエノ ヒロイ ト
ーリオ マスグ イッタ トコロヂス スグ ミエマス
- 036 F66L②③ イキノ マエオ マスグ イクト ハシガ アッ
テ ソノ ハシガ ミョーグイジバンヂス
- 038 F49M②② ココオ デラレマスト マスグ イカレマスト
サンジューメートル イカレマスト スグ ハシニ ナリマス。ノルガ
ミョーグイジバンヂス
- 039 M41L③⑤ イキカラ マスグ キタノ ホーイ チョクシン
シテ モラウト ヤウ イツチョーグライヂ ケツキヨク ハシー デ

ルヂ ホー ミョーグイジバンヂ

- 041 F47H①① イマ オクチニ ナツテイラツシヤル トコロカラ
キタヒ ムカッテ ヒヤクメートルグライ イッタ トコロニ ミョー
グイジバンヂガ コジイマス
- 042 M20L③⑤ ソコ デテ シンゴー マスグ
- 043 F63L②③ ミョーグイジバンヂノ キタヒ ヒヤクメートルグライ
イ イッテ モラエバ ミョーグイジバンヂニ ナリマス
- 045 M19L③⑤ モー スコシ キタ
- 046 F72L②④ マスグ イクト ミョーグイジバンヂエ ヲキマス
- 047 F40L②④ コレ マスグ イクカラ イート オモイマス
- 048 M61L②④ ココオ マスグ イクト ミョーグイジバンヂス
- 050 F67M②④ イキカラ モー スコシ ミギニ マガッテ マッ
スグ イッテ クジサイ
- 052 F58H②② マエオ マスグ イラツシヤルタ トコロノ ハ
シヂス
- 053 F33M②④ コウドーイチゴーセンオ モルヒョーニ シテ キ
タニ イッテ クジサイ
- 054 M60M②④ スグ ソコノ ハシヂス
- 056 F26H②③ ワククシ ミョーグイジバンヂノ シリマセンノデ オミ
セテ キテ クジサイ
- 057 M36M②③ マスグ キタニ イカレテ ハジメテノ ハシガ
ミョーグイジバンヂス
- 059 M24H②④ ココ マスグ イケバ イキマス
- 060 M22L②④ ソコー ミギ マガツク トコロヂス
- 063 F25L②③ バチンコヤリノガ アリマステ ソコカラ マエノ
トーリオ トオツテ スグ マスグ イクト ソノ ハシニ デイ
マス
- 065 F30L②④ マスグ イクカラ イート オモイマス
- 066 F38M②④ ミョーグイジバンヂ ココカラ コジューメートルグ
ライ ミナニ アリマス
- 068 F36L NR
- 069 M29M②③ シンゴーオ ワカリマシテ マスグ イキマスト、
スグヂス
- 071 M52L NR
- 073 F23M②④ スグ ソコニ ミエテル ハシガ ソーヂスゲド
- 074 M28H②② マス ヒダリニ イッテ クジサイ。ソツテ ソコ
ニ シンゴーガ アリマスカラ、ソノ シンゴーオ ミギニ ワクッテ
オーブン シマシテ ノルカラ ニジューメーターグライ イッタ トコ
ロニ ミョーグイジバンヂガ アリマス
- 075 F34H②② イキノ ショーメンカラ マスグ キタノ ホー
エ ムカイマスト コジューメートルグライチ オーキイ ハシガ アリ
マスノデ、ソコガ メータイジバンヂス
- 077 F39L②④ ソコオ マスグニ イケバ スグ ワカリマス
- 078 F30L②③ シンゴーオ イチバン ヒロイ ホーイ ムカッテ
チョクシン シテ イタヂノガ イチバン インジヤ ナイヂスカ

- ネー
- 080 M18M②② ハンカチノ ホーニ デズニ、コッチノ ウラノ
ホーニトオツテ イタダテ、マッスグ イカレト カワガ アリ
マヌ。ソコガ ミョーグイジバンデス
- 084 M47H②④ コノ ホーニデス
- 088 F27L③⑤ ムカッテ イキカサネ、ショメン タツテ イキ
マシワネ。エキマエ マッスグニ イツテ スコシ イクワネ。ソ
スルト マー イヤヂモ ハシノ アル トコ… テュー ワケダネ。
ソシカ ナイネー
- 087 M25M③⑤ イキカサ アルイテ ヒヤクメーターグライ マ
ッスグ イツク トコロダ
- 089 M42H②④ ヒガシオカサキノ イキカサ コレ マッスグ イ
ツク キタノ ホーニ イツク トコロダ ミョーグイジバンデスヨ
- 090 F16M②③ ヒダリガワカ ミキガノ カドオ マカッテ マ
ッスグ イクト ハシガ アリマスカラ ワカリマス
- 091 M61L②④ アノ ハシガ ミョーグイジバンデ アリマス
- 092 F17M②④ コノ ミチオ マッスグ イツテ クダサイ
- 093 F69L③⑤ ソコニ ミエル アノ ハシオ イキヤー イー
ン
- 095 F18L②④ コノ ニンゲンジヤ ナイカラ ワカラナイカラ
ホカノ ヒトニ キイテ クダサイ
- 096 M28L②④ アソコニ ミエル ハシガ ミョーグイジバンデス
- 097 M39M②④ スグ ソコニ ミエマス
- 098 F37L②③ コノ イカレト コーエー トコニ シンゴ
ーガ アリマスカラ ヲカサ モー スコシ イツテ…
- 099 M46L②③ コノ マッスグ イツテ ヒヤクメーターグライ
イツク トコロノ バンデス
- 100 M16M②③ ソコノ ドーロオ マッスグ イツク トコロニ
カドニ バチンカガ アリマスカラ ソコオ マッスグ イキマス
ト
- 101 M33M②③ ショーメンノ ミチオ マッスグ マエニ イキマ
スト ソーヂスネ ヒヤクメーターホドデ ソノ ハシニ イキアツリマ
ス
- 102 F16M③⑤ マッスグ イカバ イケル
- 104 M27M②③ ヒガシオカサキノ マエ デテ イタダクト ス
グ シンゴーキガ アリマセンデネ アソコニ マツサカッテ ユー
オニカヤサシガ アリマシテ ソコノ カドノ トコロ スツト マッ
スグ イツテ イタダケバ ドー センヂモ ハシガ アル…
- 105 F30L②④ イキマエカラ マッスグデス
- 107 F18M②③ コノカラ マッスグ イツク トコロニ イカバ
スグ ミツカレト オモイマスガ モシ ワカラナレバ マタ ソコデ
ヒトニ オクサネ クダサイ
- 108 M25M②④ コノ ミチオ マエノ ミチオ マッスグ イカバ
イーデスヨ
- 110 F15L③⑤ コノ ミチオ マッスグ イクト カワガ アツテ

- ソコニ ハシガ カカッテイワカラ ソノ ハシノ トコロニ ナマエ
ガ カイテアル…
- 111 M34H②③ マッスグ コジューメートルクライ イキマス
ト
ハシガ ミエマス
- 113 M28M②② ソノ マエオ トーロオ ヒダリエ マッスグ イ
ツテ ソーシルト コーサテンガ アリマスカラ ソノ コーサテンオ
ミキエ マガリマスト、マカッテ ヒヤクメートルクライ イキマス
ト
ミョーグイジバンデ アリマス
- 118 M26M②③ コノオ マッスグ イツテ ハシガ アリマスカラ
スグ ソコデス
- 117 F31L②② ヒガシオカサキオ マエニシテ スーツト ミナミ
オ ムカッテイカレルト ヲモエジノ シンゴーニ テックウリマスカラ
ソコカラ マタ コノエ ムカッテイカレマス ト ミョーグイジバン
デスニ、ミエマスカ
- 120 M59L②③ イキノ トウカラ ヒダリエ マカッテネ ヒダリ
オ トツテ ヒダリエ スツト デテ ヲルテ ハジメテノ コーサテン
ノ トコオ キクエ イツテ ハシノ アル トコロデスネ、ハシノ ア
ル トコロヲ チョーフ ミョーグイジノ ハシニ ナルデスネ
- 122 M56M②② コレカラ センホー ミナミニ アツリマスカラ ヤ
ク コジューメートルホド イキマス ト ソコニ スゴーカワト ユー
カワガ アリマス ソノ カワニ カカッテイワル ハシオ ミョーグイ
ジバンデ イーマス
- 123 F18M②③ コノ マッスグ イクト ハシガ ミエマスカラ
アソコデス
- 125 M25H②③ コノ トーロオ オチン シテ ソコニ シンゴ
ーガ アリマスカラ ソノ シンゴーオ マッスグ イカバ ハシデスヨ
- 126 M24L③⑤ スグ マエダヨ アノ ハシガ ホーダヨ
- 127 M28M②④ スグ アッコノ ハシガ ミョーグイジバンデス
- 128 F25M①① コノ ミチ マッスグ イカレルト ハシガ コシ
イヌ ソコガ ミョーグイバンデス
- 129 M22M②③ コノオ オリテ、イキオ オリマシカラ スグ マ
ッスグ アルカレマス ト スグ ハシガ アリマスカラ ソノ ハシガ
ミョーグイジバンデト…
- 130 F36L②④ コノ マッスグ イカバ イーデスヨ
- 132 F65L②④ コノオ スーツト イツク トコロノ コノ ハシ
デス
- 134 M73L②③ イキオ デテ マッスグ スーツト キタノ ホー
ニ ムカッテ ヲルテ イキヤ テレマス
- 135 F38L②④ コノ オーダクホドオ リタツテ アソコニ ハ
シガ ミエマスカ
- 137 F57L②③ アソコニ クカイ クチモガ ミエテオリマスカ
ラ ソノ テツキガ シミンビョーインデス
- 138 F37L②④ チョクシンデ イツテ クダサイ
- 139 M71L③⑤ コレ マッスグニ イツテ ヒヤクメーターモ イ
カバ ミョーグイバンデ ナル

- 140 F74L③⑤ コ スット イッテ… マッスグ イッテ コ
-
- 141 M22M②② アノ イキノ マノ ミチオ マッスグニ イッ
テ イタヂキマスト ヲルガ ミョーザイジバシヂス
- 143 M53H②④ キタ ヒヤクメートルグライ マッスグノ アノ
ハシガ ソーヂス
- 144 M17M②④ コノ ミチオ マッスグ イツカラ イケマス
- 146 F35M②④ ココカラ スグ マッスグ イッタ トコロヂス
- 147 F30M③⑤ ヒガシエ マカッテ マッスグ イッテ コーザ
ンカラ マッスグ イクト ミョーザイジバシ
- 149 F40L②④ スグ ソコヂス
- 150 F87L③⑤ マッスグニ ヒジリナラ ヒジリ ミキナラ ミキ
マカト ミョーザイジバシ
- 151 M88L②② イキノ マエオ オーローニ ナラレテ ホイカラ
チカドオ クグツテ チカラ イッショクセンニ イケバ ミョーダ
イジバシト ユー コトニ ナル ワケヂス
- 152 M28M③⑤ テグチチ テレバ コノ ショーメン
- 153 M32M③⑤ イキ オリカラ マッスグ ニシニ ムカッテ ウ
キヤクノ コーザテンオ ミギニ マカッテ ヘンメーカグライ イ
ッタ トコロノ ハシヂネ
- 155 F47L②④ マッスグ イッテ クダサイ
- 156 F73L②② ソノ ハシエ ココカラ フツチイ オイキマス
ミョーザイジバシニ ナリマス
- 158 M25L②④ キタ マッスグ イケバ イケマス
- 159 F20L②③ マッスグ ニヒヤクメートルグライ イッテ モ
イレバ ワカルト オモイマス
- 161 F61L③⑤ ヒジリ イッテ ミキ イク
- 162 F20H②② イキオ テカラ ヒジリガクイ マッスグ イケマ
スト オーキナ トーロニ ツキヤクマスカラ ソノ ドーロニ ヲツ
テ キナノ ホーコーエ スミマスト スグ マエニ トノバシガ ミ
エマス
- 164 M42L②④ コジューメートルグライ イツク トコロヂス
- 165 M16M②④ コー イッテ マク コツチ イケバ イケマス
- 168 F62L②③ ミエリマス コノ マッスグノ トコロ イッ
テ イタヂイタラ イト オモイマス
- 171 F23L②③ ヨツメノ コーザテンオ ヒジリエ ハイッテ
マッスグ イッテ モラウト アリマスゲドネー
- 173 F44L③⑤ ショーメンガソノオ テア イキノ ショーメン
オ テア キクニ ムカッテ マッスグ イケルト メノマエニ ミ
エラケ
- 174 F61L②③ コノ マッスグ イキナサツテ ハシガ アリマス
カラ ヲルガ ミョーザイジバシヂス
- 176 M21L③⑤ アツチ スート イツク ホー
- 177 F24M②③ コノ マノ ミチオネ マッスグ イクト ヲコ
ニ ハシガ アリマスネ ヲコガ ミョーザイジバシヂスカド

- 179 F74L③⑤ コノ チカク ナイヂス コノ チカクニバ
スノ トマル トコロ イキノオナ トコロ ナイ
- 180 M45L②② コノ イチカラ マッスグ イケルマシテ ヒヤク
メートルホド イキマスチスネ ハシガ アリマス ヲルガ ミョーダ
イジバシヂス
- 182 F32M②② ソノマ イキオ マッスグ イケルマスト サイ
ショノ ハシガ ミョーザイジバシヂス
- 183 F23M②④ ココオ マッスグ イツク スグニ アル ハシガ
ミョーザイジノ ハシヂス
- 184 F49M②③ コノ マッスグ イケルタ トコロニ アリマス
- 185 F32M②② コノ マノ ミチオ マッスグニ イケルマシ
テ サイショノ ハシガ ミョーザイジバシヂスカド
- 186 F33M②③ スグ ミエテマスカラネ コノ マッスグ イッ
テ クダサイ アノ ハシガ ミョーザイジバシヂス
- 188 M85L③⑤ ホーコーウ キタ
- 189 F26L NR
- 191 M25L②② アー ココオ マッスグ イッテ イタヂイタラ
ミョーザイジバシニ ナリマス
- 192 F16M③⑤ イキノ マノ シンゴーオ ワクツテ バシコ
ヤシノ トコロカラ、マッスグ スーツ イツク トコ
- 194 F20M②② スグ コチヲノ マッスグ イケルマシテ ハシガ
ショード アリマスカラネ ソチヲガ ミョーザイジバシニ ナリマス
ケド
- 195 M44M②③ ミツメノ シンゴーオ ミギニ マカッテ ヲル
カラ マク ヒツメノ シンゴーオ トーロコト ミョーザイジバシ
ガ アリマス
- 197 M72L NR
- 198 F15M②③ チカノ カイヂツガ アツテ ソコオ、ヒジリニ
チル… スット ハイッテイッテ ヒジリニ チルト… ソコオ マ
ッスグ イケバ スグ ソノ メーザイバシニ テマス
- 199 F40M②③ ハジメテヂスガ コノ ミチオ マー マッスグ
ニ イケバ ソーヂス
- 200 F18M②③ コノ シンゴー マッスグ イキマス スグ ア
リマスゲドネ
- 201 M29M③⑤ イキニ タツテ マッショーメン
- 202 F70L①① ミョーザイバシ スーツ イキマス マッショ
ーメン マッスグ イキマス
- 203 F49L②③ ショーメンオ ヒヤクメートルグライ イツク ト
コニ ミョーザイバシガ アリマス
- 204 M60L②④ アルガ ミョーザイバシヂス
- 205 F65L①① ココオ マッスグ イラシテ… ナニナノ ミ
チオ コシテ マッスグ イラシケルト ハシガ コシマス
- 206 M64L②② アー ミョーザイバシヂスカ ミョーザイバシナ
ラ ココオ マッスグ イクト ジキニ ヲツミニ テマスチ ソノ
ツミガ カカニ ナツリマスチ ソノ カカニ カカトル ハシガ

- ミョーザイバシデス
 207 F49M②④ アー ココカラ ミエヌカヲ
 209 F15L③⑤ チョット ワカチナケド
 210 F23L NR
 212 F23H②② エキオ デマシテ、ミチガ サンボシニ ワカレテ
 イルシケド ショーメンノ ミチオ、マッスガ サンビヤクメートルホ
 ド イッテ クダサレバ ワカリヌス
 219 F31L②③ ココオ マッスガ イッテ クダサイ ソシカラ
 ハシガ ワカリヌスカヲ
 215 M41L③⑤ ソコノ ミチ マッスガ イツク トコヲ
 216 F26M③⑤ チョット ワカシテ ワカラナイ
 218 F58L②③ ココオ マッスガ イカレルト ハシガ アリヌス
 ヲルガ ミョーザイバシデス
 219 M49L③⑤ コレオ トニコカ マッスガ イケバ スガ ハシ
 ガ アルテ ソコガ ミョーザイバシ
 220 M41M②② エキノ マッスガノ ミチオ キタニ イッテ イ
 タダクト ヤク ヒヤクメーターグライ アルイテ イタダクト ミョー
 ザイバシガ アリヌス
 221 M56M②② エキオ オオリニ ナリヌシカラネ マス シンゴ
 ーオ トーリスガマシテ、ソコ マッスガ マエニ ムカッテ ヤク ヒ
 ヤクニジュー ナイシ ヒヤクサンジューメートル オイキタ トニコ
 カカットル ハシデス
 222 F26L②④ アスコノ ハシガ ソーデスカド
 223 F63L②③ ヒガシオカサキノ イキカラ マッスガ オイキマ
 スト アリヌス
 224 M21L②④ コノ ミチオ スート イケバ ミエヌスカヲ
 227 F28M②④ マッスガ サンジューメートルグライ イツク ト
 コロニ アリヌスヨ
 230 F37H②④ マッスガニ アルイテ コビヤクメートルグライ
 イクト アノ ハシデス
 231 M23H②④ マッスガ イツカラ ソーダネ コロツヒヤクメー
 トル イクト ショーメンノ ハシガ ミョーザイバシデス
 233 F25L②③ マッショーメンデスカヲ アスコガ ミョーザイ
 バシデス
 236 M33M②③;アナガ イマ イラツシヤル トコロカラ キタ
 イ ムカッテ ツキアツクテ スガ ソコガ ミョーザイバシデス
 237 M38M②③ エキノ、スガ、ショーメンニ シンゴガ アリヌ
 スケドモ、ソノカラ コジューメーターホド、ショーメンカラ ハシレタ
 ムコガワニ、ミョーザイバシガ アリヌス
 240 M20M②③ ショーメンニ アル ミチイ ソノママ マッスガ
 イケバ サイショノ ハシガ ヲルデス
 242 M31M②② ミョーザイバシノ イキカラ ミエヌスデスカガ、エ
 キカラ マッスガ ヒヤクメーターグライ イツク トコロノ ハシデス
 243 M63L②④ コノ ミチオ マッスガ イッテ ハシガ アルカ
 ラ ヲルガ ミョーザイバシデス
 245 M52L②③ コノ ヒヤクメートルホカ キタイ イクト ハシ
 ガ アリヌス ソコガ ミョーザイバシデス
 246 M23M②④ ソコノ ミチ マッスガ イッテ スガデス
 248 M56L②④ マッスガ イケバ スガ ミョーザイバシデス
 249 F42H②④ スガ マエノ ミチガ、ミョーザイバシニ ナリヌ
 スカラ
 250 M22H②③ エキノ ショーメンカラ キタニ ムカッテ マッ
 スガ ヒヤクメートルホド イケバ、ミョーザイバシニ デマス
 251 F36M②② マッスガ イッテ イタダイカラ ハシガ アリヌ
 スケドネ、ソノ ハシガ ミョーザイバシツツ ユーデスカド
 252 F26M②④ スガ マエニ アルデスカドネ、ミエトルホネ
 254 F32L②④ エキノ マエカラ マッスガ イツクネ、ホシテ
 ミキノ ホーニ イキヌス
 256 M24H②③ コノ マエノ ミチオデスカネ、マッスガ イカレル
 ト シメント ワカリヌスケドネ
 258 M34M②④ ハイ ソコデス
 260 F33M②③ アツラデスカネ、アノ ハシガ ソーデス
 261 M42L③⑤ マッスガ コレオ
 262 F47M②③ マッスガニ イカレカラ メノマエニ ミエトル
 ハシデス
 265 M24M②④ ソコニ ミルハ ハシガ ミョーザイバシデス
 266 F22M②④ ソコデス
 267 M39M②④ アスコデス
 269 M59L②④ アスコデス
 270 F28H②② エキ オデシ ナラレテ ショーメンノ ミチオ
 マッスガ イラツシヤツカラ スガノ ハシガ ソーデス
 271 M32L②④ エキノ マエデス
 272 F38M②③ アスコニ ミエデスカ ハシガ ミョーザイバシ
 デス
 273 F27H②③ コノ イキカラ マッスガ カワノ マエデ イ
 ッテ テ ソノ テーホーニ ソツテ スーット ヒザリニ イッテ イ
 チバシメノ ハシデスカド
 275 F50L②③ ミチガニ ナンメートル イケバ ハシガ アリヌ
 スデ、ソコニ イッテ クダサイ
 276 F22L②④ コノ マッスガ イッテ クダサイ
 278 M41L③⑤ ソノ ハシガヨ
 279 F60L②④ コノ ミチオ マッスガニ ニヒヤクメートルグ
 ライ イクト ミョーザイバシニ ナリヌス
 281 F38H②③ コノ ヒロイ トーリオ マッスガ イラシテ
 284 F33M②② エキオ セニ サレマシテネ、エキノ ショーメン
 オ マッスガ キタイ イッテ イタダイカラ、ハシガ アリヌスカラネ
 ヨウ ワカルト オモイヌス
 285 M66M②② エキノ、コノ マエオ スット オートリン ナツ
 テ マッスガ オイケン ナリヌスト、アソコニ スガ ミエトルホガ
 ミョーザイバシデス

- 287 F23H②② ヲニ ミエヌ チカド-オ ワクツテ、ホイテ
マツグ イカレカラ、ミョ-グイバシニ テラレルト オモイヌ
- 288 M47H②② イキノ マエオ マツグ イツテ クダシイ。ソ
-シマスト ヒヤクメ-トルグライ サキニ ハシガ アリヌ。ソレガ
ミョ-グイバシデス
- 290 F41H②② マツグニ オイキニ ナレバ ヨロシイト オモ
イヌガ
- 291 F24H①① コノ イキノ マエニ マツグナ ミチガ コシ
イヌネ ソコオ マツグ イクト ミョ-グイバシニ ナルンゾヤ
ナカト オモイヌ
- 292 F21H②④ イキノ マエノ ミチオ マツグニ ヒヤクメ-
トルバカリ イツテ クダシイ
- 293 F22H②④ ソコデス
- 294 F19H②③ コノ マツグニ イカレカラ クソノ アルト
オモイヌガ
- 296 M33L②③ マツグ イツテ、シソコ-オ ヒダリエ オレヌ
シテ、ミキエ ヤク コヒヤクメ-トルグライデス
- 297 F48L②② マツグ ヒダリエ オイキン ナリマシテ、ヒダ
リカラ コ-サソエニ ミキエ マカラレルト ミョ-グイバシニ テ
マス
- 299 M35H②② ショ-メンデスカラ コジュー-メ-トルグライ マ
ツグ イツテ イタダキレバ スグ カワノ トコロニ テマスカラ
- 300 F46L②③ ヒガシオカサキノ イキノ マツグ ス-ツト
イキヌスト ミョ-グイバシニ テマス
- 302 F58L③⑤ マツグ スツトネ マツグ キクノ ホ-イ
イツカラ イト オモク
- 303 F55L②③ スコシ キクノ ホ-イ イキヌスト ジキニ ソ
コトコ アリヌ
- 305 M33H②② ヒガシオカサキノ テマシテ イキノ ショ-メン
ニ ムカッテ ヒダリノ ホ-ニ シバラク イツテ イタダキヌスト
ヤガテ ミエル ハシガ ミョ-グイバシデス
- 306 F37M②④ ソコ、スグ ソコデス
- 308 M19M②④ マツグニ イツカラ アリヌ
- 309 F25H②④ イキカラ マツグ イツタ トコロ アリヌ
- 311 F24M②④ ウソノ ト-デス
- 312 M33L②④ ミキニ スツト コジュー-メ-ターグライデ
メ-タイバシニ テルンゾヤ ナイデスカ
- 314 M34M②④ ミョ-グイバシノ ソコノ ミエル トコロガ
ソ-デスガ
- 315 F30M②④ コノ マツグ イカレルト イ-デス
- 317 F48L②③ ヒガシニ ムカッテ マツグ ニソソソノ イ
ト ハシガ アリヌスカラ ソコガ ミョ-グイバシデス
- 318 F60M②② イキノ マツグ マエオ キクニ イツテ イ
タダテ コジュー-メ-トルグライ イキヌスト ハシガ アリヌスト ソ
レガ ミョ-グイバシデス

- 320 F17L②③ コノ ミチオ マツグ イカレテ シソコノ
トコロ ミキニ マカッテ クダシイ
- 321 M33M②④ アソコガ ミョ-グイバシデス
- 323 F21M②④ コノカラ マツグ-メンニ マツグニ イツテ
クダシイ
- 324 F23M②④ イキノ スグ マエノ ハシデス
- 326 M27H②④ マツグ イツテ スグノ トコロガ ハシデス
- 327 F23L②② イキオ オリラレテ ヒダリノ ミチオ マツグ
イツテ イタダキマシテ、テ、ハジメノ マツグ イツテ シソコ-
マデ ソユ-ジロノ ハスド-ソマデ テテ テタ トコロオ ミキエ
マカッテ マツグ イキヌスト-ハシニ プツカリヌ
- 329 M44M②③ イキマエオ テマシテ キクニ ムカッテ ヒヤク
コジュー-メ-トルグ-ド イクト ミョ-グイバシニ テル コトガ
チキマス
- 330 M75L②② シマシカラネ ミョ-グイバシト オツシヤイマ
スナラ コレオ ミキ ヒダリデ イツタ ホ-ガ イト オモイヌ
チ ムコ-カテ ミエカラ コレオ マツグニ オイデニ ナツテ ミ
キエ オマカニ ナルト ミョ-グイバシニ イケヌ
- 331 F57L②④ コノ マツグ イケル ハシノ ウエニ テマ
ス
- 332 M29H①① ヒガシオカサキノ チョ-ド オリヌスト シソコ
-ホ-コ- マツグニ ヒロイ ミチガ コシイヌノソ トコロ ヒ
ヤクメ-トルグライ イツテ イタダキヌスト ハシガ コシイヌ
- 333 M40L②④ コレカラ ヤク ヒヤクコジュー-メ-ターグライ
マツグノ ホ-コ-ニ ムカッテイケル ハシガ アリヌ
- 334 F67L②③ ミユ-グイバシノコノ コノカラネ ス-ツト ヒ
ガシノ コノ ミチオ イカレヌスト ド- レンヂニ ハシノ トコロ
デス
- 335 F27M②③ アノ ミチオ マツグ イツテ クダシイ ニジ
ュー-メ-ター-クライ イキヌスト ソレガ ミョ-グイバシデス
- 337 M51L②④ コノ マツグ イツテ スグ ソコデス
- 338 F40L②④ ヒガシオカサキノ テテ マツグデス
- 339 M74L②④ マツグニ イカレルト ミョ-グイバシガ ア
ルノチ...
- 341 F15L②④ コノ ミチオ マツグ イケル イケヌ
- 342 M35M②④ コノカラ マツグ イツテ クダシイ
- 345 M26L②④ イキマエオ マツグ ヒヤクメ-トルグライ イ
ツテ モロエバ ミョ-グイバシガ アリヌスカラネ
- 347 F62M②④ ミョ-グイバシノ ソコニ ミエテイマスカラ
ド-ソ
- 348 M19M②③ ソコノ シソコ-オ ミキニ マカッテ ヒヤクメ
-ター-グライ イクト、ソノ ハシニ イキヌ
- 350 F37M②② ヒダリノ ホ-イ イツテ イタダテ ヨソモジ
ガ アリヌテシヨ-ソレオ リツキョ-オ ワクツテ イタダテキ
ヌスト ソノ マツグ トノバシニ イケルト オモイヌ

- 351 F49L②④ エキカワ ヒダリノ ホーエ イカレタラ イー
 353 F22L②③ ヒヤクメートル サキニ ハシガ アリマスカラ
 ソコ マガッテ クダサイ
 354 F31M②③ エキノ マエオ スダ ヒダリエ マガッテ、ウギ
 ノ シンゴーオ ミギエ マガッテ マツスダ イカレルト ウギノ ハ
 シガ ソーデス
 355 M37M②④ コノ ミチ マツスダ イッテ スダ ソコニ ミ
 エル ハシデス
 356 M31H②④ イキオ オリテ ショーメンノ ミチオ マツスダ
 ニ イクト ジキ チカケデス
 357 F23L②④ マツスダ イケバ スダ ウキアタリデスカド
 358 M34L②③ エキカワ ショーメン ムイテ ソコニ ミエル
 ハシガ ミョーダイジバンデスカド
 359 F45H②③ コノ カイサツ デラレテ マツスダ ミエテル
 アスコガ ソーデス
 360 F74L②④ コーユー フーノ ミチオ、コーユー フーニ イ
 ケバ、イケマスヨ
 361 F68L②③ イキー ヲルカラ オリテ ニシイ サンチョーグ
 ライ イキマスカネ。ヨルカラ キタエ スート イキマスト サイガ
 トノバシ デライルデスカドネー
 362 M32L②④ ヒヤクメートルダライ サキノ アノ ハシガ ソ
 ーデス
 363 M54L②③ コレカラ マツスダ イカレタラ ドー センデモ
 ワカリマス
 365 F55H②③ ヒガシイ イキマシタラ ミギイ マガリマシテ
 ニチョーグライ イツタ トコデス
 366 F61L①① イキカネレ ヒロイ マツスダニ ミチオ ヒヤク
 メーカーグライ キタデ コシイマス
 367 M42L③⑤ コノ ミチオ マツスダ ニヒヤクメートルダライ
 イツタ トコロノ ハシガ ミョーダイジバンデ
 368 M47M②③ イキニ オリタラ マツスダ キタニ ムカッテ
 モラッテ イケバ ミョーダイジバンニ デマスネー
 369 F47L②④ イキノ ヒヤクメートルホド マンマエデス
 374 F23M②③ マツスダ イカレタラ ミョーダイジノ ハシガ
 アリマスケド
 375 F21L②② リッキョーガ アリマスネ ソコニ リッキョーガ
 アルデショー アソコガ ヨクカドニ ナッテイマスネ アソコノ ヨ
 ヲカドノ チョット イツタ トコロニ アリマス
 377 F28M②④ ココオ マツスダ イケバ ワカリマス
 378 F56M②② エキカワ マツスダニ スーット イッテ、シマス
 ト スダト ハシガ アリマスカラ ヲルガ ミョーダイジバンデス
 379 M32H②③ マツスダ イクト サイショニ ハシガ アリマス
 カラ ソノ ハシデス
 380 F75L②④ イキカワ マツスダ イケバ アレガ ミョーダイ
 バシデス

- 383 M55L②② コノ イチゴーセンオ ソツテネ マス イチゴー
 セント ユー トーリ、ヨルカラ ソレニ ソツテ シバクカ シテ ヒ
 ガシエ イキマシテ ヤク コジユメーカーグライ イッテ シタニ
 オリル ミチニ ソツテ イクト アリマス… ヒダリガノ ホーニ
 マツサカヤガ アリマス
 384 F22M②③ イキオ デラレテ、マツスダ イケバ、ハシニ テ
 マス
 387 F54L②④ マツスダ イッテ、ソコニワ オーキナ ハシガ
 アル。ヨルガ ミョーダイジバンデス
 389 F28L②④ マツスダ イッテ ハシガ アリマス
 390 F78L②④ コノ バスガ テル コノ ドーロオ スート イ
 ヲツ ウキアタルト ソースルト ミギニ マガル ミチガ アル ソレ
 デネー アチチエ イッテネ ソシテ サンチョーバカリ イクト トノ
 バシデスカ
 392 F69M②② ソレデウ イキ オリマシテネ、オリテ ニシエ
 イキマシテ、ソシテ キタエ イクンデスネ、ジューゾロガ アリマシテ
 ネ、ソコオ キタエ イクンデスネ、キタエ ソースト マツスダガト
 ノバシナンデスカ
 393 F23H②③ マツスダ イッテ ミエマスネー アスコ ミエル
 ハシデスカド
 395 F38L②② ヒガシオカサキカラ アノ マツスダノ ミチオ
 キタエ イラツチャルト シメント ソノ ハシニ デマス
 396 M65M①① コノ マエオ ヤク イツチョーバカリ イカレマ
 スレバ ミョーダイジバンガ コシイマスデ…
 397 M16L②④ ココオ マツスダ イツタラ ミョーダイジバンデス
 399 F21M②③ スーット イキ ココカラ マツスダ イツタ トコ
 ロノ ヒトノメノ ハシガ ミョーダイジバンデス
 401 F66L②④ コツカラ コー イッテネ ソシテ ソコガ ソー
 デスカ
 402 F62M②④ コノ マツスダノ ハシガ ソーデスカ
 404 F47M②③ ミョーダイジバンデスカ。ミョーダイジバンデシタ
 ラネ。エキカワ マツスダニ アノ ヒロイ トーロオ イケバネー。
 マツスダニ イッテ ミギイ マガッテ スコシ イクト スダ ミョー
 ダイジバンニ ナリマスケドネー
 407 F21M②④ アソコデス
 410 M22H②② ヒガシオカサキノ マエニ マツスダ ミチガ、ア
 リマスカラ、ソノ ミチオ ヒヤクメートルダライ イカレタ トコロノ
 バシデス
 411 M16M②④ シンゴーガ アルカラ ヲルガ コートククシー
 ノ テル シンゴーカラ マツスダ ムカッテ ヒヤクメートルダライノ
 トコロニ アリマスカラ
 413 F55L②④ コノ マツスダガ ミョーダイジバンデスカド
 414 M45L②② コノ イキカワ ヤク ニヒヤクメートルダライ
 マツスダ スンデ イタタク トコロガ ミョーダイジバンデス
 417 M49L③⑤ ミョーダイジバンガ コチラ

- 418 F28M②② ニシノ ホーエネ、ゴヒヤクメートルグライ イカ
レク トコロテスケド。コノ ミチオ マッスガネ、ユー イッテ ゴヒ
ヤクメートルグライデ サイショニ ミツカレ ハシガ ソーヂス
- 419 F34M②② マッスグ イッテ イタダキマスト シンゴーガ
アリマスカラ、ソレオ マッスグニ イッテ イタダキマス。ソーヂスネ
ー。ヒヤクメートルカ ニヒヤクメートルグライノ トコロニ アリマ
ス
- 420 F33L③⑤ ソコ マッスグ イカバ ドー センヂモ 形ヨ
- 423 F65L②③ マノ ミチオネ、スット ニシノ オイキマテ、
ソシテ シンゴーガ アリマスネ。シンゴーカデ キタエ ムカッテイ
テスネ
- 426 F33L②③ コノオ マッスグ キタエ イッテ ヒヤクメー
トルカ ニヒヤクメートルグライ アリマスカラ、イウツラ スグデス
- 428 F22H②③ イキノ マニ デッ ヒダリテノ ホーオ マ
スグ イクト ゴヒヤクメートルグライ イッテ シンゴーガ アルノデ
ソコオ ミギニ マタ マッスグ イッテ イチキログライ イクト
アリマス
- 429 M42L③⑤ マッスグ キタエ ニヒヤクメートルグライ イ
ツク トコロニ カワガ アル。ソノ ハシダ
- 431 F25H②② コノ イキノ マノ トーロイ スット イキマ
スト シンゴーガ アリマスカラ ソコオ ヒダリニ マガリマスト コ
ジューメーカーグライ シタ トコロニ ハシガ アリマス。ソコガト オ
モイマス
- 432 M35M②④ コノオ マッスグ イツク トコロガ ミョーヂイ
ジバシデス
- 434 F25L②③ コノカラ マッスグ イッテネ、コーサテンガ ア
ルカラ ソコカラ ミギニ マガッテイクト ハシガ ミエマス
- 435 F19H②② イマ コノカラネ ヒダリカワノ ミチニ ソツテ
アルイテ イタダイテ、ソイデ、スグ ソコニ アタラシイ メーヂシ
ヨツガ タツテマスカラネ、ソコオ スット ミギニ オリテ イタダ
イテ、アルイテキマスト、トノバシガ アリマス
- 436 F69L③⑤ マッスグデス
- 438 F34L②③ オタツコ コノ イキカラネ、マッショーヌノ ミ
ラレテ、ソスト、アスコ マツノ オキイノガ タツテマスカラ、ソコエ
ソーヂスネ、サンビヤクメートルグライ イカレタラネ、ソコガ ミョ
ーヂイジバシデ ソコカラ サキ、オタツコ イキサキキ、ドコカ シラ
ナイクドネ、モクテキ アル ウケテショー、ハシマテ イク ウケ。ア、
ソー ソシタラ アソコ、マッスグデモンネ
- 439 M20M②④ ミギノ チカドーオ ヲツテ ヒダリカワカラ
チカドーオ デッ デッ トコロカラ コジューメーカーグライ イ
ツク トコロガ ミョーヂイジバシデスヨ
- 440 F74L②③ イキカラ ジキデスカラネ、ヤク マー ヒヤクメ
ートルグライ イキマシタラ、イキ マッスグデスネ。ミョーヂイジバシ
ワ
- 441 F31L②② ミギナラ ミギニ マガッテネ、イキカラ ヒダリ
ナラ ヒダリニ オリマシテ、サンジューメーカーナラ サンジューメー

- トル イキマスト ムカシノ デンシヤミチチエノガ アリマスカラネ、
トーロガ ソノ トーリ ミギニ オレテイカレルトネ コーユー モノ
ガ アリマサデ ソコオ チューシニコ イカレルト ワカリマスコ
- 443 M18L②③ マス ヒガシオカサキ テルネ、デッ ソルデ マ
ス スート イクト ココニ シンゴーガ アルンデスガネ、ヨツカドデ
スカ、ヨツカドデモツテ ソツオオ ミギニ マワルデスネ、ミギニ ス
ート マワツテクト ハシガ アルンデスネ、ハシガ。ソコエ イッテ
スグ、ウルト トノバシノ、アルガ デッキョーガ アルンデス
- 444 F22M②② コノ ユキオ ミギノ ホーニ イキマシテ ソル
デ シンゴー アリマスカラ ヒダリノ ホーニ イッテ テー リツキ
ョーガ アリマス。ソノノ トコニ ミツツウジニ ナツテマスカラ ヒ
ダリカワノ ミチオ ウタルカ ウケラナクノ ヒダリニ アリマス
- 447 F20H②④ イキカラ マッスグ イッテ スグ ソコデス
- 449 M49M②④ イキカラ マッスグ イツク トコロニ ハシガ
アル、ソレデス
- 450 F19M NR
- 452 M59L②② コノオ マッスグ イカレテ ソルカデ ヒダリエ
マッスグ イカレテ カワエ デマスカラ カワノ トコロノ テーホ
ーカラ ヒダリエ イキマスト ハシガ アリマス。ソノガ ミョーヂイ
ジバシデス
- 453 F15M②③ ソコノ オーフォーオ デッ ミギニ マガッテ
ニヒヤクメートルグライ イツク トコロニ アリマス
- 454 M19M②③ コノカラ ニサンビヤクメートル アルイテ モテ
エルト、ドーシテ ソノ ハシニ ユキマシタラ ウカルト オモイマ
スケドモ
- 455 F34M②④ ソコオ マッスグ イッテ カワガ アルカラ ソ
ノ カワノ トコロニ カガツテイル ハシガ ミョーヂイジバシデスカ
ド
- 456 F16M②③ ヒガシオカサキノ チカガ アルテショー。チカオ
トオツテ ソノ マッスグ イクト ヒガシオカサキノ ショーシヤ
ショーガ アルテショー。デッ ソコオ モー スコシ イクト ソコニ
アリマス
- 458 M31L③⑤ イキノ マノオ スート ヒダリエ イッテ ソル
カラ サイショノ シンゴーオ ミギニ マガル。ソコニ ハシガ アル。
ソコガ トノバシ、ト ムー コトダヨネ
- 459 F17M②③ コノ フトイ ミチオ スット ニシノ ホーニ
イッテ ソーヌルト、コーサテンガ イッテ、ソノノ コーサテンカラ
スグ キタエ イクト、スグ ミエマス
- 462 M23M②④ コノ ミチ マッスグ イツカラ スグ ハシガ
アルカラ ソノ ハシガ ソーヂスネ
- 463 M58M②② コノオ マッスグ オイキニ ナリマスト サイ
ショニ ハシガ アリマス。ソノガ ミョーヂイジバシデス。ソコカラ ムコ
ーエ イカレルト コクドニ デマス
- 464 M74L③⑤ マッスグニ アノ カミ、ノホリダネ、ソシテ ミ
ョーヂイジバシデス

- 466 F32M②④ ココ マスガ イツ トコロノ アノ ハシヂ
ス
- 467 F61M①① コノ トーロオ チカニ オリテ ヲルカラ ムコ
ーガニ ワカッテ マスガニ ワタツタ トコロ ウエニ トーロニ
アガリマシテネ、マスガニ ソーヂスネ、シェーメーカーカ シュー
メーカーグライ イツタ トコロ コザイマス
- 468 M36L②④ スガ ソコヂスヨ
- 470 M38H②② イキニ オリテオウツテスネ。ヒダリガワエ イッ
テヂスネ。ハジメテノ シンゴーオ ミキエ マガッテ イダダキマス。
ソーラスト スゴワカッテ ユー カワガ アルンヂスゲド、ソコニ
カカッテイル オーキナ ハシガ ミョーダイジバンヂス
- 471 F32L②③ マスガヂス。アノ ミユル ハシヂス。ココ マ
スガ イクト ハシガ アルカラ ソノ ハシガ ミョーダイジバンヂ
ス
- 473 M19M②③ ヒガシオカガキオ テテヂスネ、ヒダリニ イッテ
ヒダリ トノクライナチ、アレ、トノクライカ イツタ トコロニ ホ
トーキョーガ、ヨソカシヨ アルンヂスネ、ホトーキョーノ ヨソカシヨ
アル トコロオ、コソドワ ミキニ マガッテイツタ トコロガ ミョ
ーダイジバンヂス
- 474 M20M②③ イキカラ コー ミナミノ ホーニ マスガ イ
ツテ ミキニ マガッテ スコシ イツタ トコロヂス
- 476 M19M②③ ココオ マスガ イクト、ホトーキョーガ アリ、
ソコオ ミキニ マガッテ マスガ イクト アリマス
- 477 M25H②③ アソコニ シロガ タツテルデシヨ。アソコガ
ホカガキコエンヂス
- 479 M15L②③ コーヒーノ ヲウカドノ ミチオ ミナミニ ムカ
ウト スゴーガワガ アツテ ソレニ ソノ ハシヂス
- 480 M16M②③ ヒダリニ マガッテ ソーラスト スガ ヒダリテ
ニ シンゴーキガ アツテ ソコーオ ミキニ マガッテ モラッテ チ
マスガ イツタ トコロニ ミョーダイジト ユー テーリュエーゾガ
アツテ ソノ チョト ムコーガワノ オーキイ ハシヂス
- 481 F63L③⑤ イキカラ テテ、コウチエ バスドーリオ テチャ
ツテ マスガ イクト アル トバシニ ナルモンネ
- 482 M29M②③ コノ トーロオヂスネ ヒダリニ マガッテ スガ
シンゴーガ アリマスカラネ、ソノ シンゴーオ ミキニ マガッテ
クダサイ。ソシテ ヤク ニヒヤクメートルホト イキマス トバシ
ヂス
- 483 M34H②③ イキノ マエノ ミチオ マスガスガ ヒダリテノ
ホーエ イツテ モライマス、ソレカラ ヒトノメノ シンゴーオ ミ
キガワエ イツテ モライマス、ソーラスト シェント イキマス
- 485 F49L②④ ソノ、イキオ マスガ キタノ ホーエ アルイ
ライツテ モライマス
- 486 M43L②④ スガ ソコノ ハシガ ソーヂスヨ
- 487 F29L②④ ココガヒダリ イツテ リッキョーノ トコロ
カラ マ ミキニ マワッテ クダサイ

- 488 M88L②② コノ ミチオ コー マスガニ オイキニ ナル
ト スガ ハシヂス
- 489 M29L NR
- 490 F50L②③ ココ マスガニ イラッシヤレバ イーヂスヨ
- 491 M28M③⑤ ココオ マスガ イケバ ハシガ アルカラ ソ
レダ
- 492 F27L③⑤ ヒヤクゴジューメートルグライ サキ
- 494 F15L②③ ソコノ ミチオ マスガ イクト、ソコニ ハシ
ガ アリマス ソノ ハシヂス
- 495 F49L③⑤ ココオ マスガニ、ハシオ ワカッテ
- 496 F38L②② コノ ミチ マスガニ イカレマシテ、ソーヂス
ネ、ヒヤクメートル、ニヒヤクメートルグライ イキマスネ、ワタツク
ハシガ ソーヂスゲド
- 497 F21M②③ テダチエ テテ ムカッテ ヒダリエ ゴジューメ
ーダグライ イツテ テー ミキエ リッキョーガ アリマスカラ アノ
コヂ ミキエ マワッテ モライエバ イッホソメノ ハシ
- 498 F50L②③ ココオ マスガ オイキニ ナリマシテー スガ
ハシガ アリマスカラ
- 500 F46L②④ マスガニ イツテ クダサイ
- 503 M21L②③ ソコノ トーリオ マスガ イツテ コーサテン
ガ アル、ソノ ヲウガ ミョーダイジバンヂス。モシ ワカラナカッタ
ソノ ハシヂ キイテ クダサイ
- 504 M17M②③ マスガ イツテ ソレヂ オーキナ トーリガ
アツテ ミキエ マガッテ コーサテンマヂ アルカト、ミキガワ ト
ツテ トノハシヂ シンゴーメートルグライ イクト アリマス
- 506 F41L②④ ココ スーット マスガ イツテネ ヒダリ マ
ガッタ トコロヂスヨ
- 507 M41L③⑤ マスガ イツタ トコロノ コノ ハシガ ミョー
ダイバシ
- 508 M23L③⑤ シンゴーオ ニヒヤクメートルバカリ イツタ ト
コロニ ハシガ アルノチ、ソノ ハシヂ
- 509 F30L②③ ココオ マスガニ イツテ、ヒダリニ マガレバ
スガ ワカリマス。ヨロシカッタラ ゴイッショ シマシヨカ、チカ
イカラ
- 510 F18M②③ イキカラ ニシエ マスガ イツテ、リッキョー
ノ アル トコロオ ミキニ マワッテ、ソウカラ マスガ イツタ
トコロ ゴジューメーダグライ サキヂス
- 512 F17M②③ イキノ マエノ アル ミチオ ヒダリニ イキ
シンゴーガ アツテ ソノ シンゴーオ ミキニ マワルト ソコノ ア
リマス
- 513 F35M①① コーヒーノ ホーニ ムカッテ、リッキョーカラ
ゴヒヤクメーダグライヂ、リッキョー コザイマス
- 514 F28L②④ アノ ハシヂス
- 515 F53L③⑤ マスガ イキナサイ
- 516 M38L③⑤ コノ ミチオ マスガ イツテスネ ソコロ

- トotteイケンダ
- 517 M59M②④ アソコ ミエテイル ハシガ ミョーダイバシデス
 - 518 F42L②③ ミウラモクサイヤン ソツテ テラレルト ヨロシデス
 - 519 F30M②③ ココオ マスグ イック トコニ ハシガ アリマス。ソレガ ミョーダイバシデス
 - 522 F46L②④ イキノ マオオ マスグニ イツテ、ソコガ ミョーダイバシデス
 - 525 M36L②④① メーテツバステ シナセンデスネ、グイヂュジイキ アルウ シンビョーインイキ コレニ ノツテ イタダイト トバシテ オリテ イタダキタイト オモイマス
 - 527 F25L②④ ココオ コーユー フーニ イツテ クダサイ
 - 528 M41M②② イマネ オクク クツツミエル トコロナキ イキノ デグチガ キタオ ムイテイルンデスネー ツマリ ジブノ クツツミエル ホーカヲ マスグ キタイ オススミニ ナツテ ヤク コジューメートルデスネ
 - 531 M26L③⑤ コクドーヂヤ ナイ ホーノネ ミチオ マスグ アルイテイク
 - 533 M48L②④ イキオ マスグニ イック トコロデス
 - 534 F18M②④ キノ ホーニ、テマエニ アル ハシガ ミョーダイバシデス
 - 537 M35M②④ コノ マノ ミチオ マスグ キタイ イクト ミョーダイバシデスヨ
 - 539 M24H②④ コノ ミチ マスグ イクト スグデス
 - 540 M72L②④ アルガ ミョーダイバシデス
 - 542 M51L②③ イキカヲ マシヨウメンニ、ニハヤクメートル イッタ トコロニ ハシガ アリマス
 - 543 M55L③⑤ アノ ハシガ ミョーダイバシデヨ
 - 545 M46H②② コノ イキマノ ミチオ マスグ オイキニ ナレバ ソコニ アル ハシガ ミョーダイバシデス
 - 546 F36L②③ コノ ミチオ マスグ キタニ イキマスト ミョーダイバシガ アリマス
 - 548 F51H②③ ココカテ マスグ キノ ホーイ イキマス イチバン ハジメニ アタル ハシデス
 - 551 F45H②③ コノ ミチオ マスグ イツテ クダサイ。ホーキチ ハシガ ミョーダイバシデス
 - 552 M24M②② イキカテ マスグ イツテ イタダケレバ、イチバン ハジメノ ハシガ ミョーダイバシデス
 - 554 F43H②③ マスグ イツテ イタダケレバ トー センヂモ ハシク ミエマス
 - 555 F50M③⑤ キノ ホーイ マスグ イクト……
 - 557 F31M②② バズチ トバシテ オリテ イタダイト ソノ カミノ ハシデス
 - 558 F49L②③ スグ イキノ マオオ イツテ イタダケレバ ト

- ー センヂモ ワカリマスケド
- 561 F22H NR
 - 565 M45L②④ コレオ マスグ キノ ホーイ コノ トーリオ マスグ イキマス
 - 566 F15L②③ マノ ソノ マノ トーリオ アチヲノ オドドーリノ ホーマチ マスグ テテ ソコカラ ミギニ オレテ シバテ ク イクト ソノ ハシガ アリマス
 - 567 F21H②② マスグ ソノマサ キタニ ススミマス ト スグ ハシガ ミエマス。ソコガ ミョーダイバシデス
 - 568 F28M②② ココロニ ナリマスヨ。ココアヘンデス。コチラニ アリマス。チート イツテカテ ホノ ヒトニ キイテ クダサイ
 - 569 M26L②④ スグ ソコニ ミエル ハシデス
 - 570 F42M②② ココオ マスグ イカレマス ト スグニ ハシガ アリマスヨ。ソコガ ミョーダイバシデスヨ
 - 572 F29L②② マノ スジオ マスグ イキマスト ヒヤクメートル、ニヒヤクメートル ソコニ ハシガ アリマス。ソコガ ソレデスケド
 - 575 M17M②② マノ マニニ トーロガ アリマスネ、アッコ。アッコノ トーロオ マスグ イツテ サイショニ アリマス ハシガ ミョーダイバシデス
 - 576 M26H②③ コノ マンナカノ ミチオ イチキロテーノ イツテ モラエバ ハシニ ツキマスケド
 - 578 M37M②② コノ イキノ マノ ミチオ マスグ イキマシテ、ヒヤクゴジューメートルグライ イック トコロガ ハシニ カカリマス。ソコガ ミョーダイバシデス
 - 579 M43M②④ アルガ ソーデス。ココオ キタニ イクト
 - 581 F54M②④ コレオ マスグ イツテ クダサイ
 - 582 M17M②② イキマノ トーリオ ニシイ イツテ シンゴノ アル ヨツカドオ キタイ マガツテクト アリマス
 - 583 F61L②③ マニニ ミエテマス アノ ハシデスカラ コレ マスグ イツテ クダサイ
 - 584 F19H②④ イキノ マノ ミチオ、ニヒヤクメートル イッタ トコロデス
 - 585 F45L②④ スグ ソコニ ミエマス
 - 586 M36M②④ コノ ミチ コレ マスグデテ イキマス
 - 587 F16M②④ コノ ミチオ マスグ イツテ ミギニ マガツテ スグデス
 - 588 M33M②④ スグ ソコニ ミエルガ ミョーダイバシデス
 - 590 F33M②④ ワカシ シラマヒ
 - 591 F28L②④ テーホーヅクタイエー イックラ スグ ワカリマスカネー
 - 592 M42L②③ マスグデスネ、マスグ マニニ ハシガ アリマス、ミョーダイバシデス
 - 593 F36L②④ スグ マシデス
 - 594 F49L②③ イキノ コノ マノ ミチナツテ、アノ トー

- リノ コノ ムコノ ハシダス
 596 F29M②④ マスガ イツテ クダサイ
 597 F37M②② エキノ マエノ ミチオ マスガ スンデイカ
 レマシテ ハジメテノ ハシガ ミヨ-グイジボシデス
 599 F48L①① コレ マスガ イラッシャイマス トーデスネ
 イカガデ ニジユッケンダライ イキマス トハシガ コザイマスデ
 ソレガ ミヨ-グイジボシデスネ
 600 F27L③⑤ エキノ マエオ マスガ イツテ カドニ クバ
 コヤサガ アツテ ソノ マエガ ハシ...

電報用紙 (102)

- 002 M49L②④ ラインシ オネガイ シマス
 003 F43L①② アノ テンボ- ダシクイト オモイマスケド
 ヨ-シオ イタダケマスカ
 005 M26H②③ テンボ- ウチタインデスガ... オネガイ シマ
 ス
 006 M50H②③ スミマセンケドモ テンボ-ヨ-シオ クダサイ
 009 F38L②④ オネガイ、シマス
 011 F42M①③ ヨ-シオ イタダケマスカ
 012 F44L①① イマカラ テンボ- カキマスカラ チョット ヨ
 -シオ イタダケマセンデスカ
 015 F38L②③ テンボ- ウチマスカラ ヨ-シ クダサイ
 017 F56L②③ テンボ- ウツデスケド ヨ-シ クダサイ
 018 F39M②④ テンボ-ヨ-シワ ドコニ アリマスカ
 020 M68L②④ ラインシオ クダサイ
 023 F46L②④ テンボ-ヨ-シ オネガイ シマス
 024 F17H①② スミマセンケド テンボ-ヨ-シ イタダケマスカ
 026 F69L③⑤ コ-ユー テンボ- ウチタイト オモウガ ヨ-
 シ モラエルカネ
 027 M22M②③ テンボ- ウチタインデスケド ヨ-シ クダサイ
 029 F30M②③ アノ テンボ-ガ ウチタインデスケド ヨ-シ
 オ クダサイ
 030 M17L②③ スイマセンケド テンボ- ウツ タメノ カミ
 クダサイ
 033 F48M②④ テンボ-ヨ-シオ クダサイ
 035 F47M①② スイマセン、テンボ- オネガイ シタインデスケ
 ド ヨ-シ イタダケマセンカ
 036 F66L②④ コ-ユー フ-チ ウタン ナランデ テンボ-
 クダサイ
 038 F43M②④ テンボ-ヨ-シ クダサイ
 039 M41L②③ スミマセンガ テンボ-ヨ-シ クダサイ
 041 F47H①② テンボ-オ ウチタイト オモイマスデ ソノ
 ヨ-シオ イタダキタイト オモイマス
 042 M20L②④ テンボ- オネガイ シマス

- 043 F63L②④ テンボ- ヤリクイケド オネガイ シマス
 045 M19L②③ スンマセン ヨ-シ クダサイ
 046 F72L①①② スミマセンガ オネガイ シマス テンボ-ヨ-シ
 ガ ホ-ンデスケド イタダケマスカ
 047 F40L②③ テンボ- シタインデスケド ヨ-シ モラエマス
 カ
 048 M61L③⑤ テンボ-ヨ-シノ カミ、アロオ
 050 F67M②④ テンボ-ヨ-シオ クダサイ
 052 F58H②③ テンボ- イマカラ ウチタイト オモイマスケド
 ヨ-シオ クダサイ
 053 F33M②③ テンボ- オネガイ シマス ヨ-シ オネガイ
 シマス
 054 M60M①② テンボ-ヨ-シ イタダケマスカ
 056 F26H②④ テンボ-ヨ-シ オネガイ シマス
 057 M36M②④ テンボ-ヨ-シ クダサイ
 059 M24H②③ スミマセン テ-ボ-ヨ-シオ クダサイ
 060 M22L②③ チョット スミマセン テンボ- ウチタインデス
 ケド... テンボ-ヨ-シオ モラエマスカ
 063 F25L①② スミマセンケド テンボ- ウチタインデスケド
 テンボ-ヨ-シ・イタダケマスカ
 065 F30L②④ テンボ-ヨ-シオ クダサイ
 066 F38M②③ イマカラ テンボ- ウチマスカラネー テンボ-
 ヨ-シオ クダサイ
 068 F36L②② チョット スミマセン、オハスネ シマスケドモ、
 コ-ユー フ-ニ テンボ- ウチタインデスケド、ド-シカラ ヨロシイ
 デシヨ-カ
 069 M29M②③ テンボ-オ ウチタインデスケドモ ヨ-シワ ア
 リマセンカ
 071 M52L②④ テンボ-ヨ-シ クダサイ
 073 F23M②③ スミマセン テンボ-ヨ-シ クダサイ
 074 M28H①② スミマセン、チョット テンボ-ヨ-シ イタダ
 ケマスカ
 075 F34H②④ テンボ-オ オネガイ シマス
 077 F39L②④ テンボ- ウチタインデス
 078 F30L②④ コ-ユー ヨ-ケンデ テンボ-オ シタインデ
 スケド
 080 M18M②③ スミマセンケド テンボ-ヨ-シオ イチマイ モ
 ラエマセンカ
 084 M47H②④ テンボ-ヨ-シ クダサイ
 086 F27L②④ アノ テンボ- ウチタインデスケドモ
 087 M25M②③ チョット スミマセンケド テンボ-ヨ-シ モ
 エマスカ
 089 M42H①② テンボ- ウチタインデスケドモ ヨ-シ イタダ
 ケマセンカ
 090 F16M②③ テンボ- ウチタインデスガ テンボ-ヨ-シ ク

クザイ

- 091 M61L②④ デンボ-ヨ-シオ オネガイ シマス
 092 F17M①② アノ スミマセンケド デンボ- ウチタインデス
 ガ ヨ-シオ イタダケマスカ
 093 F69L②④ デンボ-ヨ-シ オネガイ シマス
 095 F18L②③ スミマセン デンボ-ヨ-シ クザイ
 096 M28L①② デンボ- ウチタインデスカド デンボ-ヨ-シ
 イタダケマスカ
 097 M39M②④ デンボ-ヨ-シオ クザイ
 098 F37L②③ スミマセンケド イマカラ フコソコイ デンボ-
 オ ウチマスカラ ヨ-シオ クザイ
 099 M46L②④ デンボ- ウチタイデ ライシンシ クザイ
 100 M16M②③ スミマセン デンボ-ヨ-シオ オネガイ シマス
 101 M33M②③ デンボ- ウチタインデスカド フ-ユー- フ-ニ
 スルバ インデジョ-カ
 102 F16M②④ デンボ- ウチタイデ カミオ クザイ
 104 M27M②② オソレリリマスカドモ デンボ-ガ ウチタインデ
 スガ ドノ ヨ-ナ テウヅキオ トツラ ヨロシイデスカ
 105 F30L①② チョット スミマセンケド デンボ- ウチタイ
 デ オネガイ イタシマス
 107 F18M①③ デンボ-ヨ-シオ クザイマセンカ
 108 M25M②③ アノ スミマセンケド デンボ-オ ウチタインデ
 スケド
 110 F15L①② デンボ- ウチタインデスカド ソノ ヨ-シオ
 イタダケマスカ
 111 M34H①② チョット スミマセン デンボ-オ ウチタイデス
 ガ デンゾノ ヨ-シオ イタダケマスカ
 113 M28M②④ デンボ-ノ ヨ-シオ クザイ
 116 M26M②④ デンボ-ノ ヨ-シオ クザイ
 117 F31L①② スミマセン デンボ-ヨ-シオ イタダケマスカ
 120 M59L②④ コンド デンボ-オ げん ナランク ナツデチ
 デンボ-ヨ-シガ ホシイデ フコチ-、ココチ- イ-デスカ
 122 M56M①② オテス- カケマス デンボ-オ ウチタインデス
 ガ デンボ-ヨ-シオ イタダキタイ オモイマス オネガイ イクシ
 マス
 123 F18M①② アノ スミマセンケド デンボ-ヨ-シ イタダケ
 マスカ
 125 M25H②④ デンボ-ヨ-シ クザイ
 126 M24L③⑤ ワルイケンガ デンボ-ヨ-シ ナイカノ
 127 M28M②④ デンボ-オ ウチタイ オモウケド フ-ユー-
 フ-ニ シカラ イ-デスカ。ナリカカガ ワカランデ
 128 F25M①② デンボ- ウチタインデスカド ヨ-シ スミマセ
 ンケド イタダケマスカ
 129 M22M②③ スミマセンガ デンボ-ヨ-シオ クザイ
 130 F36L②④ デンボ-ヨ-シオ クザイ

- 132 F65L②③ デンボ- スルンデスガ ヨ-シオ オネガイ シ
 マス
 134 M73L②④ チョット デンボ- ウト-ト オモウチ ヨ-シ
 オ クザイ
 135 F38L①② チョット スミマセン デンボ-ヨ-シオ イチマ
 イ イタダケマスカ
 137 F57L①② ト-キョ-エ げんタインデスカドモ デンボ-ノ
 ヨ-シオ イタダキタイデジョ-カ
 138 F37L②③ デンボ- ウチタインデスカド ヨ-シ クザイ
 139 M71L②④ ト-キョ-エ デンボ- ウチタイ オモウチ
 ヨ-シオ クザイ
 140 F74L NR
 141 M22M②③ スイマセンケドモ デンボ- ウチタインデスカド
 143 M53H②③ スミマセンガ デンボ-ヨ-シ イチマイ クザイ
 イ
 144 M17M②③ アノ スイマセンケド デンボ- ウウ ヨ-シワ
 フコエ アリマスカ
 146 F35M②④ アノ- デンボ- ウチタインデスカド
 147 F30M①② スミマセン デンボ-ヨ-シ イタダケマスカ
 149 F40L①② デンボ-ヨ-シ イタダケマスカ
 150 F67L NR
 151 M68L③⑤ デンボ-ヨ-シオ オネガイ シタイ
 152 M28M①② ヨ-シオ イタダケマセンカ
 153 M32M②③ スミマセンガ デンボ-ヨ-シ クザイ
 155 F47L①② デンボ-ヨ-シ イタダケマスカ
 156 F73L NR
 158 M25L②④ デンボ-ヨ-シオ クザイ
 159 F20L①② スミマセンケドモ デンボ-オ げんタインデス
 ケド デンボ-ヨ-シオ イタダケマスカ
 161 F61L②④ デンボ- げんタイデ オネガイ シマス
 162 F20H①② デンボ-ヨ-シオ イタダケマスカ
 164 M42L②③ フコソコイ デンボ- ウチタインデスカドモ デ
 ンボ-ヨ-シオ クザイ
 165 M16M②④ デンボ-ヨ-シオ クザイ
 168 F62L②④ デンボ-ヨ-シ オケレマス
 171 F23L②③ デンボ- ウチタインデスカド フ-シカラ ヨロ
 シイデスカ
 173 F44L②③ デンボ- げんタインデスカド デンボ-ヨ-シ
 オネガイ シマス
 174 F61L①③ デンボ-ヨ-シ イタダキタインデス
 176 M21L③⑤ スミマセン ヨ-シ モラエル
 177 F24M②③ スミマセン デンボ-ヨ-シオ クザイ
 178 F74L②④ デンボ-オ カダゲチ カミオ クザイ
 180 M45L②④ シュクデノ ウチタイ オモイマスカド デン
 ボ-ヨ-シオ イタダキイ

- 182 F32M②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 183 F23M①② デンボ- ウチタイノチ ヨ-シオ イタダキタイ
 ノダスカ
 184 F49M②③ オルレイリマスケド デンボ-ヨ-シ クダサイ
 185 F32M①② アノ デンボ-ウチタインダスケド デン
 ボ-ヨ-シオ イタダケマスカ
 186 F33M②③ デンボ- ウチタインダスケド... ド-シカラ
 イ-ダスカ
 188 M85L②④ デンボ-ヨ-シオ イチマイ オネガイ シマス
 189 F26L②③ デンボ- ウチタイダスケド オネガイ シマス
 191 M25L②③ ドコドコE デンボ-ウチタインダスケドE
 オネガイ シマス
 192 F16M②④ デンボ- ダシタイカラ、カミオ、クダサイ
 194 F20M②② アノ オルレイリマスカ デンボ-ヨ-シ イチ
 マイ ホシイダスケド
 195 M44M②④ デンボ-ヨ-シオ ドコE アリマスカ
 197 M72L③⑤ デンボ-ヨ-シ クレ
 198 F15M②③ チョット、デンボ- ダシタイダスケド、ヨ-シ、
 モラエマスカ
 199 F40M①② デンボ- ウチタインダスケド カミオ イタダ
 ケマセンカ
 200 F18M①② アノ デンボ- ダシタインダスケドE ヨ-シ
 イタダケマセンカ
 201 M29M②③ スミマセン デンブンノ ヨ-シ クダサイ
 202 F70L①② デンボ- イタダケマセンカ、ヨ-シオ
 203 F49L②④ デンボ-ヨ-シオ イチマイ クダサイ
 204 M60L②④ デンボ-ウチタイカラ デンボ-ヨ-シ クダ
 サイ
 205 F65L①③ ラインシオ クダサイマセンカ
 206 M64L②③ スミマセン デンボ-ヨ-シ イチマイ イタダ
 ケマスカ
 207 F49M②③ デンボ- シタインダスケド オネガイ シマス
 208 F15L②③ スミマセン デンボ-ヨ-シ クダサイ
 210 F23L②④ デンボ- スルカラ、オネガイ シマス
 212 F23H①① デンボ-ウチタインダスケド、オルレイリマスケ
 ドE デンボ-ヨ-シE アリマダシヨ-カ
 213 F31L①② スミマセンガ デンボ-ヨ-シ イタダケナイデ
 シヨ-カ
 215 M41L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 216 F26M②③ デンボ-ウチタインダスケド チョット ヨ-
 シオ クダサイ
 218 F58L①② スイマセンケド、デンボ-ヨ-シ イタダケマセン
 カ
 219 M49L②④ チョット スミマセンガ デンボ-ヨ-シオ カシ
 テ モラエカシラフ
 220 M41M②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 221 M56M②④ ケッコノ オイワイノ デンボ-ウチタイカ
 ラ、ラインシオ クダサイ
 222 F26L②③ アノ デンボ- ウチタイダスケドネ ド-シタ
 ラ イ-ダスカ
 223 F63L②④ デンボ- ウツウロ ド-フニ スルダス
 224 M21L②③ デンボ-ガ ウチタインダスケド ド-シカラ ヨ
 ロシイデシヨ-カ
 227 F28M②③ アノ デンボ- ウチタインダスケド ヨ-シオ
 オネガイ シマス
 230 F37H②④ デンボ- ウチタインダスケド
 231 M23H②④ アノ デンボ-ウチタインダスケドE デンボ
 -ノ ヨ-シ イタダキタイ
 233 F25L②③ アノ デンボ- ウチタイダスケド カク ヨ-シ
 オ クダサイ
 236 M33M②③ アノ デンボ-ヨ-シ ホシ-ンダスケド クダ
 サイ
 237 M38M②③ オルレイリマスケド、デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 240 M20M①② デンボ- ウチタインダスケド デンボ-ヨ-シ
 イタダキタインダスケド
 242 M31M①② オルレイリマスケドガ-、デンボ- ウチタイト
 オモイマスケドガ- ヨ-シ イタダケマスカ
 243 M63L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 245 M52L②④ デンボ- ウツカラ ラインシオ クダサイ
 246 M23M②④ デンボ- ウチタインダスケド ド-シカラ イ-ン
 デシヨ-カ
 248 M56L②④ デンボ- ウチタイカラ ヨ-シオ クダサイ
 249 F42H②③ チョット オネガイ イタシマス
 250 M22H②③ スイマセンガ デンボ-ヨ-シ、イチマイ クダサ
 イ
 251 F36M②③ デンボ- ウチタインダスケド ナンカ、ヨ-シ
 カ ナンカ カク モノ アリマスカ
 252 F26M①② デンボ-ウチタインダスケド、ヨ-シ イタダ
 ケマスカ
 254 F32L②④ デンボ- 駄付ケテウ イケナイノチ デンボ-
 ヨ-シ チョ-ダシ
 256 M24H②③ チョット スイマセン デンボ-ヨ-シ クダサイ
 258 M34M①② スミマセン、デンボ-ヨ-シ イタダケマセンカ
 260 F33M①② デンボ-ヨ-シオ イタダケマスカ
 261 M42L②③ チョット スミマセン、デンボ-ヨ-シオ クダサ
 イ
 262 F47M②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 265 M24M②③ スミマセンケドE デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 266 F22M①② デンボ-ヨ-シオ イタダキタイノダスカ
 267 M39M②④ デンボ-ノ ヨ-シオ クダサイ

- 269 M59L②④ デンボ-ヨ-シオ イチマイ クダサイ
 270 F28H②③ スミマセンガ デンボ-ヨ-シオ イチマイ クダサイ
 271 M32L②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
 272 F38M②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 273 F27H②③ デンボ-オ ウチタインデスガ ヨ-シオ モラエマスカ
 275 F50L②④ デンボ-ヨ-シ チョ-ダイ
 276 F22L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 278 M41L②④ デンボ-オ ウチタイダテ, ヒトウ, ヨ-シオ クダサイ
 279 F60L②④ デンボ-ヨ-シオ イチマイ オネガイ シマス
 281 F38H②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
 284 F33M①② アノ デンボ- ウチタインデスガ デンボ-ヨ-シ イタダケマセンカ
 285 M66M②④ コンチウ ライシンシオ チョ-ダイ
 287 F23H①① オノレイリマス, デンボ- ダシクイト オモイマスナデ ヨ-シ イタダケマセンデシヨ-カ
 288 M47H②③ デンボ- ウチタインデスガモ ヨ-シオ クダサイ
 290 F41H②④ ライシンシ オネガイ シマス
 291 F24H①② アノ, スイマセンガ, デンボ- ウチタインデ, デンボ-ヨ-シオ イタダケマスカ
 292 F21H①② デンボ-ヨ-シ イタダケマセンカ
 293 F22H②④ アノ, デンボ-ガ ウチタインデスガモ
 294 F19H①② デンボ- ウチタインデスガモ ヨ-シ イタダケマスカ
 296 M33L②③ スイマセン デンボ-ヨ-シ オネガイ シマス
 297 F48L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 299 M35H①② デンボ-オ, ウチタインデスガモ, ライシンシオ イタダケマスカ
 300 F46L②④ デンボ- ウウ ヨ-シオ クダサイ
 302 F58L②④ デンボ-ヨ-シ チョ-ダイ
 303 F55L②③ デンボ- ウチマスカラネ オネガイ シマス。ヨ-シオ クダサイ
 305 M33H②③ デンボ- ウチタインデスガ ヨ-シオ クダサイ
 306 F37M②③ デンボ- ウチタインデスガモ ヨ-シオ オネガイ シマス
 308 M19M②③ スイマセン, デンボ-ヨ-シ クダサイ
 309 F25H②④ デンボ-ヨ-シ オネガイ シマス
 311 F24M②③ デンボ- ウチタインデスガ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 312 M33L②④ デンボ-, オネガイ シマス
 314 M34M①② スイマセンガ チョット デンボ- ウチタインデスガモ, カク ヨ-リヨ-ガ ワカリマセンガモ フナニ シ

- テ カカンデシヨ-カ, オシエテ イタダケマスカ
 315 F30M②④ デンボ-ヨ-シ オネガイ シマス
 317 F48L②③ デンボ-オ ウチタインデスガモ オネガイ シマス
 318 F60M②③ デンボ-オ ダシクイカラ デンボ-ヨ-シオ イタダケマセンカ
 320 F17L①② スミマセン, イノ ホ-ニ デンボ- ウチタインデスガモ, ヨ-シ, イタダケマスカ
 321 M39M②③ デンボ- ウチタインデスガモ ヨ-シオ オネガイ シマス
 323 F21M②③ スミマセン デンボ-ヨ-シ クダサイ
 324 F23M②④ デンボ- ウチタインデスガモ
 326 M27H②④ ヨ-シ フコニ アリマスカ
 327 F23L②③ デンボ- ウチタインデスガ デンボ-ノ ヨ-シオ クダサイ
 329 M44M②④ デンボ-オ ウチタインデ ヨ-シオ イタダケマスカ
 330 M75L②③ アノ デンボ-オ ウチタイダテ ヨ-シオ イタダケマセンカ
 331 F57L②④ デンボ- フココエ イッパン ウチタイカラ イチマイ クダサイ
 332 M29H②④ イマカラ デンボ-オ ウチタイダテ デンボ-ノ ヨ-シオ クダサイ
 333 M40L②④ イマカラ デンボ-オ ウチタイダテ ヨ-シ クダサイ
 334 F67L②④ アノ ワカシウ イマカラ ト-ゴ-ムラエ デンボ-ガ ウチタインデガモ アネガ ヒトリデ イカカラネ シンバイダテ イッパン タズネタイト オモウガ デンボ-ヨ-シウ フコダモラツカラ イ-デスカ
 335 F27M②③ オノレイリマスガ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 337 M51L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 338 F40L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 339 M74L②③ デンボ-オ ウチマスカラ ヨ-シオ イチマイ ワケテ クダサイ
 341 F15L②③ スミマセンガ デンボ-オ ウチタインデスガ カミオ モラエマスカ
 342 M35M②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 345 M26L②③ スミマセン デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 347 F62M②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 348 M19M②③ デンボ-オ ウチタインデスガ デンボ-オ ウウ ヨ-シオ クダサイ
 350 F37M③⑤ デンボ-オ ウチタイダテ
 351 F49L②④ デンボ-ヨ-シオ オネガイ シマス
 353 F22L①② スミマセン, デンボ- ダシクイデスガモ ヨ-シオ イタダケマスカ

- 354 F31M②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
 355 M37M②④ デンボ- ウツデ,ヨ-シ クダサイ
 356 M31H②③ スミマセンガ ヨ-シガ アリマシカラ オネガイ
 シマス
 357 F23L②③ スミマセン.デンボ-ヨ-シガ モラエマスカ
 358 M34L②④ ヨ-シ クダサイ
 359 F45H①② オソリリマスケド ヨ-シ イチマイ イタヂキ
 タイマス
 360 F74L②④ デンボ-ヨ-シオ オネガイ シマス
 361 F68L②③ キュ-ヨ-ガ チキカラ デンボ-オ カクタイ
 ト オモイマスケド,デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 362 M32L②④ デンボ-ヨ-シ フコエ アリマスカ
 363 M54L②④ スミマセンガ デンボ-ガ ウチタイカラ ヨ-シ
 オ モラエンデスカ
 365 F55H②④ デンボ-ヨ-シ イタヂキタイ
 366 F61L①② フココエ デンボ-オ ウチタイノデスガ ライ
 シンヨ-シガ イタヂクマセンカ
 367 M42L②③ アノ スミマセンケド デンボ-オ ウチタイノ
 テ ヨ-シオ イタヂキマス
 368 M47M②④ ライシンシオ クダサイ
 369 F47L②③ アノ スミマセンガ ヨ-シ イチマイ クダサイ
 374 F23M①② スミマセンケド デンボ-ヨ-シオ イタヂキタイ
 ンデスカド
 375 F21L①② ア,スミマセン ヨ-シオ イタヂクマスカ
 377 F28M②③ スミマセンガ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 378 F56M②③ デンボ- ウチタイト オモイマスカラ ヨ-ジ
 クダサイ
 379 M32H②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
 380 F75L②③ スミマセンケド デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 383 M55L②③ デンボ- ウチマスカラ ヨ-シ クダサイ
 384 F22M②③ デンボ- ウチタイノデスガ,ヨ-シオ クダサイ
 387 F54L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
 389 F28L②④ デンボ- ウチタイカラ ヨ-シオ クダサイ
 390 F78L①① ユ-エー トコエ デンボ- ウチタイデスカド
 デンボ-ヨ-シ イタヂクマセンデシヨ-カ
 392 F69M②④ デンボ-ガ,ウチタイデスカ デンボ-ヨ-シオ
 イタヂキタイ
 393 F23H①② アノ スミマセン.デンボ- ウチタインデスカド
 デンボ-ノ ヨ-シ イタヂキタインデスカド,ココデ ヨロシイデス
 カ
 395 F38L①③ ライシンシ イタヂクマスカ
 396 M65M②③ チョット オネガイ シマスヨ ライシンシオ オ
 ネガイ シマス
 397 M16L②③ スイマセンケド デンボ-オ クダサイ
 399 F21M①② チョット スイマセンケド ヨ-シオ イタヂキタ

インデス

- 401 F66L②④ デンボ-ガ ウチタイデスカド
 402 F62M②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
 404 F47M②③ アノ デンボ-ガ ウチタイデスカド オネガイ
 シマス
 407 F21M②③ スイマセン デンボ-ヨ-シ クダサイ
 410 M22H①② アノ スミマセンケド,デンボ-ノ ヨ-シオ
 イタヂクマセンカ
 411 M16M②③ スミマセンガ デンボ-オ げシマスカラ デンボ
 -ヨ-シオ イチマイ モラエマセンカ
 413 F55L①② アノ スミマセンガ ライシンシオ イタヂクマセ
 ンカ
 414 M45L①② オソリリマスガ デンボ-ノ ヨ-シオ イタヂ
 クマセンカ
 417 M49L②④ アノ デンボ- ウツカラ ヨ-シ クダサイ
 418 F28M②③ スミマセン,オソリリマスケド デンボ-ヨ-シ
 オネガイ シタインデスカド
 419 F34M②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
 420 F33L②④ デンボ-ヨ-シ チョ-グイ
 423 F65L②③ デンボ- ウツ ヨ-シオ クダサイマスカ
 426 F33L②④ デンボ-オ ウチタイカラ ヨ-シ クダサイ
 428 F22H①③ デンボ- ウチタイト オモイマスケド ヨ-シ
 モラエマスカ.スミマセン
 429 M42L②③ チョット スミマセン.デンボ-ヨ-シ モラエマ
 スカ
 431 F25H②② デンボ- ウチタインデスカド,ヨ-シ,イタヂ
 マスカ
 432 M35M③⑤ ライシンシガ ホ-シンデスカド
 434 F25L②③ スミマセン,デンボ- ウチタインデスカド ヨ-
 シ オネガイ シマス
 435 F19H①② マコト スミマセンガ,デンボ- ウチタイト
 オモイマスノデ,ヨ-シオ イタヂクマスカ
 436 F69L②④ デンボ-ヨ-シオ オネガイ シマス
 438 F34L②③ スミマセン,デンボ-ヨ-シ,クダサイ
 439 M20M①② スイマセン チョット デンボ- げシタインデス
 ケド ヨ-シ イタヂクナイデシヨ-カ
 440 F74L②③ デンボ- ウチタイデスカ.オネガイ シマス
 441 F31L①② アノ デンボ-オ フコデ げシテ イタヂタイ
 ラ イ-デスカ,デンボ- ウチタインデスカドモ フ-エー フ-ニネ
 シカラ イ-デスカ.コレ イチマイ イタヂキマス
 443 M18L②③ スミマセン.デンボ-ヨ-シ モラエマスカ
 444 F22M①② スミマセン,デンボ- ウチタインデスカド,ヨ-
 シ イタヂクマスカ
 447 F20H②④ アノ デンボ-オ ウチタインデスカド,ヨ-シオ
 クダサイ

- 449 M49M②④ デンボ- ウチタイカラ デンボ-ヨ-シオ クダ
サイ
- 450 F19M②② チョット スミマセン。チョット オクズネ シマ
スケレドモ、オハノ ウチイ デンボ-オ ウチタインデスケレドモ、ド
ンツカラ ヨロシイデシヨ-カ
- 452 M59L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 453 F15M①② デンボ-ヨ-シ イタダケマスカ
- 454 M19M②③ スミマセン、デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 455 F34M②④ アノ デンボ-オ ウチタイカラ ヨ-シオ クダ
サイ
- 456 F16M②③ スミマセン、デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 458 M31L②③ スミマセンガ デンボ-ヨ-シオ オネガイ シマ
ス
- 459 F17M①② アノ スミマセンガ、デンボ-ヨ-シオ イチマ
イ イタダケマセンカ
- 462 M23M②③ スミマセンケド デンボ-ヨ-シ モラエマスカ
- 463 M58M①② デンボ-オ ウチタイ オモイマスガ ヨ-シオ
イタダケマセンカ
- 464 M74L②④ コレカラ ヨ-ジガ、アツッ ト-ジ オネガイ
シマス
- 466 F32M①② オネガイ シマス。スイマセンガ ヨ-シ イタダ
ケマセンカ
- 467 F61M①② オラヌ-デスガ チョト デンボ- ウチタインデ
スガ オネガイ イタシマス
- 468 M36L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 470 M38H①② チョット オルレイリマスガ デンボ- ウチタイ
ンデケド ヨ-シ イタダケマスカ
- 471 F32L②③ コ-ユー トロロイ デンボ- ウチタイカラ、ヨ
-シオ クダサイ。ド-ユー フ-ニ カイカラ イ-デシヨ-
- 473 M19M②③ スミマセンケド デンボ-、デンボ-ヨ-シ クダ
サイ
- 474 M20M①② スミマセンケド デンボ-ヨ-シ イタダケマセン
カ
- 476 M19M②③ スミマセン デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 477 M25H②③ スミマセンケド、チョット デンボ- カクタイ
ンデケド チョット ヨ-シオ ワカテ ヌルマセンカネ-
- 479 M15L②④ チョット、デンボ- ウチタインデ クダサイ
- 480 M16M②③ スミマセン デンボ-オ ウチタインデスケド デ
ンボ-ヨ-シオ モラエマスカ
- 481 F63L②③ デンボ-オネ、ウツダカラ、スミマセン、クダサイ
- 482 M29M②③ スミマセン、デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 483 M34H①② スマセン デンボ-ヨ-シ イタダケマスカ
- 485 F49L②④ デンボ- オネガイ シタイデスケド
- 486 M43L②③ チョット スイマセン、デンボ- ウチタインデス
ケド、デンボ-ヨ-シオ イチマイ モラエンデスカネ
- 487 F29L②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 488 M68L②④ ヨ-シ イチマイ クダサイ
- 489 M29L③⑤ トコ イツカラ ヌルカカネ-
- 490 F50L②③ アノ-、デンボ- ウチタイ オモイマス ヨ-
シ クダサイ
- 491 M28M②③ ア、オルレイリマス デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 492 F27L②④ デンボ- ウチタイケド ヨ-シ クダサイ
- 494 F15L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 495 F49L②④ デンボ-ヨ-シガ ホ-シンデスケド
- 496 F38L②③ チョット デンボ-ガ ウチタイデスケド ドンナ
フ-ニ シカラ ヨロシイデシヨ-カ
- 497 F21M②③ スイマセンケド デンボ-オ ウチタイデスケド
ヨ-シオ オネガイ シタイデスケド
- 498 F50L①② デンボ-ヨ-シ イタダケマセンカ
- 500 F46L②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 503 M21L②④ ア、ヨ-シオ クダサイ。デンボ-ノ
- 504 M17M②③ アノ、チョット スイマセンケド デンボ-ヨ-シ
スゴシ イチマイ クダサイ
- 506 F41L②③ チョット アノ- デンボ- ウチタイデスケド
ハヤク オネガイ シマス
- 507 M41L②④ アノ- デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 508 M23L②④ ヨ-シ クダサイ
- 509 F30L②③ デンボ- ウチタインデスガ ドノ ヨ-ニ シタ
ラ イ-デスカ
- 510 F18M②③ スミマセン デンボ-ヨ-シ アリマスカ
- 512 F17M②③ スイマセンケド デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 513 F35M②③ デンボ- ウツンデスケド ヨ-シ オネガイ シ
マス
- 514 F28L①② アノ-、デンボ-ヨ-シ イタダケタインデスガ
- 515 F53L②③ デンボ-オ ウチマスカラ クダサイ。ヨ-シ ク
ダサイ
- 516 M38L①② チョット オクズネ シマス。デンボ-ヨ-シワ
ドノ ヨ-ニ シテ イタダケマスカ
- 517 M59M①② デンボ-オ ウチタインデスガ ヨ-シオ イタダ
ケマセンカ
- 518 F42L②③ デンボ- ウチタインデスガ オネガイ シマス
- 519 F30M②③ デンボ-オ ウチタイ オモイマスケド ヨ-シ
オ クダサイ
- 522 F46L②③ スイマセン オネガイ シマス
- 525 M36L②④ デンボ-オ ウチタインデ ヨ-シオ イタダケ
イ
- 527 F25L②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 528 M41M②④ ヤマシタ クロ-ニ コ-ユー ヨ-カンデ デン
ボ-オ ウツカラ ソノ ヨ-シオ クダサイ
- 531 M26L②③ スイマセンケド デンボ-オ ウチタインデ ヨ

- シオ クダサイ
- 533 M48L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 534 F18M①② チョット スイマセンケド デンボ-オ ウチタイ
ンデスケド ソノ ヨ-シオ イタダケマセンカ
- 537 M35M③⑤ デンボ- ダシタイダド ト-シカラ ヨロシイ
カ
- 539 M24H②③ チョット デンボ- ウチタインデスケド ヨ-シ,
カミ モラエマセンカ
- 540 M72L②④ アノ デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 542 M51L②③ チョット ワクシ デンボ- ウチタイデスガ オ
ネガイ シマス
- 543 M55L②④ デンボ-ヨ-シ オネガイ シマス
- 545 M46H①② デンボ-ヨ-シ イタダケマセンカ
- 546 F36L①② スイマセン デンボ-ヨ-シガ イタダキタインデ
スケド
- 548 F51H②③ デンボ-オ ダシタイト オモイマスデ、イロイ
ロ カイタ カミオ ミセテ クダサイ
- 551 F45H②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 552 M24M②③ スイマセン チョット オネガイ シタイ。デンボ
- ウチタインデ ヨ-シオ クダサイ
- 554 F43H②④ アノ、デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 555 F50M②④ ラインシオ クダサイ
- 557 F31M②④ デンボ-ノ ヨ-シ クダサイ
- 558 F49L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 561 F22H②③ スミマセン、ワクシ デンボ- ハジメテナンデス
ケド チョット ワカンナインデスケド、デンボ-ヨ-シデスガ、ソレ
スミマセン、チョット イチマイデスガ、オネガイ シマス
- 565 M45L②④ デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 566 F15L①② スミマセン。デンボ-ヨ-シ イタダキタインデス
ケド
- 567 F21H②③ アノ デンボ-オ ウツンデスケレド ソノ ヨ-
シオ クダサイ
- 568 F28M②③ スミマセン、デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 569 M26L②④ デンボ-ヨ-シ モラエマスカ
- 570 F42M②③ デンボ- ウチタイデスケド ヨ-シ クダサイ
- 572 F29L②③ オルレイルマスカ デンボ-ヨ-シ イチマイ ク
ダサイ
- 575 M17M①①① デンボ- ダシタインデスケド デンボ-ヨ-シオ
モラエマセンデシヨ-カ
- 576 M26H②③ スミマセン。デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 578 M37M①② デンボ- ダシタインデスガ ショテ-ノ ヨ-シ
オ イチマイ イタダケマセンカ
- 579 M43M②③ スミマセンガ デンボ-オ ウチタイト オモイマ
スカラ デンボ-ヨ-シオ イチマイ クダサイ
- 581 F54M②④ チョット デンボ-ヨ-シ クダサイ

- 582 M17M②④ デンボ- オネガイ シマス
- 583 F61L②③③ スミマセンガ デンボ-ヨ-シ イチマイ クダサ
イ
- 584 F19H①② スイマセン デンボ-ヨ-シオ イタダキタインデ
スガ
- 585 F45L②③ デンボ- ウチタイト オモイマスデ オネガイ
シマス
- 586 M36M②④ デンボ-ヨ-シオ オネガイ シマス
- 587 F16M②③ アノ、スイマセンケド デンボ-オ ウチタインデ
スケド
- 588 M33M②③ スミマセンガ デンボ-ヨ-シ クダサイ
- 590 F33M②④ デンボ-ヨ-シオ イチマイ クダサイ
- 591 F28L②④ デンボ- ウチタイデスケド
- 592 M42L②④ デンボ-ヨ-シオ クダサイ
- 593 F36L②③ デンボ-ネ ダシタイデスケド オネガイ シマス
- 594 F49L②④ ア、デンボ-ヨ-シ オネガイ シマス
- 596 F29M②③ デンボ-オ ウチタインデスケドモ ヨ-シ クダ
サイ
- 597 F37M①②② アノ デンボ- ウチタインデスケド デンボ-
ヨ-シ イタダケマスカ
- 599 F48L①② スミマセンケド デンボ-ヨ-シ イタダケマスカ
- 600 F27L②③ スミマセン デンボ-ヨ-シオ クダサイ

荷物あずけ (103)

- 002 M49L③⑤ チョット スマナイガ アスカッテ クレシカ
- 003 F43L①② チョット ココチ カイモノ イタシマシケレド
チョット ほかニ ヨ-ジガ チキマシタチ スイマセン チョット コ
ノ ニモツオ アスケテ イタダキタインデスケド トナト フ-デスカ
- 005 M26H②② スミマセンガ チョット ほかニ ヨ-ジガ アカ
ンデスカラ ココチ アスカッテ モラエマスカ
- 006 M50H②③ スミマセンガ コレオ アスカットイテ クレマセ
ンカ
- 009 F38L②④ コレモ ニモツ オネガイ シマス
- 011 F42M①② チョット ヨソエ マワリマスカラ ニモツオ オ
カセテ イタダケマスカ
- 012 F44L①①① チョット スミマセンケド チョット ヨ-ジガ オ
マスケ チョット コレオ スミノ ホ-デモ イ-デ イチジ アスカ
ットイテ イタダケマセンデスカ
- 015 F38L②④ チョット ソコマチ オツカイ イツケルカラ
ニモツ オネガイ シマス
- 017 F56L②③ スミマセンケド チョット オイトイテ クダサイ
- 018 F39M②③ ワルイケレド コレ チョット オカシテ イタダ
ケルカシラ
- 020 M68L②③ チョット ソコマチ イキマスカラ スイマセンケ

- ト コノ ニモツ アズカッテイ クダシイ
- 023 F46L①② オルレイマスガ モチノ アスカテ クラセ
ンカ 赤工 マリマスカラ オジマヂシヨウガ オカシテ クダ
イヌカ
- 024 F17H②③ スミマセンガ ヨーゾノ クメ チョット アスカ
ッテ モライマスカ
- 026 F69L③⑤ チョット アズカッテイ モラツテ
- 027 M22M②③ スイマセンガ チョット コレ アズカッテイ
モライマセンカ
- 029 F30M①① チョット 赤工 テマスノチ オルレイマスガ
シバラク アスカッテ イタダクマスカ。マカ エリニ イタダキニ
アガリマス
- 030 M17L②② チョット スイマセンケド ヨソニ ヨーガ アリ
マスノチ アスカッテ モライマセンカ。スガ モドリマスノチ
- 033 F48M①② マコトニ オルレイマスケド チョット マラ
ナキ ナリマセンケド、コノ ニモツ ジマニ ナリマスノチ チョ
ット シバラク オイトイテ クダシイマセ
- 035 F47M②④ スイマセン チョット
- 036 F66L②② Fーモ スイマセンケド チョットノ アイダ
アスカテ イタダキタイダシ ジキ トリニ キマスチ オネガイ シ
マス
- 038 F43M①① チョット イチジカンホド マイル トコガ アリ
マスノチ スイマセンガ アスカッテ イタダクマセンカ ヲソニ タイ
ジナ モノ ハイッテイマセンカチ
- 039 M41L②③ チョット スミマセンガ オネガイ シマス
- 041 F47H①② ジカンテキニ サンジユツッホド ヨークシオ
シタイ オモイマスノチ コノ ニモツオ アスカッテ イタダキ
タイト オモイマス
- 042 M20L②③ チョット ヨソノ ミセ イツキマスチ ニモツ
オ オネガイ シマス
- 043 F63L①③ スマケド チョット ヨソイ オツカニ イ
チ チョット アスカッテ イタダクマシヨウカネ
- 045 M19L③⑤ クルケド アズカッテイ モラエル
- 046 F72L①① モーシウク アリマセンケド、モー ヒトトコ
ヨークシオ シテマスリマスカラ ソノ アイダ オアスカリ ネガイマ
センデシヨウカ
- 047 F40L①① スイマセンケド チョット ヨソイ オツカニ
イツキマスノチ アスカッテ イタダクナイデシヨウカ
- 048 M61L②④ チョット カイモノ スルチ、コノ ニモツ オネ
ガイ シマス
- 050 F67M③⑤ イチジカン イツケルカラ ソノ カン アスカ
ッテイ クル
- 052 F58H②③ チョット ニモツ コツカイデシケド ヨソイ
クノニ オモイカラ、オネガイ シマス
- 053 F33M②② スイマセン、チョット 赤工 マル トコロガ

- アルノチ イチジ チョット アスカッテ モライマセンカ
- 054 M80M②③ チョット スイマセンガ コノ ニモツ アスカ
ッテイ モライマセンカ
- 056 F26H①① オルレイマスケド、コノ ニモツ オアスカリ
イタダクマセンカ
- 057 M36M②③ スイマセンケド、ヨソイ マルカラ イチジ ア
スカッテ クダシイ
- 059 M24H②③ コレ チョット アズカッテイ モライマスカ
- 060 M22L②③ チョット スミマセンガ ヨル トコガ アリマス
ノチ アズカッテイ クダシイ
- 063 F25L②③ マダ 赤工 マルノチ アトカラ トリニ キ
マスカラ ソノチ トツテオイトイテ クダシイ
- 065 F30L②③ アノー スガ キマスカラ チョット アスカッテ
クダシイ
- 066 F38M②③ アノー イマカチネー カイモニ イク コレ
チョット オモイカチネー イチジカンノチ ヲソニ カエツテキ
マス… コノ アスカッテ モライナイデシヨウカ
- 068 F36L①① チョット オルレイマスケド イマカラ トコ
ニ イツキマスケド コノ ニモツ アスカッテ イタダクマセンカ
- 069 M29M②③ スガ モドリマスカラ アスカテ モライマセンカ
- 071 M52L③⑤ チョット イツケルチ クルチ
- 073 F23M②③ スミマセンガ チョット ソコマチ イツキマス
ノチ アスカッテオイトイテ クダシイ
- 074 M28H①① チョット スミマセンケド、チョット 赤工
トコイ マラツキマスエンチマスカラ、コノ ニモツ アスカッテ イ
タダクマセンデシヨウカ
- 075 F34H①① スミマセンケド ヨソイ チョット マリマスノ
チ シバラク コノ ニモツ アスカッテイ イタダクマセンカ
- 077 F39L②④ コノ ニモツオ チョット オネガイ シマス
- 078 F30L②③ ジツブンダライ チョット アソコマチ イツキ
マスカラ オネガイ シマス
- 080 M18M②② チョット イマ ヨーゾノ アリマスノチ、ココ
カク モノ オイトキマスノチ スミマセンケド チョット オネ
ガイ シマス
- 084 M47H②④ ヨークシ シテカカラ、ニモツ アスカッテ ク
ダシイ
- 086 F27L②③ スミマセンケド、チョット 赤工 イツキタイ
トコガ アリマスカラ コレオ チョット シバラク アスカッテ ク
ダシイ
- 087 M25M②④ オジサン ニモツ シバラク アスカッテ モライ
マセンカ
- 089 M42H②③ チョット ソコマチ イツケルケド チョット
アスカッテイ モライマセンカ
- 090 F16M①② チョット スミマセンガ ヨソイ マリマスカラ
チョット アスカッテイ クダシイマセンカ

- 091 M61L②③ チョット ヨーゾガ アルカラ コノ ニモツオ
オアスカリ ネガイマセンカ
- 092 F17M①③ コノ ニモツ スコシノ ジカン アスカッテ イ
タダケマスカ
- 093 F69L②④ コノ ニモツ チョット オネガイ シマス
- 095 F18L②③ スミマセン ヨーゾ アリマスカチ チョット ア
スカッテ クダサイ
- 096 M28L①④ スミマセンケド コノ ニモツ スコシノ アイダ
カイモンガ スママチ アスカッテオイトイ タダケマセンカネ
- 097 M39M②③ スミマセンガ アスカッテイ クダサイ
- 098 F37L②④ アトチ チョット ヨソエ マリカカラ アトカラ
ニモツニ ナルカラ アトチ コノ ニモツ アスカッテイ クレマ
スカ
- 099 M46L③⑤ チョット ヨソエ イクチ コレオ タノム
- 100 M16M①① スミマセン チョット ヨーゾガ アリマスカチ
オカシテ イタダケマセンカ
- 101 M33M①① コノ ニモツ スコシノ アスカッテ モラエマセン
テシヨウカ
- 102 F16M②④ チョット ヨーゾガ アルカラ アスカッテ クダ
サイ
- 104 M27M①① スミマセンケド チョット 赤ニ ヨリマセン
テ カエリニ トリニ キマスケヒトツ アスカッテ イタダケマ
センカ
- 105 F30L③⑤ ワルイワネー チョット アスカッテ モラエナイ
カシラフ
- 107 F18M②③ スミマセンガ コノ ニモツオ スコシノ アイダ
アスカッテオイトイ クダサイ
- 108 M25M②③ アノ スミマセンケド チョット ヨーゾガ アリ
マセンデ ニモツオ チョット オカシテ 赤ンデスケドネ
- 110 F15L②③ スミマセンケド ヨーゾガ チキナチ コノ ニ
モツオ アスカッテ クレマスカ
- 111 M34H①② チョット 赤カエ イツキマスカチ コレ アス
カッテ クダサイマセンカ
- 113 M28M②③ スミマセンケドコ コノ ニモツ チョット ア
スカッテイ クダサイ
- 116 M26M②③ スミマセンケド チョット ヨーゾガ アリマスカ
チ カエツキマスケドネ チョット アスカッテ クダサイ
- 117 F31L①① イマカラ チョット モー イクケン ヨラシテ
イタダケ トコガ アリマスカチ ヨーゾオ スマシタチ トリニ キマ
スガ オルイリマスカチ アスカッテ イタダケマセンカ
- 120 M59L②③ アノー コエ チョット ヨソエ マリマシチガ
アルチ カイモノ スルカラ コレオ ゴツカ ジュッパン アスカ
ッテ モラエナイテシヨウカ
- 122 M56M②② オアスーデスガ スコシ シヨウガ アツテ ジ
キ モドリマスケドコ コノ ニモツオ オアスカリ ネガイタイト オ

- モイマス ヨロシク オネガイ イタシマス
- 123 F18M①① アノ スミマセンケド チョット ヨソエ マリ
マスカチ チョット アスカッテ イタダケマスカ
- 125 M25H②③ スミマセンケド チョット ヨーゾガ アルモンダ
カラ コノ ニモツオ クレマチ アスカッテイ クダサイ
- 126 M24L③⑤ ワルイケンガ コレ アツカッテ モラエンカノ
- 127 M28M③⑤ ワルイケド スダ クレチ ニモツ アスカッテ
モラエンカシラ
- 128 F25M②② スミマセン チョット イツキマスカチ ソノ
アイダ チョット オネガイ シマス
- 129 M22M②④ チョット スミマセン オイトキマスカチ
- 130 F36L②④ チョット コレ オネガイ シマス
- 132 F65L①② イマカラ ワタシ チョット オウカイ シテキマ
スケ チョット ココ オカシテ イタダケマセンケド
- 134 M73L②④ コレオ チョット タノムニ オイトイテ クダサ
イ、ジキ カエラチ
- 135 F38L②③ チョット ニジツェンツグライ 赤ノ ミセ
イツキマスカチ アスカッテイ クダサイ
- 137 F57L①① コレ、オアスーデスケドネ オルイリマスケドネ
チョット コノ ニモツオ オカシテ イタダケナイテシヨウカ スミ
マセンデ ゴサマスケド
- 138 F37L②③ スミマセン チートノ アイダ オカシテ クダサ
イネ
- 139 M71L②④ スマンガ ワタシ マダ チョット ヨル ミチガ
アルチ チョット ヨーノ スママチ アスカッテイ クダサイ
- 140 F74L②④ ジキニ カエツケルカラ チョット オイトイ
モラエマセンカ
- 141 M22M①① スイマセン ニモツ アスカッテ イタダケマセン
テシヨウカ
- 143 M53H①① スミマセンガ チョット ヨーゾガ アリマスカチ
チョットノ アイダ コレオ アスカッテ イタダケマセンカ
- 144 M17M③⑤ ワルイケド コレ アスカッテ モラエル
- 146 F35M①② アノー イマ ココチ カイモノ シツンデスケド
チョット ヨコラヘンマチ 赤ノ ヨーゾガ アリマスカチ アスカ
ッテイ イタダケマスカ
- 147 F30M①③ スミマセン アスカッテ イタダケマスカ
- 149 F40L②③ スイマセンケド コレ アスカッテ クダサイ
- 150 F67L②④ チョット ヨコマチ カイモニ イクチ チョ
ット コレ アスカッテイ クダサイ
- 151 M68L②④ ナニブントモ ヨロシク タノム、……マコトニ
スマツケドネ コレ ジューユーナ モラエ ハイツチオチヒトツ
シバラクノ アイダ ニサンジカン スマンケドネ アスカッテ イタ
ダケイ
- 152 M28M①① チョット アチラマチ イツキマスカチ スミマ
センケド アスカッテイ イタダケマセンカ

- 153 M92M②④ コノ ニモツ カエルマデ アスカットイテ クダサイ
- 155 F47L①② スミマセン チョット アスカット クダサイマセンカ
- 156 F73L③⑤ チョット ソコマデ イクテ オモイカラ オカシテ
- 158 M25L②④ チョット ヨーゾガ アルノデ アスカットイテ クダサイ
- 159 F20L①③ 赦に マダ コル トコロガ アルカラ イチジ アスカット イタダケマスカ
- 161 F61L②③ チョット オツカイ、イッテキマスト スミマセンガ アスカット クダサイ。ココ オキマスカラ オネガイ シマス
- 162 F20H①④ スミマセンガ ヨロニ ヨーゾガ アリマスノデ ニモツオ シバラク アスカット イタダケマセンカ
- 164 M42L②② スミマセンガ コノ ニモツ シバラクノ アイダ アスカット モラエマセンカ
- 165 M16M①④ チョット スミマセンケド ヨロニ マリマスノデ コノ ニモツオ スコノ アイダ 赦サセテ イタダケマセンカ
- 168 F62L②② チョット ヨロニ イキマスデ ワルイデスケド ニモツ アスカット クダサイ
- 171 F23L①① スミマセン コレ アトデ トリニ キマスケド アスカット イタダケマスカ アトデ ヨリマスケド
- 173 F44L③⑤ チョット ヒトマリノ シテカサテ タノムワネ
- 174 F61L①① オソレイリマスガ チョット アスカット イタダケマセンデショウカ
- 176 M21L③⑤ ワルイケドモ コレ チョット アスカット モラエルカネ
- 177 F24M②③ スミマセン チョット コレ アスカット クダサイ
- 179 F74L②③ オキノワザガ チョット オカシテ モラエマセンカ
- 180 M45L②③ マコトニ スミマセンケド イチジカンホド フコ フコイ イッテキマリスガ イマ カイモノ イクシマシタ コノ ニモツオ アスカット クダサイ
- 182 F32M①① スミマセンケド シバラク ニモツオ アスカット イタダケマスカ
- 183 F23M①④ スミマセンケド チョット ソコマデ イッテキイノデ モーシワケ ナイデスケド コノ ニモツ スコノ アイダ アスカット イタダケナイデショウカ
- 184 F49M①① オソレイリマスガ チョット ニモツ アスカット イタダケマセンカ
- 185 F32M②② スミマセンケレド チョット ヨロニ マリタイコトガ アリマスノデ スコノ アイダ ニモツオ オアスカリ ネガエマスカ
- 186 F33M③⑤ チョット ヨーゾガ アルカラ ココデ アスカ

- トイネ
- 188 M65L②④ スコシ シンヅツンバカシノ アイダ 赦サセヨーゾオ スマシテクタイデ ソレマデ コノ ニモツオ オネガイ シマス
- 189 F26L②③ ヨロニ チョット マリマスノデ コノ ニモツオ イチジ アスカット クダサイ
- 191 M25L②③ チョット マリミチ フツク ムコー シテキマスト チョット オネガイ シマス チョット アスカットイテ クダサイ
- 192 F16M③⑤ チョット ソコマデ カイモニ テカテカカハラ コレオ チョット アスカットイテ ウルン
- 194 F20M①① アノ オソレイリマス チョット マダ 赦に カイモノ ヨシマスノデ コハラ イチジ アスカット イタダケナイデショウカ
- 195 M44M①① マコトニ オソレイリマスガ コノ ニモツオ スコシノ アイダ アスカラサシテ イタダケマセンカ
- 197 M72L③⑤ コレ、アスカット ウルンカ
- 198 F15M②③ チョット、ヨーゾガ アソノケド、ニモツニ ナルカラ オカシテ モラエマスカ
- 199 F40M①① ツツンツライ 赦ノ カイモニ イキマスカラ オソレイリマスガ アスカットイテ イタダケマセンカ
- 200 F18M③⑤ チョット カイモニ イッテカサハラ コノ ニモツ アスカットイテ
- 201 M29M②③ スミマセン チョット アスカットイテ クダサイ
- 202 F70L①① アノ マコトニ オソレイリマスケド アスカット イタダケマセンカ
- 203 F49L②② スミマセン チョット ヨリミチ アル トコロガ アリマスカラ チョット ソコ オカシトイテ モラエマセンカ
- 204 M60L②③ ワタシ チョット フコドコマデ イッテキマスカハラ コレ ココニ オカシトイテ クダサイ
- 205 F65L②③ チョット ヨリミチガ シタイカラ ジキニ モラエマスカラ オアスカリ ネガイクタイデスガ
- 206 M64L②④ コノ ニモツ チョット アスカットイテ イタダケナイネ
- 207 F49M②② スミマセン チョット 赦に ヨーゾガ コサイマスノデ コノ ニモツ オネガイ シマス
- 209 F15L②④ チョット コレ アスカット モラエマスカ
- 210 F23L②③ チョット ヨーゾデ イッテキマスカラ オネガイ シマス
- 212 F23H①① マコトニ オソレイリマスケレド… チョット ヨーオ タシテクタイ トコロガ アリマスノデ、コノ ニモツオ、アスカラサシテ イタダケマスデショウカ
- 213 F31L①④ スミマセン ヨーゾガ テキクノデ チョット 赦に カイ ヨッテキマスカラ コノ ニモツ アスカット イタダケナイデショウカ

- 215 M41L①② フョット 赤エ イツキマスデ フョット ア
スカッテ イタダケナイデスカ
- 216 F26M②③ スミマセン ヒトマワリ シテキマスデ コエ
オカシテイ クダサイ
- 218 F58L②② フョット、スイマセンケド ワクシ ヨーゾガ テ
キチャツナデ コノ ニモツ フョット アスカッテ モリエマセンカ
シテ
- 219 M49L③⑤ フョット ワリーガ コレオ モツケンテ ワズ
カナ ジカンガ アスカッテ モリエン
- 220 M41M①① フョット マリミチ シテ 赤カテ カイモノ
スカラ スコシ アスカッテ イタダマセンカ
- 221 M56M③⑤ ニジカンダライ イチジマスオ オネガイ シタ
イ
- 222 F26L①① アノ スミマセンケドネ。ヨソエ マワリマスカラ
ニジカンダライ シタラ トリニ キマスデ、アスカッテ イタダ
マスカ
- 223 F63L①① スミマセンケド オカシテ イタダマセンテシヨ
ーカ
- 224 M21L②③ ワルイケド フョット アスカッテ モリエマスカ
- 227 F28M①① アノー ワルイデスカド、フョット ソコマテ マ
ダ イキタイ トコロガ アリマスデ コノ ニモツ アスカッテ イ
タダマスカ
- 230 F37H②② エー フョット、スミマセンケド コノ ニモツ
ニジツンダライ オネガイ シマス
- 231 M23H③⑤ フョット ソコマテ ソコマテカ、赤カニ マー
テカル トコロ アルデー フョット カエツツクルマデ アスカッテ
ホシイ
- 233 F25L②③ アノー ニモツガ オーイモンテ マダ マワル
トコロガ アリマスカラ スコシ アイダ アスカッテイ クダサイ
- 236 M33M①② エー マコトニ スミマセンケド フョット ソチ
ライ テカケニヤ ナランデ フョット コノ ニモツオ アスカッテ
クダサイマセンカ
- 237 M38M①① マコトニ オソレイリマスカラド、フョット 赤
カエ ヨーゾク クシタイノデ コノ ニモツオ アスカッテ イタダ
マセンカ
- 240 M20M②④ コレカラ 赤カニ ヨーガ アルノデ コレ アス
カッテイ クマセンカ
- 242 M31M①① オソレイリマスカラド コノ ニモツオ アスカ
ッテ イタダマスカ
- 243 M63L②④ フョット オツカニ イツツクルカラ カエリニ
ヨルカラ アスカッテイ クダサイ
- 245 M52L②④ フョット モー イクン ヨーカシニ イカラ
ソルマデ アスカッテイ モライタインダガ イーデスカ
- 246 M23M②③ モーソウケ ナイケド フョット アスカッテ ク
ダサイ、スガ カエツツクルカラ
- 248 M56L②③ フョット カイモノガ キンゾウデ アリマスデ
フョット アスカッテ モリエマセンカ
- 249 F42H①① スイマセンケド フョット ニモツ アスカラシテ
イタダマセンテシヨーカ
- 250 M22H①① スイマセンケド、フョット ワクシ、ヨーゾ
コノ ニモツ、ココニ オカシテ イタダキタインデスカド、ヨロシク
オネガイ シマス
- 251 F36M①① オソレイリマスカラド、フョット 赤カエ ヨーガ
アリマスデ アスカッテ イタダマスカ
- 252 F26M①① スミマセンケド、フョット ニモツオ アスカ
ッテ イタダマセンカ
- 254 F32L③⑤ フョット イク トコロガ アリマスデ、コレ
アスカッテ ホシイ
- 256 M24H②③ スイマセンケド フョット コノ ニモツ アスカ
ッテ モリエマス
- 258 M34M②③ フョット カイモノ イキマスデ、オネガイ シマ
ス
- 260 F33M①① スイマセン フョットー、アチラマデ イツキマ
スカラ ニモツ オカシテ イタダマスカ
- 261 M42L②③ コノ ニモツオ スコシ アスカッテ クダサイ
オネガイ シマス
- 262 F47M②③ フョット スイマセンガ、コレ カエリマデ アス
カッテ クダサイ
- 265 M24M②③ フョット コレ アスカッテ モリエマセンカ
- 266 F22M②③ コレオ フョット アスカッテ イタダキタイノデ
スカ
- 267 M39M①② フョット スイマセンケド、ヨソエ マワツキマ
スカラ、フョット アスカッテイテ クダサイマセンカ
- 269 M59L③⑤ サンジツンバカリ、フョット コレオ アスカ
ッテイ ホシイ
- 270 F28H②③ スイマセン、フョット コレ アスカッテイテ ク
ダサイ
- 271 M32L③⑤ フョット ニモツ アスカッテ クレナアイ
- 272 F38M①② アノ、オソレイリマスカラド、フョット ヨソエ
マワリマスデ イチジ アスカッテ クダサイマセンカ
- 273 F27H②② スミマセンガ フョット イキタイ トコロガ ア
リマスデ スコシノ アイダ オカシテイテ モリエマスカ オネガイ
シマス
- 275 F50L②④ カエリマデ フョット アスカッテイテ クダサイ
- 276 F22L②④ フョット ヨル トコロガ アルデ アスカッテイ
テ クダサイ
- 278 M41L②③ フョット スイマセンケド、テニモツ フョット
アスカッテ モリエマセンカネ
- 279 F60L②② スイマセンケド フョット マリミチ シタカラ
コノ イチジ オネガイ シマス

- 281 F38H①① スイマセンケド コレ アスカットイテ イタヂク
ナイデショカ
- 284 F33M①① アノ マコトニ オルレリマスケドモ、チョット
ヨソエ マワリタイ コトガ アリマスカラ オオスー カケテ モー
シツケ アリマセンケド ニモツオ アスカットイテ イタヂクマセンカ
- 285 M66M①① マコトニ スマケドモ、チョット ヨソエ ヨー
ジガ アツテ マワリマスナジ、アツカットイテ イタヂクマセンカ
- 287 F23H①① スイマセン、モーシツケ ナインヂスケド、チョッ
ト カイモニ イツテキタイナジ、コノ ニモツ チョット アスカッ
テ イタヂクナイデショカ
- 288 M47H②③ チョット ヨーダシニ イツテキマスナジ コノ
ツウミオ アスカット モラエデスカ
- 290 F41H①① チョット スイマセンケドモ、ヨソエ マワリタ
イト オモイマスナジ、コレ シバラク アスカットイテ イタヂクナイデ
ショカ
- 291 F24H①② アノ、チョット ヨソエ イツテキマスナジ カエ
ルマデ アスカットイテ イタヂクマスカ
- 292 F21H①① スイマセンケド、ニモツ アスカットイテ イタヂ
クマセンカ
- 293 F22H①① チョット カイモノ シツキマスナジ、チョット
ニモツオ アスカットイテ イタヂクナイデスカ
- 294 F19H②③ スイマセンケド、チョット、チカケテキタイナジ
コノ ニモツ アスカットイテ クダシイ
- 296 M33L②③ スイマセン チョット 赤カエ ヨーダシオ シテ
キマスナジ チョット オイトイテ クダシイ
- 297 F48L①② チョット ヨーダシガ アリマスナジ ニモツオ ス
コシ アスカットイテ イタヂクナイデショカ
- 299 M35H②③ チョット、ヨソエ イツテキマスナジ、アスカッ
テイテ クダシイ
- 300 F46L①③ スイマセンケド アスカットオイトイテ クダシイマセ
- 302 F58L②④ チョット コノ ニモツ オネガイ シマス
- 303 F55L②③ ヨソエ チョット イキマスナジ コレ アスカット
イテ クダシイ
- 305 M33H②③ チョット ヲコマデ イツテキマスナジ ソノ ア
イダ コノ ニモツオ アスカットイテ クダシイ
- 306 F37M①① スイマセンケドガ、チョット ヨソニ イキマス
ナジ コノ ニモツ アスカットオイトイテ イタヂクマスカ オイノガシイ
トコ スイマセンネ
- 308 M19M②③ スイマセン、コレ アスカット モラエマスカ
- 309 F25H①① スイマセンケド チョット 赤カエ カイモノ シ
マスナジ チョット コノ ニモツ アスカットイテ イタヂクマセンカ
- 311 F24M②② チョット ヨーダシガ アリマスナジ オルレリマ
スガ コレオ スコシノ アイダ アスカットイテ モラエマセンカ
- 312 M33L②④ コノ ニモツ クリマスカ
- 314 M34M①① チョット 赤カエ ヨーダシノ アイダニケドカ

- エルマデ チョット アスカットイテ イタヂクナイデショカ
- 315 F30M①① スイマセンケド チョット コノ ニモツ アスカ
ットイテ イタヂクマスカ
- 317 F48L①② イマカラ チョット ヨソエ マワリマスカラ ニ
モツオ チョット オカシテ イタヂクマスカ
- 318 F60M②③ チョット ニモツ モツテ ヨソエ マワリナケレ
バ ナリマセンガ オオスカリ ネガエマセンカ
- 320 F17L①① イマカラ チョット カイモニ チカケマスナジ
スミマセンガ アスカットイテ イタヂクマスカ マタ ヲーガカ ナン
カ カエリニ ヨリマスナジ
- 321 M33M②② チョット スイマセンガ ヨソエ マワリマスナジ
シバラク コノ ニモツ アスカットイテ モラエマセンカ
- 323 F21M②③ スミマセン イマカラ チカケマスナジ コノ ニ
モツオ アスカットイテ クダシイ
- 324 F23M①③ チョット オイトイテ クダシイマセンカ
- 326 M27H②③ スイマセンケド、ソコ オイトイテ クダシイ ス
ク キマスカラ
- 327 F23L①① スミマセン、チョット イマカラ チカケ、ヨソマ
デ ヨツテキマスナジ、チョット アスカットイテ イタヂクマセンカ
- 329 M44M①② チョット シヨオガ アルナジ テニモツガ フ
ンゴ カンゾルナジ スコシ アスカットイテ イタヂクナイデショカ
- 330 M75L②④ スミマセンガナ、コノ ニモツオ チョット ア
スカットイテ モラエマカネ、ワタシ、チョット ヲコマデ ツカイ イツテ
ソノ ナラナカラヨ、オネガイ シマス
- 331 F57L②④ チョット、オモイマスカラ、チョット、ニモツニ
ナリマスカラ チョット ココロニ オカシテ イタヂクナイカネ
- 332 M29H①① オルレリマスガ イマカラ カイモニ チカケ
マスナジ ソノ アイダ マコトニ スミマセンガ ワタシノ ニモツオ
アスカットイテ イタヂクタイト オモイマスカラ イカガデスカ
- 333 M40L③⑤ チョット イマカラ ヨーダシガ アルナジ イチカ
ンゾライ ヨーダシ マスシカラ クレテ ソルマデ チョット オイトイ
テ モラエマカネ
- 334 F67L②④ ワタシノ イマカラ チョット チカヘトオ マワ
リキタイトコガアルアルナジ コノ ニモツガ オネガイ オオスカ
リ シト クレマセンカ
- 335 F27M②③ スミマセン チョット オネガイ シマス
- 337 M51L③④ チョット ヲコマデ イツテマスカラ コレ アスカ
ットイテ クダシイ
- 338 F40L②④ チョットノ アイダ コレオ オカシテオイトイテ
クダシイ
- 339 M74L②③ クレマセンガ スコシノ アイダ オオスカラ オ
ネガイ
- 341 F15L②④ チョット アスカットイテ チョーダシ
- 342 M35M①③ ニモツ オオスカリ クダシイマセンカ
- 345 M28L①① スミマセンケド ニモツオ コノニ チョット ア

- スカッテ イタダマセンカ
 347 F62M①① マコトニ スミマセンガ、コノ ツツミオ トコチ
 モ ヨロシカラ チョット、オアスカリ イタダマセンカ
 348 M19M②③ チョット スミマセンガ ヨソニ ヨーゾガ アリ
 マスナド コノ ニモツオ チョット アスカットイテ クダサイ
 350 F37M①③ ニモツオ、チョット アスカットイテ イタダナ
 イヂンヨーカ
 351 F49L②② チョット オルレイリマスガ コノ ニモツオ オ
 初イ シタインデスガ
 353 F22L①① モーシク ナインデスケド コレ スコシノ シ
 カン アスカッテ イタダマセンカ
 354 F31M①③ チョット アスカッテ イタダマセンカ
 355 M37M②③ チョット 初イ ヨーゾガ チキナリ チョ
 ト コノ ニモツ アスカッテ モラエンデスカ
 356 M31H②③ オルレイリマスガ チョット アスカッテ モラエ
 マセンカ
 357 F23L③⑤ マダ ヨソニ カイモノガ アルカラニ ニモツニ
 ナルカラ コノ ニモツ アスカッテオイト モラエル
 358 M34L③④ チョット スミマセンケド チョット オウカイニ
 イツケル アイダ チョット アスカットイテ モラエンカネ
 359 F45H①① スミマセン チョット カイモノ シテマイリマス
 テ チョット アスカッテ イタダマセンカ
 360 F74L①① マー オジマデシヨーガ チョット アスカッテ
 イタダマセンカ
 361 F68L①③ チョット ヨソエ マワツキマスデ ニモツニ
 ナルチ カエリマデ オイト クダサイマセンカ
 362 M32L②③ スコシノ アイダ アスカッテ モラエマスカ チ
 ョット ノコマデ イツキマススカ
 363 M54L①① スミマセンケド、ハンニチガライ チョット オ
 イトイテ イタダケンデシヨーカ チョット ヨソエ イキタイト オ
 モイマスケド
 365 F55H①① オルレイリマスケド チョット イウ トコガ ア
 リマスチ コレ オカシテ イタダマセンカ
 366 F61L②③ チョット ヨソミチガ コシイマスナリネ オアス
 ーデガ コノ ニモツオ イチジカンホド アスカッテ イタダキタイ
 367 M42L①① アノ、チョット スミマセンケド、コノ ニモツ
 オ スコシノ アイダ アスカッテ イタダマセンカ、ニサンゲン ム
 コノ アノ タケヤエ イツキマスナリ ヨロシク オネガイ オネ
 ガイ シマス
 368 M47M②③ チョット ヨソエ イツキマススカ コノ ニモ
 ツオ チョット クリマズ
 369 F47L③④ スミマセン コレ チョット アスカッテ モラエ
 ル
 374 F23M①① スミマセンケド カイモノガ アリマスナリ スミ
 マセンケド ニモツオ スコシ アスカッテ イタダケンデシヨーカ

- 375 F21L①① オルレイリマスガ チョット チカケマスモノデス
 カ アスカッテ イタダマセンカ
 377 F28M①① スミマセンガ チョット コノ オニモツ アスカ
 ッテ イタダマセンカ
 378 F56M②③ チョット スミマセンケド カイモノ シテイキマ
 スカラ アスカットイテ クダサイ
 379 M32H②③ マコトニ スミマセンケド アスカッテ クダサイ
 380 F75L②③ オルレイリマスガ チョット コレオ アスカッ
 テイ クダサイ
 383 M55L②④ チョット チカケマス イウカラ チョット アス
 カッテ クダサイ
 384 F22M①② イマ ココチ カイモノ シタ モノナデスガ
 サキニ ヨーゾガ アリマスナリ、スコシノ アイダ アスカッテ イ
 タダマセンカ
 387 F54L①① スミマセンガ チョット オニモツ アスカッテ
 イタダマセンカ ウエマデ イツキマスデ
 389 F28L③⑤ チョット アスカッテ クレナイカネー
 390 F78L NR
 392 F69M③③ スミマセンガ チョット ヨーケン シテケルカラ
 ネ オネガイ シマス
 393 F23H①① チョット ヨソエ カイモノニ イキタインデスケ
 ド、スミマセンケド、コノ ニモツ アスカッテ イタダマセンカ
 395 F38L①① アノ マダ オカイモノガ アリマスナリ ソノ
 アイダ コノ オニモツオ スコシ アスカットイテ イタダマセンカ
 396 M65M③⑤ マコトニ スミマセンケド コノ ニモツ チョット
 スマナガ アスカットイテナカ
 397 M16L②③ スイマセンケド コノ ニモツオ アスカッテオイト
 テ クダサイ
 399 F21M①② チョット 初ニ マワツキマスナリ スコシノ
 アイダケ コレオ アスカッテ イタダマセンカ
 401 F66L①① マコトニ ヲルイデスケド チョット マワリミチ
 ガ アルカラ、アスカッテ イタダケンデシヨーカ
 402 F62M②④ チョット コレ アスカットイテ チョーザイ、ア
 トカラ ヨリマス
 404 F47M③③ サンジツプントカ イチジカン スキタラ キマス
 カラ、チョット ニモツオ アスカッテオイト クダサイ
 407 F21M①① スイマセン チョット カイモノ シテキマスナリ
 コレ アスカッテ イタダマセンデシヨーカ
 410 M22H①① スミマセンケド コノ ニモツオ スコシノ アイ
 ダ アスカッテ イタダケンデシヨーカ
 411 M16M②② スミマセンガ チョット ショーヨーノ クニ
 イク トコロガ アリマスカラ、スコシタケチ アスカッテ モラエマセ
 ンカ
 413 F55L①① スミマセンケド チョット ヨソエ マワリマスカ
 ラ オイト イタダケンデシヨーカ

- 414 M45L②③ オラス-ヂスガ モシ ヨカツカラ コノ ニモツ
オ シバラク アスカッテ イクダケナカ
- 417 M49L③⑤ オイ チョット クノム
- 418 F28M①① スミマセンケド コノ ニモツ チョット ア
スカッテ イクダケマセンカシラ
- 419 F34M②③ スミマセンケド、コノ ニモツ オネガイ イタシ
マス
- 420 F33L③⑤ チョット イツケルカラ ココ オカシトイテ
- 423 F65L①② チョット オツカイニ イツキマシテネ。スミマ
センケド チョット アスカッテ クダサイマセンカ
- 426 F33L②③ スミマセンガ、チョット ソコ カイモノ シテキ
マスカラ オカシテ クダサイ
- 428 F22H②③ アノー チョット ヨソエ カイモノ シテキマ
シテ コノ ニモツ スコシバカリ アスカッテ モラエナイヂスカ
- 429 M42L②③ チョット スミマセン。チョット ニモツオ オカ
シテ モライマス
- 431 F25H①① アノ オノレイリマスケド イマカラ チョット
赤に カイモノ アルモンヂスカラ オラス-ヂスケド、アスケテオ
イト イクダケマスカ
- 432 M35M③⑤ チョット ヨソエ マリリクインヂ チョット コ
ノー ニモツ アスカットイテ クレムカナー
- 434 F25L①② アノー チョット ヨソ、マリリクインヂスケド
コノ ニモツ オイト イクダケマスカ
- 435 F19H①① スミマセンケド コレカラ ヨソエ カイモニ
イキマシテ コレア スミマセン、アスカッテ イクダケマスカ
- 436 F69L②③ チョット、ヨソエ イキマシテ、ド-カ、コレオ、
オアスカリ オネガイ シマス
- 438 F34L②③ スミマセン、イマカラ マワツテキマスカラ チョ
ット ニモツ オイトイテ クダサイ
- 439 M20M②② スイマセン チョット マダ 赤い マワル ヨ
-ジガ アルモンヂスカラ、スガ オリリマスケド チョット アスカッ
テ モラエナイヂシヨ-カ
- 440 F74L①① スミマセンヂスケドネ、チョット オネガイ チキ
マセンヂスカ
- 441 F31L②④ チョット ヨソエ マリリクイカラ コレオネ ス
コシ アスカッテ クダサイ
- 443 M18L②② マコトニ スミマセンケドネ チョット ヴェツブ
ンホド テテキマスカラ アスカッテ モラエマスカ
- 444 F22M②② モ-シワケ ナインヂスケド シバラク ニモツオ
アスカッテイテ モラエマセンカ
- 447 F20H②② スミマセンケド、赤い マワツテキマスカラ チ
ョット ニモツオ アスカッテオイトイテ クダサイ。スガニ トリニ キマ
ス。オネガイ シマス
- 449 M49M③⑤ チョット ニモツ オイトイテ クレ
- 450 F19M①① スミマセンケド チョット マワツテイキイ ト

- コロガ アリマシテ コノ ニモツ シバラク アスカッテ イクダ
マセンヂシヨ-カ
- 452 M59L②③ ヨ-ブクヤンエ イツキマスカラ ソノ カン
サンジツツンダラ カカリマシガ アスカッテ クダサイ
- 453 F15M①① スミマセンケド スコシノ アイダ コノ ニモツ
アスカッテ イクダケマスカ
- 454 M19M②③ チョット イツキマスケドネ、スミマセン、オイ
トイテ クダサイ
- 455 F34M②② スミマセンケド 赤い マリリマスカラ コノ
ニモツ アスカッテ モラエンヂスカ
- 456 F16M②③ スミマセンケド、ニモツ アスカッテ モラエマ
スカ
- 458 M31L①① スミマセンガ スコシ チョト ヨ-クシニ イキ
マセンヂ チョト スミマセンガ ニモツ チョト オアスカリ 赤
イマセンヂシヨ-カ
- 459 F17M②② スミマセンガ、チョット チカケテイキマスカラ
チョット ミテイテ クレマセンカ
- 462 M23M③⑤ チョット ワルイケド アスカットイテ モラエン
カネ
- 463 M58M②③ チョット ヨ-ジガ アルヂ コノ ニモツオ イ
チジ アスカッテ モラエマセンカ。スガ カエリマス
- 464 M74L②④ ナオ カイトキマシ、オイト オクレマス
- 466 F32M①① スイマセン。チョット アスカッテ イクダケマセ
ンカ
- 467 F61M①① マコトニ コムンヂスケド、シヨ-シヨ-ノ アイ
ダ コレ オアスカリ イクダケイデマスカ
- 468 M36L②④ オネガイ シマス
- 470 M38H②③ チョット 赤い マリリクイカラ イクナイ ヨ
-ジガ アルカラ チョット シバラクノ アイダ コノ ニモツオ ア
スカッテ モラエナイカ。ヨソ サンジツツンヂ モドリマスカラ、ソ
レマデ オネガイ シマス
- 471 F32L②④ ニモツ チョット アスカッテイテ クダサイ
- 473 M19M②④ モ-、ヨ-ガ アルノヂ、アスカッテイテ クダサ
イ
- 474 M20M②② スミマセン、チョット、アノ トコニ イキイモ
ンヂ ニモツオ アスカッテ モラエマセンカ
- 476 M19M②④ チョット、ヨ-ジガ アルノヂ、コレオ シバラク
ノ アイダ アスカッテ クダサイ
- 477 M25H②④ スミマセン、チョット ヨ-ジ アリマシテ チ
ョット アスカットイテ
- 479 M15L②③ チョット ヨ-ジガ アルノヂ コノ ニモツオ
アスカッテイテ モラエマセンカ
- 480 M16M①① スミマセン、チョット ヨ-ジガ アリマシテ
コノ ニモツオ アスカットイテ モラエマセンシヨ-カ
- 481 F63L②③ モ-シワケ ナイケドネ チョット イツキマシ。

- ニモフ オネガイ シマス
- 482 M29M②③ スミマセン チョット ヨーゾガ アルナデ コノニモフ アスカッテ クレマセンカネ
- 483 M34H②④ チョット コノニモフ タノミマス
- 485 F49L①① チョット スイマセンケド コノニモフ アスカッテ イタダキイデスケド
- 486 M43L②③ チョット スイマセン、ワタシ チョット ヨーゾ オモイダシクモンデスカラネー コノニモフ オタクサンデ チョット アスカッテ モラエマスカネ
- 487 F29L②④ イチジ アスカッテ クダサイ
- 488 M68L③⑤ チョット アスカットイテ モラエナイカ、ジキニカエルカテ
- 489 M29L②④ チョット イツケルチネ チョット オカシトイテ チョーダイ
- 490 F50L②③ アノー スイマセン チョット ほかニ ヨーゾガ アリマスデ オレレリマスガ チョット アスカッテ クダサイ
- 491 M28M②② オレレリマスガ スコシノ アイダ ニモフオアスカッテ モラエマセンカ
- 492 F27L③⑤ おジジニ ニモフ オカシテ
- 494 F15L②④ ニモフ アスカッテ クレマスカ
- 495 F49L①③ チョット、ソコマデ ヨーガ アルンケド、コレアスカッテ イタダキマスカ
- 496 F38L②② チョット スイマセンケド マダ チョット カイモガ アリマスケド コノニモフ イチジアリナ ねがエナイデシヨーク
- 497 F21M②③ スイマセンケド チョット ヨーダシオ シタイノチ チョット スコシノ ジカシ アスカッテ おしんデスケド
- 498 F50L①① チョット スイマセンデスケド ニモフ アスケシテ イタダキマスカ、おねがい シマス
- 500 F46L②③ スイマセンガ コレオ チョット アスカッテ クダサイ
- 503 M21L②③ アノ、おノノ ワスカデスケド チョット アスカッテ クダサイ
- 504 M17M②④ アノ、チョット ほかノ トコニ イクナデ コノニモフ アスカットイテ クダサイ
- 506 F41L②③ スイマセン チョット ヨソニ イツキマスカラ おねがい シマス
- 507 M41L③⑤ チョット ヨソニ イクナデ ニモフ アスカッテ クレシカ
- 508 M23L②③ スイマセン スガ カエツキマスカラ、ダイジナモノダ ナイデスカラ スコシ アスカッテ クダサイ
- 509 F30L②③ コレ チョット アスカッテ クダシカシテ
- 510 F18M①① スイマセンケド チョット ヨツテイク トコロガ アルナデ、スコシノ アイダ オイテ イタダキマセンカ
- 512 F17M①③ スコシ ヨーゾガ アリマスデ コノニモフオ

- アスケテオイト クダサイマセンカ
- 513 F35M①②② チョット ヨル トコロガ アリマスカラ ニモフオ アケサシテ イタダキマスデ ヨロシク おねがい イタシマス
- 514 F28L①① アノ スミマセンケド、ほかニ イツカシヨ マウリタイ トコロガ アリマスカラ チョット アスカッテ イタダキイデスケド
- 515 F53L②③ チョット スイマセンガ オカシテ クダサイ
- 516 M38L②③ チョット イマカラ カイモノ シマシテ、コレオ オタクニ アスケテイツテ クダサイ。ナンジヨロマデニ ココニカエツキマス ヨロシク おねがい シマス
- 517 M59M①① チョット ヨリミチガ アリマスデ オレレリマスガ アスカッテ イタダキマセンカ
- 518 F42L②③ スミマセン、アタシ、チョット ヨーゾガ アルデスガ カエルチ おねがい シマス
- 519 F30M②③ スイマセンケド コノニモフ スコシノ アイダ アスケテ クダサイ
- 522 F46L②③ チョット チカクマデ イツキマスカラ ニモフおねがい シマス
- 525 M36L②④ コノニモフ おねがい シマス
- 527 F25L②② チョット ヨー オモイダシクシテ スイマセンケド コレ おねがい チキマセンカ
- 528 M41M②③ ヤマシタジニ モーシワケ ナイケド チョット コーコーユーー トコ イツキマスカラ シバラク コレオ アスカットイテ クレマセンカ
- 531 M26L①① チョット スイマセンケド ヨーゾガ アリマスデ スコシノ アイダ アスカッテ イタダキマセンカ
- 533 M48L②③ ヨソニ ヨーゾガ アリマスカラ カエリニ モラツキイマスカラ アスカッテ クダサイ
- 534 F18M①① モーシワケ アリマセンケド チョット、ほかデ カイモノ シタイノデ、ソノ アイダ アスカッテ イタダキマスカ
- 537 M35M③⑤ チョット ヨーゾガ アルデ アスカットイテ モラエカネ
- 539 M24H②③ チョット ヨル トコロガ アルカテネ、カエリ マタ ヨリマスカラ チョット オカシテ クダサイ
- 540 M72L②④ チョット ヨーゾ シテクルカテ ニモフ オカシテ クダサイ
- 542 M51L②③ チョット オタクデ シタモノ カイマシタガネ、チョット ヨリミチガ アリマスデ シバラク カエリマデ アスカットイテ モラエナイデシヨーク
- 543 M55L③⑤ ココニ イツケルチ、チョット アスカッテ クレシカ
- 545 M46H①① マコトニ オレレリマスガ ニモフオ スコシ オアスカラ イタダキマセンカ
- 546 F36L②② スイマセンケド、ヨソニ マイマスモンデスカラ チョット アスカッテ モラエマセンカ

- 548 F51H①② スミマセンケド、チョット 赤エ ヨーヅニ イ
ツキマスノテ、アスカッテ クダシイマセンカ
- 551 F45H③⑤ ヨシ マツリイ コトガ アルカテ ニモツオ
モツテマ マスノテ アスカッテ ホシ
- 552 M24M①① マコトニ キョーシユクテマ コシイマスケド、コ
ノ ニモツオ スコシ チョット アスカッテ イタダキナシカ
- 554 F43H①① マコトニ スミマセンケド、コレ チョット オカ
シテ イタダキマセンカ
- 555 F50M①① アノ、マコトニ スミマセンガ チョット ヨー
ヅオ オモイダシマシクンテ コレ、アスカッテ イタダキマスカ
- 557 F31M②③ アー、チョット モー イクン ヨロニ ヨーヅ
ガ アツテ イキマスカラ コメーワクテモ チョット コノ ニモツ
アスカッテ クダシイ
- 558 F49L②③ チョット ヨロニ ヨリマスデ、コノ ニモツ オ
ネガイ シタイデスカド
- 561 F22H②③ アタシ イマカラネ、ドコドコニ チョット 子カ
ケテクルカラ ワルイケド コレ チョット アスカッテイテ クダシカ
- 565 M45L②③ スミマセンケド ヨシエ イキマスノテ チョット
オカシテ クダシイ。スガ キマス
- 566 F15L①② アノ チョット ヨシエ ヨツテカク トコロガ
アルノテ チョット アスカッテオイトイ イタダキマセンカ
- 567 F21H②③ チョット ヨシエ イツキマスノテ スミマセン
ケド ニモツオ スコシノ アイダ アスカッテ クレマスカ
- 568 F28M③⑤ ワルイネー、オジサン。チョット アスカットイ
ネ。スガ カイッテクルデネ
- 569 M26L③⑤ チョット イツテクルカラ タノム
- 570 F42M②③ チョット 赤エ ヨーガ アリマスデ チョット
アスカッテイテ クダシイネ
- 572 F29L①① スミマセンガ チョット コレ アスカッテ イ
タダキマスカ
- 575 M17M②③ イマ 赤ウ チョット ヨーヅガ アツテ 赤
ノ トコロニ マツテイル アイダ、コノ ニモツオ アスカッテ モ
ヲイナシショカ
- 576 M26H①③ スコシノ アイダデスカ、アスカッテ イタダキマ
センカ
- 578 M37M②② チョット ソコマデ ヨーヅガ アリマスノテ、コ
ノ ニモツオ スコシノ アイダ オアスカリ ネガエマセンカ
- 579 M43M②③ チョット ワタシ 赤エ ヨーヅガ アリマスデ
チョット コノ ニモツ アスカッテ クレマスカ
- 581 F54M③⑤ コレ チョット ココニ オカシテネ
- 582 M17M②③ スガ トリニ キマスカラ シバラクノ アイダ
アスカッテイテ クダシイ
- 583 F61L②② マコトニ スミマセンガ チョット ヨシエ マ
リマスノテ シバラク アスカットイテ イタダキイ オネガイ シマ
ス

- 584 F19H②③ スイマセン コノ ニモツオ アスカッテ クダシ
イ
- 585 F45L①③ チョット オニモツ アスカッテ イタダキマセン
カ
- 586 M36M②③ スイマセンガ チョット 赤エ マツツリクル
ラ ニモツ オネガイ シマス
- 587 F16M③⑤ チョット ヨーガ アルノテ モドツテクルマデ
アスカットイテ
- 588 M33M②③ チョット ソコマデ イツキマスノテ コレ ア
スカットイテ クレマセンカ
- 590 F33M②③ スイマセンケド コレ チョット オネガイ テキ
ナシショカ
- 591 F28L②④ ワルイケド チョット オカシテ クダシイ
- 592 M42L②③ ナンノマデニ モドリマスデ コノ ニモツオ
アスカッテ クダシイ
- 593 F36L②③ チョット カイモノニ イツキマスデ オネガイ
シマス
- 594 F49L②③ アノ、コノ ニモツオ スコシ、チョット イ
テクル ジカンダケニ アスカッテ イタダキイ、オネガイ テキマス
カ
- 596 F29M②③ アノ スミマセン イマカラ チョット イク ト
コロガ アリマスカラ ワリマデスカド コノ ニモツオ ココニ オ
カシテ クダシイ
- 597 F37M①① アノ チョット オルイリマスケド マダ 赤
エ マワル ツゴヘ アリマスノテ チョット ココニ アスカッテ
イタダキマスカ
- 599 F48L①① スミマセン コシユジシ チョット マダ イツ
クヨル トコロガ アリマスカラ チョット アスカッテオイトイ イ
タダキマセンカ オネガイ シマス
- 600 F27L②③ スミマセンケド ニモツオ イチジ オカシテ モ
ライマス

傘 忘 れ (104)

- 002 M49L②③ アタシノ カサデヲ ナイデスカ
- 003 F43L②③ アノ オキヤクシシ コレ オタクノ カサデヤ
ナイデスカ
- 005 M26H①③ チョット カサオ オウズレデスカ
- 006 M50H②③ モシモシ カサオ オウズレ シマセンカ
- 009 F38L②③ オウズレモンデスカ
- 011 F42M①① アタシ カサ オウズレニ ナリマセンカ
- 012 F44L①① アノー モシモシ アノー オタクノ カサデヤ
アリマセンデスカ
- 015 F38L NR
- 017 F56L②③ オタクノ カサデヤ ナイデスカ

- 018 F39M②② カサ ワスレテラッシャイマスヨ
020 M68L①① アンタ カサオ オワスレニ ナリマシタヨ
023 F46L②③ カサ オワスレジャ ナイデスカ
024 F17H②④ カサ ワスレマシタヨ
026 F69L③⑤ モシモシ ワカイ ニーサン
027 M22M③⑤ モシモシ カサ ワスレタヨ
029 F30M②③ モシモシ カサ オワスレジャ ナイデスカ
030 M17L②④ チョット ソコノ ヒト カサ ワスレマシタヨ
033 F48M①① チョット ソノ カサ カサ オワスレニ ナリマシタカラ
035 F47M②② チョット オタクサシ、カサ ワスレナサツタジャ ナイデスカ
036 F68L②④ モシモシ チョット アンタ カサ ワスレテアリマスヨ
038 F43M②③ モシモシ コレ オタクサシノ カサジャ ナイデスカ
039 M41L③⑤ チョット ワスレモン シタヨ…… アンタノジャ ナイカネ
041 F47H②② ソコニ イマ オチノ カサ カサオ ワスレテ イラッシャイマスカラ オチク クザイ
042 M20L②④ カサ ワスレマシタヨ
043 F63L②③ チョット カサオ ワスレタジャ ナイデスカ
045 M19L②④ モシ ワスレモンデスカ
046 F72L②③ モシモシ アンタノ カサチワ アリマセンカ
047 F40L①① カサ オワスレニ ナリマシタヨ
048 M61L③⑤ はい、カサ
050 F67M②④ アンタ カサ ワスレマシタヨ
052 F58H①① チョット カサ オワスレニ ナツテミエマスヨ
053 F33M②③ オタクノジャ ナイデスカ
054 M80M②③ モシ コノ カサ アンタノチワ ナイデスカ
056 F26H②③ カサ オワスレジャ ナイデスカ
057 M36M②③ カサ オワスレデスカ
059 M24H②④ チョット カサ ワスレマシタヨ
060 M22L②④ チョット カサオ ワスレマシタヨ
063 F25L①① アー カサ オワスレニ ナリマシタヨ
065 F30L①③ モシモシ カサ オワスレデスカ
066 F38M②③ オタクノ モノジャ ナイデスカ
068 F36L②③ チョット アノー コレオ アンタノ カサジャ ナイデスカ
069 M29M②④ アー カサオ ワスレカケマシタヨ
071 M52L③⑤ はい、チョット カサ ワスレタヨ
073 F23M①③ スミマセン カサ オワスレデスカ
074 M28H②④ チョット チョットー。ワスレモノデスカー
075 F34H①① オタク、カサオ オワスレニ ナリマセンカ
077 F39L②④ モシモシ カサオ ワスレマシタヨ
078 F30L②④ ワスレモノデスカ
080 M18M②③ アー コノ カサ アンタノ ヤツジャ ナイデスカ
084 M47H②④ チョット、チョット、カサー ワスレマスヨ
086 F27L②④ カサオ ワスレマシタヨ
087 M25M②④ カサー ワスレマシタヨー
089 M42H②④ ア チョット チョット ワスレモンデスカ
090 F16M②③ コレ アンタノ カサデスカ
091 M61L②③ チョット アンタ カサ ワスレテイカレマシタカラ
092 F17M②③ チョット マッテ クザイ コレワ アンタノ カサチワ ナイデスカ
093 F69L②③ アンタ カサ ワスレマセンカ
095 F18L②③ コノ カサ アンタノ チガイマスカ
096 M28L②④ アー カサ ワスレマシタヨ
097 M39M②④ ア ワスレモンデスカ
098 F37L②③ チョット オタク カサオ ワスレマセンカ
099 M46L③⑤ アンタ カサ ワスレトモヨ
100 M16M②④ カサ ワスレマシタヨ
101 M33M②④ チョイト ワスレモノデスカ
102 F16M②④ カサオ ワスレマシタヨ
104 M27M②④ チョット カサ ワスレマシタヨ
105 F30L②④ アー チョット チョット ソコノ ヒト カサ ワスレマシタヨ
107 F18M①① カサオ オワスレニ ナツテイマセンカ
108 M25M②③ モシモシ アノ オタクサシノ カサジャ ナイデスカ
110 F15L②④ イマ オリテキヒト チョット マッテ クザイ カサ ワスレテイマス
111 M34H③⑤ ア カサオ
113 M28M②④ モシモシ カサオ ワスレマシタヨ
116 M26M②④ カサオ ワスレマシタヨ
117 F31L②③ モシ アンタ カサオ ワスレテワ イマセンカ
120 M59L②③ アー モシモシ アノー カサオ ワスレタヨーヂ
122 M56M①① モシモシ イマ オオリニ ナツタ カサ カサオ オワスレニ ナリマシタヨ トーワ カサオ オチク クザイ
123 F18M②④ アノ モシモシ カサオ ワスレマシタヨ
125 M25H②④ ソコノ オトコノ カサ カサオ ワスレマシタヨ
126 M24L③⑤ カサ ワスレトモチ
127 M28M③⑤ はい、カサ ワスレタヨ
128 F25M②④ カサ ワスレマシタヨ
129 M22M②③ ア カサ オワスレデスカ
130 F36L②④ カサオ ワスレマシタヨ
132 F65L②③ チョット コノ カサ アンタノ カサジャ ナイ

テスカ

- 134 M73L③⑤ チョット カサ オワスレ センカネ
 135 F38L②④ アー チョット カサ ワスレマシタヨ
 137 F57L①① アナク コノ カサ オワスレニ ナツクンデス
 ヨ
 138 F37L②④ チョット カサ ワスレマシタヨ
 139 M71L②③ アンク カサ アンクノゾヤ ナイデスカ ココニ
 アリマスカ
 140 F74L②③ アンク カサ ワスレクゾヤ ナイデスカ
 141 M22M①① カサ オワスレニ ナリマシタヨ
 143 M53H①① モシモシ カサ オワスレニ ナリマシタヨ
 144 M17M②④ チョット カサ ワスレマシタヨ
 146 F35M②② アンク チョット カサ ワスレラマシタヨ
 147 F30M③⑤ ソチノ ヒト カサ ワスレタヨ
 149 F40L②④ アッ ワスレモンデスヨ
 150 F67L②④ アンク ソコ カサ ワスレマシタヨ
 151 M68L①① モシモシ アンク アノー カサ オワスレ
 ナリマシマセンカ。アナクノゾヤ ゴザイマセンカ
 152 M28M②④ カサ オワスレマシタヨ
 153 M32M③⑤ チョット チョット カサ ワスレタヨ
 155 F47L②③ カサ オワスレゾヤ ナイデスカ
 156 F73L②③ アンク カサオ ココニ ワスレクゾヤ ナイデス
 カ
 158 M25L②④ カサ ワスレマシタヨ
 159 F20L②③ スミマセンケド イマ オリカ カサ ワス
 レマシタヨ
 161 F61L②③ アナクゾヤ ナイデスカ カサ ワスレノケ
 162 F20H①③ アノー オタク カサ オワスレゾヤ ナイデス
 カ
 164 M42L②③ イマ オリカカ カサ ワスレモノデス
 ヨ
 165 M16M②④ ア カサ オワスレマシタヨ
 168 F62L②④ モシモシ アノー カサ ワスレモノデスヨ
 171 F23L②④ カサ ワスレマシタヨ
 173 F44L③⑤ チョット カサ ワスレクゾヤ ナイ オタクノゾ
 ヤ ナイ
 174 F61L②④ チョット アナク ワスレモノデスヨ
 176 M21L②③ コレ オタクノ カサゾヤ アリマセンカ
 177 F24M②③ チョット マツテ クザイ カサ ワスレマシタ
 ヨ
 179 F74L②③ オキノクナガワ カサ ワスレテ イキマセ
 ンカ
 180 M45L①① ア モシモシ コノ カサ オタクノ モノデテ
 ゴザイマセンカ
 182 F32M①③ モシモシ カサ オワスレデスヨ
 183 F23M②③ ソコノ オリカカ オキクサン カサ オワ
 レタヨーデスカ オタクデテ アリマセンカ
 184 F49M①① チョット カサ オワスレニ ナリマセンカ
 185 F32M①① アノー チョット オキクサン カサ オワス
 レテ ゴザイマセンカ
 186 F33M②③ ア、コレ、オタクノゾヤ ナイデスカ
 188 M65L①② モシモシ…… シツレーザカ コノ カサ アナ
 クノゾヤ ゴザイマセンカ
 189 F26L②③ カサ オワスレマシタケド
 191 M25L②③ アー コノ カサ ワスレクノ オタクゾヤ ナイ
 デスカ
 192 F16M②④ アノ、カサ ワスレマシタ
 194 F20M①③ アノー カサ オワスレデスカ ソチノゾヤ
 ナイデショカ
 195 M44M②④ アッ チョット カサ ワスレマシタヨ
 197 M72L③⑤ アンク カサ ワスレトカチ……
 198 F15M②④ ソコノ ヒト カサ ワスレマシタヨ。チョット・
 199 F40M②③ スミセン コノ カサ オタクノゾヤ アリマセン
 カ
 200 F18M②③ アノ カサ オワスレマシタケド
 201 M29M①③ チョット カサ オワスレデスヨ
 202 F70L①② カサ オワスレニ ナツクテ オチク クザイ
 203 F49L②② アッ チョット イマ タラク カサ カサオ
 ワスレテ オキニ ナツカワ
 204 M80L①① モシモシ アナク カサ オワスレニ ナリマシ
 タ
 205 F85L①③ モシモシ アノー カサ オワスレデスヨ アナ
 クノゾヤ アリマセンカ
 206 M64L③⑤ アー チョット カサ
 207 F49M②② ア、オタク カサ ワスレラマシタヨ
 209 F15L②④ アノ カサ ワスレマシタヨ
 210 F23L②④ ワスレモノデス
 212 F23H①① アノー。コノ カサオ、オワスレニ ナツクンゾヤ
 アリマセンカ
 213 F31L②② ア カサ ワスレラマシタヨ
 215 M41L①① カサオ オワスレニ ナリマセンカ アナクノゾヤ
 ナイデスカ
 216 F26M②③ アー アナクノ カサゾヤ ナイデスカ
 218 F58L②③ モシモシ、アナクゾヤ ナイデスカ、コノ カサ
 ワスレラタリ
 219 M49L③⑤ チョット アンク オタクノ カサゾヤ ナイカネ
 220 M41M②④ モシモシ、ワスレモノデスヨ
 221 M56M①① チョット チョット、アノ オワスレモノゾヤ ゴ
 ゴザイマセンカ
 222 F26L②④ オタク カサ ワスレマシタヨ

- 223 F63L②④ アツカ カサオ ワスレマシタヨ
 224 M21L③⑤ アノー カサオ ワスレマシタゾヤ ナイ
 227 F28M①① チョット カサオ オワスレニ ナリマシタヨ
 230 F37H②④ アノー オキヤウサン ワスレモンデスヨ
 231 M23H③⑤ チョット カサ ワスレマシタゾヤ ナイカイ
 233 F25L②⑥ アノ チョット カサオ ワスレマシタド
 236 M33M③⑤ コノ カサ ワスレマシタ
 237 M33M①② モシ、アツカ カサオ オワスレマシタヨ
 240 M20M②④ カサ ワスレマシタヨ
 242 M31M②④ オキヤウサン、チョット ワスレモノデス
 243 M63L①① モシ アツカ カサ ワスレマシタゾヤ
 245 M52L②③ モシモシ カサ ワスレマシタ イマセンカ
 246 M23M②④ ワスレモンデスヨ
 248 M56L①③ モシモシ チョット カサ オワスレマシタヨ
 249 F42H②③ モシモシ チョット オワスレモンデスヨ
 250 M22H②③ チョット、オワスレモノデスヨ
 251 F36M②③ モシモシ コノ カサ オツクノゾヤ アリマセン
カ
 252 F26M②② オキヤウサン カサ ワスレマシタゾヤ
 254 F32L②② トクナカ シリマセンケド、カサ ワスレマシタ
ワ シマセンカ
 256 M24H①③ モシモシ アノ、カサ オワスレマシタヨ
 258 M34M②④ モシモシ ワスレモノデスヨ
 260 F33M②③ ワスレモンデスヨ、オツクノゾヤ ナイデスカ
 261 M42L②④ チョット ワスレモンデスヨ
 262 F47M②③ カサオ オワスレマシタヨ
 265 M24M②③ カサオ ワスレマシタケドモ
 266 F22M②② カサオ ワスレマシタゾヤ ナイデスカ
 267 M39M②④ モシモシ カサ ワスレマシタヨ
 269 M59L①① モシモシ、アツカ カサオ オワスレマシタ ナイ
デ
ス
カ
 270 F28H①③ モシモシ カサオ オワスレマシタヨ
 271 M32L②④ ワスレモノデスヨ
 272 F33M①① モシモシ アノ、カサオ オワスレニ ナリマシ
タ
ヨ
 273 F27H②④ ア チョット カサオ ワスレマシタヨ
 275 F50L③⑤ カサ ワスレマシタ
 276 F22L②④ アノ ワスレモノデス
 278 M41L③⑤ ア、カサ ワスレマシタヨ
 279 F60L①① モシモシ カサ オワスレマシタゾヤ ナイデス
カ
 281 F38H①① モシモシ コレ オワスレニ ナリマシタ
 284 F33M②③ カサオ オワスレマシタヨ
 285 M66M①① ア モシモシ チョット、アノ カサオ オワス
レ
ノ ナツテイノヨデスヨ
 287 F23H②④ アノ、カサ ワスレマシタヨ
 288 M47H①③ チョット アツカ カサオ オワスレマシタヨ
 290 F41H①① ア モシモシ コレ オツクノ カサオ ナイ
デ
ス
ヨ
カ、オワスレニ ナツト オワスレマシタ
 291 F24H②③ アノ カサオ オワスレマシタヨ
 292 F21H②④ カサ ワスレマシタヨ
 293 F22H②③ コレ アツクノゾヤ ナイデスカ
 294 F19H①① ア、カサ オワスレニ ナリマシタヨ
 296 M33L②④ ア、カサ ワスレマシタヨ
 297 F48L①① モシモシ カサオ オワスレニ ナリマシタヨ
 299 M35H②④ チョット カサ ワスレマシタヨ
 300 F46L②② チョット モシモシ アツカ カサ ワスレマシ
タ
ゾヤ
ナ
イ
デ
ス
カ
 302 F58L②④ モシモシ カサ ワスレマシタヨ
 303 F55L①① モシ アツカ コノ カサ ワスレマシタゾヤ
 305 M33H②③ チョット オツク、カサガ ワスレマシタゾヤ ナ
イ
デ
ス
ヨ
カ
 306 F37M①③ ア、モシ、カサオ オワスレマシタヨ
 308 M19M①③ チョット、カサオ オワスレマシタヨ
 309 F25H②② モシモシ カサ ワスレマシタゾヤ ナイデス
カ
 311 F24M①① アノ カサ オワスレニ ナリマシタゾヤ ナ
イ
デ
ス
カ
 312 M33L③⑤ カサ、ワスレマシタヨ
 314 M34M②② モシモシ アノ チョット カサオ ワスレマシ
タ
ト オワスレマシタケド オツクノ カサオ アリマセンカ
 315 F30M②② モシモシ カサ ワスレマシタゾヤ
 317 F48L①① チョット チョット カサオ オワスレニ ナリ
マ
シ
タ
ヨ
 318 F60M①① ソコニ オイデニ ナル オトコノ カサ カサオ
オ
ワ
ス
レ
ニ
ナ
リ
マ
シ
タ
ヨ
 320 F17L②③ スミマセン、コレ オツクノ カサオ アリマセン
カ
 321 M33M②③ コノ カサ オツクノゾヤ アリマセンカ
 323 F21M②② アノ カサオ ワスレマシタゾヤ
 324 F23M②④ カサ ワスレマシタヨ
 326 M27H②④ コレ アツクノゾヤ
 327 F23L②③ スミマセン コノ カサ アツクノ カサオ ア
リ
マ
シ
タ
ヨ
 329 M44M②④ チョット カサオ ワスレモノデスヨ
 330 M75L②③ モシモシ アツカ カサ オワスレマシタゾヤ
 331 F57L②③ モシモシ、コレ アツクノゾヤ ナイデス
カ
 332 M29H①① チョット オツク カサオ オワスレニ ナリマ
シ
タ
ヨ
 333 M40L②④ モシモシ カサ ワスレマシタヨ
 334 F67L①② チョット アツカ カサオ オワスレニ ナツト
ア
ツ
ク
ノ
カ
サ
オ
ア
リ
マ
シ
タ
ヨ

- 335 F27M①① カサ オアスレニ ナリマシタヨ
 337 M51L②④ チョット カサ オアスレマシタヨ
 338 F40L②③ オタク コレ オアスレタジヤ ナイデスカ
 339 M74L②③ コレ アタノ カサジヤー アリマセンカ
 341 F15L②④ チョット カサ オアスレマシタヨ
 342 M35M②④ チョット チョット カサ オアスレマシタヨ
 345 M26L②④ オキヤクサン カサ オアスレマシタヨ
 347 F62M②③ モシモシ コノ カサヲ アタノチヲ アリマ
 センカ
 348 M19M②③ チョット、カサ オアスレタジヤー アリマセンカ
 350 F37M②④ カサ オアスレマシタヨ
 351 F49L②② アタカ カサ オアスレマシタヨ
 353 F22L②⑥ コノ カサー オタクノ オアスレマシタジヤ ナイ
 デスカ
 354 F31M②③ カサ オアスレマシタヨ
 355 M37M③⑤ オジサン、カサ オアスレマシタヨ
 356 M31H②④ カサ オアスレマシタヨ
 357 F23L②④ カサ オアスレマシタヨ
 358 M34L③⑤ ニーサン カサ オアスレマシタヨ
 359 F45H②③ コレ オタクノジヤ ナイデスカ
 360 F74L①① モシモシ カサ オアスレニ ナリマシタデスカ
 361 F68L②③ アタノ カサジヤ ナイデスカ。オアスレ オイ
 テツタイノ アタノジヤ ナイデスカ
 362 M32L②④ モシモシ、カサ オアスレマシタヨ
 363 M54L③⑤ モシモシ チョット アタカ カサ オアスレマシ
 タヨ
 365 F55H①① アー モシモシー カサ オアスレニ ナリマシ
 タヨ
 366 F61L②③ コレー オアスレマシタヨ
 367 M42L②③ アノー、モシモシ、アノー コノカ カサ オア
 レテイカレタリ オタクチヲ アリマセンカ
 368 M47M②④ ア、カサ オアスレマシタヨ
 369 F47L②④ モシモシ オアスレマシタヨ
 374 F23M②③ カサ オアスレマシタヨ
 375 F21L②② ア、カサ オアスレマシタヨ
 377 F28M②③ カサ オアスレマシタヨ アタノ カサジヤ ア
 リマセンカ
 378 F56M①③ モシモシ カサ オアスレマシタヨ アリマセンカ
 379 M32H②③ モシモシ オアスレマシタヨ
 380 F75L①① アノ カサ オアスレニ ナリマシタヨ
 383 M55L③⑤ チョット チョット カサ オアスレマシタヨ
 384 F22M①③ イマ オアスレマシタヨ カカ、カサ オアスレマシタヨ
 387 F54L②④ モシモシ カサ オアスレマシタヨ
 389 F28L②④ ア、カサ オアスレマシタヨ
 390 F78L①① アタカ カサ オアスレニ ナリマシタヨ
 392 F69M②④ アタカ オアスレマシタヨ アリマシ
 393 F23H①① アノー コノ カサー オアスレニ ナリマシタ
 カ
 395 F38L①① ア チョット カサ オアスレニ ナリマシタ
 フ
 396 M65M①① モシモシ アタカ カサ オアスレマシタヨ トー
 ヲ コノ カサガ コノイマシタヨ
 397 M16L②③ チョット アタカ カサ オアスレマシタヨ
 399 F21M②③ カサ オアスレマシタヨ
 401 F66L②③ モシモシ、カサ オアスレマシタヨ ナイデスカ
 402 F62M②④ チョット アタカ カサ オアスレマシタヨ
 404 F47M②③ チョット、アタカ カサガ オイテアリマシタヨ。ア
 タノ カサジヤ ナイデスカ
 407 F21M②③ チョット カサ オアスレマシタヨ
 410 M22H②④ アノー、カサ オアスレマシタヨ
 411 M16M③⑤ チョット オジサン、カサ オアスレマシタヨ
 413 F55L①① オキヤクサン、チョット カサ オアスレニ ナ
 リマセンカ
 414 M45L①① モシ、アノー カサ オアスレニ ナリマシタジヤ
 ナイデスカ
 417 M49L③⑤ オイ、キミ、カサ オアスレマシタヨ
 418 F28M①① アー、チョット、アタカカサ オアスレニ ナリマシ
 タヨ
 419 F34M②③ オキヤクサン カサ オアスレマシタヨ
 420 F33L③⑤ カサ オアスレマシタヨ
 423 F65L①③ チョット アタカ カサ オアスレマシタヨ ナイ
 デスカ
 426 F33L②③ アタカカサ、カサ オアスレマシタヨ ナイ
 デスカ
 428 F22H②③ ア、モシモシ、カサ オアスレマシタヨ ナイ
 デスカ
 429 M42L③⑤ チョット カサ オアスレマシタヨ
 431 F25H②③ コノ カサ、アタノチヲ ナイデスカ
 432 M35M③⑤ オイ、アタカ、カサ オアスレマシタヨ
 434 F25L②③ アー アタカカサ、カサ オアスレマシタヨ
 435 F19H③③ アー コノカ カサ オアスレマシタヨ
 436 F69L①① アタカ、カサ オアスレニ ナリマシタヨ ナイ
 デスカ
 438 F34L②④ モシモシ、チョット カサノ オアスレマシタヨ
 439 M20M②④ ア、チョット チョット、アタカ カサ オアスレ
 マシタヨ
 440 F74L①① モシモシ、オアスレニ ナリマシタヨ
 441 F31L②④ アノー カサ オアスレマシタヨ
 443 M18L②③ アタカカサ、カサ オアスレマシタヨ
 444 F22M①③ モシモシ、カサ オアスレマシタヨ
 447 F20H②③ チョットー、アノー カサ オアスレマシタヨ
 ナリマシタヨ

- 449 M49M③⑤ オイ,カサ ワスレタヨ
 450 F19M②③ アー ワスレモノゾヤ ナイデシヨーカ
 452 M59L②③ アナクテラ ナイデスカ。カサオ ワスレタノヲ
 453 F15M②③ チョット スミマセン。コレ オタクガ ワスレテ
 イツク モノゾヤ アリマセンカ
 454 M19M③⑤ イヤ,カサ
 455 F34M②④ オジサン カサ ワスレタデスヨ
 456 F16M②④ チョット ワスレモノデスヨ
 458 M31L②③ モシモシ アノ カサオ ワスレタノデ ナイデス
 カ
 459 F17M②④ アノー チョット ワスレマシタヨ
 462 M23M③⑤ キミ チョット ワスレモンゾヨ
 463 M58M②③ ホイ ホイ カサオ オウズレテラ ナイデスカ
 464 M74L②④ ナニカ ワスレマヘンカナ
 466 F32M②② チョット,カサ ワスレラレマシタヨ
 467 F61M①① アノー アナタ カサオ オウズレニ ナッテラッ
 シヤイマセンカ
 468 M36L②④ モシ アノー カサ ワスレマシタヨ
 470 M38H①① カサオ オウズレニ ナリマシタカラ
 471 F32L②④ アノー,カサ ワスレマシタヨ
 473 M19M②④ モー-,カサノ ワスレモノデス
 474 M20M②④ アー オタク,カサ ワスレテマシヨ
 476 M19M②③ モシモシ,コノ カサヲ アナタノテラ アリマセ
 ンカ
 477 M25H②④ ワスレモンデスヨ。コレ,カサ
 479 M15L②④ チョット カサオ ワスレマシタヨ
 480 M16M②③ チョット,スミマセン,コレ アナタノ カサゾヤ
 ナイデシヨーカ
 481 F63L②② アノ,カサ オウズレニ ナックデー
 482 M29M②④ チョット カサオ ワスレマシタヨ
 483 M34H①① アー モシモシ カサオ オウズレ ナックタンゾヤ
 ナイデスカ
 485 F49L②③ チョット コノ カサ アナタノゾヤ ナイデスカ
 486 M43L②④ モシモシ チョット,カサオ ワスレテイクマシタ
 ヨ
 487 F29L②③ チョット スイマセン カサ ワスレマシタヨー
 488 M68L②④ アナク ワスレマシタヨ
 489 M29L③⑤ ニーサン チョット カサ ワスレタデ
 490 F50L①① オタク カサオ オウズレニ ナリマシタヨ
 491 M28M②③ カサオ オウズレデスヨ
 492 F27L③⑤ カサ ワスレタヨ
 494 F15L②③ スイマセン コレ アナタノ カサデスカ
 495 F49L②④ モシモシ カサオ ワスレテイクマシヨ
 496 F38L②③ アノー チョット スイマセン カサ アリマシタ
 ケド アナタノゾヤ アリマセンカ
 497 F21M②③ アノ,チョット,カサノ オウズレモノデスヨ
 498 F50L①① チョット アナタ カサオ オウズレニ ナックタ
 ャ ナイデスカ
 500 F46L②④ チョット カサオ ワスレマシタヨ
 503 M21L②③ アナタノゾヤ ナイデスカ
 504 M17M②④ アノ,ソコニ タツテイル ヒト,ココニ カサガ
 オイテアリマシタヨ,ドー
 506 F41L②④ アノー,カサ ワスレマシタヨ
 507 M41L②④ チョット アナタ チョット カサオ ワスレマシ
 タヨ
 508 M23L②④ カサオ ワスレマシタヨ
 509 F30L②③ コレ オタクノ カサデスカ
 510 F18M②④ カサ ワスレマシタヨ
 512 F17M②③ スイマセン カサオ ワスレテイクマシ
 513 F35M①① カサオ オウズレニ ナリマシタ
 514 F28L②④ アノー カサ ワスレモノデスヨ。カサ ワスレテ
 マシヨ
 515 F53L①③ チョット カサオ オウズレデスヨ
 516 M38L①① モシモシ,アナタ カサオ オウズレニ ナックタ
 ゴヤ ナイデスカ
 517 M59M②④ アー,モシモシ カサオ ワスレマシタヨ
 518 F42L②③ モシ,コレ,コノ カサ オタクサンノデ ナイン
 デスカ
 519 F30M①① アノー カサオ オウズレニ ナリマシタヨ
 522 F46L②④ カサオ ワスレマシタヨ
 525 M36L③⑤ アー,オキヤクサン カサオ ワスレタヨ
 527 F25L②④ カサ ワスレマシタヨ
 528 M41M①① イマ オリラレル オキヤクサン カサ オウズレ
 ゴヤ ナイデスカ
 531 M26L②④ アー,カサオ ワスレテマシヨ
 533 M48L②④ カサオ ワスレマシタヨ
 534 F18M②④ アノ チョット,カサ ワスレテマシヨ
 537 M35M③⑤ チョット ワスレモンゾヤ ナイカネ
 539 M24H②③ コノ カサ オタクゾヤ ナイデスカ
 540 M72L①① アナタ カサ オウズレニ ナックタゴヤ ナイデス
 カ
 542 M51L②④ モシモシ チョット カサ ワスレマシタヨ
 543 M55L③⑤ オキヤクサン,カサ ワスレタヨ
 545 M46H①① モシモシ コノ カサ アナタノテラ コザイマセ
 ンカ
 546 F36L②④ オタク カサ ワスレマシタヨ
 548 F51H①① シツレーデスガ,カサオ オウズレニ ナックタヨー
 デス
 551 F45H①① コレ アナタノ カサゾヤ コザイマセンカ
 552 M24M①③ イマ オリラレル カサ カサ オウズレデスヨ

554 F43H①③ アツ チョット アナ コレ オススメナ
イデスカ
555 F50M①① モシ、チョット ソコノ オトコノ カタ、カサ
オススメニ ナリマシヨ
557 F31M②③ コレ オススメモノデスカド
558 F49L②③ コレ、オツクノ カサヂヤ ナイデスカ
561 F22H①③ コレ アナノ オススメモノジャー アリマセン
カ
565 M45L②④ チョット、オキヤクサン、オキヤクサン。カサ ワ
ススメモノデスカ
566 F15L②③ アー コノ カサ アナノゾヤ ナイデスカ
567 F21H②④ チョット ソコノ オツク ヒト カサオ ワススメ
マシヨ
568 F28M②③ アノ カサ、コレ オツクノゾヤ ナイデスカ
569 M26L②④ ワススメモノデスカ
570 F42M①① モシモシ。コノ カサ オツクノゾヤ コザイマセ
ンカ
572 F29L②③ アー モシモシ。オススメモノデスカ
575 M17M②③ カサオ オススメモノデスカド
576 M26H②④ アー、カサ ワススメモノデスカ
578 M37M①② モシモシ ソコオ オリテイカレル カタ、ヒョウ
トシテ オツクノ カサ オススメモノデスカ
579 M43M②③ モシモシ。コレ オツクノ カサヂヤ ナインヂ
スカ
581 F54M②③ チョット コレ アナノ カサヂヤ ナイデスカ
582 M17M②③ コノ カサ アナノゾヤ アリマセンカ
583 F61L②④ アー チョット ワススメモノデスカ
584 F19H②③ スイマセン ワススメモノデスカド
585 F45L②④ チョット カサオ ワススメモノデスカ
586 M36M②④ ア、モシモシ ワススメモノデスカ
587 F16M②③ アノ、スイマセン カサ ワススメモノデスカド
588 M33M②③ モシモシ オツクノ ワススメモノデスカ ナイデスカ
590 F33M①③ モシモシ カサ オススメモノデスカ
591 F28L②④ チョット ワススメモノデスカ
592 M42L①③ モシモシ アナノ カサオ オススメモノデスカ
593 F36L②④ オキヤクサン カサ ワススメモノデスカ
594 F49L②③ アノ オツクノゾヤ ナイデスカ カサガ ココニ
オイアヒマスカ
596 F29M②③ スミマセン カサ ワススメモノデスカ
597 F37M②② アツ チョット オツク カサオ ワススメモノデスカ
599 F48L①① モシモシ ソコニ イラッシャイマス イマ オ
ツクノ カサオ オススメモノデスカ
600 F27L NR

先 生 (105)

002 M49L②③ ウチノ セガレデスカ
003 F43L②③ アノ ワタシノ コドモデスカ
005 M26H②③ コレウ ウチノ チョーナンデスカ
006 M50H②③ ウチノ コドモデスカ
009 F38L②④ ウチノ コドモデスカ
011 F42M②④ ワタシノ コドモデスカ
012 F44L②③ ハイ ワタシノ コドモデスカ
015 F38L②③ ワタシノ コドモデスカ
017 F56L②③ ワタシノ コドモデスカ
018 F39M②③ ワタシノ コドモデスカ
020 M68L②③ コレウ ワタシノ マコデスカ
023 F46L②③ コチウ ウチノ チョーナンデスカ
024 F17H②② ワタシノ オートデスカ
026 F69L②③ ワタシノ マコデスカ
027 M22M③③ ジーンノ オートノ ヌレゲレデスカ
029 F30M②③ コレウ チョーナンノ ヌレゲレデスカ
030 M17L②④ ボノ オートデスカ
033 F48M②③ ワタシノ チョーナンデスカ
035 F47M②③ ワタシノ コドモデスカ
036 F66L②③ コノ コウ ウチノ マコデスカ
038 F43M②③ ウチノ マコデスカ
039 M41L③⑤ ジーンノ コドモデスカ
041 F47H②② ワタシノ コドモデスカ
042 M20L③③ オートデスカ
043 F63L②③ ウチノ マコデスカ
045 M19L②③ ウチノ オートデスカ
046 F72L①① ワタシノ マコデスカ
047 F40L②③ ウチノ チョーナンデスカ
048 M61L②③ コレウ マコデスカ
050 F67M②③ マスノ コドモデスカ マ オツクニ ナカ
ワカリマセンカ
052 F58H①① ワタシノ マコデスカ
053 F33M②③ ワタシノ チョーナンデスカ
054 M60M②② ワタシノ マコデスカ ヨロシク オネガイ シマ
ス
056 F26H②③ オートデスカ
057 M36M②③ ワタシノ チョーナンノ ヌレゲレデスカ
059 M24H②④ ボノ オートデスカ
060 M22L②④ ボノ オートデスカ
063 F25L②③ ワタシノ オートデスカ
065 F30L②② ワタシノ コドモデスカ
066 F38M②② ワタシノ チョーナンデスカ
068 F36L②③ ワタシノ コドモデスカ

- 069 M29M②③ コノ コワ ジウワ ジンノ ムスコテス。コソ
F マタ セマニ ナルカモ シルマセンカテ ヨロシク
- 071 M52L②③ ワタシノ チョーナンポーデス
- 073 F23M②③ ウチノ コデス
- 074 M28H②③ ウチノ コデデス
- 075 F34H②③ チョーナンデス。ナンサイデス
- 077 F39L②③ コデデス
- 078 F30L②④ コデナンデスヨ
- 080 M18M②④ コレワ アノー 赤ノ ニーサンノ コデデ
スルデレデス
- 084 M47H②③ ウチノ コデデスガ
- 086 F27L②③ ワタシノ コデデス
- 087 M25M②③ ワタシノ ムスコテス
- 089 M42H②③ ウチノ 赤ーデス
- 090 F16M②③ アタシノ オートノ スルデレデス
- 091 M61L②③ コノ コデモワ ワタシノ マゴデスガ
- 092 F17M②③ ワタシノ オートデス
- 093 F69L②③ コレワ ワタシノ チョーナンノ マゴデス
- 095 F18L②③ ワタシノ オートデス
- 096 M28L②④ 赤ノ オートデス
- 097 M39M②③ ジンノ コデモデス
- 098 F37L②③ ウチノ コデデス
- 099 M46L②③ ウチノ コデス
- 100 M16M②③ ワタシノ オートデスケド
- 101 M33M②④ 赤ノ コデモデス
- 102 F16M②③ ワタシノ オートデス
- 104 M27M②③ ワタシノ セガレデス トーノ ヨロシク オネガ
イ シマス
- 105 F30L②④ モー アタシニ コナ オーキイ コガ イルン
デスヨ
- 107 F18M②③ ワタシノ オートデス
- 108 M25M②④ 赤ノ オートデスヨ
- 110 F15L②③ コレワ ワタシノ オートデス
- 111 M34H②③ ワタシノ チョーナンデス
- 113 M28M②② コレ ワタシノ ムスコテス
- 116 M26M②④ 赤ノ オートデス
- 117 F31L②③ ワタシノ コデモデスカド
- 120 M59L②③ ハイ コンチワ シバラクテシタ コノ コワ 赤
クノ チョーナンデス ヨロシク オネガイ シマス オミシリアキ ク
デサイ
- 122 M56M①① ココニ オミエニ ナル カクワ オートサンノ
センヒーデスヨ イツヨニ コアイサツ イタシマシヨー センヒー
オゲンキデスカ ワタシモ コーエー ゲンキナ コノ エツヨニ ナ
リマシタ コアイサツ シマシヨー
- 123 F18M②③ ハイ ワタシノ オートデス
- 125 M25H②④ 赤ノ オートデス
- 126 M24L②⑤ オレノ コデ
- 127 M28M②④ ワタシノ オートデス
- 128 F25M②③ ウチノ ヒトリムスコテス
- 129 M22M②④ 赤ノ オートデスガ
- 130 F36L②③ アタシノ コデモデス
- 132 F65L②③ コレワ ワタシノ マゴデス
- 134 M73L②③ コレワ ワタシノ マゴデス
- 135 F38L②② ワタシノ チョーナンデスガ
- 137 F57L②③ ア、センヒーデスカ ヒサシヨリネ コレワ ワ
タシノ コデナンデスカド
- 138 F37L②③ ワタシノ コデモデス
- 139 M71L②③ コレワ ワタシノ ヒツツガタネノ コデモデス
- 140 F74L②③ ワタシノ マゴデス
- 141 M22M②③ コレワ ワタシノ オートデス
- 143 M53H②④ カワイイ 赤ーデスヨ
- 144 M17M②④ コレワ 赤ノ オートデス
- 146 F35M②③ イチバン スエノ コデス
- 147 F30M②④ ワタシノ コデスヨ
- 149 F40L②③ ワタシノ ムスコテス
- 150 F67L②④ ウチノ マゴデスヨ
- 151 M68L②③ ワタシノ マゴデス
- 152 M28M②③ ワタシノ ムスコテス
- 153 M32M②③ ワタシノ コデモデス
- 155 F47L②③ ワタシノ チョーナンデス
- 156 F73L②③ マゴデス
- 158 M25L②④ 赤ノ オートデスガ
- 159 F20L②③ オートデス
- 161 F61L②② ウチノ コデス アリガトー コデイマシタ
- 162 F20H②③ ワタシノ オートデス
- 164 M42L②③ ワタシノ コデス
- 165 M16M②④ コレワ 赤ノ オートデス。
- 168 F62L①① シバラクマデス コレワ ワタシノ マゴデ コデ
イマス
- 171 F23L②③ オートデス
- 173 F44L②③ チョーナンデス
- 174 F61L②③ マゴデス
- 176 M21L②③ オートデス
- 177 F24M②③ コレワ ウチノ チョーナンデス
- 179 F74L②③ コレ ワタシノ マゴデス
- 180 M45L②② ハイ センヒー コレワ ワタシノ チョーナン
デ キヨシト モーシマス
- 182 F32M②③ チョーナンデス
- 183 F23M②④ ウチノ コナンデスヨ イチバン ウエノ コナン
デスカド

- 184 F49M①① アノ ワカシノ コドモヂ ヱヂイマス
- 185 F32M②② ワカシノ コドモヂ アノ サンネヒニナリマス
- 186 F33M②③ ウチノ ムスコヂス
- 188 M65L②③ コレワ ワカシノ ウチマゴヂス
- 189 F26L②③ チョーナンヂスケド
- 191 M25L②④ コレワ ウチノネ ニーサンノ コドモヂス
- 192 F16M②③ シンセキノ コヂス
- 194 F20M②④ アノ ワカシノ オニサンノ コドモニ ナリマス
- 195 M44M①① コノ コガ チョーナンヂ ヱヂイマス
- 197 M72L②③ コレワ ワカシノ マゴヂス
- 198 F15M②③ ワカシノ、イトコヂスケド
- 199 F40M①④ アー モンゾクレマシクケド コレワ ワカシノ チョーナンヂ ヱヂイマス
- 200 F18M②③ アノ アニノ コドモヂスケド
- 201 M29M②③ ワカシノ ムスコヂス
- 202 F70L①④ マゴヂ ヱヂイマス
- 203 F49L②③ ハイ ワカシノ マゴヂス
- 204 M60L②③ ワカシノ コドモヂス
- 205 F65L①① ムスメノ コドモヂ ヱヂイマス
- 206 M64L②④ アー コノ コワ ウチノ マゴヂスヨ
- 207 F49M②③ ウチマコナンヂス
- 209 F15L②③ ワカシノ オートヂス
- 210 F23L②③ ワカシノ オートヂス
- 212 F23H②③ ワカシノ、イトコニ アタリマス
- 213 F31L②③ コレワ ワカシノ チョーナンヂス
- 215 M41L②⑤ 赤ノ コゴ
- 216 F26M②③ ムスコヂス
- 218 F58L②③ コレワ ワカシノ マゴヂス
- 219 M49L②③ アー ヒサンワリヂスネ コレワ ウチノ イチバノ シタノ ムスコヂス
- 220 M41M②③ ウチノ チョーナンヂス。サンバンメヂスヨ
- 221 M56M①① ワカシノ ナニナニヂ ヱヂイマス
- 222 F26L②④ コノ コワネー オートノ アキラヂス
- 223 F63L②③ ワカシノ マゴヂス
- 224 M21L②③ アニキノ コドモヂス
- 227 F23M②③ ワカシノ チョーゾヂス
- 230 F37H②② ワカシノ コドモヂス
- 231 M23H②③ キンゾノ コドモヂス
- 233 F25L②③ ジッソノ ムスメヂス
- 236 M33M②③ ワカシノ チョーナンヂス
- 237 M38M②③ ツルツツル コドモワ、ワカシノ コドモヂス
- 240 M20M②③ イトコヂス
- 242 M31M②③ ワカシノ コドモヂス

- 243 M63L②③ ヒンヒー ワカシノ マゴヂス
- 245 M52L②③ ウチノ セガレヂス
- 246 M23M②④ 赤ノ オートヂス
- 248 M56L②③ ワカシノ チョーナンヂス
- 249 F42H②③ ワカシノ コドモヂス
- 250 M22H②③ コノ コワ、ワカシノ、イトコナンヂス
- 251 F36M②③ ワカシノ コドモヂス
- 252 F26M②③ アノ、ワカシノ オートヂス
- 254 F32L②③ ワカシノ オートヂス
- 256 M24H②③ ウチノ コドモヂス
- 258 M34M②④ コレ 赤ノ チョーナンヂス
- 260 F33M②③ ワカシノ コドモヂ チョーナンノ ヂレヂス
- 261 M42L②④ 赤ノ ムスコヂス
- 262 F47M②③ ワカシノ コドモヂス
- 265 M24M②③ ジッソノ オートヂス
- 266 F22M②② コレワ ワカシノ オートヂス
- 267 M39M①① セガレヂ ヱヂイマス
- 269 M59L②③ ジッソノ サンパネーヂス
- 270 F28H②③ ワカシノ ムスコヂス
- 271 M32L②③ ワカシノ コドモヂス
- 272 F38M②② ワカシノ コドモヂス
- 273 F27H②③ ア ワカシノ コドモヂス
- 275 F50L②③ ワカシノ コドモヂス
- 276 F22L②③ ワカシノ オートヂス
- 278 M41L②⑤ ワシノ コゴ
- 279 F60L②③ コレワ ワカシノ ジッソノ コドモヂス
- 281 F38H②③ ワカシノ オイヂス
- 284 F33M②③ ワカシノ コドモヂス
- 285 M66M②③ ア、コレワ ワカシノ マゴヂス
- 287 F23H②③ ワカシノ オートヂス
- 288 M47H②③ ワカシノ コドモヂス
- 290 F41H①① ワカシノ コドモヂ ヱヂイマス
- 291 F24H①① ワカシノ オートヂ ヱヂイマス
- 292 F21H②③ ワカシノ オートヂス
- 293 F22H②② ワカシノ オートヂス
- 294 F19H②③ ショーガクヒニ ナル ワカシノ オートヂス
- 296 M33L②③ ア、イチバン ウエノ コドモヂス
- 297 F48L②③ ハイ、コレワ ワカシノ コドモヂス
- 299 M35H②③ ムスメノ ヂレヂス
- 300 F46L②③ ウチノ コドモヂスケド
- 302 F58L②③ マゴヂス
- 303 F55L②③ ヒンヒー シバラクヂシク…… ウチノ コドモヂス
- 305 M33H②③ コレワ ワカシノ チョーナンヂス
- 306 F37M②③ アノ、ムスコヂス

- 308 M19M②③ ワタシノ オトトデス
 309 F25H②③ ワタシノ コドモデス
 311 F24M②② ワタシノ コドモデス
 312 M33L②④ 赤ノ, チョーナンデス
 314 M34M②③ コレワ ワタシノ ムスコデス
 315 F30M②② ムスコデス ワタシノ コドモデス
 317 F48L②③ センセー シバカデスネ オゲンキデ イーデス
 ネ コノ コノド ワタシノ コドモデス ヨロシク オネガイシ
 マス
 318 F60M①① コレワ ウチノ マゴジ コザイマスガ
 320 F17L②③ アノ オトトデス
 321 M33M②③ ウチノ ムスコデス
 323 F21M②② ワタシノ コドモデス
 324 F23M②③ オトトデスカド
 326 M27H③⑤ 赤ノ ガキデ
 327 F23L②③ ワタシノ オトトデス
 329 M44M②③ コレワ ウチノ ホーイズデス
 330 M75L①① コニチワ センセー オクッシャデ ケッコデ
 スネ, コリヤ ワタシノ ウチノ ムスコノ コドモデ ワタシニ トッ
 テワ マゴジ コザイマスヨ
 331 F57L②④ マゴジス
 332 M29H①① コレワ ワタシノ ムスコデ コザイマス
 333 M40L②③ ウチノ チョーナンデス
 334 F67L②③ コレワ ウチノネ アノー チョーナンノ イバ
 ンノ コドモデ アリマス
 335 F27M②③ ワタシノ ムスコデス
 337 M51L②③ コレワ ジョウデス
 338 F40L②② ワタシノ コドモデス
 339 M74L②③ マゴジス
 341 F15L②③ ワタシノ コドモデス
 342 M35M②③ ジョウノ コドモデス
 345 M26L②③ ワタシノ コドモデス
 347 F62M②③ コレワ ワタシノ マゴジス
 348 M19M②③ ワタシノ オトトデス
 350 F37M②③ ワタシノ コドモデス
 351 F49L②③ オトトリノ ヒトデス
 353 F22L②④ コノ コネー. ワタシノ オトトデスヨー
 354 F31M②③ ワタシノ コデス
 355 M37M②④ 赤ノ チョーナンホーノ ゾレゾレデス
 356 M31H②④ 赤ノ コドモデス
 357 F23L②④ ワタシノ オネーサンノ コドモデス
 358 M34L②④ ジヤリデス
 359 F45H②③ ジョウノ イモトノ コドモデス
 360 F74L②③ ナニナニノ コデス
 361 F88L②③ ワタシノ マゴジス
 362 M32L②③ ウチノ チョーナンデス
 363 M54L②③ コレワ アノー マゴジス
 365 F55H②② ワタシノ コドモデス
 366 F61L②③ コレワ マゴジス
 367 M42L②④ アノー, コレワ 赤ノ チョーナンデス
 368 M47M③③ ワタシノ チョーナンデス
 369 F47L②③ アノ ワタシノ ムスコノ コデス
 374 F23M②③ オトトデス
 375 F21L②③ ワタシノ オトトデス
 377 F28M②③ コレワ ワタシノ ムスコデス
 378 F56M②③ ハイ ワタシノ コドモデス
 379 M32H②③ ワタシノ コドモデス
 380 F75L②③ マゴジス
 383 M55L③⑤ ウチノ ムスコデ
 384 F22M②② ワタシノ オトトデス, ヨロシク
 387 F54L②③ コレワ ムスコノ コドモデス
 389 F28L②③ シリアノ コデス
 390 F78L②③ ワタシノ マゴジス
 392 F69M①①, コレワ マゴジ コザイマス
 393 F23H②③ ワタシノ オトトデスカド
 395 F38L①① トーモ シバカデ コザイマス. ワタシノ コ
 ドモデ コザイマス
 396 M65M②④ コレワ ワタシノ マゴジスヨ
 397 M16L②④ コニチワ, コノ ヒトワ 赤ノ オトトデス
 399 F21M②③ ワタシノ オトトデス
 401 F66L②③ マゴジス
 402 F62M①① ワタシノ マゴジ コザイマス
 404 F47M②③ ワタシノ コドモデスカド
 407 F21M②③ ワタシノ オトトデス
 410 M22H②④ 赤ノ オトトデス
 411 M16M②③ コノ コワ 赤ノ オトトデス
 413 F55L②③ コレワ アノー ワタシノ コドモデスカド
 414 M45L②② ワタシノ チョーナンノ トシヒサト モーツマス
 417 M49L③⑤ センセー. ジョウノ ジョウノ コデ
 418 F28M②③ センセー シバカデス. イバノ ウエノ コデ
 ス. アヤコチャン オカーリンノ オセワニ ナック センセー. コ
 イヤウ シテゴワン
 419 F34M②③ ワタシノ コドモデス
 420 F33L③⑤ ワタシノ コデコ コリヤ
 423 F65L②③ ワタシノ マゴジス
 426 F33L②③ コノ コワ イバノ シタノ シンイデス
 428 F22H②④ アタシノ オネーサンノ コドモデス
 429 M42L②④ 赤ノ コドモデス
 431 F25H②③ オトトデス
 432 M35M②③ コノ コワ ワタシノ チョーナンデス

- 434 F25L②③ コノ コ アタシノ コヂス
- 435 F19H②③ ア,コニチヲ。ヒガシブリヂスネ。コレ、ア
タシノ オートヂス
- 436 F69L②③ コレヲ,ワタシノ マコヂス
- 438 F34L②③ アタシノ コドモデス。ドージ ヨロシク,オネガ
イ シマス
- 439 M20M②③ イハ センセー オハヨー コヂイマス。コレヲ
オクノ イチバン シタノ オートヂ,モ イマ ショーガッコウノ
カンネンセーデス
- 440 F74L②③ マコヂス
- 441 F31L②③ ワタシノ コドモデス
- 443 M18L②④ コレ,オクノ オートヂスガドモ
- 444 F22M②② ワタシノ オートヂス
- 447 F20H②④ コノ コヲ オニヤノ コナンヂス
- 449 M49M③⑤ コレヲ オノ コドモデヨ
- 450 F19M②② ワタシノ オートヂス
- 452 M59L②③ ワタシノ ニナンヂス
- 453 F15M②③ ワタシノ オートヂス
- 454 M19M②③ オイデス
- 455 F34M②③ コレ ワタシノ コヂス
- 456 F16M②③ ワタシノ イイトヂス
- 458 M31L②④ コレヲ オクノ ムスコヂスガ
- 459 F17M②③ アノ コレ ワタシノ オートヂス
- 462 M23M②③ コレヲ ワタシノ オートヂス
- 463 M58M②② ワタシノ コドモデス
- 464 M74L②③ ヲレヲ ワタシノ コヂス
- 466 F32M②③ チョーナンヂス
- 467 F61M①① コレヲ マコヂ コヂイマス
- 468 M36L②③ ワタシノ コドモデス
- 470 M38H②③ ワタシノ チョーナンヂス
- 471 F32L②③ ワタシノ チョーナンヂス
- 473 M19M②④ オクノ オートヂス
- 474 M20M②④ オクノ オートヂスガド
- 476 M19M②③ ワタシノ オートヂス
- 477 M25H②③ コニチヲ,アノー ウチノ コドモナンヂスガド
-
- 479 M15L②④ ハイ オクノ オートヂス
- 480 M16M②③ ハイ,コレヲ オクノ オートヂス。ヨロシク
オネガイ シマス
- 481 F63L①① マコヂ コヂイマス
- 482 M29M②② コレヲ ワタシノ チョージョヂス
- 483 M34H②③ ワタシノ ムスコヂス
- 485 F49L②③ ウチノ コドモデスガド,イマ ナンヂイマス
- 486 M43L②③ アー コレヲ センセーデスガ ドーモ オヒタシ
ブリヂ,ワタシノ コドモデスガド

- 487 F29L②② ワタシノ コドモデス
- 488 M68L②③ コレヲ ジョウノ マコヂス
- 489 M29L③⑤ コレヲ ウチノ コヂ
- 490 F50L②③ アー ウチノ コヂス
- 491 M28M②③ オートヂス
- 492 F27L②③ ウチノ コヂス
- 494 F15L②③ ワタシノ オートヂス
- 495 F49L②③ ワタシノ コドモデス
- 496 F38L②③ コニチヲ オレウニ ナリマシテ ワタシモ ナ
ニチオ ヲツチオリマスガド,コレガ チョーナンヂスガド アノ シ
タニ モー ヒトリ コドモガ アリマスガド ワンバウヂ コマリマス
- 497 F21M①① コノ コヲ ワタシノ オートヂ コヂイマス
- 498 F50L②③ コドモデスガド
- 500 F46L②② ワタシノ コドモデス
- 503 M21L②③ コンド ケッコノ シテ ナンガウニ コドモガ
チキマシタ
- 504 M17M②③ コレガ ワタシノ オートヂス
- 506 F41L②③ アノー ワタシノ コドモデス
- 507 M41L②③ ジョウノ ムスコヂス
- 508 M23L②③ チョーナンヂス
- 509 F30L②③ ワタシノ オートヂス
- 510 F18M②③ オートヂス
- 512 F17M②③ ワタシノ オートヂス
- 513 F35M②② ワタシノ チョーナンヂス
- 514 F28L②③ ムスコヂス
- 515 F53L②② ワタシノ マコヂス
- 516 M38L③⑤ ワタシノ ジョウ
- 517 M59M②② ワタシノ コドモデス。ヨロシク オネガイ シ
マス
- 518 F42L②③ アタシノ コドモデス
- 519 F30M②③ イチバン ウエノ ノリユキヂス
- 522 F46L②③ センセー コレヲ コドモデス
- 525 M36L②③ ワタシノ コドモデス
- 527 F25L②② ワタシノ コドモデス
- 528 M41M②③ センセー コレ ワタシノ ムスコノ ショー
イマ ショーガッコウノ カンネンセーデスヨ
- 531 M26L②③ オートヂス
- 533 M48L②③ コレヲ アタシノ ムスコヂス
- 534 F18M②③ ワタシノ オートヂス
- 537 M35M②③ ジョウノ ムスコヂス
- 539 M24H②④ コレ オクノ オートナンヂス
- 540 M72L②③ ワタシノ マコヂスガ
- 542 M51L②③ ワタシノ コドモデスガ
- 543 M55L②③ ワタシノ コヂス
- 545 M46H①① センセー,コレヲ オヒガシブリヂ コヂイマス,

ヲウ、コレチ コザイマスカ、コレウ ワタシノ セガレチ コザイマス
 546 F36L②③ ワタシノ コドモチス
 548 F51H①① ワタシノ コドモチ、ジナンチ コザイマス
 551 F45H①① チョーナンノ タレタレチ コザイマス
 552 M24M②③ ワタシノ オイデス
 554 F43H②③ コレ ワタシノ コドモチス
 555 F50M②③ オイデス、ワタシノ
 557 F31M②③ ジブノ チョーゾウダス
 558 F49L②③ ワタシノ マゴザイカド
 561 F22H②③ コレ アネノ コドモチス
 565 M45L②④ 赤ノ チョーナンダス
 566 F15L②③ ワタシノ オートダス
 567 F21H②③ ワタシノ アネノ コダス
 568 F28M②② ワタシノ コダス
 569 M26L②④ 赤ノ コダス
 570 F42M②③ ワタシノ コダス
 572 F29L②③ ハイ、ワタシノ コドモチス
 575 M17M②④ コレウ 赤ノ オートダス
 576 M26H②③ アー オイデス
 578 M37M②② コレウ ワタシノ ノムコダス
 579 M43M②③ コレ ウエノ コダス
 581 F54M②③ コレウ ウチノ コドモチス
 582 M17M②③ オートノ タレタレチス
 583 F61L②③ ワタシノ マゴザイ
 584 F19H②③ オートダス
 585 F45L②③ ワタシノ コドモチス
 586 M36M②③ ワタシノ ノムコダス
 587 F16M②③ ワタシノ オートダス
 588 M33M②③ ワタシノ イチバン ウエノ コドモチス
 590 F33M②③ ワタシノ チョーナンダス
 591 F28L②③ ワタシノ コドモチス
 592 M42L②③ チョーナンノ タレタレチス。ヨロシク オネガイ
 シマス
 593 F36L②③ コレウ ワタシノ コダス
 594 F49L②③ アノ、ワタシノ コドモチス
 596 F29M②③ ウチノ ノムコ シノノカダス
 597 F37M②③ アー アノー ワタシノ コドモチス
 599 F48L②③ アー センセー シバラクダシク コゴザイ シテ
 イマスケド コナ オーキナ コドモチ チキマシタネ
 600 F27L②③ ワタシノ コドモチス

電 灯 料 (106)

002 M49L③⑤ センゲツブツウ ウチノ モノガ ハラツテアルト
 オモウカラ マチガツチナイグロカ
 003 F43L②③ アノー コレ センゲツブツウ ハライマシタケド
 スイマセンケド モー イチド オタクノ ホーテ シラベテ モロエマ
 スカ
 005 M26H②③ スミマセンガ コレ センゲツウ ハラツテアルンチ
 スガ
 006 M50H②④ ヨク シラベテ クダサイ
 009 F38L②③ ヤー スンチマスケド イチド ミテ クダサイ
 011 F42M①② ウチ コレ オシハライ シテアルカラ モー イ
 チド シラベテ イタダケマセンカ
 012 F44L②② アノー センゲツウ ハライマシタケレドモ リョー
 シューシヨ モツテマスケド ソチウ オマチガエニ ナツテイマセンカ
 ヨク シラベテ クダサイ
 015 F38L③⑤ ハラツテアルケド… リョーシューシヨ モロツ
 タダ ミセウ
 017 F56L②③ センゲツウ ハライマシタケド モー イッペン ミ
 テ クダサイ
 018 F39M②③ センゲツブツウ ハラツテマスケドネ… モー イ
 チド シラベテ クダサイ
 020 M68L②③ コレウ オシハライ シタルカラ イッペン シラ
 ベテ クダサイ リョーシューシヨモ ココニ アリマスカラ ミテ ク
 ダサイ
 023 F46L②③ ウチウ ハライマシタ モー イチド シラベテ
 クダサイ
 024 F17H②③ イチオー オハライ シマシタノチ モー イチド
 タシカヌテ モロエマスカ
 026 F69L②③ ハラツタ ツモリダスケド、ココニ ウケトリガ
 アルチ コレ チョット ミテ クレマスカ
 027 M22M②③ コチラニ リョーシューシヨガ アリマスカラ モ
 ー イチド シラベナオシテ クレマセンカ
 029 F30M①② センゲツウ タシカニ オシハライ シタト オモイ
 マスケドモ イチド シラベテ イタダケマセンカ
 030 M17L②③ センゲツウ ウケトリガ アリマスケド ソチウ
 オマチガイジヤ アリマセンカ
 033 F48M①② チョット リョーシューシヨオ モツテキマスカラ
 オマチニ ナツテ クダサイ
 035 F47M①① センゲツウ オハライ シタケドケド スイマセ
 ヲ、モー イッペン シラベテ イタダケナイデショカ
 036 F66L②④ チョット イマ ノムコチスノチ モー スコシ ア
 トニ キテ イタダケタイ
 038 F43M②② センゲツブツウ ハライマシタノチ ココニ リョ
 ーシューシヨ アリマスカラ カイヤノ ホニ オカエリニ ナツテ

- シラベミテ クダサイ
- 039 M41L③⑤ センゲツパン ハラツカチ マー イッパン ヨー
シラベオシテ クレ
- 041 F47H②③ タイヘン オナズケケド センゲツパンワ
コノ ヨーニ オハライ シテアルト オモイマスナド イチド オシテ
ベ ネガイマス
- 042 M20L NR
- 043 F63L②③ センゲツ オハライ シタケドネ ココニ ウケト
リテ アルヂネ シツカリ シラベテ モラエンデシヨウカ
- 045 M19L③⑤ サイド シラベオシテ モラエナシ
- 046 F72L②③ ホイジャ マー オハライオ スンダ ハズダスカ
ラ モー イチド シラベテ クダサイ
- 047 F40L②③ スコシ マエニ コレ ハライマシタケド マチガ
ツツイカラ モー イチド ヨク シラベオシテ クダサイ
- 048 M61L③⑤ ハラツカチヨ、シラベテ
- 050 F67M②④ コノ トーリ ハラツテアルカラ シラベテ クダ
サイ
- 052 F58H②③ モー リョーシューシヨガ アリマスデ ミテ ク
ダサイ、モー イチド シラベミテ クダサイ
- 053 F33M②③ センゲツ イチド シハライ シマシタカラ、モシ
フシナラ テンガ アツカラ マエニ イタダイク リョーシューシヨ
ガ アリマスカラ オミセ シマスヨ
- 054 M60M②③ センゲツパン ハラツテアル ハズダスナド シラ
ベテミテ クダサイ ウケトリワ ココニ アリマス
- 056 F26H②③ センゲツノ ハラツテアリマスナド、イチド シラ
ベテ クダサイ
- 057 M36M②④ センゲツパンワ イクニチ ハラツカチ モー
イチド ガイジャノ ホーテシ シラベテ クダサイ
- 059 M24H③⑤ コレワ センゲツパン ハラツテアルガネー モー
イチド シラベテ クレムカネー
- 060 M22L②③ センゲツノ フンワ ハラツテマス チョット シ
ラベテ クダサイ
- 063 F25L②④ トリニ ミエマシタヨ
- 065 F30L②③ アノー センゲツ ハラツタ ヴェリデスカド チ
ョット オマチ クダサイ ウケトリ ミテキマスカラ、コノ トーリ
ハラツテアリマス
- 066 F38M②③ センゲツパンノ リョーシューシヨガ ココニ ア
リマスカラ チョット ミテ クダサイ
- 068 F36L①① チョット ハラツテアリマスカド モー イチド
シラベテ イタダケマセンデシヨウカ
- 069 M29M②③ センゲツ ハラツタニチ チョット オカシイデス
ネ。コチラノ シヨルイオ シラベマスカラ チョット マツテ クダサ
イ
- 071 M52L③⑤ コノ リョーシューシヨガ アルデ ハラツカチ
マー イッパン シラベテキヨ

- 073 F23M①② センゲツワ オシハライ シマシタ ウケトリ
コノ ヨーニ トツテアリマスナド モー イチド シラベテ クダサイ
マセンカ
- 074 M28H②③ ウチノ ホー ハラツテアルンデスカド、コレ ミ
テ クダサイ
- 075 F34H②③ センゲツ モー ハライマシタケド モー イチド
ヨク シラベミテ クダサイ
- 077 F39L②④ アノー センゲツパンワ モー ハライマシタ
- 078 F30L②③ センゲツパン ハラツテアリマスカラ モー イチ
ド タシカメテ クダサイ
- 080 M18M②③ センゲツワ ハラツカチケドー ナニカノ マチ
ガイジャ ナイデスカ。モー イチド チョット シラベテ クダサイ
- 084 M47H②③ コーユーー リョーシューシヨガ アリマスカラ、モ
ー イチド シラベテ、オシオシテキテ クダサイ
- 086 F27L②③ ハラツテアリマスカド
- 087 M25M②③ センゲツパンワ モー ハラツテアリマスカラ。シ
ラベテ クダサイ
- 089 M42H②④ モー イッパン ヨク シラベテ クレマセンカ
- 090 F16M②③ センゲツ ハライマセンデシタカ。モー イチド
シラベテ クレマセンカ
- 091 M61L②② ヅツワ センゲツノ リョーケンワ オシハライ
シタト オモイマスナド リョーシューシヨワ コノ トーリ アリマス
カラ モー イツカイ ネノタメニ オシラベ ネガイマセンカ
- 092 F17M①② タシカ センゲツワ オハライ シタト オモイマ
スカド モー イチド シラベテ イタダケマスカ
- 093 F69L②③ センゲツワ スンデ リョーシューシヨモ アリマ
スデ モー イチド シラベテ クダサイ
- 095 F18L②④ タシカニ ハラツカチ チヤント ミテ クダサ
イ
- 096 M28L②③ センゲツパンワ ハラツテアリマス ココニ リョ
ーシューシヨモ モラツテアリマス ドーノ オタシカメ クダサイ
- 097 M39M②④ ハラツテアリマスカラ ワタケシワ ハライマセン
- 098 F37L②④ モー イチド ツカオ ミテ クダサイ マエニ
ハラツカチ
- 099 M46L③⑤ センゲツパンワ ハラツカチ コノ リョーシュー
シヨオ モツテ シラベテ クレ
- 100 M16M①② アノー センゲツパンワ モー ハラツテアルンデ
スカド チョット コレ ミテ イタダケマセンカ
- 101 M33M①② センゲツ ハラツタシヨガ ナイデスカ。モー イ
チド オシラベ ネガイイナシテシヨウカ
- 102 F16M②③ ココニ センゲツノ ウケトリガ アルカラ ナン
カノ マチガイジャ ナイデスカ。モー イチド シラベテ クダサイ
- 104 M27M①② チンキヤナン タシカ センゲツパンノ キツワ
ハラツテアルト オモエンデスカド コーユーー フーニ タシカニ リ
ョーシューシヨモ アリマスカド ドーテシヨウカ イッパン シラベ

- テ イタケマセンカ
- 105 F30L②③ アー ワルイネー センゲツウ ワカシノ トコロ
 モー ハラツテアルンデスカド
- 107 F18M②③ スミマセンガ センゲツブワウ オハライ シマシ
 タガ モー イチド オシラベ クダサイ
- 108 M25M②③ アノ センズウ シューキンニヤンガ キタンデ
 スカド キテ ハラツタンデスカドネ カケニン シテ クダサイ
- 110 F15L②④ コノ トーリ チヤント ワカシテアルカラ シラ
 ベテ クダサイ
- 111 M34H②③ アラ マダ ハラツテアリマセンカ タシカ ハ
 ック ハズデスカド コレガ センゲツブノ ウケトリナンデスガ
- 113 M28M②③ センゲツブワウ ハラツテアリマスカラ モー イ
 チド シラベテ クダサイ
- 116 M26M②④ センゲツウ ハラツタンデスカドモ リョーシユーシ
 ョモ アルカドモ チヤント ハラツタンデモ モー イツカイ ヨク
 シラベテミテ クダサイ
- 117 F31L②③ センゲツ オハライ シテアルカド ナニカ カワ
 ック テンチ オカシカッタンデスカ ワカシウ リョーシユーショガ チ
 ヤント アリマスカド
- 120 M59L②③ センゲツブノ テントーリョーウ ハラツテアル
 ンデスガ ウケトリガ コーユー フーニ アルンデスガ イッパン ネ
 ンカメニ シラベテ モライタイ…… オネガイ シマス
- 122 M56M②② マイクキ マイクキ コロローザマデス アー コ
 レウ センゲツノ ヒーキューデスネ コレウ タシカ ウチニ リョー
 シューショガ アルト オモイマスノデ シラベテ オマチ クダサイ
 コレデ コシイマス コーユー ワケテ リョーシユーショモ コシイマ
 スノデ タイノ オチスー カカマシタガ コレニ ヨツテ 何イロ
 アツタノ クチバモ エライデショガ コリョーショー ネガイウイ
 ト オモイマス
- 123 F18M①② センゲツノ ワウ モー ハラツタト オモイマ
 スカド モー イツカイ チョット シラベテオシテ イタケマスカ
- 125 M25H②③ アノ スミマセンカド コノ マエノ ワウ ハ
 ライマシタケド マチガッテイマセンカ モー イチド タシカメテ ク
 ダサイ
- 126 M24L③⑤ センゲツブワウ ハラツトルデ モー イツカイ
 ヨク シラベテキテ クレ
- 127 M28M③⑤ センゲツ チヤント ハラツテアルデ リョーシユ
 ーショモ コノ アルデ シツカリ シテ モロウニヤ コマル
- 128 F25M①② ウチウ ハライマシタケド コノ ヨーニ リョー
 シューショ アリマスカラ モー イチド タシカメテ イタケマスカ
- 129 M22M②③ センゲツブワウ ハラツテアリマスカド コレ ド
 シタンデショーカネ モー チョット シラベテ モライマセンカネ
- 130 F36L②③ ハライマシタカラ モー イツカイ シラベテ ク
 ダサイ
- 132 F65L③⑤ センゲツウ ハラツタジヤ ナイカネ

- 134 M73L②④ コレ スンドルカラ マイッパン シラベテ クダ
 サイ
- 135 F38L②③ コノ トーリ ウケトリ イタケイタカラ ハラツ
 テアル ハズデスカラ モー イチド シラベテ モライマシショーカ
- 137 F57L①① ワカシ コレ オハライ イタシマシタニネ チ
 ヤント リョーシユーショガ コシイマスカドモ ドーシタ モンデ コ
 シイマシショー
- 138 F37L②③ センゲツブワウ モー ハラツテマスカド コレ
 センゲツノ リョーシユーショデスカド イッパン モツテツテ シラベ
 テミテ クダサイ
- 139 M71L③⑤ センゲツウ ハラツク ツモリジテ イチオー ソ
 ノ コノ ウケトリウ コノ ユーコナル モノガ ナニモ コーナ
 シン モノカネ
- 140 F74L②③ ハラツタルンデスカドモ マチガッテイマセンカ
- 141 M22M①① センゲツブワウ モー シハラツテアリマスカラ
 モー イチド シラベテ イタケマセンデショーカ
- 143 M53H①① アー センゲツノ リョーキンウ モー コレ ハ
 ラツテアリマスカラ ワルイカド モー イッパン シラベテオシテ イタ
 ケマセンカ
- 144 M17M③⑤ ココニ リョーシユーショガ アルガラー ハイダ
 モン オカシイタイ ネー
- 146 F35M②③ センゲツウ タシカ ハラツテアルンデスカド
- 147 F30M③⑤ チョット シラベテミルウ
- 149 F40L②④ モー イチド ヨク シラベテ クダサイ
- 150 F67L③⑤ マー コナイダ ハラツタケド ナンチ マタ ト
 リニ キタネ
- 151 M68L②② リョーキンオ シハラツテ イツカニ コノ オカ
 ネウ シハラツク ハツナンデ コシイマスカド リョーシユーショガ
 アツタノ ホーニ…… マチガイ ナイト オモイマスカド ドーカ モ
 ー イチド オシラベオ ネガツテ ヒトツ コンゾオ イタケキタイ
- 152 M28M②③ イヤ モー ハラツテアリマスコト ナンデシタテ
 ウチノ リョーシユーショオ オミヒ シマスヨ
- 153 M32M②④ センゲツ ハラツテアルカラ モー イチド クシ
 カメテ クダサイ
- 155 F47L①② タシカ オハライ シタ ハズデスカド モー イ
 チド シラベテ イタケマセンカ
- 156 F73L②③ ハラツタト オモイマスカドモ マタ コーユー
 フーニ ツーチガ キタスルト イチオー カイヤノ ホーテ シラ
 ベテ モツクワト オモイマス
- 158 M25L②④ ハライマシタヨ
- 159 F20L②③ センゲツ ハライマシタケドモ ソチヲノ ホーウ
 ドー ナツテマスカ
- 161 F61L②③ ワカシヤ センゲツ ハラツタト オモイマスカド
 ウチデ シラベテミマス
- 162 F20H②③ センゲツブワウ オハライ シマシタカラ モー

- イフ ヨク オシカメ クダシイ
- 164 M42L③⑤ センゲツ ハツツクンダケド ウケトリモ アル
チ モー イッパン シラベテ モエシカ
- 165 M16M②④ コノ トーリ センゲツ ハライマシカ
- 168 F62L②③ オハライ シタリマシテ ホイデスチ 処シカニ
オカネウ オハライ シタリマシテ ヨク オクノ ホーモネ シラベ
テ クダシイ
- 171 F23L②③ ココニ ウケトリガ アリマシケド センゲツ ハ
ライマシカヨ
- 173 F44L③⑤ コレ ハツツアアルケド ウケトリモ ココニ ア
ルチ シラベテミテ
- 174 F61L②③ コノ ヨーニ チヤント アナニ イダシイア
リマシテ チヤント シラベテミテ クダシイ
- 176 M21L③⑤ コレ マチガットリヤー セン
- 177 F24M②③ センゲツウ オハライ シマシケド イチド シ
ラベテ クダシイ
- 179 F74L②④ ワカシウ クシカニ ハツツアアリマシヨネ
- 180 M45L①② オルレイリマシケド デントーリョウ リョーシ
ユーシヨモ コシイマス トーリ オハライ シテアルト オモイマス
ド イチド シラベテオシテ イダシカセシカ
- 182 F32M②② センゲツウ クシカ オハライ シテアル ハツ
ケド チヤント リョーシユーシヨモ コシイマスガテ モー イチド
シラベテ クダシイ
- 183 F23M①② クツン オシハライ シテアル ハズナシケド
モー イチド シラベテ イダシカセシカ
- 184 F43M①① オルレイリマシガ ウチウ ハツツカルト オモイ
マスケレド モー イチド シラベテ イダシカセシカ
- 185 F32M①① センゲツウノ クシカ オハライ イタシマシク
ダシケレド ナニカノ マチガイテウ コシイマセシカ リョーシユ
ーシヨモ コシイマスケレド イチド オシラベ ネガイマスカ
- 186 F33M③⑤ ワカシ、モー ハツツカテ チヤント シラベ
テ
- 188 M65L②③ ジツウ センゲツ シハライズミニ ナツツアリマ
シケレド ココニ リョーシユーシヨガ アリマシテ イチオー カク
ニン シテ クダシイ
- 189 F26L②② アノ センゲツ ハライマシケドモ モー イチ
ド オシカメ クダシイ
- 191 M25L②③ コレウ センゲツ オシハライ シタ ハズダシ
ケド ナニカノ マチガイジヤ ナイデスカ
- 192 F16M②④ コレオ ミテ クダシイ
- 194 F20M②② アノー モシ コジシヤ テンガ アツカラネ
マウ コチラテ センツ シラベル コトガ チキナクカラ イチオ
ーカイシヤニ オカエリニ ナツツ シラベテ クダシイ
- 195 M44M③⑤ モー ハツツアアルジヤ ナイカ モー イチド
シラベテオセ

- 197 M72L③⑤ ハツツカル ハズダドナア ヲナナ ハナチ コ
トウ ナイ
- 198 F15M③④ コノ マシ、ダシタンダド、ミテ モエシ
- 199 F40M①② センゲツウノ コレチ ハツツアアリマシケラネ
モー イツカイ シラベテオシテ イダシカセシカ
- 200 F18M①② センゲツ ハツツクンダケド モー イチド シ
ラベテキテ イダシナイデスカ
- 201 M29M②③ アノー センゲツ ハライマシタノチ モー イチ
ド オシラベ クダシイ
- 202 F70L①② マー イッパン キテ イダシカセシカ ワカシ
ジヤ ワカリマセシカラ イッパン ムスニ キキマス
- 203 F49L②③ アノ センゲツ ハライマシケドモ オマチガイ
ジヤ ナイデスカ オシカメ クダシイ リョーシユーシヨウ ココニ
アリマシカテ
- 204 M60L②② センゲツ オシハライ モーシヤケガ コノ ト
ーリ リョーシユーシヨ アリマシケラ モー イチド オシラベ ク
ダシイ
- 205 F65L②③ センゲツウ クシカニ オハライ シテアリマス
コレガ ウケトリダシケラ ナニカノ マチガイデスガテ モー イチド
シラベテミテ クダシイ
- 206 M64L③⑤ マー センゲツ トリニ ミエテ ハツツ ヲモ
リダケドモ ウケトリモ チヤント アルチ イッパン シラベテ モテ
イタイ
- 207 F49M②③ センゲツウノ ハツツアアリマシヨ スイマセシ
イチド シラベテオシテ クダシイ
- 209 F15L①② スミマセシ コチラニ リョーシユーシヨガ アル
ノチ モー イチド シラベテ クダシイマセシカ
- 210 F23L②④ モー イチド ヨク クシカメテ クダシイ
- 212 F23H②③ センゲツ リョーキンノ ホーウ オシハライ シ
マシテ、ウケトリシヨーモ アリマシテ、モー イチド オシカメ
クダシイ
- 213 F31L①② ジヤ コレオ モー イチド シラベテ イダシ
ナイデシヨカ
- 215 M41L③⑤ センゲツ ハツツ ハズダチ イッパン シラベ
テ リル
- 216 F26M②④ コレウ センゲツウノ リョーシユーシヨガ
ナイデスカ
- 218 F58L②③ ワカシ、センゲツ オハライ シタリマシケドモ
ナツツシカラ、ウケトリガ アリマシケラ チョット オミセ シマシ
ョカ
- 219 M49L③⑤ リョーキンオ ウチウ ハツツ ヲモリダガ チ
ヨット ミシテ モエシカネ
- 220 M41M②④ センゲツウノ ハツツアアリマシヨ
- 221 M56M②③ アンタニモ ワカラン トコロガ アルデシヨカ
ラ、マイッパン カカニン シテ クダシイ センゲツウノ ハツツカテ

- マイッパン カカニシ シテ クダサ
 222 F26L①② アノ センツネー ハラッテ コーユー フーヂ
 リョーシュエーショガ アリマスカラ、ハラッテアルト オモウンデスカ
 フ イチド オタクノ ホーモ シラベテ イタクケマスカ。アトデ レ
 ンラク シテ イタクケマスカ
 223 F63L②④ マチガイザ ナイカ イチド シラベテ クダサ
 イ
 224 M21L③⑤ センツウ タシカ ハラツクンダケド、モー イ
 ッパン シラベテミテ クレ
 227 F28M②③ モー ハラッテアルト オモウデスカド ココニ
 リョーシュエーショガ アリマスカラ モー イチド ヨク シラベテミテ
 クダサ
 230 F37H②③ リョーシュエーショガ アリマスカラ モー イチド
 シラベテ クダサ
 231 M23H③⑤ センツウ ハラツクモンデ、モイチド ヨク ソチ
 ラテ タシカメテ ホシイ コチラク カクジツニ ハラッテアル、コー
 ックトリガ アルモノデ
 233 F25L②③ タシカネー、ウチー ハラッテ、リョーシュエーショ
 モ アリマスカラ
 236 M33M③⑤ センツウ タシカ ハラツク ハズダケー モー
 イッパン シラベテ モラエカネー
 237 M38M①② テンキリョーワ、ココニ リョーシュエーショガ ア
 ルヨーニ ハライコンデ アリマスカ、リョーシュエーショオ オミセ シ
 マスカラ タシカメテ イタクケマセンカ
 240 M20M③⑤ センツウノ ヲノハラッテアルノデ
 242 M31M②③ ココローサン、センツウ、デントーリョー オシハ
 ライ シタ ワケナシデスカド トーイタク テチガイカラ…… センツ
 ウ オシハライ シタ リョーシュエーショ アリマスカ イチド シラベ
 テ イタクキタイ
 243 M63L②④ センツウ ハラッテアルケド、モー イチド、デ
 ンビョー びんミテ ミセマシヨーカ
 245 M52L②④ コノ トーリ ハラッテアルカラ モー イチド
 シラベテ クダサ
 246 M23M②③ センツウ ハライマシタ ソノ ウケトリイ イマ
 モツマスカラ モー イチド ソチラテ カカニシ シテ クダサ
 248 M56L②③ ナカノ オマチガイザ ナイデスカ
 249 F42H②③ センツウ タシカ オハライ シタ ツペリデス
 ケド モー イッパン リョーシュエーショ ミツミマシ コノ トーリ
 オシハライ シテアリマスカド ナカノ オマチガイザ ナイデショ
 ーカ
 250 M22H②③ センツウノ ウケトリガ アリマスカラ モー イ
 チド ヨク タシカメテ クダサ
 251 F36M①② センツウノ ハラツクオ オモイマスカド リョー
 シュエーショ コチラク アリマスカラ、チョット ミテ イタクケマスカ
 252 F26M①② ウケトリガ アリマスカラ モー イチド シラベテ

- イタクケマスカ
 254 F32L②③ センツウノハライマシタ…… オトーサンガ
 カエツテカラ レンラク シマシ
 256 M24H②③ センツウノ タシカニ ハラツクンデスカレド オ
 タクノ ホーノ マチガイザ ナイデスカ、モー イチド シラベテ
 モラエマスカ
 258 M34M①② コノ マイ タシカ オハライ シタ ハズデスカ
 …… イチド シラベテ イタクケマセンカ
 260 F33M②③ ハラッテアリマスカド、オタクノ ホー タシカ
 メテミテ クダサ
 261 M42L③⑤ ソチチ バカチ コトガ アルカ
 262 F47M②③ センツウノ ハラッテアリマスカラ モー イチド
 シラベテ クダサ
 265 M24M②③ センツウノ リョーシュエーショガ アリマスカ ハ
 ラツク コトオ ショーズー シマステ イッパン シラベテ クダサ
 266 F22M①② アノ、センツウノ ヲノハラッテアルンデスカ、
 アノ モー イチド シラベテ イタクケナイデスカ
 267 M39M②③ コレ センツウ ハラッテアルンデスカ。コノ トーリ
 ウケトリエ アリマスカラ、チョット シラベテ モラエマセンカ オ
 カシイデスカ
 269 M59L③⑤ センツウノ モー スデニ ハライマシタケ
 レ、コーユー ウケトリエ アルカラ、モー イッパン シラベテ ハ
 ンゾオ シテ モライタイ
 270 F28H②③ アノ、オハライ シテアル ハズデスカド スミマ
 シン モー イチド オシラベテ クダサ
 271 M32L③⑤ センツウ ニューキン シテアルカラ、モット ヨ
 ク シラベテミテ クレ
 272 F38M①② コノ ヨーニ リョーシュエーショオ チガイマシ
 ンデ、モシカシラク オタクノ ホーガ マチガイシラツクシヤルンゾウ
 ナイデスカ。タシカメテ クダサイマセンカ
 273 F27H②③ センツウ ハラッテ ココニモ リョーシュエーショ
 ガ アルンデスカド モイッカイ シラベテオシテ モラエマスカ
 275 F50L②③ ハ、モー、ワジシ ハライマシタ、シラベテ ク
 ダサ
 276 F22L②③ ココニ ウケトリエ アリマスカド…… モー イ
 チド シラベテミテ クダサ
 278 M41L③⑤ センツウノ ハラツクザ ナイカナ、ミテ クンデ
 ノ マク シラベテヤー
 279 F60L②② トーモ ココローサンデ チガイマシケレド コレ
 ワ モー スンデオ オモイマスカド モー イチド シラベテ クダ
 サ
 281 F38H②③ モー ハライマシタカラ モー イチド オタク
 カメ クダサ
 284 F33M②② アノー オハライ シマシカラ イチド ソチラ
 ノ ホーデ オシラベ テガエマセンカ

- 285 M66M①① ナニカノ マチガイヂヤ ナイカシラン ウチヲ
 ハラツテオリマスデスガネー、ウケトリガ ワタシノ ホーニ アリマス
 ケドモ、ナニカ オタクノ ホーデ オマチガイガ アルジャ コロイマ
 センカ、オシラベ ネガイタイト オモイマス
- 287 F23H②③ タブシ センゲツ ハラツテアルト オモイマスノ
 テ モー イチド シラベテ クダサイ
- 288 M47H①① ワタシノトコヲ、センゲツ モー ハラツテアルン
 デスけれどモ、ジュリョーシヨウ コノ トーリ アリマスカラ、モー
 イチド シラベテ モライメンデシヨウカ
- 290 F41H①① センゲツノ ブン オハライ シテアルト オモイ
 マスけど、ココニ リョーシユーシヨモ アリマスけど イチド シラベ
 テ イタダケマセンデシヨウカ
- 291 F24H①② センゲツ オハライ シテアリマスカラ イッペン
 カイシャチ シラベテ イタダケマスカ
- 292 F21H①② センゲツ ハラツク ハズデスけれどモ、イ
 チド タシカメテ イタダケマセンカ
- 293 F22H①② リョーシユーシヨガ アリマスノチ、モー イチド
 シラベテ イタダケナイデスカ
- 294 F19H②③ センゲツノ ブンヲ タブシ ハラツク ハズナ
 ノデスガ、モー イチド シラベテ クダサイ
- 296 M33L②④ オカシナキ タシカ ハラツク ハズけれど、イ
 チド シラベテミテ クダサイ
- 297 F48L②③ コレヲ モー シハライ シク ハズナラズけれど、
 イチド ヨク シラベテ クダサイ
- 299 M35H①② センゲツ コチラチヲ ハラツテ リョーシユーシ
 ヨモ アリマスカラ、モー イチド シラベテオシテ イタダケマセンカ
- 300 F46L②④ イチド オハライ シテアリマスけれど マク トリ
 ニ キタンデスカ
- 302 F58L②④ マー イツカイ シラベテ クダサイ
- 303 F55L②③ センゲツ ハライマシタチ モー イチド シラベ
 テ クダサイ
- 305 M33H②③ タブシ センゲツ コノ リョーキンヲ ハラツク
 ト オモウナラズけれど モー イツカイ シラベテ モライメンカ
- 306 F37M②② センゲツ タシカ ハライマシタケド、ウチノ
 ウケトリモ コロイマスノチ オタクノ ホーデモ タシカメトイテ ク
 ダサイ
- 308 M19M②④ コレヲ センゲツノ リョーシユーシケド モー
 イチド シラベテ モライマスカ
- 309 F25H②③ リョーシユーシヨオネ イタダテアリマスけれど
 モー モー イチド シラベテ クダサイ ハラツク ハズデスけれど
- 311 F24M②③ アレク チョット オマチ クダサイ タシカニ
 ハラツクオ オモイマスけれどモ、タシカニ コレ リョーシユーシヨ
 モラツテイカカラ ハラツクオ オモイマスカラ、モー イチド シラベ
 テ クダサイ
- 312 M33L②④ ハラツテリョーニ オモウケドモ、イチド シラベ

- テ クレマセンカ
- 314 M34M②③ センゲツ ハラツクナラズけれど、ソチヲノ ホーデ
 マダ ナニカ マチガイランジャ ナイデシヨウカ モー リョーシ
 ユーシヨ ココニ アルンデスガ
- 315 F30M②② スイメン ウチ センゲツノ ブンヲ オハライ
 シテアルト オモイマスけれど、ココニ リョーシユーシヨガ アリ
 マスけれど イチド タシカメテ クダサイ
- 317 F48L②③ タシカニ オハライ シマシカラネ オタクノ
 ホーモ シラベテ クダサイ
- 318 F60M①① セツカク オイデニ ナツケドモ、オハライスマ
 ニ ナツテオリマスカラ、イチオー カイシャチ オシラベニ ナツテ
 イタダケマセンカ
- 320 F17L①① ア、スマメン コチラチヲ モー ハラツテ テ
 ンビョーモ アリマスけれど、スマメン モー イチド ソチヲオ ミ
 テ イタダケマスカ
- 321 M33M②③ タシカ センゲツヲ ハラツテオリマス イッペン
 コレチ シラベテ クダサイ
- 323 F21M②③ センゲツノブンヲ ハラツテアリマスノチ、リョーシ
 ユーシヨモ アリマスノチ ミテ クダサイ
- 324 F23M②③ リョーシユーシヨガ アリマスカラ、イチド シ
 ラベテ クダサイ センゲツノブンヲ ハラツテアリマスカラ
- 326 M27H②④ リョーシユーシヨ ココニ アルカウ モウ イ
 ヅン シラベテ クダサイ
- 327 F23L①① ア、センゲツノブンヲ ハラツテオリマスノチ、モー
 イチド シラベテ モライメンデシヨウカ
- 329 M44M②③ セツカク ミエテ シユーキン ナツク カクガ
 ヲツツンテ アナタニウ ヒシヨーニ メウクダト オモウナラズ
 けれど、コレヲ スデニ ハラツテアリマス マー ソノ ショーコヒント
 シテ、ココニ リョーシユーシヨオ オミセ シマス
- 330 M75L②④ コレヲ センゲツノブンヲ オハライ シマシタ
 ンガウ ウケトリモ アリマス イッペン オシラベテ シテ、モライ
 タイ
- 331 F57L②③ モー、イツペン ハラツテアリマスカラ、コレ ミ
 テ クダサイ
- 332 M29H NR
- 333 M40L②③ マニ コレ ハラツトナラズ、モー イツカイ シ
 ラベテ クダサイ、ソレカラ ハライマス
- 334 F67L②③ ワタシヲ センゲツヲ ハラツテ、リョーシユーシヨ
 モツテイマスカラ、オミセ シマシヨウカ
- 335 F27M②③ コーユー、フーニ ハラツテアリマスカラ、イチド
 シラベテミテ クダサイ
- 337 M51L②④ コーユー、フーニ ハラツテアルンガウ、イッペ
 ン シラベテ クダサイ
- 338 F40L③⑤ センゲツ ハラツテアルジャ、ナーイ
- 339 M74L②③ ウケトリガ、コノ トーリニ アリマスカラ、ヨク

- カイヤノホーチ シラベテ クダシイ ワシノホーチウ マチガ
ツオラント オモイヌ
- 341 F15L②④ センゲツ ハラツト ユー カミガ アルノチ
モー イチド ヨク シツカリ ミテ クダシイ
- 342 M35M②④ マ イツカイ ヨク シラベテ クダシイ
- 345 M28L①① スミマセンガ センゲツウ スンヂマスケド ソチ
ラチ モー イチド シラベテ イタダクマスカ
- 347 F62M①② センゲツウノク モー オシハライ シテアリマス
ガ モー イチド オシラベ クダシイマセ ウチニモ リョーシユーシ
ヨガ アリマスカラ コレオ コソウ クダシイ
- 348 M19M②③ センゲツウノク ハラツテアルミタイヂスケドモ
ドンナ フーヂスカネー
- 350 F37M②③ アノー センゲツウノク ハライマシタチ
- 351 F49L②③ マー オハライ シテアリマスカラ イチド シラ
ベテ クダシイ
- 353 F22L②③ タシカニ ハラツテアリマスケド
- 354 F31M②③ ハラツテアルト オモイマスカラ シラベテ クダ
シイ
- 355 M37M②③ センゲツウ ハラツタケド コレ マチガットー ハ
ンヂスカ. コエウ ウケトリモ アリマスガ
- 356 M31H②③ モー ハラツテアリマスカラ モー イチド タシ
カメテ クダシイ
- 357 F23L②④ センゲツウ チェント ハライマシタカラ, コエウ
リョーシユーシヨ アリマスヨ
- 358 M34L②⑤ オイ コナイダ ハラツタモ. センゲツウ ニサンチ
マニ ハラツタヨ
- 359 F45H②③ センゲツウ シハラツテアル ハンヂマスケド モー
ー イチド シラベテオシテ クダシイ
- 360 F74L②③ コノ トーリ オハライ シタ ハンヂマスチ ヨク
シラベテ クダシイ
- 361 F68L②③ センゲツウ コーユー フーチ, オハライ シテ,
ウケトリウ アリマスチ イッペン ヨク シラベテ クダシイ
- 362 M32L②② ハラツタ ツメリダケド モイチドー スミマセン
ケド シラベテ モライマセカ
- 363 M54L②③ コレオ ミテ クダシイ スンドアリマスヨ. モイ
ツカイ ヨク シラベテミテ クダシイ
- 365 F55H②③ コーユー フーニ リョーシユーシヨガ キンマス
カラ, シラベテ クダシイ
- 366 F61L②② イチド シラベテ クダシイ. コエウ リョーシユ
ーシヨ オモイマスチ
- 367 M42L②④ アノー テントーリョウウ, センゲツウ ハラツテア
リマス. コノ リョーシユーシヨガ アリマスケド ココチ モー イチ
ド シラベテ モライタイ
- 368 M47M②⑤ ウケトリウ コノ トーリ アルノチ オモイ
ノホーチ イッペン シラベテ ク
- 369 F47L①② センゲツウノク オハライ シタンヂスケド コノ
トーリニ リョーシユーシヨガ アリマス ヨク オシラベテ ナツテ
クダシイ
- 374 F23M①② センゲツウノク モー オハライ シテアルンヂス
ケドネ モー イチド シラベテ イタダクナイヂシヨカ
- 375 F21L①② ハライマシタケドモ モー イツカイ シラベテ
イタダクマスカ
- 377 F28M②④ コノ トーリニ ハラツテアリマス
- 378 F56M②③ センゲツウノク オハライ シマシテ ウケトリウ
ーシヨガ ウチニ トットイテアリマスカラ ヲレオ イマ オミセ シマ
スカラ イチド シラベテ クダシイ
- 379 M32H①② センゲツウノク リョーシユーシヨガ コエウ アリマ
スケド モー イチド シラベテ イタダクナイヂスカ
- 380 F75L②③ センゲツウノク オハライ シテアリマスチ マチ
ガイシヤ アリマセカ
- 383 M55L②⑤ コレウ オカシイナー ハラツタ ハズダチー モ
ー イチド シラベテ クレウカ ドーモ ヲレ マチガツツルンシイ
- 384 F22M②③ センゲツウ, オハライ シマシタケド イチド, オ
カシカメ クダシイ
- 387 F54L②③ センゲツウノク オハライ シタンヂスケド ウケ
トリモ モラツテアリマスカラ モー イチド シラベテ クダシイ
- 389 F28L②④ モー イチド シラベテ モライマスカ
- 390 F78L NR
- 392 F69M②③ タシカ ハライマシタガ, モー イチド オシラベ
テ クダシイ
- 393 F23H①② センゲツウ コノ マニニ, イチド オシハライ シ
テアルト オモクンヂスケド, イチド シラベテ イタダクマスー
- 395 F38L①① アノ コエウ リョーシユーシヨガ アリマスカラ
モー イチド オシラベテ ナツテ イタダクマセカ
- 396 M65M②④ マチヨ センゲツウ コレ シユーキンウ コラレ
ト オモウケドモ チョット ナツテ クダシイヨ コレウ セヒ モ
ー イチド カイヤチ オシラベ ネガイタイ
- 397 M16L②③ スイマセケド, センゲツウノク オハライ シタノ
チ モー イチド ヨク タシカメテ クダシイ
- 399 F21M①② センゲツウニ ハラツテアルンヂスケドー コエウ
ウケトリモ アルンヂスケド イチド タシカメテ イタダクマセカ
- 401 F66L②④ コーユーニ ハラツテアルケド モー イッペン シ
ラベテミテ クダシイ
- 402 F62M①① オハライ シタ ハンヂマスケドガ ヨク オシラベ
テ クダシイマセカ
- 404 F47M②③ センゲツウノク シマシタカラ スミマセンガ モー
イチド ヨク シラベテミテ クダシイ
- 407 F21M①② アノ, センゲツウノク モー チェント ハラツテアリ
マスノチ, モー イチド タシカメテ イタダクナイヂシヨカ
- 410 M22H①② タシカ センゲツウノク ハラツタト オモイマスケド,

- モ- イチド シラベテ イタダケマセンカ
- 411 M16M②② チョット スミマセンカ リノ マチガイジヤ ナ
イデショ-カ。モ- センゲツブノ ハラツテルンデスカチ チョット
デンヒョ-オ ミテ モラエマセンカ
- 413 F55L①② センゲツブ オハライ シマシクテド モ- イチ
ド シラベテ イタダケマセンカ
- 414 M45L②③ アノ- コノ セ-キユ-ショ-ノ デント-リヨ
-ウ タシカ センゲツ ハラツテアル ハズス。シタガツテ モ-
イチド シラベテオシテミテ クルマセンカ
- 417 M49L③⑤ モ- イツカイ ヨシ シラベテキテ クレ。カイ
シヤデ
- 418 F28M①① スミマセンデスカド、アノ センゲツノ ブン モ
- シハツクンデスカドネ-。ヒカエガ アリマスジテ、モ- イチド
ヨク シラベテ モラエマセンデショ-カ
- 419 F34M②④ コ-ユー-ヂスカラ ハライマシク
- 420 F33L③⑤ チョット ハラツクヨ リヨ-シユ-ショモ アル
ヲモン
- 423 F65L②③ センゲツ チヤント オハライガ シテアリマスデ、
ウケトリオ ミテ クダサイ
- 426 F33L②③ ア- センゲツウ 多シク オモイマスカド チ
ョット マツテ クダサイ。アノ- コノヒ ヲツハリ アリマスカラ
多シクシヤ ナイデスガ
- 428 F22H②③ センゲツ リヨ-キン ハラツクンデスカド マチ
ガイジヤ ナイデスガ。モ- イチド タシカマテ クダサイ
- 429 M42L②④ センゲツブノ ウケトリガ アルチ。チョット
コレオ ミテ クダサイ
- 431 F25H①② センゲツブノ モ- オシハライ シマシクテド
オタクノ ホ-テ モ- イチド シラベテ イタダケマスガ
- 432 M35M③⑤ センゲツブノ デンキダノ リヨ-シユ-ショ
ガ アルンダカラ、モ- イツケン シラベテオシテ キテ クレムカチ
-
- 434 F25L①① スミマセン、アノ、センゲツ、オシメテアリマスガ
ド、モ- イチド シラベテ イタダケナイデショ-カ
- 435 F19H①② アノ、センゲツ、オハライ シマシクテドネ、ココ
ニ ウケトリガ アリマスカドモ- モ- イチド シラベテ イタダケマ
スガ
- 436 F69L②③ アノ-、センゲツ、オハライ シマシクテ、マク、
オシラベ オネガヒ シマス
- 438 F34L②③ スミマセン、コレ リヨ-シユ-ショガ アリマス
カドモ、ダツテアリスガ。スミマセン、モ- イチド シラベテ クダ
サイ
- 439 M20M②③ オカシイデスネ、センゲツ ハラツテアリマスシ、
ウケトリモ モラツテアリマスジテ、ソチヲ マチガイジヤ ナイデス
ガ、モ- イチド シラベテキテカラ キテ クダサイ
- 440 F74L②③ オハライ シマシクテ、リヨ-シユ-ショ オミセ

- シマシヨ-カ
- 441 F31L②③ アノ- センゲツノ ブン オシハライ シテアリ
マスト コノ ヨ-ニ リヨ-シユ-ショガ アリマスカラネ。モ- イ
チド シラベテ クダサイ
- 443 M18L②③ アノ ワクシ トコデウ センゲツブノリ モ-
ハラツテマスカドモ- モ- イツケン シラベテ モラエマセンカ
- 444 F22M①① センゲツブノリ ハラツテアル ハズスカドモ
ウケトリ モ- イチド オミセ シマスカド カクニシ シテ イタダ
ケマセンカ
- 447 F20H②③ アノ- ウチヲ モ- センゲツブノリ ハラツテ
アルンデスカドモ、イチド シラベテ モラエマセンカ
- 449 M49M③⑤ オ-イ、マチガエテ ナレヨ
- 450 F19M①② センゲツ オハライ シタト オモイマスカドモ
モ- イチド シラベテ イタダケナイデショ-カ
- 452 M59L②③ コノ デンヒョ-ウ センゲツ オハライ シマシ
クガ、ワクシニウ リヨ-シユ-ショガ アリマスカラ 多シク ミセマ
ス
- 453 F15M②③ スミマセン。コレ モ- イチド シラベテオシテ
クダサイ
- 454 M19M②③ ハラツテアル ハズナクンデスカドネ-。モ- イ
チド シラベテ クダサイ
- 455 F34M②③ ウルイデスカド、センゲツブノリ コノ ト-リ
ハラツテアリマスジテ モ- イチド シラベテ クルマセンカ
- 456 F16M②④ モ- イチド ヨク シラベテ クダサイ
- 458 M31L②③ センゲツノ シユ-キンネ、モラツテアルンデスガ
モ- イツカイ ヨク シラベテ モラエマセンカ
- 459 F17M②③ アノ- コノワ マシ ウケトリク コトガ アル
ンデスカド モ- イチド ミテ モラエマセンカ
- 462 M23M②③ モ- ハラツテ 入ンデルカドネ チョット シラ
ベテ モラエマセンカ
- 463 M58M②③ コノ マシ ハラツテアル ハズガガ ナニカノ
マチガイジヲ ナイデスガ。リヨ-シユ-ショウ コノ ト-リ アリマ
ス
- 464 M74L③⑤ ワカレニヤ マツツテ モライタイ
- 466 F32M②③ ハラツテアルト オモイマスカド シラベテ クダ
サイ
- 467 F61M②② アノ-、ワクシトマシテウネ、モ タシカ オハ
ライシタト オモイマスカド ヒョット マチガツテイラツシヤラナイカ
ト オモウンデスカド アタシガ リヨ-シユ-ショオ アタシ センゲ
ツ オハライ シタト オモイマスカド モシ マチガツテアルカモ ワカ
リマセンジテ、イフオ- オハライウ イヤシマスカド オシラベ イタ
ダケナイ
- 468 M36L②④ センゲツ ハラツクジテ マチガツテマセンカ
- 470 M38H②③ センゲツブノリ モ- ハラツテアリマスカラ リ
ヨ-シユ-ショ コチラニ アリマスカラ 多シク シラベテ クダサイ

- 471 F32L②③ モー イチド シラベテ クダサイ。ワタシノ ホ
ニワ リョーシユーショガ アリマスカ
- 473 M19M②③ アノ スミマセンケド ヘンゲツブツン ヘンゲツ
ブツノ デントーリョウ ハラッテイブンダスケド モー イチド ヨ
ク シラベテ モリエナイデショカ
- 474 M20M②③ モー シューキン キマヌ。ココニ ウケトリ
アリマスケド
- 476 M19M②④ ヘンゲツブツン タシカ ハラックト オモウナ
イ モー イチド シラベテ クダサイ
- 477 M25H③⑤ アレー イチド ハラツカノニナ
- 479 M15L②③ ヘンゲツ、ハライマシタヨ。モー イチド タシカ
メテキテ クダサイ
- 480 M16M①① ヘンゲツブツン ハライマシタケド、マチガッテナ
イ カ モー イチド ミテ モリエマステショカ
- 481 F63L②③ ヘンゲツ ハラツカッテ ユー コーユー テンビ
ョーガ アリマステ シラベテ クダサイ
- 482 M29M②③ ヘンゲツ ハラツカソーデスケドネー モー イチ
ド ヨク シラベテミテ クルマセンカ
- 483 M34H②② ワタシノ ホーテリ モー スデニ ヘンゲツブツ
ン ハラツテアル ハズデスガ モー イツカイ オシラベ ネガエマセ
ンカ
- 485 F49L②③ コレ ヘンゲツ オハライ シタンデスカラ モー
イチドネ、オシラベ ネガイタイデスケド
- 486 M43L②③ ヘンゲツブツン タシカニ ハライマシタヨ、ナン
ダツカラ ワタシ リョーシユーショオ オミセ シマスケド
- 487 F29L①② モー イチド シラベテ イタダキマセンカ
- 488 M68L③⑤ ヲルワ ハラツタヨ。イツツニ キテ ハラツ
タヨ
- 489 M29L③⑤ ヨー シラベテコイ
- 490 F50L①② ウチワ アノー コノ ヨーニ モー イツカイ
ハラツカンデス イッパン ソチラオ ヨク ミテ クダサイマセンカ
- 491 M28M②② ココニ コノ ヨーニ ウケトリ コザイマスケド
モ、ヘンゲツ オハライ シマシタケド
- 492 F27L③⑤ ヘンゲツハ ハラツカナシ モー ハラツンヨー
- 494 F15L②③ ヘンゲツブツン ハライマシタガ マダ ハラツ
テイマセンカ
- 495 F49L②④ ウチワ ウケトリオ モッテイブンダシヘンゲツ
オハライ シマシタ
- 496 F38L②④ タシカメテ クダサイ
- 497 F21M②③ アー スミマセン ヘンゲツブツン オシハラ
イ シクト オモウデスケド モー イチド タシカメテミテ クダサイ
- 498 F50L②③ ヘンゲツブツン ハライマシタカラ、ナンカ オマ
チガイダ、 ナイデスカ、チャント ハラツテアリマスカラ
- 500 F46L②④ ヘンゲツ ハライマシタヨ
- 503 M21L②④ モー イツカイ カエッテ シラベテ クダサイ
- 504 M17M②④ コノ トーリニ ヘンゲツ ウケトクナシ モー
イツカイ シラベテ クダサイ
- 506 F41L②③ ヘンゲツ ハライマシタケド マチガッテイマセン
カ。スミマセンケド モー イッパン シラベテ クダサイ
- 507 M41L③⑤ ヘンゲツブツン ハラツカルデ コーユー リョーシ
ユーショオ モラットルデ モー イチド シラベテ クルンカ
- 508 M23L②③ リョーシユーショガ コノ ヨーニ アルデスガ
- 509 F30L①② ヘンゲツ オハライ シクト オモイマスケド、シ
ラベテ イタダキマセンカ
- 510 F18M①② ウケトリ ココニ アルデスケド モー イチド
シラベテ イタダキマスカ
- 512 F17M①② モー ヘンゲツ タシマシタケド モー イチド
シラベテ クダサイマセンカ
- 513 F35M②③ ヘンゲツノ ブツン オハライ シタ ハズデス
- 514 F28L②③ ヘンゲツブツン オハライ シテアリマスカラ イ
チド シラベテミテ クダサイ
- 515 F53L②③ ハライマシタケドネ、ウケトリ ヨク ミテ クダ
サイ
- 516 M38L②④ ヘンゲツ ヲルオ ハライマシタ。モー イチド
シラベテ イタダキタイ
- 517 M59M②③ コノ トーリ、リョーシユーショオ モラッテオリ
マシナシ モー イチド ヨク シヤニ カエッテ オシラベ クダサイ
- 518 F42L②③ アタシノネ、オハライ シテ リョーシユーショ
オツツルンデスケド、イチド シラベテミテ クダサイ
- 519 F30M①② コノ ヨーニ リョーシユーショオ アリマスケド
モ ドーデスカネー イチド シラベテ、イタダキタイ オモイマ
ス
- 522 F46L②④ モー イチド リョーシユーショオ ミテ クダサ
イ
- 525 M36L②③ モー イチド ヨク シラベテカラ オネガイ シ
タイト オモイマ
- 527 F25L②④ モー イチド クワシク シラベテオシテ クダサ
イ
- 528 M41M②③ アノー ハラツテオリマステ オウクノ ホー オ
マチガイ アルト イクンカラ モー イチド シラベテオシテ クダサ
イ
- 531 M26L②③ スミマセン、ウケトリガ アルノデ、モー イチド
シラベテ モリエマセンカ
- 533 M48L②③ ヘンゲツ ハラツテアル リョーシユーショガ ア
リマスカラ ヨク シラベテ クダサイ
- 534 F18M①② アノ、イチド オハライ シクト オモイマスケド、
イチド オシラベニ ナッテ クダサイ
- 537 M35M③⑤ タシカニ ハラツカ ハズダシ ウケトリガ アル
デ、モー イチド シラベテ ホシイ
- 539 M24H②③ ヘンゲツハ タシカ ハラックト オモイマスケド
- 540 M72L②② ヘンゲツハ オハライ シマシタコト ノー

- リョーシューショ イクヂイオリマズ アナノ ホー オシラベ
イクヂキタイデス
- 542 M51L NR
- 543 M55L③⑤ テントーリョー ハラッテアルチ, コーユーー プー
ニ ウケトリガ アリマスカラ モー イッペン シラベテ クレンカ
- 545 M46H②③ センゲツノ リョーシューショウ ココニ アルン
ヂカラ コレヲ アナノ ホーノ マチガイジャ アリマセンカ イチ
ト クシカメテミテ クダサイ
- 546 F36L②② クシカ センゲツノウ コノ ヨーニ ウケトリ
ガ アリマシテ ハライマシタスゲド, モー イチド オシラベ ネガ
イマス
- 548 F51H②② オハライ シマシテ リョーシューショモ コヂイ
マスナチ モー イチド オシラベ クダサイ
- 551 F45H②③ センゲツノノ リョーキンウ シハラッテアルク
ト オシメテアリマスケド アラタメテミテ クダサイ
- 552 M24M②③ リョーシューショガ アル イジョー, コレガ シ
ョーコニ ナルカラ ナンガツノニチニ モツテイッタ フンオ モー
イチド セーサン シテ デンビョウト, リョーシューショト ゲンキ
ントオ アワセテ イタダケルバ トーゼン ソノ ヒノ セーサント
ユー モノガ アワナク ナルト オモイマス
- 554 F43H③⑤ センゲツ モー ハラッテジャ ナイノ
- 555 F50M②③ コレ ウチ タシカニ オハライ シマシタケドネ
ナニカノ テチガイチ マチガツテルンジャ ナイカシラ イチド オ
シラベ クダサイ
- 557 F31M②③ ナニカノ マチガイチ コー ナツルルケド チヤ
ント ココニ ウケトリ アリマスカラ モー イチド タシカメテ ク
ダシイ
- 558 F49L②③ センゲツウ オハライ シマシタケド モー イチ
ド シラベテ クダサイ
- 561 F22H②③ センゲツ チヤント ジマシタ. コノ トーリ
ウケトリショーガ アリマスカラ, モー イチド シラベテカラ オネガ
イ シマス
- 565 M45L②③ スミマセン, センゲツ ハライマシタガ
- 566 F15L②③ アノー センゲツウ モー ハラツクト オモイマ
スケド, モー イチド シラベテ クダサイ
- 567 F21H②③ アノ センゲツノウ ハライマシタ. モー イチ
ド ウケトリオ ミテ シラベテ クダサイ
- 568 F28M②③ アラ コンゲツ ハライマシタケドモ. モー イチ
ド オタクノ ホーチ ヨク シラベテカラ ケテ クダサイ
- 569 M26L②③ ウチヲ ハラッテアリマスカラ モー イチド シ
ラベテオシテ クダサイ
- 570 F42M②③ アラ センゲツ ハラツクンジャ ナイデスカ. イ
ッペン シラベテ クダサイ. コレ, ウケトリデスヨ
- 572 F29L②③ センゲツ ハライマシタケド
- 575 M17M①① センゲツ ハラツク ツモリナラズケド モー
イチド シラベテ モラエマセンデショウカ
- 576 M26H②③ センゲツウ ハラッテアリマズ, マチガイジャ
ナイデスカ
- 578 M37M②② センゲツノ フンウ モー オシハライスミノ ハ
ズデスカ モー イチド オシラベ ネガエマセンカ
- 579 M43M③⑤ ホーア アンタ オカシイジャ ナイノ. コレチ
イッペン シラベテ オイデン
- 581 F54M②③ センゲツウ オシハライ シタト オモイマスガ
ココニ ウケトリガ アリマスケド イチオー シラベテ クダサイ
- 582 M17M②③ オカシイデスネー センゲツウ モー ハラッテア
ル…… ハズデスケド
- 583 F61L②③ クシカニ センゲツネー オハライ シマシタチ
ココニ リョーシューショガ アリマスカラ コレオ モツテイラツシ
ヤツテ イチド シラベテ イクヂキタイ…… オネガイ シマス
- 584 F19H②④ コレオ モー イチド ミテ クダサイ
- 585 F45L②③ シハライウ シテアリマスカラ モー イチド シ
ラベテキテ クダサイ
- 586 M36M②③ コーユーー プーニ オハライ シテアル ハズデス
ナチ モー イチド オシラベ クダサイ
- 587 F16M③⑤ アノ モー イチド クワシク シラベテオシテ
- 588 M33M③⑤ オカシイナ センゲツ オハライ シタクンジャ ナ
イカナ
- 590 F33M①① センゲツノ テンキヂイ オハライ シマシタケ
ド ココニ リョーシューショガ アリマスカラ モー イチド オタシ
カメ クダシイマセンカ
- 591 F28L②③ センゲツノウ ハラッテアリマスカラ ヨク シテ
ベテ クダサイ
- 592 M42L②④ モー イチド カイシャノ ホーニ イツテ チョ
ーボオ シラベテ クダサイ
- 593 F36L②③ センゲツノウ ハライマシタケド モー イチド
シラベテミテ クダサイ
- 594 F49L②③ センゲツウ モー ハラッテアリマスケド イチオ
ー リョーシューショガ アリマズシ シラベテ クダサイ
- 596 F29M②③ センゲツ オタクニ ハラツクト オモウンデスケ
ド リョーシューショ アリマスカラ モー イチド ミテ クダサイ
- 597 F37M①② アノ チョット オマチ クダサイ タシカ ウチ
ー オハライ シテアル ハズデス コノ ヨーニ リョーシューショモ
センジ コヂイマス イチド カイシャノ ホーチ シラベテ コハ
ン クダサイ
- 599 F48L②② セツカク イラシタデスケド センゲツウ タシカ
ニ オハライ イタシマシタチ ソノ ヨーニ リョーシューショモ ア
リマスカラ スミマセンケド モー イチド シラベテ クダサイ
- 600 F27L③⑤ オタクノ ヤツモ ヨク シラベテ モラツチ……

議事堂 (107)

- 002 M49L②③ チョット スミマセンガ ぎどーノ ミチジュン
オ オシエテ モリエテショカ
- 003 F43L②③ チョット スミマセンケド コッカイギゾドワ
ドチヲノ ホーガク イツカラ ヨロシイデスカ
- 005 M26H②③ スミマセンガ ぎどーエワ ドー イツカラ イ
ンデスカ
- 006 M50H②③ スミマセンガ ぎどー イク ミチオ オシエテ
クダサイ
- 009 F38L②④ ぎどーワ ドチヲデスカ
- 011 F42M②② マコトニ オルイリマスケド ココココワ ドー
イー フーニ イツカラ ヨロシイデショカ
- 012 F44L①① スミマセンケド アノー ぎどーニ イク ミ
チヲ ドチヲデスカ スミマセンガ オシエテ イクダケマセンデスカ
- 015 F38L②④ ドーイー フーニ イツカラ イーデスカ
- 017 F56L②③ アノー ぎどー イキタイデスカド ドーユー
フーニ イツカラ イーデショカ
- 018 F39M②② スミマセン チョット オクサネ シクインデスカ
ぎどー イクニワ ドー イクバ インデスカ
- 020 M68L②③ スイマセン コッカイギゾドワ ドー イツカラ
イーデスカ
- 023 F46L②② チョット オクサネ シクインデスカ, ぎどーニ
イクニワ ドチニ マイツカラ インデショカ
- 024 F17H②③ スミマセンケド コッカイギゾドワ ドノ ヨー
ニ イツカラ ヨロシイデスカ
- 026 F69L②④ イカカガ デチキチケ ワカリヤスク ドーユー
フーニ イツカラ ヨロシイデスカ
- 027 M22M②③ ぎどーニ イキタイデスカド コツカラ ドー
イツカラ インデスカ
- 029 F30M①② トーキョー ヒサシプリニ デチキチモノデスカガ
チョット ホーガクガ ワカリマセンデ コッカイギゾドマデノ
ミチノリオ オシエテ イクダケマセンカ
- 030 M17L②③ スイマセンケド コッカイギゾドニワ ドー イ
ツカラ イーデショカ
- 033 F48M①① チョット オルイリマスケド コッカイギゾド
ノ ホーニ マリタインデスカド ドーユー フーニ イツカラ ヨロ
シユー コダイマショカ
- 035 F47M②③ ワシ ぎどーニ イキタインデスカド ドー
イツカラ インデショカ
- 036 F66L②③ スイマセンケド コッカイギゾドワ ドチデスカ
- 038 F43M②② マコトニ オルイリマスケド ワシワ コッカイ
ぎどーニ イキタインデスカド ドノ ヨーニ シテ イツカラ ヨロ
シンデショカ
- 039 M41L②③ チョット スミマセンガ ぎどーエ イク ミチ

- オ オシエテ モリエマセンカ
- 041 F47H②③ スミマセンガ コッカイギゾドエ イキタイ
オモイマシテ ミチオ オシエテ クダサイ
- 042 M20L②③ スミマセンガ コッカイギゾドエ イク ミチオ
オシエテ クダサイ
- 043 F63L②④ コッカイギゾドニ イキタイド ドチヲエ イ
ツカラ イーデショカ
- 045 M19L②④ チョット オクサネ シマスカ
- 046 F72L①② コッカイギゾドエ イキタイ オモイマスケド
ドーユー フーニ イツカラ イクマシテショカ. オシエテ クダ
サイマセンカ
- 047 F40L②② チョット クンカラ キタ ワカチンデスカ
ド コッカイギゾドニ イクワ ドー イツカラ インデショカ
- 048 M61L③⑤ ぎどーエ イコート オモダク ドー イツカラ
....
- 050 F67M NR
- 052 F58H②② ワシハ ハジメテ キマシカラ ヨク ワカリマ
センデ コメンドデスカ オモダク シマスカ. コッカイギゾドー ハジ
メテ イクマスカ コメンドデケ
- 053 F33M①① アノー, スイマセンケド コッカイギゾドニ イ
ク ミチジュン オシエテ イクダケマシテショカ
- 054 M60M②④ コッカイギゾドニ イクニワ ドー イツカラ
インデショカ
- 056 F26H②③ コッカイギゾドニ イク ミチヲ ドーユー フ
ーニ イツカラ ヨロシイデショカ
- 057 M36M②③ スイマセンガ コッカイギゾドニ イクニワ
ーユー フーニ イツカラ ヨロシイデショカ
- 059 M24H②④ ぎどーニ イクニワ イチバン チカイ ミチヲ
ドチデスカ
- 060 M22L②② チョット スミマセン コッカイギゾドマデ イ
キタインデスカド ドー イツカラ インデショカ
- 063 F25L②③ アノー オルイリマスケド コッカイギゾドエ
デチニワ ドーツカラ イクダケショカ ミチオ オシエテ クダサイ
- 065 F30L②③ コッカイギゾドワ ドー イツカラ ヨロシイデ
ショカ
- 066 F38M②④ コッカイギゾドマデ イク イチバン チカミチ
オ オシエテ クダサイ. ココカラネー
- 068 F36L②② チョット スミマセンケド コーユー トコロニ
インデスカドドド ドーユー フーニ イツカラ ヨロシイデショカ
- 069 M29M②③ ぎどー イキタインデスカドドド, ドノ ヨーニ
イクバ イーデスカ
- 071 M52L②④ モシモシ. ぎどー イクニワ ドチ イツカラ
イーデスカ
- 073 F23M②③ オルイリマスケド ぎどーマデノ ミチノリオ
オシエテ クダサイ

- 074 M28H②③ スミマセンケド、コッカイギゾド-エ イクニワ
ド- イッタラ イ-ヂショ-カ
- 075 F34H②③ スミマセンガ ギゾド-ノ ホ-エワ ドチラエ
イッタラ ヨロシイヂショ-カ
- 077 F39L②④ ギゾド-ワ フツチ イッタラ イ-ヂスカ
- 078 F30L②② アノ スミマセン、オクスネ シマスケド、コッカ
イギゾド-エ ドチラエ イッタラ イ-ヂショ-カネ
- 080 M18M②③ チョット スミマセンケド、アノ、コッカイギゾ
ド- ド- イクバ イ-ヂスカ
- 084 M47H①① チョット オルイリマダガ、ギゾド-エ イキ
イト オモイマスナデ、ミチオ オシエテ イクダキタイト オモイマ
スガ
- 086 F27L②③ コッカイギゾド-エ イキタイダスケドモ ドノ
ヨ-ニ イッタラ イ-ヂショ-カ。スミマセン
- 087 M25M②② オルイリマダケド、ギゾド-ニ イクニワ ド-
ユ- フ-ニ イッタラ イ-ヂスカ
- 089 M42H②④ コッカイギゾド- イクニワ コレカラ ド-ユ-
フ-ニ イッタラ イ-ヂスカ
- 090 F16M②③ アノ チョット スミマセン コッカイギゾド-ワ
ド- イクバ イ-ヂスカ
- 091 M61L①② ワクシ イマカラ コッカイギゾド-エ イコト
オモイマスケレド ミチガ ワカテナイカラ オシエテ イクダケマセ
ンカ
- 092 F17M②④ コッカイギゾド-エ イクニワ ド- イッタラ
イ-ヂショ-カ
- 093 F69L②③ チョット オネガイ シマス ギゾド- オシエテ
クダサイ
- 095 F18L②③ スミマセン コッカイギゾド-ワ ドノ ヨ-ニ
イッタラ ヨロシイヂショ-カ
- 096 M28L②④ コッカイギゾド-エ イキタイダケド コッカイ
ギゾド-エ イクニワ ド-ユ- フ-ニ イッタラ イ-ヂショ-カ
- 097 M39M②③ ギゾド-ワ ドチラエ イッタラ ヨロシイダスカ
- 098 F37L②② チョット スミマセンケド コノ コッカイギ
ゾド-エ イク ミチガ ドチラエ イッタラ イ-ヂスカ
- 099 M46L②④ モシモシ ギゾド-ワ ドチラダスカ
- 100 M16M②③ スミマセン ギゾド-エワ ド- イクバ イ-ヂ
ショ-カ
- 101 M33M②③ チョイト スミマセン コッカイギゾド-エ イ
クミチガ ドチラヂショ-カ
- 102 F16M②③ スミマセン コッカイギゾド-ニ イクニワ ド-
イッタラ イ-ヂスカ
- 104 M27M①① スミマセンケド ワクシワ アイチケノ オカガ
キノ ホ-カラ キマシテ ミチガ ワカズス… コッカイギゾド-ワ
ドノ ヨ-ニ シタラ イキマスヂショ-カ オルイリマダガ オシ
エテ イクダケマセンヂショ-カ
- 105 F30L②② アノ スミマセンケド ギゾド- イキタイダ
スケド ド-ユ- フ-ニ イッタラ ヨロシイダスカ
- 107 F18M②④ コッカイギゾド-エワ ドノ ヨ-ニ イッタラ
イ-ヂショ-カ
- 108 M25M②③ アノ スミマセンケド コッカイギゾド- イ
クミチガ ドノ ヨ-ニ イッタラ イ-ヂスカ
- 110 F15L②② チョット オクスネ シマス コッカイギゾド-
イキタイダスケド フノ ミチガ ド- イッタラ イ-ヂショ-カ
- 111 M34H②② チョット スミマセン アノ、ミチオ オクスネ
シタイダスカ コッカイギゾド-ナンダスカ ドチラエ イッタラ イ-ヂ
ショ-
- 113 M28M②④ コッカイギゾド-エ イクニワ ド- イッタラ
イ-ヂスカ
- 116 M26M②② チョット スミマセン コッカイギゾド-ニ イ
キタイダスケドモ ド- イッタラ イ-ヂスカ
- 117 F31L②② オルイリマダケド アノ ギゾド- シリクイン
ダスケド ドノ ヨ-ニ イッタラ イ-ヂスカ
- 120 M59L②② チョット スミマセンケド オクスネ シマス コ
ッカイギゾド-ワ ドチラカラ イッタラ イ-ヂショ- マコトニ オ
ルイリマダガ オネガイ シマス オシエテ クダサイ
- 122 M56M②② ワクシ ト-キョ-エ デキキタ モノデ コシ
イマスガ コッカイギゾド-オ イチノ ミチイト オモイマス ギゾ
ド-エ イク ミチガ ドノ ヨ-ニ イッタラ ヨイカ オシエ… オ
ネガイ イクニマス
- 123 F18M②③ アノ スミマセンケド コッカイギゾド-ワ ド-
イッタラ イ-ヂスカ
- 125 M25H②③ チョット スミマセン コッカイギゾド-エ イ
クニワ ド- イッタラ イ-ヂスカ
- 126 M24L③⑤ スミマセンケン コツカラ ギゾド-ニ イクニ
ワ フツチ イクバ イ-ネ
- 127 M28M②③ チョット スミマセンガ コッカイギゾド-ガ ミ
チガテ ド-ユ- フ-ニ イッタラ イ-ヂスカ
- 128 F25M②② スミマセン コッカイギゾド- イキタイダスケ
ドモ ドノ ヨ-ニ イッタラ ヨロシイヂショ-カ
- 129 M22M②③ アノ コッカイギゾド-エ イクニダスケド ド-
イッタラ ヨロシイヂショ-カ
- 130 F36L②④ コッカイギゾド-ニ イキタイダ ワカリヤス
クオシエテ クダサイ
- 132 F65L②③ チョット オネガイ シマス ワクシ ギゾド-エ
イクニダスカ チョット ワカテナイガ ドチラヂショ-カ
- 134 M73L②③ ギゾド-ワ ドチラダスカ… ドチラダスカ ワ
カラナデ オシエテ クダサイ
- 135 F38L②② チョット オルイリマダガ ギゾド-エ イクニ
ワ ドノ ミチガ イッタラ イ-ヂショ-カ コノ トチワ ハジメテ
チ ワカリマセンガ

- 137 F57L①② トキョウ アマリ ワクシ アリマセンゾ
ギゾーノ ホーエ イキタイデスカドモ ドチラノ ホーガクエ
イキマシタラ ヨロシイデショカ コマカク オシエテ イタダキタイ
ンデスカド
- 138 F37L①① オルレリマスガ ギゾドエ イク ミチオ チ
ョット ワクシ オシエテ イタダクマセンカ
- 139 M71L②③ イカカヲ キテ マー ホーガクモ サッパリ
ワカラント ギゾドエ イツミタイト オモイマスガ トーユー ヲア
ニ イツラ ヨク ワカリマスガ
- 140 F74L②③ スミマセンガ コーユー トコエ イクンデスカ
ドデショ
- 141 M22M②② アノ チョット スミマセン コッカイギゾドエ
イキタイデスカドモ ドノ ヨーニ イツラ ヨロシイデショカ
- 143 M53H②② オルレリマスガ アノー コッカイギゾドエ
ドー イケバ インデショカ
- 144 M17M②③ アノ スミマセン チョット ギゾドニ イキ
インデスカド ドー イツラ イケマスガ
- 146 F35M②④ コッカイギゾドエ ミエテルデスカド ミチ
トーユー フーニ イツラ イカシラ
- 147 F30M②③ スミマセン ギゾドエ イクニワ ドー イツラ
イーデスカ
- 149 F40L②③ チョット スイマセンケド コッカイギゾドエ
ドチラ イケデスカ
- 150 F67L②④ コッカイノ ミチ イクニワ ドチラノ ホー イ
ケデスカ
- 151 M68L①① チョット マコトニ スミマセンガ ヒトツ ワ
クシ イケバ デテキタモンデスカ オモイマスガ エー チョット
ギゾドエ イク ミチガ ワカリマセンデスカドモ ヒトツ ワ
カレニ オオシエ ヒトツ オルレリマスガ オネガイ デキマセン
デショカ
- 152 M28M②② オルレリマスケド コッカイギゾドエ ドノ
ホーメンエ イツラ ヨロシイデスカ
- 153 M32M②④ ギゾドニ イク ミチヲ ドー イケバ イー
スカ
- 155 F47L①① オルレリマスケド チョット スミマセンガ オ
シエテ イタダクマセンカ
- 156 F73L②④ ワクシ イカカヲ デテキマシテ ナンモ ワ
カリマセンデ コーユー トコロエ イケデスカド オシエテ ネガイ
イ
- 158 M25L②③ スイマセン ギゾドエ トーユー フーニ イ
ケバ インデスカ
- 159 F20L②③ スミマセンケド ギゾドエ ドー イツラ
インデスカ
- 161 F61L②③ チョット オネガイ シマス ギゾドエ イクニワ
ドノ ミチオ イツラ ヨロシイデスカ

- 162 F20H②② スミマセン チョット オカズネ シマスガ コ
ッカイギゾドエ イクニワ トーユー フーニ イツラ ヨロシイデ
スカ
- 164 M42L②② チョット スミマセンケドモ コッカイギゾドエ
イキタイデスカドモ ドー イツラ ヨロシイデスカ
- 165 M16M②③ スミマセンケドモ コッカイギゾドニ イクニワ
ドーニ イツラ イーデショカ
- 168 F62L①① チョット コッカイギゾドエ マイリタイト オ
モイマスガ マコトニ オルレリマスガ オシエテ イタダクマセン
デショカ
- 171 F23L②④ コッカイギゾドエ イクニワ ドーシツラ イー
デスカ
- 173 F44L②④ ドチラノ ホーメン イケバ イーデスカ
- 174 F61L②③ サッパリ ワカリマセンガ イツタイ トーユー
フーニ イツラ イーデショカ
- 176 M21L②④ コッカイギゾドエ イクニワ ドチラデスカ
- 177 F24M①① スミマセン アノ コッカイギゾドエ イキタイ
デスカド ミチオ チョット オシエテ イタダクマセンカ
- 179 F74L②③ オキノクナガヲ ソコエ イク トコロ オシ
エテ モアエマセンカ
- 180 M45L②② マコトニ スミマセンケド コッカイギゾドニ
マイリタイト オモイマスガド ドノ ヨーニ マイリマシタラ ヨロシ
イデショカ
- 182 F32M①② ギゾドエ マチ イキタイデスカド ハジメテ
ミチガ ワカリマセンゾ ワカリマスガ オシエテ イタダクマスガ
- 183 F23M②② チョット シツレー シテ オカズネ シタイ
デスカ コッカイギゾドエ イクニワ ドー イツラ ヨロシイデシ
ョカ
- 184 F49M②③ チョット オルレリマスケド アノ ギゾドエ
ドチラニ ナリマスガ
- 185 F32M②② アノー オウガシイ トコロ マコトニ スミ
マセンケドモ コッカイギゾドニ マイリタイデスカドモ イク ミチ
オ オモイマスガ ネガイマスガ
- 186 F33M②③ イマカラ ギゾドエ イキタイデスカド、ド
ー イツラ イーデショカ
- 188 M65L②③ マコトニ、シツレーデスカドモ ワクシ コ
ッカイギゾドエ、ケツガニ、イキタイト、オモイマスガ ドーユー、ミチ
ジュニ イケバ ヨロシイデスカ、オオシエ クダサイ
- 189 F26L②③ スイマセン、コッカイギゾドエ イキタイデ
スカド オオスデスカドモ、ミチオ、オシエテ クダサイ
- 191 M25L②③ アノー イマ コッカイギゾドニ ヨーガ ア
ッテ イクンデスカドモ トーユー フーニ イツラ イーデスカ
- 192 F16M②③ ハジメテ ココエ キマシタラ、ギゾドエガ
ワカリマセンゾ ドー イツラ イーデスカ
- 194 F20M①① アノネ アノー チョット オルレリマス ミチ

- オ タズネケンヂスケド アノ スミマセン チョット ミチオ オ
 キ シクインヂスケドネ アノ コッカイギゾド- チョット ケンブ
 ツ シニ イクインヂスケド ドー イツクラ イキマシテショ-カ
 195 M44M②③ スイマセンケドモ、コッカイギゾド-ワ フチラエ
 イケバ イ-テスカ
 197 M72L②④ ゴゾド-エ イキタイガ フチラエ イツクラ イ
 -テスカ
 198 F15M②③ スイマセンケド、コッカイギゾド-エ、イクニワ
 ドー イツクラ イ-テショ-カ
 199 F40M②③ オルレイリマスケド ハジメテ キナリ チョッ
 ト ワカリカネマスカラ コノ ミチオ マスガ イツクラ ゴゾド-
 イキマスカ
 200 F18M①② スミマセンケド コッカイギゾド-ニ イクイン
 デスケド ミチー オシエテ イクダケマスカ
 201 M29M②③ オルレイリマスケ コッカイギゾド-エ イクマデ
 ノ ミチジュンオ オシエテ クダサイ
 202 F70L①④ アノ マコトニ オルレイリマスケド アノ コ
 -ユー トコデスケド オシエテ イクダケマセンカ
 203 F49L②③ イサカモリチ マコトニ スミマセンケドモ コッ
 カイギゾド-ワ ドーニ アリシテショ-カネ
 204 M60L②③ ワクシ コッカイギゾド-エ イクインヂスケガ
 ミチオ オシエテ クダサイ
 205 F65L②③ ゴゾド-エワ ドンナ フ-ニ イツクラ ヨロシ
 イデショ-カ
 206 M64L②③ チョット オネガイ シマス コッカイギゾド-ワ
 フチラエ イツクラ イ-テショ-カ
 207 F49M②② チョット オウカガイ シマスケド、ゴゾド-ワ
 フチラエ イツクラ ヨロシデスカ
 209 F15L②② スミマセン チョット オクズネ シマスカ ゴゾ
 ド-ニ イクニワ ドー イケバ イ-テショ-カ
 210 F23L②③ チョット スイマセン ゴゾド-エ イク ミチ
 オシエテ クダサイ
 212 F23H②② チョット、オクズネ シマス オルレイリマスケレ
 ド コカク コッカイギゾド-エ イクニワ、ド-ユー フ-ニ イッ
 クラ、ヨロシイデショ-カ
 213 F31L②③ アノ チョット スミマセンガ コッカイギゾド-
 ワ ドー イツクラ イ-テショ-カ
 215 M41L②② チョット オウカガイ シマスカ ゴゾド-エ コ
 ッカイギゾド-エ イクニワ ド-ユー フ-ニ イツクラ ヨロシイ
 スカ
 216 F26M②④ ゴゾド-エ イクニワ フツチ イツクラ イ-
 テショ-カ
 218 F58L②② オルレイリマスケ チョット オネガイ シタイ
 スケド ゴゾド-エ イクニワ フチラエ イケバ イ-テショ-カ
 219 M49L③⑤ ゴゾド-ワ イツクラ ド-ユー- グアイニ イッ

- クラ ヨロシイカネ
 220 M41M②③ チョット オクズネ シマス。ゴゾド-ニ イクニ
 ワ ドー ミチオ トオツクラ イ-テショ-カ
 221 M56M②③ チョット オウカガイ トコロ オルレイリマス。
 ココ イク ミチオ オシエテ クダサイ
 222 F26L②② アノ オルレイリマスケド アノ コッカイギゾ
 ド-ワ ド-ニ イツクラ ヨロシイデショ-カ
 223 F63L②③ ゴゾド-エ イク ミチワ フチラテショ-カ
 224 M21L②④ アノ コッカイギゾド-エ イクニワ ド-シタ
 ラ イ-テスカネ
 227 F28M②② アノ チョット スミマセンケド コッカイギ
 ゴド- イクインヂスケド ド-ニ フ-ニ イツクラ イ-テショ-カ
 230 F37H②③ スミマセンガ ゴゾド-エ イク ミチオ オシエ
 テ クダサイ
 231 M23H①① アノ スミマセンケドモ 赤 トキョー ハジ
 メテチモンチ コッカイギゾド- イクインヂスケドモ チョット オシ
 エテ イクダケマセンカ
 233 F25L②③ アノ スミマセンケド コッカイギゾド-イ イク
 ニワ ドー イツクラ イ-テスカ
 236 M33M②③ チョット オクズネ シマス。コッカイギゾド-エ
 イクニワ ドー イツクラ イ-テショ-カネ
 237 M38M②③ コッカイギゾド-エ イク ミチガ ワカリマセン
 ケドモ、ココカラ ド-ユー フ-ニ イツクラ イ-カ、オシエテ ク
 ダサイ
 240 M20M②④ コッカイギゾド-ワ フツチ イケバ イ-テス
 カ
 242 M31M②③ チョット オキキ シマスケド コッカイギゾ
 ド-ワ フチラテスカ
 243 M63L②③ スイマセンガ チョット コッカイギゾド- チョ
 ット オネガイ シマス、オシエテ クダサイ
 245 M52L②② チョット オルレイリマスケド オカサキカラ キ
 タンヂスケド コッカイギゾド-ニ イクインヂスケド ドー イツクラ
 ヨロシイデショ-カ
 246 M23M②④ コッカイギゾド-ニ イクニワ ド-シタラ イ-
 テショ-カ
 248 M63L②② チョット オクズネ シクインヂスケガ ココ イ
 キタイデスカ、ドー イツクラ イ-テショ-カ
 249 F42H②③ ゴゾド-ワ フチラエ イツクラ ヨロシイデショ
 -カ
 250 M22H②③ シツレ-デスケド コッカイギゾド-エ イク ミ
 チオ オシエテ クダサイ
 251 F36M②② スイマセン アノ オルレイリマスケド コッカイ
 ゴゾド-ワ フチラ ホ-エ イツクラ ヨロシイデショ-カ
 252 F26M②② スミマセンケド アノ コッカイギゾド-ニ イ
 クニワ ドー フ-ニ イツクラ ヨロシイデショ-カ

- 254 F32L②② スイメンケド ミチオ オクズネ シクインデス
カ… コツカイギゾドエ イクインデスガ フチラエ イツク
イデショカ
- 256 M24H②③ チョット スイメン コツカイギゾドエフ ト
ユー フーニ イツク ヨロシデスカ
- 258 M34M②② チョット スイメン, コツカイギゾドエ イ
クインデスケド フチラ イツク ヨロシデスカ
- 260 F33M②③ アノ スイメン オウガシイ トコ, アノ ス
イメンケド, チョット・ミチオ タズネクインデスケド, フコトコ
フチラデショカ
- 261 M42L②③ スミメンガ チョット, コツカイギゾドフ ト
チラデスカ
- 262 F47M②② オルレイラスケド ゴゾドエフ トユー フ
ーニ イツク ヨロシデショカ
- 265 M24M②③ チョット オキキ シクインデスガ コツカイギ
ゾドフ トノ ヲニ アリマスカ
- 266 F22M②④ コツカイギゾドフ トノ ヨーニ シテ イツ
ク イデスカ
- 267 M39M②③ チョット オルレイラスガ, コツカイギゾドイ
クニワ トノ ヨーニ イツク インデショカネ
- 269 M59L①① チョット オクズネ シマズガ, トカイギゾド
エフ, トユー フーニ イツク ヨロシゴシイマスカ
- 270 F28H②② オルレイラス. ゴゾドエ イク ミチオ ト
イツク ヨロシデショカ
- 271 M32L②② チョット スイメンケド コツカイギゾドイ
クニワ トユー フーニ イツク イデショカ
- 272 F38M①② アノ, チョット, マコト スミメンケド,
コツカイギゾドエ イク ミチオ オシエテ クダシイマセンカ
- 273 F27H②② チョット オクズネ シマスケド, コツカイギゾ
ドマテ イクインデスガ トユー フーニ イツク ヨロシデシ
ョカ
- 275 F50L②③ チョット オクズネ シマズ, ゴゾドイ イク
ミチオ オシエテ クダシイ
- 276 F22L②③ スイメンケド ゴゾドエフ トキツテ イ
ツク ヨシデショカ
- 278 M41L②③ チョット スイメンガ ゴゾドフ トノ ミチ
オ イツク イデスカ
- 279 F60L②③ ゴゾドニ イキイト オモイマスケドガ, ワ
クシチガ カンタンニ イクニワ トレニ タズネクラ イデショカ
- 281 F38H②③ スイメン, コツカイギゾドニ イクニワ ト
イツク ヨロシデショカ
- 284 F33M②② チョット オルレイラスガ, コツカイギゾドマ
テ イクインデスガ トノ ヨーニ イツク ヨロシデショカ
- 285 M66M①① ア, スイメンケド, ワクシウ コツカイギ
ゾドイ イキイト オモイマスケド, フチラ ホーガクイ イ
ツク インデスカ, シラシテ イクマセンカ…
- 287 F23H②② チョット オクズネ シマスケド コツカイギゾ
ドニ イクニワ ト イツク ヨロシデショカ
- 288 M47H②③ ゴゾドイ イクニワ トノ ヨーニ シテ イ
ツク インデショカ オシエテ クダシイ
- 290 F41H①② ゴゾドマテ イクインデスケド, ミチガ
ワカリマセンナ オシエテ イクマシイデショカ
- 291 F24H②② オルレイラスガ コツカイギゾドイ イクタイ
ンデスケド, トー イツク ヨロシデショカ
- 292 F21H②③ スイメンケド, コツカイギゾドイ イクニ
ワ イツク ヨロシデショカ
- 293 F22H②② アノ オルレイラスケド, コツカイギゾド
テ トユー フーニ イクニワ ヨロシデスカ
- 294 F19H②② スイメン, チョット オクズネ シマズ. コツ
カイギゾドニ イクニワ トキツテ イツク インデスカ
- 296 M33L②② アー スイメン チョット ゴゾドエ イク
インデスガ トー イツク インデスカ
- 297 F48L②③ チョット スイメンケド, ゴゾドイ イクニ
ワ イツク イデショカ
- 299 M35H①① オルレイラスケド, ゴゾドイ イク ミチ,
オシエテ イクマセンカ
- 300 F46L②③ ワクシウ オカキシ シラナイ トチカラ キ
モチスガ オシエテ クダシイ トユー フーニ イツク イ
デスカ
- 302 F58L②④ コーエー トコフ トツチイ イツク イデス
カ
- 303 F55L②④ スイメンケド ゴゾド オネガイ シマズ
- 305 M33H②③ チョット スイメンガ, チホーカテ テキマシ
クド, コツカイイ イクインデスガ ソノ ミチガ ワカリマセ
ンナ オシエテ クレマセンカ
- 306 F37M①① スイメン, イカモナデ ゴゾドニ マリタ
インデスケドガ ミチガ ワカリマセンナ オルレイラスケド オ
シエテ イクマスカ
- 308 M19M②③ アノ スイメンケド ゴゾドイ イク ミチ
オ フチラデショカ
- 309 F25H①① スイメンケド コツカイギゾドイ イク ミチ
オ オシエテ イクマセンカ
- 311 F24M②② オルレイラス ワクシウ コツカイギゾドイ
イクインデスケド, ヲコエ イクニワ トノ ミチオ トツテ イ
クニワ イデスカ
- 312 M33L②③ チョット スイメン, オクズネ シマズガ, コ
ツカイギゾドエフ…
- 314 M34M①① チョット アノ, ミチオ オクズネ シクイン
デケド, イマカラ ゴゾドマテ イクインデスケド, スイメンガ
ワカリマシク オシエテ イクマセンデショカ

- 315 F30M②③ スミマセン ココカラ コツカイギゾドニ イクニワ ドー イツラ イーデスカ
- 317 F48L②③ アノニ ワクシ トーキョーニ ハジメテ キタンデスケド コツカイギゾドニ イキタインデスケド ミチ ワカリマセンカラ コマク ヒトウ オシエテ クダサイ
- 318 F60M①① ハジメテ トーキョーニ マイリマシテ コツカイギゾドニ イク ミチガ ワカリマセンケド スミマセンガ オシエテ イタダクナイデショウカ
- 320 F17L②③ スミマセン、コツカイギゾドニ イクニワ フノ ミチオ イツラ ヨロシイデショウカ
- 321 M33M②② フョット スイマセンガ コツカイギゾドニ イクニワ ドーユー フーニ イツラ イーデショウカ
- 323 F21M②③ スミマセン ギゾドニ イキタインデスケド フノ ヨーニ イケバ インデスカ
- 324 F23M②④ ギゾドマデ トーシカラ イケマスカ
- 326 M27H②④ コツカイギゾドニ ドー イツラ イケマスカ
- 327 F23L②② スミマセン フョット オウカガイ シマスケド アノ コツカイギゾドニ イキタインデスケド フーニ フーニ イツラ ヨロシイデショウカ
- 329 M44M①① オノキノ トコロ マコトニ モーシツケ ナインデスカ ワクシ イナカカラ テキテ トーキョーワ チリガ クラツテ ヨク ワカラナイデスカ モン ジョウガ ムルヒマシカラ ギゾドニ オシエテ イタダクマセンデショウカ
- 330 M75L②② フョット、オネガイ イタシマス アノ オクサネ シマスカ ギゾドニ イコト オモイマスガ フノ ホーニ イツラ ヨロシク コトバシカ オネガイ シマス
- 331 F57L②④ ギゾドニ イキタインデスケド フチラ フチエ イツテ イーデスカネ
- 332 M29H①① オルレリマスガ コツカイギゾドニ イキタイデスカ ソノ ミチジユンオ オシエテ イタダクナイデショウカ
- 333 M40L③⑤ トーキョーニ キタガハ ハジメテデデ モンペン ワカラケド コツカイギゾドニ フチエ イツラ イーネ
- 334 F67L②③ フョット オネガイ シマス、ワクシ アソコニ イキタインデスケド ミチガ ワカラナイデ フチラカラ イツラ イーデショウネ
- 335 F27M②③ スミマセンガ コツカイギゾドニ イキタインデスケド ミチオ オシエテ クダサイ
- 337 M51L②④ ギゾドニ イクニワ ドーユー フーニ イクンデスカ
- 338 F40L②③ フョット オクサネ イタシマスケド スミマセンガ ギゾドニ フチラデスカ
- 339 M74L②③ ワシワ イナカカラ キマシカ トーキョーワ アマリ アンナイデスカ コノ ギゾドニ フチラ ホーニエ イケバ イケマスカ
- 341 F15L②③ スミマセンガ コツカイギゾドニ イクニワ フ

- ーニ フーニ イケバ イケマスカ
- 342 M35M①④ フョット オネガイ シマス ギゾドニ オシエテ クダサイケンカ
- 345 M26L②② スミマセン フョット オクサネ シマスケド コツカイギゾドニ イクニワ ドー イツラ ヨロシイデスカ
- 347 F62M②② フョット オクサネ イタシマス マコトニ オノレリマスガ ギゾドニ イク ミチワ ドー イツラ ヨロシイデショウカ。シカシ コーバンノ フコニ アリマスカ
- 348 M19M②③ フョット スミマセン、コツカイギゾドニ イキタインデスケド フノ ヨーニ イツラ イーデスカネ
- 350 F37M①① スミマセンケド アノー コツカイイ イク ミチオ オシエテ イタダクナイデショウカ
- 351 F49L②③ オルレリマスガ ギゾドニ フチラデスカ
- 353 F22L②③ フョット オクサネ シマスケド、コツカイギゾドニ フチラニ イツラ ヨロシイデショウカ
- 354 F31M②③ コツカイギゾドニ イクニワ ドー イケバ ヨロシイデスカ
- 355 M37M②③ フョット スイマセンガ、コツカイギゾドニ フーニ フーニ イツラ イーデショウカ
- 356 M31H②② スミマセンガ ギゾドニ イクニワ ドー イツラ イーデショウカ。フョット ミチオ オクサネ シタインデスカ
- 357 F23L②③ スミマセンケド コツカイギゾドニ フーニ イツラ イーデスカ
- 358 M34L②② フョット スミマセンケド ミチオ オクサネ シマスケド、コツカイギゾドニ イクニワ フチラノ ホーニデスカ
- 359 F45H②② フョット オルレリマスケド コーイツラ トコニ イクニワ ドー イツラ ヨロシイデショウカ
- 360 F74L①① ギゾドニ イキタイト オモイマスガ フノ ミチオ イツラ ヨロシク コトバシマスカ
- 361 F68L②③ ハレナイ トコロガカラ ミチガ ワカランデスケド コツカイギゾドニ マデ イクニワ ドーユー フーニ イツラ ヨロシイデショウカ
- 362 M32L②③ ハジメテ トーキョーニ テキテ フョット ワカリマセン、コツカイギゾドニ ケンガク シタイト オモイマスケド モンゾウデシカラ オシエテ クダサイ
- 363 M54L②② スミマセンケド コツカイギゾドニ イキタイト オモイマスガ ドーユー フーニ イツラ イーデショウカ
- 365 F55H②③ オルレリマスケド オノノガシ トコ スミマセン フョット オクサネ シタイ コトガ アリマスカ
- 366 F61L①① ギゾドニ イクニワ ドーユー フーニ イツラ ヨロシク コトバシマスカ
- 367 M42L①① アノー スミマセンケド、アノー トーキョーニハジメテ コツカイギゾドニ ミチガ ワカリマセンデ、オシエテ イタダクマセンカ
- 368 M47M②③ アノ フョット オクサネ シマスカ コツカイギ

- 369 F47L②③ コッカイギゾト-エ イキインヂスケド ト-エ
 - フ-ニ イツラ インヂシヨ-カネ-
 374 F23M②② チョット オクズネ シマス アノ コッカイギゾ
 ト-ワ ト-エ- フ-ニ イツラ ヨロシヂシヨ-カ
 375 F21L②② オルレイリマスケド コッカイギゾト-エ イクニ
 ワ ト- イツラ ヨロシヂシヨ-カ
 377 F28M②③ スミマセンガ コッカイギゾト-ワ トコヂスカ
 378 F56M①③ マコト スミマセンケド イナカカラ テキマ
 シタモノヲ トコロヱ-イチモ ワカリマセンカラ ギゾト-ワ ト-シ
 タラ イケルヂシヨ-カ オネガイ イタシマス
 379 M32H②③ チョット オクズネ カウマスガ コッカイギゾト
 - トチラ ホ-コ-ヂスカ
 380 F75L②③ マコト オルレイリマスガ ギゾト-ワ トチラ
 ヂスカ
 383 M55L②② オルレイリマスガ コッカイギゾト-ワ ト- イ
 ッラ イ-ヂスカ
 384 F22M②② チョット オクズネ イタシマス、コッカイギゾト
 -エ イクニワ、ト- イツラ、ヨロシヂシヨ-カ
 387 F54L②② マコト スミマセンガ ギゾト- イキインヂ
 スガ ト-エ- フ-ニ イツラ イ-ヂシヨ-カ
 389 F28L②④ コッカイギゾト-エ イキインヂスケド ト-フ
 ニ イツラ イ-ガシラ
 390 F78L NR
 392 F69M①① マコト オノノガイ トコロ スミマセンガ
 オクズネ イタシマス、ギゾト-ワ トノ ホ-モンチ コシイマシヨ-
 393 F23H②② アノ、スミマセンケド、コッカイギゾト-エ イ
 キインヂスケド ト-フニ イツラ イ-ヂスカ
 395 F38L①① ア- チョット モ-シウケ アリマセンケレドモ
 ギゾト-エ イク ミチオ オシエテ イタダケマセンカ
 396 M65M②③ モシモシ ワクシ コッカイギゾト-エ イクイ
 ンヂスケドモ チョット ヒトワ ミチオ オシエテ クレマセンカ
 397 M18L②③ スイマセンケド、チョット オクズネ シマスケド
 コッカイギゾト-ワ ト-エ- フ-ニ イクンヂスカ
 399 F21M②② チョット オクズネ シマスケド ギゾト-ニワ
 ト-エ- フ-ニ イツラ ヨロシヂシヨ-カ
 401 F66L②③ ギゾト-エ イキマスニワ ト-フニ イツラ
 ヨロシヂシヨ-カ
 402 F62M②③ ワカリマセン、オシエテ クダシイ
 404 F47M②④ コッカイギゾト-ワ トコヂスカ
 407 F21M②② スイマセン チョット オキキ シタインヂスケド
 ギゾト-マデ イクニワ ト-シテ イツラ インヂシヨ-カ
 410 M22H②③ アノ スミマセンケド コッカイギゾト-ツテ
 フツチ イツラ ヨロシヂシヨ-カ
 411 M16M②③ アノ スミマセンケド コッカイギゾト-ワ ト-
 エ- フ-ニ イクンヂシヨ-カ、オシエテ モリマスガ
 413 F55L②② イナカカラ テキマヂスケド、スミマセン、コッ
 カイギゾト-ワ ト-エ- フ-ニ イツラ ヨロシヂシヨ-カ
 414 M45L①① チョット オクズネ シマスガ アノ- アイチケ
 ノノ オカサキカラ ハジメテ テキマシテ コッカイギゾト-エ イ
 キタイト オモウンヂスガ ミチガ ワカラナインチ オルレイリマスガ
 オシエテ イタダケルヂシヨ-カ
 417 M49L②④ コッカイギゾト-ワ トコト アルヂスカ
 418 F28M②② アノ- オルレイリマスケド アノ コッカイギゾ
 ト-ツテ トチラ イツラ ヨロシヂシヨ-カ
 419 F34M②② アノ- オルレイリマスケド アノ- コッカイギ
 ゾト-ワ トコト ト- イツラ ヨロシヂシヨ-カ
 420 F33L③⑤ ギゾト-エ イキイダケド ト-エ- フ-ニ
 イツラ イケルカネ-
 423 F65L②③ ソ-エ- トコエネ、イキタイト オモイマスケド
 ネ、ミチガ ワカラナイチ オシエテ オクレマセンカ
 426 F33L①② ワクシワ ト-キョ- ハジメテシカテ コッカ
 イギゾト-ガ ワカラナインヂスケレド チョット オシエテ イタダ
 ナイヂスカ
 428 F22H②③ オルレイリマスガ、コッカイギゾト-エ イク ミ
 チワ ト-エ- フ-ニ イクンヂスカ
 429 M42L②② チョット オクズネ シマスガ コッカイギゾト-
 エ イクニワ ト-エ- フ-ニ イツラ イ-ヂシヨ-カ
 431 F25H②② チョット オクズネ シタインヂスケレドモ コッ
 カイギゾト-ニ イクニワ トノ ヨ-ニ イケル ヨロシヂスカ
 432 M35M②③ スミマセン、ギゾト-ワ トチラエ ムカツラ
 ヨロシヂスカ
 434 F25L②② アノ-、コッカイギゾト-ニ イキインヂスケド
 フノ ミチオ イツラ ヨロシヂシヨ-カ、スミマセン
 435 F19H①① オルレイリマスケドモ、ト-キョ- ハジメテナ
 チ、コッカイギゾト-マデ イキインヂスケド、オシエテ イタダケ
 マスカ
 436 F69L②③ チョット、オクズネ シマスケド、ギゾト-ノ ホ
 -エ-ノ ミチオ、ゴソナイ オネガイ シマス
 438 F34L②② チョット、スミマセン、オルレイリマスケドモ、ギ
 ゾト-ノ ホ-エ- イキインヂスケド、トチラエ イツラ ヨロシ
 ヂスカ
 439 M20M①① スイマセン、コッカイギゾト-マデ イキインヂ
 スケド チョット ミチガ ワカラナインチ、オシエテ イタダケナイ
 シヨ-カ
 440 F74L②③ チョット、オクズネ シマスケド アノ トノ ミ
 チ イツラ イ-ヂシヨ-カ
 441 F31L②④ コッカイギゾト-ワ ト-フ-ニ イツラ イチ
 ハク ワカリマスゲスカ
 443 M18L②③ チョット スミマセンケドモ コッカイギゾト-エ

- イクニワ ドー イックラ イーヂスカ
 444 F22M②③ スミマセン, コッカイギゾドニワ ドーヤツテ
 イックラ ヨロシイデショカ
 447 F20H②④ コッカイギゾドワ ドノ ヨーニ イックラ イ
 ーンヂスカ
 449 M49M③⑤ ギゾドワ ドノ ヘンニ アルガカネ
 450 F19M②② チョット オクズネ イタシマスケレドモ コッカ
 イギゾドワ ドー イックラ ヨロシイデショカ
 452 M59L②③ マコトニ モーシワク アリマセンガ, コッカイギ
 ゾドオ フチラヂスカ
 453 F15M②③ スミマセン, コッカイギゾドワ フチラニ アリ
 マスカ
 454 M19M②③ スミマセン, ギゾドワ フチラヂスカ
 455 F34M②③ スミマセンケド コッカイギゾドニ イク ミチ
 ワ ドーユー フーニ イックラ イーヂスカ
 456 F16M②④ コッカイギゾドニ イクニワ ドー イクバ イ
 ーンヂスカ
 458 M31L①② スミマセンガ, ギゾドマヂ イクノニ オシエテ
 イタガキナイデショカ
 459 F17M②③ スミマセンガ, コッカイギゾドニ イクノワ ド
 ノ ミチオ イックラ イーヂショカ
 462 M23M②⑤ コッカワ コッカイギゾドワ ドー イクバ イ
 ーナカネ
 463 M58M②③ ギゾドニ イキタイ オモイマスガ ドノ ミ
 チオ イックラ ヨロシイデショカ
 464 M74L②③ ミチガ ワカリマセン。フチエ イックラ ヨロ
 シイデショカ
 466 F32M②② スイマセン, ギゾドマヂ イキタインヂスケド
 ドノ ヨーニ シテ イックラ ヨロシイデショカ
 467 F61M①① ショーショー モノオ オクズネ イタシマス。ア
 ノ チョット, ギゾドニ マイリクイナシケドモ, ドーユー ホーコ
 ーチ マイリマシタラ ヨロシク コシイマショカ
 468 M36L②④ モシ, ギゾドニ イクニワ フチラエ イックラ
 イーヂスカ
 470 M38H②② オルレリマスガ, ギゾドニ イキタインヂスケ
 ド, ドーユー フーニ イックラ イーンヂスカ
 471 F32L②③ アノ, イナモンチネ ドーフーニ イックラ
 ワカラナイカラ イーカ ワカラナイカラ ギゾドニ イキタインヂス
 ケド チョット オシエテ クダサイ
 473 M19M③③ スミマセンケド, コッカイギゾドニ イクニワ
 ドー イックラ イーヂショカ
 474 M20M②③ アノ スミマセン コッカイギゾドワ フチラ
 ニ イックラ イーヂスカ
 476 M19M③③ ギゾドニ イキタインヂスカ ドノ ヨーニ イ
 ックラ ヨシカ オシエテ クダサイ
 477 M25H②③ スミマセンケド, アソコニ チョト ギゾドガ
 アルンヂスケドネ, アソコマヂ イクニワ ドー イックラ イーンヂス
 カネー
 479 M15L②② チョット シツレヂスカ, コッカイギゾドマヂ
 ドノ ヨーニ イックラ ヨイデショカ
 480 M16M②③ チョット スミマセン, コッカイギゾドニ イク
 ニワ ドノ ヨーニ イックラ ヨイデショカ
 481 F63L②④ ギゾドー イックラ トーフーニ イックラ イー
 ヂスカ
 482 M29M②③ チョット スミマセン, コッカイギゾドニ イク
 ミチオ ドー トオックラ イーヂショカ
 483 M34H②③ チョット オルレリマスガ ギゾドニ イク
 ミチワ フチラヂスカ
 485 F49L②③ ワタシワ ギゾドニ ミニ イキタイヂスケド
 フチラノ ホーニ イックラ ヨロシイデショカ
 486 M43L②② チョット オクズネ シマスケド コッカイギゾド
 マヂ イクニワ フチラエ イックラ イーヂスカネー
 487 F29L②③ アノ スイマセン コッカイギゾドニ イキタイン
 チスカ ミチ オシエテ クダサイ
 488 M68L②③ スイマセンガ ギゾドニ イキタイ オモウガ
 フチラエ イックラ イーヂスカ
 489 M29L②③ チョット スイマセンガ ギゾドワ ドーニ ア
 ルヂスカネ
 490 F50L②② チョット オルレリマスケド アノー ギゾドニ
 イクニワ ドーイッ フーニ イックラ ヨロシイデショカ
 491 M28M②③ ア, スイマセン ギゾドワ フチラヂスカ
 492 F27L③⑤ ドーユー フーニ イックラ イーヂネ
 494 F15L②④ コッカイギゾドニワ ドー イクバ イーンヂス
 カ
 495 F49L②③ ワタシワ ギゾドニ イキタインヂスケドモ
 ドーユー フーニ イックラ ヨロシイデショカ
 496 F38L②② アノ スイマセンケドモ アノー トーキョウ
 ルヂメチ ワカリマセンケド, コッカイギゾドニ イキタイ オモ
 イマスケド ドーユー フーニ イックラ ヨロシイデショカ
 497 F21M②② アー スイマセン アノー コッカイギゾドニ
 イキタイヂスケド フチラエ イクバ ヨロシイデショカ
 498 F50L①① チョット オルレリマスケド, ギゾドワ フチ
 ラヂスカ, チョット オオシエ イタガキナイヂスケド
 500 F46L①② チホーカラ テキマシケド ギゾドガ ワカ
 リマセン, チョット, ワカリマシク オシエテ イタガキマセンガ
 503 M21L②② チョット オクズネ シマスケド, ギゾドニ イク
 ニワ ドーユー フーニ イックラ イーンヂスカ
 504 M17M②③ アノ, チョット スイマセンケド コッカイギゾド
 ニワ ドーヤツクラ イケルデショカ
 506 F41L②③ アノ, スイマセンケド ギゾドニ イク ミチワ

- フチエ イキマカ
 507 M41L③⑤ アノ トウカラ キケド コツカイギゾド
 ガ ワカラナイ ミチジユオ オシエテ クレカ
 508 M23L③⑤ アー スイマセンケド ギゾドワ トーヤツテ
 イツクラ イーカ
 509 F30L②③ コツカイギゾドエ イキタインデスガ、トーキョ
 ー ハジメテデスナチ トー イツクラ イーデショカ
 510 F18M②④ コツカイギゾドー イクニワ フコノ ミチオ イ
 ックラ インデスカ
 512 F17M②③ スイマセン コツカイギゾドワ フノ ミチオ
 トオツクラ ヨノデスカ
 513 F35M②④ ギゾドワ フチヲノ ホーゴーズカ
 514 F28L②③ イマカラ コツカイギゾドエ イキタインデスカ
 FE フノ ヨーニ イツクラ イーデスカ
 515 F53L②③ コツカイギゾドー イキタインデスカ イキカ
 オシエテ クダサイ、ミチオ オシエテ クダサイ
 516 M38L②③ チョット オクズネ シマズガ、ギゾドエ イク
 ミチオ オシエテ イダキタイ
 517 M59M②③ ギゾドワ フノ ホーニ トーユー フーニ イ
 ックラ ヨイデスカ ミチオ オシエテ クダサイ
 518 F42L②③ アクシワ ハジメテ トーキョーニ キタノデネ
 ギゾドガ ワカラナイデスカ、チヨト、オシエテ クダサイ
 519 F30M②② チョット オクズネ シマズド コツカイギゾド
 ニ イクニワ フノ ヨーニ イツクラ ヨロシイデショーネ
 522 F46L②③ ハジメテデスカドネ、シラナイケド、ソコ イクニ
 ワ トーユー フーニ イツクラ ヨロシンデショカ
 525 M36L②② マコトニ モーシケ アリマセンケド コツカイ
 ギゾドエ イキタインデスカド トー イツクラ ヨロシンデショカ
 527 F25L②③ オソレリマスケド コツカイギゾドー イク ミ
 チオ オシエテ クダサイ
 528 M41M③⑤ ワクシ タビヤキテワ イツモ チリガ ファンナ
 イチ ワカラナイメンガチ ワクシノ イキヤキ、コツカイギゾドガ
 シツテミエクラ オオシエ ネガエンカ
 531 M26L③⑤ ア、スイマセン、ギゾドエ イクニワ トーキョ
 テ イツクラ イーカ
 533 M48L②③ コツカイギゾドガ ワカリマセンガ フチヲノ
 ホーガクエ イツクラ イーデスカ
 534 F18M②③ アノ、オソレリマスガ コツカイギゾドワ ト
 コニ アリマスカ
 537 M35M②③ チョット ギゾドマデ イキタインデスカド ト
 ー イツクラ イーデスカ
 539 M24H②③ チョット コツカイギゾドマデ イキタインデス
 ケド トー イツクラ ヨロシイデショカ
 540 M72L②③ シツレデスカド コツカイギゾドワ フチヲデ
 スカ
 542 M51L②③ チョット オクズネ シマズガ ワクシ アイチヤ
 ンカラ テリキモノデ ギゾドー イキタイト オセガ ワカランデ、
 ワクツクラ オシエテ イダキナイデショカ
 543 M55L②③ マコトニ スイマセンガ ギゾドニ イクニワ
 トー イツクラ ヨロシイデショカ
 545 M46H①① マコトニ、オソレリマスガ ギゾドエ イク
 ミチヲ フチヲ トオツテイケバ ヨロシユー コザイマスカ
 546 F36L①③ チョット オクズネ シマズケド アノー ミチガ
 ワカラナイカラ オシエテ イダキタインデスカ。コツカイギゾドエ
 イク ミチ オセガイ イダシマス
 548 F51H①① コツカイギゾドワ トーユー フーニ イケバ
 ヨロシユー コザイマスカ
 551 F45H②④ ギンカイクン イキタインデスカ チリガ ワカ
 ラナイカラ オシエテ クダサイ
 552 M24M②② マコトニ スイマセンケド コツカイギゾドワ
 フチヲノ ホーゴーニ イツクラ ヨロシンデショカ
 554 F43H②③ コツカイギゾドニ イキタインデスカド トー
 イツクラ ヨロシンデショ
 555 F50M②③ コツカイギゾドワ トー イツクラ ヨロシン
 デスカ
 557 F31M②③ コツカイギゾドニ イキタインデスカド、クダマ
 オ ヒロクニワ トーシツラ インデスカ
 558 F49L②④ トーキョーノ ギゾドワ フチヲデスカ
 561 F22H②③ アノ スイマセン。トーキョーニ ヒシツブリニ
 キタモノデ コツカイギゾドニ イキタイト オモウツデスカ、セン
 シン ホーゴーガ ワカラナイデスカ。スミマセンケド、モシ、コソジツ
 シツラ オシエテ クダサイ
 565 M45L②③ チョット スイマセンデスカ。ギゾドエ イクニワ
 フコト トオツテイケバ イケマスカ
 566 F15L①① スミマセンガ ギゾドエ イキタインデスカド
 ミチオ オシエテ イダキマセンカ
 567 F21H②② チョット スイマセンケド、コツカイギゾドエ
 イクニワ トーユー フーニ イツクラ イーデスカ
 568 F28M②④ コツカイギゾドマデ イクニワ トー イツクラ
 イーデスカ
 569 M26L②② スミマセンケド、コツカイギゾドワ トー イ
 ックラ イーデショ
 570 F42M②② スミマセンケド チョット ミチオ タスネマス
 ケド。ギゾドエ イクニワ トー イツクラ イーデショカ
 572 F29L②② オソレリマスケド コツカイギゾドワ フチヲ
 エ イツクラ ヨロシイデスカ
 575 M17M②④ コツカイギゾドエ イクニワ トーシツラ イー
 デショカ
 576 M26H②④ ギゾドワ トー イツクラ イーデスカ
 578 M37M②② チョット オソレリマスガ、コツカイギゾドマ

- テ イキタイヂスガ、ミチオ オオシエ ネガエマセカ
- 579 M43M②② アノー タイハン オルレイマスガド コッカイ
キゾド-マヂ イキタイヂスガド トー イツクラ イーヂショ-ネー
- 581 F54M②③ キゾド-ワ コロハンダ オモイマスガド ト
コヂショ-カシラ
- 582 M17M②④ コッカイキゾド-エ イクニワ トー イツクラ
イーヂショ-カ
- 583 F61L②② マコニ オソレイマスガ チョット オクズネ
シマスガ キゾド-ニ イクニワ トー イツクラ イーヂショ-カ
- 584 F19H②② オソレイマス キゾド-エワ トー イツクラ
ヨロシイヂショ-カ
- 585 F45L②② オソレイマスガ、コッカイキゾド- イクニワ
ド-ユー フ-ニ イツクラ ヨロシイヂショ-カ
- 586 M36M①④ オソレイマスガ アノー コッカイキゾド-エ
イク ミチワ トー イツクラ ヨロシエ コシイマスガ
- 587 F16M②③ アノ、スイマセケド キゾド- イク ミチワ
ドチヂショ-
- 588 M33M②③ ワクシ チホ-カラ キンヂスガド センペン
コノ チカク ミチモ ナニモ シラナイヂスガド コッカイキゾド-
イキタイヂスガド ト-ユー フ-ニ イツクラ ヨロシ-ンヂショ
-カ
- 590 F33M②③ スイマセケド コッカイキゾド-ニ イクニワ
ド- イツクラ ヨロシ-ンヂショ-カ
- 591 F28L②④ アノ コッカイキゾド- イクンダク ミチヂエ
ン ワカテナイカラ オシエテ クダサイ
- 592 M42L②④ コッカイキゾド-ワ ドツチエ イツクラ イーヂ
スガ
- 593 F36L②③ スイマセケド キゾド-エ イクニワ トー イ
ツクラ イーヂスガ
- 594 F49L②③ シラナイヂスガド コッカイキゾド-ワ ドチヲノ
ホ-エ イクンヂスガ。イチド オシエテ クダサイ
- 596 F29M②② スミマセ ン キゾド-エ イキタイヂスガドモ
ドコノ ミチカラ イケバ ヨロシイヂスガ
- 597 F37M①④ アノ チョット オソレイマスガド コノ アン
ノ カクヂスガ アノー チョット キゾド-ニ イクニワ ト-ユー
フ-ニ イツクラ ヨロシイカ オシエテ イクダマセ
- 599 F48L②② モシモシ スミマセケド チョット オクズネ
イクシマス コッカイキゾド-オ サガシテルンヂスガド フノ ヨ-ニ
イケバ イーヂショ-カ
- 600 F27L②③ スミマセケド コッカイキゾド-ワ ト-ユー
フ-ニ イツクラ イーヂスガ

医 者 (108)

- 002 M49L③⑤ ウチノ トナリノ モノガ タイハン クルンヂ

- イルカラ スガ キテ モラエシテロ-カ
- 003 F43L②③ アノー オタクノ カカリウケノ コ-ユー オキ
ヤクシンヂスガド チョット キュ-ピョ-ニンガ チキマシテ タノ
レマシクヂスガド キテ モラエマスガ
- 005 M26H①② センセ- スミマセ ン イマ トナリノ ヒトガ
キュ-ピョ-チ ビヒ キテ イクダキタイヂスガ オネガイ チキマ
スガ
- 006 M50H①③ キュ-ピョ-ニンガ オリマスノチ キテ イクダ
ケマセカ
- 009 F38L①③ キュ-ピョ-ガ チマシタカラ スガ キテ イク
ダケマスガ
- 011 F42M②③ センセ-モ オイノガシイヂショ-ケド スガ キ
テ イクダキタイ
- 012 F44L①④ スミマセケドモ ヤブノ オソク スミマセケ
ドモ キュ-ピョ-ガ チキマシタカラ キテ イクダケマセケドスガ
- 015 F38L②③ アノー チカクノ ヒトガ キュ-ピョ-ヂスガ
スガ キテ モラエマセカ オネガイ シマス
- 017 F56L①③ イマ トナリノ コガ キュ-ピョ-チ コマツテ
ミルカラ スガ キテ イクダケマセカ
- 018 F39M①③ スガ キテ イクダケナイヂショ-カ
- 020 M68L②② スイマセガ トナリノ ヒトガ キュ-ピョ-ダ
カラ スガ ヒトツ オ-シン シテ モラエナイヂショ-カ
- 023 F46L①② オネガイ シタナヂスガ ドコソノ モノヂスガ
ミテ イクダキタイ オモイマスカラ キテ イクダキタイ オモ
イマス
- 024 F17H①③ キュ-カンヂスガドモ シキュー ミテ イクダケ
マスガ
- 026 F69L③⑤ オトナリノ ヒトガ ニワカニ クライガ ワルイ
チ スイマセケド スガ キテ モラエカ
- 027 M22M②③ キュ-ピョ-ニンナンヂスガド イマ スガ キテ
モラエマセカ
- 029 F30M①② コナ ジョウクイヂスガド シキュー キテ イ
クダケナイヂショ-カ
- 030 M17L②④ トナリノ ヒトガ キュ-ピョ-ナリダ スガ キ
テ クレマセカ
- 033 F48M①② オトナリノ カガキ キュ-ピョ-チ クルンヂ
オラマスカラ スガニ ソノママ キテ イクダキタイヂスガド。ミ
テ イクダキタイヂスガド
- 035 F47M①② スイマセ ン、オトナリノチガ キュ-ピョ-ヂスガ
ド スガ ミニ キテ イクダケナイヂショ-カ
- 036 F66L①③ スガ イマ キュ-ピョ-ガ チキマシ スガ キ
テ イクダケマセカ
- 038 F43M①② キンゾノ カタ クレダレサツガ ピョ-キニ
ナツクナチ ワクシワ タノレマシクナチ スガ ミニ キテ イクダ
ケナイヂショ-カ

- 039 M41L③⑤ トナリノ ヒトガ キュービョーダテ スグ キテ
モラエンカ
- 041 F47H①② アノ キューナ オネガイデ マコトニ スミマセ
ンガ チカクノ カタガ キュービョーニ ナリマシクノデ チキカラ
ハヤク ミテ イダシキタイト オモイマス ワクシノ ウチウ 呉レサ
レノ チカカデス
- 042 M20L②③ キュービョーデスカラ スグ キテ クダサイ
- 043 F63L①③ キンゾノ カタガ イマ キュービョーデスカラ
スグ オーシニ キテ イダシクマセシヨウカネ
- 045 M19L①③ キュービョーデスカラ スグ キテ イダシクナイデ
スカ
- 046 F72L①① イマ オムカイノ カタガ キュービョーデ コマ
ツテイマスデ スグ キテ ミテ イダシクマセシヨウカ 此ヒ オ
ネガイ イタシマス
- 047 F40L①① ウチノ マエノ 呉レザンガ キュービョーデ
スケド スイマセシヨウ オーシシ シテ イダシクマデシヨウカ
- 048 M61L③⑤ コーユー トコノ アレダテ スグ キテ モラエ
ンカ
- 050 F67M①③ ワクシノ チカクノ ヒトガ コーゴダカラ セ
ンセー シンサツ シテ イダシクマスカ
- 052 F58H②④ キュービョーデ タイエン コキンゾノ カタガ
キュービョーデ コマツテミエラレバカラ ハヤク オネガイ シマス
- 053 F33M①② 呉レザンノ オタクノ ヒトガ キュービョー
デスカラ オソレイリマスガ イッテ ヤッテ イダシクマセシカ
- 054 M60M①② チョット キューカンガ デキマシタカラ キテ
イダシクナイデシヨウカ
- 056 F26H①① キュービョーニデスカラ スグ キテ イダシク
マデシヨウカ
- 057 M36M①② オラズデスカド キンゾノ コドモガ キュー
ビョーデスカラ スグ キテ イダシクマスカ
- 059 M24H②④ キューカンデス
- 060 M22L②③ キュービョーニンガ デマシタカラ スグ キテ
クダサイ
- 063 F25L①② ワクシノ チカカデ キュービョーニンガ デマシ
タ スグ オーシシ シテ イダシクマスカ
- 065 F30L②③ キュービョーニンガ デマシタカラ スグ オイデ
クダサイ
- 066 F38M②③ アノ キュービョーノ カタガ ミエマデネー
センセー ワクシノ クルマン ノツテ クダサイ
- 068 F36L①② アノ キンゾウニセ、ビョーニンガ アリマスケ
ド、キュービョーデ スグ キテ イダシクマスカ
- 069 M29M②③ ジツワ トナリノ ヒトガ キュービョーナンデス
ケド チョット ワレワレニワ ゴンインガ ワカラナイデスカラ、
スグ キテ モラエマセシカ
- 071 M52L③⑤ キュービョーニンガデ タノム、キテ クレ。トナ

- リノ ヒトガ キュービョーダテ
- 073 F23M①② スミマセシ キンゾノ ヒトガ キュービョーナ
デ スグ キテ イダシクマデスカレド
- 074 M28H②② アノ ヤブシ スミマセシケド、キューカンデスカ
ラ チョット センセー オネガイ シマス
- 075 F34H②③ キンゾノ カタガ キュービョーデスカラ スグ
ニ キテ クダサイ
- 077 F39L②④ キュービョーダカラ、スグ キテ クダサイ
- 078 F30L②④ コーゴコーユー グアイデ トモモ コマツテイ
ルカラ キテ クダサイ
- 080 M18M②③ アノ、キュービョーナンデスカド ハヤク キテ
モラエマセシカ
- 084 M47H①① チカクノ ヒトガ キュービョーデスカラ、ヤブシ
オソレイリマスケド、スグ オーシシ シテ イダシクマセシヨウ
カ
- 086 F27L②② アノ チカクノ ヒトガ キュービョーデスカラ
オソレイリマスカ、オーシシ ネガイマスカ
- 087 M25M②③ 呉レザンガ ドーユー フーナ ヨウキデ
キュービョーデスカラ スグ オーシシ シテ モラエマスカ
- 089 M42H②③ スグ チカクノ ヒトデスカド キュービョーダテ
ダシキキュー チョット キテ モラエマセシカ
- 090 F16M②③ ウチノ チカクノ ヒトガ キュービョーデ コマ
ツマスカラ キテ クルマセシカ
- 091 M61L①② ワクシノ チカクノ カタガ ビョーキデ ネコノ
チオラレマスケド センセー エライ タイヘンデスカレド ハヤク
ヒツツ シンサツ シテ イダシクマセシカ
- 092 F17M①② キュービョーニンガ チタンデスカレドモ コレカ
ラ スグ キテ イダシクナイデシヨウカ
- 093 F69L①③ イマ トナリノ ヒトガ キュービョーダテ オ
ーシシ シテ イダシクマスカ
- 095 F18L②③ スミマセシ アノ シニゾーナンデス ハヤク キ
テ クダサイ
- 096 M28L②④ トナリノ ヒトガ キュービョーナンデス スグ キ
テ ミテ イダシクマスカ
- 097 M39M②④ キュービョーデ シニゾーダカラ ダシキキュー
オネガイ シマス
- 098 F37L②④ キュービョーダカラ スグ キテ クダサイ
- 099 M46L②④ センセー キュービョーダテ スグ オネガイ シ
マス
- 100 M16M①② スミマセシ キュービョーニンデスカラ スグ キ
テ イダシクマセシカ
- 101 M33M①② キンゾノ ヒトガ キュービョーデスカラ キテ
イダシクナイデシヨウカ
- 102 F16M②④ ビョーニンガ イルカラ スグ キテ クダサイ
- 104 M27M①① ウチノ スグ トナリノ カタガデスカレ キューニ

- 105 F30L①① アミマセンケド ウチノ キンゾノ カガガネ
 ビョーキガヲ たいしきゅー きて いたがくマセンデシヨカ
 107 F18M②③ キュービョーニンガ イマスカラ スグ キテ ク
 ぐサイ
 108 M25M①① アノ キュービョーニンデスカド たいしきゅー
 きて モライマセンデシヨカ
 110 F15L②③ キューニ ビョーニンガ テキテ シキユー きて
 ホシンデスカド ヨロシイデシヨカ
 111 M34H②② マコトニ ヤブンテ モーシウケ アリマセンガ
 キュービョーニンデスノデ オーシン ネガエスカ
 113 M28M①② トナリノ ヒトガ キュービョーデスノデ スグ
 きて いたがくマスカ
 116 M26M②④ キュービョーニンガド スグ きて モライマスカ
 117 F31L①② アミマセンガ オトナリニ キュービョーガ テキ
 マシテ たいりノ モンデスカド スグニ イッテ アゲテ いたがくマ
 センカ オネガイ イタシマス
 120 M59L②③ コンチウ センセー キンゾウチ キュービョーニ
 ンガ テキマシクテ ヒトツ イマ ドウカ オチカニ ナラナシテ
 ヒトツ シキユーニ きて いたがくサイ トコガ テキタンデスガ
 ドーデシヨカ コマツテイカデスガ
 122 M56M①② コメツクグサイ イ、センセーデスカ イマ キュー
 ビョーニンガ ワカクシノ スグ キリテ テキマシクテ オアス
 デスガ せヒ ミテ ヤツテ いたがくサイト オモイマス オコシオ
 オネガイ イタシマス
 123 F18M②④ ワカシノ チカクノ ヒトガ キュービョーナンデ
 スグ きて ホシンデスカド
 125 M25H②④ キュービョーニンガ テクカラ イノイテ きて
 クグサイ
 126 M24L③⑤ キンゾノノ ヒトガ キュービョーグデ チョット
 きて モライカナ
 127 M28M②⑤ マコトニ モーシウケ ナイケド キュービョーニ
 ンガ テクテ ワルイケド スグニ きて クレカネ
 128 F25M①② トナリノ ヒトガ キュービョーナンデスカド ス
 グ きて いたがくマスカ
 129 M22M②③ イノノ モンガ チョット タレタンデスカド
 きて モライナイデシヨカネ
 130 F36L②④ トナリノ カガガ キュービョーグカラ ハヤク
 きて クグサイ
 132 F65L②③ キンゾノノ カガガ キュービョーデスデ ナント
 カ ゴウゴー テキンデシヨカ
 134 M73L②③ アミマセンガ キュービョーデスカラ ハヤク キ
 テ ミテ アゲテ クグサイ
 135 F38L②③ センセー トナリノ カガガ キュービョーデ ド
 ーモ カクノ カガガ ミナイヨーデスカラ スグ オーシン シテ
 モライマデシヨカ
 137 F57L①① マコトニ オルレイリマスカド キンゾノノ カ
 ガガ キュービョーデ クルシンデオラレマスカラ ウツク きて ホ
 シデスカド イカガチ コチイマシヨ
 138 F37L①② オルレイリマスカ トナリノ カガガ キュービョ
 ーデスノデ チョット シンサツニ きて いたがくマセンカ
 139 M71L①② ジウウ センセー ウチノ トナリノ ヒトガ キ
 トクダテ スグ きて いたがくナイデシヨカ
 140 F74L②③ キュービョーグデ アミマセンガ ゴウゴー ド
 ーデシヨカ
 141 M22M②② スイマセンケド キュービョーニンデスカラ タ
 イシキユー オネガイ シクインデスカド
 143 M53H②② エート アミマセンケド ウチノ トナリニ キ
 ュービョーニンガ テキマシテ オルレイリマスカ センセー ナントカ
 オーシン ネガエナイデシヨカ
 144 M17M②④ アノ スイマセン キンゾノノ ヒトガ キュービ
 ョーナンデ スグ ミテ モライマセンカ
 146 F35M①③ キュービョーナンデスカド イノイテ きて いた
 がくマスカ
 147 F30M②③ スイマセン キュービョーニンガ テクテ スグ
 きて クグサイ
 149 F40L②③ スイマセン キュービョーニンガ アリマスノデ
 イノイテ きて クグサイ
 150 F67L③⑤ イマ ビョーキ アレダテ スグ きて モライエン
 カシテ
 151 M68L①① センセーデ コチイマスカ ジウウ ウチノ トナ
 リノ オカガガ キュービョーニ ナラレマシテ アレデ コチイマスカ
 シカンキレデシヨカレド イライ アミマセンガ スグ オネガイ
 ガ テキマセンデシヨカ
 152 M28M②③ スイマセンケド トナリノ ヒトガ キュービョー
 ノ クス シキユー きて クグサイ
 153 M32M①③ ヤブノ オウク アミマセンガ スグ きて いた
 がくマセンカ
 155 F47L②② センセー アミマセンケレド キンゾノノ カガガ
 キュービョーデ コマツテミエマスカラ スグ きて クグサイ
 156 F73L①② トナリノ モンデスカド ノコチ ビョーキオ
 ャツテオラレカラ ソイデ、きて いたがくマセンカ
 158 M25L②③ キュービョーニンガ テマシクテ スグ きて
 クグサイ
 159 F20L②③ キュービョーニンガ テマシクテ オネガイ シ
 マス
 161 F61L①③ キューニ オネガイデスカド スグ きて いたが
 くマセンカ

- 162 F20H①② スミマセンガ イノ チカクノ ヒトガ キュー
 ビョーデスナデ チカクイハク オーシンニ キテ イタダキタイ
 ンデスナド オネガイ デキマスカ
- 164 M42L②② ヤソノ ドーモ スミマセンガ キューカンガ チ
 キタモンデスカラ スガ キテ イタダキタインデス
- 165 M16M②③ アノ キュービョーニガ デマシタノデ スガ
 ミテ クダサイ
- 168 F62L①① キンゾヨニ キュービョーニガ デキマシタノデ
 マコトニ オルレイリマスガ オーシン シテ イタダキマスデショ
 ーカ
- 171 F23L①② キュービョーニナンデスナド ミテ イタダキマ
 スカ スガ キテ ホンンデスナド
- 173 F44L③⑤ トナリノ 多レ多レサンガ ワルイデ スガ キテ
 クレ
- 174 F61L①② イマ キュービョーデ コマツレサンデスナド ス
 グ キテ イタダキタイデショカ
- 176 M21L②③ スイマセン キューカンデス オネガイ シマス
- 177 F24M①② チョット キュービョーニガ デタンデスナド
 スガ キテ イタダキマスカ
- 179 F74L②④ トナリノ ヒトガ キュービョーデ イッペン
 キテ モラエマセンカ
- 180 M45L①② イマ オイソシト オモイマスナド ワクシ
 ノ トナリノ オクサンガ キュービョーニ ナラマシタノデ キテ
 イタダキタインデスナド ヨロシク オネガイ シマス
- 182 F32M②④ トニカク イチノ スガ キテ クダサイ
- 183 F23M①② センヒト トナリノ ヒトガ キュービョーデ チ
 ヨット ネコンテイルンデスナド スガ イラシテ イタダキタイデショ
 ーカ
- 184 F49M①② アノ チカクノ カガキ キュービョーナンデスナ
 ド オイソシイ トコロ オルレイリマスガ キテ イタダキマセンカ
- 185 F32M①① アノー マコトニ オイソシイニ オルレイ
 リマスナド キンゾヨニ キュービョーノ カガキ デマシタノデ オ
 シンオ ネガエマスデショカ
- 186 F33M②③ スイマセン, サッキ… レンラク シテオキマシ
 タ モノデスナド オネガイ シマス
- 188 M65L②③ センヒト, マコトニ, イソシタマスガ, トナリノ
 ヒトガ キュービョーデ タラマシタカラ シキュー オーシン シテ
 クダサイ, オネガイ シマス
- 189 F26L①① キュービョーデスナド… スガ キテ モラエマ
 スデショカ
- 191 M25L②③ キンゾヨノ ヒトガ キュービョーニガ デタン
 デスナドモ ヨロシク ナンカ ナリマセカ
- 192 F16M②④ 多レ多レサン トコロガ ビョーキダカラ スガ
 キテ クダサイ
- 194 F20M②② アノー スミマセン キュービョーニガ チキタ

- モンデスカラネ スガ イマカラ キテ ホンンデスナド マコトニ
 スミマセン オイソシイ トコロ
- 195 M44M①② センヒト キュービョーニガ デマシタノデ ス
 グ キテ イタダキマセンカ
- 197 M72L③⑤ ア, チョット トナリノ ヒトガ 多イイガ ワル
 イデ, スガ キテ モラエマセン
- 198 F15M②② スイマセン, ウチノ チカクノ コガ, キュービョ
 ーデ, スガ キテ モラエマスカ
- 199 F40M①② オトナリノ 多レ多レサンガ キューニ オナカガ
 イタケナツテ クルンシテイマスナデ ヤソナデ オルレイリマスガ
 ミニ キテ イタダキタイデショカ
- 200 F18M①② キュービョーニガ イルンデスナド スガ キテ
 イタダキタインデスナド
- 201 M29M①③ スミマセン キューカンデスガ スガ キテ イ
 タダキマセンカ
- 202 F70L①③ マコトニ オルレイリマスガ ハクキ キテ イ
 タダキマセンカ
- 203 F49L②② キューカンデ コマツレマスナド センヒト スミ
 マセン スガ オーシンニ チカケテ モラエマセンカ
- 204 M60L③③ ワクシノ トナリノ カガキ キュービョー…
 スガ オイデ ネガエンデショカ
- 205 F65L②③ ウチノ オムカイノ 多レ多レサンガ クルンシ
 テイマスナド ゴツゴツガ ワルイカモ シルナイケド キテ ミテ ア
 デテ クダサイ
- 206 M64L①② トナリニ キュービョーニガ チキタデ スミマ
 センガ スガ キテ イタダキタイデショカ
- 207 F49M①① スイマセン ウチノ トナリノ カガキ キュービ
 ヨーナンデスナド オーシン ネガエマセンデショカ
- 209 F15L②② スミマセン キューカンガ デタノデ スガ キテ
 モラエタイデショカ
- 210 F23L③④ トナリノ ヒトガ キュービョーガカラ オネガイ
 シマス
- 212 F23H①① タイヘン, モーシワケ ナインデスナド… キ
 ュービョーニガ, デマシタノデ, リンダンデスナドモ キテ イタ
 ダキマスデショカ
- 213 F31L①② ワクシノ スガ ソバノ ヒトガネー キュービョ
 ーデスナド ワルイケド スガ キテ イタダキタイデショカ
- 215 M41L①② キンゾヨニ キュービョーニガ デタテ スガ
 キテ イタダキタイデショカ
- 216 F26M①② アノ キュービョーニガ デマシタノデ スミマ
 センケド キテ イタダキマスカ
- 218 F58L①① センヒト スイマセンデスナド, ワクシ ムツナ
 ノ モノデスナド, オトナリノ, オクサンガ チョット オナカガ イタイ
 イツデイマスナド, キテ イタダキマセンデショカ
- 219 M49L①② イマ ジュービョーガカラ センヒト マコトニ

- スミマセン スグ キテ イタダキナイデショウカ
- 220 M41M①② チカクノ ヤジマツノ コシユジツガ ビョウキ
テ クルシンヂミエルテ シキユ ミテ イタダクマセシカ。シンソウ
シテ イタダクマセシカ
- 221 M56M②④ ジツウ トウセン ヤブシ オジヤマ シテ モー
シツク ナイ。ジツウ トナリノ、クシクシガ コーユー ジョウタイダ
カラ アマリ コノマシクワ ナイトウ オモウケドモ マダテ ヒトツ
ゴソクロー イタダキタイ
- 222 F26L①③ アノ ウチノ キンゾノ ヒトガネー、キュービ
ョーチ コーユー フーチ アブナイナデ、クシクシキユ ミテ イタダ
クマスカ
- 223 F63L①① トナリノ キュービョーテスデ イチド キテ
ミテ イタダクマセンデショウカ
- 224 M21L②③ キュービョーニンデスケドモ キテ モラエマスカ
- 227 F28M①② オヤズミノ トコロ スミマセンガ トナリノ ヒ
トガ キュービョーナデ スグ キテ イタダクマセシカ
- 230 F37H②② コロコロノ… ワケデスカラ、イッショニ スミ
マセンケド オウシン オネガイ シマス
- 231 M23H①② アノ オルレイリマスカドモ 赤ノ トモチ
ガ チョット キュービョーナモンデ スコシ ジカクオ サイテ キテ
イタダキタイデスカドモ
- 233 F25L②③ アノ トナリノ ヒトガ キュービョーダカラ
スミマセンケド ハヤク キテ クダサイ
- 236 M33M①② マコトニ スミマセンケドモ、トナリ コドモガ
キュービョーナモンデスカラ マコトニ スミマセンケドモ ゴソクロー
オネガイ テキナイデショウカ
- 237 M38M①② トナリノ コドモガ、キュービョーテスナデ イ
ンガイ トコロ マコトニ オソレイリマスカドモ スコシバカリ
ジカクオ サイテ イタダクマセシカ
- 240 M20M①③ トナリノ ヒトガ キュービョーチ タオレクナデ
チョット キテ イタダクマセシカ
- 242 M31M①② トナリノ ヒトガ キュービョーチ コマッテネリ
マスナデ ナンカ イノイチ キテ イタダクマスカ オネガイ シマ
ス
- 243 M63L②③ センセー スイマセンガ チョット トナリノ カ
タ キュービョーチ ツレテキマシクカラ ミテ クダサイ
- 245 M52L①② センセー マコトニ スミマセンガ、キンゾノ
カカガ キュービョーナデ シキユ キテ イタダキナイデショウカ
- 246 M23M②③ キュービョーニンデスカラ スグ キテ クダサイ
- 248 M56L②④ キンゾノ ヒトガ チョット キュービョーナ
ンチ オウシンニ キテ モラエナイデショウカ
- 249 F42H②② マコトニ コムリデスカド キュービョーニンガ
チキマシクナデ ヤブシ オソレイリマスカド オネガイ シマス
- 250 M22H①② キンゾノ ヒトガ、キュービョーニ ナリマシタ
カラ スイマセンケド、シキユ キテ イタダクマセシカ
- 251 F36M①① スグ ノバチ キュービョーニンガ テンデスガ
スグ オウシン シテ イタダクマセンデショウカ
- 252 F26M①② スミマセン、キュービョーニンガ テンデスケド
ー スグ キテ イタダクマスカ
- 254 F32L①② スミマセンガ トナリノ ヒトガ キュービョーチ
スカド スグ キテ イタダキナイデショウカ
- 256 M24H②② チョット スイマセン アノ キンゾノ ヒト
ガ ビョーキナモンデスカラ、スグ キテ モラエマスカ
- 258 M34M②④ キンゾノ ヒトガ ビョーキダテ、スグ キテ
モラエマセシカ
- 260 F33M①③ スイマセンケドモ、スグ キテ イタダクマスカ
- 261 M42L②② スミマセンガ トナリノ ヒトガ キュービョーダ
カラ オウシンオ オネガイ シマス
- 262 F47M②④ キンゾノ ヒトガ クワイ ワルイカラ スグ
キテ クダサイ
- 265 M24M②③ キューニ ヨクタイガ アツカ シツテ スグ キ
テ ホシイデ タミマスカ オネガイ シマス
- 266 F22M①② キュービョーニンデスナデ、マコトニ モーシツク
アリマセンガ、キテ イタダキナイデショウカ
- 267 M39M①② チョット スイマセン、キンゾノ モノガ キュ
ービョーデスカラ、ヤブシ スイマセン、チョット キテ イタダクマ
セシカ
- 269 M59L②② センセー スイマセンケドモ キュービョーニンデ
スカラ、ヒトツ、オネガイ シマス
- 270 F28H②③ センセー、キューカンデスカラ スグ オネガイ
シマス
- 271 M32L②③ オネガイ シマス キンゾノ ヒトガ キュービ
ョーダカラ オウソクキテ オネガイ シマス
- 272 F38M①② マコトニ スミマセンケド、コロコロコーユー フ
ーチ、キンゾノ カカガ クワイガ ワルクッテ コマッテミエマスノ
チ、チキマシクワ オウシンニ キテ クダサイマセシカ
- 273 F27H②③ アノ オトナリノ カカガ キュービョーナンデ
ス オネガイ シマス イマ スグ キテ モラエマスカ
- 275 F50L②④ ウチノ トナリノ ヒトガ ビョーキダテ スグ
キテ クダサイ
- 276 F22L②③ キュービョーニンデスカド イノイチ オネガイ
シマス
- 278 M41L③⑤ シンジョイノダテ ハヤク キテ クイ
- 279 F60L①② チョット センセー、ジカクガイテ スイマセンケ
ド トナリノガ ネット 厚シテ コマッテイマスナデ スイマセンガ
スグ キテ イタダキナイデショウカ
- 281 F38H①② スイマセン、キュービョーニンデスカド イラシテ
イタダキナイデショウカ
- 284 F33M①① キンゾノ モノデスガ、オタクノ カカガ オ
ノズスナデ、スグ オウシン シテ イタダクマセンデショウカ

- 285 M66M①② ア, チョー ド イー, オトナリ キュービョーニ
ンガ ゴザイマスノチ, センセー, スマシクド キテ ミテ イタダケマ
センデショウカ, チキカラ ヒトツ 卍ヒ ツゾー ツケテ キテ イタ
ダキタイ オモウデスガ, イカガデショウ
- 287 F23H①② スイマセン アノ キュービョーニンガ デマシ
ナド キテ イタダケナイデショウカ
- 288 M47H①② ヤブン スイマセンケレドモ トナリノ ヒトガ
キュービョーニ ナリマシカ。スガ キテ イタダケナイデショウカ
- 290 F41H①① ワカクシノ キンゾノ イエナンデスケレドモ
キュービョーニガ デキマシタノチ タイシキュー キテ イタダケ
インデスガ オネガイ デキマセンデショウカ
- 291 F24H①② ミヨウダイズニ スンデイル ナニナニ モー
モゾスケレドモ トナリノ モノガ キュービョーデスノチ スガ
キテ イタダケマスカ
- 292 F21H①② キュービョーニンガ デタンデスケド, スガ キテ
イタダケマセンカ
- 293 F22H①② ヤブン オソク モーシワケ ナイデスケドモ オ
ーシシ シテ イタダケナイデスカ
- 294 F19H②③ スイマセン キンゾノ ヒトガ キュービョーナ
リデ スガ キテ クダサイ
- 296 M33L②③ キュービョーニンデス, スガ キテ クダサイ
- 297 F48L①② オトナリノ カガガ キュービョーデスケド セン
セー イッテ イタダケナイデショウカ ワカクシ タノメマシタノチ
- 299 M35H①② ワカクシノ トナリノ ヒト ガクシノ ウチデ
ビョーニノ ヒトガ アリマスケレドモ ヒジョーニ オモロナリデ,
ヤブンデスケレドモ, 卍ヒ, キテ アゲテ, イタダケマセンカ
- 300 F46L①③ オトナリノ ヒトガ キュービョーニ ナラレタカ
ラ スイマセンケド スガ チョット オネガイ デキマスカ
- 302 F58L②④ トナリノ ヒトガ キュービョーデテ ハヤク オ
ネガイ シマス
- 303 F55L②② ア, センセー スイマセンケド, トナリノ ヒトガ
ビョーキデスカラ キテ モラエマセンスカ
- 305 M33H②③ チカクノ ヒトガ キューカンデ イマ コマツテ
マスノチ, チキルダケ ハヤク キテ モラエマセンカ... 卍ヒ キテ
クダサイ
- 306 F37M①① スイマセン センセー キュービョーニンデ, オト
ナリノ コトデスカド イソイデ マイリマシカガ オイワガシイ トコ
デスカドガ オーシシ シテ イタダケマスデショウカ
- 308 M19M①② スイマセン キュービョーニンデスカラ シキュー
キテ イタダケマスカ
- 309 F25H①② キンゾノ ヒトガ キュービョーデ タイヘンデ
スカラ スガ キテ イタダケマセンカ
- 311 F24M②③ キュービョーデスノチ スガ キテ クダサイ
- 312 M33L②③ キュービョーニンデスガ, イソイデ オネガイ シ
マス

- 314 M34M①② スイマセンガ アノ, キューカンガ デタンデスカ
ド ナントカ キテ イタダケナイデショウカ
- 315 F30M①② スイマセン チカクニ キューカンガ デタンデス
ケド オネガイ デキマセンカ
- 317 F48L①② アノ ワルイデスケドネー キュービョーニンガ
デキマシタカラ センセー オネガイ デキルデショウカ キテ イタダ
ケインデスカド
- 318 F60M①② センセー スミマセンケド コキンゾノ カガガ
キュービョーデ オコマリニ ナッテイマスカラ コムリデショウガ
スガ キテ イタダケナイデショウカ
- 320 F17L②③ スミマセン, キンゾノ コモデス チョット
オナカガ イソイソダカラ スガ キテ クレマスカ
- 321 M33M②② スイマセンガ キュービョーニンデスカド スガ
キテ モラエマスカ
- 323 F21M②③ センセー キュービョーニンデスノチ オネガイ
シマス
- 324 F23M②③ キュービョーニンデスケド デキルダケ ハヤ
ク キテ クダサイ
- 326 M27H③⑤ センセー スイマセン チョット キューカンナン
ダケド キテ クレム
- 327 F23L①② モーシワケ アリマセン, ウチノ スガ チカクノ
ヒトガ チョット キュービョーニンデスネ モーシワケ ナインデスカ
ドモ スガ キテ イタダケナイデショウカ
- 329 M44M②② チカクニ トツメン キューカンガ デマシタノチ
マコトニ オイワガシイ トコロモ モーシワケ ナク オモウデス
ガ スガ キテ イタダケ ワケニワ イカナンデショウカ
- 330 M75L①① マコトニ サツノリデスガ, ワカクシ ヲイモ
ニチヨメノ コーユー モンデ ゴザイマスガ, スガ オトナリノ ヒ
トガ キュービョーデ イマ チョット, ナニ シテミエルガ マコトニ
ナンダガ スガ ヒトツ ゴンサツガ ネガイトー ゴザイマス
- 331 F57L①② キワノ ヒトガネ ニワカニ ビョーキニ ナリマ
シタカラ スガ キテ イタダケナイデショウカ
- 332 M29H①② センセー カンジヤガ キュービョーデス タイシ
キュー キテ イタダケマセンカ
- 333 M40L②④ イマ ナニナニデ キュービョーニンガ デタデ
ワルイケド スガ キテ クダサイ
- 334 F67L②③ コムンクダサイ, ワカクシ ヲイモクノ キューヂュ
ーロウバンチノ ヨコヤマト モーシマスガ トナリノ オバサンガ
キューニ ビョーキニ ナラレタチ センセー スガ オーシシ シテ
モラエナンデショウカネ
- 335 F27M②③ コーユー ショウキイデ アレルガ スゴク タイ
ヘンダカラ モーシワケ ナイケレド タイシキュー キテ クダサイ
- 337 M51L②④ トナリノ ヒトガ チョーシガ ワルイカラ スガ
キテ クダサイ
- 338 F40L②④ センセー タイシキュー トナリノ カガガ ネツ

- オ シテルカラ キテ クダサイ
- 339 M74L②③ ビョーニンガ キュービョーヂスカラ スグニ テ
ハイ シテ キテ クダサイ
- 341 F15L①① スミマセンガ キンゾノ ヒトガ キュービョー
ナノデ キテ イダダクマセンデショウカ
- 342 M35M②③ キンキューノ カンヂヤガ テキマシクノデ スグ
キテ クレマセンカ、オネガイ シマス
- 345 M26L①② スミマセンケド キューカンヂスカド シキュー
キテ イダダクマスカ
- 347 F62M①② キュービョーニンヂスカド マコトニ オソレイリス
スガ スグ オーシン シテ イダダクマスカ
- 348 M19M②③ キュービョーニンガ テクンヂスカドモ スグ キ
テ モリエマスカ
- 350 F37M①② アノー トナリノ ヒトガ キュービョーニ ナツ
クカラ、スミマセンケド スグ キテ イダダクナイデショウカ
- 351 F49L②④ キューカンヂ クルシンヂルカラ センセー スグ
キテ イダダキタイ
- 353 F22L①② センセー トナリノ オバサンガ キューニ ビョ
ーキニ ナツチャツテ、オネガイ シマス、スグ キテ イダダクマスカ
- 354 F31M①② トナリノ カタガ ビョーキヂスカラ オーシン
シテ イダダクマセンカ
- 355 M37M②③ センセー スイマセンガ、赤ノ ウチノ トナリ
ノ ヒトガ キュービョーヂス スグ キテ クダサイ
- 356 M31H①② ウチノ トナリノ オクサンガ キュービョーナン
ヂ イソイデ キテ イダダキクインヂスカ
- 357 F23L②③ キュービョーニンガ テマシクノデ スグ キテ
モリエマセンカ
- 358 M34L②③ センセー、トナリノ ヒトガ キュービョーヂスデ
スグ オーシンニ、キテ クダサイ
- 359 F45H①② アノー トコロウ ココナンヂスカド ジウツ コ
ーユー フーニ ナツテ イマ ビョーニンガ テキマシクカラ スグニ
キテ イダダクナイデショウカ
- 360 F74L①② キンゾノ ヒトガ コーコーチ ワルイカラ ア
ノー マコトニ モーシカネガ、キテ ミテ イダダクンデショウカ
- 361 F68L①② アノー トナリノ オジサンガ キュービョーヂス
デ マコトニ ツウモンチ スミマセンケレドモ キテ イダダクンデシ
ョウカ
- 362 M32L①② キンゾノ ヒトナンヂスカドモ キューカン ト
ニカク キューカンヂ、ココチ コツカイン ナットルツ ユー フ
ーニ ウカガイマシクカラ、アノー センセー ヒトリノ カタヂスカラ
キテ イダダクマセンカ
- 363 M54L①② スミマセンケド キンゾノニ キュービョーニンガ
テマシクデ センセー マー ダイシキュー ヒトウ キテ イダダ
クンデショウカ
- 365 F55H②④ オネガイ シタイ キュービョーニンガ アツテ

- タノマレマシクカラ スグ オネガイ シタイ
- 366 F61L①② ワクシウ ダイリノ モンヂ コシマスガ ド
コドコノ ドユー カタガ キュービョーヂ コシマスノデ イソ
イデ オネガイ シタイト オモイマスガ
- 367 M42L①② アノー コンバンウ、アノー ジウツ、ワタシノ
トナリノ ウチガ キュービョーニンガ テキマシテ、ヒトガ コレナイ
ノデ ダイリチ キンヂスカガ、センセー キテ イダダクマセンカ
- 368 M47M③⑤ キンゾノニ キュービョーナ ヒトガ オルカラ
スグ キテ モリエンカ
- 369 F47L②③ アノー 鬼レダレガ キュービョーナンヂスカド
セヒニ オネガイ シマス
- 374 F23M②③ キュービョーナンヂスカド スグ キテ クダサイ
- 375 F21L①③ キュービョーガ テマシクカラ スグ キテ イ
ダクナイデショウカ
- 377 F28M②② スミマセンガ トナリノ ヒトガ キュービョーヂ
スカラ ミテ モリエマセンカ
- 378 F56M①② ヤブノ オウカ スミマセン トナリノ カタガ
キュービョーヂ コマツテオハレマスノデ スグ オーシン シテ イ
ダダキタイト オモイマス テモ トコロガ ワカフナイト コマリマスカ
ラ ワクシウガ オトモ シテ ゴアソナイ イクシマス
- 379 M32H②③ スミマセンケド キューカンガ オリマスモンヂ
スグ オーシン ネガイマス
- 380 F75L②③ ウチノ トナリニ キュービョーニンガ アリマス
デ オソレイリスガ スグ キテ クダサイ
- 383 M55L②③ キューカンヂスカラ オーシンニ キテ クダサイ
- 384 F22M②③ オトナリノ 鬼レダレサンガ キュービョーヂスノ
デ オーシン オネガイ シマス
- 387 F54L②④ トナリノ オクサンガ キューニ カラナリノ クア
イノ ワルク ナツテ ウコクナイカラ スグ キテ クダサイ
- 389 F28L②④ トナリノ ヒトガ キュービョーヂカラ チョット
イソイデ モリエマスカネー
- 390 F78L②④ センセー ワタシ イマ センセーニ トコエ ク
ル ミチヂネー コーユーヨーニヒトガ アリマシクドモ センセ
ー イツテ アゲマスカネ
- 392 F69M①③ 鬼レダレサンノ オバーチャンノ オバアガ ワ
ルイデスカラ サツクヂスカガ ゴンサウ オネガイ イクシマス
- 393 F23H①② スミマセンケド トナリノヒトガ チョット
ビョーキチモンヂスカラ オーシン シテ イダダクマスカ
- 395 F38L①② アノ ワクシウ 鬼レダレヂスガ アノ ワクシ
ウノ オトナリノ カタガ キュービョーヂスノデ ゴイッショ シマス
ノデ オーシン シテ イダダクマセンカ
- 396 M65M①② センセー センセー マコトニ ナンガカ ドモ
キンゾウヂ キュービョーガ テキマシクノデ マコトニ モーシクケ
ナイガ スグ オーシンシテ イダダクマセンカ
- 397 M16L②③ スイマセンケド キュービョーニンガ イマスノデ

- ハヤク タノミマス
- 399 F21M②③ キュービョーニツガ テタンデスケド、スイマセン
ケド ハヤク キテ クダサイ
- 401 F66L②③ アノ、ゴアンナイ シマスデ スグ キテ クダサ
イ
- 402 F62M②③ キューカンデスカラ オネガイ シマス
- 404 F47M②③ イマネ。キュービョーニツガ テキテ、スグ キテ
モラエタイデスカド。マツトリスカテ ワクシト イツシヨニ イ
テ クダサイ
- 407 F21M①② スイマセン アノ キュービョーニツガ デマシタ
ノデ スグ キテ イタダケナイデショウカ
- 410 M22H①② キュービョーニツガ チカクテ テタノデ、スグニ
キテ イタダケマセンカ
- 411 M16M②③ アノ キュービョーニツガデスカド スグ キテ
モラエマセンカ
- 413 F55L①② マコトニ スミマセンケド オトナリノ カガ
ビョーキチネー、ナトカ ヴゴー シテ キテ イタダケナイデショウ
カ
- 414 M45L①② マコトニ オノノガシノニ オルレリマスケド
モ ワタシノ スグ トナリノ ヤマザンガ ジツウ キュービョーデ
ヒジョーニ クルシツミエマス。オルレリマスガ スグ オーシ
ン オ シテ イタダケナイデショウカ
- 417 M49L②④ センセー ジツウ トナリノ ナカネツガ ビョ
ーキチカラ スグニ オネガイ シマス
- 418 F28M①② アノ スミマセンデスカド、アノ キューカンナン
デスカド。ワタクシ ホーエ キテ イタダケナイデスカド。ヤブ
オルレリマスケド
- 419 F34M①② キュービョーニツガ デマシタカラ スグ ミテ
イタダケナイデショウカ
- 420 F33L③⑤ キュービョーデテ ハヤク キテ モラエル
- 423 F65L①② アノ ウチノネ、オトナリノ カガガ イマ キ
ュービョーデスカラ、スグニ キテ イタダケマセンカ
- 426 F33L①② スミマセン、アノ キュービョーノ ヒトガ オ
リマスカラ オノノガシデスカド チョット キテ イタダケナイデ
ショウカ
- 428 F22H②③ チカクノ ヒトガ キュービョーナンデスカド、ス
グ キテ クダサイ
- 429 M42L②② スミマセンガ キンゾノ ヒトガ ビョーキチデ
マコトニ スミマセンガ ダイシキュー キテ モラエデショウカ。
オネガイ シマス
- 431 F25H①③ センセー キンゾノ カガガ キュービョーナン
デ スグ キテ イタダケマスカ
- 432 M35M②④ センセー、キューカンナンデスカド スグ キテ モ
ラエマスカ
- 434 F25L②③ スミマセン、キンゾノ ヒトガ ビョーキチカラ
スグ キテ クダサイ
- 435 F19H②④ センセー、アノ、チカクノ ヒト、キュービョーナ
ノデ、スグ キテ クダサイ
- 436 F69L②③ オトナリノ、オウガイガ ワルイデ センセー、
ゴムリオ モーシマスケド、ハヤク トコ オネガイ シマス
- 438 F34L②② キューカンデスカラ、スミマセン、センセー、オノ
レリマスケド、オネガイ シマス
- 439 M20M②③ センセー タイヘンナンデス。トナリノ ヒトガ
キュービョーデ イマ クルシツミエリマス。ダイシキュー シンザツ
ニ キテ クダサイ
- 440 F74L①① スミマセンデスカドモ、キュービョーニツガ。ス
グ オネガイ デキマセンデスカ
- 441 F31L②③ トナリノ コドモ イライ ネットオ デシテル
カラ トニカク イチド ミテ クダサイ。オネガイ シマス
- 443 M18L②② アノー スミマセンケドモ トナリノ ヒトガ キ
ュービョーデスカラ スグ キテ モラエマスカ
- 444 F22M②③ キンゾノ ヒトガ キュービョーナンデスカドモ
シキュー ライシツ オネガイ シタインデスカ
- 447 F20H②③ トナリノ ヒトガ タクシツミエスカドモ スグニ
キテ モラエナイデスカ
- 449 M49M③⑤ カンゾノ ジョータイガ ワルイカラ スグ キ
テ モラエマカネ
- 450 F19M①② キュービョーニツガ デマシタノデ スグ カクツ
ケテ イタダケナイデショウカ
- 452 M59L①② アノー ワタシノ トナリノ ウチザンガ モー
チョーテ クルシツミエマスカラ オノノガシケド、キテ イタダケ
ナイデスカ
- 453 F15M①③ キュービョーニツガ デマシタケド スグ キテ
イタダケマセンカ
- 454 M19M②③ キュービョーナンデス。トニカク ハヤク キテ
クダサイ
- 455 F34M①① スミマセンガ トナリノ ダレダレツガ キュー
ビョーニ ナリマシタノデ オラスデショウガ スグニ キテ モラエ
マセンデショウカ
- 456 F16M②③ キュービョーニツガデスカド スグ キテ モラ
エマスカ
- 458 M31L②③ スミマセンガ、キュービョーデスモンデ オネガイ
シタインデスカ
- 459 F17M①② スミマセンケド、トナリノ ヒトガ ビョーキナ
ノデ、スグ キテ イタダケマセンカ
- 462 M23M②③ キュービョーデスカラ スグ キテ モラエマセン
カ
- 463 M58M②③ トナリデ キュービョーニツガ デマシタ。ダイシ
キュー キテ クダサイ。マツトリスカ。ゴウゴーナラ イツシヨニ
クルマニ ノツイキマシヨ

- 464 M74L②④ ジツワ コーユー ワケカタ ナントカ シテモ
イナガクテモ オネガイ シマス
- 466 F32M①② ドコロノ ウチカラ クノメクンデスケド キ
ュービョーニンデスナチ オーシン オネガイ テキナイデショウカ
- 467 F61M①② センヒョー オインガシノニ オラスチ コシイ
マスケド、キンゾウニ キュービョーニンガ コイマスナチ、オノレリ
マスケド チョット コソクロー ネガイケンデスケド
- 468 M36L②④ キュービョーニンガ テキナナチ スグ キテ ク
ダシイ
- 470 M38H②④ チカノ カガノ アノ キュービョーガカラ
スグニ キテ ホシイ、カクマチ キリカカラ イッショニ ノツナリ
スグニ トニカク イッショニ キテ クダシイ
- 471 F32L①① ジツワ、コーユー ワケチ トナリノ カガノ コ
ーユー ジョークイデスカラ オノレリマスケド スグニ キテ イ
クダマセンデショウカ
- 473 M19M②② スミマセンケド キュービョーデスナチ スグ キ
テ モラエナイデショウカ
- 474 M20M②② ア、スミマセン キュービョーニンガ イルンデス
ケド チョット オーシン キテ モラエマセンカ
- 476 M19M②④ トナリノ ヒトガ キュービョーニ ナツクナチ
シキュー オーシン ネガイマス
- 477 M25H②③ スミマセンケドモ、キュービョーニンガ テラオカ
ンデスケド、チョット キテ クレマセンカ
- 479 M15L②④ チョット、キンゾウノ ヒトガ キューナナチ ハ
ヤク キテ クダシイ
- 480 M16M②④ アノヒトガ キュービョーナナチ スグ キテ
モラエナイデショウカ
- 481 F63L①② キュービョーガ テキマシクテ オラスデスケド
モ ツイデニ キテ イクダケマスカ
- 482 M29M①① スミマセン、キンゾウノ ヒトガ キュービョーデ
スカラ スグ キテ イクダケマセンデショウカ
- 483 M34H①② ジツワ げんげんガ ビョーキチ ウチマデ
オーシンニ キテ イクダケキタイ オモイマス
- 485 F49L①② マコト オノレリマスケド トナリデネ、キュー
ビョーガ テキマシクナチ オノレリマスケド ハヤク キテ イク
ダケキタイ
- 486 M43L②② マコト オノレリマスケド ワクシノ ウチノ
キンゾウチ キュービョーニンガ テマシクテ センヒョー ワルイケド
オーシンニ スグ キテ モラエナイデショウカ
- 487 F29L①② キンゾウノ シトニ クノメクンデスケド、スグ
キテ イクダケナイデショウカ
- 488 M68L①② ナツノ スイマセンガ トナリノ モノガ クルシ
ンテイカカラ サツク キテ オネガイ テキマセンカ
- 489 M29L③⑤ チョット ホノ ビョーニンガ シニゾーデ
キテ クレ

- 490 F50L①② センヒョー ワルイデスカド ウチノ キンゾウノ
ヒトガ オノレリマケ オノレリマスケ スグ キテ イクダケマセンカ
- 491 M28M②② ア、センヒョー モーシク アリマセン ヒトツ
キュービョーニンナチ ヒトツ ヨロシク オネガイ シマス
- 492 F27L②④ キュービョーデハ ハヤク キテ クレ、ハヤク
キテ クダシイ
- 494 F15L②④ キュービョーニンガ テキナチ、ハヤク シンザツ
シテ モラエマセンカ
- 495 F49L①③ イマ オトナリチ キュービョーニンガ テキクン
ダケドモ スグ キテ イクダケマスカ
- 496 F38L①② ア、スイマセンケドモ アノ ウチノ キンゾウ
ノ カガノ キューニ オナカガ イタイッテ モーシテオリマシケン
チ、ヨソノ オイシヤクンニモ キイミマシクダキテ イクダケナ
イデ スイマセンガ スグニ キテ イクダケマスカ
- 497 F21M②③ ワクシ ドコロノ モノデスケド シキュー オ
ーシン オネガイ シクイデスケド、オネガイ シマス
- 498 F50L②② トナリノ カガノ クルシンデミマスカラ ス
グ キテ イクダケキタイデスガ
- 500 F46L①② マコト スイマセンガ キュービョーニンデスノ
チ、ワクシノ トナリマデ イソイデ キテ イクダケマセンカ
- 503 M21L②② アノ チョット キンゾウノ モノガ キュービョ
ーナナチ、チョット イソガシイ トコロ スイマセンガ オーシンオ
ネガイ シマス
- 504 M17M②④ アノ、ハヤク キテ クダシイ、チョット クノメ
クダカラ
- 506 F41L②③ アノ、スイマセン キュービョーニンデスカラ
スグ キテ クダシイ、オネガイ シマス
- 507 M41L③⑤ キュービョーニンガ テキナチ タイシキュー キ
テ オーシンオ クノメチ
- 508 M23L①② スイマセン キュービョーニンデスケド スグ キ
テ イクダケマスカ
- 509 F30L①② マー ジツワ チカクノ カガノ キュービョーデ
クルシンデカカラ スグ キテ イクダケナイデショウカ
- 510 F18M②③ キュービョーナンデスケド スグニ キテ クダシ
イ
- 512 F17M②③ スイマセン アノ…… ビョーニンガ テマシク
ナチ スグ キテ クダシイ
- 513 F35M①③ キンゾウノ カガノ キュービョーナンデスケド
タイシキュー オネガイ イクシマス
- 514 F28L①② イノ キンゾウノ カガノ キュービョーデスノ
チ スイマセンケド イチド オーシン シテ ミテ イクダケマセンカ
- 515 F53L②③ マコト オノレリマスケド コキンゾウノ カガ
ノ キューカンデスカラ…… スグニ キテ クダシイ
- 516 M38L②③ センヒョー、キュービョーガ テキマシクナチ、イ
チド シンザツオ シテ イクダケキタイ

- 517 M59M①② オノガシイ トコロ スイマセンガ キュービョ
-ニシガ デマシタナシ キキュー キテ イタダキナイデショウカ
- 518 F42L②③ センセー、キュービョーデネ、オトナリシガ コ
マツテイルンデス。オネガイ シマス
- 519 F30M①② オトナリ ナニニガシガ コーエー ショーゾ
ョーデスグレド タイシキユー キテ ミテ イタダキタイト オモイマ
ス
- 522 F46L②③ スイマセン キュービョーダカラ センセー スガ
オネガイ シマス
- 525 M36L②③ キュービョーニンデスカラ、スガ キテ イタダ
クヨニ
- 527 F25L①③ キュービョーニンナンデスケド スガ キテ イ
タダマセンカ
- 528 M41M②③ センセー ワタシノ トナリノ ヤマシヤンノ
オゾーチャンガ コーエー ジョーキョーデ ナニニニ ナツカ カ
クノ カク フーデモ ソノ センセーマデ コレナイ ワタシニ
イツキテ クレト イツゴフツク アノー カケツケテキマシクデ
センセー 疋ヒ タスケテ ヤツテ クダサイ
- 531 M26L③⑤ スイマセン、チカクニ キュービョーニシガ イル
ナシ スガ キテ モラエハン
- 533 M48L①② キュービョーニシガ テキマシタナシ スガ キテ
イタダキナイデスカ
- 534 F18M②③ ウチノ キンゾノ ヒトガ キューカンデスナシ
スガ キテ クダサイ
- 537 M35M②④ キュービョーニシガ スガ キテ クダサイ
- 539 M24H②③ チョット キュービョーニシガ テキマシタケド
イノイデ ミニ キテ モラエマセンカ
- 540 M72L②② アノー センセー マコトニ トツセンデ モーシ
ワケ ナイダケド チョット キンゾヨチ キュービョーニシガ テキ
カラ、タイシキユー オネガイ シマス
- 542 M51L①② ワタシ トナリガミノ モンデスガ ジツワ トナ
リノ ヒトニ タノマレテ キュービョーニ ナリマシタナシ、オーシ
ンシテ イタダキナイデショウカ
- 543 M55L②⑤ 丸ダレシヤンガ キュービョーダチ キテ イタ
ダキサイ
- 545 M46H①① キューカンテ コザイマケド、……ナニマデノ
トコロデ コザイマスガ、センセー オソレイリマスガ、スガ キテ イ
タダキナイデ コザイマシヨウカ
- 546 F36L①② センセー スイマセンケド キンゾノ カカガ
キュービョーナンデス 疋ヒ キテ イタダキタインデス、オネガイ シ
マス
- 548 F51H①② フーエー ジョーデ キュービョーデ クルシ
ンチオレマスカラ スミマセンガ キテ イタダキマスカ
- 551 F45H①③ キンゾノ カカガ コナク フーチ イマ ビョ
-キニ カカツテイル イノイデ ミテ クダシヨウニ、疋ヒ オネ
イ イタシマス
- 552 M24M①③ ワタシノ トナリノ カカガ チョット キュービ
ョーデ イノイデ オネガイ テキマセンカ
- 554 F43H②④ ワタシノ トナリノ カカガ キュービョーデ コ
マツテイルカラ スガ キテ イタダキサイ
- 555 F50M①③ ウチノ チカクノ 丸ダレシヤンノ ウチノ カ
ガ キュービョーダカラ キテ イタダキマセンカ
- 557 F31M①⑤ チカクノ カカガ ビョーキダカラ スガ キテ
イタダキタインデスケド
- 558 F49L①② トナリノ 丸ダレシヤンガ キュービョーデスデ
マコトニ オソレイリマスガ スガ キテ イタダキマセンカ
- 561 F22H①② スミマセン、アノー トナリノ カカガ キュービ
ョーデナンデス、ハキク キテ イタダキマセンカ
- 565 M45L②③ トナリノ カカガ キュービョーナンデ キテ イ
タダク ワケニワ イキマセンカ
- 566 F15L①② アノー トナリノ ヒトガ ビョーキニ カカツ
テシマツテ コマツテイルンデスケド スガ キテ イタダキマセンカ
- 567 F21H②③ ワタシノ キンゾノ ヒトニ キュービョーガ
デマシタ。スガニ キテ クダサイ。ミチオ オシエマス。ワタシト イ
ツシヨニ キテ クダサイ
- 568 F28M①② センセー、アノ キュービョーデスナシ スガ キ
テ イタダク コト テキナイデショウカ
- 569 M26L①③ キュービョーニンデスカラ スガ キテ イタダ
キマスカ
- 570 F42M①③ 丸ダレシヤンガ キュービョーデ コマツテ チョ
ット コクノイノーデスデ ワタシガ ツカイニ キマシタケド オネ
ガイ テキマスカ
- 572 F29L①① スミマセンケド、オトナリノ ウチノ オコガ チ
ョット ビョーキニ ナリマシタチ、スガ キテ イタダキマセンデシヨ
ウカ
- 575 M17M①① チカクノ ヒトガ キュービョーナンデス。スガ キ
テ イタダキマセンデシヨウカ
- 576 M26H①② ヒジョーニ クルシンデマスナシ、ナントカ シテ
イタダキマセンカ
- 578 M37M①② チョット キュービョーニシガ テキマシタケド
ミテ イタダキマセンカ
- 579 M43M②② センセー アノー 丸ダレシヤンガ キュービョー
ナンデスケドモ イマ タイハル オソレイリマスケド キテ ミテ モ
ラエマス。オネガイ シマス
- 581 F54M②③ チョット トナリノ カカガ キュービョーデス
カラ センセー スガ キテ クダサイ
- 582 M17M②③ キュービョーニンデス スガ キテ クダサイ
- 583 F61L①② マコトニ オソレイリマスガ センセー キンゾ
ノ カカガ キュービョーナンデスデ スガニ キテ イタダキタイト
オモイマスガ オネガイ イタシマス…… ナントカ オネガイ シマ

入

- 584 F19H②③ スイマセン キューカンナデスケド オネガイ
シマス
- 585 F45L①② キンゾニ キュービョーニンガ テキマシク ス
ク イラシテ イタダケマセンカ
- 586 M36W③⑤ センセー オソレリマスガ アノー トナリノ
カタガ キュービョーダチ タイキキュー オーシン ネガイイ
- 587 F16M②③ キュービョーニンナデスケド スダ オネガイ
シマス
- 588 M33M②③ ワタシ イツモ オセワニ ナツテル アリマス
ケドト トナリノ ヒトガ キュービョーチ コマツテイラッナルモン
デスカラ イッショニ キテ モラエマスカ
- 590 F33M①③ コチラマチ ホンニンガ コレナイノチ スダ キ
テ イタダケナイデショウカ
- 591 F28L②③ ジュータイデスカラ ハヤク キテ クダサイ
- 592 M42L②④ スダ キテ クダサイ
- 593 F36L②③ キュービョーニンガ デマシタカラ オネガイ シ
マス
- 594 F49L①③ アノー トナリノ ヒトガ ビョーキデスカラ タ
イキキュー センセー オネガイ テキマセンカ
- 596 F29M①② トナリノ ムスメサンガ ビョーキデ ソレテ ワ
ルインデスケド スダ キテ イタダケマスカ
- 597 F37M①① アノー クルダレノ トコカラ タノマレテ キタ
ンデスケド キュービョーデスノチ タイキキュー キテ イタダケマセ
ンデショウカ
- 599 F48L①① センセー スミマセンケド オナリニ キュービ
ョーニンガ テキマシタノチ スダ キテ イタダケマセンデショウカ
- 600 F27L①② スミマセンケド キュービョーナリデ スダ キテ
イタダケマセンカ

席ゆずられ (109)

- 002 M49L②④ アリガイイ ツギデ オリマスカラ
- 003 F43L②① アリガトー コザイマス。コノ ツギデ オリマス
テ アリガトー コザイマス
- 005 M26H②③ ケッコウデスヨ モー ツギノ イキデ オリマス
カラ
- 006 M50H②③ ツギデ オリマスカラ ケッコウデスヨ
- 009 F38L②③ ツギデ オリマスカラ イーデス
- 011 F42M②② コンド オリマスカラ ケッコウデスヨ。アリガト
ー コザイマシク
- 012 F44L②③ スミマセン マー イマ スダ オリマスカラ イ
ーデス
- 015 F38L②③ スミマセン イーデスヨ ジキ オリマスカラ
- 017 F56L②③ コノ ツギデ オリマスカラ ケッコウデス

- 018 F39M②② アリガトー コザイマス モー ツギデ オリマス
カラ ケッコウデス
- 020 M68L②③ ドーモ アリガトー ツギノ イキデ オリマスカ
ラ アナタ カケトツテ クダサイ
- 023 F46L②② アリガトー コザイマス ツギノ イキノ オリマ
スカラ ケッコウデス
- 024 F17H②③ コンド オリマスカラ コーイダケテ ケッコウ
デス
- 026 F69L②③ セツカク シンセツニ ソー イッテ クレマスガ
ド コンドノ イキデ オリマスデ ワルケド カケトイテ クレマス
- 027 M22M②③ イーデスヨ、イマ ツギデ オリマスカラ
- 029 F30M②② ドーモ アリガトー コザイマス。セツカクデスガ
ド ツギデ オリマスカラ
- 030 M17L②④ ツギノ イキデ オリマスカラ
- 033 F48M①① アリガトー コザイマスケド スダ ツギノ イキ
デ オリマスカラ ケッコウチ コザイマス。ドーモ オソワリニ ナツ
テ クダサイマセ
- 035 F47M②② アリガトー コザイマス。ワタシ ツギデ オリマ
スデ
- 036 F66L NR
- 038 F43M②③ ドーモ シンセツニ アリガトーサマ。ツギノ
イキデ オリマスノチ ケッコウデス アリガトー
- 039 M41L②④ ツギノ イキダチ ツギニ オリルダチ スダ オ
リルチ アナタ カケトイテ クダサイ
- 041 F47H①① アノ シンセツニ アリガトー コザイマス コ
ノ ツギノ イキデ オリマスノチ ケッコウチ コザイマス
- 042 M20L②③ アー イーデスヨ ツギノ イキデ オリマス
- 043 F63L②③ スダ ソコデ オリマスカラ ケッコウデス
- 045 M19L②③ スダ オリマスカラ ケッコウデス
- 046 F72L②③ ツギノ イキガ チカイノチ スダ オリマスノチ
ドーモ カケトツテ クダサイ
- 047 F40L②③ ツギノ イキチ モー オリマスカラ ケッコウチ
ス
- 048 M61L②④ スダ オリルデ、アリガトー
- 050 F67W②② スダ オリマスカラ ケッコウデス アリガトー
コザイマシク
- 052 F58H②② セツカク カワツテ イタダキマシテモ スダ オ
リマスカラ、シンセツニ アリガトー コザイマス
- 053 F33M②③ ドーモ アリガトー、デモ ツギデ オリマスカラ、
ドーモ
- 054 M60M②② ドーモ スイマセン アリガトー コザイマスガ
モー ツギノ イキデ オリマスカラ
- 056 F26H②③ ツギノ イキデ オリマスノチ、ケッコウデス
- 057 M36W②③ アリガトー スダ ツギノ イキデ オリマスカラ
ケッコウデスヨ

- 059 M24H②③ モー スグ オリヌスカラ イーヂス
 060 M22L②③ アー ツギノ イキチ オリヌスカラ ケッコーヂス
 063 F25L②③ トーモ アリガトー。スグ オリヌスカラ イーヂスヨ
 トーノ カケテイテ クダサイ
 065 F30L②③ アノ セツカケテスグダ ツギチ オリヌスカラ
 ケッコーヂス
 066 F38M②③ シンセツニ アリガトーネー チモ コノ コウ
 コノ下 オリヌスカラ タタセテ クダサイ
 068 F36L②② アノー コノ下 スグ オリヌスカラ モー ケッ
 コーヂス。アリガトー コシイマシタ
 069 M29M②③ モー スグ オリヌスカラ ケッコーヂスヨ。トー
 モー アリガトー
 071 M52L②② イヤ ワタシヤー ツギノ イキチ オリヌスチ,
 マー トーノ
 073 F23M②③ ツギチ オリヌスチ。ケッコーヂス
 074 M28H②③ スグ オリヌスカラ トーノ コエリヨ ナク
 カケテテ クダサイ
 075 F34H②② アリガトー コシイマス。ツギノ イキチ オリヌ
 スカラ トーノ カケトツテ クダサイ
 077 F39L②④ モー スグ オリヌスカラ イーヂス
 078 F30L②③ コノ下 ノバステーチ オリヌスチスカラ ケッコ
 ーヂス
 080 M18M②③ ツギ モー オリヌスチケッコーヂスカラ ス
 ワツテイテ クダサイ
 084 M47H②③ アリガトー。セツカケテスグダレドモ、ツギノ イキ
 チ オリヌスカラ
 086 F27L②③ アー ケッコーヂス。アノ ツギノ イキチ オリ
 マスカラ。トーモ アリガトー
 087 M25M②③ トーモ アリガトー。スグ オリヌスカラ イーヂ
 スグ
 089 M42H②② トーモ アリガトー マー ツギノ イキチ オリ
 マスチ トーモ アリガトー コシイマシタ
 090 F16M②③ ツギノ イキチ オリヌスカラ イーヂス
 091 M61L①① アノ タイヘン キョーシユクテスガ アリガトー
 コシイマシタ。ツギチ オリヌスカラ アリガトー コシイマス
 092 F17M②② トーモ アリガトー コシイマス チモ ツギチ
 オリヌスカラ
 093 F69L①① スグ ヲコヂスチ ヨー コシイマス
 095 F18L②③ ツギチ オリヌスカラ ヨロシイヂス アリガトー
 096 M28L②③ モー ジキニ オリヌスカラ イーヂス
 097 M39M②③ モー ジキ オリヌスチ ヨロシイヂス
 098 F37L②③ ジキ オリヌスカラ イーヂスヨ
 099 M46L②④ モー スグダチ ヨロシイヂス
 100 M16M②③ イェ スグ オリヌスチケッコーヂス

- 101 M33M②③ ツギチ オリヌスカラ ヨロシイヂス トーノ
 102 F16M②④ ツギチ オリヌスカラ ケッコーヂス
 104 M27M②② アー トーモ アリガトー コシイマス チモ ツ
 キニ スグ オリヌスカラ トーノ スワツツテテ クダサイ
 105 F30L②② セツカケテスグダ コノ下 オリヌスカラ アリガ
 トー コシイマス
 107 F18M②③ コノ ツギノ ノバステーチ オリヌスカラ ケッコ
 ーヂス
 108 M25M②③ アノ スグ オリヌスチ イーヂスヨ
 110 F15L②③ モー ツギチ オリヌスカラ スワツツテテ クダ
 サイ
 111 M34H②② アー トーモ アリガトー コシイマス ツギ オリ
 マスチ トーノ ソノマ オカケ クダサイ
 113 M28M②③ ツギチ オリヌスカラ ケッコーヂス
 116 M26M②③ トーモ アリガトー チモ ツギニ オリヌスカラ
 ケッコーヂス
 117 F31L②② セツカケテスグダ モー コノ下 オリヌスカラ
 ワザワザ スミマセンデシク
 120 M59L②③ ソノヤ トーモ アリガトー スミマセン コノ
 ツギ オリヌスカラ トーノ ソノマニ シテオツテテ クダサイ
 122 M56M②② ア、ガクセサン アリガトー コシイマス コノ
 コモ ワタシモ ツギノ イキチ オリヌスチ トーノ コエリ
 ヨ ナク コシカケテ クダサイ スグ オリヌスカラ
 123 F18M②③ ツギチ オリヌスカラ ケッコーヂス トーモ ス
 ミマセン
 125 M25H②③ トーモ スミマセン 赤クチツ ツギノ イキチ
 オリヌスカラ イーヂス
 126 M24L②④ マ、ソノ サキチ オリヌチ ワルケン アリガ
 トー
 127 M28M②④ イヤイヤ ツギニ オリヌチケッコーヂス
 128 F25M②③ アリガトー チモ ツギニ オリヌスカラ ケッコ
 ーヂス
 129 M22M②③ モーシワケ ナインヂスガ ツギチ オリヌスチ
 130 F36L②③ スグ オリヌスカラ ケッコーヂス
 132 F65L②③ モー スグ オリヌスチケッコーヂス
 134 M73L②③ ワタシワ スグ オリヌスカラ モー カケンチモ
 イーヂ アリガトー コシイマス
 135 F38L②⑤ アー オニチヤン トーモ アリガトーネー コノ
 スグ ツギノ イキチ オリヌカダ
 137 F57L①① アノ、セツカケテ アリガトー コシイマス、セツ
 カケテスグダ コノ下ノ イキチ オリヌスカラ ケッコーヂ コシイ
 マス トーノ オスワリ クダサイ
 138 F37L②③ ツギチ オリヌスカラ ケッコーヂス
 139 M71L②② シンセツニ アリガトー モー コノ ツギチ
 オリヌスチスカラ トーノ アリガトー コシイマシタ

- 140 F74L②③ ジキニ オリルカラ イーデスヨ スガダチ ケツ
コーデス
- 141 M22M②② ドーモ アリガトー コザイマス ワタシワ ツギ
ノ イキチ オリマスカラ ドーソ スワツテ クダサイ
- 143 M53H②③ セッカケテスド ツギノ イキチ オリマスノチ
ケッコーデス ドーモ
- 144 M17M②③ アー アリガトー ケッコーデス ツギー オリマ
スカラ
- 146 F35M②② アー ツギチ オリマス ドーモ アリガトーサマ
- 147 F30M②③ スミマセン スガ オリマスデ イーデス… ア
リガトー
- 149 F40L②③ スガ オリマスチ ケッコーデス
- 150 F67L②③ ツギノ イキチ オリマスカラニ エーデスヨ
- 151 M68L①① アー ドーモ シンセツニ マコトニ ドーモ
スイマセン ドーモ アリガトー コザイマス ワタクシモ スガ コノ
ツギノ イキチ アシヤ イタシマスルナデ ケッコーチ コザイマス
チ ドーソ ソノママ オカケ ネガトツテ クダサイ
- 152 M28M②③ イヤ ツギ スガ オリマスカラ ドーソ スワツ
テ クダサイ
- 153 M32M②② スガ ツギノ イキチ オリマスカラ ケッコーチ
ス アリガトー コザイマシタ
- 155 F47L②② アリガトー コザイマス ナモ ツギニ オリマス
カラ
- 156 F73L②④ ジキニ オリルデスカラ。ドーソ
- 158 M25L②③ ツギニ オリマスカラ ドーソ スワツテ クダサ
イ
- 159 F20L②③ ツギノ イキチ オリマスカラ ケッコーデス
- 161 F61L②② アリガトー コザイマス ツギノ イキチ オリマ
ス
- 162 F20H②③ コノ ツギノ イキチ オリマスカラ ケッコーチ
ス
- 164 M42L②③ ワタシワ スガ オリマスカラ ドーモ スミマセン
ン
- 165 M16M②④ ツギ オリマスナデ
- 168 F62L②② セッカケチ コザイマスド ツギチ オリマスチ
- 171 F23L②③ ケッコーデスヨ ツギチ オリマスチ
- 173 F44L②④ ドーモ アリガトー ツギチ オルチ ケッコー
デス
- 174 F61L②③ モー スガ オリマスカラ ドーソ オカマイ ナ
ク
- 176 M21L②③ ツギノ イキチ オリマスカラ ケッコーデス
- 177 F24M②③ モー ツギノ イキチ オリマスカラ イーデス
- 179 F74L③⑤ キノクダガ イマニ オリルダチ
- 180 M45L①① アリガトー コザイマス ワタクシドモ コノ
ツギノ イキチ オリマスナデ ドーソ オカケニ ナツテイテ クダサ

イ

- 182 F32M②③ ツギチ オリマスカラ ケッコーデスヨ
- 183 F23M②② アー ドーモ アリガトー コザイマス ナモ ヨロ
シーンデスヨ ツギノ イキチ モー オリマスカラ
- 184 F49M②② スミマセン セッカケテスド ツギ オリマスカ
ラ アリガトー コザイマシタ
- 185 F32M①① マー ドーモ アリガトー コザイマス ツギノ
イキチ オリマスモデスカラ ケッコーチ コザイマスレド ドーモ
スミマセン
- 186 F33M②③ ドーモ スイマセン スガ オリマスカラ。ツギチ
スガ オリマスカラ
- 188 M65L①② ヤ、マコトニ オリルイマス、デスガ、ワタクシ
ワ ツギノ テーリュージョチ、オリマスカラ マコトニ シンセツワ
アリガトー コザイマスルガ、オキモチダケ イダチキマス
- 189 F26L②③ ツギニ オリマスナデ ケッコーデス
- 191 M25L②② アリガトー コザイマス ツギノ イキチ オリマ
スチ ドーモ スミマセン
- 192 F16M②④ ケッコーデス
- 194 F20M②② アッ ドーモ スミマセン アリガトー コザイマ
ス モー スガ コノ ツギノ バスチチ オリマスナデ ケッコー
デスカラ オスリ クダサイ
- 195 M44M②③ シンセツニ アリガトー、コンド オリマスカラ
ドーソ カケテ クダサイ
- 197 M72L②④ マー イマ スガ オリマスチ
- 198 F15M②③ ツギノ イキチ オリマスカラ、ドーソ スワツテ
テ クダサイ
- 199 F40M②② ドーモ スミマセン セッカケテスド ツギノ
イキチ オリマスナデ アリガトー コザイマシタ
- 200 F18M②③ コノ ツギチ オリマスカラ ケッコーデス
- 201 M29M②③ アー スミマセン ツギチ スガ オリマスナデ
- 202 F70L①① ドーモ スミマセンチ コザイマス ドーモ アリ
ガトー コザイマス シンセツニ ドーモ アリガトー コザイマシタ
- 203 F49L②② ドーモ シンセツニ スミマセンガ ワタクシチ
スガ オリルモデスカラ ドーソ シンハイ ナク アリガトー
コザイマシタ
- 204 M60L②② アリガトー コザイマス スガ ツギノ イキチ
オリマスカラ ドーソ シンハイ ナラナクテ…
- 205 F65L②① アリガトー コザイマスガ ワタクシ コノ スガ
ツギチ オリマスカラ ドーモ アリガトー コザイマシタ
- 206 M64L②② アリガトー コザイマス セッカケテスドモ ツ
ギノ イキチ オリマスチ
- 207 F49M②③ ケッコーデス。ツギチ オリマスカラ
- 209 F15L②③ アリガトー セッカケテスガ ツギノ イキチ オ
リマスナデ イーデス スミマセン
- 210 F23L②④ スガ オリマスカラ

- 212 F23H②② アリガトー ご旨イマス。ツギノ エキチ オリ
スナテ ドーゾ、ソノマ オスワリ クダサイ
- 213 F31L②① アー ドーモ アリガトー ご旨イマス スガ ツ
ギノ エキチ オリマスナテ ケッコーデス ドーモ スミマセンデシタ
- 215 M41L②③ ツギノ エキチ オリマスカラ ヨロシイデス
- 216 F26M②③ ツギノ エキチ オリマスナテ ドーゾ カゲテイ
テ クダサイ
- 218 F58L②③ ヒツカケデスケレド、コノ ツギノ エキチ オリ
マスカラ、ドーゾ
- 219 M49L②④ ヒツカケケレド スガ ツギチ オリシ ナランデ
トシヨリ カタニ エズッテ アゲテ クダサイ
- 220 M41M②③ ア ツギニ オリマスデ ケッコーデスヨ。スガ
オリマスカラ ケッコーデスヨ
- 221 M56M②② ヒツカクノ オココロサシク アリガタイデスガ
ツギノ エキチ オリル コトニ ナツテオリマスナテ アリガトー ご
旨イマシタ
- 222 F26L②② スミマセンネー アリガトー ご旨イマス。ヒツカ
ケデスケレド ツギ オリマスカラ ケッコーデスヨ
- 223 F63L②③ ジキニ オリマスデ ケッコーデスヨ
- 224 M21L②④ モー ジキ オリルンダカラ、イーデス
- 227 F28M②③ アノー ケッコーデスヨ スガ ツギチ オリマス
ナテ
- 230 F37H②③ ドーモ アリガトー。スガ オリマスカラ ケッコ
ーデス
- 231 M23H③⑤ アリガトー。イーワ、ツギチ オリルカラ
- 233 F25L②③ アノ スガ オリマスカラ イーデス
- 236 M33M②③ アー アリガトー マー ツギニ オリマスデ ケ
ッコーデス
- 237 M38M②② アリガトー ご旨イマス、スガ ツギノ エキチ
オリマスカラ
- 240 M20M②② アリガトー ご旨イマスガ ツギノ エキチ オリ
マスカラ ケッコーデス
- 242 M31M②③ ヒツカケデスケレド ツギノ エキチ オリマスナテ
ケッコーデス。ドーモ アリガトー
- 243 M63L②③ アリガトー スガ ツギ オリマスカラ ケッコ
ーデス
- 245 M52L②③ コンドノ エキチ オリルカラ ヒツカケデスケレド
ケッコーデス
- 246 M23M②③ スガ ツギノ エキチ オリマスカラ ケッコーデ
ス
- 248 M58L②④ ワカシク ツギノ エキチ オリルカラ ケッコ
ーデス
- 249 F42H②③ モー スガデスデ ヨロシイデスガ
- 250 M22H②③ ツギノ エキチ オリマスカラ、ドーゾ、ソノマ
コシカゲテイテ クダサイ
- 251 F36M②② アリガトー ご旨イマス、ヒツカケデスケレド ツギ
チ オリマスナテ、ケッコーデス
- 252 F26M②② アリガトー ご旨イマス デモ ツギ オリマスノ
チ ドーゾ オスワリ クダサイ
- 254 F32L②③ スガ ツギノ エキチ オリマスカラ…… イーデ
ス
- 256 M24H②④ ドーモ アリガトー、ツギチ オリルカラ イーデ
ス
- 258 M34M②③ アリガトー、ツギノ エキチ オリマスカラ
- 260 F33M①② スミマセン ツギノ エキチ オリマスカラ、ドー
モ スミマセンデシタ。ドーゾ オカケン ナツテ クダサイ
- 261 M42L②④ スガ オリルカラ、イーデスヨ
- 262 F47M②③ スガ ツギチ オリマスカラ ヨロシイデス
- 265 M24M②③ ツギチ オリマスカラ ケッコーデス
- 266 F22M②② アリガトー ご旨イマス ツギノ エキチ オリマ
スナテ ケッコーデス
- 267 M39M②② イヤ アノ モー スガ ツギチ オリマスカラ、
ヤ ドーモ アリガトー ご旨イマス、ツギチ オリマス
- 269 M59L②② アリガトー ご旨イマスガ、スガ ツギチ オリマ
スカラ ドーゾ
- 270 F28H①① スミマセン、モー スガ オリマスナテ ケッコ
ーデ ご旨イマス
- 271 M32L②③ ドーモ アリガトー、アノ ツギニ オリマスカラ
ケッコーデス
- 272 F38M①① アリガトー ご旨イマス アノ ツギノ エキチ
オリマスナテ ケッコーデ ご旨イマス
- 273 F27H②② アリガトー ご旨イマス 様ケド ツギノ エキチ
スガ オリマスカラ スワッテイテ クダサイ
- 275 F50L②③ ハ、コノ ツギニ オリマスデ、ケッコーデス
- 276 F22L②③ ツギ オリマスカラ ケッコー。ドーモ アリガト
ー ご旨イマス
- 278 M41L③⑤ ア、ツギニ オリルデ イーヨー
- 279 F60L②② ドーモ アリガトー ご旨イマス
- 281 F38H②③ スガ オリマスカラ ケッコーデス
- 284 F33M①② アリガトー ご旨イマス。スガ ツギチ オリマス
カラ ドーゾ オカケ ナツテツテ クダサイ
- 285 M66M②③ ヒツカク エズッテ クダサイマシタケレドモ ス
ガ ツギノ エキチ オリマスナテ
- 287 F23H②② ドーモ アリガトー ご旨イマス デモ ツギノ
エキチ オリマスナテ
- 288 M47H②④ アリガトー スガ ツギノ エキチ オリルカラ
ケッコーデスヨ
- 290 F41H①② ヒツカケデスケレド ツギチ オリマスカラ ドー
ゾ オカケン ナツテテ クダサイ…… アリガトー ご旨イマス
- 291 F24H②① ドーモ アリガトー ご旨イマス、アノ ツギノ

- イキチ オリマスノチ、アリガトー コシイマシタ
 292 F21H②③ スグ ツギチ オリマスカラ、ケッコーヂス
 293 F22H②③ スグノ イキチ オリマスノチ ケッコーヂス
 294 F19H②③ セツカクヂスケド ツギノ イキチ オリマスカラ
 ケッコーヂス
 296 M33L②④ アー アリガトー ツギチ オリルヂ、ヨロシイヂ
 ス
 297 F48L②② モー コノ ツギ オリマスカラ、アリガトー コ
 シイマス、ケッコーヂス
 299 M35H②③ ツギノ イキチ オリマスカラ、ドーソ スワツテ
 テ クダサイ
 300 F46L②④ オリルカラ モー ケッコーヂスガ
 302 F58L②② アリガトー コシイマス… スグ オリマスチ
 303 F55L②③ アリガト スイマセンケド スグ オリマスカラ
 イーヂスヨ
 305 M33H②③ モー ジキ オリマスノチ、ドモ アリガトー
 ケッコーヂスガ
 306 F37M①① アリガトー コシイマス ツギチ オリマスノチ
 ケッコーヂ コシイマス
 308 M19M②④ モー スグヂスカラ ケッコーヂス
 309 F25H②② セキ エスツテ クダサツツ アリガトー コシイ
 マス テモ ツギノ イキチ オリマスノチ ケッコーヂス
 311 F24M②③ ア ドモ スイマセンヂスケド モー スグ オ
 リマスノチ ソノママチ ケッコーヂス
 312 M33L②④ ツギノ イキチカラ、イーヂスヨ
 314 M34M②③ アノ モー コノ ツギノ イキチスカラ、ツギチ
 オリマスカラ、ドモ モー スワツテ クダサイ ヨロシイヂス
 315 F30M②③ ドモ アリガトー ツギチ オリマスカラ ドモ
 モ アリガトー
 317 F48L②② セツカク エスツテ イクヂイタンヂスケドモ ツ
 ギノ イキチ オリマスカラ ドモ アリガトー コシイマシタ シ
 シンセツニ
 318 F60M①① ドモ アリガトー コシイマスケド ワタシ ス
 グ コノ ツギノ イキチ オリマスカラ カケテ クダサイマセンカ
 シンセツ アリガトー コシイマス
 320 F17L②③ ツギノ イキチ オリマスカラ イーヂスヨ カケ
 テ クダサイ
 321 M33M②③ アリガトー、ワタシタチウ ツギチ オリマスチ
 ケッコーヂス
 323 F21M②③ ドモ アリガトー ツギノ イキチ オリマスノ
 チ ケッコーヂス
 324 F23M②③ スグ オリマスカラ ケッコーヂス
 326 M27H③⑤ アリガトネ ツギノ イキチ スグ オリルカラ
 イーヨ
 327 F23L②③ ドモ、アリガトー、ワルイケド スグ ツギノ

- バステーチ オリマスカラ アリガトー
 329 M44M②③ ワタシ スグ ツギノ イキチ コーシヤ スルノ
 チ セツカク エスツテ クダサランダケドモ ソノ ヒツヨー アリマ
 センノチ
 330 M75L②① ハー、ドモ アリガトー コシイマス セツカク
 タガ ツギチ オリマスンダカラ アリガトー コシイマス
 331 F57L②③ ジキ オリマスカラ、ケッコーヂスヨ
 332 M29H①② アリガトー コシイマス シカシ ツギノ イキチ
 ワタシドモウ オリマスノチ ドモ エックリ オカカニ ナツテイ
 ヅツ クダサイ
 333 M40L②④ コンド スグ ツギノ イキチ オリルヂ ソノマ
 マ スワツツツ クダサイ
 334 F67L①① ワタシヤ モー スグ ニクバカリ オリマスカラ
 ケッコーチ コシイマス シンセツ アリガトー コシイマス
 335 F27M②② ドモ アリガトー コシイマシタ ツギチ オリ
 マスカラ コノママ タタヒツキマス
 337 M51L②③ アノ スグ ツギチ オリマスカラ ケッコーヂス
 338 F40L②③ セツカクヂスケド ツギチ オリマスカラ
 339 M74L②③ ワタシウ スグ オリマスカラネ ドモ
 341 F15L②③ ワタシウ ツギノ テーリユージョウ オリマスノ
 チ ケッコーヂス
 342 M35M②③ ツギ オリマスチ、イーヂス
 345 M26L②③ モー スグヂスカラ イーヂスヨ
 347 F62M②① マコトニ アリガトー コシイマスガ ツギノ イ
 キチ オリマスカラ ドモ アリガトー コシイマス
 348 M19M②③ ドモ アリガトー、ツギノ イキチ オリマスノ
 チ ヨロシイヂス
 350 F37M②④ アノー ツギニ オリマスカラ
 351 F49L②③ マー ツギニ オリマスカラ ケッコーヂス
 353 F22L②② イーヂスヨ スグ オリマスカラ
 354 F31M②③ アリガトー、ツギニ オリマスカラ ケッコーヂス
 355 M37M②③ スイマセン、ツギノ イキチ オリマスノチ、カケ
 トツツ クダサイ
 356 M31H②② ドモ アリガトー コシイマス、セツカクヂスガ
 ツギノ イキチ オリマスノチ ケッコーヂス
 357 F23L②③ スグ オリマスカラ ケッコーヂス
 358 M34L②④ スグ オリルヂ、ケッコーヂス
 359 F45H②② セツカクヂスケド ツギチ オリマスカラ ドモ
 アリガトー コシイマス
 360 F74L②③ ツギノ イキチ オリマスカラ ドモ ソノママ
 チ
 361 F68L②② シンセツニ アリガトー コシイマスケド イマ
 スグ オリマスチ
 362 M32L②③ ツギニ オリマスカラ、ケッコーヂス
 363 M54L②③ ケッコーヂスヨ、スグ オリマスカラ

- 365 F55H②① マコト アリガトー コザイヌケド イマ ス
ヲ ツギノ エキチ オリヌスカラ セツカケテヌケド アリガトー コザ
イマシキネ
- 366 F61L②① コシシセツニ タイムン アリガトー コザイヌ
ガ コノ ツギチ オリヌスナリ アリガトー コザイヌ
- 367 M42L②② コシシセツヲ ドーモ アリガトー、ツギノ エキ
チ オリヌスナリ ドーモ スミマセンデシタ
- 368 M47M②④ スガ オリヌカラ モー ケッコーデス
- 369 F47L②③ オニーチャン、シシセツニ ドーモネー ツギチ
オリヌスカラ ドー
- 374 F23M②③ モー スガ オリヌスナリ ヨロシイデス
- 375 F21L②③ ツギチ オリヌスカラ ケッコーデス
- 377 F28M②③ ツギチ オリヌスカラ ドーモ スミマセン
- 378 F56M①① ドーモ コシシセツニ アリガトー コザイマシタ
デモ ツギノ エキチ ジヤイ イタシヌスカラ ケッコーチ コザイ
ヌス
- 379 M32H②③ セツカケテヌケドモ ツギチ オリヌスカラ ヨロ
シイデス
- 380 F75L②① コシシセツニ アリガトー コザイヌ コノ ツ
ギチ オリヌスナリ ドーモ アリガトー コザイヌ オカケ クダサイ
- 383 M55L②③ スガ ツギノ トコチ オリヌスカラ ケッコーチ
ヌス
- 384 F22M②② アリガトー コザイヌ、デモ ツギニ スガ オ
リヌスナリ ドーモ オカケ クダサイ
- 387 F54L②② コシシセツニ アリガトー コザイヌガ ツギチ
オリヌスカラ ケッコーデス
- 389 F28L②④ アー スガダカラ ヨロシイデスワ
- 390 F78L②③ アノ スガ ソバチ オリヌスカラ アシガ フジ
エーダチ ダマツチ タツツチ ホーガ ラクデスカラ スガニネ ワタ
シ オリヌスナリ コシシセツ アリガタイデスカド、ケッコーデス
- 392 F69M①① コシシセツニ アリガトー コザイヌ。ツギノ
エキチ オリヌスカラ ケッコーチ コザイヌ
- 393 F23H②② アリガトー コザイヌガ ツギノ エキチ オリ
ヌスカラ イーデス ドーモ カケテ クダサイ
- 395 F38L②② アリガトー コザイヌ。ツギノ テーリユーゾウ
チ オリヌスナリ コシシセツニ ドーモ
- 396 M65M②③ アーア ドーモ セツカクノ コーイダチドモ
スガ トナリノ エキチ オリヌスカラ アリガトー アリガトー ドー
モ スミマセン スミマセン
- 397 M18L②③ スイマセンケド ツギノ エキチ オリヌスナリ
- 399 F21M②② ツギノ エキチ オリヌスナリ、ケッコーデス ド
ーモ アリガトー コザイマシタ
- 401 F66L①① アノ、スガ オリヌスナリ ケッコーチ コザイヌ
- 402 F62M②② アリガトー コザイヌケド モー スガ オリ
ヌスカラ

- 404 F47M②③ アー スミマセン。ツギニ オリヌスカラ、ケッコ
ーデス
- 407 F21M②② マー ドーモ スイマセン デモ スガ ツギチ
オリヌスナリ アリガトー コザイマシタ
- 410 M22H②③ アー ケッコーデスゴ。ツギ、スガ オリヌスカラ
- 411 M16M②③ イーデス。ドーモ オカマイナリ。ドーモ ツギノ
エキチ オリヌスカラ
- 413 F55L①① アノー セツカケテヌケド マタ コノ ツギチ
オリヌスカラ ケッコーチ コザイヌ
- 414 M45L②③ アー ドーモ マコトニ アリガトー。セツカク セ
キオ ムツツ イタダイト ヒジヨニ アリガタイデスカガ ツギノ
エキチ オリヌスナリ ドーモ カケテオツチ クダサイ
- 417 M49L③⑤ アー スガニ オリヌカラナリ、モー イーソ
- 418 F28M②③ アー スミマセン。アノ ツギノ エキチ オリヌ
デスカド
- 419 F34M②③ アノー スガ オリヌスカラ ケッコーデス
- 420 F33L②③ モー スガ オリヌスナリ ケッコーデス
- 423 F65L②② アリガトー コザイヌケン、スガ ツギチ オリ
ヌス
- 426 F33L②② アノー ワクシタツチ ツギチ オリヌスカラ ス
ミマセン、ゴーネーニ アリガトー コザイマシタ
- 428 F22H②③ ツギノ エキチ オリヌスカラ、ヨロシイデス
- 429 M42L②③ ドーモ スミマセン。モー スガ オリヌスカラ
ケッコーデス
- 431 F25H②④ ドーモ アリガトー。デモ ツギノ エキチ オリ
ヌカラ イーデスゴ
- 432 M35M②③ アリガトー。アノ ツギチ オリヌスカラ イー
デスゴ
- 434 F25L②③ アー アリガトー コザイヌ。デモ ツギノ エ
キチ オリヌスカラネ
- 435 F19H②③ スガ オリヌスナリ ケッコーデスゴ
- 436 F69L②③ アノー、スガ オリヌスナリ、ヨロシイデス
- 438 F34L②③ モー ヒトツ ムコチ オリヌスカラ ケッコ
ーデス。ドーモ、スガワリ クダサイ
- 439 M20M②③ アー、イーデス イーデス ドーモ スガ オリヌ
スカラ、アタタ ソノマヌ スガワラツチ クダサイ
- 440 F74L②② ムスイデスカガ アリガトー コザイヌスカラ、ツギ
ニ オリヌスカラ、スミマセン
- 441 F31L②③ アノー ツギノ エキチ オリヌスカラ ケッコ
ーデス
- 443 M18L②③ スミマセンケドモ、ツギノ エキチ オリヌスカラ
ヨロシイデス。マコトニ スミマセン
- 444 F22M②② ツギノ エキチ オリヌスカラ アリガトー コザ
イヌケド ヨロシイデス
- 447 F20H①② アリガトー コザイヌ。デモ ツギノ エキチ

- オリマスカラ トー オカケニ ナツテ クダサイ
 449 M49M③⑤ コノ ツギチ オリルヂ ソノママ シトツテ ク
 レ
 450 F19M②③ アー トーモ アリガトー。デモ ツギチ オリ
 マスカラ、ヨロシイデス。アリガトー コザイマス
 452 M59L②② シンセツツスガ、ワタシワ ツギノ イキチ オ
 リマスカラ、ヨロシイデス。アリガトー コザイマス
 453 F15M②③ ツギノ イキチ オリマスカラ ケッコーデス
 454 M19M②③ スグ オリマスカラ。トー
 455 F34M②③ トーモ アリガトー。セツカクデスガ ツギチ オ
 リマスカラ
 456 F16M②② ツギノ イキチ オリマスカラ モー ケッコーデ
 ス
 458 M31L②③ モー コノ ツギチ オリマスカラ ヨロシイデス
 459 F17M②③ ツギノ イキチ オリマスカラ ケッコーデス
 462 M23M②③ アリガトー デモ スグ オリマスカラ イーデス
 ヨ
 463 M58M②② アリガトー コザイマス。モー ツギノ イキチ
 オリマスカラ グレカニ コソツテ アザテ クダサイ
 464 M74L②③ コモモサシガナ、トニカク シンセツニ アケトク
 レルケド ワシワ スグ トナリデ オリマスカラ。トー アンタ オカ
 ケス
 466 F32M②② トーモ アリガトー コザイマス。ツギチ オリ
 マスカラ ケッコーデス
 467 F61M①① セツカクデ コザイマスガ モ スグニ オリマ
 スカラ、ケッコーデ コザイマスカラ
 468 M36L③④ スグ オリルヂ トー
 470 M38H②③ ツギニ オリマスカラ ケッコーデス
 471 F32L②② ジキニ オリマスカラ アリガトー コザイマス
 473 M19M②③ シンセツワ トーモ アリガタイデスカド スグ
 ツギノ イキチ オリマスカラ ケッコーデス
 474 M20M②③ ア、スミマセン トーモ スミマセン、スグ オリ
 マスカラ ケッコーデス
 476 M19M②④ ツギノ バスデーチ オリルヂ ケッコーデス
 477 M25H②③ ツギノ イキチ モー スグ オリマスカラ イー
 デスヨ
 479 M15L②④ モー オリルヂ イーデス
 480 M16M②② トーモ アリガトー コザイマス。ツギノ イキチ
 オリマスカラ トーゾ スワツテイテ クダサイ
 481 F63L②③ スグ ツギチ オリマスカラ ケッコーデス
 482 M29M②③ ツギノ テーリユージョチ オリマスカラ、モ ケ
 ッコーデス アリガトー
 483 M34H②② アー トーモ アリガトー コザイマス デモ ツ
 ギノ イキチ ワカクシ オリマスカラ ケッコーデス
 485 F49L②② アリガトー コザイマス セツカクデスカド スグ

- オリマスカラ
 486 M43L②② トーモ アリガトー コザイマス デモ ワカシ、
 ツギノ イキチ オリマスカラ トーゾ ソノママニ
 487 F29L②③ ツギニ オリマスカラ トーゾ ソノママ
 488 M68L②② シンセツワ アリガタイケドモ ツギニ オリ
 マスカラ、ケッコーデス トーモ アリガトー コザイマス
 489 M29L②④ コンダー オリルヂ イーデス
 490 F50L②③ アノー ツギチ オリマスカラ ケッコーデスデ
 491 M28M②③ ア、ケッコーデス。ツギチ オリマスカラ
 492 F27L②④ スグ オリマスカラ
 494 F15L②③ ツギノ イキチ オリマスカラ ケッコーデス
 495 F49L②③ ツギノ イキチ ワタシワ オリマスカラ、ヨロシ
 イデス
 496 F38L②③ ア、セツカクデシタケド ツギ オリマスカラ
 497 F21M②② アー アリガトー コザイマス ツギチ オリマ
 カラ ケッコーデスカラ
 498 F50L②② アノー スグ ツギチ オリマスカラ ケッコーデ
 ス。シンセツ アリガトー コザイマス
 500 F46L②③ ア、コンド オリマスカラ トーゾ オカマイ ナ
 ク
 503 M21L②③ ツギノ イキチ オリマスカラ イーデス
 504 M17M②④ トーモ アリガトー、オカド モー スグ オリ
 ルヂ ケッコーデス
 506 F41L②③ ア、スミマセン アノー ツギチ オリマスカラ
 507 M41L②④ ツギチ オリルヂ シンセツニ コソツテ モロツ
 タケド モー ケッコーデス
 508 M23L②③ マ、ツギチ オリマスカラ ケッコーデス
 509 F30L②③ モー スグ オリマスカラ、シンセツニ スイマ
 セン
 510 F18M②③ イイ イマ スグ オリマスカラ イーデス、アリ
 ガトー
 512 F17M②③ スイマセン アノ ツギノ イキチ オリマスカラ
 ケッコーデス
 513 F35M②② ツギノ バスデーチ オリマスカラ…… アリガト
 ー コザイマシタ
 514 F28L②③ ツギノ イキチ オリマスカラ、ケッコーデス。ト
 ーモ アリガトー
 515 F53L②③ スイマセンケド スグニ オリマスカラ オソレイ
 リマス
 516 M38L②③ イツチ オリマスカラ、トーモ スイマセン
 517 M59M②② アリガタイケレド ツギチ オリマスカラ アリガ
 トー コザイマス
 518 F42L②③ アタシワ モー スグ オリマスカラ、ケッコーデス
 519 F30M②② アー トーモ アリガトー コザイマス ツギチ
 オリマスカラ、ジキチスカラ、タツテオリマスカラ

- 522 F46L②③ ツギニ オリマスカラ ケッコーヂス
 525 M36L②③ ア、ケッコーヂスノヂ、スグ ツギ オリマスノヂ、
 ソノママ スワッテ イタヂキマス
 527 F25L②③ スグ オリマスカラ セツカクヂスケド、コノママ
 ژی ケッコーヂス
 528 M41M③⑤ ガクセサン アリガトーネー モー ツギヂネー
 オリチヤウカラ アナタ イーカラ スワッテナサイ
 531 M26L②③ ア、イーヂス コノ ツギヂ スグ オリマスカラ
 533 M48L②③ ツギノ エキヂ オリマスカラ ケッコーヂス
 534 F18M②③ アリガタインヂスケド ワクシツ ツギノ エキヂ
 オリマスノヂ
 537 M35M②③ ツギヂ オリマスカラ ケッコーヂス
 539 M24H②③ アノー ツギノ エキヂ オリマスカラ イーヂス
 ヨ
 540 M72L NR
 542 M51L②② ドーモ ゴンシセツニ アリガトサン、ワクシ ス
 グ ツギヂ オリマスカラ ドーモ アリガトー ゴザイマス
 543 M55L②③ アリガトー、スグ オリマスカラ ケッコーヂス
 545 M46H①① ドーモ ゴンシセツニ アリガトー ゴザイマス。
 ツギノ エキヂ オリマスノヂ ケッコーヂ ゴザイマス。ドーソ オス
 ワリ クヂサイ
 546 F36L②③ ドーモ アリガトー スグ ツギヂ オリマスカラ
 548 F51H①① アノー ツギノ エキヂ スグ オリマスカラ ヨ
 ロシユー ゴザイマス
 551 F45H②③ セツカク エスツテ イタヂイタクド コンド ワ
 タシ オリマスカラ ゴンシバイ ナク
 552 M24M②③ マコトニ キョーシユクヂスガ、ワタクシチツ ウ
 キノ エキヂ オリマスカラ ドーソ ドーソ ソノママ オカケ クヂ
 サイ
 554 F43H②③ モー スグ オリマスカラ ケッコーヂス
 555 F50M①① アー、マコトニ ゴンシセツニ アリガトー ゴザ
 イマス ژیモ ツギノ エキヂ オリマスカラ ヨロシユー ゴザイマス
 557 F31M②③ セツカクヂスケドモ ツギノ エキヂ スグ オリ
 マスカラ
 558 F49L②③ ツギ エキニ オリマスヂ ケッコーヂス
 561 F22H②③ ドーモ アリガトー。ツギノ エキヂ オリマスカ
 ラ ドーソ ソノママヂ イテ クヂサイ
 565 M45L②② アー アリガトー ゴザイマス。ツギニ オリマス
 カラ ヨロシイヂス
 566 F15L②② ツギヂ オリマスカラ ケッコーヂス。アリガトー
 ゴザイマシタ
 567 F21H②② ドーモ アリガトー ゴザイマス。ژیモ ツギノ
 エキヂ オリマスノヂ、ソノママ スワッテラシテ クヂサイ
 568 F28M②② アリガトー ゴザイマス。ツギヂ オリマスカラー
 569 M26L②③ ツギヂ オリマスカラ、ドーモ アリガトー

- 570 F42M②② ドーモ アリガトー ゴザイマス。ژیモ モー ウ
 キノ エキヂ オリマスカラ
 572 F29L②② アリガトー ゴザイマシタ。ツギ オリマスカラ
 ドーモ
 575 M17M②③ アー、ツギニ スグ オリマスノヂ、ケッコーヂス
 576 M26H②③ アー イーヂスヨ。スグ オリマスヂ
 578 M37M①① ツギノ エキヂ オリマスカラ、マコトニ ゴンシ
 セツヂスガ、ケッコーヂ ゴザイマス
 579 M43M②③ ドーモ アリガトー、アリガトー。コノ ツギ
 ヂスヂ、モー チカクヂヂ ドーモ アリガタイケド マー コノママ
 タツキマスガ
 581 F54M②② ツギノ エキヂ オリマスカラ ケッコーヂ ゴザ
 イマス。ドーソ スワッテ クヂサイ スミマシヤ
 582 M17M②③ スグ オリマスカラ ドーソ スワッテイテ クヂ
 サイ
 583 F61L②② アリガトー ゴザイマス セツカクヂスケドモ ツ
 キノ エキヂ オリマスカラ ドーソ アナタ カケトイテ クヂサイ
 584 F19H②② アリガトー ゴザイマス ツギヂ オリマスカラ
 585 F45L②② ツギノ エキヂ オリマスカラ、アリガトー ゴザ
 イマシタ
 586 M36M②③ アノー ツギノ エキヂ オリカカラ ケッコーヂ
 スヂ ドーソ スワットイテ クヂサイ
 587 F16M②③ ア、スグ オリマスカラ イーヂス
 588 M33M②① アリガトー ゴザイマス。コンド オリマスノヂ、
 アリガトー ゴザイマス
 590 F33M②② アリガトー ゴザイマス ツギ オリマスカラ ケ
 ヱッコーヂス
 591 F28L②③ スグ オリマスカラ ケッコーヂス
 592 M42L②③ ツギノ エキヂ オリマスノヂ ヨロシイヂス
 593 F36L②③ アノ ケッコーヂス イマ ジキニ オリマスカラ
 594 F49L②③ モー ツギヂ オリマスカラ ヨロシイヂス
 596 F29M②② ドーモ アリガトー ゴザイマス ツギノ エキヂ
 オリマスカラ
 597 F37M②② ア ドーモ オルイリマス セツカク エスツテ
 イタヂイタクヂスケド コンド オリマスノヂ ドーソ ソノママー
 599 F48L①② スミマシヤ ゴンシセツニ ツギヂ オリマスノヂ
 ケッコーヂス ドーソ オカケニ ナツテ クヂサイ
 600 F27L②③ スグ オリマスノヂネー ケッコーヂス

お つ り (110)

- 002 M49L②④ オバサン チガツテマシヤ
 003 F43L②③ アノー チョット スミマシヤケド チョット オ
 ヲリガ チガクヨーヂスケド
 005 M26H②③ スミマシヤガ チョット オウリガ タリナイト

- オモイヌ
- 006 M50H②④ オツリガ タリマセン
- 009 F38L②④ アー オツリガ タリマセンヨ
- 011 F42M③⑤ オツリガ タリナイジヤ ナイ
- 012 F44L①② スミマセンケド モー イッペン オシラベ クダ
サイマセンカ イクラニ ナリマスカ
- 015 F38L③⑤ アー チョット オツリガ タラナイケド
- 017 F56L②④ コンダケチ イーデスカ
- 018 F39M③⑤ コレ チョット タリナイジヤ ナイカシラ
- 020 M68L②④ チョット コノ オツリガ マチガツテヤ シマセン
カ
- 023 F46L②③ コレワ イクラデシタカネ ジヤ コレコレデシヨ
ー
- 024 F17H②③ スイマセンケド オツリガ ケーサンガ アワナイ
ンデスカド
- 026 F69L NR
- 027 M22M②③ ツリセガ チョット タリナイデスカド
- 029 F30M①① イマ イクライクラ イタダキマシタケド オツリ
ガ チョット タリナイヨーデスカド シラベテ イタダキマセンカ
- 030 M17L②④ オツリガ タリナイデスカド
- 033 F48M②③ チョット モー イッペン オツリオ アラタメテ
クダサイ ナンカ カンジョーチガイジヤ ナイデスカ
- 035 F47M②④ アレ、チョット オツリガ チガイヤ シマセンカ
- 036 F66L②④ オツリガ タランデ チョット イッペン シラベ
テ イタダキタイ
- 038 F43M②③ イマ イクライクラノ モノオ カイマシタケド
チョット オツリガ タラナイヨーナナチ ケーサンオ シナオシテ ク
ダサイ
- 039 M41L③⑤ サッキン カツテツクノ カンジョーガ チガット
ツタデネー マー イッペン ヨー シラベテ モラエンカン
- 041 F47H②② イマ イタダキマシタ オツリノ ケーサンガ チ
ガツテオリマシテ イチド シラベテ クダサイ
- 042 M20L③⑤ チョット タランカツタ
- 043 F63L②③ イマ チョット カンジョーガ スコシ タランヨ
ーデスカド チョット シラベテ モラエンデシヨーカネ
- 045 M19L③⑤ ツリガ タランヨ
- 046 F72L②③ オツリガ タリンヨーナ ナキ シマスケド ドー
デシヨーカネ、ケーサン シテ クダサイ
- 047 F40L①② イマ カツタ モノ オイクラデシヨー オツリガ
コレコレデスカド チガツテオリマセンデシヨーカ
- 048 M61L③⑤ チョット マチガワ ヘンカチー
- 050 F67M②③ イマ イタダキマシタガ カンジョー チガツテワ
オリマセンカ
- 052 F58H②④ オツリガ タラナイカウ チョット シラベテ イ
タダキタイ

- 053 F33M②③ イマ オツリガ イタダイクンデスカ、スイマセン
コレ ボジューエン スクナインデスカド
- 054 M60M②④ オツリガ タラナイジヤ ナイデスカ
- 056 F26H②④ イチド カンジョー カカニ シテ クダサイ
- 057 M36M②③ スイマセン、オツリガ マチガツテルヨーデスカド
モー イチド シラベテ クダサイ
- 059 M24H③⑤ コレ オツリガ タラナイヨ
- 060 M22L②④ チョット オツリガ タリマセンヨ
- 063 F25L③⑤ アー オバサン、オツリガ タラナイケド チガワカ
シラ
- 065 F30L②④ オツリガ タラナイジヤ ナイデシヨーカ
- 066 F38M②③ イマ アノ、オバサン イクラ クダサツク
- 068 F36L①② アノー チョット ツリセガ タリナイヨーデスカ
ド チョット ミテ イタダキマスカ
- 069 M29M③⑤ ヤー オツリガ タリンヨー
- 071 M52L③⑤ マー イッペン ヨー カンジョー シテ クレ
モシ マチガツテーヘンカイ。マー イッペン ミテ クレ
- 073 F23M③⑤ オバサン オツリガ タラナイケド
- 074 M28H③⑤ オバサン、チョット オツリガ タラナイヨ
- 075 F34H②③ オツリガ コレコレシカ アリマセンケド コレダ
ケジヤ アリマセンカ
- 077 F39L②④ オツリガ タラナイヨーデスカ
- 078 F30L③⑤ オバサン イマ イクラデジヤ ナカクノ。オツリ
ガワカワ
- 080 M18M③⑤ オツリガ タリナインデスカド
- 084 M47H②④ チョット コレ ケーサンガ チガウシジヤ ナイ
デスカ
- 086 F27L②③ アレ、イマノ カイモノ イクラデシタカ。イクラ
ハラツタデスカドモ タリマセン
- 087 M25M③⑤ オバサン、オツリガ タランヨー
- 089 M42H③④ アー チョット タランジヤ ナイデスカ
- 090 F16M②③ イマノ オツリガ タリマセンケド モー イチド
ケーサン シテミテ クレマセンカ
- 091 M61L②③ オツリガ タリナイケレド イカガデスカ イチオ
ー オシラベ ネガエマセンカ
- 092 F17M②③ スミマセン オツリガ チョット オカシナイジヤ ナ
イデスカ
- 093 F69L②④ モー スコシ タラナイカウ ミテ クダサイ
- 095 F18L②③ スミマセン オツリガ タラナイデスカド
- 096 M28L②③ アノ スミマセンケド オツリガ タリマセン
- 097 M39M②④ タリマセン
- 098 F37L③⑤ オツリガ タラナカツタデ
- 099 M46L③⑤ オツリガ マチガツテルヨ
- 100 M16M②④ オツリガ タリマセンヨ
- 101 M33M②④ チョイト タリナイジヤ ナイデシヨーカ

- 102 F16M③⑤ オツリガ クリナイチ…
- 104 M27M②③ チョット イマ カツンヂケドモ チョット イ
クラヂツクヂシヨ-カネ チョット オツリガ コレヂケドモ
- 105 F30L③④ ア- オバサン チョット オツリガ チガウソウ
ヤ ナイカシラ
- 107 F18M②③ スミマセンガ オツリオ モー イチド カンゾウ
- シテ クヂサイ
- 108 M25M②③ アノ チョット オツリガ クラナイチケド
- 110 F15L②③ オツリガ クリナイチケド イマ カツク モノオ
モー イチド シラベテ クヂサイ
- 111 M34H②③ イマ カツクノワ イクラヂツクヂシヨ-カネ コ
ジユ-エン クリナイチケド
- 113 M28M②④ モシ、オツリガ クラナイヨ-チス
- 116 M26M②③ スミマセン オツリガ クラナイチケド
- 117 F31L②③ スミマセン オカシヨ- マチガッテマセンカシ
ラ
- 120 M59L②④ ア- チョット イマ カンゾウ-チガイダト オ
モリテ ヒトツ マイペン チョット ミテ クヂサイ チョット タ
ランヨ-ニ オモカチ ヒトツ
- 122 M56M①② ア ド-モ アリガト- コシイマシタ コレデウ
スコシ オツリガ クリナイヨ-チ コシイマシネ イチド タシカメ
テ オネガイ イクシマス
- 123 F18M②③ チョット オツリガ クラナイチケド
- 125 M25H②③ チョット スミマセン オツリガ クリマセンケド
- 126 M24L③⑤ オバサン オツリガ クラシテ
- 127 M28M③⑤ オイ オツリガ クラシヨ
- 128 F25M②③ オツリガ チョット チガウト オモイマスケド
- 129 M22M②④ クラナイチケドネ
- 130 F36L②③ チョット スミマセンケド オツリガ クリナイチ
スガ
- 132 F65L②③ チョット ミテ クヂサレ.コノ オツリ コンダ
ケツヤ クランツヤ ナイチスガ
- 134 M73L②④ コリヤ オカネガ クランツヨ- カンゾウ-
シテ クヂサイ
- 135 F38L②④ ア- オバサン チョット カンゾウ-ガ スコシ
チガッテルヨ-チケド モー イチド ケ-サン シテ モラユル
- 137 F57L①① イマ オツリオ イタダキマシタケドモ チョット
クリナイト オモイマスケドモ モー イチド ケ-サン シテ イ
タダキマセンチシヨ-カ
- 138 F37L②③ イクライクラノ カイモノ シマシタケド オツリ
ガ ハンツヤ アリマセンガ モー イチド ケ-サン シテ クヂサイ
- 139 M71L②③ コレウ イクラヂスガ イタダイタ ツリセント
スコシ チガイマスガ
- 140 F74L②④ クランツスヨ
- 141 M22M③⑤ オツリ クランヨ-
- 143 M53H③④ チョット コレ オツリガ クランツヤ ナイチス
カ
- 144 M17M③⑤ アノ- イクライクラノカ ナンヂケド
- 146 F35M③④ アラ オツリガ チョット オカシイダ ナイカ
シラ
- 147 F30M②③ スミマセン ケ-サン チガッテナイチスガ
- 149 F40L②④ クリナイカラ モー イチド タシカメテ クヂサ
イ
- 150 F67L②④ オツリガ クリマセン
- 151 M68L①② イマ アナクノ オツリオ イタダキタンダケレ
ドモ オイクラ オカシク クヂサイマシタカ
- 152 M28M①① スミマセンケド ケ-サンガ チガイマセンチスガ
- 153 M32M③③ チョット クランヨ-チケドモ、イッペン シラ
ベテ クヂサイ
- 155 F47L②③ スミマセン チョット オツリガ クラナイヨ-チ
スケド
- 156 F73L NR
- 158 M25L③⑤ オバサン、チョット チガッテナイカネ
- 159 F20L②③ スミマセンケド オツリガ マチガッテイハシツヤ
アリマセンカ
- 161 F61L②③ イマ オカネオ アダケド ツリセンガ マチガ
ツツウ シマセンカ
- 162 F20H②④ オツリガ クラナイダヤ ナイチスガ
- 164 M42L②③ チョット スミマセン クラナイダケドモ
- 165 M16M②④ オツリガ クリマセン
- 168 F62L②③ スミマセンケド チョット マチガットリマセンカ
- 171 F23L②④ オツリガ チガッテマスケド
- 173 F44L③⑤ チョット オツリガ クラント オモケケド
- 174 F61L②③ チョット イマ コレ イタダキタンダケド チ
ョット チガッテマセンカ
- 176 M21L②④ コレ マチガットリケ- センチスガ
- 177 F24M②④ コレ オツリガ クラナイダヤ ナイチスガ
- 179 F74L②④ カンゾウ-ガ チガイマセンカ
- 180 M45L②③ オバサン オツリガ スクナク オモイマスケド
- 182 F32M②③ スミマセン オツリガ クラナイチケド
- 183 F23M①② ア オバママ チョット コレ オツリガ チョット
ト クラナイヨ-チケド モー イチド ミテ イタダキマセンカ
- 184 F49M①① スミマセン イマ オツリ イタダキケド チョ
ット オカネガ クラナイヨ-ニ オモイマスガ イッペン シラベテ
イタダキマセンカ
- 185 F32M②② ア-ット チョット スミマセンチスガレド オツ
リガ クリナイヨ-ニ キガ シマスケレド チョット オシラベ ネガ
エマスガ
- 186 F33M③⑤ ア、オバサン、コレ マチガッテナイ
- 188 M65L②② ケ-サン シタ トコ、モトニ シラベ-チスガ

- 下 ケーサンガ チガットト オモイヌガ、モー イチ下 タシカメ
 テ クダサイ
 189 F26L②③ イクラ タリマセン、イチ下、タシカメテ クダ
 イ
 191 M25L②③ イマ イクライクラ オシハライ シカテシヨ
 イマ コンダカシカ モラッテナンデスカド ナニカ マチガエフレタ
 ヅガ ナイデスカ
 192 F16M③⑤ チョット クリナイヨ
 194 F20M②③ オバサン アノー オツリガネ アト イクラカ
 クリナカクテスカド
 195 M44M②③ チョット コレ ヨク ミテ クレマセンカ、チガ
 ヅガ ナイデスカ
 197 M72L③⑤ チョット コリヤー オカネガ チガヤ センカネ
 198 F15M②④ イマ モラツク オツリ チョット クラナイデ
 ケド… モラエヌカ
 199 F40M③⑤ アレク シンゾーゴエンジヤ ナカクダ オブ
 リガ アチエンシカ ナインゲケド
 200 F18M③⑤ オツリガ クリナイケド
 201 M29M②④ ツリセンガ マチガッテヌス
 202 F70L①① マコト オルイリヌスケドネ オツリガ クリ
 マセンカラ イダダマセンデスカ
 203 F49L①② チョット オイクラテシカカネ ワカシ テンエン
 ハツタンダケド チョット タシカメテ イダダマセンカ
 204 M60L②③ アノー スコシ クラナイト オモイヌスガ
 205 F05L②③ オツリガ コレチ フソクダ オモイヌスケド
 206 M64L②③ コレ イクラテシカカ コレチ オツリガ イン
 デスカ
 207 F49M③⑤ ア、コレデウ、チョット オツリガ クラナイヨ
 209 F15L②④ ケーサンガ アナンデスカド
 210 F23L②④ オツリガ スクナインデス
 212 F23H②③ コレコレイクラテシカチ オツリガ クリナイミ
 タイデスカド
 213 F31L②③ チョット スミマセンガ オツリガ クラナイデ
 スケド
 215 M41L③⑤ オツリガ オカシク ナイカネ
 216 F26M②④ イクライクラジヤ ナカクテスカ
 218 F58L②③ チョット、スイマセンケド、オツリガ、チョット、
 チガッテイマセンカ
 219 M49L③⑤ アー コリヤー ナンエンダネ コレジヤ オバサ
 ン オツリガ チョット チガウジヤ ナイカ
 220 M41M②③ チョット アノ オツリガ クラジヤ ナイデス
 カ。ゴヒヤクエン タシマシケケド、ニヒヤクエンダカラ、シンヒヤク
 エンノ オツリデウ ナイデスカ
 221 M56M②④ チョット アンデスガネー
 222 F26L②③ マー オバサン。イマ コレダケ カクカカラネ
 コレダケ ナレバ イナンデスカド オツリガ クリナイデスカヨ
 223 F63L②④ ヒヤクエン クリマセンネー
 224 M21L③⑤ オバサン オツリガ チガウジヤ ナイ
 227 F28M③⑤ イマー サンヒヤクエンダクサネー ヒヤクエン
 オツリガ クラナイミクダケド
 230 F37H②④ モー イチ下 ケーサン シテ クダサイ
 231 M23H③⑤ オバサン。チョット マチガッテルンジヤ ナイカ
 233 F25L②④ アノー、タリマセン
 236 M33M③⑤ アー チョット オツリト チガヤ ア
 237 M38M①② イマ オツリオ イダダインデスカ、オツリガ
 チガットルヨデスカドモ、イチ下 シラベテ イダダマセンカ
 240 M20M②④ オツリガ チガッテルンデスカド
 242 M31M②④ オバサン オツリガ タリマセン
 243 M63L②③ チョット カイモノ シマシカガ チョット カン
 ショー アワノカラ チョット ミテ クダサイ
 245 M52L②④ チョット カンゾーガ チガイヤ シマセンカ
 246 M23M②④ オバサン オツリ クラナイデスカ
 248 M56L②④ チョット カンゾー チガイヤマセンカ
 249 F42H②③ イマ オツリ イダダイケド チョット ケーサ
 ンチガイジヤ ナイデシヨカ
 250 M22H②③ オツリガ、クリナイヨーデスカド、モー イチ下
 タシカメテ クダサイ
 251 F36M①① スイマセン、チョット オツリガ カンゾーオ
 モー イチ下 ヤツテ イダダマセンカ
 252 F26M②③ スミマセン オツリ クリナイヨデスカド アノ
 ソノ シノモノ オイクラテシカカネー
 254 F32L②③ スミマセンケド。オツリガ クリマセンヨ
 256 M24H③⑤ アノ、オツリガ チョット クラナイケド
 258 M34M②③ コレ イマ モラツク オツリデスカド イチ下
 シラベテ モラエヌカ
 260 F33M②③ イマ オツリ イダダインデスカドモ チョット、
 クラナイト オモイヌスケドモ、イマ イクライクラ タシマシケケド
 モ、イクライクラ カイモノ シマシテ オツリガ チョット マチガッ
 テナイデスカ
 261 M42L③⑤ カンゾーガ チガッテヤ センカネ
 262 F47M②③ カンゾーガ チガウジヤ ナイデシヨカ
 265 M24M③⑤ ツリガ クラナインダケド
 266 F22M②④ オツリガ クラナイデスカド
 267 M39M②④ イヤ、コレ チョット タリマセンヨ
 269 M59L③⑤ オバサン チョット コレ カンゾー チガウカ
 ドモ、マイッパ シラベテヤ
 270 F28H③⑤ アラー、オツリガ クリナイヨ
 271 M32L③⑤ オバサン、チョット オツリガ マチガッテルンジ
 ヤ ナイ
 272 F38M①② チョット スイマセンケド オツリ クラナイデスカ

- ケト チョット ミテ クダシイマセンカ
 273 F27H②③ アノネー アノ サッキノ オウリデスケド ヨク
 カンガエカラ チョット マチガッテマス シラベテミテ クダシイ
 275 F50L②④ チョット カンゾウガ チガッテマセンカ
 276 F22L③⑤ オバサン オウリガ クリナイケド
 278 M41L③⑤ チョット オカシイナ
 279 F60L③⑤ チョット コレ マチガッテヤ セン
 281 F38H③⑤ アレ、コレ クリナイワ
 284 F33M①② イマ オカシイノオ イタシマシタガ オウリオ
 シラベテミマシタワ、マチガッテイマシタノデ シラベテ イクダケマセ
 ンカ
 285 M66M③⑤ オウリガ クランヨーダガ、マチガッチャ オラン
 カネ
 287 F23H③⑤ オバサン オウリ マチガッテナイ
 288 M47H②③ イクラ イクダケマシタ、チョット クリナイヨ
 デスガ
 290 F41H②③ チョット オカンゾー マチガッテルンゾヤ ナ
 イデショカ
 291 F24H②③ スイマセンケドモ オウリガ クリナイヨニ オ
 モウデスガ
 292 F21H③⑤ オバサン、オウリ クリナインダケド
 293 F22H①② オバサン オウリガ チガッテルンケドモ チョッ
 ト ミテ イクダケナイデスガ
 294 F19H②③ チョット オバサン オウリ クリマセンケド
 296 M33L③⑤ ア、オバちゃん オウリ クランヨ
 297 F48L②③ チョット チガッテヤ シナイデショカ クリ
 インデスケド
 299 M35H②④ オウリガ、マチガッテマセンカ
 300 F46L②③ スイマセンケド チョット オウリガ マチガッ
 テマセンカ
 302 F58L②④ チョット クリマセン
 303 F55L②④ イマ ミタケド オウリガ クリナイガデ クダシ
 イ
 305 M33H②③ チョット モー イチド カツク モノ ケーサ
 ノオ シタインデスケドモ クワシク ソノ ネダノオ オシエテ ク
 レマセンカ
 306 F37M②③ アノ スイマセン チョット オウリガ チガッ
 テルヨナ キガ シマスケド
 308 M19M②④ アノ、オウリ クリナイデスケド
 309 F25H②④ オウリガ クリナイデスヨ
 311 F24M②④ オカネ クリナイデス
 312 M33L③⑤ クリナイヨ
 314 M34M②③ アレ、コレ オウリガ クランデスヨ、マチガッ
 テルンゾヤ アリマセンカ
 315 F30M②③ スイマセン イマ イクラデシカ チョット オ
 ウリガ クリナイヨデスケド
 317 F48L③⑤ チョット オウリガ チョット クランヨ
 318 F60M①① オカンゾーガ チョット マチガッテイナイデシ
 ヨカ チョット オカネガ チガッテルンヨデスケド オシラベニ
 ナッテ イクダケナイデショカ
 320 F17L②③ オカネガ チョット クリナイミタイデスケドモ
 321 M33M②④ コレデウ チガッテマセンカ
 323 F21M②④ オバサン オウリガ チガイマスヨ
 324 F23M②③ アノ オウリガ コレダケシカ ナインデスケド
 イチド ミテ クダシイ
 326 M27H③⑤ オバサン クリナイミタイケド、イクラダクサツケ
 327 F23L②③ チョット オカンゾー ナンカ オウリガ クリ
 ナイヨニ オモウデスケド
 329 M44M②④ オウリガ クランノデ ケーサンオ シテミテ ク
 ダシイ
 330 M75L②③ モシモシ、イマノ カイモノオ シマシタ コノ
 オウリガ チョット コレデウ クリマセンガ イッペン オシラベ ク
 ダシイ
 331 F57L②④ モット、クリナイ コト ナイデスガ
 332 M29H①① スミマセンガ モー イチド オウリオ オカシカ
 メ クダシイマセンカ マチガッテイルト オモイマス
 333 M40L③⑤ チョット コレダト オウリガ クランヨ
 334 F67L①① チョット スイマセン、オカネガ クラント オモ
 イマスケド チガッテオウリケンシタカネ
 335 F27M②④ オウリガ クリナイデスヨ
 337 M51L②④ チョット チガウンゾヤ ナイデスガ
 338 F40L③⑤ チョット イマノ オカンゾー チガウンゾヤ ナ
 イ イッペン シラベテ
 339 M74L②③ ナニカノ マチガイデウ ナイデショカ スコシ
 クラント オモウチ シラベテ クダシイ
 341 F15L②④ オバサン オカネノ オウリガ チガイマスヨ
 342 M35M②③ チョット スイマセンガ オバサン オウリガ チ
 ガイマセンカ
 345 M26L②③ スミマセンケド オウリガ チョット クリナイデ
 スケドネ
 347 F62M②② アノー イマ コレコレ イクダケマシタケド オ
 ウリガ チガクヨデスカラ シラベテ クダシイ
 348 M19M②④ チョット オウリガ チガッテルンゾヤ ナイデス
 ガ
 350 F37M②④ オウリガ クリナイデスヨ
 351 F49L②④ チョット オウリガ クリナイデスヨ
 353 F22L①② コレダケノ オカネナインデスケド オウリガ クリ
 ナインデスケド モー イチド シラベテ イクダケマスガ
 354 F31M②④ コノ オウリ マチガッテナイデショカ
 355 M37M③⑤ オバちゃん チョット オウリ オカシイデ

- 356 M31H②④ オウリガ クリナインデスガ
 357 F23L③④ オウリガ クリナイケド、イマ イクラ カツカカ
 シラ
 358 M34L③⑤ カンゾヨガ アワソ。ケーザン ヨー シテミ
 テ
 359 F45H②③ スミマセン、チョット マチガッテナイシラ
 360 F74L①② アノー チョット コノ トーリデスケド チョッ
 ト ドッカ カンゾヨガ チガキー シマセンデスカ
 361 F68L②③ イマ カツカ シナモノヲ オイクラデスカ コレ
 ジャー アノー カンゾヨワ チガキー シマセンカ
 362 M32L②③ オウリガ チガクヨノナ キガ スルケドモ イ
 ラデシカカネー
 363 M54L②③ オバサン ジュエーン クリマセン チョット チ
 ガイマスヨ
 365 F55H①① オウリイマスケド イマ イクラ ゲシクンデス
 ケド モイチド シラベテ イタダクマセンカ
 366 F61L①① イウイクラノネ カイモノヲ シクノデネ ジャ
 スミマセン モー イッペン シラベテ イタダクマセンカ。オウリガ
 クリマセンガ
 367 M42L①② アノー、チョット、コレ オウリガ クリマセンガ、
 モー イチド シラベテ イタダクマセンカ
 368 M47M③⑤ ア コレ オウリガ クランジヤ ナイカ
 369 F47L③⑤ コモンネー チョット、チガクミタイダケド
 374 F23M②④ オウリガ クリナインデスケド
 375 F21L②④ オバサン オカネガ クリマセンカラ
 377 F28M②③ スミマセンケド イマ モライマシタケド オウリ
 ガ クリナインデスケド
 378 F56M②② アノ オウリ イタダクケレド オウリガ クリ
 ナイト オモイマスカラ イチド シラベテ クダサイ
 379 M32H②④ チョット オウリガ クリナインデスケド
 380 F75L②② イマ オウリガ イタダクマシタケド オウリガ
 クリマセンデ マー イチド シラベテ クダサイ
 383 M55L③⑤ チョット オウリガ おかし
 384 F22M②③ オバサン イマ カツカ モルト スコシ オカン
 ジョーガ チガクミタインデスケド、イチヨウ クシカネテ クダサイ
 387 F54L②③ チョット、マチガッテマセンカシラ
 389 F28L③④ サッキ オウリ モラツクンデケドー スコシ チ
 ガッテマシタイケドー
 390 F78L②④ オカンゾヨー チガキー シマセンカ
 392 F69M②③ アノー、スコシ オカンゾヨーガ マチガッテイヤ
 シマセンカ おしラベ クダサイ
 393 F23H②③ アノー オウリガ チョット チガクミタイケド
 395 F38L①① チョット モーシク アリマセン。オウリガ モ
 ー イチド おしラベテ ナッテ イタダクマセンカ
 396 M65M②③ アーア コレワ オバサン チョット コレワ
 オカンゾヨーガ チガキ シマセンカ ツリガ チョット スクナイヨ
 ーク
 397 M16L②③ スイマセンケド、オウリガ クリマセン
 399 F21M②③ コモンナサイ チョット オウリガ クリナインデ
 スケド
 401 F68L①② チガッテマセンデスカ
 402 F62M②④ オウリガ クリナイヨークデスケド
 404 F47M②③ スミマセン、チョット チガットヤ ヘンデスカ
 407 F21M②③ スイマセン チョット オウリガ クリナインデス
 ケド
 410 M22H②④ オウリガ マチガッテマセンカ
 411 M16M②③ チョット オバサン おかしンデスケド。オウリ
 ガ クリナイヨークデスケド
 413 F55L②③ チョット オカンゾヨーガ マチガッテナイデシ
 ヨーカ。イッペン ミテ クダサイ
 414 M45L②② アノー オウリガ モーシクケ ナイケドモ、コレ
 オウリガ チガッテオバサンニ オモクンデ イマ イチド ケーザン
 シテミテ モラエマセンカ
 417 M49L③⑤ オイ クランジヤ ナイカ
 418 F28M②③ スミマセン、オウリガ チョット チガクンデスケ
 ド
 419 F34M②④ コレ マチガッテナイデシヨーク
 420 F33L③⑤ チョット オウリガ クランジヨ チョット シテ
 ベテ
 423 F65L②④ チョット チガットリマセンカ
 426 F33L②③ コレダケシカ ナイカラ、アノー チガイマスカ。
 マチガイヤ ナイデシヨーク
 428 F22H②③ スミマセンケド、オウリガ クリナインデスケド
 429 M42L③⑤ チョット コレ チョット オウリガ チョット
 オウリガ クラン コト ナイ
 431 F25H②③ オバサン、オウリガ クリナインデスケド
 432 M35M③⑤ オウリガ クリナインデガ モー イッペン チョ
 ト ミテ クレクナ
 434 F25L②③ アー スミマセン。オウリ クリナインデスケド
 435 F19H③⑤ オバサン、オウリガ クリナイヨ
 436 F69L①③ アノー、チョット、オカンゾヨー、オマチガニ
 ナランデスカ
 438 F34L②③ スミマセン、オバサン オウリガ クリナインデス
 ケド、シラベテ クダサイ
 439 M20M②③ ア、オバサン コレワ チョット、イクラカ クリ
 ナインジヤ ナイデスカ
 440 F74L②④ チョット、コレ、オカネガ チガキー シマセンカ
 441 F31L②③ オバサン オウリガ スコシ クリナイデマスヨ チ
 ガッテイマスヨ
 443 M18L②③ スミマセンケドモ チョット クリナイデスケドモ、

- イーデスカ
 444 F22W②④ オリ タリナイ コト ナイデスカ
 447 F20H②③ オリ キンガガ チガッテイレンデスカドモ、
 モー イチド タシカガテ クダサイ
 449 M49M③⑤ オイ カネガ クランモ
 450 F19W②③ イマ チョット オリ モラッタンデスカド
 ラインジヤ ナイデショウカ
 452 M59L②③ コノ シナモノ オイクラデスカ。ワタシワ イ
 クライクラ タシマシタガ、ツリセンガ タラント オモイマスカラ、モ
 ー イチド シラベテ クダサイ
 453 F15W②④ オリガ タラインデスカド
 454 M19M③⑤ オバサン チョット タランヨ
 455 F34M③⑤ オバサン イマ ワタシタ オカネガト チョット
 オリガ タラン コト ナイ
 456 F16W②④ オリガ タリマセン
 458 M31L②③ スミマセン、コレ、チョット オリガ タラナイ
 ジヤ ナイデスカ
 459 F17W②③ アノー チョット マチガッテイマセンカ。チョッ
 ト タリマセンカド
 462 M23W②③ ワルイケド チョット ケーサン マチガエマセ
 ンカ
 463 M58W②③ ツリガ タラナイデスカ コレデ ヨロシイデスカ
 464 M74L③⑤ タリマセン。カンゾー チガエンカナ
 466 F32M③⑤ アレ、オリガ チガウジヤ ナイ
 467 F61M①② アノー、スコト コレ オリ、スクナインデスカ
 ド、イッパン オシラベ イタタマセンデショウカ
 468 M36L②④ モシ アノー ツリガ チガッテイマセンカ
 470 M38H②④ ケーサンガ チガウジヤ ナイデスカ
 471 F32L③⑤ チョット イマ シナモノ カツク モト チョ
 ットネ イクライクラデシタケド チョット オリガ タラナイカラ
 ミテ
 473 M19W③⑤ オバサン オリガ タラインデスカド
 474 M20M②③ ア、スミマセン オリガ タラインデスカド
 476 M19M②④ オリガ タラナイデスカ
 477 M25H③⑤ チョット オリガ オカシイジヤ ナイカネー
 479 M15L②④ オバサン。チョット オリガ タランヨデスカ
 480 M16W②③ スミマセン、チョット コレ モー イチド ミテ
 モラエデショウカ
 481 F63L③⑤ カンゾーガ タラナイケド
 482 M29W②④ オバサン オリ タリマセンヨ
 483 M34H②③ ア チョット イマ シラベテミルト オリガ
 タランヨデスカ
 485 F49L②③ チョット コレ タラナイデスカド
 486 M43L③⑤ オバサン、イマ モラッタン オリ チョット タ
 リンケド
 487 F29L①① アノ スミマセン モー イチド シラベテ イ
 タタマセンカ、スコト タラインデスカド
 488 M68L③⑤ チョット コレワ カンゾー チガヤ センカネ
 489 M29L③⑤ オバサン オリガ タランヨ
 490 F50L②③ チョット オカネガ タリント オモイマスド
 イッパン ミテ クダサイ
 491 M28W②④ オリガ タラナイデスカ
 492 F27L③⑤ オリガ タランカウヨ
 494 F15L②③ スミマセン ヨク ケーサン シテミタラ オリ
 ガ タリマセン
 495 F49L③⑤ ア、コレジヤ スコト チガウジヤ ナイ
 496 F38L②③ アノ スミマセンケドモ イマ シナモノ モ
 ラッタンデスカ カジエマシタ トコロ ドモ コトヤクエン タリ
 インデスカド。モー イチド シラベテミテ クダサイ
 497 F21M②③ アー スミマセン チョット オリガ チガウヂ
 スカド
 498 F50L②③ オリガ タラナイガ アトデモ ケッコデスカ。
 ホカエ マワッテカラ マタ キマス
 500 F46L②③ チョット オリガ タリマセンケド、カジエマ
 テ クダサイ
 503 M21L②④ コレタガタ オリガ チガッテイマセンカ
 504 M17M②③ チョット オリガ タリマセンケド
 506 F41L②③ スミマセン チョット チガッテイマセンカ
 507 M41L③⑤ ネダン イクライクラノ モンデデ オリガ チ
 ョット タランヂ
 508 M23L②④ タリマセンケド
 509 F30L②③ コレ チョット シラベテ モラエマスカ チョ
 ット クラナイト オモイマスガ
 510 F18M②④ オリガ タラインデスカド
 512 F17M③⑤ オリガ タラナイケド
 513 F35M②③ イマノ カンゾーガ マチガッテイマスカド
 514 F28L②③ アノー コレワ イクライクラデシタコトネ。オリ
 ガ チョット チガイマスド シラベテ クダサイ
 515 F53L②③ チョット オリガ タリマセンカラ シラベテ
 クダサイ
 516 M38L②③ イマ イクライクラ タシタ。ソレデ コレタノ
 オリシカ イタガキマセン。マチガッテイレンジヤ ナイデスカ
 517 M59M②④ オリガ タラナイデスカ
 518 F42L②④ チョット、カイモノ シタノトネ、オリガ アワ
 ナイカラ ミテ クダサイ
 519 F30M②④ チョット マチガッテイレンジヤ ナイデショウカネ
 522 F46L②③ イクライクラ カイマシタケド オリガ タラ
 イカラ シラベテ クダサイ
 525 M36L③⑤ ア、オバサン、オリガ タランヨ
 527 F25L②③ スミマセン オリガ スコト タラインデスカ

- 下
- 528 M41M②③ オカサン イマ チョーダイ シマシタ オツリ
コレ チョット シラベテミルト クラソウゾウガ ドーデショウ カン
チガイ ナイデスカ
- 531 M26L②③ ア、スイマセン チット、オツリガ クラナイデス
ケド
- 533 M48L②③ オツリガ クリマセンガ カンゾー マチガッテ
イマセンカ
- 534 F18M②③ アノ オバサン、オツリガ クリナイデスカド
- 537 M35M②④ ケーソウガ マチガッテハンカネ、チョット オツ
リガ クリマセンケド
- 539 M24H③④ チョット オカネガ アワナインジヤ ナイデスカ
- 540 M72L②③ オツリガ チョット クラソウゾウケド チョット
ケーサンチガイジヤ ナイデスカ。オシラベ クダサイ
- 542 M51L②④ チョット オツリガ チガッテワ シマセンカ
- 543 M55L③⑤ オツリガ チガットルデ チョット シラベテ モ
ラエンカネ
- 545 M46H②③ チョット シラベテスカド イマ イダシイタ
オツリガ クラナイヨニ オモウデスカドモ、チョット アツテミ
テ クダサイ
- 546 F36L②③ スイマセン、オツリガ チョット チガウデスカ
ド クシカマテ クダサイ
- 548 F51H②③ イクライクラ カイマシテ イクラ ぢシマシカ
ラ オツリガ クリナイト オモイマス
- 551 F45H NR
- 552 M24M①② イマ カック ブンデスカド、チョット シラベテ
イダシキクインデスカド、ワクシノ カック ブト オツリガ チョ
ット オカナイヨニ オモイマス
- 554 F43H②④ チョット オツリガ クラナイケド シラベテミテ
クダサイ
- 555 F50M①① オツリ イダシキマンケド マダ サイノ ナ
カニ イレテナイデスカド コレ チョット シラベテ イダシカマセ
ンカ
- 557 F31M②③ チョット オツリガ チガッタクヨニ オモイマス
ケド コレト コレデ モー イチド ケーサン シナシテ クダサイ
- 558 F49L②③ チョット オカネガ クリマセンケド シラベテ
クダサイ
- 561 F22H③④ コメンナサイ。コレ チョット オカネ クリナイ
ンジヤ ナイシテ
- 565 M45L②④ チョット ツリガ クラソウゾーナ キガ シマズネ
カ
- 566 F15L②③ アノー オツリガ クラナイト オモイマスケド
- 567 F21H②④ アノー オツリガ クリナイデスカド、モー イッ
ペン シラベテミテ クダサイ
- 568 F28M③⑤ アラ、オバサン、オカネ チョット オツリ クラ

- ナイワ
- 569 M26L③⑤ オバサン、クラナイヨ
- 570 F42M②③ チョット コレ ケーソウガ チガッテルンジヤ
ナイデスカ
- 572 F29L②③ スミマセンケド、オツリガ チョット コレ チガ
イマセンカ
- 575 M17M①② サキホド オツリオ モラウデスカド ドーモ
クラチイミタインデスカド、モー イチド カクニシ シテ モラエマ
センデショウカ
- 576 M26H②③ チョット スクナイデスカドFE
- 578 M37M②③ モー イチド オツリオ オシラベ ねがエマセ
ンカ
- 579 M43M③⑤ オバサン、オカシイジヤ ナイン。コレ。チョット
チガッテヤ セン
- 581 F54M①② オツリガ チョット クリナイヨニ オモイマス
ケド チョット イッペン ヨリ ミテ クダシイマセンカ
- 582 M17M③⑤ オバサン オツリガ クラソウケド
- 583 F61L②② チョット スミマセンガ コノ イマ イダシイ
デスカド クリナイト オモイマスデ イチド シラベテミテ クダサイ
- 584 F19H②③ スイマセン オツリガ クラナイデスカド
- 585 F45L②④ チョット オツリガ クリナイジヤ ナイデショウ
カ
- 586 M36M①① アー スイマセン チョット オツリガ チガウヨ
ニ オモウカラ モー イッペン ミテ イダシカマセンカ
- 587 F16M②③ アノ、オカネ クリナイト オモイマスケド
- 588 M33M②④ アレ、イマノ シナモノ オイクラヂウツカカネ
- 590 F33M②③ スイマセン チョット オツリガ マチガッテナ
イデショウカ
- 591 F28L③⑤ チョット クリナイケド
- 592 M42L②④ イクラノオ カックヂ、イクラ ワクシクテ イ
クラ クリナイカラ イクラ クダサイ
- 593 F36L②③ オツリガ スイマセンケド チョット オツリガ
クリナイデスカド イチド シラベテミテ クダサイ
- 594 F49L②③ アノー ケーソウガ チガッテナイデスカ ツリセ
ンガ チガッテイルケド、ワクシノ カンガエテウ ヨーデスカ
- 596 F29M①① イマ イダシイタ オツリガ クラチイミタイ
イデケド モー イッカイ ケーサン シテ イダシカマスカ
- 597 F37M②② ア チョット スミマセン イマ アノ シラベテ
ミテ イダシイタインデスカド クリナイヨニ オモイマスデ モー
イチド オカシカマ クダサイ
- 599 F48L①② オカサン チョット イマノ チガイヤ シマセン
カ ナンカ オツリガ クラチイミタイデスカド モー イチド チョッ
ト アツテミテ クダシイマセン イッペン カバエテミテ クダサイ
- 600 F27L②③ スミマセンケド センヤ ぢシテ ヨシヒヤクエ
ン カッテ ヒヤクエン クリマセンケド

傘 貸 し (111)

- 002 M49L③⑤ タイムガカ カサ ヲシテイキナサイヨ
 003 F43L②④ アノ 丸レザン カサ カシタヂマズヨ
 005 M26H①① 丸レザン コノ カサ オツカニ ナリマセ
 ナカ
 006 M50H②④ コノ カサオ ヲカイマセンカ トーゾ
 009 F38L②④ カサ ヲシテツ クダサイ
 011 F42M①① アイテムスカ カサ オモチニ ナツタラ イカ
 ガズカ
 012 F44L①② トーゾ オモチニ ナツテ クダサイ コノチ カ
 サヲ ヨケルバ
 015 F38L③⑤ カサ カシテ アゲルゾ ヲシテイカナイ
 017 F56L②④ カサ オモチヤス
 018 F39M①② ヨロシカッタラ コレ トーゾ オツカイ ナツテ
 クダサイ
 020 M68L②③ 丸レザン アンタ カサ オモチ クダサイ
 023 F46L②③ コレ ヨカッタラ オツカイ クダサイ
 024 F17H②③ トーゾ コノ カサ オモチ クダサイ
 026 F69L①① ドチラサンノ オカタヂカ シリマセンケ下、カサ
 オモチニ ナツテ アトチ コーユー ウチニ モツキテ イタヂカ
 ルバ ヨロシユー コザイマス
 027 M22M②④ カサガ ヨフニ アルカテ ヲシテイキマセンカ
 029 F30M①① ヨロシカッタラ、カサオ オサシニ ナリマセンカ
 030 M17L②④ カサオ カシテ アゲマシヨカ
 033 F48M①② トーゾ コノ カサオ ヲシテイツ クダサイマ
 セ
 035 F47M①① カサ オサシニ ナリマセンカ
 036 F66L②③ フョット カサオ カシテ アゲマズゾ、モツテイ
 ヲツテ クダサイ
 038 F43M②② カサガ アマツマスカラ トーゾ オサシニ ナ
 ヲツテ
 039 M41L②④ 丸レザン アノー ウチニ カサガ アイトル
 テネー モツテツ フョーザイ
 041 F47H②③ カサオ トーゾ オモチ クダサイ マク ツイテ
 ノ トキニ モツキテ クダサレバ ケッコウヂス
 042 M20L②④ ヨカッタラ カサ カシテ アゲマズヨ
 043 F63L③⑤ スレテツ キノドツガサ カサオ カシテ アゲ
 ルゾ モツキナサイヨ
 045 M19L③⑤ ヤー、カサ モツテケヤ
 046 F72L②④ ヲシテイツ クダサイ
 047 F40L②④ スレルト イナナイカ カサオ カシテ アゲマ
 シヨカ
 048 M61L②④ フョット カサオ ヲカッタ クダサイ

- 050 F67M NR
 052 F58H②③ アマツカ カサガカラ イウチニ イーカラ カエ
 シテ クダサレバ ケッコウヂスカツ ヲカッタ クダサイ
 053 F33M②③ ウチノガ アイテムスカラ トーゾ モツテイツ
 クダサイ
 054 M60M②③ モシ カサ オモチ クダサイ、ヨロシカッタラ
 オモチ クダサイ
 056 F26H②③ ヨロシカッタラ オツカイ クダサイ
 057 M36M②③ ヨロシカッタラ コノ カサ ヲカッタ クダサイ
 059 M24H②④ コレ ヲシテツ クダサイ
 060 M22L②④ カサオ カシテ アゲマシヨカ
 063 F25L②③ スレテ オコマリヂシヨカ。アノ カサ ヲカッタ
 クダサイ
 065 F30L②③ 丸レザン カサ オモチニ ナツタラ
 066 F38M③⑤ カサー カリテツ
 068 F36L②④ アノ カサ モツテツ クダサイ
 069 M29M②④ トーゾ モツテツ クダサイ。アノー カエスノ
 ワ イウチニ イーカラ
 071 M52L③⑤ イヤ マー スレチャー イカンゾ、カサノ イツ
 ボンダライ モツテカンセ
 073 F23M③⑤ カサ モツテイカナイ
 074 M28H②④ 丸レザン、ヲシテイックラ トーゾスカ
 075 F34H②④ スレマスカラ カサ トーゾ
 077 F39L②④ アノー アメガ フツテキタヨーダカラ、カサ カ
 シテ アゲマシヨカ
 078 F30L②④ 丸レザン カサ モツテイカレタラ
 080 M18M②④ フジタサン、アメガ フツテルゾ カサオ モツテ
 ヲツテ クダサイ
 084 M47H①① モシモシ。アイテムスカラ、カサ オモチニ ナリ
 マセンカ
 086 F27L②④ カサ モツテイツ クダサイ
 087 M25M③⑤ スレルカラ カサオ ヲシテイキナサイヨ
 089 M42H②④ カサ モツテキマセンカ
 090 F16M②④ カサ ヲカッタ クダサイ
 091 M61L②④ トーゾカ アノ アメガ フツテイルカラ カサ
 オ カシテ アゲルカラ モツテツ イツテ クダサイ
 092 F17M②④ ヨカッタラ コノ カサ ヲカッタ クダサイ
 093 F69L②④ カサオ カシテ アゲマス
 095 F18L③⑤ アメガ フツテキタカラ カサ ヲカイナサイ
 096 M28L②④ ヨロシカッタラ カサ ヲシテ……
 097 M39M②④ カサオ モツテイキマセンカ
 098 F37L②④ アメニ スレルカラ ヲシテツ クダサイ
 099 M46L③⑤ ヤー アメガ フツテルゾ カサ トーゾ ヨカッ
 タラ ヲシテイキナサイ
 100 M16M②④ ナニニサン カサ トーゾスカ

- 101 M33M②④ モッテッ クヂサイ
- 102 F16M②④ コノ カサオ ヲカッテ クヂサイ
- 104 M27M②④ ナニナニシ フーノ カサ ヲカッテ クヂサイ
- 105 F30L②③ アー アノ チョット ヨロシカッタ カサ モ
ッテイツ クヂサイ スレヌカラ
- 107 F18M②③ フーノ コノ カサオ オウカイ クヂサイ
- 108 M25M②④ ヨカッタ カサ ヲカッテ クヂサイ
- 110 F15L②④ タナカシノ コノ カサオ ヲカッテ クヂサイ
フーノ
- 111 M34H②③ ヨカッタ コレ オウカイ クヂサイ
- 113 M28M②③ モシモシ カサガ ヒツヨクシタラ カシテ ア
ゲマシヨ
- 116 M26M②④ カサオ カシテ アゲマシヨカ
- 117 F31L②② マー スレテ フーデスカ カサ オモチニ ナッ
テワ
- 120 M59L②③ アー モシモシ 別レ別レシノ カサオ モッテッ
タラ フーデス アトカラ モッテクリヤ イーチ フユノ イー ト
キ モッテクリヤ イーチ カサ ヒトツ フーデスカ
- 122 M56M①② ア, モシモシ アノー ウチニ カサガ コサイマ
スナゲ 花ヒ フーノ コエノリヨ ナク フーノ オモチ クヂサイ
- 123 F18M②③ アー アノ カサ カシテ アゲマシタ イカガ
デスカ
- 125 M25H②④ フーノ カサオ モッテイツ クヂサイ
- 126 M24L③⑤ カサ サイイカッレ
- 127 M28M③⑤ オイオイ カサ カシテ アゲヨカ
- 128 F25M②④ 別レ別レシノ カサ ヲカッテ クヂサイ
- 129 M22M②④ ア, カサ カシマシヨカ
- 130 F36L②③ カサオ カシテ アゲマシタラ シンテッテ クヂ
サイ
- 132 F65L②④ チョット アンタ カサ オモチナセヤ
- 134 M73L②③ モシモシ カサガ コエニ アリマスチ モッテイ
ツテ クヂサイ
- 135 F38L②④ アー コシユジノ, カサ イウチモ イーデスカラ
フーデスカ シンテイツテワ
- 137 F57L①① キューニ アメガ フツテマイリマシタラ コノ
カサオ フーノ オサシ クヂサイマセ イウ オカエシ クヂサイ
モ ケッコチ コサイマス
- 138 F37L②③ ウチノ カサ アイテムスカラ チョット シンテ
ツテ クヂサイ
- 139 M71L③⑤ アー アンタ アメ フツキタチ ウチニ カサ
ガ アノガ モッテキナサイ。カエシノ トキワ イウチモ ヨロシイカ
ラ
- 140 F74L③⑤ アメ フツキタモンチ カサ モッテキナサイヨ
- 141 M22M②④ フーノ カサオ ヲカッテ クヂサイ
- 143 M53H①① アー モシモシ コメワケテ ナカッタラ フー

- ノ コレ オウカニ ナリマセンカ
- 144 M17M②③ たいフ アメガ フツテイノヨーデスネ カサチモ
オカシ シマシヨカ
- 146 F95M②③ スレヌカラ カサ シンテッテ クヂサイ
- 147 F30M②④ フーノ カサオ シンテッテ クヂサイ
- 149 F40L②④ フーノ コノ カサオ ヲカッテ クヂサイ
- 150 F87L②④ マー ワシヤ ジキ キワダチネ アンタ カサ
シンテッテ クヂサイ
- 151 M66L②③ アノー アンタ タクサン アメガ フルノニ ホ
イヂヤ イケメンカラ フーノ ワルイ カサデスカレドモ ヒトツ
モッテ シンテッテ クヂサイ
- 152 M28M NR
- 153 M32M②④ フーノ コレ シンテッテ クヂサイ
- 155 F47L②④ ヨカッタ コノ カサ シンテイキマセンカ
- 158 F73L②④ オモチナサイ
- 158 M25L②④ カサ カシテ アゲマシヨ
- 159 F20L②④ スレヌカラ カサオ カシマシヨー
- 161 F61L②④ ア アメ フツキマシタチ カサ フーノ
- 162 F20H②④ モシ ヨカッタ ヲカッテ クヂサイ
- 164 M42L②④ カサオ モッテイツ クヂサイ
- 165 M16M③⑤ コノ カサオ シンテイナサイ
- 168 F62L②③ アメガ フツキマシタチ コイジヤ スレヌカ
ラ オモチ クヂサイ
- 171 F23L③⑤ コノ カサ モッテッ
- 173 F44L②④ アマリ イー カサガ ナイケド フーノ シシ
テツテ クヂサイ
- 174 F61L②④ コノ カサチ ヨカッタ モッテッテ クヂサイ
- 176 M21L②④ カサ フーデスカ
- 177 F24M②④ カサ フーノ シンテッテ クヂサイ
- 179 F74L②④ モッテキマセンカ
- 180 M45L①① 別レ別レシノ タイハンデスネ ヨロシカッタ
カサオ オモチニ ナリマセンカ モシモシ ヨロシカッタ カサオ
モッテイカレマセンカ
- 182 F32M①① ヨロシカッタ コノ カサ オモチニ ナリマセ
ンカ
- 183 F23M②④ ア チョット ウチノ カサ フーノ モッテッテ
クヂサイ
- 184 F49M①① イー カサチ アリマセンカヨ ヨカッタ オモ
チニ ナリマセンカ
- 185 F32M②③ アノー チョット スレヌカラ カサガ アイテ
オリマスカラ オモチ クヂサイ
- 186 F33M③⑤ シンテックラ
- 188 M65L②③ アー, モシモシ, コワカメチ オコマリチショー
カラ コノ カサオ オモチ クヂサイ
- 189 F26L②③ カサガ アイテムスカラ フーノ オウカイ ク

- クダシ
 191 M25L②③ ソナ カッコーヂ ダイゴ-プテスカ ヨロシ
 カツラ コノ カサ ド-ヂスカ
 192 F16M③⑤ コレ カシテ アゲル
 194 F20M①② アノ カサ オカシ シマスノ コチヲ オモチ
 クダシテ アノ ヒマヲ トキチ イ-ヂスカヲ アノ- コチヲ
 ガ ウチニ ナリマスノ モツキテ イタダクナイデショ-カ
 195 M44M②③ アツ チョット ヨカッタ ド-ジ カサオ ヲ
 カツテ クダシ
 197 M72L③⑤ カサガ アイトルチ サシトツテ クレ
 198 F15M②③ タイフ、フツキマシカカラ、カサ、ド-ヂスカ
 199 F40M①② コナノ フルイ カサチ ヨカッタ ツカワレマ
 センカ
 200 F18M②⑤ アノ カサ- ド-ジ
 201 M29M②③ ヨロシカッタ ツカツテ クダシ
 202 F70L①① シツレ-ダケド オカサオ オモチ クダシマス
 203 F49L②③ ア- アンタ 丸レサシジヤ ナイデスカ ア
 マガ フツ オコマリデショ- コノ カサ アリアウセダケド ウカ
 ヲツミテ モラエマセンカ
 204 M60L②③ アメガ フツキタヨ-ヂスカヲ コレオ コシヨ
 - クダシ
 205 F65L①① アメガ フツ イクマセン- チョット マツ
 テ カサオ モツキマスカラ オモチニ ナツテ クダシ
 206 M64L②④ アンタ カサ モツキマセンカ
 207 F49M②④ ヤ、ヨカッタ ウチノ カサ モツテツテ クダ
 シ
 209 F15L②④ アノ チョット コノ カサ ツカツテ クダシ
 210 F23L②③ スルマスカラ サイテツテ クダシ
 212 F23H②③ ヨロシカッタ、カサガ、ココニ アリマスノ、
 モツテイツテ クダシ
 213 F31L③⑤ ア- チョット ヨカッタ コノ カサ サシテ
 ヲツ
 215 M41L②③ カサ カシタゲマスガ ド-ヂスカ
 216 F26M②③ アノ スルマスノ コノ カサ ツカツテ クダ
 シ
 218 F58L②④ 丸レサシジ、ヨカッタ、カサ モツテツテ ク
 ダシ
 219 M49L③⑤ ア- モシモシ キミ コノ アメジヤ スルルチ
 ウチノ アイトル カサ モツテイツテ クレシカ
 220 M41M②③ ア-、アメガ フツキマシタネ-。スルチャウカ
 ラ カサ モツテイツテ クダシヨ。オカシ シマスヨ
 221 M56M③⑤ コレオ サシサシ
 222 F26L③⑤ 丸レサシジ カサ サシテイツカラ ド-オ
 223 F63L③⑤ スルルカラ カサオ モツキナシ
 224 M21L③⑤ ヨカッタ コノ カサ ツカワナイ

- 227 F28M③⑤ 丸レサシジ。タイフ フツルカラ カサ カシ
 テ アゲルカラ モツテツテ
 230 F37H②④ ヨカッタ コノ カサ ツカツテ クダシ
 231 M23H③⑤ オイ チョット カサオ モツテイツヤ
 233 F25L②④ アノ スルル- イナヒカラ カサ サシテツテ
 クダシ
 236 M33M③⑤ ア- ウチノ カサ モツテイツ
 237 M38M③⑤ オ-イ、カサオ モツテユ-
 240 M20M②④ コノ カサ ツカツテ クダシ
 242 M31M②③ ド-ジ、カサオ ツカツテ クダシ マタ ツイ
 チガ アリマシタラ トフケテ クダシ
 243 M63L②④ チョット カサ、モツテイクマセンカ
 245 M52L②③ カサ オモチジヤ ナイデスカ ウチノ オツカイ
 クダシ
 246 M23M②④ ド-ジ ツカツテ クダシ
 248 M58L②④ スルルカラ カサ サシテ クダシ
 249 F42H NR
 250 M22H②④ ド-ジ コノ カサ ツカツテ クダシ
 251 F36M①① モシモシ カサ オツカイニ ナリマセンカ
 252 F26M②③ ヨロシカッタ、カサ モツテツテ クダシ
 254 F32L③⑤ スルルカラ カサ サシテイクナ
 256 M24H②④ ヨカッタ、サシテ クダシ
 258 M34M①① ヨカッタ オモチニ ナリマセンカ
 260 F33M①② ヨロシカッタ オツカイニ ナツテ クダシ
 261 M42L②④ スルルカラ カサ- ド-ヂスカ
 262 F47M③⑤ スルマスカラ カサオ オカシ シマス
 265 M24M③⑤ スレテ タイハンダロ- カサ サシテイツヤ
 266 F22M②⑤ カサオ ド-ジ
 267 M39M②④ ド-ジ、カサ モツテツテ クダシ
 269 M58L①① ヤ、モシモシ、アノ- カサ オモチニ ナリマ
 センカ
 270 F28H①① ヨロシカッタ カサ オモチニ ナリマセンカ
 271 M32L③⑤ スルルカラ、ウチノ カサ サシテイツヨ
 272 F38M②③ カサオ オカシ イタシマスケド イカガヒスカ
 273 F27H②③ タクサン アメガ フツマスカラ コレ モツ
 テツテ クダシ
 275 F50L②④ カサ モツテツテ クダシ
 276 F22L②④ ド-ジ サシテイクマセンカ
 278 M41L③⑤ カサオ モツテイクン
 279 F60L②③ 丸レサシジ カサ モツテイクレカラ ド-ヂス
 カ
 281 F38H①② コレ オモチニ ナツテ クダシ
 284 F33M②③ ド-ジ カサオ、オツカイ クダシ
 285 M66M①① ド-ヂスカ カサ オモチニ ナツチャ イカガヒ
 スカ

- 287 F23H②④ 𠵼レ𠵼レ𠵼ン カサ カシテ アヂマスカラ シン
テッテ
- 288 M47H②④ チョット,コノ カサヂ ヨカッタラ シンテイ
テ クヂサイ
- 290 F41H①② ヨロシカッタラ シンテイラッシャイマセンカ イ
ツヂモ ケッコーヂスカラ
- 291 F24H②② モシ オヨロシカッタラ コノ カサ オモチ ク
ヂサイ
- 292 F21H①① ヨロシカッタラ カサ オモチニ ナリマセンカ
- 293 F22H②④ カサ シンテイッテ クヂサイ
- 294 F19H②③ スレテ クイハンヂンヨー,カサ オカシ シマス
- 296 M33L③⑤ カサ モツテッカラ ドー
- 297 F48L②⑤ 𠵼レ𠵼レ𠵼ン,アノ,カサオ ドー
- 299 M35H②③ ドーノ コノ カサ,オウカイ クヂサイ
- 300 F46L②⑤ カサオ ドー
- 302 F58L②④ チョット カサ カシテ アヂマス
- 303 F55L②④ ア,アモガ フツクチ スレテイカナイチ ウチノ
カサ モツテイッテ クヂサイ
- 305 M33H②③ コノナニ フツテキシタナテ カサオ モツテイ
キマセンカ
- 306 F37M①① モシ ヨロシカッタラ コノナ アメヂスケド ウ
チノ カサ オモチン ナッテ クヂサイ
- 308 M19M②④ ヨカッタラ コレ ツカイマセンカ
- 309 F25H②④ ドーノ コノ カサ シンテ クヂサイ
- 311 F24M②③ カサー アリマスカラ ツカッテ クヂサイ
- 312 M33L③⑤ カサオ カソーカ
- 314 M34M②③ カサガ アルンヂスケド ドーヂスカ シンテイキ
マセンカ
- 315 F30M②③ ヨロシカッタラ カサオ ツカッテ クヂサイ
- 317 F48L③⑤ アメニ スレルト カサ ヒクカラン カサ モツ
テイキナサイ
- 318 F60M②③ カシテ アヂマスカラ シンテオイツナサイヨ
- 320 F17L②③ カサ,モツテイカレマスカ
- 321 M33M②④ ドーノ カサオ ツカッテ クヂサイ
- 323 F21M②③ ヨロシカッタラ カサ オカシ シマスケド
- 324 F23M②③ イツチモ カエシテ クヂサッテ ヨロシヂスカ
ラ モツテッテ クヂサイ
- 326 M27H③⑤ スレチヤウヨ,カサ モツテイキナヨ
- 327 F23L②③ ドーノ,アノー ウチノ カサオ アルンヂスケ
ド オモチ クヂサイ
- 329 M44M②③ アメガ フツキタナテ ツブレシマウカラ ド
ーノ コレオ オモチ クヂサイ
- 330 M75L②④ オー アメガ,アルンヂヤネ カサ シンテッテ
クヂサイ,アツチエ イツク ツイヂニ マダ ヨラシテ モラウシ キ
ク トキ イツヂモ イーカラ モツテキンサイ
- 331 F57L②③ モツテキシタカラ ドーノ シンテ クヂサイ
- 332 M29H②③ ドーノ コノ カサオ オウカイ クヂサイ
- 333 M40L②④ アメガ オチヂチ マダ カエリニ カサオ モツ
テキテ クレバ カサ シンテ クヂサイ
- 334 F67L②④ チョット アツチ アメガ フツトーカラ カサガ
ヨカッタラ モツテ オイキキス
- 335 F27M②③ アメニ スレマスカラ コノ カサオ ツカッテ
クヂサイ
- 337 M51L③⑤ オイ,チョット コレオ モツテッカラ
- 338 F40L③⑤ コノ カサ モツテッカラ
- 339 M74L②③ オコマリヂスカラ ウルイ カサヂカー オモチキ
ス
- 341 F15L②③ スレテイテ クイハンヂンヨーカラ カサオ カシ
テ アヂマス
- 342 M35M②④ アツ,オキヤクサン カサオ モツテイキマセンカ
- 345 M26L②③ 𠵼レ𠵼レ𠵼ン カサ カシテ アヂマスヨ ドーヂ
スカ
- 347 F62M②③ モシモシ ナニナニサン アノー アメガ フツ
マスカラ カサオ オモチ クヂサイ
- 348 M19M②⑤ チョット 𠵼レ𠵼レ𠵼ン カサオ ドー
- 350 F37M②④ アノー ウチノ カサオ シンテッテ チョーダイ
- 351 F49L②③ ヨロシカッタラ カサ オモチ クヂサイ
- 353 F22L②④ コノ カサ ツカッテ イーヂスカラ.ドー
- 354 F31M③⑤ カサ,シンテッカラ
- 355 M37M②④ 𠵼レ𠵼レ𠵼ン,カサ ツカッテ クヂサイ
- 356 M31H②④ 𠵼レ𠵼レ𠵼ン,カサ アリマスカラ ドー
- 357 F23L③⑤ スレルト イケナイカラ コノ カサ シンテイキ
ナサイヨ
- 358 M34L③⑤ オイ,カサ シンテイケヨー
- 359 F45H①① ヨカッタラ コレ オモチニ ナリマセンカ
- 360 F74L②② ドーノ オスレン ナリマスカラ オモチ クヂサ
イ
- 361 F68L②③ ニワカアヂ スレルト オキノドクヂスチ ウチ
ノ アルイ カサヂスケド オモチ クヂサイ
- 362 M32L②③ 𠵼レ𠵼レ𠵼ン.カサ モツテッテ イーヂスヨー。
カシテ アヂマスカラ
- 363 M54L②④ オニ-サン.アノー スレテイカナンチモ イー コ
ノ カサ モツテッテ クヂサイ
- 365 F55H①② カサガ アリマスカラ ドーヂスカ シンテイラッ
シャイマセンカ
- 366 F61L②③ イツチモ ケッコーヂスチ オモチ クヂサイ
- 367 M42L②③ カサオ カシテ アヂマスチ,モツテッテ クヂ
サイ
- 368 M47M②④ カサオ カシテ アヂマスヨ
- 369 F47L②④ カサ モツテッテ チョーダイ

- 374 F23M②④ コノ カサオ モツテイツ クダサイ
 375 F21L②③ モシ ヨロシカクカラ コレ カシテ クダサイ
 377 F28M②④ カサオ ドーヂスカ
 378 F56M①① モシ 別れ別れン カサオ オモチニ ナツテワ
 ドーヂスカ
 379 M32H②④ チョット コノ カサ ツカッテ クダサイヨ
 380 F75L①① カサガ アリマスデ ドーゾ オモチ クダサイマ
 シ
 383 M55L②⑤ ウチニ カサガ アルカラ ドーゾ
 384 F22M②③ ヨロシカクカラ コノ カサ オウカイ クダサイ
 387 F54L②④ 別れ別れン カサオ オモチナサイ
 389 F28L③⑤ ア、ヨカクカラ カサ カシテイク
 390 F78L①① アノー スルルカラ 赤ッコノ カサヂモ オモチ
 ン ナリマセンカ
 392 F69M①① アノー コレ オウカイニ ナリマセンカ
 393 F23H②④ コノ カサ ツカッテ クダサイ
 395 F38L②④ アノ ドーゾ コノ カサ カシテイツテ クダサ
 イ
 396 M65M②③ アーア モー トウセンノ アメダチネ スレラレ
 トラ キノドクダテ ヨカクカラ コノ カサ モツテイキチサイ ウチ
 ニ アリマスカラ
 397 M16L②④ スレテシマウデ カサオ カシテ アゲマス
 399 F21M②④ コノ カサ モツテイツテ クダサイ
 401 F66L②④ カサ オモチナサイ
 402 F62M②④ カサ オモチナサイヨ
 404 F47M②③ 別れ別れン、アメガ フツルルデ カサー ドー
 ヂスカ。カシクダマスヨ
 407 F21M②③ チョット カサオ カシテ アゲマス、コレ モツ
 テツテ クダサイ
 410 M22H②④ コノ カサオ ツカッテ クダサイ
 411 M16M②③ チョット マツテ クダサイ。アノー カサガ ア
 リマスカラ ドーゾ モツテツテ クダサイ
 413 F55L②③ アノー スルマスカラ ヨロシカクカラ モツテツ
 テ クダサイ
 414 M45L②④ 十マダシン 十マダシン アノー アメガ フツテ
 タイヘンダカラ ドーゾ コノ カサオ モツテツテ クダサイ
 417 M49L③⑤ オイ カサ モツテケ
 418 F28M②③ スミマセン、ヨカクカラ コノ カサ オカシ シ
 スケド
 419 F34M②④ コレオ カサ カシマスカラ ドーゾ
 420 F33L③⑤ チョット カサ モツテツカラ
 423 F65L②④ チョットー。カサオ モチマセンカ
 426 F33L②③ ナニナニシ、カサオ カシテ アゲマシヨーカ。
 カサオ モツテツテ クダサイ。カサオ カシテイキチサイ
 428 F22H②③ ヤメニ スレカラ タイヘンデシヨーカラ、コノ

- カサ オカシ シマス
 429 M42L③⑤ チョット カサガ ヨカクカラ ドーゾ
 431 F25H②③ 別れ別れン、モシ ヨロシカクカラ カサ オウ
 カイ クダサイ
 432 M35M③⑤ オイ、カサ モツテイクカイ
 434 F25L②④ ヨカクカラ カサ モツテイキマセンカ
 435 F19H③⑤ モシ、ヨカクカラ カサ アルヲヨ
 436 F69L②③ ドーゾ、カサ モツテツテ クダサイ。オモチキス
 438 F34L②③ ヨロシカクカラ、ドーゾ オモチ クダサイ
 439 M20M③⑤ ア、チョット マツテ、ウチノ カサ モツテイキ
 ナサイヨ。スレテ カゼ ヒクト イケナイカラ
 440 F74L①② アノー、ナンヂスケド オモチニ ナツテ クダサ
 イ
 441 F31L②④ コノ カサ モツテツテ ツカッテ クダサイ
 443 M18L②④ ドー、カサ カシテ ヤルカラ カシテイキチサイ
 スカ
 444 F22M②④ カサ カシテイキマセンカ
 447 F20H①① カサオ モツテイナインヂスカ。ヨカクカラ、イエノ
 オ オウカイニ ナリマセンカ
 449 M49M③⑤ オーイ カサ モツテケ
 450 F19M②③ オコマリノヨーヂスネー。コノ カサオ オウカイ
 クダサイ
 452 M59L②③ ウチダダシン、チョット ヨツテ クダサイ。カサオ
 オウカイ クダサイ
 453 F15M②④ ドーゾ コレ ツカッテ クダサイ
 454 M19M②⑤ マー カトーサン、ドーゾ。カトーサン、カサ
 455 F34M③⑤ 別れ別れン、スレチウツ、コノ カサ ヨカク
 トラ ドーゾ
 456 F16M②④ コノ カサオ カシテ クダサイ
 458 M31L②③ カサオ ドーヂスカネ、カシテ アゲマシヨーカ
 459 F17M②④ チョット、コノ カサ ドーゾ、カシテ アゲマス
 462 M23M③⑤ チョット チョット マツテ クレ カサ カシテ
 アゲルヨ
 463 M53M①① カサオ オモチニ ナツテワ イカガデスカ
 464 M74L②④ ジヤマニ ナルカ シランガ トニカク スレバシ
 ジヤマニ ナルカ シランガ オモツテ オイキキス
 466 F32M②③ カサ カシテイキマセンカ
 467 F61M②③ タイヘンデスカラ ドーゾ カサオ オモチ クダ
 サイ
 468 M36L②④ アノー、カサガ アイマスカラ ドーゾ
 470 M38H①① 別れ別れン カサオ オウカイニ ナリマセンカ
 471 F32L②④ コンド アシタノ アサヂモ イーカラ モツテキ
 テ クダサレバ イーカラ ツカクカラ
 473 M19M②③ ボクワ コノ イエノ モデスケド。アメガ
 フツテイルルデ コノ カサオ オウカイ クダサイ

- 474 M20M②④ ア、ウチノ カサ ヲカッテ クダサイ
 476 M19M②④ モシモシ、コノ カサオ ヲカッテ クダサイ
 477 M25H③⑤ オーイ カサ モッテイケンカイ
 479 M15L③⑤ チョット、キミ カサ カシテ アゲルヨ
 480 M16M②③ イエニ カサガ イッホシ アマツマズノゾ フ
 ーゾ コレオ ヲカッテ クダサイ
 481 F63L②④ アメニ スレルカラ、コノ カサ サシテイッテ
 クダサイ
 482 M29M②③ ドーゾ コノ カサオ オツカイ クダサイ
 483 M34H②④ 別レダレヤン カサ モッテイキマセンカ
 485 F49L①① ネエ、アノ、タクサン フッテキマシタカラ カサ
 オ オモチニ ナツカラ イカガヒスカ
 486 M43L②④ コンダケ アメガ フッテルワ スコシ キンヂカ
 ラ イツカラ ドーダネ、ナンダツカラ ウチノ カサオ オモチ ナツ
 たら
 487 F29L②③ ドーダスカ コノ カサ サシテイカレたら、イツ
 チモ ヨロシイデスカ
 488 M68L③⑤ ヤー アメガ フッテキタンダカラ スレテワ
 ナンダネー ウチノ カサ モッテイカンカネ
 489 M29L③⑤ チョット アノー スレチヤー イカンデ カサ
 ドーダネ
 490 F50L②③ アノー カサオ サシテラッシャイヨ イーダスカ
 ヨロシイデスカ モッテラッシャイ
 491 M28M③⑤ カサ モッテイツカラ
 492 F27L③⑤ カサ カシタゲルワ
 494 F15L②④ ドーゾ コノ カサオ ヲカッテ クダサイ
 495 F49L①① アツカラ トコマチ イカレマス。ア、ゾーダスカ
 シヤ オモチニ ナリマセン
 496 F38L②③ ア、タイハンダスネ アノー イー カサジヤ ア
 リマセンケド、モッテイッテ クダサイ、アノー イツチモ コチラエ
 テキタ ヲイデチ ヨロシイデ モッテッテ クダサイ
 497 F21M②⑤ ア、チニナニサン ヨケレバ カサオ ドーゾ
 498 F50L②③ アメガ フッテキマシタカラ、カサオ ドーダスカ
 500 F46L②④ カサオ ドーゾ、イツチモ イーカラ モッテキ
 クダサイ
 503 M21L②④ カサガ アイテイルノチ カシテ アゲマス
 504 M17M②③ チョット アメガ フッテルンチンショー カサオ
 カシマショー
 506 F41L②③ アノー、カサ モッテッテ クダサイ アノー、ス
 マスカラ
 507 M41L③⑤ ウチノ アル カサ カシタゲル、アー カスノ
 ワ イツチモ イーチ ツゴーノ イー トキ モッテキテ クレ
 508 M23L②③ 別レダレヤン、スレチヤ タイハンダカラ カサオ
 オカシ シマショー
 509 F30L①② ヨロシカッタ オツカニ ナツッテ クダサイ

- 510 F18M②④ カサ モッテツカラ ドーダスカ
 512 F17M②④ カサオ カシマショーカ
 513 F35M②③ カサオ オモチ クダサイ
 514 F28L③⑤ 別レダレヤン、カサオ モッテツカラ
 515 F53L②③ ヨロシカッタ オモチ クダサイ
 516 M38L②④ マタ オリオ ミテ カシニ キチ クダサイ
 517 M59M②③ モシモシ カサオ カシテ アゲマスカラ、ドー
 スカ、イカガヒスカ
 518 F42L②④ アノー イツチモ ヒマナ トキチ イーカラ カ
 シテ モロウナ モッテッテ クダサイ
 519 F30M②③ ドーゾ オカシ シマスカラ サシテッテ クダ
 イ
 522 F46L②③ フッテマスカラ カサ サシテッテ クダサイ
 525 M36L②④ ア、カサ カシマスカ
 527 F25L②④ カサオ ドーゾ モッテッテ クダサイ
 528 M41M③⑤ ヨカッタ サシテカナイカー イツチモ ヲイ
 シ トキニ カシントキナサイヨ
 531 M26L③⑤ ア、カサ カシテ アゲルカラ
 533 M48L②④ カサオ カシテ アゲマスカラ サシテイキナサイ
 534 F18M②④ ヨロシカッタ カサオ ドーゾ
 537 M35M③⑤ コノ カサオ ヲカシナサイ
 539 M24H②④ モシ ヨカッタ コノ カサ ヲカッテ クダ
 イ
 540 M72L②③ アノー カサオ オモチニ ナツカラ ドーダスカ
 542 M51L③⑤ 別レダレヤン、カサ モッテイカ
 543 M55L②④ ヨカッタ ヲカッテ クダサイ
 545 M46H①① モシモシ カサオ、オモチニ ナリマセンカ
 546 F36L②④ ヨカッタ カサ モッテッテ クダサイ
 548 F51H②③ スレテイクト タイハンデスカラ モッテイッ
 テ クダサイ。サシテイッテ クダサイ
 551 F45H②④ コノ カサ カシテ アゲルカラ モッテッテ ク
 ダサイ
 552 M24M①① ヨカッタ カサ オモチニ ナリマスカ
 554 F43H②③ モシ ヨロシカッタ コレ サシテイキマセンカ
 555 F50M②③ カサオ サシテイッテ クダサイ フコドコノ オ
 ウチノ カサデショー
 557 F31M①① チョット アメ フリダシマシタカラ ヨカッタ
 カサ、オモチニ ナリマスカ
 558 F49L②③ アメガ フッテキマシタカラ カサオ サシテイ
 テ クダサイ
 561 F22H②④ コノ カサ カシテ アゲルカラ アシクノ アサ
 コチラオ トル トキニ イエニ チヤンモ モッテキテ クダサイ
 565 M45L②④ ウチノ カサ モッテイキマスカ
 566 F15L②③ アノー、ヨカッタ カサオ オカシ シマスカ
 567 F21H②④ チョット ソコノ ヒト カサオ ヲカッテ クダ

サイ

- 568 F28M③⑤ カサ カシテ アザルカ
 569 M28L③⑤ コノ カサ ツカエヨ
 570 F42M①② ドーヂカ。ヨカッタカ カサ モツテイカレマセ
 ヲカ。マア アサチモ トドケテ イタダケバ イーヂスカラ
 572 F29L②④ アー モシモシ、カサ モツテイキマセシカ
 575 M17M①① カサ オブカイニ ナリマセシカ
 576 M26H②④ ア コレ ツカッテイツ クダサイヨ
 578 M37M①① モシモシ、カサオ イッポン オモチニ ナリマセ
 ヲカ
 579 M43M②④ チョット、チョットー。ヨカッタカ コノ カサ
 モツテツテ チョーヂイ
 581 F54M②③ カサオ モツテイツ クダサイ アメガ フツテ
 オリマスカラ ドーゾ ツカッテ クダサイ
 582 M17M②③ ドーゾ コレオ ツカッテ クダサイ カエリニ
 カシテ イタダケバ ケッコヂス
 583 F61L②④ オカサオ サシテイツ クダサイ
 584 F19H②③ カサオ オカシ シマシヨーカ
 585 F45L①① カサ オモチニ ナリマセシカ
 586 M36M②④ ドーゾ コノ カサ サシテイツ クダサイ
 587 F16M②③ ヨカッタカ オブカイ ナリマスカ
 588 M33M①① モシモシ 別レザシ、カサ ヨカッタカ オモ
 チニ ナリマセシカ
 590 F33M①① ヨロシカッタカ コノ カサ オモチニ ナリマセ
 ヲカ
 591 F28L②④ アノ カサー ツカッテ クダサイ
 592 M42L③⑤ アメガ フットルチ カサ モツテ
 593 F36L②③ ア、チョット アメガ フツキマシタチ カサオ
 ツカッテ クダサイ
 594 F49L②② アノ アメガ フツオリマスチ ドーヂスカ ウ
 チノ カサ サシテイカレタラ アイテオリマスカラ
 596 F29M②③ ヨロシカッタカ カサ サシテツテ クダサイ
 597 F37M①① アー アノ チョット カサ オモチニ ナツカラ
 ドーヂスカ
 599 F48L②③ ナニニナン フツキマシタネ ドーゾ カサ
 モツテツテ クダサイヨ
 600 F27L③⑤ ウチノ カサ サシテキナサイ

魚つり (112)

- 002 M49L③⑤ 赤ーヤ ナニガ ツルル
 003 F43L②④ 赤クチャン サカナ オリマス
 005 M26H③⑤ 赤ク サカナ ツルルカ
 006 M50H②④ 赤ーヤ ツルルスカ
 009 F38L③⑤ ヨク ツルル

- 011 F42M③⑤ 赤ク ツルル
 012 F44L③⑤ 赤ク ツルルカネー
 015 F38L③⑤ ドー 赤ク ツルル
 017 F56L③⑤ 赤ク サカナガ ツルルカネ
 018 F39M③⑤ 赤ク ヒトリチ キタルノ、ナニガ ツルル、ヨク
 トルルノ
 020 M68L③⑤ 赤ーヤ ツルルカ
 023 F46L②④ サカナガ ツルルスカ
 024 F17H③⑤ 赤ク サカナ ツレタ
 026 F69L③⑤ 赤ク サカナガ ツルルカネ
 027 M22M③⑤ ドーヂイ ツルルカ
 029 F30M③⑤ 赤ーヤ ナニガ ツルル
 030 M17L③⑤ コノ バシヨ ヨク ツルル
 033 F48M②③ 赤ーヤ サカナ ツルルスカ タクサン ツツテ
 クダサイネ
 035 F47M③⑤ 赤ク サカナ ツルル
 036 F66L②④ サカナガ ツルルカ ツルルカ 下チラヂスカ
 038 F43M③⑤ 赤ーヤ サカナ ツルル
 039 M41L③⑤ 赤クチャン サカナ ツルルカネー
 041 F47H②④ 赤クワ サカナガ ツルルスカ
 042 M20L③⑤ サカナ ツルルカイ
 043 F63L③⑤ 赤ク サカナガ ツルルカネ キオ ツナナサイヨ
 045 M19L③⑤ 赤ク ツルル
 046 F72L②③ オサカナガ ツルルスカ
 047 F40L③⑤ 赤ク オーキチ サカナガ ツレタ
 048 M61L③⑤ ヒトリチ グイジョーブカ、ツルルカ
 050 F67M③⑤ アブナイカラ ヤメタ 赤ーガ イーワヨ
 052 F58H②④ オサカナ ツルルノ。チモ ヒトリチ キタノ ア
 ブナイネ。オウチ ドコヂスカ
 053 F33M③⑤ 赤ク、ナニガ ツレタノ
 054 M60M③⑤ 赤ーヤ ツルルカイ
 056 F26H②④ 赤ーヤ サカナ ツルルスカ
 057 M36M③⑤ 赤ク ナニカ ツルルカネ
 059 M24H③⑤ ツルルカネ
 060 M22L③⑤ 赤ーヤ ヨク ツルルカネ
 063 F25L③⑤ 赤ク ツルル
 065 F30L③⑤ ヨク ツルル
 066 F38M③⑤ ドンナ モノガ ツレタ
 068 F36L③⑤ 赤クー、サカナ ツルル
 069 M29M③⑤ 赤ーヤ、ドーヂイ。ツルルカネー
 071 M52L③⑤ 赤ーヤ、ドーヂイー。ツルルカヤー
 073 F23M③⑤ 赤ク ツルル
 074 M28H③⑤ オーイ、ツルルカー
 075 F34H③⑤ タクサン ツレタ
 077 F39L③⑤ ツルルカネー。ツレター。サカナ ツツトルー

- 078 F30L③⑤ 赤 タクサン ツルカ
- 080 M18W③⑤ 赤 ツルカ
- 084 M47H③⑤ 赤 ナンピキ ツルカ
- 086 F27L③⑤ ナニガ ツルカ
- 087 M25W③⑤ 赤 ツルカ
- 089 M42H③⑤ ドーダ ツルカ
- 090 F18W③⑤ ソナ トコチ ツルカ
- 091 M61L②③ 赤 ドーダスカ サカナガ ツルカ
- 092 F17W③⑤ 赤 コノ アクリリテ ツルカ
- 093 F69L②④ 赤 キン サカナガ ツルカ
- 095 F18L③⑤ サカナ ツルカ
- 096 M28L③⑤ 赤 サカナ ツルカ
- 097 M39W③⑤ 赤 キ ツルカ
- 098 F37L③⑤ タクサン ツルカ
- 099 M46L③⑤ 赤 キ ドーダ ツルカ
- 100 M16W③⑤ ツルカ
- 101 M33W②④ ツルカ
- 102 F18W③⑤ ナニガ ツルカ
- 104 M27W③⑤ 赤 サカナ ヨー ツルカ
- 105 F30L③⑤ 赤 ナニガ ツルカ
- 107 F18W②④ ヨク サカナガ ツルカ
- 108 M25W③⑤ タクサン ツルカ
- 110 F15L③⑤ ネー 赤 キ ソノ バシヨ ヨク ツルカ
- 111 M34H③⑤ 赤 ツルカ
- 113 M28W③⑤ サカナガ ツルカ
- 116 M28W③⑤ 赤 キ ツルカ
- 117 F31L③⑤ 赤 ツルカ
- 120 M59L③⑤ イー キョーワ イー ヒダガ ドーダ サカナガ ツルカ
- 122 M56W③⑤ 赤 キ ドーダ ツルカ ナカナ チョーシ ヨサゾーダネ
- 123 F18W③⑤ ネーイ ヨク ツルカ
- 125 M25H③⑤ 赤 キ ヨク ツルカ
- 126 M24L③⑤ 赤 ツルカ
- 127 M28W③⑤ 赤 サカナ ツルカ
- 128 F25W③⑤ ココ ヨク ツルカ
- 129 M22W③⑤ 赤 キ ウマク ツルカ
- 130 F36L②④ 赤 ヨク ツルカ
- 132 F65L②④ アンタ サカナ ツルカ
- 134 M73L③⑤ ナニガ ツルカ
- 135 F38L②④ 赤 キ ドーダ タクサン ツルカ
- 137 F57L②③ ツツヤン オサカナガ ツルカ ケケア アナイカネ キオ ヲナサイヨ
- 138 F37L③⑤ 赤 サカナ ツルカ
- 139 M71L③⑤ 赤 ツルカ

- 140 F74L NR
- 141 M22W③⑤ 赤 キ ツルカ
- 143 M53H③⑤ オー 赤 キ ヤツルネ ドーダ ツルカ
- 144 M17W③⑤ ココ ナニガ ツルカ
- 146 F35W③⑤ 赤 サカナ ツルカ
- 147 F30M③⑤ 赤 ツルカ
- 149 F40L②④ ツルカ
- 150 F67L③⑤ 赤 サカナ ツルカ
- 151 M68L②④ 赤 キ サカナ ツルカ キョーワ カセガ ツツヤン サカナオ ウマク ツルナイダロー ミスニ キオ ツケテ チューイ シナキ イケナイヨ
- 152 M28W②④ 赤 ツルカ
- 153 M32W③⑤ 赤 ツルカ
- 155 F47L③④ 赤 オサカナ ツルカ
- 156 F73L②④ アブナイ オカエリナシ
- 158 M25L③⑤ ツルカ
- 159 F20L②④ ツルカ
- 161 F61L②④ サカナ ツルカ
- 162 F20H③⑤ 赤 ナンピキ ツルカ
- 164 M42L③⑤ 赤 ツルカ
- 165 M16W③⑤ ナンカ ツルカ
- 168 F62L②④ サカナガ オヤマカ
- 171 F23L③⑤ 赤 ツルカ
- 173 F44L③⑤ ドー ツルカ
- 174 F61L③⑤ 赤 ツルカ イママデニ モー ツツヤ
- 176 M21L③⑤ ドーダ 赤 ツルカ
- 177 F24M③⑤ 赤 キ ドー ツルカ
- 179 F74L③⑤ サカナガ ヨー ツルカ ドーダ
- 180 M45L②④ 赤 キ ヨク ツルカ
- 182 F32M③④ 赤 オサカナ ツルカ
- 183 F23M③④ 赤 キ コノ カワチ オサカナ ツルカ
- 184 F49M②④ ツツヤン サカナ ツルカ
- 185 F32M③⑤ 赤 ツリ シルノ ツルカ アブナイカネ キオ ツケテ
- 186 F35M③⑤ ドー, ヨク, ツルカ :
- 188 M85L③⑤ 赤 キ, キョーノ サカナ ツルカ
- 189 F26L③⑤ 赤 , ナンピキ ツルカ
- 191 M25L③⑤ ソコ サカナ ツルカ
- 192 F16M③⑤ ツルカ
- 194 F20M③⑤ 赤 サカナ ツルカ
- 195 M44M③⑤ 赤 キ ドーダ, ツルカ
- 197 M72L③⑤ ツルカ
- 198 F15M③⑤ コノ カワ ヨク ツルカ
- 199 F40M②④ モー ナニガ アイダ ツツヤン, キョーワ

- クサン ツレタンダネー アツイカラ アマリ ヒニ アタラナイヂ オ
ウチニ ハキク カエリササヨ
- 200 F18M③⑤ 赤ク サカナ ツレル
201 M29M③⑤ 赤ーヤ ツレル
202 F70L②② 赤ッチャマ オサカナガ ツレマスカ
203 F49L③⑤ 赤ーヤ サカナガ コナト トコチ ツレルノ
204 M60L②② 赤ク ドーダスカ ツレマスカ
205 F65L③⑤ 赤ーヤ ヒトリチ ツッテイルノ ツレタカネー
206 M64L③⑤ 赤ク ツレルカ
207 F49M③⑤ 赤ク, ツレル
209 F15L③⑤ ツレル
210 F23L③⑤ 赤ク ツレタ
212 F23H③④ 赤ーヤ オサカナワ, ヨク ツレルノ
213 F31L③⑤ 赤ク ツレルウ
215 M41L③⑤ 赤ーヤ ヨク ツレルカ
216 F26M②④ コノ ハンテウ サカナガ ツレマスカ
218 F58L③⑤ 赤ーヤ, サカナ, ツレル
219 M49L③⑤ 赤ク サカナ ツレルカ アブナイヂ キオ ツケ
テ...
- 220 M41M③⑤ 赤ク ナニガ ツレルナ. ヨク ツレルカネ
221 M56M③⑤ セーガ テルネー 赤ーヤ
222 F26L③⑤ 赤ク, サカナ ツレル ナニガ ツレルノ
223 F63L②④ 赤ク ツレマスカネー
224 M21L③⑤ ナンカ ツレタカー
227 F28M③⑤ 赤ク, キョー ヨク ツレル
230 F37H③⑤ 赤ーヤ ツレタカネー
231 M23H③⑤ 赤ーヤ ヨク ツレルカ
233 F25L③⑤ 赤ク サカナ トレル
236 M33M③⑤ 赤ク. ドーダ. ツレルカ
237 M38M③⑤ オーイ, ツレルカ
240 M20M③⑤ ツレルカイ
242 M31M③⑤ 赤ク, ドーダナ, ツレルカネ
243 M63L③⑤ 赤ーヤ サカナ ツレルカ, ドーダイ
245 M52L③⑤ 赤ーヤ ナニガ ツレル
246 M23M③⑤ 赤ーヤ サカナ ツレルカイ
248 M59L③⑤ 赤ーヤ サカナ ツレルカ
249 F42H③⑤ 赤ク ツレル
250 M22H③⑤ キョーウ ツレルカナ
251 F36M②④ ドー ナニ ツッテルノ ヨク ツレマスカ
252 F26M③⑤ 赤ク, ツレゾー
254 F32L③⑤ サカナ ツレルネー
256 M24H③⑤ 赤ク, サカナ ヨク ツレル
258 M34M③⑤ 赤ク ツレルカ
260 F33M③⑤ 赤ク サカナ ツレルノ
261 M42L③⑤ 赤ク ツレルカイ
- 262 F47M②④ 赤ーヤ サカナ ツレマスカ
265 M24M③⑤ ヨク ツレルカ
266 F22M③⑤ サカナ ツレル
267 M39M③⑤ 赤ーヤ ツレルカイ
269 M59L③⑤ 赤ーヤ サカナ ツレルカ
270 F28H③⑤ ドーオ, 赤ク ツレル
271 M32L③⑤ 赤ク, ヨク ツレルカイ
272 F38M②④ サカナ ツレマスカ
273 F27H③⑤ ナニ ツッテンノ タクサン ツレタ フレグライ
ツレタカ チョット ミシテ
- 275 F50L②④ サカナ ツレマスカ
276 F22L③⑤ 赤ク ツレル
278 M41L③⑤ 赤ク ツレルカー
279 F60L③⑤ タノシソーダネ ナンベキグライ ツレタ
281 F38H③⑤ タクサン ツレル
284 F33M②④ 赤ク サカナ ツレマスカ
285 M66M③⑤ オイ 赤ーヤ, ツレルカエ
287 F23H③⑤ 赤ク ヒトリチ キテル, ドーオ, サカナ ツレル
288 M47H③⑤ 赤ーヤ ヨク ツレルカイ
290 F41H②④ 赤ーヤ ヨク ツレマスカ オモシロイ
291 F24H③⑤ 赤ク ナニ ツッテルノ, ツレル
292 F21H③⑤ 赤ク サカナ タクサン ツレル
293 F22H③⑤ 赤ク ツレルウ
294 F19H③⑤ 赤ク サカナ ツレル
296 M33L③⑤ 赤ク ツレルカ
297 F48L③⑤ ドーオ, ツレター
299 M35H③⑤ ドー ヨク ツレル
300 F46L②③ ソナト トコチ ツッテテウ アブナイヂサヨ ツ
レマスカ
- 302 F58L②④ チョット ヨク ツレマスカ
303 F55L③⑤ サカナガ ツレルカネ
305 M33H③⑤ オイ, ドーダ ツレレルカ
306 F37M③⑤ 赤ク ヨク ツレル
308 M19M③⑤ ツレルカナ
309 F25H③⑤ ドー ツレル
311 F24M③⑤ サカナ ツレル
312 M33L③⑤ ドー, チョーシウ ドー
314 M34M③⑤ 赤ーヤ サカナ ツレル
315 F30M③⑤ ヨク ツレル
317 F48L③⑤ 赤ク サカナ ツレル
318 F60M②④ 赤ッチャマン オサカナ ツッテレルド ツレマスカ
アムナイカラ キオ ツケナサヨ
- 320 F17L③⑤ 赤ク タクサン ツレル
321 M33M③⑤ 赤ク, ナニガ ツレルンダイ
323 F21M③⑤ 赤ク サカナ ツレル

- 324 F23M③⑤ トーオ ツレカ
 326 M27H③⑤ ツルカ、ミセツ クレルカイ
 327 F23L③⑤ 赤ク、サカナ ツル
 329 M44M③⑤ 赤クサン ツルカナー
 330 M75L③⑤ サカナガ ツルカナ トーヂ
 331 F57L②④ ネ、赤ク、ツルマスカ
 332 M29H②④ 赤ーヤ サカナ ツルマスカ
 333 M40L③⑤ オーイ ナニガ ツルカナー
 334 F67L②④ 赤ーヤ サカナ ツツツツ エライ コダネ、ツ
 レマシク
 335 F27M③⑤ 赤ク ツル
 337 M51L③⑤ トーダネ、ツルカネ
 338 F40L③⑤ 赤ーヤ サカナ ツル
 339 M74L③⑤ ヨク ツルカヤ 赤ーヤ
 341 F15L③⑤ 赤ーヤ サカナ ヨク ツル
 342 M35M②④ 赤ク、サカナガ ツルマスカ
 345 M26L③⑤ 赤ク ヨク ツルカ
 347 F62M②③ マー チョット 赤ーヤ、ソコヂ オサカナガ ツ
 ルマスカ
 348 M19M③⑤ 赤ーヤ ヨク ツルカネー
 350 F37M③⑤ 赤クー サカナガ ツル
 351 F49L②④ 赤ーヤ ツルマスカネ
 353 F22L③⑤ 赤ク ツル
 354 F31M③⑤ 赤ク ツル
 355 M37M③⑤ 赤ー、ツルカヤ
 356 M31H③⑤ 赤ーヤ コロク ヨク ツルカナ
 357 F23L③⑤ 赤ク タクサン ツル
 358 M34L③⑤ ヤー ツルカ
 359 F45H③⑤ 赤ーヤ オモシロイ、ツル
 360 F74L②④ モシモシ サカナガ ツルマスカ
 361 F68L②② 赤ーヤ ソコヂ サカナ ツツツミアスケト サ
 カナリ ソコヂ ヨー ツルマスカ
 362 M32L③⑤ 赤ク ツル
 363 M54L③⑤ 赤ーヤ ツルカガ サカナ ツルカネ トーヂ
 ネ
 365 F55H②④ 赤ク ソコク ナニガ ツルマスカ
 366 F61L②④ 赤ク ツルマスカ
 367 M42L③⑤ 赤ク サカナガ ツルカ
 368 M47M③⑤ 赤ー ナニガ ツルカ
 369 F47L③⑤ 赤ク ツル
 374 F23M②④ 赤ク サカナガ ツルマスカ
 375 F21L③⑤ ヨク ツル
 377 F28M②④ 赤ーヤ ツルマシタ
 378 F56M②③ モシモシ 赤ーヤ オサカナク ヨク ツルマスカ
 379 M32H③⑤ オニチャン ツルカネ
 380 F75L②③ 赤ーヤ オサカナガ ツルマシタ
 383 M55L③⑤ 赤ーヤ ツルカネ
 384 F22M③⑤ 赤ク、モー、ナニガ ツルカ
 387 F54L②③ 赤ーヤ オサカナ ツルマスカ
 389 F28L③⑤ 赤クー ナニ ツル
 390 F78L③④ 赤ク オサカナツルカネ
 392 F69M②④ 赤ーヤ チンキネー、ヨク ツルマスカ
 393 F23H③⑤ 赤ク、ナニガ ツル
 395 F38L③④ 赤ク タジソーネ、オサカナ ツル
 396 M65M③⑤ 赤ーヤ キョウ トーヂイ ツルカ
 397 M16L②④ チョット サカナク ヨー ツルマスカ
 399 F21M③④ 赤ク オサカナ タクサン ツル
 401 F66L②④ 赤ーヤ ツルマスカ
 402 F62M③⑤ 赤ク ツル
 404 F47M②④ サカナガ ツルカ。オトモヂチウ イナイノ。ア
 ブナイカラ ミンナノ イル トコヂ ツツクラ トーダネ
 407 F21M③⑤ ナニガ ツル
 410 M22H③⑤ タクサン サカナ ツル
 411 M16M③⑤ ネー キミ、サカナ ツルカ
 413 F55L②④ 赤ク、ナニガ ツルマスカ
 414 M45L③⑤ 赤ク トーカナ、サカナガ タクサン ツルカ
 417 M49L③⑤ オイ 赤ーズ、サカナ ツルカヤ
 418 F28M③⑤ 赤ク、サカナ ヨク ツル
 419 F34M②④ 赤ーヤ ツルマシタ
 420 F33L③⑤ 赤ク ツルカ
 423 F65L②④ チョット 赤ーヤ サカナ ツルマスカ
 426 F33L③⑤ 赤ク タクサン ツルカ、ナニガ ツルカ
 428 F22H③⑤ 赤ク サカナク タクサン ツルカネー
 429 M42L③⑤ 赤ーヤ サカナ ツルカ
 431 F25H③⑤ 赤ク、ナニガ ツル
 432 M35M③⑤ 赤ク ナニガ ツル
 434 F25L②④ 赤ーヤ ツルマスカ
 435 F19H③④ 赤ク、ソコヂ オサカナ、ツル
 436 F69L②④ 赤ク、ツルマスカ
 438 F34L②④ 赤ーヤ、トーオ、ツルマスカ
 439 M20M③⑤ ネエ 赤ク ツル
 440 F74L②④ ココヂ ヨー ツルマスカ
 441 F31L③⑤ 赤ク、ツル
 443 M18L③⑤ 赤ク、ソコヂ サカナ ツル
 444 F22M③④ 赤ク、オサカナ ツル
 447 F20H③⑤ 赤クー、サカナ ツル
 449 M49M③⑤ 赤ー、サカナ ツルカ
 450 F19M②② 赤ク タジソーチスネー、トーダネ、ツルマ
 カ
 452 M59L③⑤ 赤ーヤ、サカナガ ツルカ

- 453 F15M③⑤ ヨク ツルカ
 454 M19M③⑤ 赤ー, ツルカ
 455 F34M③⑤ 赤, ツルカ
 456 F16M③⑤ ヨク, ツルカ
 458 M31L③⑤ 赤, タクサン ツルカネ
 459 F17M③⑤ チョット 赤 コノ ヘン ツルカ
 462 M23M③⑤ トーダ ツルカ
 463 M59M②③ トーダスカ, タクサン ツルカ
 464 M74L③⑤ コトモサン, オサカナオ ツルカ イーガ ẽ
 ータイニ キオ ヲケニヤ イカシネ
 466 F32M③④ 赤ーヤ オサカナ ツルカ
 467 F61M②② 赤ッチャン, オノシミヂスネ, アノー オサカナ,
 ヨク ツルカ
 468 M36L②④ 赤 ヲサナガ アマリ ツレナイネ。赤 コ
 サナ ツルカ
 470 M38H③⑤ 赤ーヤ ツルカ
 471 F32L③⑤ サナ ツルカ
 473 M19M③⑤ ネー 赤ーヤ サナ ヲツカ
 474 M20M③⑤ サナ, ツルカ
 476 M19M③⑤ サナツ ツルカイ
 477 M25H③⑤ 赤 ソコ, ツルカ
 479 M15L③⑤ キミ, ツルカイ
 480 M16M③⑤ キミ サナ, ツルカ
 481 F63L③⑤ サナガ ツルカ
 482 M29M③⑤ オイ, 赤ー, ツルカ
 483 M34H③⑤ 赤 サナ ツルカ
 485 F49L②③ 赤ーヤ オサナガ ツルカ
 486 M43L③⑤ オヤ ヲツルカ ー カツカカエ ウーン
 487 F29L③⑤ 赤 トー ツルカ
 488 M68L②④ ツルカ
 489 M29L③⑤ 赤 チョット ツルカ
 490 F50L③⑤ 赤 ツルカ トナノ
 491 M28M③⑤ 赤 ツルカ
 492 F27L③⑤ 赤 タイヘン ツルカ
 494 F15L③⑤ 赤ーヤ ヨク ツルカ
 495 F49L③⑤ 赤ーヤ サナ ツルカ
 496 F38L③⑤ 赤 サナ タクサン トソ。ウチノ コモ
 ツリガ スキダネ 赤 タクサン トソ
 497 F21M③⑤ 赤 サナ ツルカ
 498 F50L②④ 赤 サナ ツルカ
 500 F46L③⑤ 赤 サナガ ツルカ
 503 M21L③⑤ 赤ーヤ サナ ツルカイ
 504 M17M③⑤ チョット ヨク ツルカ
 506 F41L③⑤ アノー 赤 ツルカ
 507 M41L③⑤ 赤ーヤ ツルカ
 508 M23L③⑤ トー ツルカ
 509 F30L③⑤ 赤 ヨク ツルカ
 510 F18M③⑤ 赤 サナ ツルカ
 512 F17M③⑤ サナ ツルカ
 513 F35M②④ ツリヤ オモシロイヂショカ
 514 F28L③⑤ 赤 ナニカ ツルカ
 515 F53L③④ オニヤン ツルカ
 518 M38L③⑤ 赤ーヤ サナ ツルカイ
 517 M59M③⑤ 赤ーヤ ヨク ツルカ
 518 F42L③⑤ 赤 タクサン, ツルカ
 519 F30M③⑤ トー タクサン ツルカ
 522 F46L③⑤ 赤ーヤ ツルカ
 525 M36L③⑤ 赤 ツルカ
 527 F25L②④ タクサン ツルカ
 528 M41M③⑤ 赤ー トーダ ナンビキ ヲツカ
 ーイ ヲツカ
 531 M26L③⑤ ヨー ツルカ
 533 M48L③⑤ トーダネ サナ ヨク ツルカ
 534 F18M③⑤ 赤ーヤ ヨク ツルカ
 537 M35M③⑤ トーダ, ツルカイ
 539 M24H③⑤ ツルカ
 540 M72L③⑤ 赤ーヤ ヨー ツルカ
 542 M51L③⑤ 赤ーヤ ツルカイ
 543 M55L③⑤ 赤ー, ツルカ
 545 M46H③⑤ 赤ーヤ ツルカイ
 546 F36L③⑤ 赤 トナ サナガ ツルカ
 548 F51H②④ サナガ ツルカ
 551 F45H③⑤ 赤, ヒトリツ サナ ヲツルカ
 552 M24M③⑤ 赤ー, サナ コノ ヘン ツルカ
 554 F43H③⑤ 赤 ツルカ
 555 F50M②④ 赤 サナ ツルカ
 557 F31M②② タクサンニ ヲツカケト ツルカ,
 ナンビキ ツルカ
 558 F49L③⑤ サナ ツルカ
 561 F22H③⑤ サナオ ヲツルカ。ナンビキ
 ーイ ツルカ
 565 M45L③⑤ 赤 ツルカイ。ウマク ヲツカ
 566 F15L③⑤ ツルカ
 567 F21H③⑤ トー。タクサン ツルカ
 568 F28M③⑤ ナニガ ツルカ。赤 ツルカ
 569 M26L③⑤ 赤 ツルカ
 570 F42M③⑤ 赤 オサナ ツルカ
 572 F29L③⑤ 赤ーヤ, ツルカ
 575 M17M③⑤ ツルカ
 576 M26H③⑤ タイツ ツルカ

- 578 M37M③⑤ サカ ヨク ツルカネ
- 579 M43M③⑤ トー、ツルル
- 581 F54M③⑤ ツル
- 582 M17M③⑤ チョーシワ トータイ
- 583 F61L②② ホツチャン ヒトリチ オサカガ ツルマカ
トーダカ
- 584 F19H③⑤ 糸 ツル
- 585 F45L②④ ヨク ツルマカ
- 586 M36M③⑤ 赤ーヤ キョー サカ ツルカネ
- 587 F16M③⑤ 糸 ヨク ツル
- 588 M33M③⑤ 糸、トー、ツル
- 590 F33M③⑤ 糸 サカガ ツルノ
- 591 F28L③⑤ イマ トダケ ツツル
- 592 M42L③⑤ 赤ーヤ サカガ ツルカネ
- 593 F36L②④ 糸 サカガ ツルマカ
- 594 F49L③⑤ 糸 ナニガ ツルノ
- 596 F29M③⑤ 糸 サカ ツク
- 597 F37M②④ アノ 糸 ヨク ツルマカ
- 599 F48L②④ ホツチャン オサカ ツル。ホーキナガ ヲ
ムト イーワネ
- 600 F27L②④ トナ サカガ ツルマカ

市役所 (113)

- 002 M49L②③ オキゾ ヨーヂ シヤクシヨマテ イキマ
- 003 F43L②② チニ タノマレシテ シヤクシヨエ イク ト
コロダス
- 005 M26H②② チニ ヨーゾ タノマレシタノチ イマカ
シヤクシヨエ イク トコロダス
- 006 M50H②④ シヤクシヨエ イク トコロナダス
- 009 F38L②③ チチオノ ヨーヂチ チョット イキマ
- 011 F42M②③ チニ タノマレカク シヤクシヨエ イク ト
コロダス
- 012 F44L②③ イマ チノ ヨーヂチ シヤクシヨエ チョット
イツキマ
- 015 F38L③⑤ チョット ソコマチ ヨーヂ シテイク
- 017 F56L②④ イマ オトサンノ ヨーヂチ シヤクシヨエ イ
ク トコロダス
- 018 F39M②④ チョット シヤクシヨマテ ヨーヂチ アツテ チ
カカル トコロダス
- 020 M68L②④ イマ オトサンニ コト シヤクシヨエ モツテ
イクヨーニ イワレタノチ モツテイキマ
- 023 F46L②③ イマカラ チチカラノ オウカイチ シヤクシヨエ
イク トコロダス
- 024 F17H②③ チノ ヨーヂチ ツカニ イク トコロダス

- 028 F69L②③ ワクシノ チノ オウカイチ シヤクシヨエ ヨ
ーヂチ アルチ ゴブルー サシテ モラツテ イキマ
- 027 M22M③⑤ チョット オキゾノ ヨーヂチ シヤクシヨマテ
- 029 F30M①② イマ チニ コーコシカガチ ヨーヂチ ク
ノマレシタノチ チョット イノチイマノチ シヤクシヨマテ イ
キタインダス チョット イノチイマノチ シツルー シマ
- 030 M17L②④ オトサンニ タノマレテ シヤクシヨエ ヨーヂ
ニ イク トコロダス
- 033 F48M①① チニ タノマレシテ オウカイ イキマノチ
タケ
- 035 F47M①① イマ チノ ヨーヂチ、チョット シヤクシヨマ
テ イク トコロチ コシイマ
- 036 F66L②④ イマ オトサンカラ イーワカツテキタ コレ
カラ シヤクシヨエ オウカニ イキマ
- 038 F43M①② イマ チョット チノ ヨーヂチ シヤクシヨエ
イキマガ イチノ オヨリニ ナツテ クダシ
- 039 M41L②③ シヤクシヨエ イマカラ チノ ヨーヂチ イク
チー ツカイチ イキマ
- 041 F47H②② チチガ シヤクシヨエ ヨーゾオ イーワケマシ
ノチ イマカラ イキマ
- 042 M20L②④ チョット シヤクシヨノ ホー イツキマ
- 043 F63L②④ オトサンニ ヨーゾオ イーワカツテ イマ シ
ヤクシヨエ オウカニ イク トコロダス
- 045 M19L③⑤ チョット ソコマチ ヨーヂチ アルチ
- 046 F72L②③ オトサンニ タノマレシタノチ シヤクシヨエ
イマ イク トコロダス
- 047 F40L②④ オトサンノ ヨーヂチ ヤクシヨエ オウカニ
イキマ
- 048 M61L③⑤ シヤクシヨエ ヨーガ アルチ チョット イク
- 050 F67M②④ イマカラ オトサンノ ヨーヂチ シヤクシヨエ
イキマ
- 052 F58H②③ イマ チニ タノマレテ シヤクシヨエ イク
トコロダス
- 053 F33M②③ イマ チノ ヨーヂチ シヤクシヨエ イク ト
コロダス
- 054 M60M②② オキゾニ タノマレタノチ チョット シヤクシヨ
マテ イツマイリマ
- 056 F26H②④ イノ ヨーヂチ オウカニ イク トコロダス
- 057 M36M②③ チニ タノマレテ シヤクシヨエ イク トコロ
ダス
- 059 M24H②③ チノ ヨーヂチ シヤクシヨエ イク トコロ
ダス
- 060 M22L②③ チノ ヨーヂチ シヤクシヨエ イキマ
- 063 F25L②③ イマカラ シヤクシヨエ イクノチタケ
- 065 F30L②③ アノー チノ ツカイチ シヤクシヨエ イキマ

- 066 F38M②④ イマカ シヤクシヨニ テカケル トコロデス
- 068 F36L③⑤ アノ フョット スガ ソコマデ ヨーゾガ アル
テ
- 069 M29M②③ イヤー コソニチウー。ゾウワ オヤゾノ ショト
テ シヤクシヨマデ イクンデスガ
- 071 M52L③⑤ オヤゾノ ムツコイチユカチ キタ
- 073 F23M②③ チノ ヨーゾチ フョット シヤクシヨマデ イ
キマスガ
- 074 M28H②③ チチカラ タノマレテ シヤクシヨニ イク トコ
ロナンデス
- 075 F34H②② チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ マリマス
- 077 F39L②④ オトサンノ ヨーゾチ シヤクシヨイ イキマス
- 078 F30L②④ イマカテ シヤクシヨマデ イツケルンデスヨ
- 080 M18M②③ イマ フョット オヤゾノ ヨーゾチ シヤクシ
ヨニ イク トコロデス
- 084 M47H②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ テカケマス
- 086 F27L②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデデス
- 087 M25M②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨニ イク トコロデ
ス
- 089 M42H②③ オヤゾノ ヨーゾチ イマカテ シヤクシヨ イ
ク トコロデスヨ
- 090 F16M②③ チチニ タノマレテ シヤクシヨニ イク トコロ
デス
- 091 M61L②③ チチオヤニ タノマレテ シヤクシヨイ テカケマ
ス
- 092 F17M②③ チチニ タノマレテ コレカラ シヤクシヨマデ
イク トコロデス
- 093 F69L②④ オトサンニ タノマレテ シヤクシヨイ イキ
マス
- 095 F18L②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨニ イク トコロデ
ス
- 096 M28L②③ チチニ ヨーゾ タノマレテ シヤクシヨイ イク
トコロデス
- 097 M39M②③ オヤゾノ ヨーゾチ シヤクシヨニ イキマス
- 098 F37L②④ オトサンノ ヨーゾチ フョット シヤクシヨマ
デ イツキマス
- 099 M46L②④ トーサンガ シヤクシヨイ イケト イツカチ イ
マ シヤクシヨイ イク トチューデス
- 100 M16M②③ チチニ シヤクシヨイ イツケ クレナイカト イ
ワケナチ フョット イマカラ イク トコロデス
- 101 M33M②③ オヤゾノ メーレーチ シヤクシヨニ イクンデス
- 102 F16M②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ イキマス
- 104 M27M②② アー コソニチウ フーモ フョット オヤゾニ
タノマレマシテ シヤクシヨノ ホーマデ イツキマス
- 105 F30L②④ アー イマニ オトサンガ フョット シヤクシ

- ヨニ ヨーゾ タノマレタリテ イツキマス
- 107 F18M②③ チチニ タノマレテ シヤクシヨニ イク トコロ
デス
- 108 M25M②③ アノ イマカラ チチニ タノマレテ シヤクシ
ヨニ イク トコロナンデスガト
- 110 F15L②③ チチニ ヨーゾオ タノマレテ シヤクシヨニ イ
ク トコロデス
- 111 M34H③⑤ フョット オヤゾノ ヨーチ シヤクシヨマデ
- 113 M28M②④ オトサンノ ヨーゾチ フョット シヤクシヨイ
イキマス
- 116 M26M②③ チチニ タノマレテ シヤクシヨイ イク トチ
ューデス
- 117 F31L②③ イマ チノ オウカイテ シヤクシヨニ イク
トチューデス
- 120 M59L②③ ハイ コソチウ イマニ チチオヤニ タノマレテ
フョット シヤクシヨマデ イク コトガ テカケテニ ヨーゾオ タ
シニ イク トチューデス
- 122 M56M②② ア、コソニチウ ワカクシ イマ チチオヤノ ヨ
ーゾチ シヤクシヨニ マリマス トーカ コソレー シマシケレドモ
- 123 F18M②② イマ チチカラ フョット タノマレモノガ アリ
マシテ シヤクシヨイ イク トコロデス
- 125 M25H②③ オヤゾニ タノマレテ シヤクシヨイ イク トチ
ューデス
- 126 M24L③⑤ オヤゾサンニ タノマレテ フョット シヤクシ
ヨ イツケルガ
- 127 M28M②④ イマ オヤゾガ シヤクシヨイ イツケコト イ
ツカチ フョット イツケルガ ウチニチニ ヨツテ イツク ヤツ
トツテ クダシイ
- 128 F25M②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ イキマス
- 129 M22M②③ オヤゾガ フョット シヤクシヨニ イケト イツ
タカラ フョット ヨーゾチ イキマス
- 130 F36L②③ チノ イーツカチ シヤクシヨニ イク トコロ
デス
- 132 F65L②④ オトサンニ シヤクシヨイ イツキテ クレト
タノマレテ イマカラ イク トコロデス
- 134 M73L③⑤ ワカシウ イマ オトサンニ タノマレテ シ
ヤクシヨイ ヨーゾノ コトオ ヤリニ イク
- 135 F38L③⑤ コソニチウ イマ オトサンノ ヨーゾチ フ
ョット シヤクシヨマデ...
- 137 F57L②③ オトサンニ シヤクシヨニ イクノオ タノマ
レマシタラ イマカラ シヤクシヨニ マリマス
- 138 F37L②③ チチニ タノマレテ フョット シヤクシヨマデ
ヨーゾニ イキマス
- 139 M71L②④ フョット イマ シヤクシヨニオ オヤゾニ シ
イ コトガ アルデ ココマチ ヤツキマシタ アナタモ ヒジツシリ

- 夕ネ
 140 F74L③⑤ チョット ヲコマチ
 141 M22M②③ ワカシウ イマカラ チノ ヨーヅチ シヤクシ
 ヨニ イク トコロチス
 143 M53H②② エー チョット チノ ヨーヅチ シヤクシヨエ
 マイリス
 144 M17M②③ チニ イワレテ イマカラ シヤクシヨニ イク
 トコロチス
 146 F35M②③ イマ チニ ヨーゾオ タノメクナレテ シヤク
 シヨマテ イキマス
 147 F30M②③ シヤクシヨマテ ヨーヅチ アリマスナデ チョッ
 ト イツキマス
 149 F40L②④ オトサンノ ヨーヅチ シヤクシヨエ イキマス
 150 F67L③⑤ オトサン タノメクナレテ シヤクシヨ イク
 151 M68L②③ コソニチウ ドーモ シバラクナリテ ヨー……
 イマ チチガ ヨーヅチ アテガエラレテ シヤクシヨエ チョット オ
 ヲカニ イツテコイト ユーナデ イマ チカクナ トコロチス
 152 M28M②③ イマカラ シヤクシヨニ ヨーヅチ アリマスジテ
 イキマス
 153 M32M②③ チノ ヨーヅチ シヤクシヨマテ イク トコロ
 チス
 155 F47L②③ オトサンノ ヨーヅチ シヤクシヨマテ マリ
 マス
 156 F73L NR
 158 M25L③⑤ オヤジサンガ シヤクシヨノ ヨーヅチ アレデ
 イク
 159 F20L②③ チノ ヨーヅチ シヤクシヨニ イキマス
 161 F61L③⑤ シヤクシヨ イク
 162 F20H②③ チノ ヨーヅチ…… シヤクシヨニ イク トチ
 ユーチス
 164 M42L②③ ウチノ オヤジガ シヤクシヨエ イツテコイト
 イツナレテ イマカラ イク トコロチス
 165 M16M②③ イマ チョット チノ ヨーヅチ シヤクシヨニ
 イク トコロチス
 168 F62L②③ チョット ヤクシヨニ ヨーヅチ アリマスナデ
 171 F23L②③ チニ タノメレテ シヤクシヨニ イク トコロ
 チス
 173 F44L③⑤ ワカシウ オトサンニ タノメレテ チョット
 シヤクシヨマテ
 174 F61L②③ チョット シヤクシヨマテ チョット ヨーヅチ
 マイリス
 176 M21L②④ イマ オヤジサンノ ヨーチ シヤクシヨニ イ
 マス
 177 F24M②③ イマ チョット チノ ヨーヅチ シヤクシヨニ
 イキマス
 179 F74L②④ オトサンニ タノメレテ シヤクシヨニ オ
 ヲカニ イクチス
 180 M45L②② ハイ ジョウ チチヤノ ヨーヅチ シヤクシ
 ニ イツキマス
 182 F32M②③ チノ ヨーヅチ シヤクシヨマテ イキマス
 183 F23M②③ チノ ヨーヅチ シヤクシヨマテ イツキマス
 184 F49M②④ チチガ シヤクシヨマテ ヨーヅチ イツテコイト
 イワクナレテ イマカラ イツキマス
 185 F32M②② チノ ヨーヅチ シヤクシヨマテ マリマス
 186 F33M②② チチガ シヤクシヨエ イクヨーニ イワレマス
 タカラ…… イク トコロチス
 188 M65L②③ ジョウ、オヤジニ タノメレテ、シヤクシヨエ、ト
 フクニ イク トチユーチス
 189 F26L②③ イマ チョット、シヤクシヨエ チカケマスケド
 191 M25L②④ オトサンガ シヤクシヨエ イケト イツナレ
 イマ イク トコロチス
 192 F16M③⑤ チョット シヤクシヨマテ
 194 F20M②③ イマ ウチノ チチガ チョット シヤクシヨニ
 ヨーヅチ アレカサネ コレ モツテツツネツツ タノメクナレ
 ラ イマカラ チョット モツテイク トコロチス
 195 M44M②③ チョット オヤジニ タノメレテ シヤクシヨニ
 イク トコロチス
 197 M72L②④ チョット ヨーヅチ アツテ イキマス
 198 F15M②③ チニ、シヤクシヨエ、ヨーゾオ タノメクナレ
 イマ イク トコロチス
 199 F40M②③ イマ チョット サトニ ヨウカラ チョット チ
 チニ タノメクナレ マジ アツテ ノノ シヨルイオ モツテ シヤク
 シヨニ イクチス
 200 F18M③⑤ チニ タノメレテ シヤクシヨマテ
 201 M29M②④ オヤジニ タノメレテ シヤクシヨエ イキマス
 202 F70L②③ オトサンカラ シヤクシヨニ イツテコイト イ
 マシクテ チカケマス
 203 F49L②④ イマ チチガガ シヤクシヨニ ヨーゾオ タノ
 メクナレテ チョット ヒトツバシリ イツキマス
 204 M60L②③ チノ ヨーヅチ イマカラ シヤクシヨニ イク
 トコロチス
 205 F65L②④ オトサンノ ヨーチ シヤクシヨエ イキマス
 206 M64L②③ オヤジガ シヤクシヨエ ヲカニ イクチカクテ
 イマ チカケル トコロチス
 207 F49M③⑤ チョット チニ タノメレテ シヤクシヨマテ
 209 F15L②③ チニ タノメレテ シヤクシヨニ イク トコロ
 チスケド
 210 F23L③⑤ オノ ヨーヅチ シヤクシヨマテ
 212 F23H②② チチガ、イウモ オセワニ ナツテオリマス。イマ
 カラ シヤクシヨノ ホーイ チニ ヨーゾオ イーツカケルナレ

- 288 M47H②③ オツノ イツカチ シヤクシヨイ イク トコロデス
- 290 F41H②② チチオキニ クノメマシテ コレカラ シヤクシヨマデ マイル トコロデス
- 291 F24H②② チョット チノ ヨーナンデ シヤクシヨマデ マイル
- 292 F21H②② チニ クノメレテ シヤクシヨニ マイル
- 293 F22H②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ イキマス
- 294 F19H②③ イマ チニ クノメレテ、シヤクシヨニ イク トコロデス
- 296 M33L②③ ア、F-モ コニチヲ、オツノニ クノメレテ シヤクシヨイ チョット イク トコロデス
- 297 F48L②② イモオ オセウ ナツテオリマス キョーウ、チチノ ヨーゾチ シヤクシヨイ マイルスノチ テウ コレデ シツレ - シマス
- 299 M35H②③ オツノ ヨーゾチ シヤクシヨイ イキマス
- 300 F46L②④ イマカラ シヤクシヨイ オトサンガ イツゴイテ イルカカラ イマカラ イウゾス
- 302 F58L③⑤ オトサンガ イツチユクカテ イカガ
- 303 F55L②④ オトサンノ ヨーゾチ イマ シヤクシヨニ イキマス
- 305 M33H②③ イマ チノ ヨーゾチ シヤクシヨニ イコト オキテイマス
- 306 F37M②② チノ ヨーゾチ シヤクシヨニ マイル トコロデス
- 308 M19M②③ チニ クノメレテ シヤクシヨニ イク トコロデス
- 309 F25H②③ イマ チチカラ チョット ヨームキ クノメレテ シヤクシヨニ イク トコロデス
- 311 F24M②② シヤクシヨニ ヨーガ アルデ イク トコロデス チョット チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ イク トコロデス
- 312 M33L②③ チノ ヨーゾチ、シヤクシヨイ チカケマス
- 314 M34M②③ チノ ヨーゾチ イマカラ シヤクシヨニ イク トコロデス
- 315 F30M②③ チョット チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ イツキマス
- 317 F48L③⑤ イマ チョット イマ オトサンノ オツカイデ シヤクシヨイ イツケルゾ
- 318 F60M②④ オトサンノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ チョット ヨーオ クニ イク トコロデス
- 320 F17L②③ チノ イーツカチ シヤクシヨニ チョット イツキマスゲド
- 321 M33M③⑤ チョット オツノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ
- 323 F21M②④ イマ オトサンノ イーツカチ シヤクシヨイ イク トコロデス

- 324 F23M③⑤ チョット チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ
- 326 M27H②④ オトサンニ イワレテ シヤクシヨニ イツキマシテ イワレテカラ イマ イク トコロデス
- 327 F23L②④ オトサンニ クノメレテ シヤクシヨマデ イキマス
- 329 M44M②③ オツノ シヤクシヨイ ヨーケニ イトエ - コトオ イツカチ ヲコイ テムキマス
- 330 M75L②④ オトサンノ オツカイデ イマカラ シヤクシヨニ オツカイニ イウゾス
- 331 F57L②④ オトツワンノ ヨーゾチ、シヤクシヨニ イマカラ イク トコロデス
- 332 M29H②③ チチオノ ヨーゾチ イマ シヤクシヨイ イク トコロデス
- 333 M40L②④ チョット オトサンニ イワレテ イマカラ シヤクシヨイ ヨーゾチ アツテ イキマス
- 334 F67L②④ オトサンガ オツカイニ イツキマシテ クレト イルカチ イマカラ イツキマス
- 335 F27M②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ イキマス
- 337 M51L②④ オツノ ヨーゾチ シヤクシヨイ イキマス
- 338 F40L②③ チチオキニ クノメレテ シヤクシヨマデ イク トコロデス
- 339 M74L②④ オトサンガ シヤクシヨイ イツゴイト イウゾチ イマ イク トコロデス
- 341 F15L②③ チノ オツカイデ シヤクシヨイ イク トコロデス
- 342 M35M③⑤ チョット ヲコイ
- 345 M26L②③ イマ チョット チチオノ ヨーゾチ シヤクシヨイ イク トコロデス
- 347 F62M②③ チチオガ イケト イツカチ イマカラ ワクシウ シヤクシヨイ イキマス
- 348 M19M②③ チニ クノメレテ シヤクシヨイ イク トコロデス
- 350 F37M②④ オトサンガ イツキキ-ツツ イツカチ イマ シヨルイ シヤクシヨイ モツテイク トコロデス
- 351 F49L②④ オトサンガ シヤクシヨニ イツテラツシヤイト イツカチ、キマシク
- 353 F22L②③ チノ ツカイデ シヤクシヨマデ イツキマス
- 354 F31M②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨイ イク トコロデス
- 355 M37M②③ チチカラ ヨーゾ イーツカチルンデ イマカラ、シヤクシヨイ イク トコロデス
- 356 M31H②③ チノ ヨーゾチ シヤクシヨイ イク トコロデス
- 357 F23L②④ オトサンノ ヨーゾチ シヤクシヨマデ イク トコロデス
- 358 M34L③⑤ オツノ ヨーゾチ シヤクシヨニ イク

- 359 F45H②④ オトサンニ タノメテ イマカラ チョット
シヤクシヨマデ イツテキマス
- 360 F74L②④ イマ チョット シヤクシヨイ チョット ヨーゾ
ガ アツテ イク トコロデス
- 361 F68L②③ チチガ シヤクシヨニ イケト イーマシタ
- 362 M32L②③ チチニ タノメタカラ、イマカラ シヤクシヨイ
チョット ショーメーショ モライニ イクンデス
- 363 M54L NR
- 365 F55H②③ チチニ タノメタチー チョット ヨーデ イッ
テキマス
- 366 F61L②② チチノ ぢイリテ チット イマ シヤクシヨマデ
マイリマス
- 367 M42L②③ アノー チチカラ タノメテ シヤクシヨイ チ
ョット ヨーゾ イツテ クルト ユーゾイ イマカラ イク トコロ
デス
- 368 M47M②③ オヤジガ イクツツカチ イマ イク トコロ
デス
- 369 F47L②④ オトサンニ タノメテ ヤクシヨイ イマ チ
カケマス
- 374 F23M②③ チチノ タノメタノデ シヤクシヨニ イク ト
チューナンデス
- 375 F21L②② チチニ タノメテ シヤクシヨニ イクンデス
- 377 F28M②③ ウチノ チチニ タノメテ シヤクシヨイ イキ
マス
- 378 F58M②③ チチニ タノメテ イマ シヤクシヨニ イコ
ト オモツテオリマス
- 379 M32H②② チチオヤニ タノメテ シヤクシヨニ イキマス
- 380 F75L②④ イマ オトサンノ イツツケテ シヤクシヨニ
オツカイニ イツテキマス
- 383 M55L②③ イマ オヤジノ イツツケテ シヤクシヨイ イク
トコロデス
- 384 F22M②④ イノヨーゾテ シヤクシヨマデ チョット ツ
カイニ イキマス
- 387 F54L②③ コニチヲ、オトサンカラ タノメテ シヤク
シヨイ マイリマス
- 389 F28L②③ チョット ヨーゾテ シヤクシヨマデ キンツデス
ケド
- 390 F78L②④ オトサンガ シヤクシヨニ イケト イーマシタ
- 392 F69M②② チチオヤガ シヤクシヨニ イケト イーマシタノ
デ イマ イク トコロデスケド
- 393 F23H②③ チョット シヤクシヨマデ、イクンデスケド
- 395 F38L②② チチオヤノ ヨーゾテ チョット シヤクシヨマデ
マイリマス
- 396 M65M②④ ワカシヲ チョード オトサンカラ コーユー
ヨーゾイ イツツケラレタノデ シヤクシヨイ イマカラ イキマス
- 397 M16L②④ オトサンガ シヤクシヨニ イツテ クルト タ
ノメタノデ イク トコロデス
- 399 F21M②③ チチニ シヤクシヨニ イツテ クルト タノメ
タノデ、チョット、シヤクシヨマデ イツテキマス
- 401 F66L②③ アノー オトサンノ イツツケテ イマカラ シ
ヤクシヨマデ イツツマイリマス
- 402 F62M②④ ワカシヲ オトサンノ コーユーテ シヤクシヨニ
イク トコロデス
- 404 F47M②③ ヤ コニチヲ チチオヤガ シヤクシヨイ イッ
テ クルト イワレタカラ イマカラ イクンデスヨ
- 407 F21M②② アノ チチニ チョット ヨーゾオ タノメタシ
タノデ シヤクシヨマデ イキマスケド
- 410 M22H②③ チチニ タノメテ シヤクシヨイ イク トコロ
デスヨ
- 411 M16M②③ 赤クデスカ。イマカラ オトサンノ ヨーゾテ
シヤクシヨイ チョット イツツケル トコロデス
- 413 F55L②② イツモ チチガ オモヒニ ナリマス。イマカラ
コーユー フーテ チチノ ヨーゾテ シヤクシヨイ イツツキマスケド、
マタ ウチニモ オヨリ クダサイ
- 414 M45L②② ジウワ ワカシノ チチノ ヨーゾテ イマカラ
シヤクシヨマデ マイリマス
- 417 M49L②④ チチニ イワレタ、イツツケテ チョット イツ
テキマス。シヤクシヨ
- 418 F28M②③ アノー ジウカノ チチノ ヨーゾテ シヤクシヨ
ニ イク トコロデス
- 419 F34M②③ チチノ ヨーゾテ シヤクシヨマデ イキマス
- 420 F33L③⑤ チョット オトサンノ ヨーゾテ シヤクシヨマ
デ
- 423 F65L②③ ワカシニ、チョット オトサンニ タノメタシ
テネ、シヤクシヨイ イクデス
- 426 F33L②④ エー、オトサンガ チョット シヤクシヨマデ
イツツキテ クルト ユーカラ イク トコロデス
- 428 F22H②③ チョット チチノ ヨーゾテ シヤクシヨマデ イ
クンデス
- 429 M42L②④ ノイ ジウワ オトサンカラ シヤクシヨイ イ
ケト タノメタノデ イマカラ イク トコロデス
- 431 F25H②③ チチノ ヨーゾテ シヤクシヨマデ イキマス
- 432 M35M②③ チョット オヤジノ ヨーゾテ ナニナカマデ
イキマスケド
- 434 F25L②③ チチガ シヤクシヨニ イツツキテ クルト イ
マカラ イマカラ イク トコロデス
- 435 F19H②② チチノ ヨーゾテ シヤクシヨマデ マイリマス
- 436 F69L②③ オトサンノ オツカイテ、ヤクシヨノ ホーエ
オネガイニ アガリマス。オツカイニ イキマス
- 438 F34L②④ オトサンニ シヤクシヨニ イツテ、イクンツ

- ヨーメー ippokete kagayaita irukakara, shakusho ni ikimasu
 439 M20M②③ ア、イマカ チョット オツノ ヨーゾテ シヤクシヨマテ シヨルイ トリニ イク トコロデス
 440 F74L②③ チノ ヨーゾテ シヤクシヨエ イキマスカドモ
 441 F31L③⑤ オトサンノ オツカイテ シヤクシヨエ イクノ
 443 M18L②④ イマ チョト オトサンニ クノマレテ ユービシキクニ イク トコロデス
 444 F22M②③ チノ ヨーゾテ シヤクシヨマテ イク トコロデス
 447 F20H②③ チョット シヤクシヨマテ ヨーゾガ アリマスカラ イク トコロデス
 449 M49M③⑤ イマカラ シヤクシヨニ イツテクルガネー
 450 F19M②③ チノ ツカイテ チョット シヤクシヨマテ イク トコロデス
 452 M59L②④ イマ シヤクシヨエ オツサンノ カリニ テ ツキオ トリニ イツキマス
 453 F15M②③ チノ イツツテ シヤクシヨノ ホーエ イキマス
 454 M19M②③ チノ ツカイテ シヤクシヨマテ イキマス
 455 F34M②③ カゴー チノ ヨーゾテ チョット シヤクシヨマテ イキマス
 456 F16M②④ オトサンノ ヨーゾテ シヤクシヨマテ イキマス
 458 M31L②④ シヤクシヨニ チョト ヨーゾガ テキテ イキマス
 459 F17M②④ イマカラ オトサンノ ヨーゾテ シヤクシヨマテ イク トコロデス
 462 M23M②③ コニチヲ チョット オツノ オツカイテ シヤクシヨニ イツキマス
 463 M58M②③ オトサンガ シヤクシヨエ イツコイト イルマシタテ シヤクシヨエ イキマス
 464 M74L②③ チノ オツカニ イツテ シヤクシヨニ イツコイト ミチモ ワカラケンド ナンバメガライニ アリマスカオネガイ シテ キカシテ オルマセカ
 466 F32M②④ オツサンノ ヨーゾテ シヤクシヨマテ イキマス
 467 F61M②② チガチ チョット シヤクシヨニ イツテ クレニ モーシマスガ イマカラ マリマス
 468 M36L②③ イマカラ イツキマス。シヤクシヨニ イツキマス
 470 M38H②③ チチカラ クノマレテ ヨーゾテ イマカラ シヤクシヨエ イカケリヤ ナラナインデス
 471 F32L③⑤ オトサンガネ シヤクシヨニ イツキテ クレ イツカチ チョット イツケルワ
 473 M19M②③ ボクノ チノ ヨーゾテ シヤクシヨニ イク トコロデス
 474 M20M②③ アノ チョット チノ ヨーゾテ シヤクシヨマテ イク トコロデス
 476 M19M②③ チニ クノマレテ シヤクシヨニ イク トコロデス
 477 M25H③⑤ チョット ウチノ ヒトガネー。チョット シヤクシヨマテ チョット ヨーガ アルンデ チョット コレオ トドクニ モツテイクンデネー
 479 M15L②③ チョット、チニ シヤクシヨマテ イツコイト イルマシタ イク トコロデス
 480 M16M②③ イマカラ、チノ イツツテ シヤクシヨニ イキマス
 481 F63L②④ チチオノ オツカイテ シヤクシヨニ イキマス
 482 M29M②④ オトサンカラ イルマシ シヤクシヨニ イク トコロデス
 483 M34H②③ イマ チチカラ クノマレテ シヤクシヨエ イク トコロデス
 485 F49L②④ チョット チノ ヨーゾテ、シヤクシヨマテ オツカニ イキマス
 486 M43L②④ ア、コレヲ ドーモ、ワカシク イマカラ チョット チノ ヨーゾテ、チチカラ トコロデス
 487 F29L②④ チョット オトサンニ クノマレマシカラ チョット シヤクシヨマテ
 488 M68L②④ オトサンガ ドコロエ イツコイト イツツテ イク トコロデス
 489 M29L③⑤ チョット オツノ ヨーゾテ シヤクシヨ イク
 490 F50L②③ イマ チニ クノマレテ シヤクシヨマテ イクンデス
 491 M28M③⑤ オツノ ヨーゾテ、チョット シヤクシヨマテ
 492 F27L③⑤ オトサンガ シヤクシヨニ イケト イツカチ
 494 F15L②③ チノ ツカイテ シヤクシヨエ イキマス
 495 F49L②④ オトサンノ ヨーゾテ、シヤクシヨマテ イキマス
 496 F38L②④ イマ オトサンカラ クノマレテ シヤクシヨイツツケド
 497 F21M②③ チノ ヨーゾテ シヤクシヨマテ イツキマスケド
 498 F50L②③ チチオカラ クノマレタテ シヤクシヨニ ヨーゾト シニ イク トコロデス
 500 F46L②③ チョット チノ ヨーゾテ シヤクシヨマテ イク トコロデス
 503 M21L②③ チョット チチカラ チョット クノマレタテ、シヤクシヨマテ イツキマス
 504 M17M②③ イマ チョット オツニ クノマレテ、シヤクシ

- 506 F41L②④ オトサンノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ イツキマ
 507 M41L②④ ウチノ ヨーヅテ フョット シヤクシヨマデ イキマ
 508 M23L③⑤ オヤノ タノミテ シヤクシヨマデ
 509 F30L②③ 子ノ ヨーヅテ, フョット シヤクシヨマデ イツキマ
 510 F18M②④ フョット オトサンノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ イキマ
 512 F17M②③ 子ノ ヨーヅテ フョット シヤクシヨマデ イツキマ
 513 F35M②③ 子ニ タノミテ シヤクシヨマデ イク トコロ
 514 F28L③⑤ アノ 子ノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ
 515 F53L②④ オトサンノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ イキマ
 516 M38L②④ イマカラ オトサンニ イウケラレテ シヤクシヨノ ホーイ ヨーヅニ イキマ
 517 M59M②③ イマ 子オヤニ シヤクシヨニ イク トコロ
 518 F42L②④ キョウネ, オトサンノ タノミテ シヤクシヨニ イキマ
 519 F30M②④ フョットニ シヤクシヨ オトサンノ ヨーヅテ イツキマ
 522 F46L②④ 子オヤノ シヤクシヨ イツキテ クレト エケルヲシテ シヤクシヨニ イキマ
 525 M36L②③ アー オヤノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ イキマ
 527 F25L②③ 子ノ ヲカイテ シヤクシヨマデ イキマ
 528 M41M③⑤ オトサンニ タノミテ オトサンノ ヨーヅテ シヤクシヨニ イカラ
 531 M26L②③ ア, イマカラ フョット, オヤノ ヨーヅテ シヤクシヨイ イキマ
 533 M48L②④ 子ガ シヤクシヨニ ヨーヅテ アツテ イク トコロ
 534 F18M②③ 子ノ ヲカイテ シヤクシヨニ イク トコロ
 537 M35M②③ シヤクシヨマデ オヤノ ヨーヅテ イキマ
 539 M24H②③ フョット オヤノ タノミテ コレ シヤクシヨマデ オキニ イクテス
 540 M72L②③ 子ノ ヨーヅテ フョット オカイテ シヤクシヨニ イク トコロ
 542 M51L②③ フョット オヤノ ヨーヅテ, フョット シヤクシヨマデ ヨーヅテ アツテ イキマ
 543 M55L③⑤ フョット, ヨーヅテ アレテ, シヤクシヨマデ
 545 M46H②③ 子ノ ヲカイテ タノミテ, シヤクシヨニ イク トコロ
 546 F36L②③ フョット 子ノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ ヨーヅニ イキマ
 548 F51H②④ オトサンノ オカイテ シヤクシヨニ イク トコロ
 551 F45H③⑤ 子ニ タノミテ シヤクシヨマデ シヨノイオ トケルヨウ イケルカ
 552 M24M②② 子カラ シヤクシヨノ ホーイ, コノ ヨーヅテ フョットイコノニ トケルヲ, コノ ヨーヅテ トケルトコロ
 554 F43H②③ フョット 子ニ タノミテ シヤクシヨニ イク トコロ
 555 F50M②④ イマカラ オトサンノ オカイ, ヨーヅテ シヤクシヨ イツキマ
 557 F31M②③ 子ニ タノミテ, シヤクシヨニ オカイニ イク トコロ
 558 F49L②③ フョット 子オヤノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ イキマ
 561 F22H②③ 子ノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ イク
 565 M45L②④ ウチノ オヤノ オカイテ シヤクシヨニ イク トコロ
 566 F15L②③ 子ニ ヨーヅテ タノミテ シヤクシヨマデ イク トコロ
 567 F21H②③ 子ノ ヨーヅテ イマカラ シヤクシヨニ イキマ
 568 F28M②④ イマカラ シヤクシヨマデ テケルヲ
 569 M26L③⑤ 子ノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ
 570 F42M③⑤ 子オヤノ ヨーヅテ, フョット ソコ
 572 F29L②③ ハイ オトサンノ ヨーヅテ フョット シヤクシヨマデ マイル
 575 M17M②④ イマ シヤクシヨイ イク トコロ
 576 M26H②③ 子ノ ヨーヅテ シヤクシヨマデ イキマ
 578 M37M②③ タノミテ 子オヤノ ヨーヅテ イマカラ シヤクシヨイ イク トコロ
 579 M43M②④ ハー, アー, オトサンノ ヨーヅテ, フョット シヤクシヨマデ イツキマ
 581 F54M②② フョット 子ニ タノミテ シヤクシヨマデ ヨク トコロ
 582 M17M②④ シヤクシヨイ イク トコロ
 583 F61L②② シュンノ ヲカイテ コノコイ マイル
 584 F19H②② 子ノ ヨーヅテ シヤクシヨイ マイル
 585 F45L②② 子ガ シヤクシヨイ イツキマ

- 586 M36M②③ アノ 子ノ ヨーヂ シヤクシヨマヂ イマ
ヂム トコゾ
587 F16M②③ 子ニ タノマレテ シヤクシヨマヂ イキヌ
588 M33M②③ 子ノ ヨーヂテ シヤクシヨマヂ イキヌ
590 F33M②③ 子ニ タノマレテ シヤクシヨニ イク トコ
ゾ
591 F28L③⑤ 子ノ ヨーヂテ シヤクシヨ
592 M42L②④ オトサンガ シヤクシヨエ イケト イワレタノ
ヂ イキヌ
593 F36L②② イマ 子ニ タノマレタモノデスカラ ヨーヂ
クニ イキヌ
594 F49L②③ ワクシ イマカラ シヤクシヨノ ホエ ヨーヂ
テ イキヌケド
596 F29M②③ 子ニ タノマレテ イマカラ シヤクシヨニ イ
ク トコナンデスカド
597 F37M②③ アノ 子ノ ツカイテ シヤクシヨマヂ チョッ
ト ウカガル トコゾ
599 F48L②③ イマ オトサンニ タノマレタモノデスカラ チ
ョット シヤクシヨマヂ オカニ イキヌ シツレ イクヌ
600 F27L②③ ワクシノ 子ノ ヨーヂテ シヤクシヨマヂ イ
キヌ

公 書 (114)

- 002 M49L*④ イマカラ ジツガ コーガインダイト イク
オ モーアゲル
003 F43L NR
005 M26H*③ サイキソ トクニ コーガインダイト シツツ
ラレテ ラゾテ タイヘン サカレテオリヌガ
006 M50H*③ キョウ コーガイノ コトニツイテ スコシ
ツテル コトオ オハシ シマシヨカ
009 F38L*④ イマカラ コーガインダイト ハナシタト オ
イヌ
011 F42M NR
012 F44L NR
015 F38L NR
017 F56L*④ コーガインダイト イクノ バツイト オモ
イヌ
018 F39M NR
020 M68L*④ ワクシノ イクニシテウ... モーシアゲル
023 F46L*④ ワクシノ カンジタ コトオ スコシ ハナシタ
ト オモイヌ
024 F17H*③ ワクシノ イクノ イワシテ クダシイ
026 F69L*② ワクシノ コーエー モノデスカド イマカラ チ
ョット オハシ シテ イダキヌ

- 027 M22M*④ ミサソノ 糸ノ カンガエカオ イマカラ ハ
ナシタト オモイヌ
029 F30M NR
030 M17L*③ 糸ガ コレカラ チョット イクノ ノバヌ
ケド シズカニ キテ クダシイ
033 F48M*③ クダイマカラ、ワクシノ ニホソヨーキョーシツ
ノ アリタノ イクノ モーシアゲヌ
035 F47M*③ ワクシノ チョット コトノ イクニテ オリヌ
ケド
036 F66L*⑤ コーシタラ トーザローネ
038 F43M*② クダイマカラ ワクシノ ツクタイ イクノ ノ
ベシテ イダキヌ
039 M41L NR
041 F47H*③ クダイマカラ コーガインダイト オハナシ
イダシヌ
042 M20L NR
043 F63L*④ コレカラ ワクシノ コーガイノ モンダインツイ
テ オハシ シイ
045 M19L*④ ヒーシユクニ シテ ワクシノ ハナシオ キテ
クダシイ
046 F72L NR
047 F40L*③ ワクシノ コレカラ イワシテ イダキヌ
048 M61L NR
050 F67M*④ ワクシノ ナニニカハラ コソコマデニ キ
テ クダシイ
052 F58H*① ヒマイ ワクシノ シツノ クチバトシテ コ
ーエー イクノ モーシアゲテ イダキヌ
053 F33M*② コレカラ ワクシノ イクノ ハナシヌカラ
キテ イダキヌガ
054 M60M*③ ソレゾ コレカラ ワクシノ オモツテイ
コトオ オハシ シタト オモイヌ
056 F26H*② ソノ モンダインツイテ バシテテ イダキヌ
ヌ
057 M36M*③ ワクシノ ナマエフ トリト モーシヌ クダ
イマヨリ コーガインダインツイテ ハツビョー イダシヌ
059 M24H*② コレカラ コーガインダインツイテ ハナシ
オ シテ イダキヌ
060 M22L*④ クダイマカラ コーガインダインツイテ ワクシ
ノ イクノ イワシテ モイヌ
063 F25L*③ ワクシノ イマカラ コーガインダインツイテ
ミサソニ オハシ シタト オモイヌ
065 F30L*③ ヒトコト イワシテ イダキヌ
066 F38M*② イマカラネー コーガインダインツイテ スコシ
ワクシノ イクノ ノベシテ イダキヌ
068 F36L*③ コーエー ハナシデスカド トーヂシヨカ。コ

- ガイモンダイノ コレカラ トーシカラ イーテシヨ-カ
- 069 M29M*③ チョット マツテ クダサイ。ソノ ハッピヨ-ニ
ツイテ ワルワルノ シラベク コトト チョット クシヨ- チガイマ
スカラ ワルワルノ イケンモ キイテ クダサイ
- 071 M52L*③ ヨー オアツマリ クダシイマシテ。キブン オウ
カレノ トコロ コサンシユ- クダシイマシテ アリガト- ゴザイマ
シタ。コノタビ チョ-ナイチ リヨコ-ニ イリチユ- コトニ ナリ
マシカガ、ミナサンノ コサンセ-ワ ト-テスカ
- 073 F23M*③ コレカラ ワタシワ コ-ガイニツイテノ オハシ
シオ シタイト オモイマス
- 074 M28H*③ イマ センヂ コ-ガイモンダイニツイテ イロ
イロ トリサク サレテイマスケレド
- 075 F34H*② ワカシノ イケンオ イラセテ イダシキマス
- 077 F39L NR
- 078 F30L NR
- 080 M18M*④ エー イマ マ- ジブンジシノ ホント-ノ
イケンオ コ-ガイモンダイテスケド ハツゲン シタイト オモイマス
- 084 M47H*③ コ-ガイニツイテ イケンガ アリマスガ
- 086 F27L*② ホジャ タダスカラ ワタシノ イケンオ ノバ
サセテ イダシキマス
- 087 M25M*④ *ミナサン、コノ コ-ワ-ジジヨ-ノ サナカテ
....
- 089 M42H*② キョ-ワ ヒジヨ-ニ ミナサン オイソガシイ
トコロ オアツマリ クダシイマシテ アリガト- ゴザイマシタ。キョ
-ワ コレカラ コ-ガイカク-ニツイテ ワタシノ シツルル ハン
イタイノ コトオ オハナシ シマス
- 090 F16M*③ イマカラ コ-ガイノ モンダイニツイテ ハナシ
マスナジ キキガシイ デンモ アルテシヨ-ガ キイテ クダサイ
- 091 M61L*⑤ ワタシガ コ-ガイモンダイチ ヒトツ ミナサン
ニ オネガイ シタイト オモウ
- 092 F17M*④ ワタシワ コ-ガイモンダイニツイテ ジブンノ
イケンオ ノバタイト オモイマス
- 093 F69L*③ *ミナサン メノマエニ アルガノ ゴチソ-チ
スチ ヨウシク タベテ クダサイ
- 095 F18L*④ イマカラ コ-ガイモンダイニツイテ ハナシタイ
ト オモイマス
- 096 M28L*④ コレカラ コ-ガイモンダイニツイテ イケンオ
イ-マス
- 097 M39M*③ コ-ガイモンダイニツイテ コレカラ イケンオ
イワシテ イダシキマス
- 098 F37L NR
- 099 M46L NR
- 100 M16M*④ コレカラ コ-ガイモンダイニツイテ イケンオ
イ-マスガ....
- 101 M33M*④ コ-ガイモンダイニツイテ ワタシワ コ- カン

- ガエマス
- 102 F16M*④ イマ コ-ガイモンダイガ ワタシニ ナツテイル
.... ワタシガ イケンオ イ-マス
- 104 M27M*② コ-ガイモンダイニツイテ チョット オハナシサ
セテ イダシキタイト オモイマスガ
- 105 F30L NR
- 107 F18M*③ イマカラ ワタシガ コ-ガイモンダイニツイテ
ジブンノ イケンオ イ-マス
- 108 M25M*④ イマカラ ホカガ コ-ガイモンダイニツイテ イ
ケンオ ノバテミタイト オモイマス
- 110 F15L*④ コレカラ ミナサンニ コ-ガイモンダイニツイテ
ワタシノ イケンオ イ-マス
- 111 M34H*③ イマカラ コ-ガイモンダイニツイテ ミナサンニ
オハナシ シタイト オモイマス
- 113 M28M*③ コレカラ ミナサンニ コ-ガイモンダイニツイテ
ノ オハナシオ イダシマス
- 116 M26M*② ワカシワ イマカラ コ-ガイモンダイニツイテ
ヒトコト ノバシテ イダシキマス
- 117 F31L*① マ-、タダイマ ゴシヨ-カニ アスカリマシク
ナニナニチ ゴザイマスガ コノタビワ ゴウヨ- ツケテ イダシキ
マシテ アリガト- ゴザイマシタ
- 120 M59L*⑤ *ミナサン コノ コ-ガイガ アチラコチラテ
アルケレドガ コレワ タイヘン.... ミナサント トモニ コンナンナ
コトニ ナルト オモウチ コノ コ-ガイト エー コトワ....
- 122 M56M*② タダイマヨリ コ-ガイニツイテ ワタシノ イ
ケンオ モ-シアガマス
- 123 F18M*④ コレカラ コ-ガイモンダイニツイテ イケンオ
イ-タイト オモイマス
- 125 M25H*⑤ コレカラ ジブンガ コ-ガイモンダイニツイテ
イケンオ エ-
- 126 M24L*⑤ オレ コ-ガイモンダイノ コトオ ヒトコト エ
-チ
- 127 M28M*③ コレカラ コ-ガイモンダイニツイテ ヒトコト
モ-シアガマス
- 128 F25M*② ワタシノ コ-ガイニ クイレル イケンオ イマ
カラ ノバシテ イダシキマス
- 129 M22M*③ コレカラ ワタシガ コ-ガイモンダイニツイテ
ハナシマスナシケレド
- 130 F36L*③ ジブンノ イケンオ モ-シマス
- 132 F65L NR
- 134 M73L NR
- 135 F38L*③ イマカラ ミナサンノ イケンオ キイテ イマカ
ラ ワタシガ チョット コ-ガイノ オハナシオ ノバタイト オモイ
マスケド
- 137 F57L*① コ-ガイニツイテ タダイマ ミナサン ト-エ-

- コイケンオ モツテオイデニ ナリヌカ シリマセケドモ ワクシ
 ワ,モット コーガニ タイシテ イロイロト カンガエテミタイ ト
 コロガ アルト オモイヌスケドモ ミナサン イカガチ コシマスカ
 138 F37L*③ ミナサン ワクシワ コー オモツテイヌスカ
 イチド ワクシノ ハナシオ キイテ クダサイ
 139 M71L*⑤ ㊦コマルジヤ ナイカ マー ホントニ コノコロ
 コレダケ ホコリツルイ ケムリ マタ ソー イロイロナ キクナイ
 モノオ ソコロエ パチラカライチヤ コマルジヤ ナイカネ
 140 F74L NR
 141 M22M*② ワクシワ コレカラ コーガイモンザイニツイテ
 イケンオ バサヒテ イタダキマス
 143 M53H*④ ワクシワ ヒトツ キョーワ オカザキノ コー
 ブーゾコモンザイニツイテ イヤトシテノ イケンオ ノバテミタイ
 オモイマス
 144 M17M*⑤ 赤ノ オモウコワ……
 146 F35M NR
 147 F30M*④ ㊦コーガイモンザイオ ナスルニシテワ、ドーシ
 クラ イーザスカ ドー オモイマスカ
 149 F40L NR
 150 F67L NR
 151 M68L NR
 152 M28M NR
 153 M32M NR
 155 F47L NR
 156 F73L NR
 158 M25L*⑤ コレカラ 赤ノガ コーガイモンザイ シヤブルカ
 ラ ヨー キイトワ クレヨ
 159 F20L*④ コーガイモンザイニツイテ ハナシマス
 161 F61L NR
 162 F20H*③ コーガイモンザイニツイテ イケンガ アリマスノ
 テ イワセテ イタダキマス
 164 M42L*③ コレカラ コーガイニツイテ ワクシノ イケンオ
 モーシアダマス
 165 M16M NR
 168 F62L NR
 171 F23L*③ コレカラ コーガイモンザイニツイテ オハナシ
 シマス
 173 F44L*③ クミチヨーサンニ カワツテ…… イチオー キョ
 ーノ ヒツメー サセテ モライマスカド
 174 F61L NR
 176 M21L NR
 177 F24M*④ コーガイモンザイニツイテ ハナシ シマス
 179 F74L NR
 180 M45L*③ ワクシワ ワンザイ シヤカイテキニ モットモ
 ューヨーナ イツカトシテ イワレタオリマス コーガイモンザイ

- ニツイテ ヒトコト オハナシオ シタイ オモイマス
 182 F32M*② コーガイモンザイニツイテ ワクシノ イケンオ
 バサヒテ イタダキマス
 183 F23M*③ ワクシノ オモツテイロ ミチカチ コノ コーガ
 イモンザイニツイテ イマカラ スコシ バクタイト オモイマスガ
 184 F49M*② ワクシワ イマカラ コーガイモンザイドニツイ
 テ イロイロト イケンオ ノバヌスカ ミナサンモ イツヨニ カ
 ンガエテ イタダケマセシカ
 185 F32M*② コレカラ ワクシノ イケンオ バサヒテ イ
 タダキマス
 186 F33M NR
 188 M65L*③ コノ ヒキオ リョー シテ,ミナサント イツシ
 ヨニ カンガエテミタイ モンザイガ アルノゾスガ イチドー,キョー
 リョク シテ,キョーキョー シテミテ クダサイ
 189 F26L NR
 191 M25L*③ イマカラ コーガイノ コトニツイテ 赤ノ イ
 ケンオ バサヒテ モライマスガ
 192 F16M*⑤ ワクシノ,カンガエワ……
 194 F20M*③ ワクシワ イマノ コノー コーガイノ モンザイ
 ニツイテ チョットシタ イケンガ アル,イケンガネ アルンデヌカド
 チョット キイテ イタダケマスカ
 195 M44M*② タダイマカラ イケンオ バサヒテ イタダキマ
 ス
 197 M72L NR
 198 F15M*④ ワクシガ,イチバン,イマ,ヨク カンジテイロノ
 ワ コーガイモンザイガカラ,コノ コトオ,キョーワ ハナシテミタイ
 ト オモイマス
 199 F40M*② ジャ ワクシガカラヒ ヒトコト モーシアダマス
 200 F18M*④ コレカラ ナニナニノ モンザイニツイテ イケン
 オ イーケインデヌカド
 201 M29M*② ワクシノ モツテル イケンオ コレカラ バサ
 ヒテ イタダキマス
 202 F70L*③ ワクシ モーシアダマス
 203 F49L*③ タダイマカラ コーガイニ カンジテノ オハナシ
 オ スヌケイト オモイマス
 204 M60L*③ タダイマカラ コーガイモンザイニツイテ ワクシ
 ノ シットカキリノ コトオ モーシアダマス
 205 F65L NR
 206 M64L*③ ミナサン ワクシモ ミナサント オハナシニ
 コーガイノ モンザイオ コトオ オハナシ シタイ オモイマス
 207 F49M NR
 209 F15L*④ アノ コレカラ ワクシ コーガイモンザイニツイ
 テネー イケンオ イーヌスカド
 210 F23L NR
 212 F23H*③ コーガイモンザイニツイテ オハナシ シマス

- 213 F31L*③ コレカワ ワクシノ イケンオ バサヒテ イ
チキマス
- 215 M41L NR
- 216 F26M*② コレカワ コーガニツイテノ イケンオ ノサ
ヒテ イチキマス
- 218 F58L NR
- 219 M49L NR
- 220 M41M*① アノー ゴタホーノ トコロ オアツマリ クササ
イマシテ アリガトー ゴチイマス。タヂイマカラ ナニニコーゾノ
ヒコニツイテ ガイヨーオ セツメー サシテ イチキマス
- 221 M56M*③ ワクシノ カンガエワ、コエーヨニ オモッテ
オリマス
- 222 F26L NR
- 223 F63L NR
- 224 M21L*④ ワクシニモ ヒトコト イワシテ クササイ
- 227 F28M*② コレカワ コーガイモンザイニツイテ ワクシノ
イケンオ バサシテ イチキマス
- 230 F37H*④ ワクシノ イケンヲ ナニニテス
- 231 M23H*④ エー タヂイマ ワクシノ オモツル コーガ
イモンザイニツイテ ワクシノ ハジメオ イチイマスノチ スコシバカ
リ キイテ モライタイ
- 233 F25L*④ ワクシワ ソノ コトニツイテ イケン イーマス
- 236 M33M*② ハイ。コレカワ コーガニツイテ イケンオ ノ
バサシテ イチキマス
- 237 M38M*③ ワクシワ タヂイマヨリ コーガノ モンザイ
ニツイテ、ナンジュツカントー下 オハナシ シテミクイト オモイマス
- 240 M20M*③ マ、コエーモ モンザイニツイテ イケンガ アル
ンデスケ下
- 242 M31M*④ ナニニニ モンザイニツイテ イマカラ ワクシ
ノ イケンオ ハツビヨー シマス
- 243 M63L*③ チョット ミナサン、ワクシノ イケンオ、カンツ
ンデスカラ ヒツツ キイテ クササイ
- 245 M52L NR
- 246 M23M*② コレカワ コーガニツイテ 赤ノ イケンオ
バサシテ イチキマス
- 248 M56L*③ コレカワ 赤ガ イケンオ バサヒテ モライ
マス
- 249 F42H*① ワクシガ カンジク コトオ イマカラ モーシノ
バサシテ イチキマス
- 250 M22H*③ コレカワ コーガイモンザイニツイテ ヒトコト
イワセテ モライマス
- 251 F36M*④ チョット、ワクシノ イケンオ モーシクイト オ
モイマスガ
- 252 F26M*② コノ ナカニ ヒトツネー ミナサンニ キイテ
イチキキイ コトガ アルンデスケ下、ソシテ ミナサンニモ ナット

- ク シテ イチキキイト オモウンデスケ下
- 254 F32L NR
- 256 M24H*③ コレカワ イケンオ バサヒテ モライマス
- 258 M34M*③ イマカラ ワクシノ オモツテイル コトオ ハツ
デン イチキマス
- 260 F33M NR
- 261 M42L NR
- 262 F47M NR
- 265 M24M*③ コレカワ ワクシガ コーガイモンザイニツイテ
ヒトコト イワシテ イチキマス
- 266 F22M*① スミマセン、コーガニツイテ イケンオ ノサ
ヒテ イチキキマス
- 267 M39M*② ミナサン スコシバカリ ワクシノ シヨシノオ
ノバサシテ イチキキマス
- 269 M59L*④ イマ ヒツヨーニ モンザイニ ナットル コーガ
イノ コトニツイテ ヒトコト バテミマス
- 270 F28H*② タヂイマカラ コーガニツイテ ハツゲン サヒ
テ イチキキマス
- 271 M32L*③ ワクシニ ハツゲン サシテ クササイ
- 272 F38M*② イマカラ、コーガイモンザイニツイテ、イケンオ
ノバサヒテ イチキキキイト オモイマスガ
- 273 F27H*④ コレカワ ナニニニツイテ ワクシナリノ カン
ガエオ イータイト オモイマス
- 275 F50L*⑤ 赤ノイガ クルチ イチヂネ
- 276 F22L NR
- 278 M41L*③ テーマガ コーガイダカラ、ヒトワ シヤベラシテ
イチキキマス
- 279 F60L*③ タヂイマカラ コドモチノ モンザイニツイテ
ハツアイイ シタイト オモイマスケ下 トー下 ヨロシク。ワクシワ
コエー カンガエマス
- 281 F38H*② コレカワ ワクシガ ハササヒテ イチキキマス
- 284 F33M*③ タヂイマカラ ワクシノ イケンオ モーシアガマ
ス
- 285 M66M*③ ナニニニ イケンニツイテ、モーシアガキイト
オモイマス
- 287 F23H*③ クササイヨリ、ワクシノ カンガエテイル コー
ガイモンザイニツイテ バサキイト オモイマス
- 288 M47H*③ チョット、ハツゲン シマス ワクシノ イケンオ
モーシアガキイト オモイマス
- 290 F41H*③ コーガニニ カンシテ ワクシノ イケンガ アル
ンデスケ下
- 291 F24H*② チョット ワクシニモ イケン ノバサヒテ イ
チキキマスガ
- 292 F21H*④ ワクシニモ イケンオ イワセテ クササイ
- 293 F22H*② タヂイマヨリ コーガイモンザイニツイテ イケン

- オノバサセテ イクダキマス
 294 F19H*④ コーガインツイテ イケンオ イータイト オモイマス
 296 M33L*③ コレカラ ワタシガ コーガインツイニツイテ モーシアゲル コトニツイテ、ミナサン ノ ヨーニ オカンガエテ
 297 F48L*③ エー、コノー、コーガインツイニツキマシテワ、
 ワクタンノ イケントシマシテワ、……
 299 M35H*③ コレカラ コーガインツイテ ワタシノ カンガエ
 オ ノバサケレドモ シバクキ キテ クダサイ
 300 F46L*③ イマカラ チョット オハナシオ イクシマスケド
 302 F58L NR
 303 F55L*④ *コーガイツ ミナ ヒョーキノ ヒトガ クル
 シンブルチネ コーガイト ナクシテ クダサイ
 305 M33H*③ イマ センヂ トリワケ サレテイル コーガイ
 モンダニツイテ ミナサント イッショニ カンガエテミタイト オモ
 イマス
 306 F37M*③ タダイマカラ コーガインツイニツイテ ア
 タシノ カンガエテイル コトオ モーシアゲマスケド
 308 M19M*④ コレカラ ワタシガ コーガインツイニツイテ
 イケンオ ノバサ
 309 F25H*③ コレカラ ワタシノ コーガインツイテ ミナサ
 ンニ ハナシタイト オモイマス
 311 F24M*③ コレカラ ワタシガ コーガインツイニツイテ
 イケンオ ノバサ
 312 M33L*③ タダイマカラ ワタシノ ケンキューカダイト ア
 リマス コーガインツイニツイテ オハナシ シタイト オモイマス
 314 M34M*③ タダイマカラ ナニニツイテ オハナシ シタ
 イト オモイマス
 315 F30M*③ コーガインツイニツイテ ワタシノ コー オ
 モイマス。コーガインツイニツイテ ワタシノ イケンオ ノバサセ
 テ イクダキマス
 317 F48L NR
 318 F60M*② コレカラ ワタシガ コーガインツイニツイテ
 イケンオ ノバサセテ イクダキタイト オモイマスガ
 320 F17L*③ イマカラ アタシノ イケンオ イウシテ イクダ
 キマス
 321 M33M NR
 323 F21M*② ミナサン コニチヲ イマカラ ワタシノ カ
 ンガエテイル コトオ ミナサンニ キテ イクダキマス
 324 F23M*④ コレカラ コーガインツイニツイテ イケンオ
 イーマス
 326 M27H*④ コレカラ コーガインツイニツイテ 畚ノ イ
 ケンオ イーマス
 327 F23L*③ チョット マツテ クダサイ。ワタシニモ ヒト
 ヲ イケンオ イウシテ クダサイ

- 329 M44M*② タインゴキホーノ ナカオ オカコヒ イクダ
 キマシテ タダイマヨリ コーガインツイニツイテノ クイケンツイ
 テ オハナシ モーシアゲル ワタシノツダガ ヒジョーニ ヒトマニ
 タツテ ハケスベキ ジンダイトモ ナシ ヒジョーニ ココロカシ
 ク オモウ ワタシノツダガモ ワタシ ノバサセテ ヲモオ ミナサ
 ンガクニ オハナシ……
 330 M75L*④ ミナサン ヒトツ シズカニ カンガエテ モライ
 タイガ コーユー コトモ アルガ ドーシテ モンデショー
 331 F57L*④ ワタシノ コー オモイマス。ワタシノ コー オ
 モンデケド アンカガク ドー
 332 M29H*② ミナサンガ イマ コーガインツイニツイテ ヒジ
 ョーニ テレビヤ ニューズデ オキキニ ナツテイル コトト ソンジ
 マスガ コノ コーガインツイニツイテ イマ タクニ ジブノ ミシテ
 ナイ トコロジヤ ナクシテ ジブノ ジブノ モンダイトシテ
 ウカビアガツケル コトヲ ミナサンニモ ソンジンノ コトト オモ
 イマス
 333 M40L*③ ほんじツヲ ミナサン オインガシイ トコロオ
 オアツマリ イクダキマシテ アリガトー コダイマス キョーウ イマ
 モンダニニ ナツル コーガインツイニツイテ オハナシオ シタ
 イト オモイマス ナニニモ コーイック エンジンノ ウエデ ハ
 ナシオ スル コトガ ハジメテマスノデ オキキカシイ トコロガ
 アルト オモイマスガ ヒトツ マー スコジチモ ジンゴニニ ナレバ
 ト オモツテ イマカテ……
 334 F67L*② ミナサン オインガシイ トコロオ ワツワチ オ
 イテ クダサイマシテ アリガトー コダイマス。アタシノ イキトドキ
 マセバ トクニ モーシアゲマシテ モライマス
 335 F27M*③ ほんじツヲ タスー オアツマリ クダサリ アリ
 ガトー コダイマシタ キョーウ ナニニツイテ オハナシ シタイ
 ト オモイマス
 337 M51L*③ タダイマカラ ワタシノ カンガエテイル コトオ
 オハナシ シマス
 338 F40L NR
 339 M74L*② オインガシイ ナカオ オアツマリ クダサツテ
 アリガトー コダイマス
 341 F15L*③ *ワタシガ カイチョーニ リッコホー シタ シ
 プヤチス ワタシガ カイチョーニ ナツカラ コノ ヨーニ コトオ
 シマスノデ ミナサン イッショニ キョーウヨク シテ クダサイ
 342 M35M*③ ジブノ イケンオ イウシテ イクダキマス
 345 M26L*② タダイマ ショーカニ アスカリマシタ スケウ
 ラチスケドモ コーガインツイニツイテ ヒトコト ワタシノ イケンオ ノバ
 サセテ イクダキマス
 347 F62M*③ ワタシノ イケンオ モーシアゲマス
 348 M19M*④ 畚ノ イケンオ イウシテ クダサイ
 350 F37M*④ ワタシノ イケンオ イーマス
 351 F49L*④ ワタシノ イケンオ モーシマス

- 353 F22L*④ コレカラ ワタシ イケムハツビョーオ シマス
- 354 F31M*③ ワタシノ イケム イワセテ クダサイ
- 355 M37M*② タダイマカラ、サイキン コーガイモンダインツイテ ワタシノ イケム モーシアデマス
- 356 M31H*③ コレカラ コーガイモンダインツイテ 赤ノ イケム イワセテ モライマス
- 357 F23L*④ ヒトコト バタイト オモイマス
- 358 M34L*③ イマカラ ソノ キョーキョー イタシマス
- 359 F45H*③ ワタシノ イケム イワサシテ モライマス
- 360 F74L*③ ワタシノ イケム キイテ モライクイト オモイマス
- 361 F68L*④ ワタシノ イケム キイテ クダサイ
- 362 M32L*③ ワタシノ ワタシナリノ イケム アツテ ソシテ マー イーマスガ ハンダウヲ ミナサンニ オマカセ シマス
- 363 M54L*⑤ ワシノ イケム コーダ
- 365 F55H*④ コーガイノ ハジメニツイテ ワタシノ オモツクコトヲ ノバサシテ イタダキタイ
- 366 F61L*④ ワタシノ イケム イータイト オモイマス
- 367 M42L*③ アノー イマカラ コーガイニツイテ オハナシシタイト オモイマス
- 368 M47M*④ ワタシノ イケム イーマス
- 369 F47L*② ワタシノ イケム イワセテ イタダキマス
- 374 F23M*③ イマカラ ワタシガ コーガイモンダインツイテ オハナシ イタシマス
- 375 F21L*② イマカラ ワタシガ コーガイモンダインツイテ オハナシ サセテ イタダキマス
- 377 F28M*③ ワタシノ コーガイモンダインツイテ イケムノ ノバサシテ イタダキマス
- 378 F56M*② イマカラ ワタシノ コーガイモンダインツイテ ミナサンノ コイケムノ ウカガクイト オモイマス
- 379 M32H*④ コレカラ コーガイモンダインツイテ ワタシノ イケム ノバマス
- 380 F75L NR
- 383 M55L*③ コレカラ コーガイノ モンダインツイテ イケムノ イワセテ イタダキマス
- 384 F22M*② キョーコノゴロ サワガレテイル コーガイモンダインツイテ、スソ イケムノ ノバサシテ イタダキマス
- 387 F54L*② ワタシノ イケムノ モーシアデマス
- 389 F28L*④ ワタシノ イケムノ キイテ ホシーンデスケド
- 390 F78L NR
- 392 F69M*② ワタシノ イケムノ イワサシテ イタダキマス
- 393 F23H*④ ワタシノ イケムノ キイテ クダサイ
- 395 F38L*② ナニナニノ コトニツイテ アタシノ カンガエオノ ノバサシテ イタダキマス
- 396 M65M*① キョーワ マコトニ ドーモ トツメンノ オネガ

- ニ タイシテ サツク コサンカイオ イタダキマシテ マコトニ
- ドーモ キョーシユクテ コサイマス、タイヘン アリガトー コサイマス
- カネガネ ミナサンガタガ ヨシヨチノ トーリテ コノ コーガイノ ホントニ ヒトリヒトリノ ナキミノ タネニ ナル ワケデソ
- ーユー コーガイモンダインツイテ タダイマカラ ソレゾレ ミナサンガタト
- ドモ オカガニ ヒツツ ケンキュウ シアツテ コノ カイケツノ ミチオ ミダツノゾヤ コサイマセンカ
- 397 M16L*③ コレカラ 赤ガ 赤ノ イケムノ ハツビョーサセテ モライマス
- 399 F21M*② タダイマカラ コーガイモンダインツイテ ヒトコトノ ノバサシテ イタダキマス
- 401 F66L NR
- 402 F62M*② コシメー イタダキマシテ
- 404 F47M*③ *ミナサン、コーガイノ ワタシノサチノ ミチカチノ モンダインツイテ オカガニ キオ ツケテ 赤サナイヨーニイタシマスヨー
- 407 F21M*③ コーガイニツイテ イロイロ ミナサン イータイコトガ アルト オモイマスカラ
- 410 M22H*③ コーガイモンダインツイテ コトニツイテ チョット オハナシ シタイデスガ、ヨロシイデスヨーカ
- 411 M16M*③ エー 赤クワ イマカラ チョット コーガイニツイテ ハナシタイト オモイマス。ドーゾ キイテ クダサイ
- 413 F55L NR
- 414 M45L*② ミナサン キョーワ オイノガシメニ ヒジョーニ タクサシ オアツル ノボシマシテ アリガトー コサイマシク
- 417 M49L NR
- 418 F28M*② ホンゾウ オサムイ トコロオ ショウセキクダサシマシテ アリガトー コサイマス。キョーノ モタイトシマシテ コーガイモンダインツイテ トリアダクイト オモイマスデ ヨロシク オネガシ シマス
- 419 F34M NR
- 420 F33L*② ワタシノ イケムノ イワセテ イタダキマス
- 423 F65L*④ *オハナシマ ドーデスカ
- 426 F33L*③ *コドモガ アノ ハンタロノハ イハイキクイチーマスケド、ドーデスヨーカ
- 428 F22H*③ イマカラ ジンガ オモツテイル コトオ チキルケ ミナサンニ ウカガニニ オツクエ シタイト オモイマス
- 429 M42L*③ タダイマカラ コーガイモンダインツイテ イケムノ モーシアデマス
- 431 F25H*③ ミナサン シスカニ シテ クダサイ。イマカラ ハナシガ アリマスカラ キイテ クダサイ
- 432 M35M*② ヲレヂヲ、ワタシノ イケムノ ノバサシテ イタダキマス
- 434 F25L NR
- 435 F19H*③ ナニナニガミノ 黒レイルデス。スソノ ジカン

- デスケ下 シズカニ キテ クダサイ
 436 F69L NR
 438 F34L*④ ワタシノ ハナシオ キテ クダサイ
 439 M20M*④ ナナジューネンダイン コンニチ コーガインダ
 イシテ ジフーシャーノ ハイキガシ アルイウ タイキオセンナド
 イロイロ アリマスガ、トクニ ミドリガ ナナナルト タイキオセンダ
 アル コンゲンノ ジュエミョーオ チチヌル コトニツイテ コレカラ
 ハナシマス
 440 F74L NR
 441 F31L*④ ♫コレカラ ミササト トモニ キツテイクタイ
 ト オモイマス
 443 M18L NR
 444 F22M*② コーガインダインツイテ コレカラ ヒトコト
 ババシテ イタダキタイト オモイマス
 447 F20H*④ ♫コーガイガ ヒドク ナツテイク イッホーチ、
 コマリマス
 449 M49M*④ ミナノ ココロニサツテ、ジツウ コーユー モン
 ダイオ イマカラ ケントー ヒート オモウナド、ヨロシク オネガイ
 シマス
 450 F19M*② テラ コレカラ ワタシガ コーガイタイサウニ
 ツキマシテ カンタンニ ヱヒツメー サセテ イタダキマス
 452 M59L*③ エー ワシヤー コーガインツイテ スコシ オハ
 ナシオ イクシマス
 453 F15M*② コーガインダインツイテ ハツゲン シンテ イ
 タダキマス
 454 M19M*④ マス、ワタシノ イケンオ キテ クダサイ
 455 F34M*④ ジツノ オモツルコトオ ヲウヒテ モライ
 タイ。コーガインダイン オモイタル コトガ アリマスナド ハツ
 ゲンオ サセテ モライマス
 456 F16M NR
 458 M31L*② カイジョーノ ミササン、オイツガシイ トコロニ
 オアツメ クダサイマシタ
 459 F17M*④ イケンガ アリマス
 462 M23M*④ コーガインダインツイテ イマカラ ハナシマス
 463 M58M*④ コレカラ ワタシガ コーガインダインツイテ
 イケンオ イータイト オモイマス
 464 M74L NR
 466 F32M*② イマカラ ワタシノ イケンオ ハッピョー サセ
 テ イタダキマス
 467 F61M*② ミササン、コンニチヲ、ワタシヲ 別れレテ
 コダイマスケド、アノ タダイマカラ チョット コアイサツ イタシタ
 イト オモイマス
 468 M36L*⑤ ♫コーガインダインチユート イマデモ ミンナ
 ヲー イッテルダライオモシダシ。ソノハ ハナリチモナク アノ シテ
 モライタイ

- 470 M38H NR
 471 F32L*② ジツウ コーユー コトダネ イケンオ ヒトコト
 ババシテ イタダキマス
 473 M19M*③ ミササン、シズカニ シテ クダサイ コレカラ
 ボクノ イケンオ イーマス。ミササン シズカニ シテ キテ クダ
 サイ
 474 M20M*③ コレカラ ワタシノ イケンオ ババシテ モリ
 イマス
 476 M19M*③ ワタシヲ コレカラ クイセツナ コトオ ハッピ
 ョー シマスナド、ミササン キテ クダサイ
 477 M25H*④ チョット スミマセンケド、チョット キテ ク
 ダサイ
 479 M15L*④ ボクノ イケンオ キテ クダサイ
 480 M16M*③ イマカラ ボクノ イケンオ イーマスナド ミサ
 サン キテ クダサイ
 481 F63L NR
 482 M29M*④ イマカラ コーガインツイテ ボクノ カンガエカ
 タオ ババマス
 483 M34H*③ コレカラ コーガインダインツイテ オハナシ
 シマス
 485 F49L*② コレカラ コーガインツイテ チョット ジツノ
 オモツク コトオ ババシテ イタダキマス
 486 M43L*② タダイマカラ ワタシガ コーガインダインツイ
 テ イケンオ ババシテ イタダキマス
 487 F29L*③ コレカラ コーガインツイテ、スコシ ハナシアイ
 タイト オモイマスケド
 488 M68L*② タダイマ ワタシニ ククサレク ケンツイテ
 ツキノ コトオ モーシアゲマス
 489 M29L*⑤ チョット ハナシウキ コトガ アルダ チョット
 ヲー
 490 F50L*④ イマカラネ フジツカインツイテ イロイロ オハ
 ナシナカシタイト オモイマス
 491 M28M*③ チョット イケンガ アリマスナド
 492 F27L*④ ♫コーガイガ ナイヨーニ シラケダサイ
 494 F15L*④ ワタシヲ イマカラ カウキョーノ モンダイン
 ツイテ イケンオ ババマス
 495 F49L*⑤ ワタシノ イケントシテ コレコレダ
 496 F38L*⑤ ♫コレカラ コーガイダト ヲーケド ウチノ コ
 モ ショーニゼンノケチ チョット ナニカ アルト ヲート モーペー
 ヲーケド コマツクモンダシ
 497 F21M*④ タダイマカラ コーガインダインツイテ ハッピ
 ョー シタイト オモイマス
 498 F50L*③ チョット スミマセン、ワタシヲ アノー コー
 オモイマスケド トーダシヨウカ
 500 F46L*③ タダイマカラ コーガインダインツイテ ヒトコ

- ト イクノ バサシテ モイマス
 503 M21L*④ タヂイカラ 赤カガ コーガイモンザイニツイテ
 ハナシオ シマス
 504 M17M*④ エーツト イマカラ コーガイモンザイニツイテ
 スコシ ハナシタイト オモイマス
 506 F41L*③ ジツウ キョウワ コーユー モンザイガ アリマ
 シテ アノー ミナサンニ キョーリヨク シテ モライタイカラ イチ
 フ ハナシオ キイテ クダサイ
 507 M41L*④ イマカラ ワタシワ ナントカモンザイニツイテ
 イクノ バサイト オモイマス
 508 M23L*② カンクンデスガ タヂイカラ イクノ ノバサ
 シテ イタダキマス
 509 F30L*③ タヂイカラ コーガイニツイテ スコシバカリ
 コセツメー シタイト オモイマス
 510 F18M*④ コーガイノ コトニツイテ チョット バツイテ
 ス
 512 F17M*④ イマカラ コーガイニツイテノ ハナシオ シマス
 513 F35M NR
 514 F28L*④ コーガイモンザイニツイテ カンクン コトオ ス
 コシ ハザシテミタイト オモイマス
 515 F53L NR
 516 M38L*③ タヂイカラ コーガイニツイテ オハナシオ イ
 タシマス
 517 M59M*③ キョーイクモンザイニツイテ シヤベレト ユー
 コトデスガ、イマ ワタシガ カンガエテイル ナニナニ コレカラ シ
 ヤベル オハナシオ ヨク キイテ クダサイ
 518 F42L*④ ハナシ ワタシノ コトバガクテ キイテ クダサ
 イ
 519 F30M*③ イマカラ コーガイモンザイニツイテ チョット
 オハナシ シタイト オモイマス
 522 F46L*③ コーガイモンザイノ コトニツイテ イマカラ ハ
 ナシオ イタシマス
 525 M36L*② ゲンザイ シツモン サレテイル コーガイモンザ
 イニツイテ イクノ ノバサシテ イタダキマス
 527 F25L*④ コーガイモンザイニツイテ イロイロ イクノ
 ノバサイト オモイマス
 528 M41M*④ マー イロイロ ミナサンガナリ ムケンガ ナ
 テオリマシテ サンビリョーロン テオリマシガ ワタシ チョット
 ジブンジブンチ カンガエル コトガ アルモンデナリ ソノ イクノ
 ハツビョー サシテ イタダキタイ
 531 M26L NR
 533 M48L*③ コレカラ コーガイモンザイニツイテ オハナシオ
 シマス
 534 F18M*④ イマカラ ワタシワ コーガイモンザイニツイテ
 ハナシタイト オモイマス
 537 M35M*③ コノ モンザイニツイテ ワタシノ イクノ
 ノバサスト、…
 539 M24H*④ コーガイノ モンザイニツイテ チョット 赤カ
 イクノ イワシテ モライマス
 540 M72L*③ コーガイモンザイニツイテ コソザン モーシテ
 ヲクタイ オモイマス
 542 M51L*③ ワタシノ イクノワ コーココーデス。ミナサン
 ノ イクノワ ドーデスカ
 543 M55L*③ ワタシノ イクノモ モーシノバマス
 545 M46H NR
 546 F36L*④ デラ チョット ワタシノ ユー コトオ キイテ
 クダサイ
 548 F51H*③ コーガイワ コレカラ イチバン タイジナ モン
 ザイデスナリ イロイロ シツモン シタイト オモイマス、マク ワ
 シノ イクノモ イラセテ イタダキマス
 551 F45H*④ コレカラ ワタシノ カンガエト イーマス
 552 M24M*② タヂイカラ ワタシノ イクノ スコシ キイ
 テ イタダキタイト オモイマス
 554 F43H*④ ワタシガ イマカラ コーガイモンザイニツイテ
 ハナシタイト オモイマス
 555 F50M NR
 557 F31M*④ ミナサンノ イクノ キイテ ジブンノ イク
 ノ イッテ ハナシイタイト オモイマス
 558 F49L*③ チョット ワタシノ イクノ イワシテ イタダ
 キマス
 561 F22H*④ ソノ コトニツイテ コレカラ ノバシタイト
 オモイマス
 565 M45L*③ ツキマシテワ コーガイモンザイ マクワ ヲルニ
 ジュンズル コーガイニ タイシテ、ヒトコト ハツゲンオ イタシマ
 ス
 566 F15L*④ エート コーガイモンザイニツイテ ジブンチ チ
 ョット オモツテイル コトガ アルナリ、ミナサンノ イクノ キキ
 タイナリ キイテ クダサイ
 567 F21H*④ イマカラ ソノ ハナシニツイテ ワタシノ イク
 ノ スコシガク イラセテ クダサイ
 568 F28M*③ ワタシノ カンガエトシテワ…
 569 M26L*③ ゲンザイノ ヨリナカオ ミマシテ コーガイモン
 ザイガ オーキク モンザイニ ナツテイマスカワ…
 570 F42M*③ キョウワ ワタシノ シツメン コトオ オハナシ
 イタシマス
 572 F29L*③ ワタシワ コー カンガエマスケド ミナサンノ
 カンガエワ ドーデショウカ
 575 M17M*④ イマ 赤カガ ニホシテ タイハン モンザイニ
 ナツテイル、マク、ニホシト トツツモ タイハン ジュウチーアル
 コーガイモンザイニツイテ ヒトコト イクノ イータイト オモイ

- 入
- 576 M26H*④ #イマ タンナン ヨノナカワ ヒジョーニ ハナク ノコラジューガ ヨソビテイキマス
- 578 M37M*② エー タグイマカテ フッカモンダインツイテ ワタシノ イケンオ バサヒテ イタヂキタイト オモイマス
- 579 M43M*③ エー、タダイマヨリ コーガイモンダインツキマシテ ヒトコト コイケンオ バサヒテ イタヂキマス
- 581 F54M*② マコトニ モンエツテワ コサイマスガ ワタシトシテノ イケンオ ヒトコト イワシテ イタヂキマス
- 582 M17M*② コーガイモンダインツイテ イケンオ バサヒテ イタヂキマス
- 583 F61L*③ コノゴロ タイエン コーガイノ コトガ シンブン ラジオオドデ… テレビオドデ サワガレマスガ ミナサンノ ドーデショカ コノ コトニツイテ カンガエタイト オモイマスガ
- 584 F19H*② コーガイモンダインツイテ バサヒテ イタヂキマス
- 585 F45L*④ ワタシニ イケンオ イワセテ クダサイ
- 586 M36M*② イマカラ コーガイモンダインツイテ ワタシノ イケンオ バサヒテ イタヂキマス
- 587 F16M*④ コレカラ ユーノデ シズカニ キイテ クダサイ
- 588 M33M*③ ワタシモ ダブッノ イケンガ アリマスノデ ワタシノ イケンオ オハナシ シタイト オモイマス
- 590 F33M*③ ハナシバツテ キキワライデショウガ コレカラ ワタシガ ハナシマス
- 591 F28L NR
- 592 M42L*③ コレカラ ダブッガ コーガイモンダインツイテ オハナシ シマス
- 593 F36L*④ コレカラワ ワタシガ コーガイモンダインツイテ イケンオ バサヒテ オモイマス
- 594 F49L*② イマカラ コーユー フーナ モンダインツイテ イケンオ バサヒテ イタヂキマス
- 596 F29M*④ ワタシノ カンガエタ コトオ キイテ クダサイ
- 597 F37M*④ ワタシノ イケンワ コーコソカジカガト オモイマス
- 599 F48L*② ミナサン コソチワ キョウロ コーガイノ モツダインツイテ スコシ オハナシ サセテ イタヂキマス
- 600 F27L NR

先生の絵 (115)

- 002 M49L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナツタ モノデスカ
- 003 F43L*② センセー コレ センセーガ オカキタデスカ
- 005 M26H*② コノ エワ センセーガ カルレノデスカ
- 006 M50H*① コノ エワ センセーノ オカキニ ナツタ エワ

- 入
- 009 F38L*② センセーガ カルマスシカ
- 011 F42M*① コレワ ナナナカ コリツハナ エワスカ センセーガ オカキニ ナツタ エワショウカ
- 012 F44L*① センセーガ コノ エオ オカキニ ナツタノデスカ
- 015 F38L*④ センセーガ コノ エ カイタンデスカ
- 017 F56L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
- 018 F39M*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナラレノデスカ
- 020 M68L*① コレ センセー オカキニ ナリマシカ
- 023 F46L*④ コレワ センセーノデスカ
- 024 F17H*② コノ エ センセーガ カルレマシカ
- 026 F69L*① ジョーズニ テキテオリマスネ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
- 027 M22M*② コノ エワ センセーガ カルレタ モノデスカ
- 029 F30M*① スワキナ エワノケド、コノ エ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
- 030 M17L*④ コレワ センセーガ カイク エワスカ
- 033 F48M*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナツタ エワスカ
- 035 F47M*① センセーガ コノ エオ オカキ ナリタデスカ
- 036 F66L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
- 038 F43M*① オウレリマスガ コノ エワ オウクサマガ オカキニ ナラレノデショウカ
- 039 M41L*① センセーガ オカキニ ナツタ エワスカ
- 041 F47H*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナリマシカ
- 042 M20L*④ コノ エワ センセーガ カイタデスカ
- 043 F63L*① センセーガ オカキニ ナリマシカ
- 045 M19L*② センセーガ コノ エオ カルレタ ワケデスカ
- 046 F72L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナリマシカ
- 047 F40L*① コレ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
- 048 M61L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
- 050 F67M*① センセー オカキニ ナツタデスカ
- 052 F58H*① センセーワ ナンデモ コシユミガ オノカイト エー コトオ ウカガツテマシタガ、ワタシ エノ コトヲ ヨシ ワカリマシケンコト タイエン オジョーズニ カケテ オシアワセテ ヨシマシヨーネ
- 053 F33M*① コノ エ センセー オカキニ ナツタデスカ
- 054 M60M*① コノ エワ アナタガ オカキニ ナツタノデスカ
- 056 F26H*① センセーガ オカキニ ナツタデスカ
- 057 M36M*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
- 059 M24H*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナツタノデスカ

- 060 M22L*④ コレワ センセーガ カイタ エデスカ
 063 F25L*② センセー コレ センセーガ カカレタンデスカ
 065 F30L*① センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 066 F38M*① コノ エワ アナタガ オカキニ ナリマシタカ
 068 F36L*① センセーガ コレオ オカキニ ナリマシタンデスカ
 069 M29M*② センセー コノ エワ センセーガ カカレタンデスカ
 071 M52L*④ コノ エワ センセーノ リキサカデスカ
 073 F23M*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナラマシタカ
 074 M28H*① アー コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 075 F34H*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナリマシタ
 077 F39L*④ センセーガ コレ カキマシタカ
 078 F30L*④ コノ エ センセーガ カイタンデスカ
 080 M18M*① コレ センセーガ オカキニ ナクタン エデスカ。
 ヤリ 森カガ ソウケー スルダケ アツテ リッパチ エデスキネー
 084 M47H*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタン エデスカ
 086 F27L*② コレワ センセーガ カカレタデスカ
 087 M25M*① センセー、コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 089 M42H*② コレ センセー カカレタンデスカ… ナカナカ タイシタ モンデスカ
 090 F16M*④ コレワ センセーガ カイタンデスカ
 091 M61L*① センセー コノ エオ オカキニ ナラマシタカ
 092 F17M*② コノ エワ センセーガ カカレタデスカ
 093 F69L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 095 F18L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 096 M28L*④ センセー コノ エー センセーガ カイタンデスカ
 097 M39M*② コノ エワ センセーガ カカレマシタカ
 098 F37L*⑤ センセーガ カイタノ
 099 M46L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 100 M16M*④ アノ エワ センセーガ カイタンデスカ
 101 M33M*④ センセー コレ センセーガ カイタノデスカ
 102 F16M*② コレワ センセーガ カカレタ モノデスカ
 104 M27M*① センセー リッパチ エガ アリマシタドモ コレワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 105 F30L*① センセー コレ センセー オカキニ ナクタンデスカ
 107 F18M*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 108 M25M*② コノ エワ センセーガ カカレタ モンデスカ
 110 F15L*④ コノ エ カイテアル エワ センセーガ カイタモノデスカ
 111 M34H*① センセーガ オカキニ ナクタン エデスカ
 113 M28M*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 116 M26M*④ センセー コノ エワ センセーガ カイタンデスカ
 117 F31L*① シツレデスカド コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 120 M59L*② センセー コレワ アナタガ オカキニ ナクタンデスカ
 122 M56M*① センセー ヨク イラッシャイマシタ コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタン エデ コウイマシヨカ ドーデシヨ
 123 F18M*② コノ エワ センセーガ カカレタンデスカ
 125 M25H*⑤ コノ エワ アナタガ カイタノ
 126 M24L*⑤ センセー ソレ ジョウチ カイター
 127 M28M*② センセーガ コノ エオ カカレタノデスカ
 128 F25M*① センセーガ コノ エオ オカキニ ナクタンデスカ
 129 M22M*① コノ エワ センセー オカキニ ナクタンデスカ
 130 F36L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 132 F65L*② コノ エワ センセーガ カカレタンデスカ
 134 M73L*① コノ エワ タイプ キレイニ カイテアリマスガ センセー アナタガ オカキニ ナリマシタカ
 135 F38L*① センセー コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタン エデスカ
 137 F57L*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナリマシタノデスカ タイムン キレイニ カケテオリマスドモ シキサイモ ヨクデキテオリマスネ
 138 F37L*① センセー コレ オカキニ ナリマシタンデスカ
 139 M71L*① コレ ジョウチ センセーノ オカキニ ナクタン エデスカ
 140 F74L NR
 141 M22M*② センセー コノ エワ センセーガ カカレタンデスカ
 143 M53H*① コノ エワ センセーガ オカキニ ナクタンデスカ
 144 M17M*④ ソレワ センセーガ カイタンデスカ
 146 F35M*① アノー コノ エワ センセーガ オカキニ ナラマシタ
 147 F30M*④ センセー コレ カキマシタ

- 149 F40L*① センセーガ オカキニ ナックヂスカ
 150 F67L*④ センセーガ カイタンヂスカ
 151 M68L*④ オジョーズニ カケテマスネー
 152 M28M*④ コレワ センセーノ サクヒンヂスカ
 153 M32M*② センセー コレワ フタツガ カカレタノヂスカ
 155 F47L*① センセー コノ イ オカキニ ナリマシタカ
 156 F73L*④ センセーモ ナカナ キレニ カクマシタ
 158 M25L*④ センセー、コレ センセーガ カイタノヂスカ
 159 F20L*④ コノ イワ センセーガ カイタンヂスカ
 161 F61L*① シツレヂスカゲド センセーガ オカキニ ナツ
 クリヂスカ
 162 F20H*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナック モノ
 デスカ
 164 M42L*② コノ イワ センセーガ カカレタンヂスカ
 165 M16M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナックノヂスカ
 168 F62L*① コノ イワ タイエン ゴリツバ イト ハイケ
 ン シテオリマスゲドモ モンヤ センセーガ オカキニ ナラマシタ
 カ
 171 F23L*② コノ イワ、センセーガ カカレタノヂスカ
 173 F44L*① センセーガ オカキニ ナックノヂスカ
 174 F61L*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナックンヂスカ
 176 M21L*② センセーガ オカキニ ナック
 177 F24M*① コレワ センセーガ オカキニ ナックノヂスカ
 179 F74L*④ センセーガ オカキタノカネ
 180 M45L*① タイエン ゴリツバ イエト オモイマス コレ
 ワ センセーガ オカキニ ナリマシタンヂスカ
 182 F32M*① センセーノ オカキニ ナック イヂスカ
 183 F23M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナック イチ
 ンヂスカ
 184 F49M*① センセー コノ イオ オカキニ ナリマシタンヂ
 スカ
 185 F32M*① アノー スデキナ イヂスネー コレワ センセー
 ガ カカレマシタ イヂスカ
 186 F33M*② センセーガ、カカレタンヂスカ
 188 M65L*① センセー、ミゴトナ、イヂスガ、センセーガ コレ
 オ オカキニ ナックヂスカ
 189 F26L*① センセーガ コノ イオ オカキニ ナックヂシヨ
 ーカ
 191 M25L*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナックンヂスカ
 192 F16M*④ センセーガ コレ カイタンヂスカ
 194 F20M*① アノ センセー コチヲノ イワ センセーガ オ
 カキニ ナックノヂスカ
 195 M44M*② センセー カカレタンヂスカ
 197 M72L*② コレワ、センセー、オカキヂスカ
 198 F15M*② コノ イワ センセーガ カカレタノヂスカ
 199 F40M*① センセー コノ イワ センセーガ オカキニ ナ
 ックノヂスカ
 200 F18M*④ コレ センセーガ カイタノヂスカ
 201 M29M*② コレワ センセーガ カカレマシタカ
 202 F70L*① センセー オカキ ナスツタンヂスカ
 203 F49L*① アー ミゴトナ イヂスゲド センセーガ オカキ
 ニ ナックノヂスカ
 204 M60L*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナックノヂスカ
 205 F65L*③ コレ イー イヂスネー センセーノ コジヒツチ
 スカ
 206 M64L*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナリマシタカ
 207 F49M*④ センセー コレ ジブンチ カカレタノ
 209 F15L*① アノ コノ イワ センセーガ オカキニ ナック
 ノヂスカ
 210 F23L*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナリマシタカ
 212 F23H*① コノ カカッテオリマス コノ イワ センセー
 コジシツガ、オカキニ ナック イヂスカ
 213 F31L*① コノ イワ センセーガ カキナリマシタンヂスカ
 215 M41L*① センセーガ オカキニ ナリマシタカ
 216 F26M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナック イヂ
 スカ
 218 F58L*① コレ、センセーガ オカキニ ナックンヂスカ
 219 M49L*① コリヤー センセー ジブンガ オカキニ ナック
 イヂシヨーカ
 220 M41M*① コノ イワ センセーガ オカキ ナックンヂスカ
 221 M56M*① センセーガ オカキニ ナックンヂスカ
 222 F26L*② センセーガ カカレタ イヂスカ
 223 F63L*① センセーガ オカキニ ナックヂスカ
 224 M21L*⑤ ア、コノ イ センセーガ カイタノ
 227 F28M*① コレワ センセーガ オカキニ ナックヂスカ
 230 F37H*② センセーガ カカレマシタカ
 231 M23H*② コノ イワ センセーガ カカレタノヂスカ
 233 F25L*④ センセーガ カイタンヂスカ
 236 M33M*② コレワ アナツガ オカキニ ナックンヂスカ
 237 M38M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナックンヂスカ
 240 M20M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナックノヂスカ
 242 M31M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナック モノ
 デスカ
 243 M63L*② オタクガ カカレマシタカ

- 245 M52L*② コノ イワ センセーガ カカレタデスカ
 246 M23M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナリマシタカ
 248 M56L*① コレ センセーガ オカキニ ナツタデショウカ
 249 F42H*① センセー コノ イワ センセーガ オカキニ ナ
 ヲツ イデ コロイマシヨウカ
 250 M22H*① センセー コノ イワ, センセーガ オカキニ ナ
 ラレタ モノデスカ
 251 F36M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタ イデ
 スカ
 252 F26M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタ イデ
 スカ
 254 F32L*④ コノ イ 卵ガ カイタノ, センセーデスカ
 256 M24H*② コノ イワ センセーガ カカレタデスカ
 258 M34M*① コレワ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
 260 F33M*① センセーガ オカキニ ナツタ イデスカ
 261 M42L*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
 262 F47M*① コレ センセー カカレマシタデスカ
 265 M24M*② センセーガ コレ カカレタデスカ
 266 F22M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 267 M39M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 269 M59L*① センセー, コノ イワ ソノ センセー オカキニ
 ナツタデスカ
 270 F28H*① コレワ センセーガ オカキニ ナラレタデスカ
 271 M32L*① コレワ センセーガ オカキニ ナツタ イデスカ
 272 F38M*① センセーガ コノ イオ オカキニ ナリマシタカ
 273 F27H*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 275 F50L*② センセーガ オカキタデスカ
 276 F22L*② コノ イワ センセーガ カカレマシタカ
 278 M41L*④ センセー キツバリ ジョウチ カイタデスカ
 279 F60L*③ コレ センセーノ オウケデスカ
 281 F38H*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 284 F33M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 285 M66M*③ センセーノ オウケデスカ
 287 F23H*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデシ
 ヨウカ
 288 M47H*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナリマシタ
 デスカ
 290 F41H*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 291 F24H*① コレワ センセーガ オカキニ ナツタデスカ
 292 F21H*① センセーガ オカキニ ナツタデスカ
 293 F22H*① センセーガ オカキニ ナツタデスカ
 294 F19H*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 296 M33L*④ コレワ センセーノ カイタ イデスカ
 297 F48L*① コレワ センセーガ オカキニ ナリマシタデスカ
 299 M35H*① コノ イワ, センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 300 F46L*① センセーガ カカレマシタデスカ
 302 F58L*③ センセーガ オカキタデスカ
 303 F55L*④ センセー ソノ イ センセー カイタデスカ
 305 M33H*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタ イデ
 スカ
 306 F37M*② コノ イワ センセーガ カカレマシタカ
 308 M19M*④ コレワ センセーガ カイタデスカ
 309 F25H*① センセー コレ センセーガ オカキニ ナツタ
 イデスカ
 311 F24M*④ コノ イワ センセーガ カイタデスカ
 312 M33L*④ コノ イワ, センセーノ フデニ ナル モノデス
 カ
 314 M34M*② コノ イワ センセーガ カカレタデスカ
 315 F30M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 317 F48L*④ センセー コノ イ カイタデスカ
 318 F60M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタデス
 カ
 320 F17L*② センセー, コノ イワ センセーガ カカレタデ
 スカ
 321 M33M*② コノ イワ センセーガ カカレタデスカ
 323 F21M*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタ イデ
 スカ
 324 F23M*② コノ イ カカレマシタカ
 326 M27H*② コノ イ, センセー カカレタデスカ
 327 F23L*① センセー, コノ イワ センセー オカキニ ナラ
 レタデスカ
 329 M44M*① コノ イワ センセーノ オカキニ ナツタ イデ
 ショウカ
 330 M75L*① センセー コレワ リツバチ ナツタデガ コレワ
 センセーノ オカキニ ナツタ モンチ コロイマスカ
 331 F57L*① センセー コノ イオ オカキニ ナツタデスカ
 332 M29H*① コノ イワ センセーガ オカキニ ナラレタ モ
 ノデスカ
 333 M40L*② コノ イワ センセーガ カカレタデスカ
 334 F67L*④ コレワ 卵ガ オカキニ ナツタカネ, マクシガ
 キマデモ ナイガ オキキ シタインデネ

- 335 F27M*① コノ イフ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
カ
- 337 M51L*① センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 338 F40L*① コノ イフ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 339 M74L*② センセー コノ イフ リッパニ カケテオリマスガ センセーガ オカキデスカ
- 341 F15L*① コレフ センセーガ オカキニ ナツク イデスカ
- 342 M35M*② ヨク デキテイマスネ センセーガ カカレタ イデスカ
- 345 M26L*② コノ イフ センセーガ カカレタノデスカ
- 347 F62M*① アノー コノ オエフ ドナカガ オカキニ ナツクンデスカ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 348 M19M*① コノ イフ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 350 F37M*② コノ イフ センセー カカレマシタカ
- 351 F49L*② アナタガ オカキニ ナツクンデスカ
- 353 F22L*② センセー シツレデスカド センセー カカレタノデスカ
- 354 F31M*① センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 355 M37M*② コノ イフ、センセーガ カカレタノデスカ
- 356 M31H*① センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 357 F23L*④ センセーガ カイトンデスカ
- 358 M34L*① センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 359 F45H*① センセーガ オカキニ ナツクノト チガイマスガ
- 360 F74L*① コノ イフ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 361 F68L*③ センセーガ オカキデスカ
- 362 M32L*② ドナカガ カカレタノデスカ。センセー カカレタノデスカ
- 363 M54L*② センセーガ カカレタノデスカ
- 365 F55H*① コノ イフ オクサマガ オカキニ ナツクンデスカ
- 366 F61L*① センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 367 M42L*① アノー コノ イフ センセーガ オカキニ ナツク イデスカ
- 368 M47M*② センセーガ カカレマシタカ
- 369 F47L*① アノー センセー オカキニ ナツクンデスカ
- 374 F23M*④ センセー コノ イフ センセーガ カイトンデスカ
- 375 F21L*② コノ イフ センセーガ カカレマシタカ
- 377 F28M*④ コノ イフ センセーガ カイト イデスカ
- 378 F56M*① コノ イフ センセーガ オカキニ ナツク イデスカ
- 379 M32H*① コノ イフ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- カ
- 380 F75L*① センセー コノ リッパ イガ カイトアリマスガド コレフ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 383 M55L*② センセー コノ イフ イデマス センセー コノ イフ センセー カカレタノデスカ
- 384 F22M*② コノ イフ センセーガ カカレタ ノデスカ
- 387 F54L*① センセーガ オカキニ ナツク イデスカ
- 389 F28L*④ コノ イ センセーガ カカレタノ
- 390 F78L NR
- 392 F69M*① センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 393 F23H*② コノ イフ センセーガ カカレタノデスカ
- 395 F38L*① センセーノ サクセンデ コソイマスガ
- 396 M65M*② センセーノ コソビツデスカ
- 397 M16L*① コノ イフ センセーガ カキマシタノデスカ
- 399 F21M*② コノ イフ センセーガ カカレタノデスカ
- 401 F66L*① センセー オカキ ナリマシタノデスカ
- 402 F62M*① コレ センセーガ オカキ ナツクンデスカ
- 404 F47M*① コノ イフ センセーガ オカキニ ナツク イデスカ
- 407 F21M*② アノ コノ イフ センセーガ カカレタノデスカ
- 410 M22H*② コノ イフ センセーガ カカレタ イナンデスカ
- 411 M16M*② センセー、コノ イフ センセーガ カカレタノデスカ
- 413 F55L*① コレ センセーガ オカキニ ナツクンデショカ
- 414 M45L*① コノ イフ センセーガ オカキニ ナツク イデショカ
- 417 M49L*② センセー コレ センセーガ カカレタ イデスカ
- 418 F28M*① センセー コレフ センセーガ オカキニ ナツク イデスカ
- 419 F34M*① センセー コノ イフ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 420 F33L*④ センセーガ コレ カカレタ
- 423 F65L*② コレフ センセー ドナカガ オカキマシタ。コノ イフ センセーガ オカキマシタ
- 426 F33L*② コノ イフ センセーガ カカレタノデスカ
- 428 F22H*① コノ イフ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 429 M42L*② コノ イフ センセーガ カカレタノデスカ
- 431 F25H*② コノ イフ センセーガ カカレタ ノデスカ
- 432 M35M*② コノ イフ センセーガ カカレタノデスカ
- 434 F25L*① アノー、スイブン ステキナ イデスカド コレ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 435 F19H*① センセー、コレフ センセーガ オカキニ ナツクンデスカ
- 436 F69L NR
- 438 F34L*① センセー、タイマン ショーズニ カケテマスガド、

- コレ センセーガ オカキニ ナリマシタカ
 439 M20M※① ヤ、センセー ナカナカ、イー エデスネ コレ
 ワ センセーガ オカキ ナツタンデスカ
 440 F74L※① センセーガ オカキニ ナツタンデスカ
 441 F31L※① コレ、センセーガ オカキニ ナツタンデスカ
 443 M18L※④ コレワ センセーガ カイタ エデスカ
 444 F22M※① コレワ センセーガ オカキニ ナツタ エデスカ
 447 F20H※① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタンデス
 カ
 449 M49M※④ センセー コノ イオ カイタデスカ
 450 F19M※① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタンデシ
 ョーカ
 452 M59L※① センセーガ オカキニ ナツタ エデスカ
 453 F15M※① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタ モノ
 デスカ
 454 M19M※④ センセーガ カイタンデスカ
 455 F34M※① センセー、コノ イ、センセーガ オカキニ ナリ
 マシタ
 456 F16M※① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタンデス
 カ
 458 M31L※① センセー、コレワ センセーガ オカキニ ナツタ
 モノデスカ
 459 F17M※① ヤノ センセー コレ センセーガ オカキニ ナ
 ッタンデスカ
 462 M23M※② コノ イワ センセーガ カカレクノデスカ
 463 M58M※① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタンデスカ
 464 M74L※④ センセー コノ イワ 唄ガ オカイト。ウマク
 カイアアリマシヨ
 466 F32M※① コノ イワ センセーガ オカキニ ナラマシタ
 カ
 467 F61M※① センセー、コノ イワ センセーガ オカキニ ナ
 リマシタ モノデ コゾイマシヨーカ
 468 M36L※④ コレワ センセーガ カイタ エデスカ
 470 M38H※① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタンデス
 カ
 471 F32L※① センセーガ オカキニ ナリマシタカ
 473 M19M※② コノ イワ センセーガ カカレクノデスカ
 474 M20M※① コレワ センセーガ オカキニ ナツタ エデスカ
 476 M19M※④ コレワ センセーガ カイタンデスカ
 477 M25H※④ ワー、コノ イワ スコイナ、センセー カイタ
 ンデスカ
 479 M15L※④ センセー コノ イワ センセーガ カイタンデス
 カ
 480 M16M※① コノ イワ センセーガ カカレクノデ コゾイマ
 スカ
 481 F63L※① センセーガ オカキニ ナリマシタカ
 482 M29M※④ センセーガ コノ イオ カイタンデシヨーカ
 483 M34H※① スバフシイ エデスネ センセーガ オカキニ ナ
 リマシタカ
 485 F49L※① コノ イワ クイヘン キンイニ カケテイマスケ
 フ センセーガ オカキニ ナラタ エデスカ
 486 M43L※③ コレ センセー カカレシタ。リッパチ モンデス
 ナー
 487 F29L※② コレワ センセーガ カカレタンデスカ
 488 M68L※② コノ イワ リッパチ エデスガ センセー ナ
 タガ オカキニ ナツタデシヨーネ
 489 M29L※⑤ センセー コノ イワ 唄ガ カイタネ
 490 F50L※① センセー コノ イ オカキニ ナツタンデスカ
 491 M28M※④ コレ センセーガ カカレク
 492 F27L※④ ソノ イワ センセーガ カイタ エデスカ
 494 F15L※④ コノ イワ センセーガ カキマシタカ
 495 F49L※② チョット オグスネ シマスケドモ コレワ セン
 セーガ カカレマシタカ
 496 F38L※② コノ イワ センセーガ カカレクデスカ
 497 F21M※① コノ イワ センセーガ カカレク イデ コゾイ
 マスカ
 498 F50L※① コレワ センセーガ オカキニ ナツタ モノデス
 カ
 500 F46L※① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタンデス
 カ
 503 M21L※④ センセー ソレワ センセーガ カイタンデスカ
 504 M17M※④ コノ イワ センセーガ カイタンデスカ
 506 F41L※① コレワ センセーガ オカキニ ナリマシタカネ
 507 M41L※① センセーガ オカキニ ナツタ エデスカ
 508 M23L※⑤ センセー カイタ
 509 F30L※① コノ イ センセーガ オカキ ナツタンデスカ
 510 F18M※① コレワ センセーガ オカキニ ナツタ エデスカ
 512 F17M※⑤ コノ イ センセーガ カイタノ
 513 F35M※① センセーガ オカキニ ナツタ エデスカ
 514 F28L※① コノ イワ センセーゴジツンガ オカキニ ナツ
 タンデスカ
 515 F53L※① センセーガ コノ イ オカキニ ナリマシタカ
 516 M38L※① センセー コレワ ゴジツンデ オカキニ ナリマ
 シタカ
 517 M59M※① センセー コレワ センセーガ オカキニ ナツタ
 ノデスカ
 518 F42L※② コレワ センセーガ カカレタンデスカ
 519 F30M※① コノ イワ センセーガ オカキニ ナツタンデス
 カ
 522 F46L※④ センセー コレワ センセーガ カイタンデスカ

- 525 M36L*④ ア、センセーゴ コレ カイタンデスカ
 527 F25L*② コノ イワ センセーゴ カカレタンデスカ
 528 M41M*① ヤハリワタシワ センセー オカキニ ナツク
 イダト オモウガ センセー オカキニ ナツタンデジョー
 531 M26L*① ア、センセーゴ コレ オカキ ナツタンデスカ
 533 M48L*① コレワ センセーゴ オカキ ナツク イデスカ
 534 F18M*① コノ イワ センセーゴ オカキニ ナリマシタカ
 537 M35M*② コノ イワ センセーゴ カカレマシタカ
 539 M24H*② コレ センセーゴ カカレタンデスカ
 540 M72L*① シツレデスカド コノ イワ センセーゴ オカ
 キニ ナツクデスカ
 542 M51L*① センセーゴ オカキニ ナリマシタンデスカ
 543 M55L*① センセー オカキニ ナツクデスカ
 545 M46H*④ センセー、コノ イワ アナクノ フデデスカ
 546 F36L*① センセーゴ オカキニ ナツタンデスカ
 548 F51H*① コノ イワ センセーゴ オカキニ ナリマシタデ
 ジョーカ
 551 F45H*① センセー コノ イオ オカキニ ナツクノデスカ
 552 M24M*① コレ、センセーゴ カカレタ モンダト オモイ
 スガ ホトニ カカレタ モンダト ゴザイマスカ
 554 F43H*① コノ イワ センセーゴジシツガ オカキニ ナツ
 タ モノデスカ
 555 F50M*① コレ センセー オカキニ ナツクデスカ
 557 F31M*① ナカナカ カンゾノ イー エデスカド センセー
 コレ ゴジシツデ オカキニ ナツタンデスカ
 558 F49L*① センセーゴ コノ イオ オカキニ ナツクデスカ
 561 F22H*① コノ イワ センセーゴ オカキニ ナツク イデ
 スカ
 565 M45L*② センセーゴ カカレタ モノデスカ
 566 F15L*② コノ イワ センセーゴ カカレタンデスカ
 567 F21H*② コノ イワ センセーゴ カカレクノデスカ
 568 F28M*② センセー、コレ センセーゴ カカレタ エナンデ
 スカ
 569 M26L*④ コノ イワ センセーゴ カイタ エデスカ
 570 F42M*① センセーゴ オカキニ ナツタンデスカ
 572 F29L*① センセー、コレ、センセーゴ オカキ ナツタンデ
 スカ
 575 M17M*② コノ イワ センセーゴ カカレタ モノデスカ
 576 M26H*① ヒジョーニ スバラシイ イデスネー。センセーゴ
 オカキニ ナツクデスカ
 578 M37M*③ コノ イワ アナクノ ゴヒツデスカ
 579 M43M*① センセー、コレワ センセーゴ オカキニ ナツ
 ンデスカ
 581 F54M*① コノ イワ センセーゴ オカキニ ナツク モノ
 デジョーカ
 582 M17M*② コノ イワ センセーゴ カカレタンデスカ
 583 F61L*① シツレデスカド センセー コレ オカキニ ナツ
 タンデスカ
 584 F19H*① コレワ センセーゴ オカキニ ナツクノデスカ
 585 F45L*① コノ イワ センセーゴ オカキニ ナリマシタン
 デスカ
 586 M36M*① センセー シツレデスカド コレ センセーゴ オ
 カキニ ナリマシタカ
 587 F16M*① コレワ センセーゴ オカキニ ナツクノデスカ
 588 M33M*① シツレデスカド コノ イ センセーゴ オカキ
 ニ ナツクノデスカ
 590 F33M*① コノ イワ センセーゴ オカキニ ナツクノデス
 カ
 591 F28L*⑤ コレ センセーゴ カイタノ
 592 M42L*① コノ イワ センセーゴ オカキニ ナリマシタカ
 593 F36L*④ センセー コノ リツバチ イオ カイタノワ セン
 セーデスカ
 594 F49L*③ コレ センセーゴ オカキニ ナツクデスカ ソル
 トモ セーカ ジョーキューセーカ
 596 F29M*④ コノ イワ センセーゴ カイタンデスカ
 597 F37M*① アノー センセー コレ センセーゴ オカキニ
 ナツク イデスカ
 599 F48L*① シツレデスカド コノ イワ センセーゴ オカ
 キニ ナリマシタンデ ゴザイマスカ
 600 F27L*① センセーゴ オカキニ ナツクノデスカ

English Summary

This report is a follow-up to the National Language Research Institute Report 11 (1957). In 1952 and 1953, the National Language Research Institute conducted surveys of the use and awareness of *keigo*, Japanese honorific/polite forms, of the inhabitants of Ueno City in Mie Prefecture, and Okazaki City in Aichi Prefecture, respectively. Report 11 primarily gives the results of the latter survey in Okazaki.

In 1972, approximately 20 years after the 1953 survey, the National Language Research Institute conducted a second survey in Okazaki, the purpose of which was to determine how the use and awareness of *keigo* had changed over the years. This follow-up survey was basically divided into two parts. First, a survey was conducted of 400 informants who were sampled from the same regions and surveyed following the same procedure as in the 1953 survey. Second, an attempt was made to track down as many of the 434 informants of the 1953 survey as possible, and a survey was conducted of the 185 who were found to remain in Okazaki. The former survey is referred to as the longitudinal survey and the latter, the panel survey. We assumed that the 1972 survey would investigate the same questions as the previous survey conducted in 1953.

1) The politeness level of the response sentences given by each informant in each context was coded according to a standard of politeness consistent with that used in the 1953 survey as follows: 1 = very polite, 2 = less polite, 3 = least polite. Next, the politeness of each informant was determined by totalling the politeness level points for all the contexts. No major change was observed in politeness based on a comparison of these point totals in the longitudinal survey. However, there was a slight indication that people had become less polite, in the panel survey.

2) Women were shown to be significantly more polite than men. However, this difference had decreased over the 20 year period. The distribution for women's politeness totals was normally distributed.

3) Overall, men did not show significant difference with respect to age but women had a tendency to be more polite with increasing age.

4) People with more education tended to be more polite. In particular, men with limited educational background were observed to use less polite language.

5) The contribution of the above variables to politeness was observed in the following decreasing order: sex, sex and educational background, sex and age,

educational background, age.

6) None of the results given in 2) through 5) significantly changed over the 20 year period.

7) An analysis of the contexts taken individually showed that the informants were even more polite in the contexts in which informants had been polite in the previous survey, and even less polite in contexts in which informants had been less polite in the previous survey. This differentiation in *keigo* usage suggests that people have become more adept at using *keigo* over the years.

8) There was high agreement with respect to the ranking by the surveyor of the politeness level of the response sentences given in the 12 contexts in both surveys.

9) Women were more polite than men in all contexts, especially in contexts where they were speaking to a person they knew well. This difference between men and women decreased in contexts where one was expected to be tense. Over the 20 year period, the difference between men and women widened in the contexts which were thought to require very polite or least polite forms, and narrowed in the intermediate contexts.

10) Young people were shown to use less polite language when talking with their peers except in contexts where their peer had some official status, in which case they used polite language.

11) 1 point was given to an informant in each context where his/her response matched that of the majority of the informants in politeness level in that context, and 0 was given when it did not. The score obtained by totalling these points for all 12 contexts was designated as the conformity (*tekiō*) score. Men had higher conformity scores than women but the difference between men and women's scores diminished over the 20 year period as a result of an increase in women's conformity scores.

12) In the 1953 survey, no clear relation was observed between conformity scores and age, but in the present survey, the conformity scores for young people were slightly higher than those for other age groups.

13) A tendency was observed for conformity scores to be lower for people with higher educational background.

14) Linguistic forms which contained a negative were assumed to be more polite than those which did not. More negative forms were used in many of the contexts in the present survey than were used in the 1953 survey.

15) Interrogatives were assumed to be more polite than declarative expressions.

16) Expressions which contained a dialect form were assumed to be less polite than those which did not. Over the 20 year period, the use of dialect forms decreased in most of the contexts, with the exception of the contexts which were expected to require the least polite forms, in which case the use

of expressions which contained a dialect form increased. Older men with limited educational background used the most dialect forms in their speech.

17) Expressions which contained Chinese compounds were assumed to be more polite than those which did not.

18) The verbs used in request expressions were ordered in terms of decreasing politeness as follows: itadaku, negau, kudasaru, morau.

19) As expressions of apology, Osore irimasu ga was considered more polite than sumimasen ga.

20) As expressions of gratitude, variations of sumimasen ga were considered more polite than variations of arigatoo.

21) Particles indicating reason ('because') were ordered from high to low politeness as follows: no de, kara, de.

22) O ... ni naru expressions were considered very polite. Use of these forms decreased considerably over the 20 year period.

23) The percent usage of the masculine personal pronoun, boku, and zibun by men decreased over the 20 year period. Younger men tended to use boku more than other age groups.

24) Older people tended to not use personal pronouns, and women tended to use them less than men.

25) The following relates to the terms used to address younger boys. While almost half of the informants used anata, 'you', or anta, 'you', in the 1953 survey, these terms were almost never used in the present survey. The use of kimi, 'you', also decreased. There was a dramatic increase in the use of the masculine personal pronoun, boku in these contexts, especially by women. However, people over 50 rarely called little boys boku.

26) Men tended to use the sentence final particles ka and kai in interrogatives while females tended to use no. Interrogatives signalled only by a rise in sentence final intonation were observed considerably more in women's responses. Informants with high educational background tended to use interrogatives signalled only by a rise in sentence final intonation, while those with less education tended to use the sentence final ka and kai particles.

27) Over the 20 year period, the number of people who referred to their father as titi increased slightly and women, in particular, tended to use this form. This indicates that this *keigo* usage has become general knowledge. This is further evidenced by the results of the slide survey given below.

28) A slide survey was conducted in which informants were given a context by a slide and asked to evaluate a tape of a conversation which was supposed to take place in that context. A comparison made over the 20 year period, indicated that there was a general tendency for informants to choose less polite forms when they were asked to put themselves in the position of a person on the tape. On the other hand, there was an increase in the percentage of the

choice of polite forms when they were asked to evaluate the appropriateness of speech on the tape. Results of the slide survey are given in 29) through 31).

29) The percentage of women who preferred polite forms was higher than that of men but this difference had diminished over the 20 year period.

30) Over the 20 year period the use of ikareru, 'go', as a *keigo* expression for iku increased greatly while that of oide ni naru, 'go', decreased. Although there was a predominance of de gozaimasu, copula, and the personal pronoun watakushi, 'I', in the former survey in contexts where one was speaking with a former teacher, these forms were replaced by desu, copula, and watashi, 'I', respectively, in the present survey. In general, fewer people felt that very polite expressions were appropriate in contexts where one was speaking with a superior. The above indicates that in most categories there was an increase in preference for the less polite forms.

31) In the former survey, in conversations between employer and employee, teacher and student, etc. preference was given for speech in which there was little difference in the politeness levels used by the two individuals involved. The present survey indicates an overall preference for a greater difference in politeness levels. However, when the conversation evaluated was that between an employer and a female employee, there was a preference for less of a difference in the politeness levels used by the two individuals involved than in the previous survey. In addition, there was more of a preference for less polite forms in the speech of students than in the former survey.

32) Response sentences having a higher politeness level tended to be longer. There was little difference in the length of the response sentences obtained in the two surveys but the variance was shown to have increased over the 20 year period.

33) Response sentences that contained dialect forms were longer than those that did not.

34) The informants' awareness of *keigo* was scored by another survey and the scores were shown to have noticeably decreased over the 20 year period. However, this probably reflects a change in what was recognized as *keigo* rather than a decrease in its awareness.

35) This change in *keigo* recognition appeared in the failure to recognize the polite prefix o-, -desu, -masu, etc. as particularly polite forms. This probably caused the decrease in *keigo* awareness scores, which were based on tests in which the informant was asked to designate *keigo* forms in short sentences.

36) The decrease in *keigo* awareness scores was especially noted for informants who had higher educational background.

37) The awareness scores were slightly higher for women in both surveys, and younger people had higher scores than older people. While informants with more education had higher awareness scores in the 1953 survey, this was

less so in the present survey. See 35).

38) No relations were observed among the *keigo* awareness scores, totals of politeness level points and conformity scores.

39) The percentage of informants who said they were good at using *keigo* and that of informants who said they were not good at it both decreased the same amount over the 20 year period. This change caused an increase in the percentage of those who said they were average. However, more informants in their late teens evaluated their ability as good or not good as opposed to average than in the 1953 survey.

40) Informants who claimed they were adept at using *keigo* had higher *keigo* awareness scores in both surveys.

41) There was an increase over the 20 year period in the percentage of informants who said they did not use *keigo* in their family. In particular the difference based on educational background widened over the 20 year period. Informants with more education said they used *keigo* in their family more than in the previous survey. There was less difference based on sex and age than in the 1953 survey. The tendency for the use of *keigo* in the family to peak for people in their 30's and decrease for people over and under 30 became more pronounced.

42) Informants who said they used *keigo* in their family had higher politeness level totals and awareness scores but there was no difference observed in conformity scores.

43) There was widespread opinion that one should differentiate in one's usage of the various personal pronoun forms, as opposed to using only one.

44) The opinion that one should not overuse the polite prefix, o-, was given more often in the present survey than in the 1953 survey. The tendency for more men to prefer not to use o- disappeared in the present survey. In the 1953 survey, informants with more education preferred not to use o- more but this tendency was less pronounced in the present survey.

45) The responses given to the question about which the informant preferred, the present *keigo* system or that of the past, were comparable for the most part in both surveys. However, while men preferred the older *keigo* system and women the present system in the 1953 survey, these tendencies were reversed in the present survey.

46) In response to a question about whether one should use *keigo* in the family, the informants who said one should decreased over the 20 year period while those who said it was not necessary increased. The tendency for older people to favor the use of *keigo* in the family in the 1953 survey was not observed in the present survey. This question asked the informants to evaluate linguistic behavior as opposed to saying whether or not they actually used *keigo* in their families, as was required in 41) and 42). However, there was high

agreement observed in the answers to both types of questions.

47) When a question biased for the opinion that it was not necessary to use *keigo* was asked, more people complained about the content of the question than in the previous survey. No difference based on sex was observed, but younger people and people with more education reacted this way more. Likewise, more people complained about the content of the question when a question biased for the opinion that one should use *keigo* was asked, than in the former survey. Thus, overall fewer people were influenced by the biases presented than previously.

48) Women, older people, and people with less education were shown to be more conservative in their social attitudes. This result is comparable to the former survey and that of other surveys. Age was the strongest factor influencing social attitudes.

49) People with conservative opinions tended to be more polite in the present survey. This is the reverse of that which was found in the 1953 survey.

50) People with liberal opinions had higher conformity scores and *keigo* awareness scores. Liberal informants tended to say that they used *keigo* in their families even though they also tended to say that it was not necessary to do so. The more liberal informants tended to support the present *keigo* system while the conservative ones supported the former *keigo* system.

51) Results show that fewer people read the newspaper than they did in 1953.

52) The range of people's associations and activity is shown to have widened over the 20 year period. The informants with wider social networks had higher *keigo* awareness scores and tended to be able to use *keigo* better.

53) The number of people who considered themselves lower class and lower middle class diminished, while those who considered themselves middle middle class increased over the 20 year period. Although there was no difference observed based on sex, there was more variation among men than women. The higher the educational background and the younger the age of the informant, the higher the class they considered themselves to belong to.

54) The factors which informants gave for determining which class they belonged to were in order of decreasing frequency: occupation, educational background, family lineage, property, reputation, income. Men tended to base their decision on reputation and women on family lineage, and older people placed more importance on educational background while younger people valued family lineage and property. As educational background increased, the importance given to educational background decreased and more weight was given to reputation.

The above summarizes the major results of this survey. Many of the results agreed with common sense, others contradicted what was previously expected,

and results were found which could not be obtained without a survey of this kind. The special nature of this survey, as a follow-up survey conducted 20 years after the 1953 survey, should be noted. Repetitions of similar surveys in the future will also prove to be valuable. It is strongly advised that a third follow-up survey be conducted in 1992.

索引

- (1) 「 」で囲んだ項目は、質問に用いた項目や場面の略称または言語形式、および被調査者の反応形式を示す。また、『 』で囲んだ項目は、本文中で取り上げた文献の書名を示す。
- (2) 索引に登録された項目のうちには、本文に記載された用語と若干異なる語形のものが含まれている。
- (3) 数字は、本文中のページ数を示す。そのうち、数字の後に～印の付されたものは、そのページ以下にその項目についての説明あるいは記述があることを示している。また、ゴシック体の数字は、そのページにその項目の定義が記載されていることを示している。

あ 行

「あたくし」…………… 81
「あたし」…………… 81
「あなた」…………… 49, 90
あなたならこう言う… 50, 151～, 161～,
164
あなたならこう感ずる …… 50, 152
改まった場面 …… 95
「あります」…………… 104～, 223
「ありがとう」…………… 49, 84～
「あんた」…………… 49, 90
「いい」…………… 86
「言いましたから」…………… 165
「言う」…………… 52, 165～
「家柄」…………… 52, 147
家の中でも敬語を使うべきか … 116～,
196, 233～
「行かれた」…………… 105～, 226
「行かれます」…………… 161
「医者」… 45～, 67～, 82, 93～, 100, 152,
155, 163, 184, 202～, 210～
「いただく」…………… 48, 75～

「いただけませんか」…………… 75, 162, 172
一貫率…………… 161～
今の敬語 …… 40, 51～, 55, 114, 196, 233
依頼表現 …… 48
「言われました」…………… 41
イントネーション…………… 48, 92
「魚つり」… 46～, 49, 67～, 72～, 89, 94,
100, 202～, 207, 209, 212～
「うち」…………… 81
運営・組織…………… 4
A I C…………… 176～, 200
「宴会・旅行」…………… 127, 239
「おいきると」…………… 161
「おいでになると」…………… 161
「お金」…………… 135
「お車」…………… 103～, 223～
「おそれいます」…………… 49, 79, 84
「お……だ」…………… 79～
「おっしゃいました」…………… 41
「おつり」…46, 48, 67～, 70～, 86～, 93～,
100～, 203, 207, 212～
「お……です」…………… 48, 79～
「おとうさん」…………… 92～, 171
「お……になる」…………… 48, 79, 89

「お」のつけ過ぎ…………… 40
 「お持ち」…………… 104～
 「お持ちください」 …… 103～, 106, 166,
 226
 「お持ちなさい」…………… 166
 「お持ちになってください」…………… 166
 「親孝行」…………… 138
 「お野菜」…………… 103～, 223～
 「おやじ」…………… 92～
 「おやじさん」…………… 92
 「お忘れじゃありませんか」…………… 162
 「お忘れですよ」…………… 161
 「お忘れになる」…………… 79
 恩恵を施す場面…………… 39, 46, 70

か 行

「か」…………… 48, 92
 「かい」…………… 48, 92
 外出回数…………… 124
 階層…………… 36, 39～, 142～
 階層帰属意識…………… 52, 109, 142～, 243
 階層判定…………… 247
 顔知りの相手…………… 46, 70
 学歴…………… 25, 30～
 「学歴」…………… 52, 147～
 学歴別 (の結果)… 39～, 47, 54～, 74～,
 81, 92～, 95～, 104～, 108～,
 111, 114, 120, 174～, 177, 179～,
 193, 197, 205～, 213～, 218～,
 221～, 226～, 234, 244
 「傘貸し」…………… 45～, 70～, 88～, 93～,
 98～, 152, 156, 166, 202～, 206
 ～, 212～
 「傘忘れ」… 45～, 59, 70～, 79, 100, 151,
 161, 203～, 208, 212, 214～
 家族どうして敬語を使うか …… 51, 55,
 111, 117, 181, 196, 230
 学校調査…………… 4
 家族内での地位…………… 150

ガットマンの尺度…………… 187
 「から」…………… 49, 98～, 246
 漢語…………… 38, 49, 95～
 簡素な敬語…………… 33
 『企業の中の敬語』…………… 2, 108, 249
 「議事堂」… 45～, 71～, 82, 94, 100～,
 152, 156, 162～, 207, 211～
 「汽車の中で」…………… 128, 240
 「きみ」…………… 90
 疑問…………… 88
 「客間で」…………… 153, 167
 「凶悪犯人」…………… 131
 緊張を要する場面…………… 46, 71
 「ください」…………… 48, 75, 82～, 104, 162
 「くださいませんか」…………… 75
 「くれ」…………… 38, 82
 「くれんか」…………… 38
 グラフ点…………… 218
 敬意…………… 33, 59
 敬語意識…………… 4, 6, 33, 35, 40, 50～,
 55, 103～, 173, 180～, 195, 223
 ～, 246
 敬語が使える程度…………… 109, 195, 198
 敬語形式…………… 37～, 46～, 50～, 62, 75～,
 103, 170, 173, 176, 195
 敬語形式の段階調査…………… 36, 38
 敬語行動…………… 4, 6, 15, 35～, 51, 95, 183
 敬語指標…………… 173, 184, 191, 197
 敬語使用意識…55, 109～, 181, 229, 246～
 敬語段階……………45～, 59～, 65～, 173, 201～
 『敬語と敬語意識』…………… 1
 敬語に対する意見…55, 111～, 182, 230～
 敬語に対する知識… 15, 50～, 103～, 183
 敬語についての意見…………… 39, 246～
 敬語の混乱…………… 33
 敬語の使い方…………… 67, 73～, 230, 245～
 敬語の使い分け…………… 41, 47
 敬語知識 …… 55, 103～, 114, 223～, 246～
 継続調査…………… 1～, 4, 43～, 53～, 65～,
 173～, 205, 223, 226～, 230～,

234, 245, 249
 継続調査の被調査者…………… 23～, 31
 ゲゼルシャフト…………… 2
 「結構」…………… 84～
 ゲマインシャフト…………… 2
 言語形式…………… 44, 46～, 59～, 245
 言語生活…………… 1, 49～, 53, 164, 248
 『県民性の統計的研究』…………… 131, 135
 高学歴…………… 25, 222
 合計段階点 …… 54, 173～, 216, 217～, 248
 交際範囲…………… 52, 56, 126, 191, 197～, 239
 「交際範囲」…………… 52, 56, 128, 240
 交際範囲指標…………… 197～
 「公式の会合」…………… 126, 239
 肯定形…………… 48, 75～, 88～, 162, 246
 行動範囲…………… 52, 124～
 購読部数…………… 56, 124, 238
 「ごさいます」…………… 38, 79～, 162, 172
 5段階方式 …… 62～, 69～, 78, 202～, 247
 今回調査…………… 1, 4, 29

さ 行

サーヴェイ調査票…………… 4, 6, 15～
 「財産」…………… 52, 148
 差し替え方式…………… 23
 3段階方式… 62, 65, 69～, 75, 98, 201～,
 217, 247
 サンプリング…………… 2, 4～, 23, 35～, 43
 CR…………… 229, 240～
 支持政党…………… 145
 自称代名詞…………… 49, 81～
 質問形…………… 48, 88～
 質問を示す終助詞…………… 48
 「自分」…………… 49, 81
 社会意識…………… 56～, 131～, 139, 241
 社会生活意識 …… 52, 56, 122～, 173, 191,
 238～, 248
 社会生活調査…………… 6, 35～, 122
 社会生活調査票…………… 4～, 7～, 43, 139

社会的態度…………… 52, 139～, 191～
 社会的態度指標…………… 191～, 200
 社会的地位…………… 6, 146～
 「社会の混乱」…………… 139
 「市役所」…………… 92, 152, 155, 165, 171
 「社長と女社員」…………… 156, 169
 「社長と社員」…………… 154, 169
 集合調査…………… 36
 終助詞…………… 48, 92
 「収入」…………… 52, 146～
 出身地…………… 29, 31
 出生地…………… 29, 31
 情報量規準…………… 200
 職業…………… 25, 30, 248
 「職業」…………… 52, 146～
 職業上の地位…………… 149
 職業別(の結果)…………… 145, 149
 職務内容…………… 25～
 所属階層…………… 36
 所属産業…………… 25～
 親疎…………… 36, 39
 新聞との接触…………… 52, 56, 122, 238
 進歩的意見…………… 52, 191～
 心理的立場…………… 38, 46, 65
 数量化理論第Ⅲ類…………… 48, 188, 191, 197
 「すみません」…………… 49, 79, 84
 スライド調査…………… 4, 36, 50, 92, 151～
 スライド調査の被調査者…………… 50, 151
 性…………… 25, 29, 31
 正解点…………… 105～, 223
 性別(の結果) …… 39～, 46～, 51～, 54～,
 70～, 82, 105, 108, 109～, 114～,
 131～, 144～, 164～, 174～, 179
 ～, 193, 203～, 211, 216, 219～,
 226～, 236, 244, 246
 「席ゆずられ」…………… 45～, 71～, 84, 98～,
 153, 167, 202, 207, 210, 212～
 「世間のしきたり」…………… 52, 57, 141, 242
 前回調査…………… 1～, 4～, 23, 29
 全国調査…………… 37, 39

「先生」…… 45～, 67～, 71～, 81, 95, 100,
152, 155, 162, 171, 203, 204, 207
～, 210, 211～
「先生」(社会意識)…………… 56, 139, 241
「先生と生徒」…………… 50, 154, 156, 169～
「総理大臣」…………… 57, 141, 243
「卒業式」…………… 131
尊敬形式…………… 48, 165

た 行

『大都市の言語生活』…………… 112, 249
対話調査…………… 4, 36
「頼む」…………… 82
頼む場面…………… 78
段階づけ…………… 59～
断定形…………… 48, 88
『地域社会の言語生活』… 1, 25, 245, 249
「近頃の若い者」…………… 136, 246
知識点…………… 50～, 107～, 227
知識点段階…………… 179～, 184～, 195, 198
「父」…………… 92～, 171
父の出身地…………… 29
中学歴…………… 25, 222
調査の経過…………… 5
調査の目的…………… 1～, 4, 33～
「ちょっと」…………… 49, 79, 88
使い分け…………… 46～, 54, 67, 209
使い分け点…………… 218
鶴岡市の調査…………… 1～, 23, 29, 245
「で」…………… 49, 98, 246
低学歴…………… 25, 222
丁寧語「ます」…………… 51, 55, 105, 226, 246
丁寧さ段階… 36～, 59～, 75, 173～, 184,
186, 195, 198
丁寧さの指標…………… 60
丁寧さの順位…………… 45～, 89, 201, 209
丁寧さの程度…………… 47～, 167
適応点…………… 54, 177, 216～, 248
適応点段階…………… 176～, 184～, 195, 198

「です」…………… 162
伝統的意見…………… 57, 242
「電灯料」… 45～, 69～, 82, 95～, 206～,
212～
「電報用紙」…………… 45, 47, 69, 72～, 100～,
155, 162, 172, 202～, 212～
「どうぞ」…………… 84, 86
特定の敬語形式…………… 47～, 75～
どんな人と話すか…………… 128

な 行

長い発話…………… 38
二人称…………… 49, 90
二人称代名詞…………… 49
「荷物預け」… 45～, 70～, 78～, 94, 98～,
202, 207, 211～
人称代名詞の使い分け…………… 55, 112, 182,
230
「願う」…………… 48, 82
年齢…………… 25, 29, 31
年齢別(の結果)… 39～, 47, 54, 72～, 81,
88, 90, 93, 95～, 104～, 108～,
114, 116, 120, 174～, 177, 179,
188, 193, 205～, 211～, 216, 218
～, 221, 226～, 234, 235, 243
「の」…………… 48, 92
「能力」…………… 136
「ので」…………… 49, 98, 246

は 行

パーソナリティ…………… 41
バイアス…………… 56, 120～, 234
パネル調査… 2, 4, 53～, 201～, 245, 249
パネル調査の被調査者…………… 29～, 223
母の出身地…………… 29
場面…………… 36～, 45～, 54～, 65～, 151～,
201～, 245～
場面相互間の関係…………… 188

場面段階点…………… 173, 184～
 場面による使い分け…………… 39
 場面の丁寧さの順…………… 65～, 201～, 245
 場面録音調査…………… 36～
 判定者…………… 61～
 判定の基準…………… 62
 反応文の長さ…………… 49, 99～
 比較調査…………… 4
 美化語「お」… 51, 55, 105～, 112, 226, 231
 被調査者の構成…………… 23～
 否定形… 38, 47～, 75～, 88～, 93～, 246
 標準点…………… 218
 平均階層点…………… 144～, 243
 平均段階点… 65, 71, 81～, 184, 205, 208,
 214～
 変化の検定…………… 229
 方言形…………… 38, 40, 49, 94～, 101～, 161
 「ぼうや」…………… 90～
 「ぼく」…………… 49, 81, 90
 保守的意見…………… 52, 191～

ま 行

マスコミ接触…………… 6, 35, 122, 238
 「道教え」… 45, 71～, 94, 100～, 151, 155,
 161, 170, 202, 204～, 208, 211～
 昔の敬語…………… 51, 55, 114, 196, 233
 「名声」…………… 52, 147～
 命令形…………… 78

目上に対する敬語… 51, 55, 109, 182, 229
 面接調査…………… 15, 29, 35～
 「メンツ」…………… 57, 140, 242
 「申しましたから」…………… 165
 モーラ…………… 99
 「持っていきなよ」…………… 166
 「持っていらっしゃいませんか」… 166
 「物売り」… 46, 49, 67, 94, 100, 209, 214
 「貰う」…………… 48, 78, 82

や 行

「八百屋の店先で」…………… 153, 167
 誘導…………… 117～, 234～
 呼びかけ…………… 49, 90
 「よろしい」…………… 86

ら 行

「…………られる」…………… 48, 79
 理由を示す助詞…………… 49, 97～
 旅行回数…………… 124
 臨界比…………… 229

わ 行

「わたくし」…………… 81, 170～
 「わたし」…………… 81, 170～



国立国語研究所報告77 敬語と敬語意識

岡崎における20年前との比較

1983年3月30日 第1刷発行

定価 8,000円

著 作 者 国立国語研究所

発 行 者 株式会社三省堂
代表者 上野久徳

発 行 所 株式会社三省堂
東京都千代田区三崎町二丁目22番14号
電 話 編 集 (03) 230-9411
販 売 (03) 230-9412
総 務 (03) 230-9511
振替口座 東京 6-54300

N.D.C.分類番号801

<岡崎の敬語・400 pp.>

落丁本・乱丁本はお取替えいたします

国立国語研究所の

《社会言語学研究》報告書概要

○八丈島の言語調査（報告 1, 1950 年）

創立後、最初の共通語化の調査。共通語化の程度は共通語使用場面の量に比例することが示されている。

○言語生活の実態（報告 2, 1951 年）

福島県白河市で行った共通語化の調査。日本での社会言語学的調査研究の先駆として注目されている。学歴、生育地、両親の出身地の 3 要因が共通語化に強く関与する等の結果が得られた。

○地域社会の言語生活（報告 5, 1953 年。報告 52, 1974 年）

山形県鶴岡市における約 20 年を隔てた 2 度の共通語化調査。2 回の調査から、共通語化の要因は時勢により異なること、共通語化には四つの段階が考えられる等が明らかになった。

○敬語と敬語意識（報告 11, 1957 年）

三重県上野市・愛知県岡崎市での調査。敬語行動は、男性より女性が、また心理学的立場の弱い者ほど丁寧になる等が明らかになった。本書の「前回調査」にあたる。

○共通語化の過程（報告 27, 1965 年）

北海道入植者を対象に行われた世代差の調査。語彙は 1・2 世間で、文法や音韻は 2・3 世間で、共通語化の程度に落差がある等が指摘された。

○待遇表現の実態（報告 41, 1971 年）

島根県松江市の 1 家庭での 24 時間録音調査に基づく。日常会話における待遇表現の現れ方には、会話の種類・機能・話題が関与することを、話しことは資料の電子計算機処理を通じて解明する。

○言語使用の変遷(1)（報告 53, 1974 年）

福島県北部の農・山村での調査。年齢と学歴の 2 要因が共通語化に強く関与し、音声・語彙は共通語化しやすいが、文法は比較的方言形式が残りやすい等の結果が得られている。

○大都市の言語生活——分析編——（報告 70-1, 1981 年）

東京・大阪での大規模な調査。調査は、語彙・文法・アクセント・敬語などの言語的側面のほか、住民意識・ふるさと意識など多岐にわたる。「見ラレル」より「見レレル」という語形が優勢であることをはじめとして、大都市住民の言語状況について多くの知見を示す。

○大都市の言語生活——資料編——（報告 70-2, 1981 年）

上記の「分析編」では繁雑を避けて示さなかった各種統計結果を網羅する。

○企業の中の敬語（報告 73, 1982 年）

日立製作所・日鐵建材という一般企業の従業員各層が、日常の勤務生活の中で敬語をどう意識し、どう使っているかを解明しようとした調査。敬語行動に関わる要因を、職種を軸としてつなぐ社歴・職種など種々の観点から分析する。